

後 田 遺 跡

(旧 石 器 編)

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書 第 15 集 —

1 9 8 7

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

後田遺跡正誤表

ページ・行	誤	正
P4 11行	浸蝕	侵食
P7 第1表	屈接率	屈折率
P48 17行	磨製	磨石
P198 第29表	火山坡	火山ガラス
P307 8行	火山坡	火山ガラス

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	(財)群馬県埋蔵文化財	01-320
	調査事業団保管	29-1
No. 1-2490	平成 2年 3月 31日	(6)



210-5-53

後 田 遺 跡

(旧 石 器 編)

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書 第15集—

1987

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

古代から関東地方と新潟県地方を結ぶ交通の要所に位置する月夜野町周辺地域は、今日、関越自動車道新潟線、上越新幹線の相次ぐ開通によって、大きく変貌する地域となっております。この大型幹線建設事業に伴い、多くの埋蔵文化財発掘調査が実施されましたが、その成果によって北毛地域に住んだ古代の人々の様子が次第に明らかになりつつあります。

ここに報告します後田遺跡は、関越自動車道新潟線における月夜野インターチェンジ建設地の調査として、昭和56、57年度の2カ年にわたって実施し、旧石器、縄文、古墳、奈良平安時代、中世、さらには近世にわたる大集落跡を明らかにしました。特に今から約2万年以上にさかのぼる旧石器時代の石器類は、中部、関東地方と、東北地方の技術的関係を把握できる貴重な資料として、また全国的にも代表的な遺跡として高く評価されつつあります。

本遺跡のなかで、旧石器時代遺構、遺物の整理事業は、昭和60、61年度の2カ年にわたって実施し、ここに関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財調査報告書第15集として刊行の運びとなりました。

本遺跡の発掘調査、および整理事業にあたっては、日本道路公団東京第二建設局を始めとして、群馬県教育委員会、地元月夜野町教育委員会等、多くの関係諸機関の協力と、発掘調査、整理事業に直接に携わった方々など、多方面にわたる関係者のご尽力をいただきました。ここに深く感謝の意を表するとともに、本報告書が、多くの人々に広く、有効に活用されますことを願い序といたします。

昭和62年3月31日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 清水 一郎

例 言

1. 本書は、関越自動車道（新潟線）建設に伴い発掘調査された利根郡月夜野町大字師字後田・青岳地区内に所在する後田（師A）遺跡の発掘調査報告書である。
2. 事業主体 日本道路公団第二建設局
3. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
4. 調査期間は、試掘調査が1980（昭和55）年10月から12月まで、第一年度本調査が1981（昭和56）年4月24日から12月26日まで、第二年度本調査が1982（昭和57）年4月19日から12月28日までであり、調査撤収及び残務整理を1983（昭和58）年1月から3月にかけて実施した。
5. 発掘調査に伴う調査組織は次の通りである。

事務担当 常務理事 小林起久治、事務局長 沢井良之助（試掘・第一年度）、事務局長 白石保三郎（第二年度）、調査研究部長 井上唯雄（試掘・第一年度）、調査研究部長 松本浩一（第二年度）、調査研究部第一課長 平野進一、庶務課長 近藤平志、主事 国定 均、主事 笠原秀樹、主事 山本朝子、主事 吉田有光、主事 柳岡良宏、今井もと子、並木綾子、野島のふ江、吉田笑子、吉田恵子

調査担当 主任調査研究員 大江正行（第二年度）、調査研究員 神谷佳明（試掘・第一年度・第二年度）、調査研究員 関根慎二（試掘・第一年度）、調査研究員 山口逸弘（第一年度）、調査研究員 麻生敏隆（第二年度）、嘱託員 反可公巳（当時、試掘・第一年度）
6. 整理作業は1985（昭和60）年4月1日から1987（昭和62）年1月31日の期間で実施した。
7. 整理事業に伴う事務組織は次の通りである。

常務理事 白石保三郎、事務局長 梅沢重昭（第一年度）、事務局長 井上唯雄（第二年度）、調査研究部長 上原啓己、管理部長 大沢秋良、調査研究部第一課長 平野進一、庶務課長 定方隆史、主事 国定 均、主事 笠原秀樹、主事 須田朋子、主事 吉田有光、主事 柳岡良宏、今井あや子、今井もと子、石田智子、並木綾子、野島のふ江、松井美智子、吉田笑子、吉田恵子
8. 本書では、膨大な調査資料の中の旧石器時代関係のみを対象として収録した。
9. 本書の編集・執筆及び整理作業の統括は麻生が担当した。
10. 本書の作成及び資料の実測・トレースには下記の作業員が従事した。（五十音順）

狩野君江、神谷みや子、霜田恵子、須田幸子、高橋節子、南雲富子、主代千代子、福島和恵、矢島三枝子
11. 遺跡写真の撮影は大江・神谷・麻生が、遺物写真の撮影には当事業団の技師 佐藤元彦が従事した。
12. ローム層の地質及び火山噴出物の識別同定については、新井房夫氏（群馬大学教育学部教授）の御協力を頂いた。
13. 旧石器の調査及び整理の方法については、安藤政雄氏（明治大学文学部助教授）の御協力を頂いた。
14. 資料の石材鑑定は飯島静男氏（群馬地質学研究会）に御協力を頂いて、一部を麻生が実施した。
15. 出土した黒曜石についてはその産地同定・年代測定を熱中性子放射分析により、鈴木正男氏（立教大学）、福岡久氏（日本大学）、金山喜昭氏（千葉県野田市郷土博物館）、戸村健児氏（立教大学）の研究団体の御協力を得て実施する事ができた。
16. 出土した黒色頁岩の大部分は風化により表面が顆状に剥落しやすい状態であるため、薬品処理を施す事とし、表面の本来の色調を損なわないようにシリコン樹脂メチルエトキシラン（SS-101）を塗布したが、

- この処理については当事業団保存処理室の技師 関 邦一、嘱託員 北爪健二の助言・協力を得た。
17. 遺跡の花粉分析については、主にローム層中を中心に佛ノマリノ・サーヴェイに依頼して実施した。
 18. 遺物の水平・垂直分布図の原因作成は、佛中央航業に依頼してコンピューター図化を実施した。
 19. 当遺跡での旧石器時代の調査及び整理の実施に当たっては、下記の機関及び方々の御協力を頂いた。
群馬県教育委員会、月夜野町教育委員会、麻生 優、荒井幹夫、安斉正人、安藤政雄、石北直樹、岡村道雄、岡本東三、小田静夫、織笠 昭、金山喜昭、栗島義明、小島純一、小菅将夫、坂爪久純、佐藤宏之、実川順一、白石浩之、白石典之、鈴木忠司、須藤隆司、大工原豊、田中英司、田村 隆、中東耕志、中村富夫、能登 健、比田井民子、前原 豊、麻柄一志、松沢亜生、松島吉信、松村和男、間庭 稔、水田 稔、三宅敦久、山下秀樹
 20. 当遺跡の出土遺物・資料類は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

1. 遺物実測図はナイフ形石器の4/5を除いて、大形の礫や接合資料等で特に指示がない限り、原則として石器1/2、接合図1/2の縮尺である。
2. 遺物で接合した資料については、たとえ製品であっても重複を避け、接合の個別図のみで収録した。
3. 遺物接合の説明にみられる記号は次の通りである。→接合順、+折断・分割、-不明
4. 遺物の器種別・石材別・接合関係の水平分布図の縮尺は基本的には1/60としたが、密集するブロックについては1/20とやや縮尺を拡大し作成した。
5. 遺物の垂直分布図については、その縮尺を1/20に統一した。
6. 遺物の水平分布図での器種別及び石材別の記号は下記の通りである。

器 種 別

◆……………ナイフ形石器	■……………加工痕ある石器	★……………礫石・礫石
◇……………形器・掻器・石鏃・楔形	□……………使用痕ある石器	☆……………台 石
●……………石 斧	○……………石刃・石刀状剥片	◇……………礫器（厚石含む）
▲……………打器・打作・石核残付	●……………短長剥片	△……………礫（細・小含む）
☆……………石 核	・……………剥片・碎片	

石 材 別

●……………黒色安山岩	▲……………黒色頁岩	■……………粒質頁岩
○……………その他の安山岩	△……………その他の頁岩	◆……………その他の石材

目 次

序 例 言 凡 例

第 1 章	発掘調査と整理の経過	1
第 1 節	発掘調査に至る経緯	1
第 2 節	発掘調査の経過	1
第 3 節	調査の方法	2
第 4 節	整理作業の経過	2
第 2 章	遺跡の立地と歴史的環境	4
第 1 節	遺跡の立地	4
第 2 節	遺跡の基本土層	5
第 3 節	遺跡の鉱物組成と火山灰	6
第 4 節	遺跡周辺の歴史的環境	8
第 3 章	検出された遺物	11
第 1 節	出土遺物の概要	11
第 2 節	出土遺物の説明	13
第 3 節	表探資料の説明	105
第 4 章	検出された遺構	109
第 1 節	出土状況の概要とブロックの設定	109
第 2 節	各ブロックの説明	109
第 5 章	ま と め	287
第 1 節	器種別資料の検討	287
第 2 節	剥片剝離技術の検討	290
第 3 節	ブロック間の検討	299
第 4 節	県内旧石器遺跡間の検討	300
第 5 節	コンピューターを利用した遺物分布図の作成について	305
第 6 章	自然 科 学	352
第 1 節	本遺跡出土の黒曜石製遺物の産地同定	352
第 2 節	花粉分析	355

目 次

第 1 図	発掘調査工程図	1	第 61 図	縦長剥片⑫	70
第 2 図	グリッド設定図	2	第 62 図	縦長剥片⑬	71
第 3 図	整理作業工程図	2	第 63 図	縦長剥片⑭	72
第 4 図	後田遺跡位置図	4	第 64 図	縦長剥片⑮	73
第 5 図	基本層序図	5	第 65 図	縦長剥片⑯	74
第 6 図	層序様式図	6	第 66 図	縦長剥片⑰	75
第 7 図	中部および関東地方の主要なフラの分布図	7	第 67 図	縦長剥片⑱	76
第 8 図	周辺の遺跡位置図	9	第 68 図	縦長剥片⑲	77
第 9 図	関東遺跡遺物図	10	第 69 図	縦長剥片⑳	78
第 10 図	ナイフ形石器①	15	第 70 図	縦長剥片㉑	79
第 11 図	ナイフ形石器②	16	第 71 図	縦長剥片㉒	80
第 12 図	ナイフ形石器③	17	第 72 図	縦長剥片㉓	81
第 13 図	ナイフ形石器④	18	第 73 図	剥片①	82
第 14 図	ナイフ形石器⑤	19	第 74 図	剥片②	83
第 15 図	ナイフ形石器⑥	20	第 75 図	剥片③	84
第 16 図	ナイフ形石器⑦	21	第 76 図	剥片④	85
第 17 図	彫器・掻器・楔形石器・石鏟	23	第 77 図	剥片⑤	86
第 18 図	石斧・打面再生剥片	24	第 78 図	敲石①	87
第 19 図	打面作出剥片・石核残付剥片	25	第 79 図	敲石②	88
第 20 図	石核①	27	第 80 図	敲石③	89
第 21 図	石核②	28	第 81 図	敲石④	90
第 22 図	石核③	29	第 82 図	敲石⑤	91
第 23 図	石核④	30	第 83 図	敲石⑥	92
第 24 図	石核⑤	31	第 84 図	敲石⑦	93
第 25 図	石核⑥	32	第 85 図	敲石⑧	94
第 26 図	石核⑦	33	第 86 図	敲石⑨	95
第 27 図	石核⑧	34	第 87 図	敲石⑩	96
第 28 図	石核⑨	35	第 88 図	敲石⑪	97
第 29 図	石核⑩	36	第 89 図	敲石⑫	98
第 30 図	石核⑪	37	第 90 図	敲石⑬	99
第 31 図	石核⑫	38	第 91 図	白石・原石	100
第 32 図	石核⑬	39	第 92 図	白石	101
第 33 図	加工痕ある剥片①	41	第 93 図	黒石・磨石	102
第 34 図	加工痕ある剥片②	42	第 94 図	礫器	103
第 35 図	加工痕ある剥片③	43	第 95 図	礫	104
第 36 図	加工痕ある剥片④	44	第 96 図	表採資料①	106
第 37 図	使用痕ある剥片①	45	第 97 図	表採資料②	107
第 38 図	使用痕ある剥片②	46	第 98 図	表採資料③	108
第 39 図	使用痕ある剥片③	47	第 99 図	遺物分布等量図	110
第 40 図	石刀①	49	第 100 図	ブロック配置図	111
第 41 図	石刀②	50	第 101 図	第 1 ブロック水平・垂直分布図	113
第 42 図	石刀③	51	第 102 図	接合資料 1	114
第 43 図	石刀④	52	第 103 図	接合資料 2	115
第 44 図	石刀⑤	53	第 104 図	接合資料 3	116
第 45 図	石刀⑥	54	第 105 図	接合資料 4	117
第 46 図	石刀状剥片①	55	第 106 図	第 2 ブロック水平・垂直分布図	118
第 47 図	石刀状剥片②	56	第 107 図	接合資料 5	119
第 48 図	石刀状剥片③	57	第 108 図	第 3 ブロック水平・垂直分布図	120
第 49 図	石刀状剥片④	58	第 109 図	第 4 ブロック水平・垂直分布図 (付図 第 1 図)	121
第 50 図	石刀状剥片⑤	59	第 110 図	第 5 ブロック水平・垂直分布図	122
第 51 図	石刀状剥片⑥	60	第 111 図	第 6 ブロック水平・垂直分布図	123
第 52 図	石刀状剥片⑦	61	第 112 図	第 7 ブロック水平・垂直分布図	124
第 53 図	石刀状剥片⑧	62	第 113 図	第 8 ブロック水平・垂直分布図	125
第 54 図	石刀状剥片⑨	63	第 114 図	接合資料 6	126
第 55 図	石刀状剥片⑩	64	第 115 図	第 9 ブロック水平・垂直分布図 (付図 第 2 図)	127
第 56 図	石刀状剥片⑪	65	第 116 図	第 10 ブロック水平・垂直分布図 (付図 第 3 図)	128
第 57 図	石刀状剥片⑫	66	第 117 図	接合資料 7・8	129
第 58 図	石刀状剥片⑬	67	第 118 図	接合資料 9・10	130
第 59 図	石刀状剥片⑭	68	第 119 図	接合資料 11	131
第 60 図	縦長剥片①	69	第 120 図	第 11 ブロック水平・垂直分布図	133

第121図	第12ブロック水平・垂直分布図	134
第122図	第13ブロック水平・垂直分布図	135
第123図	接合資料12	136
第124図	第14ブロック水平・垂直分布図 (付図 第4図)	137
第125図	接合資料13・14	138
第126図	第15ブロック水平・垂直分布図	140
第127図	第16ブロック(周縁部)水平・垂直分布図(付図 第5図)	141
第128図	第16ブロック水平分布図(付図 第6図)	142
第129図	第16ブロック(周縁部)水平分布図	142
第130図	第16ブロック水平分布図(付図 第7図)	143
第131図	第16ブロック(周縁部)水平分布図	144
第132図	第16ブロック水平分布図(付図 第8図)	145
第133図	第16ブロック水平分布図(付図 第9図)	146
第134図	接合資料15-①	145
第135図	接合資料15-②	146
第136図	接合資料15-③	147
第137図	接合資料16-①(1-15)接合図及び切取式(折り込み)	148
第138図	接合資料16-②	149
第139図	接合資料16-③	150
第140図	接合資料17-①	151
第141図	接合資料17-②	152
第142図	接合資料18	153
第143図	接合資料19	154
第144図	接合資料20	155
第145図	接合資料21	156
第146図	接合資料22・23-①	158
第147図	接合資料23-②・24	159
第148図	接合資料25-①	160
第149図	接合資料25-②	161
第150図	接合資料26・27	163
第151図	接合資料28・29	164
第152図	接合資料30・31-①	165
第153図	接合資料31-②・32	166
第154図	接合資料33	168
第155図	接合資料34・35	169
第156図	接合資料35・37	170
第157図	接合資料38・39	171
第158図	接合資料40・41	172
第159図	接合資料42-①	174
第160図	接合資料42-②	175
第161図	第17ブロック水平・垂直分布図	176
第162図	第18ブロック水平・垂直分布図	177
第163図	第19ブロック水平・垂直分布図	178
第164図	第19ブロック水平分布図	179
第165図	第20ブロック水平・垂直分布図	180
第166図	接合資料43	181
第167図	接合資料44	182
第168図	第21ブロック水平・垂直分布図	183
第169図	第22ブロック水平・垂直分布図	184
第170図	接合資料45-①	186
第171図	接合資料45-②	187
第172図	接合資料45-③・46	188
第173図	第23ブロック水平・垂直分布図(付図 第10図)	189
第174図	第23ブロック水平分布図	189
第175図	接合資料47・48	190
第176図	接合資料49・50	191
第177図	接合資料51・52	192
第178図	接合資料53	193
第179図	第24ブロック水平・垂直分布図	196
第180図	接合資料54	197
第181図	第25ブロック水平・垂直分布図(付図 第11図)	198
第182図	第26ブロック水平・垂直分布図(付図 第12図)	199
第183図	接合資料55・56	200
第184図	第27ブロック水平・垂直分布図(付図 第13図)	201
第185図	接合資料57	201
第186図	第28ブロック水平・垂直分布図(付図 第14図)	202
第187図	接合資料58-①(1-10)	204
第188図	接合資料58-②	205
第189図	接合資料59-①(1-10)	206
第190図	接合資料59-②	207
第191図	第29ブロック水平・垂直分布図(付図 第15図)	209
第192図	接合資料60・61	209
第193図	第30ブロック水平・垂直分布図	210
第194図	接合資料62	211
第195図	第31ブロック水平・垂直分布図	212
第196図	第32・33ブロック水平・垂直分布図	213
第197図	第32・33ブロック水平分布図(付図 第16図)	214
第198図	第32・33ブロック水平分布図(付図 第17図)	215
第199図	第32・33ブロック水平分布図(付図 第18図)	216
第200図	第32・33ブロック水平分布図(付図 第19図)	217
第201図	第32・33ブロック水平分布図(付図 第20図)	218
第202図	接合資料63・64-①	216
第203図	接合資料64-②	217
第204図	接合資料65	218
第205図	接合資料66-①	220
第206図	接合資料66-②	221
第207図	接合資料66-③	222
第208図	接合資料66-④	223
第209図	接合資料67-①	224
第210図	接合資料67-②	225
第211図	接合資料67-③	226
第212図	接合資料67-④	227
第213図	接合資料68-①(折り込み)	228
第214図	接合資料68-②	229
第215図	接合資料68-③	230
第216図	接合資料68-④	231
第217図	接合資料68-⑤	232
第218図	接合資料69	234
第219図	接合資料70	235
第220図	第34ブロック水平・垂直分布図	236
第221図	接合資料71	237
第222図	第35ブロック水平・垂直分布図	238
第223図	第35ブロック水平分布図	239
第224図	第36ブロック水平・垂直分布図	240
第225図	第37ブロック水平・垂直分布図(付図 第21図)	242
第226図	接合資料72	243
第227図	第38ブロック水平・垂直分布図(付図 第22図)	244
第228図	接合資料73-①	244
第229図	接合資料73-②	245
第230図	接合資料74・75	246
第231図	接合資料76・77	247
第232図	第39ブロック水平・垂直分布図(付図 第23図)	249
第233図	接合資料78-①	249
第234図	接合資料78-②	250
第235図	接合資料79・80	251
第236図	接合資料81	252
第237図	第40ブロック水平・垂直分布図(付図 第24図)	254
第238図	第41ブロック水平・垂直分布図	254
第239図	第42ブロック水平・垂直分布図(付図 第25図)	255
第240図	第42ブロック水平分布図(付図 第26図)	256
第241図	接合資料82-①(折り込み)	257
第242図	接合資料82切取式	257
第243図	接合資料82-②	258
第244図	接合資料82-③	259

第245図	接合資料82-④	260
第246図	接合資料82-⑤	261
第247図	接合資料82-⑥	262
第248図	接合資料82-⑦	263
第249図	接合資料83-①	266
第250図	接合資料83-②・84・85	267
第251図	接合資料86・87-①	268
第252図	接合資料87-②	269
第253図	接合資料88-①	270
第254図	接合資料88-②	271
第255図	接合資料89-①	272
第256図	接合資料89-②・90	273
第257図	接合資料91・92	275
第258図	接合資料93・94	276
第259図	接合資料95	277
第260図	接合資料96・97	278
第261図	接合資料98	280
第262図	接合資料99	281
第263図	接合資料100	284

第264図	接合資料101	285
第265図	接合資料102	286
第266図	ナイフ形石器長幅厚相関図	288
第267図	石月・石刃状削片の長幅相関図	289
第268図	板状削片の長幅相関図	289
第269図	削片の長幅相関図	289
第270図	打角分布図	289
第271図	石月・石刃状削片の打角分布図	289
第272図	隕石・磨石の長幅及び長さ相関図	290
第273図	ブロック別石器組成図	292, 293
第274図	遺跡別石器組成図	293
第275図	ブロック別石材構成図	294, 295
第276図	遺跡別石材構成図	295
第277図	ブロック相関図	297
第278図	県内旧石器時代主要遺跡	298
第279図	県内旧石器出土主要遺跡土層対比図	303
第280図	関東・中部地方の黒曜石原産地とその使用遺跡	353
第281図	試料採集地点	355
第282図	後田遺跡試料花粉ダイアグラム	358

表 目 次

第 1 表	県内検出の主要テフラ（1万年以前）	7
第 2 表	周辺の遺跡一覧表	8
第 3 表	ブロック別石器組成表	12
第 4 表	石材別石器組成表	13
第 5 表	第 1 ブロック石材別石器組成表	113
第 6 表	第 2 ブロック石材別石器組成表	118
第 7 表	第 3 ブロック石材別石器組成表	121
第 8 表	第 4 ブロック石材別石器組成表	121
第 9 表	第 5 ブロック石材別石器組成表	122
第 10 表	第 6 ブロック石材別石器組成表	123
第 11 表	第 7 ブロック石材別石器組成表	124
第 12 表	第 8 ブロック石材別石器組成表	127
第 13 表	第 9 ブロック石材別石器組成表	127
第 14 表	第 10 ブロック石材別石器組成表	128
第 15 表	第 11 ブロック石材別石器組成表	133
第 16 表	第 12 ブロック石材別石器組成表	134
第 17 表	第 13 ブロック石材別石器組成表	136
第 18 表	第 14 ブロック石材別石器組成表	137
第 19 表	第 15 ブロック石材別石器組成表	140
第 20 表	第 16 ブロック石材別石器組成表	141
第 21 表	第 17 ブロック石材別石器組成表	176
第 22 表	第 18 ブロック石材別石器組成表	177
第 23 表	第 19 ブロック石材別石器組成表	180
第 24 表	第 20 ブロック石材別石器組成表	182
第 25 表	第 21 ブロック石材別石器組成表	183
第 26 表	第 22 ブロック石材別石器組成表	185
第 27 表	第 23 ブロック石材別石器組成表	194

第 28 表	第 24 ブロック石材別石器組成表	196
第 29 表	第 25 ブロック石材別石器組成表	198
第 30 表	第 26 ブロック石材別石器組成表	198
第 31 表	第 27 ブロック石材別石器組成表	199
第 32 表	第 28 ブロック石材別石器組成表	202
第 33 表	第 29 ブロック石材別石器組成表	208
第 34 表	第 30 ブロック石材別石器組成表	210
第 35 表	第 31 ブロック石材別石器組成表	212
第 36 表	第 32 ブロック石材別石器組成表	214
第 37 表	第 33 ブロック石材別石器組成表	215
第 38 表	第 34 ブロック石材別石器組成表	236
第 39 表	第 35 ブロック石材別石器組成表	239
第 40 表	第 36 ブロック石材別石器組成表	240
第 41 表	第 37 ブロック石材別石器組成表	241
第 42 表	第 38 ブロック石材別石器組成表	242
第 43 表	第 39 ブロック石材別石器組成表	248
第 44 表	第 40 ブロック石材別石器組成表	253
第 45 表	第 41 ブロック石材別石器組成表	253
第 46 表	第 42 ブロック石材別石器組成表	255
第 47 表	単 I ブロック石材別石器組成表	282
第 48 表	単 II ブロック石材別石器組成表	282
第 49 表	単 III ブロック石材別石器組成表	283
第 50 表	単 IV ブロック石材別石器組成表	283
第 51 表	単 V ブロック石材別石器組成表	283
第 52 表	後田遺跡花粉分析試料	355
第 53 表	後田遺跡試料花粉分析結果	358

写 真 図 版 目 次

<p>PLATE 1 花粉種子化石顕微鏡写真 PLATE 2 花粉種子化石顕微鏡写真</p>	<p>PLATE 3 花粉種子化石顕微鏡写真検出状況 PLATE 4 花粉種子化石顕微鏡写真検出状況</p>
<p>図版 1 1 遺跡全景 2 遺跡全景</p> <p>図版 2 1 B区試掘トレンチ近景 2 B区試掘トレンチ近景 3 B区試掘トレンチ近景 4 B区試掘トレンチ近景 5 土層及び柱状図</p> <p>図版 3 1 試掘調査風景 2 本調査風景 3 試掘状態 (32-D-38グリッド) 4 試掘状態 (27-D-48グリッド) 5 試掘状態 (31-E-02グリッド) 6 遺物出土状態 (31-E-02グリッド) 7 試掘状態 (36-D-43グリッド) 8 遺物出土状態 (36-D-43グリッド)</p> <p>図版 4 1 第1ブロック出土状態 2 C・D区道東部分遺物出土状態 3 C・D区道東部分遺物出土状態 4 第16ブロック出土状態 5 第16ブロック出土状態 6 第16ブロック東側部分出土状態 7 第19ブロック出土状態 8 第20ブロック出土状態</p> <p>図版 5 1 第22・23・24ブロック出土状態 2 第22ブロック出土状態 3 第23ブロック出土状態 4 第24ブロック出土状態 5 第25ブロック出土状態 6 第28ブロック出土状態 7 第29ブロック出土状態 8 第32・33ブロック出土状態</p> <p>図版 6 1 第32ブロック西側部分出土状態 2 第32ブロック東側部分出土状態 3 第33ブロック出土状態 4 第33ブロック出土状態 5 第35ブロック出土状態 6 第37ブロック出土状態 7 第37ブロック出土状態 8 第38ブロック出土状態</p> <p>図版 7 1 第38ブロック出土状態 2 第39ブロック出土状態 3 第40ブロック出土状態 4 第42ブロック出土状態 5 第42ブロック出土状態 6 ナイフ形石器出土状態 7 打製石斧出土状態 8 礫石・台石出土状態</p> <p>図版 8 1 C・D区谷地部分全景 (東側から) 2 C・D区谷地部分近景 (東側から) 3 C・D区谷地部分全景 (西側から) 4 C・D区谷地部分近景 (西側から) 5 D区工事用道路部分全景 (西) 6 D区工事用道路部分全景 (東) 7 D区転石検出状態 8 D区転石検出状態</p>	<p>図版 9 1 ナイフ形石器 (1) 2 ナイフ形石器 (2)</p> <p>図版10 1 彫器・石錘・槌形石器・鏝器 2 打面再生・打面作出切片</p> <p>図版11 1 石核接付き切片 2 石核 (1)</p> <p>図版12 1 石核 (2) 2 石核 (3)</p> <p>図版13 1 石核 (4) 2 石核 (5)</p> <p>図版14 1 石核 (6) 2 石核 (7)</p> <p>図版15 1 石核 (8) 2 石核 (9)</p> <p>図版16 1 加工痕ある切片 (1) 2 加工痕ある切片 (2)</p> <p>図版17 1 加工痕ある切片 (3) 2 使用痕ある切片 (1)</p> <p>図版18 1 使用痕ある切片 (2) 2 石刃 (1)</p> <p>図版19 1 石刃 (2) 2 石刃 (3)</p> <p>図版20 1 石刃 (4) 2 石刃状切片 (1)</p> <p>図版21 1 石刃状切片 (2) 2 石刃状切片 (3)</p> <p>図版22 1 石刃状切片 (4) 2 石刃状切片 (5)</p> <p>図版23 1 石刃状切片 (6) 2 石刃状切片 (7)</p> <p>図版24 1 石刃状切片 (8) 2 石刃状切片 (9)</p> <p>図版25 1 石刃状切片 (10) 2 礫石 (1)</p> <p>図版26 1 礫石 (2) 2 礫石 (3)</p> <p>図版27 1 礫石 (4)・磨石 2 台石・磨石</p> <p>図版28 1 鏝器・打製石斧 2 表採資料 (石刃)</p> <p>図版29 1 表採資料 (片刃打製石斧・尖頭器・有舌尖頭器) 2 打面に見られるナンチ痕(左)とその模式図(右)</p> <p>図版30 複合資料1・3・4・6・10・13・17 図版31 複合資料15 図版32 複合資料16 図版33 複合資料18・19・20・22・26・28・30・32・42・43・65 図版34 複合資料45・47・53・58・62・64・69 図版35 複合資料50・63・73・100 図版36 複合資料66・68 図版37 複合資料67 図版38 複合資料70・74・76・78・87・98・102 図版39 複合資料79・88・89・101 図版40 複合資料82 図版41 複合資料83</p>

付 図 目 次

第 1 図	第 4 ブロック水平・垂直分布図	第 15 図	第 29 ブロック水平・垂直分布図
第 2 図	第 9 ブロック水平・垂直分布図	第 16 図	第 32・33 ブロック水平分布図
第 3 図	第 10 ブロック水平・垂直分布図	第 17 図	第 32・33 ブロック水平分布図
第 4 図	第 14 ブロック水平・垂直分布図	第 18 図	第 32・33 ブロック水平分布図
第 5 図	第 16 ブロック（間線部）水平・垂直分布図	第 19 図	第 32・33 ブロック水平分布図
第 6 図	第 16 ブロック水平分布図	第 20 図	第 32・33 ブロック水平分布図
第 7 図	第 16 ブロック水平分布図	第 21 図	第 37 ブロック水平・垂直分布図
第 8 図	第 16 ブロック水平分布図	第 22 図	第 38 ブロック水平・垂直分布図
第 9 図	第 16 ブロック水平分布図	第 23 図	第 39 ブロック水平・垂直分布図
第 10 図	第 23 ブロック水平・垂直分布図	第 24 図	第 40 ブロック水平・垂直分布図
第 11 図	第 25 ブロック水平・垂直分布図	第 25 図	第 42 ブロック水平・垂直分布図
第 12 図	第 26 ブロック水平・垂直分布図	第 26 図	第 42 ブロック水平分布図
第 13 図	第 27 ブロック水平・垂直分布図	第 27 図	遺物分布全体図
第 14 図	第 28 ブロック水平・垂直分布図	第 28 図	地 形 図

第1章 発掘調査と整理の経過

第1節 発掘調査に至る経緯

当遺跡の発掘調査に至る経緯については、統刊縄文時代以降編に記述される予定であるので、ここでは旧石器時代関連の調査に至る経緯のみについて述べてみたい。

当遺跡は、当初古墳時代の集落遺跡として「後田遺跡」及び「青岳遺跡」の名称で県の遺跡台帳や「古馬牧村史」に収録されていたが、1971（昭和46）年度に実施された関越自動車道地埋蔵文化財分布調査の「No295」及び「No311」がこれらに該当する事が判明した。その後、1974（昭和49）年に渋川一ノ月夜野間の正式路線が発表され、それを受けて日本道路公団と県教育委員会の協議が行われ、関越道建設に伴う事前調査の執行が合意された。これにより、調査対象地域の見直しと確定が行われ、当遺跡にも「師A遺跡」の事業名称と「KK41」の略号が付された。

1980（昭和55）年10月～12月の試掘調査、及び1981（昭和56）年4月からの本調査開始後に有舌尖頭器や尖頭器が表採された事から、旧石器時代の遺構・遺物の存在が想定されてきたが、同年9月に住居跡掘り方調査中に掘り込み過ぎたローム層中から数点の石刃が出土した。これを受けて公団と協議が開始され、文化層の枚数や位置、その規模の把握が必要となってきた。そこで、縄文時代以後の遺構調査の進行状況を考慮して、12月にローム層の基本土層確認を含めた試掘を実施する事となった。調査期間は12月16日から12月25日まで、場所は舌状台地の後縁部分で比較的平坦な25-E-05グリッドとした。ここは調査区域内の北壁部分で表土からの土層観察が可能であり、その結果、基本土層と出土層序が確定したが、出土範囲の確認は翌年の調査へ持ち越しとなった。

第2節 発掘調査の経過

1982年4月から開始された2年目の調査では縄文時代以後の遺構調査と共に、旧石器時代の範囲確認を実施する事にしていたが、工事日程との兼ね合いから地区別に調査期限を設ける事で公団側と話しがまとまった。そこで工事用道路が設置されるD・E区三角地帯と呼ぶ地区に1M×2Mの試掘グリッドを入れたが、その大部分から遺物が出土するために、ローム層の堆積が認められる地域全面を発掘する事とした。そして、遺物包含層をすべて掘り上げた状態で、遺物分布図と地形図を作図する事とし、さらに、深掘を実施し土層断面図を作図して調査を終了する事とした。また、段丘が一段低いB区では、ローム層の観察と遺物の有無を調べるためにトレンチを設置、土層断面図を作成して調査を終了した。さらに、C区の谷地部分については黒色土をすべて掘り上げて、ローム層上面に相当する面の地形図を作成した。

	82・4	5	6	7	8	9	10	11	12	83・1	
作業内容			15 D・E区三角地帯部分試掘開始	2 D区北西角地帯工事用道路部分調査開始	17 C区アレハブ地帯部分調査開始	4 10 25 B・E区試掘調査開始 B・E区試掘調査開始	16 E区調査開始	11 29 D区町通西側部分調査開始	9 11 17 28 C・D区町通東側部分調査開始 D・E区三角地帯部分調査開始	12 遺物掘り上げ終了 御パンクンクンによる土砂中試掘開始	12 C・D区西側部分調査実施

第1図 発掘調査工程図

第3節 調査の方法

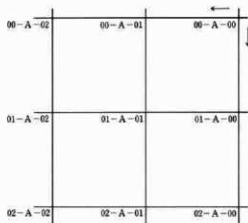
国越自動車道関連の調査では、原則として国家座標を利用する事になっていたが、当遺跡が山間部で起伏が激しい台地上に立地する等の制約から、公団が道路用地内に設置したセンター杭のうちの2本を基本杭として利用し、調査対象全域に方眼を組みグリッド方式とし、北東隅に基点を設定した。

まず、100mを単位に東西にA～Eの各区、南北は無限の形で短冊形に区の設定を行い、各区の中で南北及び東西方向に2m単位の小グリッドに区分し、西方向は0～50（50は隣の区と0と重なる）の2桁の数字と50列のグリッド、南方向には無限（ただし、遺跡の範囲に規制されて190程まで）のグリッドが設定された。その結果、北東隅の基点は0-A-0と呼称され、ここから100m西の地点は0-A-50(00-B-00とも呼ぶ)となる事になる。

検出された遺物については、その実際の形を1/10の縮尺で、縦2列横1列のグリッドの範囲で図化し、海拔標高値を計測して取り上げた。その際に原則として1m方眼を設定し、水系を張り巡らした。

地形図については、10cm間隔のコンタを1/40の縮尺で図化する事とし、測量会社に委託した。

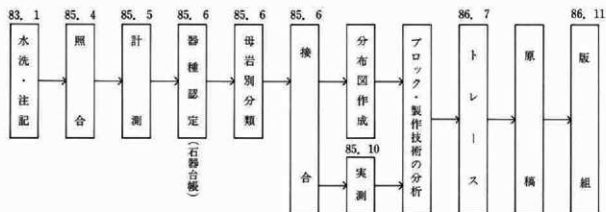
問題点としては、工事行程による調査区の小間切的な引き渡しに伴い、遺物の登録番号を百番単位で区切り使用したために、調査区内で大きく番号が飛び離れ、隣接した遺物でも番号がまったく違うために、整理時の水平分布図作成等に混乱を引き起こした事があげられる。



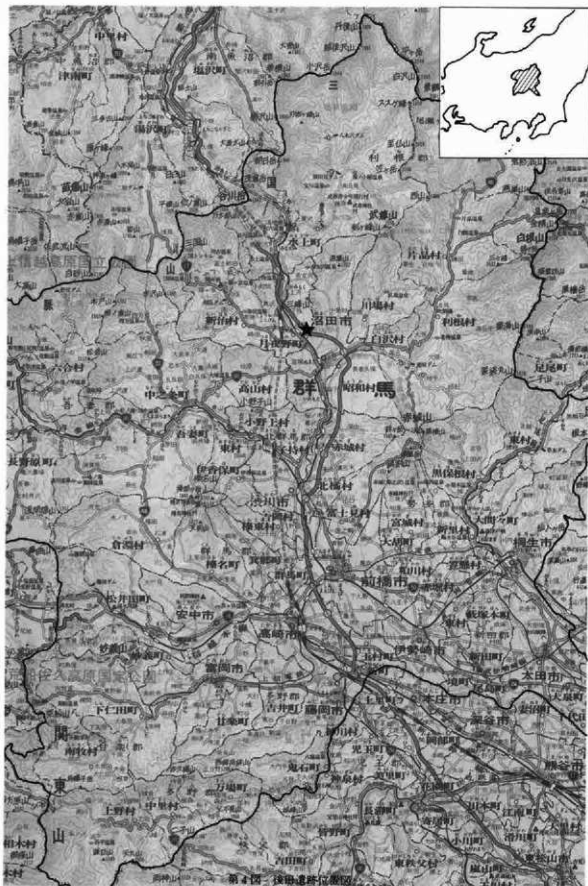
第2図 グリッド設定図

第4節 整理作業の経過

当遺跡の旧石器時代の整理作業は、1985(昭和60)年4月から前年度実施作業の残務と平行して開始した。まず、遺物の確認・計測と遺物分布図及び地形コンタ図の整理から始まり、接合作業を経て、実測及びトレースを実施した。遺物分布図のドット化については、コンピューター図化とする事とし、測量会社に委託した。これらと平行して観察表・台帳作成、原稿執筆を実施した。



第3図 整理作業工程図



第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の立地（第4図）

県北部の新潟・群馬県境に沿って北東から南西方向に延びている2,000m前後の海拔高度をもつ三国山脈の群馬県最北端の大水上山（標高1,840m）に源を発す利根川は、深い溪谷と小規模な河岸段丘を形成しながら水上町・月夜野町の中央部を南流し、月夜野町小川島地区で同じ三国山脈の仙ノ倉山（標高2,026m）・万太郎山（標高1,954m）に源を発し南東方向に流れる赤谷川と合流する。そして、両岸にやや規模の大きい3～5段程度の河岸段丘を作り出して沼田盆地へと流れ込む。

利根川左岸には南北に狭く長いテーブル状の山体を成す三峰山があり、その山頂付近の周囲は溶結凝灰岩特有の柱状節理による切り立った崖となっている。北から道母峰・吹返峰・後閑峰の三峰から成り、標高1,122.5mを数える。西麓には利根川による5段の河岸段丘が認められるが、三峰山から利根川に向かって多くの沢が流れ出しているために、その浸蝕により谷の開析が進み、上位段丘面にはいくつもの舌状台地が並列してみられる。対岸の通称「名胡桃平」と呼ばれる赤谷川による河岸段丘面にも同様の台地が認められるが、赤谷川の流路の変更の影響なのか段丘の規模は小さく、段丘面の数も少ない。ただ、黒岩峡谷の右岸だけに規模は小さいものの、4段の段丘面が数えられる。これとは別に後田遺跡の位置する月夜野町師地区や後閑地区には、三峰山からの崩壊土石流による小規模な扇状地形がみられる。数10cmから数mの溶結凝灰岩塊が多量に存在し、その上に上部・中部ローム層が堆積している事から、第四紀の洪積世のリヌ水期からヴェルム水期にかけての期間に数回にわたり崩壊し、流出して形成されたものと考えられる。対岸の「名胡桃平」や月夜野地区にも小規模ながら同様の扇状地形が認められる。以上のことから利根川の両岸の最上位段丘面は段丘と扇状地形の複合した複雑な地形を成している事がよくわかる。最上位段丘面と現河床との比高差は約80～100m近くもある。

後田遺跡が所在する月夜野町は県の北部に位置し、古くから上越地域との交通の要所とされてきた。現在でも、上越新幹線・上越線・国道17号線が町の中央部を南流する利根川に平行して走っている。この国鉄上越線の後閑駅のすぐ東に三峰山がそびえており、その山頂の稜線は西側に隣接する沼田市との境界になっている。当遺跡はこの三峰山の南西麓の最上位段丘面上で、南西に流れ出る金山沢・立ノ沢等により東西の両端が削り取られて形成された南に延びる舌状台地上に位置する。この台地の稜線付近から東西両斜面の傾斜交換線にかけて旧石器時代の遺物が分布している。周辺には同様の舌状台地が並列してみられ、そのうちのいくつかには当遺跡と同様に旧石器時代と縄文時代前期の遺構及び遺物が検出されている。標高値は430～439mである。調査開始前は主として台地の稜線付近が宅地・桑畑・林畑、両側の沢の周辺が水田として利用されていたが、調査終了後は関越自動車道の月夜野第1インターチェンジとして現地表面よりも約10m程度掘削されてしまい、遺跡としては台地の末端部分にあたる公園用地外の僅かな部分に残存するだけである。

参考文献

水崎富雄他編著『群馬のおいたちをたずねて 上』上毛新聞社 1977

第2節 遺跡の基本土層（第5図）

当遺跡は舌状台地と扇状地形が複合した河岸段丘の最上位面という複雑な地形に立地する事から、地点により土層の堆積状態が異なるが、ここでは旧石器時代の遺物が集中する台地の稜線付近の層序について述べる事とする。

第I層は暗茶褐色の表土（耕作土）で厚さ5cm前後である。

第II層はHr-FPをまばらに含む黒褐色土で厚さ10cm前後であるが、Hr-FPの粒の大きさが少ない事から利根川流域での噴出範囲の北限に近いと考えられる。

第III層は黒色土でローム漸移層である。厚さはわずか10cm前後の堆積で、台地の稜線付近を中心として部分的にしか認められず、その部分にのみ縄文時代前期の住居跡、土坑、陥し穴が集中する。そのためか、当初想定されていた縄文時代草創期の遺構・遺物は検出されなかった。

第IV層はAs-SPを含む淡黄色ローム土で厚さ20cm前後である。

第V層はAs-BPを含む黄褐色ローム土で部分的にAs-BPがレンズ状に堆積し、厚さは20cm前後である。

第VI層は淡灰褐色粘土質ローム土で厚さ15cm前後である。ATの検出層位であり、石器包含層である。

第VII層は淡褐色砂礫層で、石英安山岩質の細礫～砂を含み厚さ20cm前後、石器はまったく含まれず、層の上面は固くしまっており、第VI層とは不整合の可能性もある。

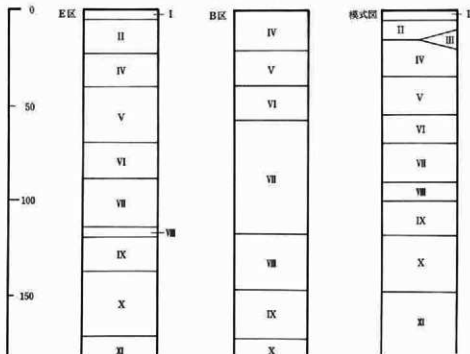
第VIII層は第VII層に類似するが、やや粘性をもつ事から細分した。

第IX層は青白色粘土層で層の厚さは20cm前後である。

第X層は白色粘土層であり、成因は水成堆積と考えられる事から、古沼田湖成層との関連も考えられる。層の厚さは30cm前後である。

第XI層は暗褐色砂礫層が50cm以上も厚く堆積しており、大小の石英安山岩質溶結凝灰岩塊を多数含む事から、三峰山からの大規模な崩壊土石流が成因と考えられる。

以上が基本土層であるが、その他にも沢周辺の谷地部分などに黒色の泥炭質土の堆積層が認められる。



第5図 基本層序図

第3節 遺跡の鉱物組成と火山灰（第6図、第1表）

当遺跡各層の鉱物組成は、群馬大学教育学部の新井房夫教授に現地での観察と採集試料の分析を行っていただいたので、その結果とその後の他遺跡での成果を交えて下記にまとめてみる。

試料については、地表から垂直に深さ2m程までの間に16箇所のサンプリングを行い、斜方輝石の屈折率を位相差法により調べる等の方法を実施した。なお、ローム層を中心とした分析である。

No1は黄褐色ローム（第IV層で、ソフトロームに対比される）で、紫蘇輝石（hy）>普通輝石（au）>磁鉄鉱（mt）の順の量の鉱物組成である。屈折率は1.703~1.711で、調査当時は浅間一板鼻黄軽石（As-YP）と浅間一板鼻褐色軽石（As-BP）の混在と考えられたが、翌年の同じ間越道の房谷戸遺跡の調査結果から、As-YPではなく浅間一白糸軽石（As-SP）である事が判明し、As-YPはむしろ東方向を軸とする分布で拾源から赤城山南麓にかけて分布すると考えられるようになった。これに対して、As-SPは東方向の分布軸である事は同一であるが、南北幅はAs-YPに比べてかなり広範囲であり、年代もやや古い。

No2、No3は共に第V層で、前者は直径0.5cmの黄橙色細粒軽石をレンズ状に含み、hy>au>mtの鉱物組成であり、後者も同一の組成である。屈折率は前者は1.701~1.708、後者が1.700~1.708である事から、共にAs-BPを含んでいる事がわかる。

No4、No5、No6は第VI層中のサンプリングであり、淡灰褐色粘土質ロームで暗色帯（南関東地域の第II黒色帯に対比される）である。三者共に始良・丹沢バミス（AT）が検出されているが、層の下半部に含有量極大値がみられる。多分、AT降下期以後の堆積層であろう。石器群の包含層でもある。

No7、No8、No9は第VII層、第VIII層からのサンプリングである。石英安山岩質の細岩片や砂を多含する。

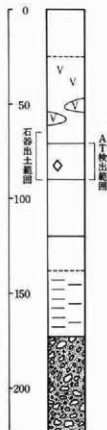
No10、No11は第IX層のサンプリングで、粘土質であり水成の可能性もある。

No12、No13、No14も粘土質であり、水成堆積によるものと考えられる。注目すべき点として鉱物組成があげられる。角閃石（ho）、磁鉄鉱（mt）、紫蘇輝石（hy）が検出されており、地質年代から考えて、第1表のうちの榛名一八崎軽石（Hr-HP）、大山倉吉軽石（DKP）、大町D軽石（DPm）、それに榛名一三原田軽石（Hr-MP）の4種類の軽石の鉱物組成と類似しているが、どれであるかははっきりしない。そこでもし、この事が解明できればこの層の年代の推定も可能となる。

No15、No16は石英安山岩質溶結凝灰岩をブロックで含む。

参考文献

- 町田 洋、新井房夫、小田勝夫他「テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカatalog」『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』P.265~P.328 1984



第6図 層序模式図

第1表 県内検出の主要テフラ(1万年前)

テフラ名	起源 火山	噴火年代 (10 ⁴ 年BP) (測定法)	噴火・堆積 機構 ⁽¹⁾	火山ガラスの性質 ⁽²⁾		斑晶鉱物の性質 ⁽³⁾		分布方向
				タイプ	屈折率(n)	主要鉱物組成	屈折率	
浅間-草津黄色軽石 (As-YPK) (横恋降下軽石)	浅間	1.05-1.15	pfa→pfl		1.501~1.503	opx, cpx	opx r 1.707~1.712	北北東方向 (新潟県湯 沢町)
浅間-板鼻黄色軽石 (As-YP)	浅間	1.3 (*C)	pfa→pfl			opx, cpx		東方(南関 東のUGの 可能性あり)
浅間-白糸軽石 (As-SP)	浅間	1.5 (推定)	pfa			opx, cpx, (ho)	opx r 1.704~1.707	東方に80 km, 南北は 未詳
浅間-板鼻褐色軽石群 (As-BP)	浅間 黒斑	1.6~2.1 (推定)	pfa			cpx, opx		東方に100 km以上、南 北80km以上
始良Tn火山灰 (AT)	九州・ 始良々 ルテラ	2.1~2.2 (*C)	pfa→pfl→ pfl=afa	bw ≧pm	1.498~1.501	pl; opx, cpx, (ho, qt)		九州~東北 地方までの 広域に分布
種名-八崎火山灰 (Hr-HA)	種名							
赤城-鹿沼軽石 (Ag-KP)	赤城	3.2	pfa			ho, opx, (cpx)	opx r	東方に130 km以上広域 に分布
種名-八崎軽石 (Hr-HP)	種名		pfa→pfl			ho, opx, (cpx)	opx r	東方に90 km, 幅広く 分布
赤城-道ノ口軽石 (Ag-UP)	赤城		pfa→pfl			opx, cpx, (ho)	opx r	東南東方向 に80km分布
大山倉吉軽石 (DKP)	中国・ 大山	4.5~4.7 (推定)	pfa→pfl	pm	— (風化)	pl; opx, ho, (bi)	opx r 1.702~1.708 ho n ₂ 1.673~1.680	
御岳第1軽石 (Pm-1)	中部・ 御岳山	7.0~9.0 (F. T.)	pfa→pfl	pm	1.501~1.503	pl; ho, bi, (opx)	ho n ₂ 1.681~1.689 opx r 1.706~1.711	
大町D軽石 (DPm)	中部・ 立山	8.5~9.5 (推定)	pfa					

(1) afa, 降下火山灰; pfa, 降下軽石; pfl, 大砕流; 下線のテフラが
広域に分布する。

(2) pm, 軽石型火山ガラス; bw, バブル型火山ガラス

(3) af, アルカリ長石; pl, 斜長石; qt, 石英; opx, 斜方輝石; cpx,
単斜輝石; ho, 角閃石; ()内はごく僅かに含まれるもの。

第7図 中部および関東地方の主要テフラの分布図 (町田他 1984より引用)

第4節 遺跡周辺の歴史的環境 (第8、9図、第2表)

当遺跡周辺には旧石器時代や縄文時代草創期の遺構及び遺物が検出された遺跡がいくつか存在する。それらの大部分は利根川やその支流である赤谷川・片品川等により形成された三～五段の河岸段丘面上に位置しており、第8図はその分布図、第2表は一覧表である。

このうち、後田遺跡の石器群と同様に暗色帯中から出土しているのは、月夜野町の小竹A遺跡・大竹遺跡・大友館址遺跡・善上遺跡・三峰神社裏遺跡・沼田市の戸神諏訪遺跡・昭和村の長井坂城跡遺跡である。だが、その年代については小竹A・大竹遺跡の調査者が石器群を三期に区分したうえで、すべてAT降下期以後としているのに対して、長井坂城跡遺跡の調査者は石器群がAT層直下に位置するとしているものの、明確な年代については記していない。また、大友館址・善上・三峰神社裏遺跡の調査者はすべてAT降下期以前の層位の出土とし、南関東縄文のIb期(Ⅱ層文化)に位置づけるとともに岩宿Ⅰ文化と同時期と考えている。この様に三者三様の考えであり、暗色帯中の石器群の位置付けは今後の課題といえる。

次に、暗色帯上面からAs-BP層にかけての遺跡としては中棚遺跡があげられるが、出土している石器が使用痕ある剥片の1点のみであり、この地域でのこの時期の石器群の詳細は不明である。やや地域を広げてみると、赤城山西麓地域の赤城村・見立窪井遺跡があげられる。この遺跡の4枚の文化層のうちの第Ⅲ文化層の石器群がこれに相当するが、石器が2点と少なく、やはりこの時期の様相を把握するうえで、資料不足という感じである。県内では岩宿Ⅱ石器文化がこの時期に相当する。

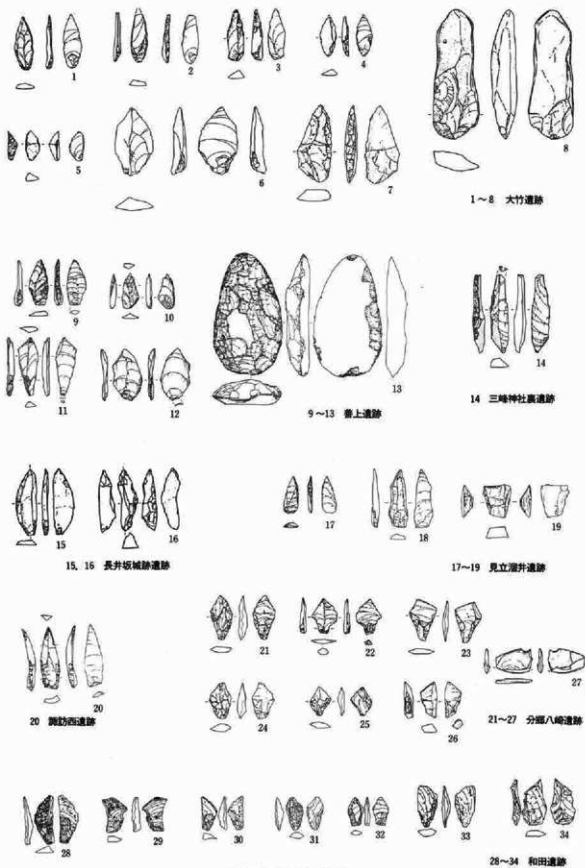
As-BP層より上位の層からは残念ながらはっきりした出土状態で把握された石器群は皆無であり、現在までにみられる石器の多くは表採や出土地不明という形である。だが、他地域の状況等から、これらの石器は武井Ⅱ相当の尖頭器群と土器共伴の可能性が高い有舌尖頭器群のグループに二分できると考えられる。

第2表 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	遺跡所在地	時代	出土層位	出土遺物	文献	
1	能田Ⅱ	利根郡水上町大字小仁田乾田	草創期	免掘	ローム漸移層	隆起織文土器・尖頭器・削器	67
2	小仁田	" " " " 字架中1-3	旧石器	表採	"	ナイフ形石器	126
3	高萩	" " " " 月夜野町大字石倉字高萩	草創期	"	"	有舌尖頭器・片刃打製石斧	77
4	都	" " " " 大字月夜野字都	"	"	"	尖頭器	"
5	小竹A	" " " " 大字下牧字小竹	旧石器	免掘	暗色帯	石刀・石核	127
6	大竹	" " " " " " 字大竹	草創期	表採	"	有舌尖頭器	127
7	大友館址	" " " " 大字錦字上の原	旧石器	免掘	暗色帯	ナイフ形石器・局部磨製石斧	127
8	善上	" " " " " " 字善上	草創期	表採	暗色帯	有舌尖頭器	140
9	三峰神社裏	" " " " " " 字中堀	旧石器	免掘	暗色帯	ナイフ形石器・彫器・打製石斧	140
10	後田(師A)	" " " " " " 字後田・青岳	草創期	表採	暗色帯	有舌尖頭器	140
11	三後沢	" " " " 大字下津字三後沢	旧石器	免掘	暗色帯	ナイフ形石器・彫器・打製石斧	140
12	蘆訪	" " " " " " 字蘆訪	草創期	免掘	ローム漸移層	有舌尖頭器	"
13	重	沼田市石巻町宇新田割	"	"	ローム漸移層	有舌尖頭器	106
14	戸神諏訪	" " " " 町田町字土塔原	旧石器	"	暗色帯	石刀	106
15	中島	" " " " " " " "	草創期	表採	"	尖頭器	80
16	山原	" " " " " " " "	草創期	"	"	有舌尖頭器・局部磨製石斧	"
17	田原	" " " " " " " "	草創期	"	"	有舌尖頭器	"
18	中棚	利根郡昭和村大字糸井字中棚1941	旧石器	免掘	BP純層直下	剥片	128
19	長井坂城跡	" " " " 大字川瀬字草3891	草創期	旧石器	暗色帯	有舌尖頭器	128
						ナイフ形石器	128



第8図 周辺の遺跡位置図



第9図 岡通遺跡遺物図

第3章 検出された遺物

第1節 出土遺物の概要

本遺跡から出土した遺物は、石器4,119点、礫380点の総計4,499点である（第3表）。その他に有舌尖頭器等の石器や剥片等が何百点も一括資料として、後世の住居跡等の遺構覆土中や調査区域内から表採されている。これらの大部分は南に向かって延びる舌状の台地の縁線付近を中心にして出土しており、その器種や石材もかなりバラエティーに富む。

遺物の同時存在を証明する一助として出土層位が問題になるが、本遺跡の遺物については一部に第IV層及び第V層から出土した資料もあるものの、大部分は第VI層に包含されており、特に第VI層下半部から第VII層上面にかけて集中し、台石・敲石等の大形の石器類が第VII層上面に溜り込む様にして出土している。このことから基本的には第VI層の暗色帯を包含層とする同一時期の石器群と考えられる。

前述した様に本遺跡からは多種に及ぶ石器が出土しており、第3表は、遺物の器種別組成表である。石器組成は剥片と碎片の2種類だけで全体の約7割を占めるのに対して、ナイフ形石器等の主要石器の割合は極めて低い。ただ、この事だけから遺跡の機能を想定するのはやや早急であり、接合関係等の分析を通じて理解していく必要があるであろう。また遺物の器種別分類については、器種認定に際していくつかの石器名称に関しての定義付けを実施したので、後述する器種別の説明において述べる事とする。

次に第4表は出土した遺物の石材別組成表である。それによれば不明も含めて33種類もの岩石が石材として遺跡内に運び込まれた訳であるが、数量的には圧倒的に黒色安山岩（約67.0%）・黒色頁岩（約22.2%）の2者が多く、次に珪質頁岩（約4.8%）の利用が多い。

遺物の総重量は178,282.79g。つまり約178kgもの重さの石が遺跡内に運び込まれた事を示すものであるが、この他に多数の表採資料が存在する事や、逆に接合資料から見て遺跡外に運び出された部分も想定される事から、実際にはこれ以上の重量の石材が遺跡内に持ち込まれたのは間違いない。

さらに、石材によっては遺跡周辺では産出しないものもある事から、単体等の形で搬入された資料も少なくはない。特に、チャートや黒曜石等はその産出地が遺跡から少なくとも数10kmは離れている事から、遠距離、あるいは広範囲での人の移動や物の交流等を容易に想定する事ができよう。

器種別の使用石材での特徴としては、まずナイフ形石器があげられる。黒色安山岩の8点に対して黒色頁岩の19点と、ナイフ形石器の30点の約26.7%と約63.3%を占める訳であるが、全体の石材比は黒色安山岩の約67.0%に黒色頁岩の約22.2%と、むしろ圧倒的に黒色安山岩が多い。この事から明らかに黒色頁岩が黒色安山岩よりもナイフ形石器の石材に適していると言える。さらに、ナイフ形石器の素材になる石刃や石刃状剥片の量も、黒色安山岩と黒色頁岩では108点（約36.9%）と164点（約56.0%）で、黒色頁岩の方が多い。縦長剥片は287点（約99.2%）と108点（26.0%）で黒色安山岩が量が多いものの、全体比から見れば、黒色頁岩がやはり優位と言える。これらの事からは、縦長系統の剥片については黒色頁岩がその石材に適している事を証明していると言える。次に敲石、台石については、輝石安山岩が19点（約39.6%）と高い割合を占めているし、この器種にしか使用されていない花崗岩や滑結凝灰岩等の石材も認められる。また、礫における黒色頁岩の割合もかなり高い事から、黒色頁岩の産出地がかなり近い証明と言える。

石材別の母岩別化を試みたが、一部の珪質頁岩、あるいは特徴的な石質の資料について可能のみで、大部分の石材、特に風化の激しい黒色頁岩はほぼ不可能であり、黒色安山岩についても色調や石質の異なると思われる遺物が接合する事例を何度か経験し、事実上不可能と考えた。

第3章 検出された遺物

第3表 ブロック別石器組成表

器種名 ブロック別	ナイフ形 石器	石皿	掻器	彫器	加工 使用 刮片	楔形	石斧 鎌器	巖石 磨石	白石	石杖	石刀 石杖 刮片	短長 刮片	打作 打再 石杖	刮片	砕片	礫石 礫	計
第1ブロック	1				2					5	3	6		32	2	1	52
第2ブロック					1						4	3		22	3	1	34
第3ブロック	1				1						1	3		9	1		16
第4ブロック												4	1	23	1		29
第5ブロック											1	2		14		1	18
第6ブロック					1					2		3		9		2	17
第7ブロック					1					3		8		29	2	1	44
第8ブロック	1				4					9	4	10		47	2	1	78
第9ブロック					3					5	2	5		17	2	1	35
第10ブロック	1			2	4					12	8	33	2	124	11	6	203
第11ブロック					2			1	3	2		4	1	37	2	4	56
第12ブロック					1							3		6	2		12
第13ブロック	1			1	4				1	1	8	10	1	83	16	3	129
第14ブロック					2			1	1	2	1	9	1	57	3	15	92
第15ブロック					1			1		1	1	1		5		1	11
第16ブロック	4	1	1		31		2	3	1	28	33	78	4	523	85	63	857
第17ブロック	1													1		5	8
第18ブロック					1							2		21	2	6	33
第19ブロック	1							6	1	1	1	2		27	2	21	62
第20ブロック					1					1	9	6		55	8	15	95
第21ブロック														3	1	14	18
第22ブロック	1				5			3		3	9	3	1	29	5	8	67
第23ブロック	6			1	13		1	2	1	3	40	14		166	32	37	316
第24ブロック					1						9	3		12	1		26
第25ブロック	1				6			1		1	9	8		44	18	18	106
第26ブロック					2					1	1	1		11	1	1	17
第27ブロック	1			1	7		1	1		2	1	5		18	3	1	41
第28ブロック					1			5		2	4	8		80	33	12	145
第29ブロック	1				1					1	8	1		37	7	3	59
第30ブロック					3						6	6		19	11	4	49
第31ブロック					1						1	1		2		22	27
第32ブロック	2				10		1	2		3	24	8		182	95	11	338
第33ブロック	1							3		6	19	25	3	122	65	8	252
第34ブロック					1						3	5		12	1		22
第35ブロック	1							1						13	7		22
第36ブロック												3		7	4		14
第37ブロック					1	1					3	13	1	30	9	12	70
第38ブロック	1				2		1			4	19	24	1	61	15	5	133
第39ブロック	1			1	5					3	9	7		82	33	8	149
第40ブロック					1			1			3	2		27	2	4	40
第41ブロック	2										3			2		1	8
第42ブロック					9			2		10	34	73	6	271	114	16	535
第Iブロック					1					1				3	1		6
第IIブロック					4			1		3		1		11		1	21
第IIIブロック	1				2			4	1	1	1	4		37		11	62
第IVブロック					2						1	1		5	5	10	24
第Vブロック										1	2			5	2	3	13
ブロック外					1		1			1	5	6		13		11	38
計	30	1	1	6	139	1	7	40	9	118	289	414	22	2443	599	380	4499

第4表 石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ 形石器	石鏃	撻器	彫器	加工 使用 剥片	楔形 器	石斧 礮器	敲石 磨石	台石	石槌	石刀 石杖 剥片	短長 剥片	打作 打再 石鏡	剥片	砕片	厚石 礮	計
石英														2		2	4
花崗岩								4								1	5
閃緑岩																3	3
石英閃緑岩								1	1							6	8
石英斑岩							1	2								2	5
瑤岩								1	1							1	3
輝緑岩								2						3	3	6	14
流紋岩	1			1	2			3						2		14	23
黒曜石					3									3			6
安山岩					1									4		27	32
輝石安山岩								15	4					1	3	11	34
黒色安山岩	8	1	1	4	83		1			97	101	285	12	1891	432	2	2918
灰色安山岩								2						1	1		4
実質安山岩								1								5	6
ガラス質安山岩															1		1
凝灰岩																3	3
珸質凝灰岩									1		1					3	5
溶結凝灰岩								2	1							7	10
アモサイト凝灰岩																1	1
砂岩								1	1					5		35	42
頁岩	1													9	2	11	23
珸質頁岩	1				17				4	21	20	2	93	48	11		217
黒色頁岩	19			1	31	1	5	3	17	166	109	8	408	101	131		1690
点紋頁岩														1		8	9
青色珸質岩					2												3
赤色珸質岩															1		1
雲母石英片岩																1	1
点紋雲母石英片岩																1	1
黒色片岩																1	1
実質岩														1		1	2
珸質実質岩														11	1	26	38
火山ガラス															1		1
アモサイト																1	1
不明								3						8	4	59	74
計	30	1	1	6	139	1	7	40	9	118	289	414	22	2443	599	380	4499

第2節 出土遺物の説明

本遺跡からはナイフ形石器を主体とする石器群が検出されており、その他に少ない点数ではあるが、打製石斧、彫器、撻器、石鏃、楔形石器、礮器、加工痕ある剥片、敲石、磨石、台石等が出土している。

以下、これらの石器を器種別に説明していく事とする。

1. ナイフ形石器（第10図～第16図 1～30、写真図版9-1、2）

ナイフ形石器は欠損品も含めて総計30点出土しているが、器種認定に際して問題がある資料については除外したため、機能的にはその範疇に含まれるものが他に存在するかも知れない。いずれにしても石器総数に對して占める割合は約0.67%と1%以下の極めて少ない数値でしかない。

形状的にはいくつかのパラエティーンを持っており、ブランティングの部位や手法による分類を実施した。

◎ブランディングの調整部位

I (二側縁)

II (一側縁)

III (基部及び先端部、あるいは
どちらか一方のみ)

◎ブランディングの調整方向

a (腹面からのみ)

b (腹面と背面からの両方)

◎素材及び形状

c (台形状を呈す)

d (つまみ状の茎をもつ)

以上の分類基準からみると、次の通りになる。

I a 類 (第10図-1)

縦長剥片の打点側を折断により取り除き、先端側を基部として右側縁すべてと左側縁の約半に調整を施し先端部を尖らせて刃をもつもの。

I b 類 (第10図-2・3・4)

片側縁すべてともう一方の側縁の一部に腹面と背面の両面から調整を施すもの。

I c 類 (第10図-6、第11図-7)

剥片を折断等によりほぼ台形状に整え、一辺に残された素材の縁辺を刃部として、それに直交する両側縁に調整を施したものを。

II a 類 (第11図-9・10)

縦長剥片の右側縁のみに調整を施したものを。

II b 類 (第11図-8・13)

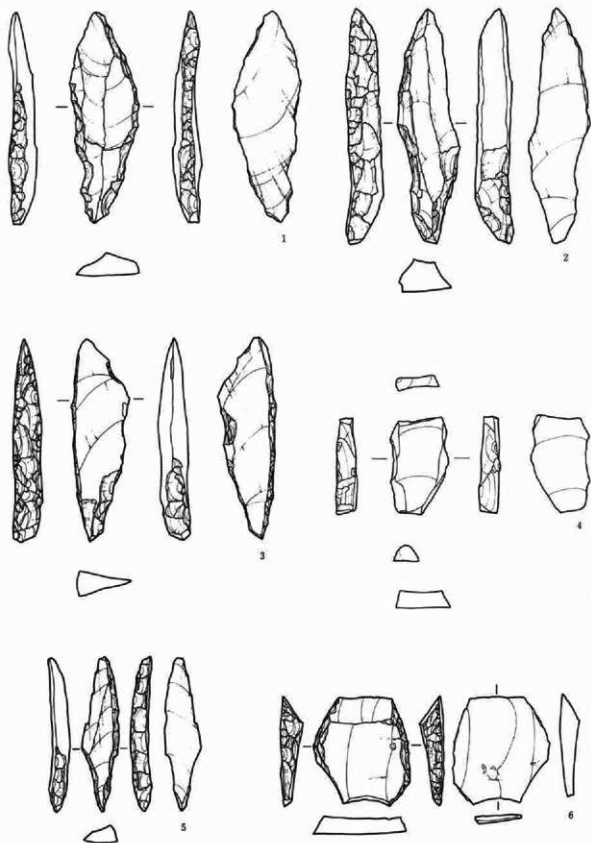
片側縁すべてのみに腹面と背面の両面から調整を施したもののだが、I b 類に類似する点から破損で約半分を失っている第11図-13はI b 類に所属する可能性もある。

II c 類 (第11図-11・12)

剥片を折断等によりほぼ台形状に整える点ではI c 類に類似するが、一側縁のみに調整を施すもので、特に、第11図-12は縦長剥片を打面に対して直交する形で折断を施し、その折断面のみに調整を施す点が興味深い。

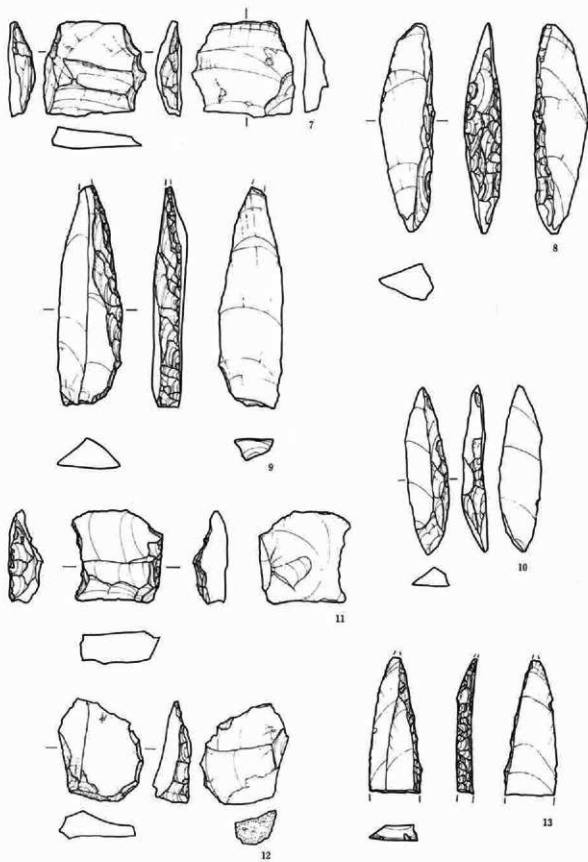
III a 類 (第12図-14・15、第13図-16・17・18・19・20、第14図-21・22・23・24、第15図-25・26・27・28、第16図-29)

主として縦長剥片を素材とするが、剥片の形状をほとんど変えずに基部及び先端部、あるいはそのどちらか一方のみに調整を施したものであるが、第13図-17等の破損により一部を失っている資料5点(17・20・22・24・29)については他の類に所属する可能性も考えられなくもない。特に24・29については、残存する一側縁すべてに調整が施されている点からI a 類に含まれる可能性が高いと言える。また15については基部部分に裏面調整が施され、打痕部分の高まりの除去に伴うものと考えられる。最後に、本遺跡での特徴あるナイフ形石器について記述する30については基部部分の調整が内湾するように施されて茎を持つ形状を呈しており、類似する資料も見当たらない事からIII d 類として分類する。縄文時代の石匙の可能性も考えられない事ではないが、茎を作り出す点は似ているものの、大部分が表裏両面からの調整であり、この資料の様な裏面側からのみの調整とは異なる。また、刃部に相当する部分に調整が認められない点も石匙の機能から考えれば不適当である。さらに、出土状態も他の石器群と同じ第VI層中に包含され、後世の掘り込みによる落ち込みの可能性も調査時の所見からはまったく考えられない事から、やはり石器群に伴う資料と考えて間違いない。



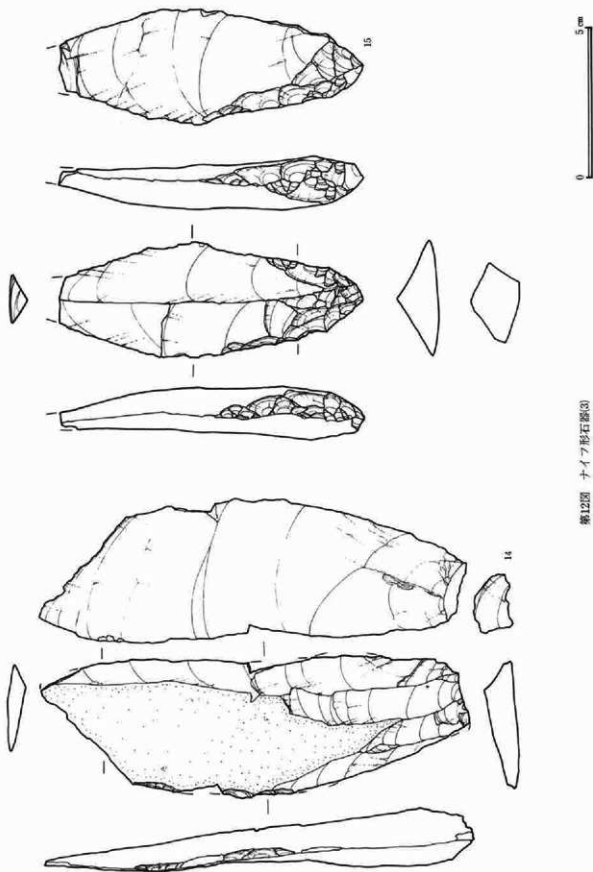
第10図 ナイフ形石器(1)

0 5 cm

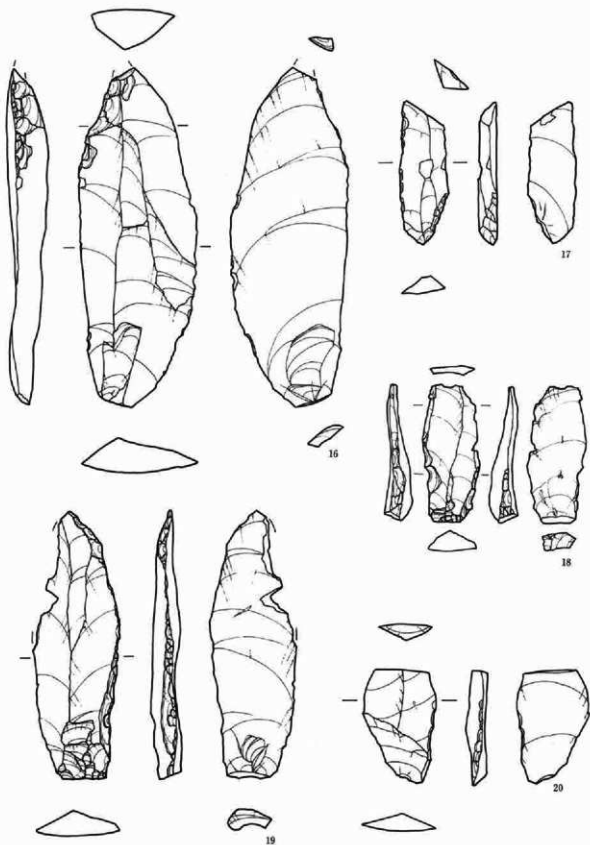


第11図 ナイフ形石器(2)

0 5 cm

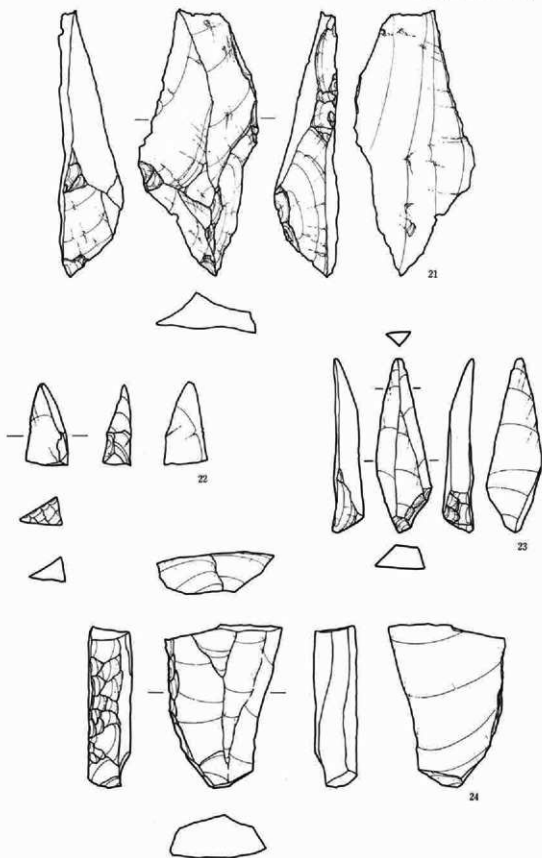


第12図 ナイフ形石器(3)



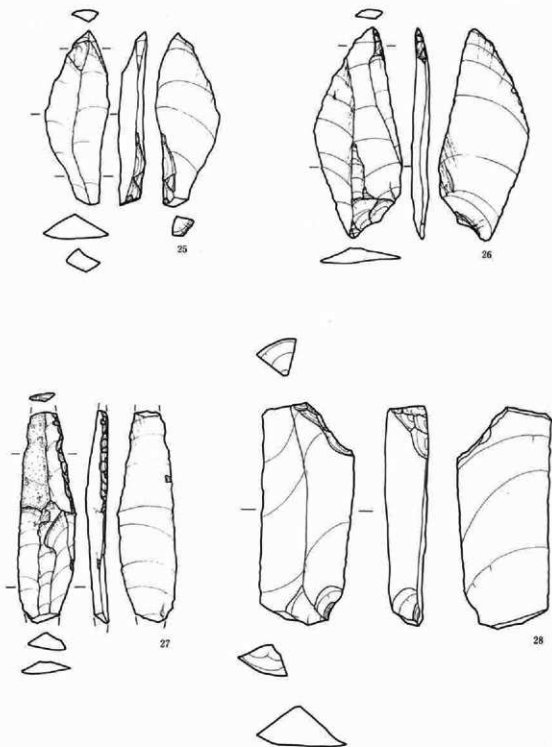
第13図 ナイフ形石器(4)

0 5 cm

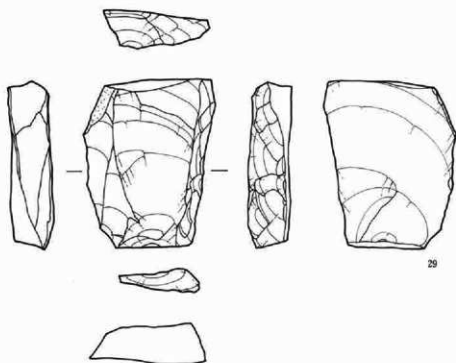


第14図 ナイフ形石器(5)

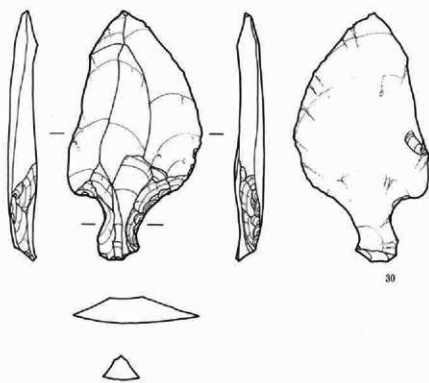
0 5 cm



第15図 ナイフ形石鏃(c)



29



30

第16図 ナイフ形石器(7)



第3章 検出された遺物

2. 彫器 (第17図 31-35、写真図版10-1)

彫器は6点出土しているが、この内の5点について図化した。石材は黒色安山岩が4点、黒色頁岩が1点、流紋岩が1点である。器種組成上からもかなりの少数である。

31は黒色頁岩の大形剥片の折断面を打面として2条の楕状剥離により彫刀面を作出する。32は黒色安山岩の剥片の打面に1条の楕状剥離を有するが、彫器でない可能性も否定できない資料でもある。ただ、明らかに打面調整に伴う剥離ではない事から、器種認定上もかなり制約されよう。33は黒色安山岩の剥片を素材とし、一辺に2条、あるいはもう1条の楕状剥離を加えて彫刀面を作出する。相対する方向からの剥離面については打点部分を失っているために、あえて彫刀面とは区別して考える。34は黒色安山岩の縦長剥片を素材とし、折断面から一辺に加えた1条の楕状剥離を有するもの、31と同様に彫器でない可能性も存在する。35も黒色安山岩の縦長剥片を素材とし、ほぼ先端部分での折断面から一辺に加えた2条の楕状剥離を有する。図化していない1点も折断面からの1条の楕状剥離を有する資料である。

以上の事からは、剥片の折断面を利用して楕状剥離により彫刀面を作出する資料が多い事がわかるものの、定形化した彫器は存在しないと言える。

3. 掻器 (第17図-36、写真図版10-1)

やや器種認定に問題があるが、1点だけ出土している。黒色安山岩の剥片を素材とし、打面部分に調整を加えて直刃を得ている。第16ブロックからの出土である。

4. 楔形石器 (第17図-37、写真図版10-1)

器種認定上でやや問題があるかも知れないが、ただ1点だけ出土している。珪質凝灰岩の表面に礫面を残すやや長方形の剥片を素材とし、主として礫面側に両端から調整を加えている。第37ブロック出土。

5. 石錐 (第17図-38、写真図版10-1)

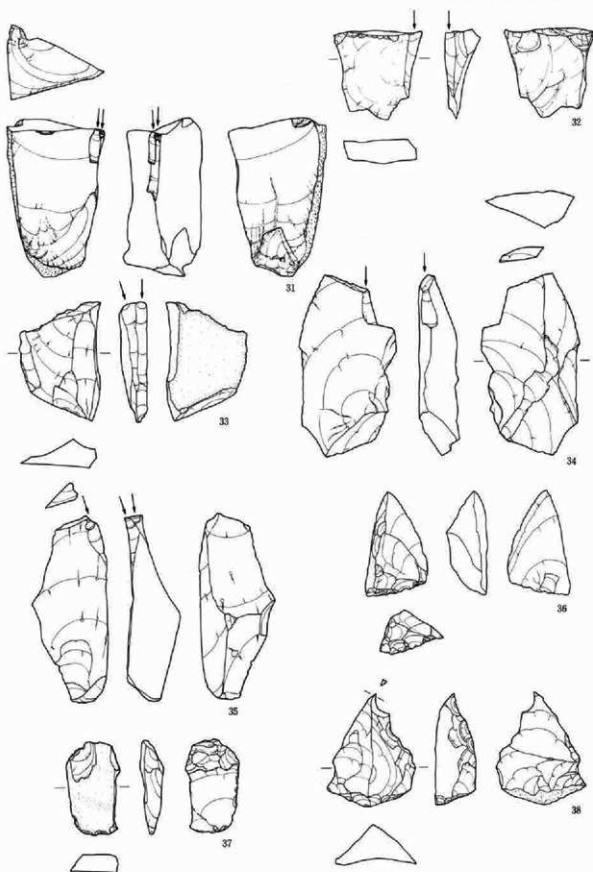
この石器もただ1点のみの出土である。礫面を打面とする剥片の一侧縁のみに調整を加えて細く尖った部分を作り出しているが、この先端部を錐として利用したと考えられる。石材は黒色安山岩で、第16ブロックからの出土である。

6. 打製石斧 (第18図-39、写真図版28-1)

表面に広く礫面を残す大形剥片を素材とし、両面に対する両側縁からの調整はそれ程顕著でなく、刃部は側縁から見ればやや斜行するがほぼ直刃で、刃部の両面に使用痕が認められる。素材は長さ9.8cm、幅5.7cm、厚さ1.5cmの横長の剥片で、石材は黒色頁岩である。出土状態は第28ブロックよりやや南に離れて他の1点の遺物と共に検出された。

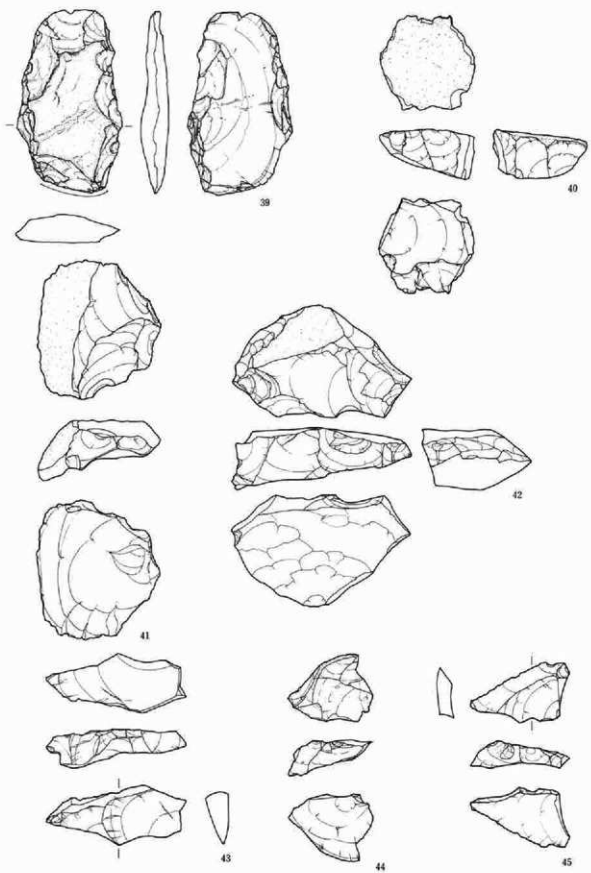
7. 打面再生剥片 (第18図-40-45、接合資料6-1、接合資料45-6、接合資料66-25・26、接合資料67-4・5、接合資料76-1、接合資料88-4)

打面再生剥片は総計13点と数多く出土しており、石器群の剥片剥離工程を知る上での重要な位置を占めている。大部分は旧打面に対して輪切りにする様に横から加撃されている。接合資料の6・45・66・67・76・88等は、その代表とも言えるであろう。

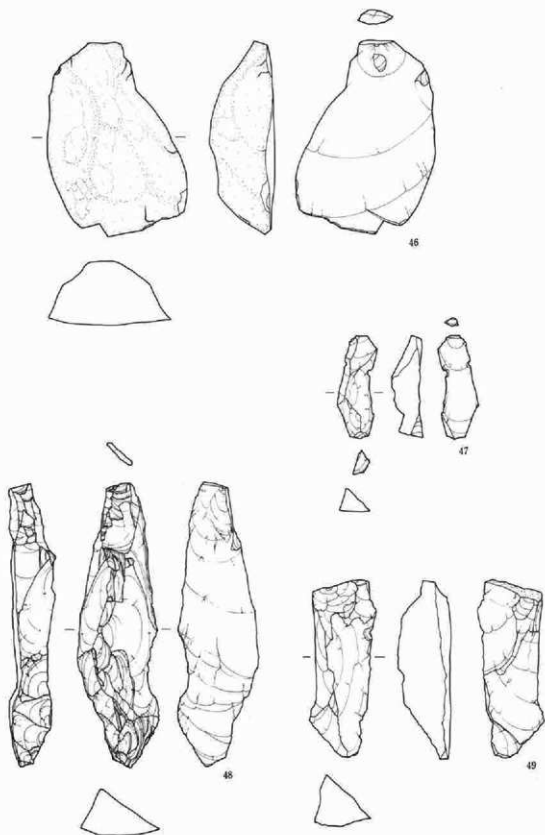


第17図 形器・掻器・楔形石器・石錐

0 10cm



第18図 石斧・打面再生剥片 0 10cm



第19図 打面作出剥片・石核残付き剥片

0 10cm

第3章 検出された遺物

8. 打面作出剥片(第19図-46、接合資料15-1、接合資料66-1、接合資料83-1、接合資料98-1、接合資料101-1)

打面再生剥片と同様に、その存在自体が本石器群での剥片剥離工程の特徴を示す資料である。長方体の角礫や円礫の一端から打ち取られるもので、その認定自体が難しかったり、剥出後に石核等に転用されるものもあり、その数は正確には把握できない面もある。

9. 石核後付き剥片(第19図-47~49、接合資料15-10、接合資料46-1)

この資料も、打面再生剥片等と同様に剥片剥離工程の一つの特徴を示す資料である。特に接合資料15(第16ブロック)は作業こそ途中で中止されているものの、石核の側面に対して左右から加撃して稜を作り出す工程は理想的な資料といえる。

10. 石核(第20図~第32図、50~106)

石核は総計118点出土しており、器種組成上で約2.6%とやや高い割合である。この内で図示したものは、単体資料での57点と接合資料中の49点だけである。これらは形状や剥片剥離工程により次に記述する様な6種類に分類される。

第I類(第20図-50・51・54、第21図-56~58、第22図-62、第24図-71、接合資料15-11、接合資料18-6、接合資料28-3、接合資料32-3、接合資料36-3、接合資料68-37、接合資料75-3、接合資料76-2、接合資料82-60、接合資料89-4)

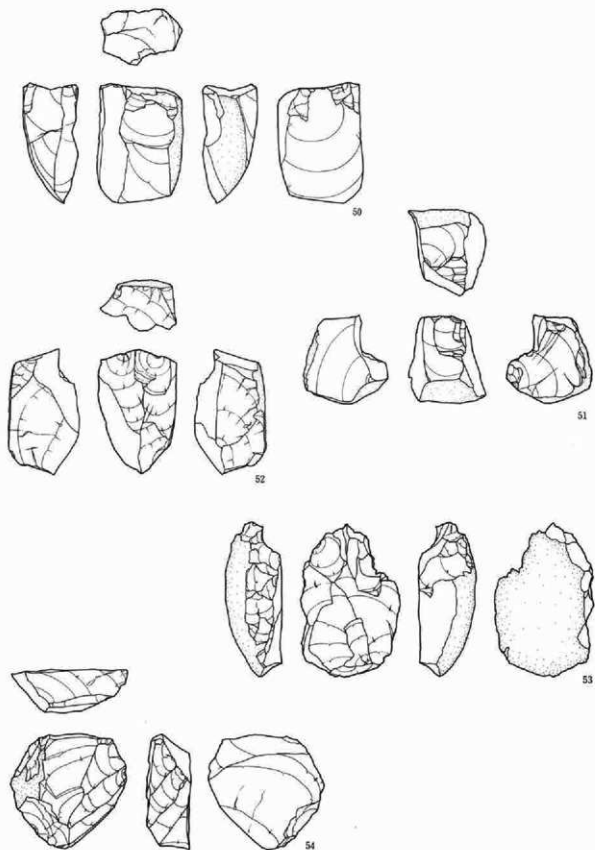
円礫や角礫、あるいは分割された剥片を素材とし、打面調整がほとんど認められない単設打面から一定方向に連続して縦長の剥片を剥離するもので、打点が打面を半周以上からはほぼ全周する資料も多い。また、側面の一部に分割面を残存させる例も存在する。形状は円錐形や角錐形を呈す。

第II類(第20図-52、第22図-59・60・63、第23図-64~66、第24図-70、第25図-72・73、接合資料22-4、接合資料26-3、接合資料45-10、接合資料65-2)

第I類と同様に、円礫や角礫、あるいは分割された剥片を素材とし、やはり打面調整が認められない両設打面から、それぞれ一定方向に連続、あるいは交互に縦長の剥片を剥離するもので、打点が打面を半周以上からはほぼ全周する資料も多い。また、側面の一部に分割面を残存させる例も多く存在する。形状はやはり円錐形や角錐形を呈す。

第III類(第20図-53、第21図-55、第23図-67、第24図-68・69、第25図-74・75、第26図-76~80、第27図-81~85、接合資料3-5、接合資料8-1、接合資料9-2、接合資料14-2、接合資料19-7、接合資料20-7、接合資料24-2、接合資料42-4、接合資料43-3、接合資料51-3、接合資料52-3、接合資料57-2、接合資料59-10、接合資料66-35、接合資料67-19・20、接合資料70-8、接合資料73-12、接合資料78-7、接合資料82-11・38、接合資料88-3・7、接合資料89-10、接合資料101-4、接合資料102-3)

第I、II類と同様に、円礫や角礫、あるいは分割された剥片を素材とし、一定の打面から剥片剥離した後に、その剥離面に打面を90°転位させて剥片剥離を行うもので、これを一度から数度繰り返す事により複数の打面を持つ資料となり、形状も立方体(サイコロ状)を呈す。

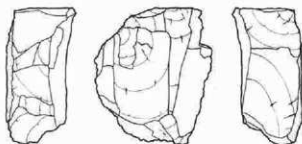


第20図 石 杖 (1)

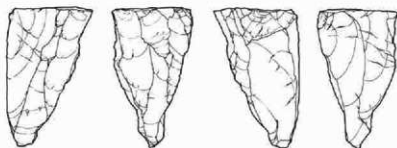
0 10cm



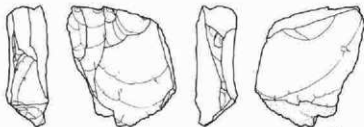
56



56



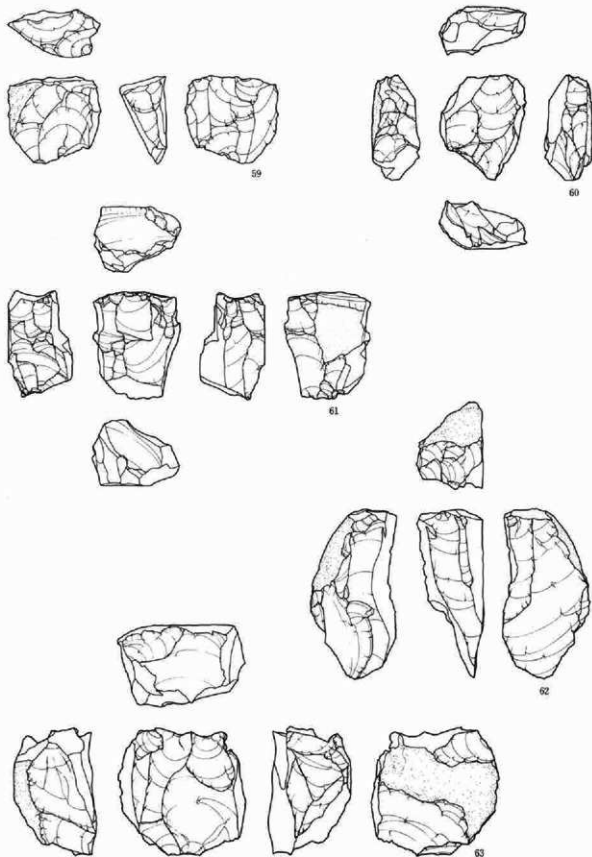
57



58

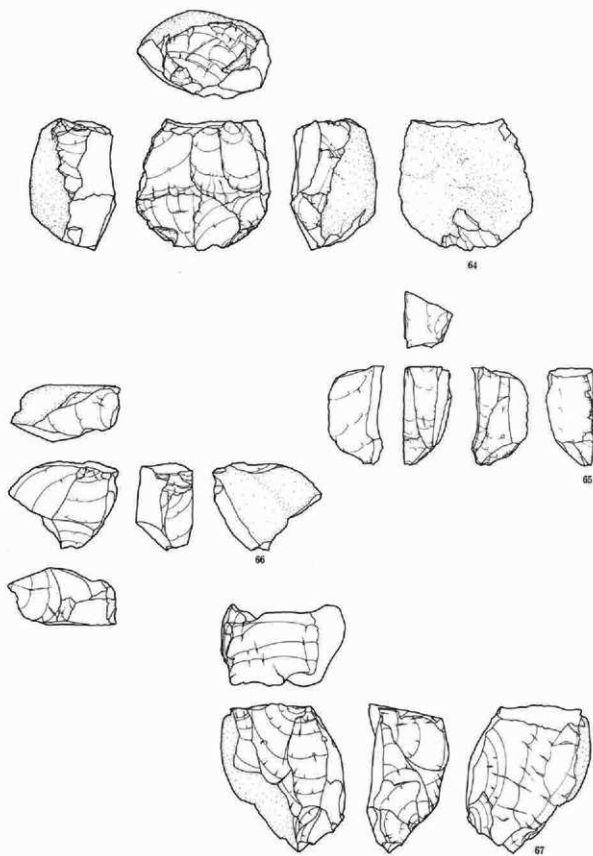
第21図 石 槌 (2)





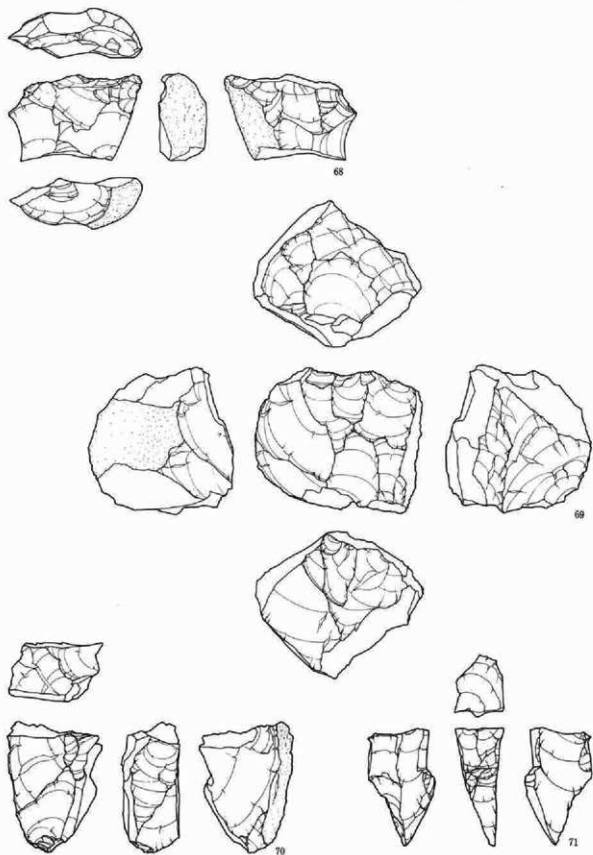
第22図 石核 (3)

0 10cm



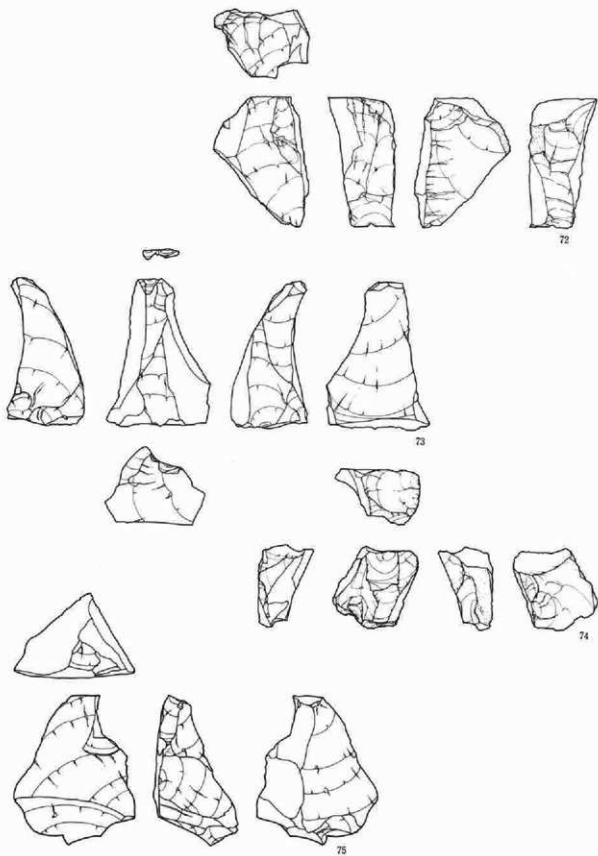
第23図 石核 (4)

0 10cm



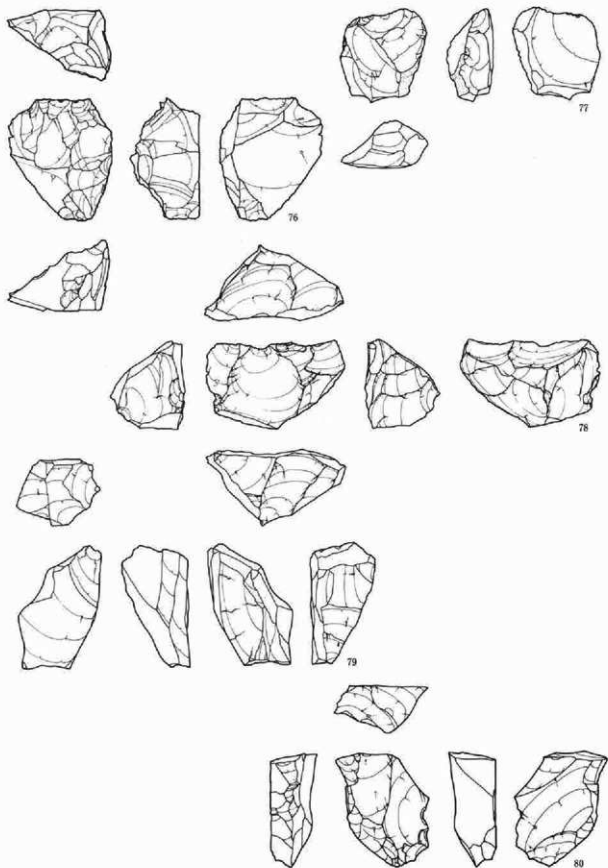
第24圖 石 核 (5)

0 10cm



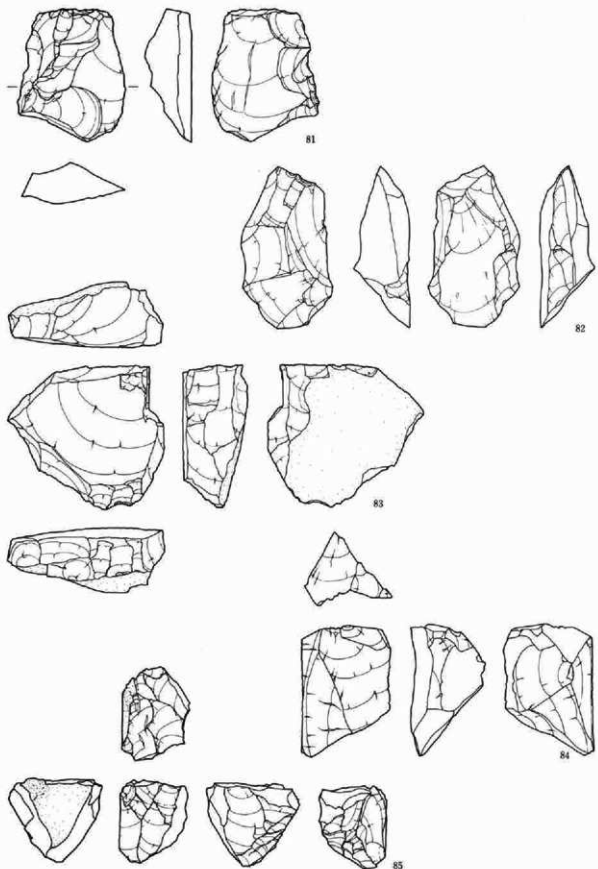
第25回 石核 (6)

0 10cm

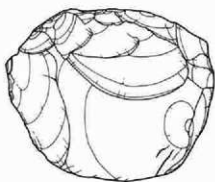
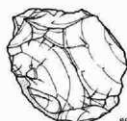
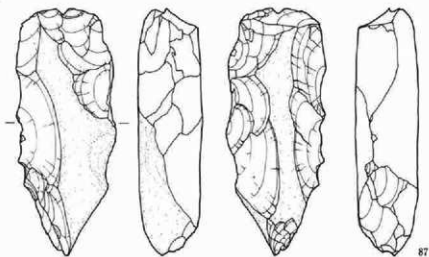
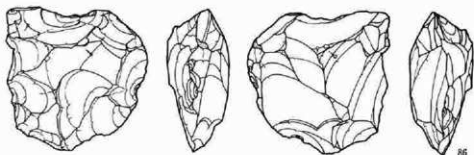


第26図 石 核 (7)

0 10cm

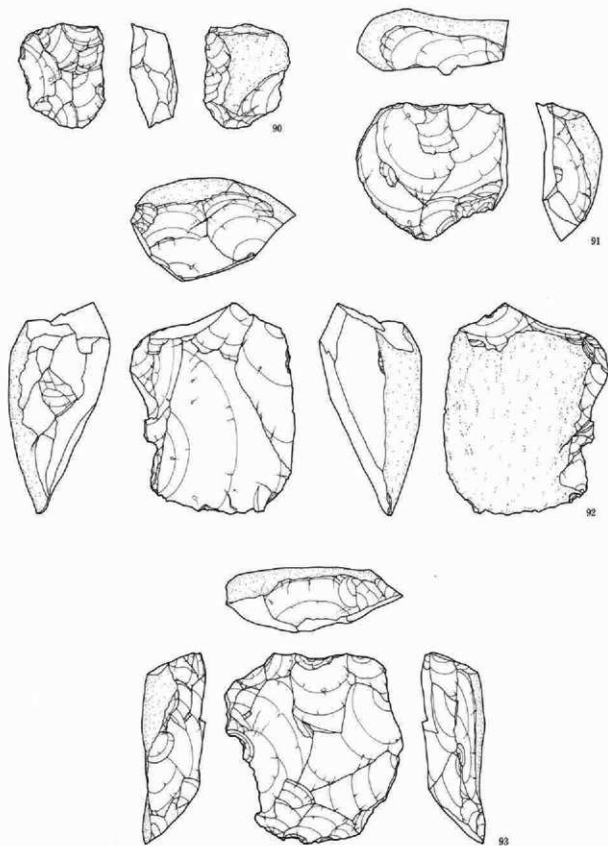


第27図 石 核 (8)



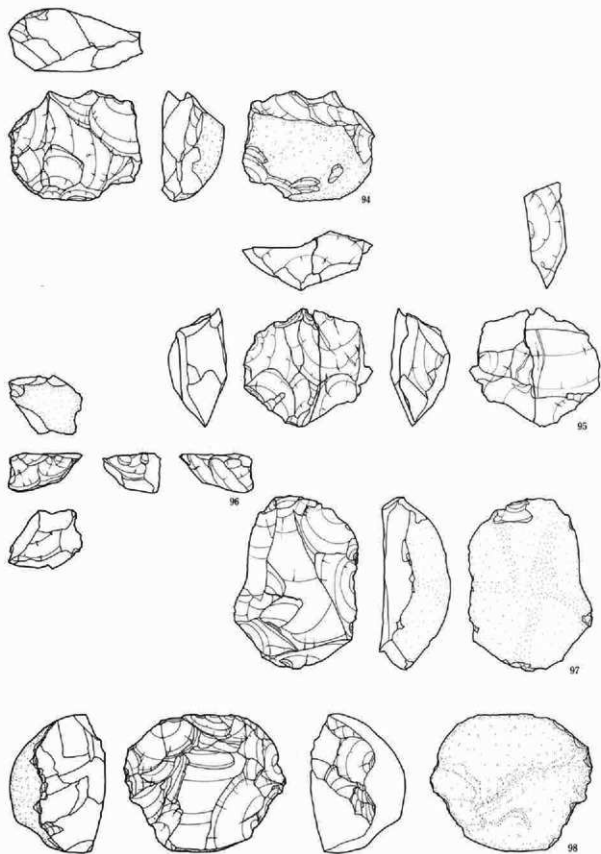
第28図 石核 (9)

0 10cm



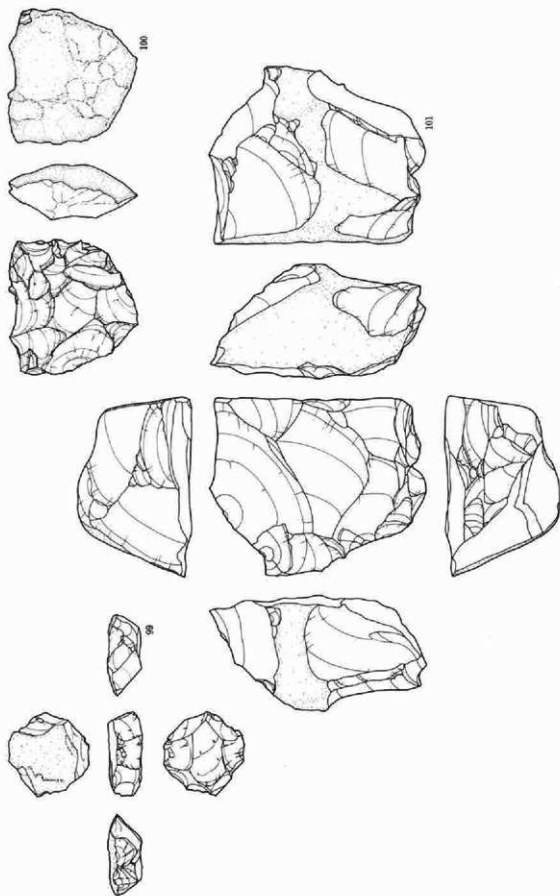
第29図 石核 00

0 10cm

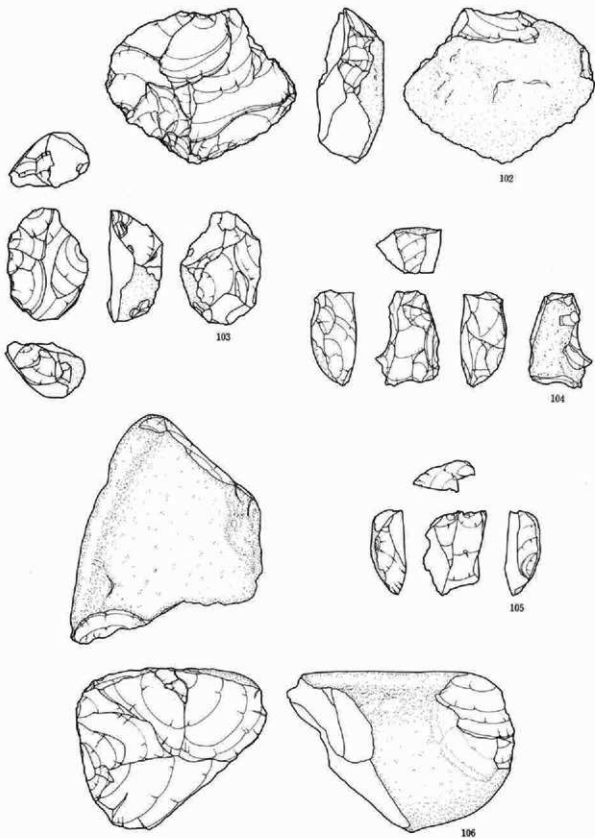


第30図 石核 (1)

0 10cm



第31回 石 核 切



第32図 石核 03

0 10cm

第Ⅳ類(第28図-89、第29図-90-93、第30図-94-98、第31図-99-101、第32図-102-106、接合資料3-4、接合資料4-5、接合資料10-2、接合資料11-3、接合資料16-15、接合資料30-3、接合資料58-10、接合資料64-14、接合資料79-5)

主として分割された剥片を素材とし、石核に対して求心的な剥片剥離を施す事により横長に近い剥片や長幅比がほぼ等しい様な不定形剥片を剥出するものである。打面は大部分が裏面側に残存する確であるが、一部に剥離面を打面とする資料もある。形状は大半が円盤状を呈し、打面調整や剥離面頭部調整はほとんど認められない。

第Ⅴ類(第28図-86-88、接合資料47-4)

主として分割された剥片を素材とし、石核に対して求心的に剥片剥離を施す事により横長に近い剥片や長幅比がほぼ等しい様な不定形剥片を剥出する工程は第Ⅳ類と同様であるが、第Ⅳ類の剥離面が円盤状の石核の片面のみであるのに対して、両面を打面と剥離面として交互に利用する事により、凸レンズ状の形態を呈す点異なる。やはり、打面調整や剥離面頭部調整は認められない。

第Ⅵ類(接合資料17-1、接合資料82-37)

分割された確や盤状の剥片を素材とし、分割面や剥片の剥離面を打面として主に横長の剥片を剥出する。剥離回数も数回と少なく、剥出される剥片自体の長さ等も素材となる確等の形状によりかなり規制される。

11. 加工痕ある剥片(第33図~第36図 107-149、写真図版16-1~17-1)

加工痕ある剥片についてはいくつかの問題がある。第一に削器との関係であり、第二には特徴的な調整を持つ剥片、いわゆる「立野ヶ原型ナイフ形石器」との関係、さらに基部調整を施された資料の存在である。

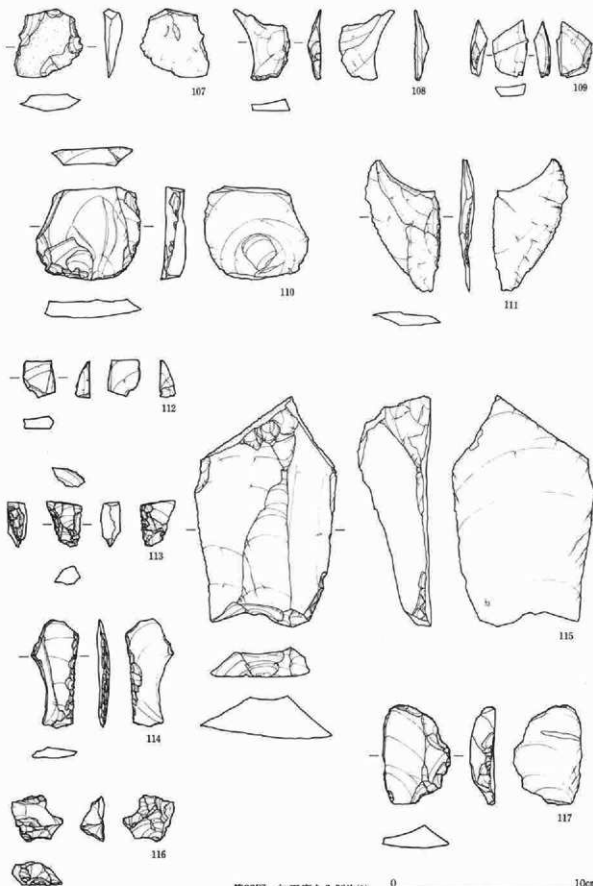
まず、削器については、当初は独立した器種として考えていたものの、定形化という意味では充分でないために、あえて「加工痕ある剥片」の一部に組み入れる事とした。

次に、剥片の先端部や側縁部にプランティングに近い調整や、あるいは平担剥離が施されている資料が存在している。これらについて当初、ナイフ形石器の範疇として把握しようとしたが、本石器群の本来のナイフ形石器と比較して、小形で、調整自体も顕著でない事から、「加工痕ある剥片」として考える事とした。ただし、最近注目されている「立野ヶ原型ナイフ形石器」との関連も充分考えられる。第33図-107・108・109・112、第34図-120・121・123・125・127・128、第35図-131・132・134・136・138、第36図-142・143・145・146・149等が相当する。

最後に、基部に相当する部分に調整を施す資料については、ナイフ形石器でのⅢd類との類似が考えられる。特に、第33図-113の黒曜石の石材とする両面調整の資料は、基の作り出しを目的とする様であり、注目に値する。また、表面の風化が激しいものの、ペン先状の形状を呈す第34図-119については、栃木県磯山遺跡の資料との関連も考えられる。

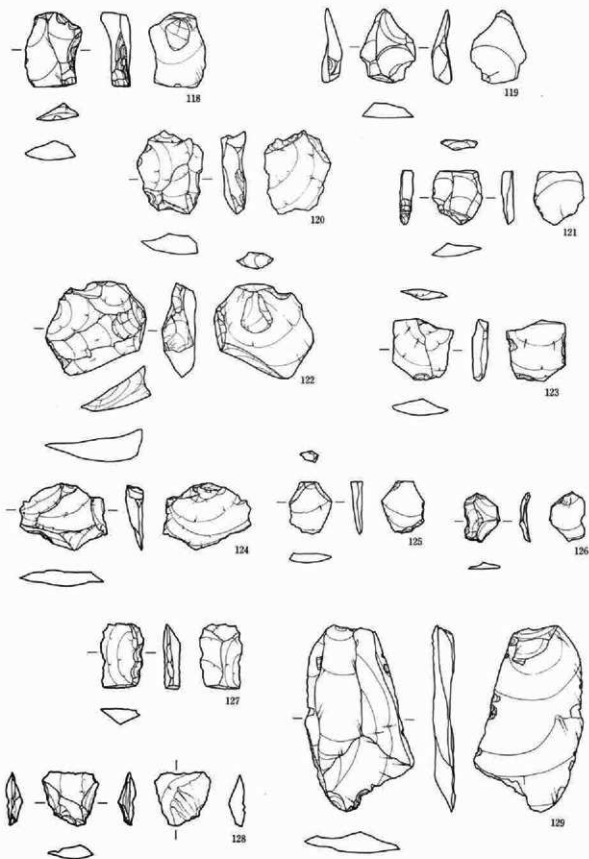
12. 使用痕ある剥片(第37図~第39図 150-166、写真図版17-2、18-1)

使用痕ある剥片についても問題がある。本来ならば、石刃でも縦長剥片でも使用痕が認められるならば、すべてを「使用痕ある剥片」とすべきなのであるが、ここでは剥片のみの使用痕を対象として、石刃や石刃状剥片、それに縦長剥片については、それぞれの器種の中に収録する方法を実施した。

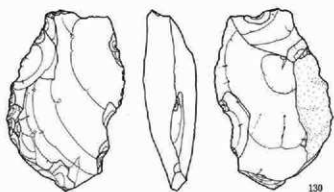


第33図 加工痕ある銅片(1)

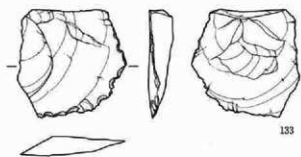
0 10cm



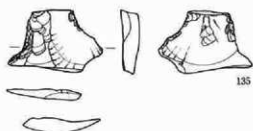
第34図 加工痕ある剥片(2) 0 10cm



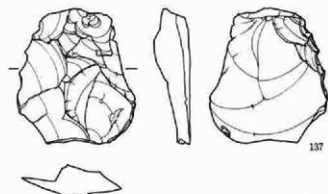
130



133



135



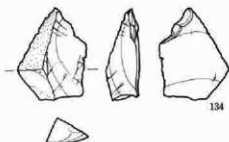
137



131



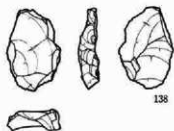
132



134



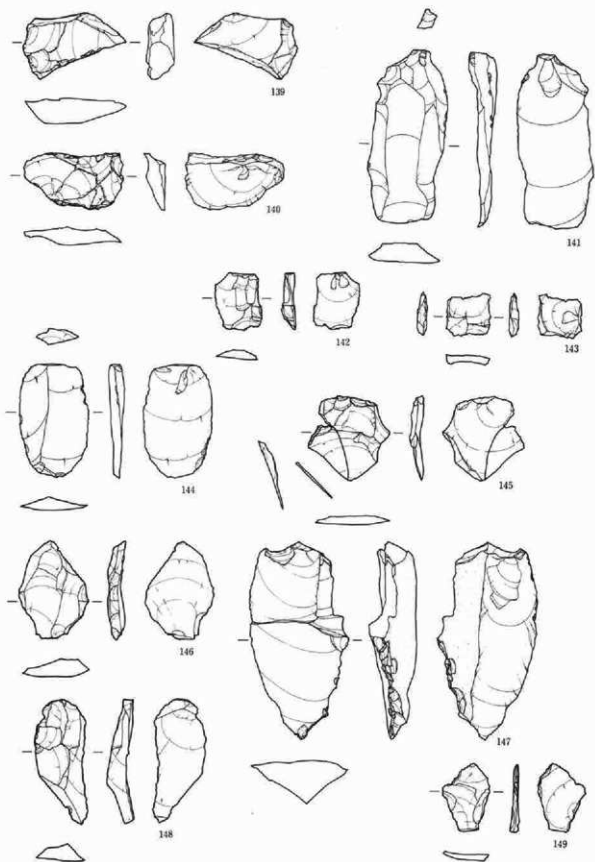
136



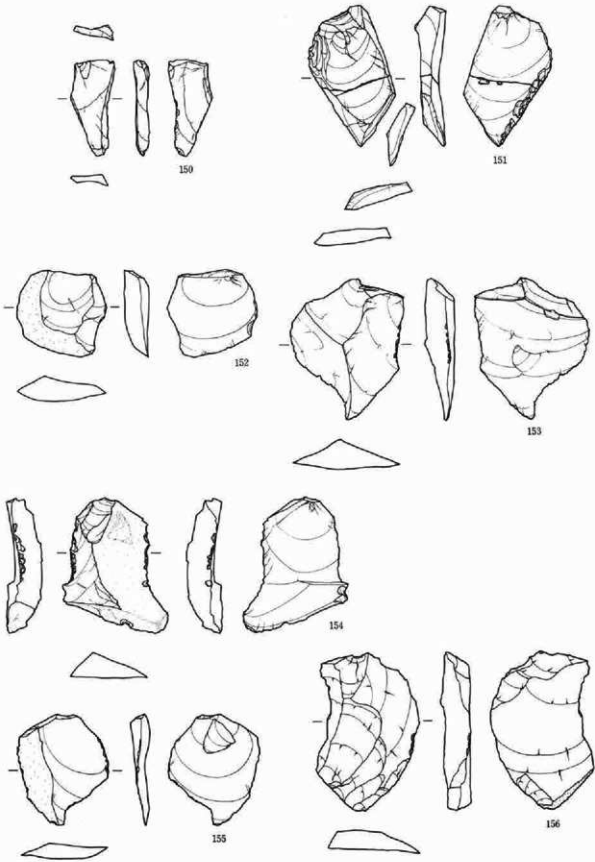
138

第35図 加工痕ある剥片(3)

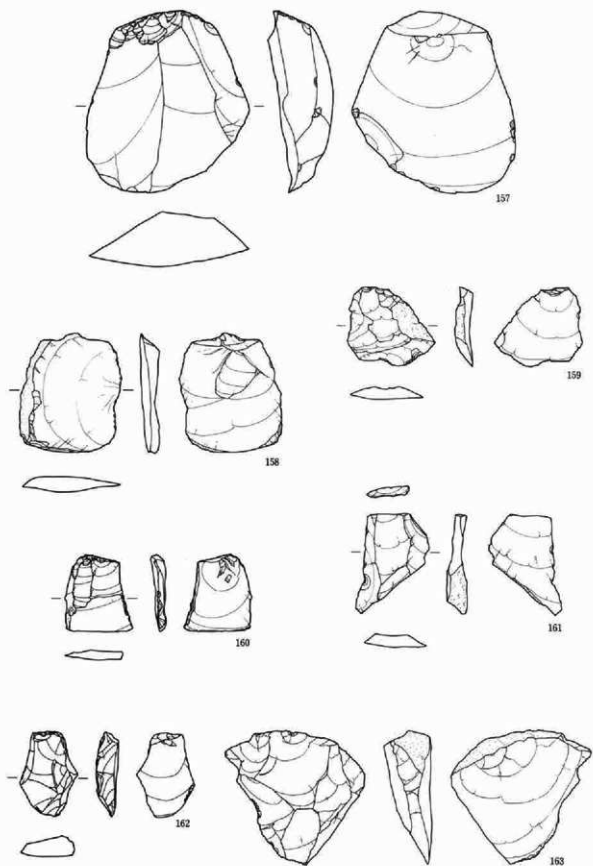
0 10cm



第36図 加工痕ある剥片(4) 0 10cm

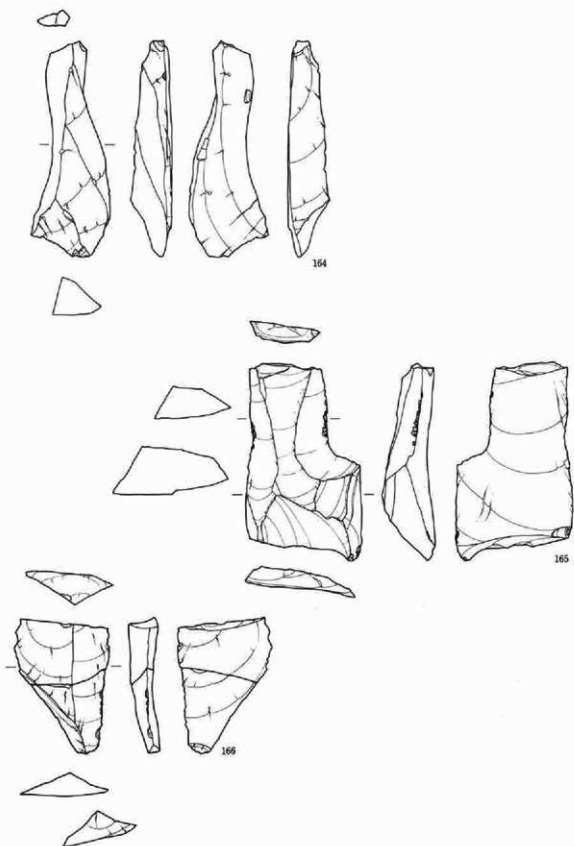


第37図 使用痕ある剥片(1) 0 10cm



第38図 使用痕ある剥片(2)

0 10cm



第39図 使用痕ある剥片(3)

13. 石刃・石刃状剥片・縦長剥片・剥片（第40図～第77図 167～530、写真図版18-2～25-1）

剥片類については、石刃・石刃状剥片・縦長剥片・剥片・碎片の5器種に分類した。以下にそれぞれの分類基準について明記したい。

石刃は長さと幅の比が2：1以上の縦長の剥片で、両側縁がほぼ平行すると共に背面の稜もほぼ平行するものである。石刃状剥片は石刃に類似しているが、両側縁や稜があまり平行していない縦長の剥片である。この両者共に、一方向からの剥離面だけでなく、相対する方向や直交する方向からの剥離面を持つ事があるが、これは単設・両設・複設の打面の石核から剥出されるためである。また、石刃と石刃状剥片は主としてナイフ形石器等の主要石器の素材となる事から目的剥片と言える。

これに対して、ただ単に長幅比が2：1以上の縦長の剥片については縦長剥片とし、これ以上の不定形な剥片については剥片とする。この場合には、長幅比が1：2以上の横長の剥片についても含む事とする。それは縦長の剥片が主として石刃技法によって得られるのに対して、本遺跡での横長の剥片は瀬戸内技法的な工程はほとんど認められず、主に円盤状の石核への求心的な剥片剥離によって長幅比がほぼ等しいすずまりの剥片と共に剥出される事が多いだけで、横長の剥片を主体的に連続して剥出していく様な剥片剥離工程が認められないからである。

14. 敲石（第78図～第90図 531～562、写真図版25-2～27-1）

敲石は可能性が高いものを含めて38点出土している。その形状や敲打の痕跡の状態と残存位置により4種類に分類できる。ただし、一部に潰れ痕だけでなく擦痕や磨痕を持つものもある事から、台石や磨製等の機能と複合する資料も存在すると考えられる。また、破損している資料については、一部に分類が不可能なものも存在する。

第I類（第88図-552）

やや偏平な円礫の周縁部はほぼ全周囲に敲打痕が認められるもの。

第II類（第78図-531、第79図-532、第80図-534、第81図-536-537、第82図-539、第88図-553-554）

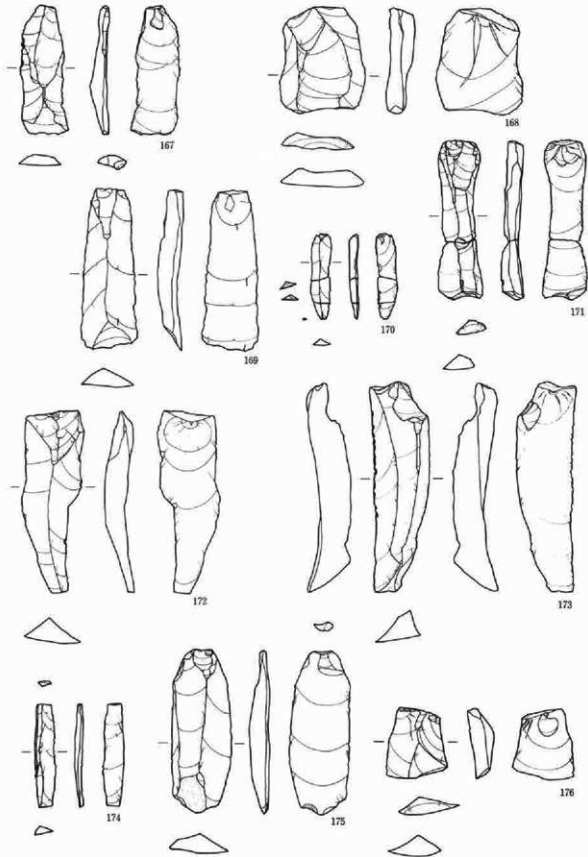
楕円礫、あるいは棒状の礫の両端部及び側縁部に敲打痕が認められるもの。539と553については、両端部や側縁部に磨痕が認められる事から、磨石との複合が考えられる。

第III類（第79図-533、第82図-538、第83図-541、第84図-542、第87図-550、第89図-556、第90図-562）

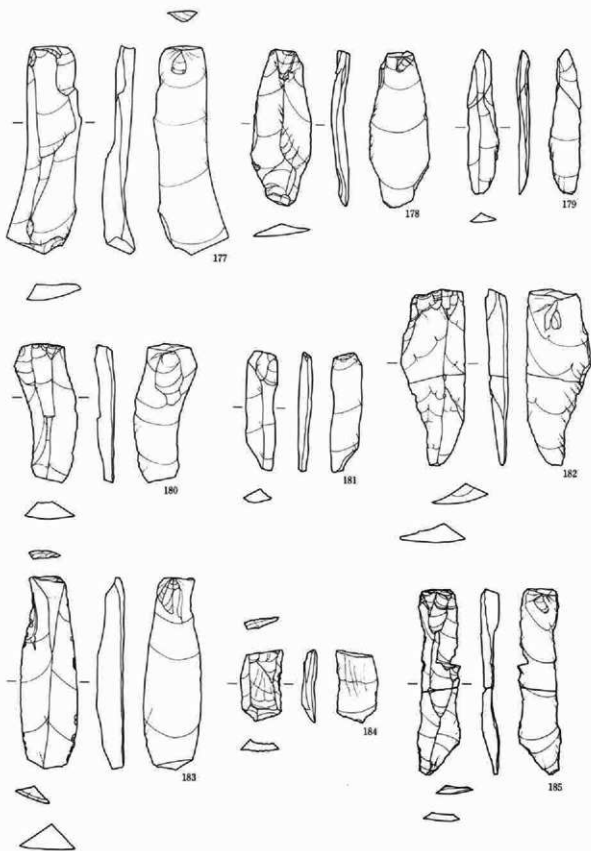
楕円礫や棒状の礫の両端部のみに敲打痕が認められるもの。562については、その大きさや偏平な事から台石にも利用されていたかも知れない。

第IV類（第80図-535、第84図-542-543、第85図-544-545、第86図-547、第88図-551、第89図-555・556・557・558）

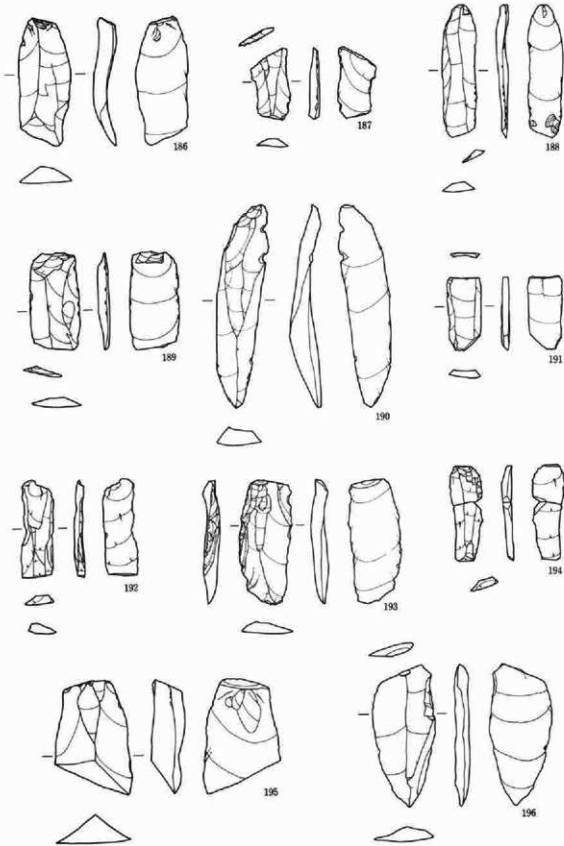
楕円礫や棒状の礫の一端部、あるいは側縁部のみに敲打痕が認められるもの。



第40図 石刃 (1)

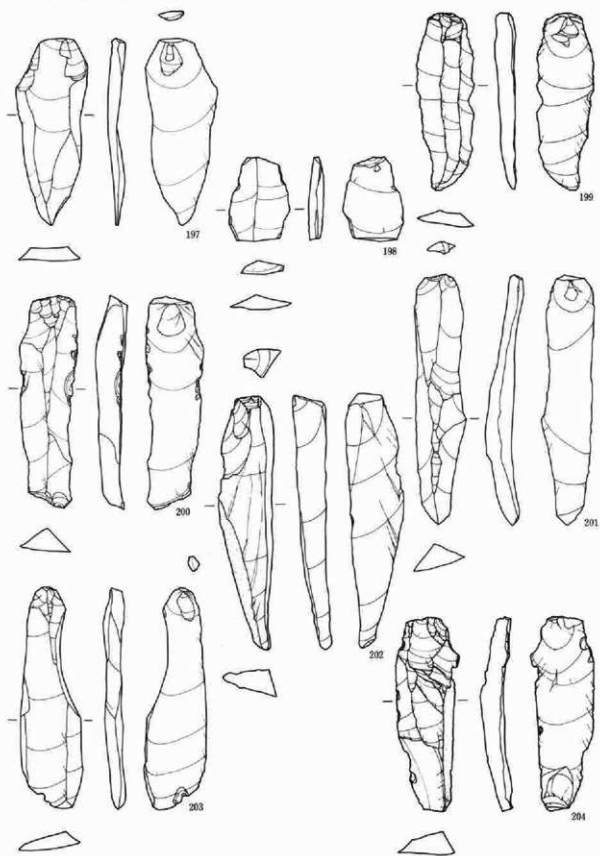


第41図 石刃 (2) 0 10cm

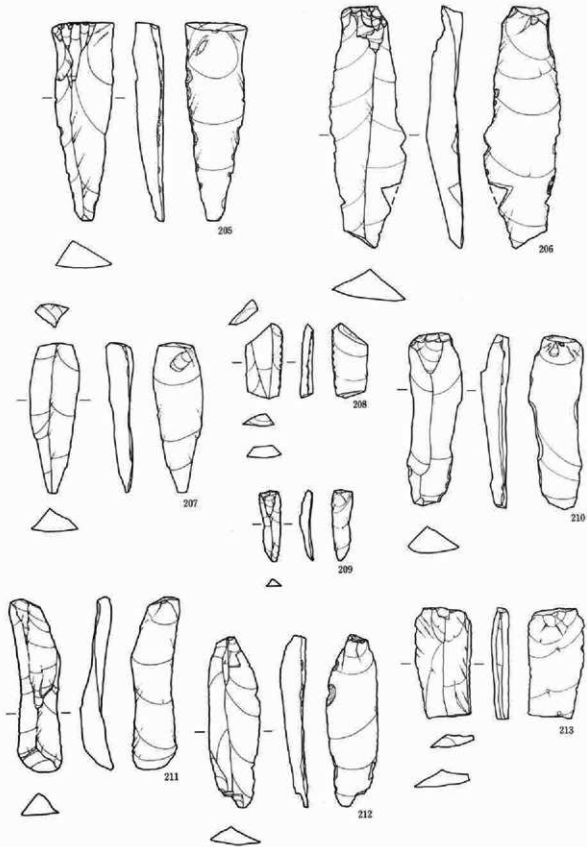


第42図 石刃 (3)

0 10cm

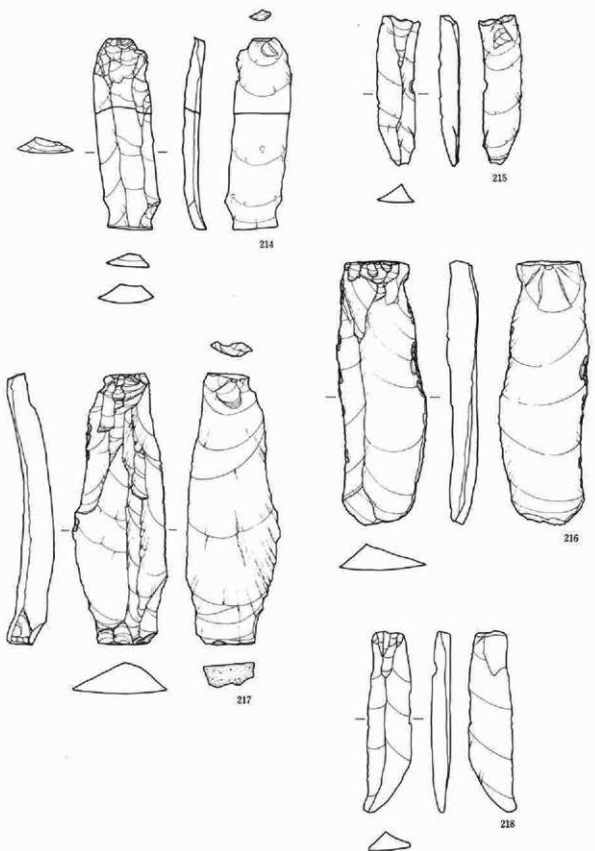


第43図 石刃 (4)



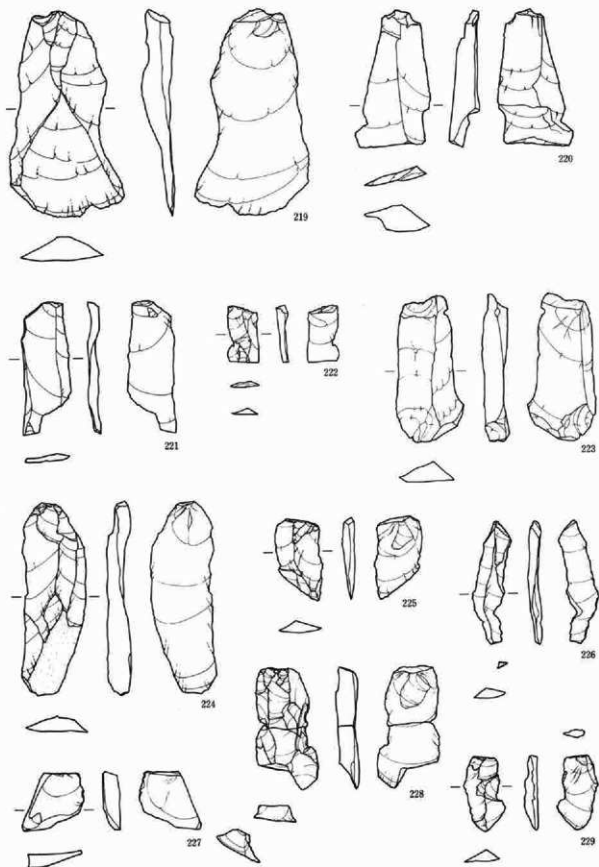
第44図 石刃 (5)

0 10cm



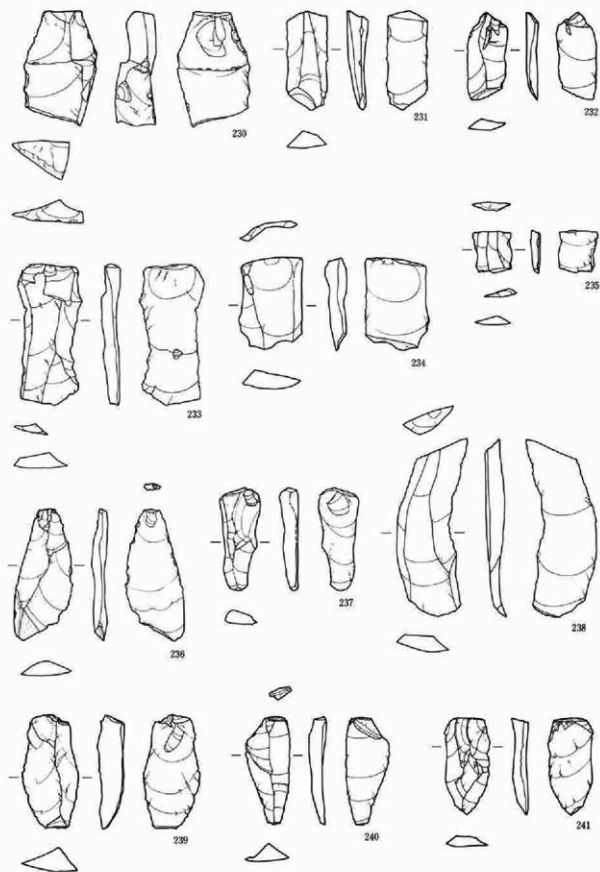
第45図 石刃 (6)

0 10cm



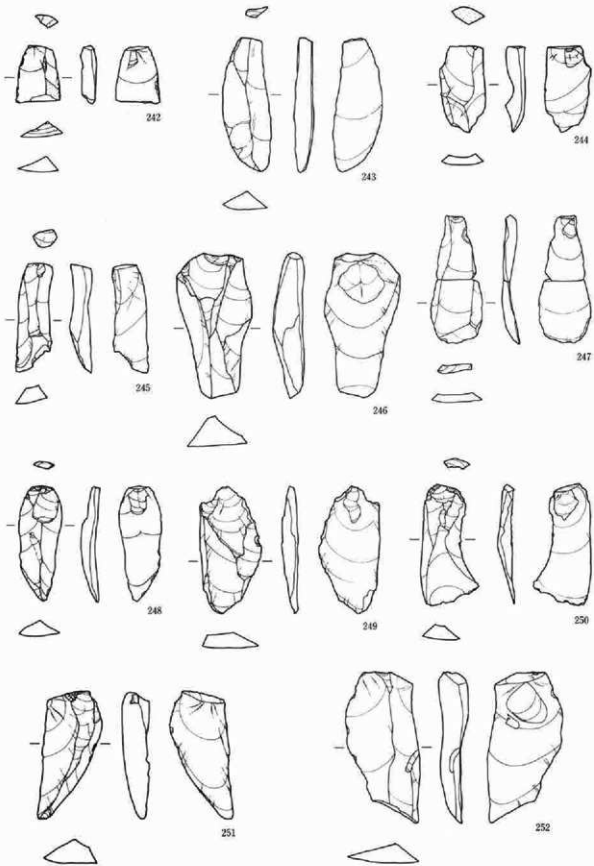
第46図 石刃状剥片(1)

0 10cm



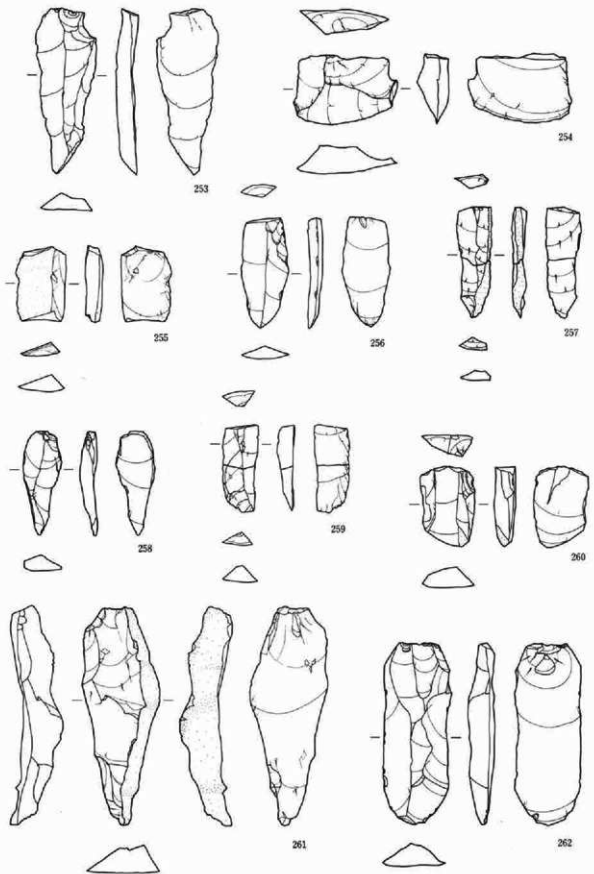
第47図 石刀状刺片(2)

0 10cm



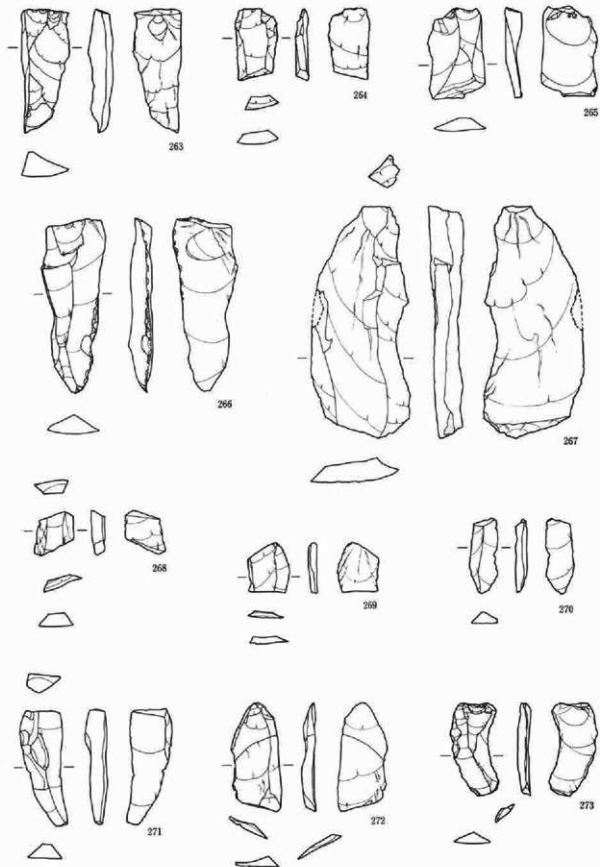
第48図 石刃状剥片(3)

0 10cm



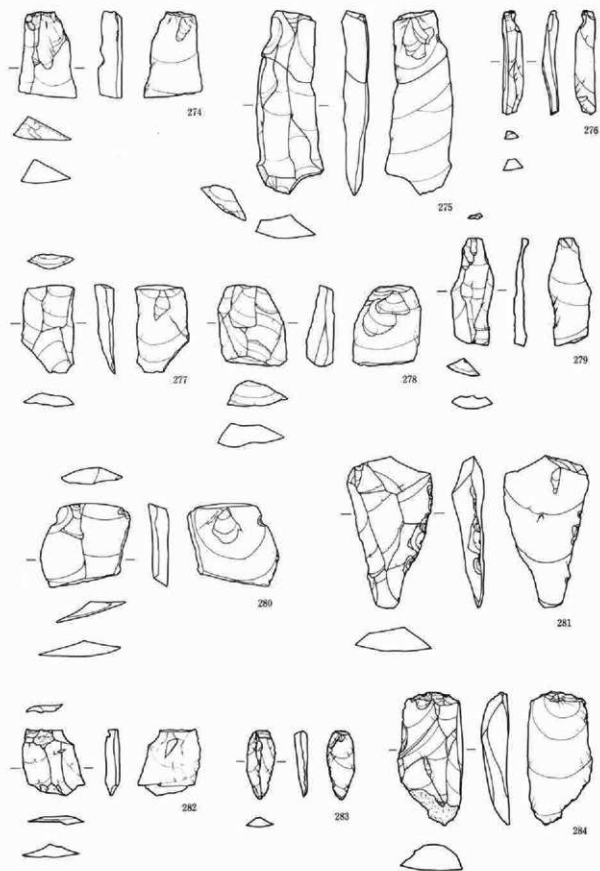
第49図 石刃状剥片(4)

0 10cm

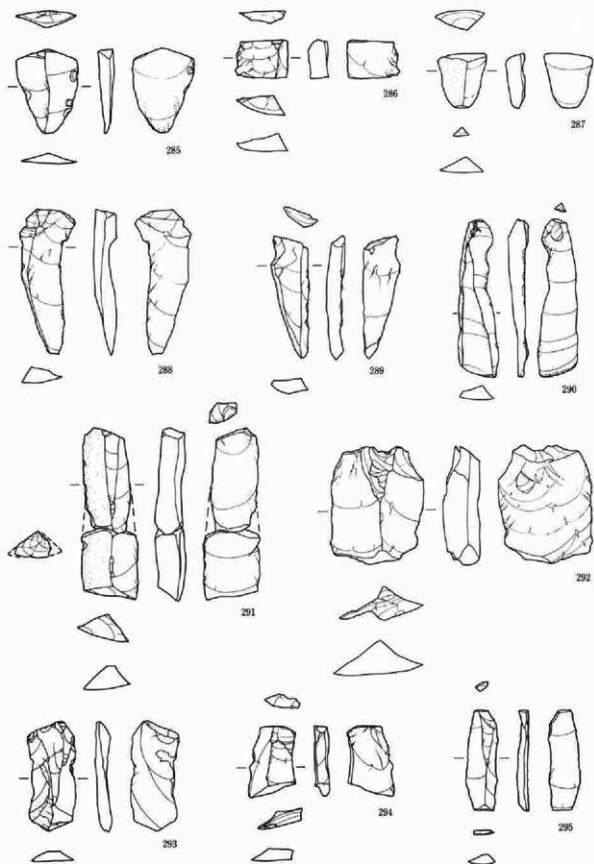


第50図 石刃状切片(5)

0 10cm

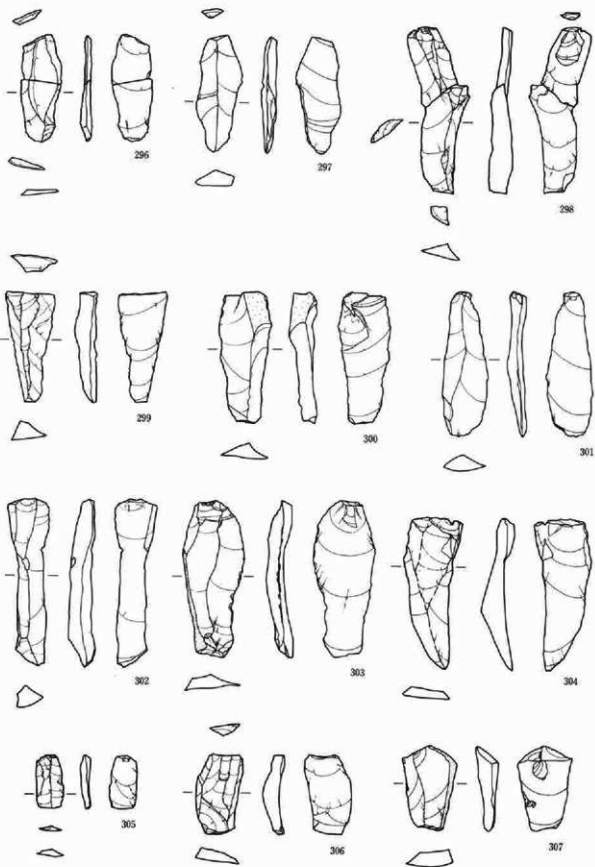


第51図 石刀状剥片(6)



第52図 石刃状刺片(7)

0 10cm



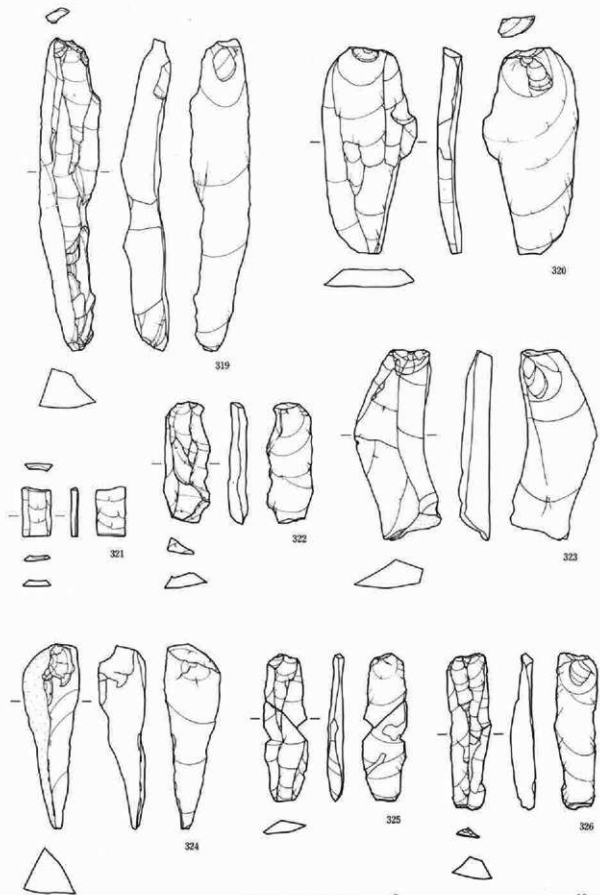
第53図 石刃状剥片(8)

0 10cm



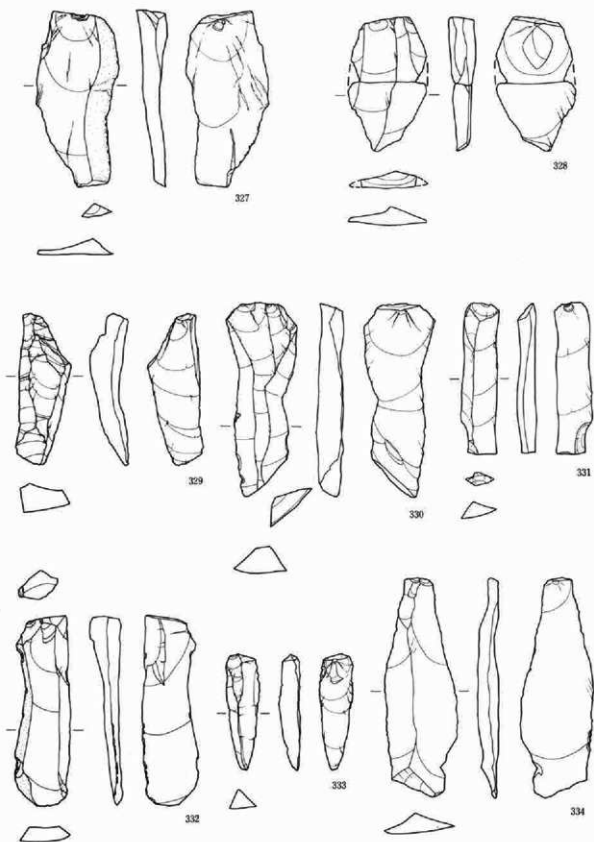
第54図 石刃状剥片(9)

0 10cm



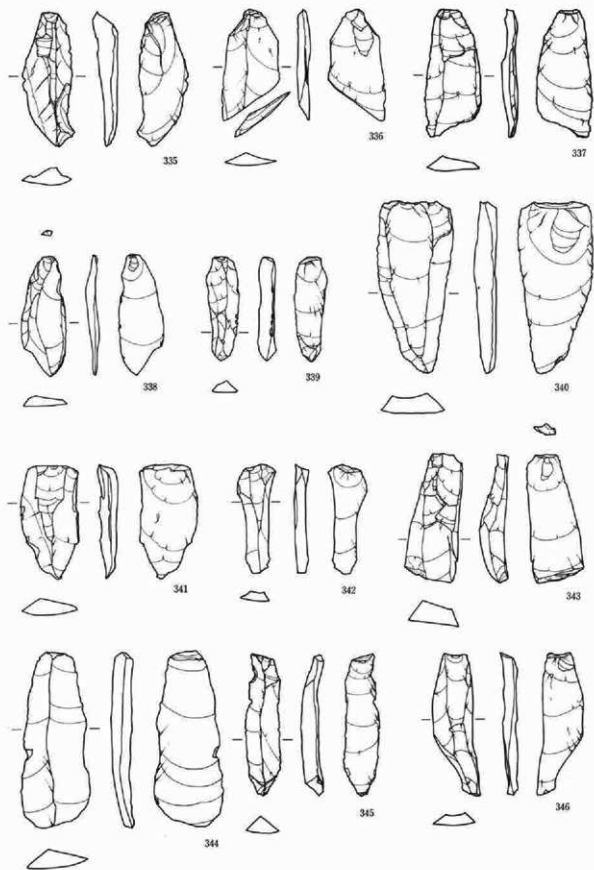
第55図 石刀状制片00

0 10cm



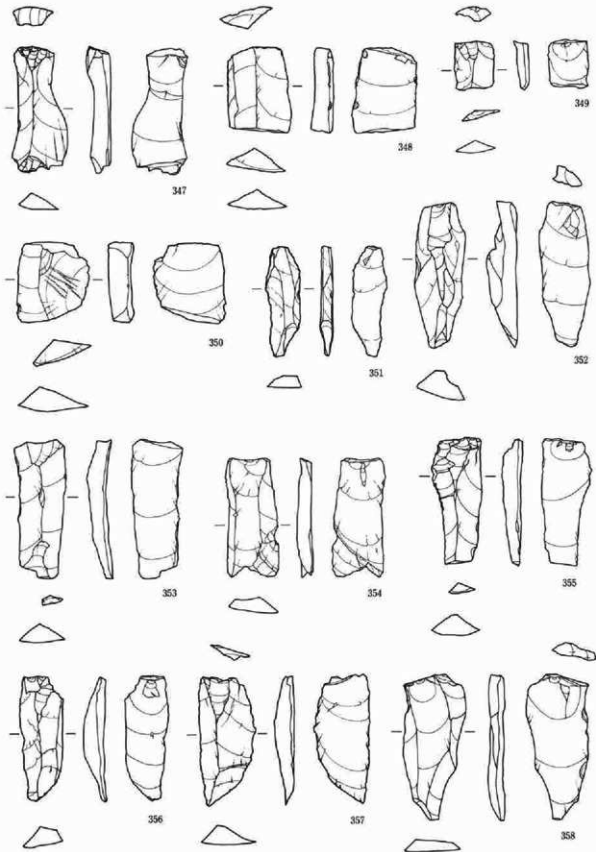
第56図 石刃状刺片10

0 10cm



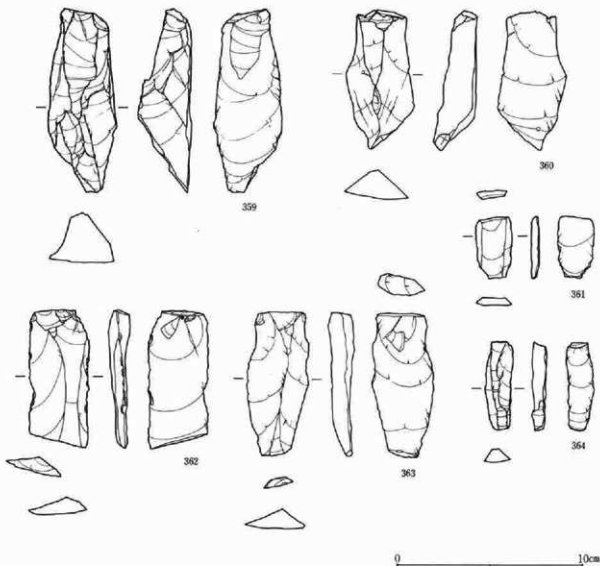
第57図 石刃状剥片②

0 10cm



第58図 石刀状切片03

0 10cm



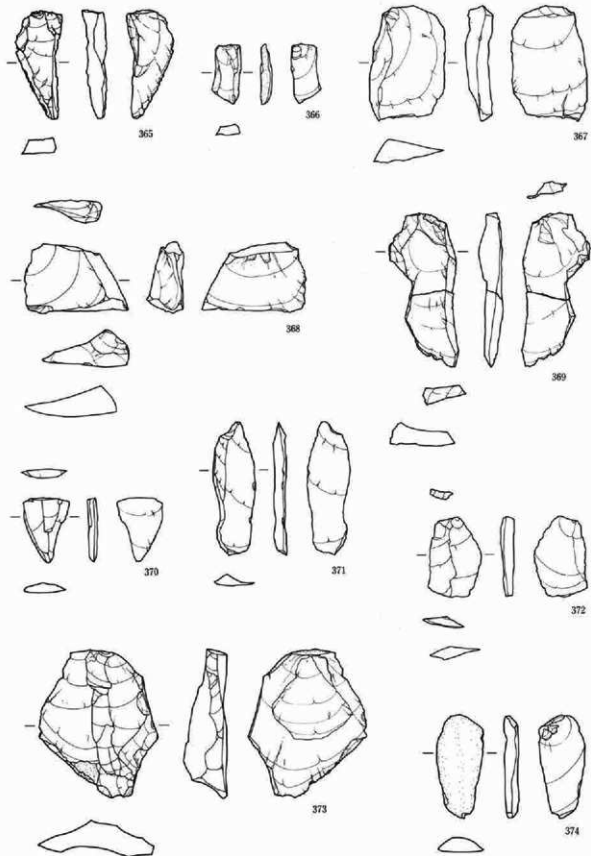
第59図 石刀状銅片04

15. 磨石 (第88図-553、第93図-571、写真図版27-2)

やや問題があるものの、2点出土している。553については敲石の第II類でも触れたが、四角形に近い偏平な礫の周縁部及び一つの面に磨痕とみられる痕跡をいくつも持っている事から、むしろ磨石と考えるのが妥当であろう。石材は不明で、表面がやや風化している。571については風化が激しく、ただの礫の可能性も存在する。

16. 台石 (第90図-563、第91図-565・566、第92図-567、写真図版27-2)

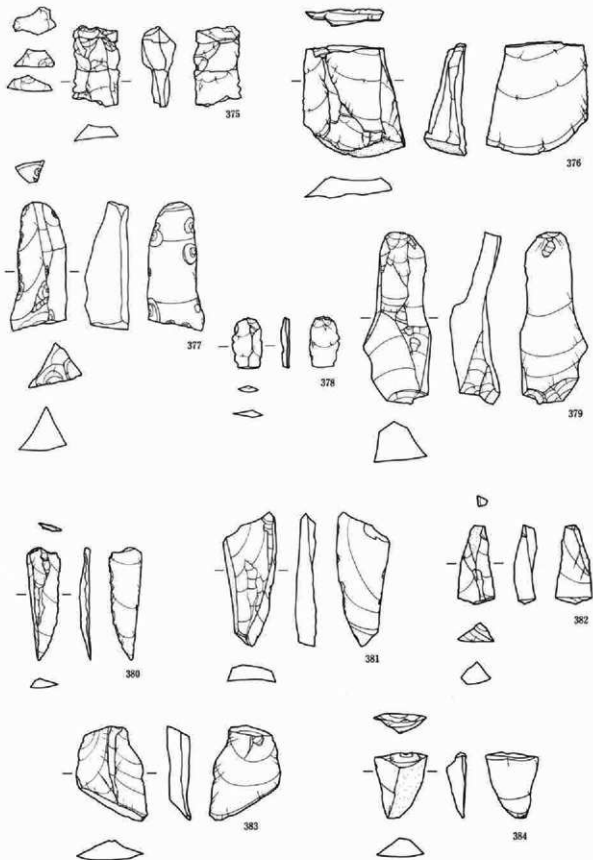
台石と考えられるものは5点出土しているが、563の様に敲石と同様の敲打痕を持つ資料も存在する。また、火を受けたのか砕けてしまったものもある。



第60図 縦長利片(1)

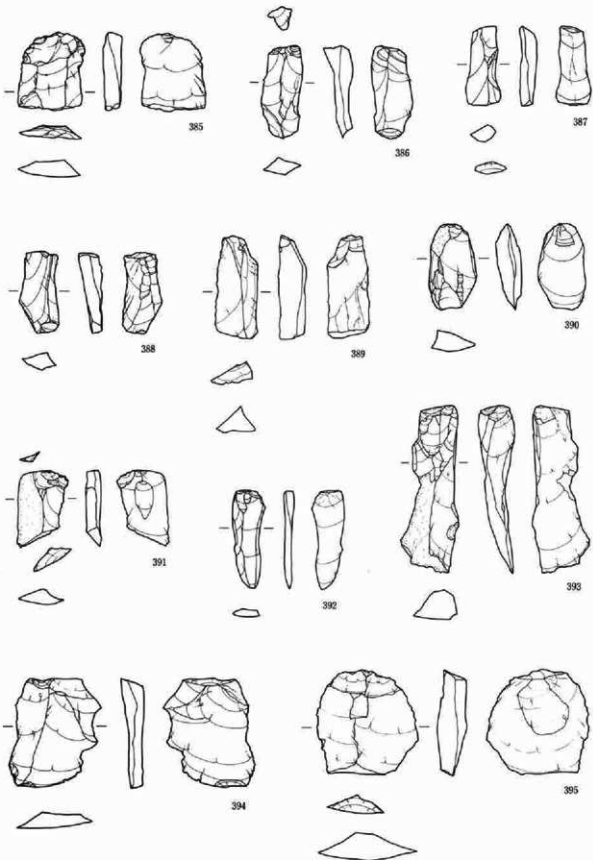
0 10cm

第3章 検出された遺物



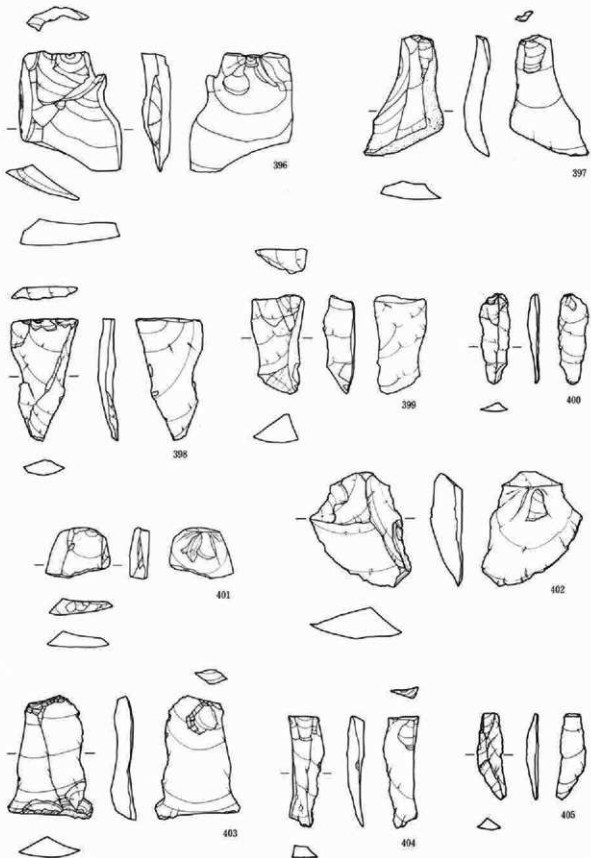
第61図 縦長刺片(2)

0 10cm



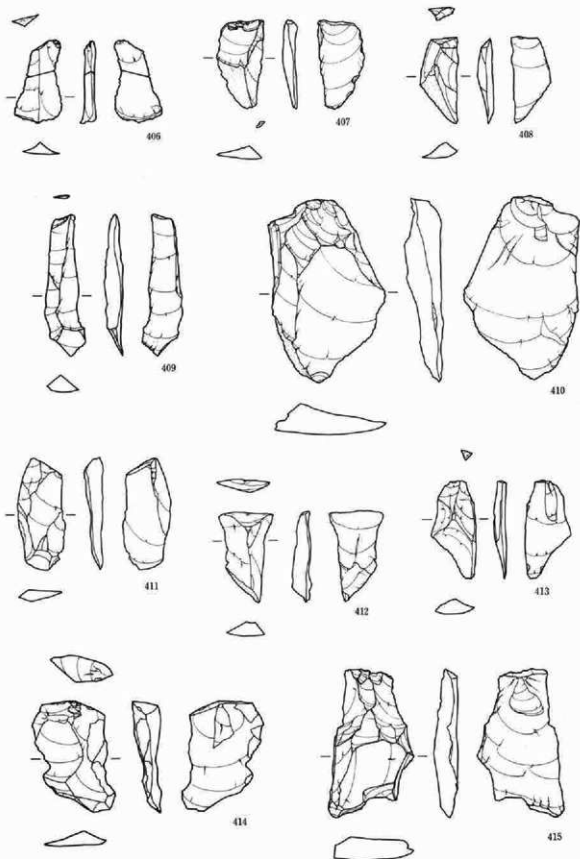
第62図 縦長削片(3)

0 10cm



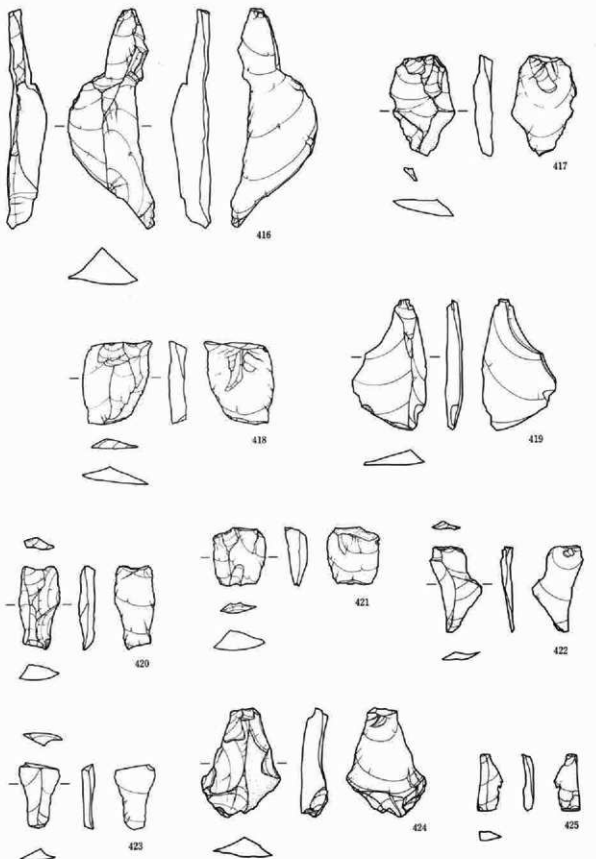
第63図 縦長剥片(4)

0 10cm



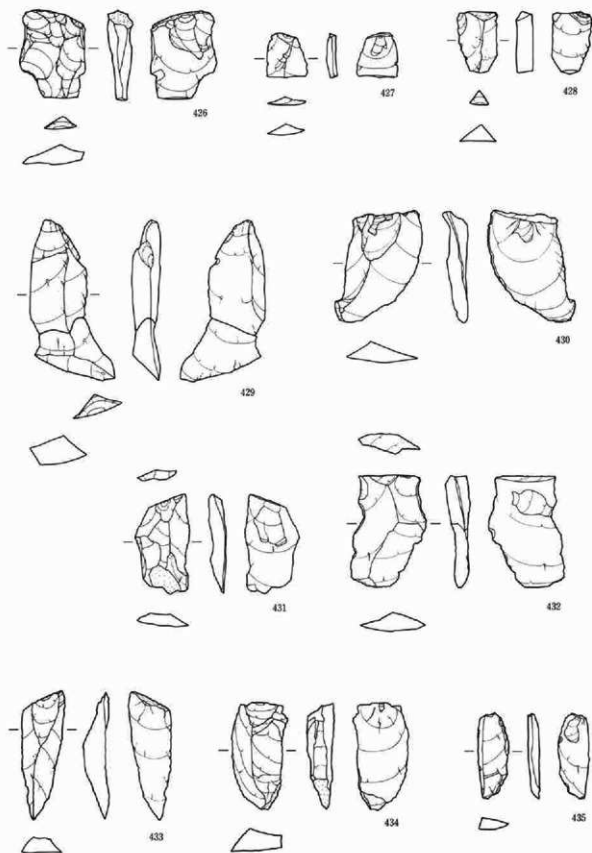
第64図 縦長剥片(5)

0 10cm



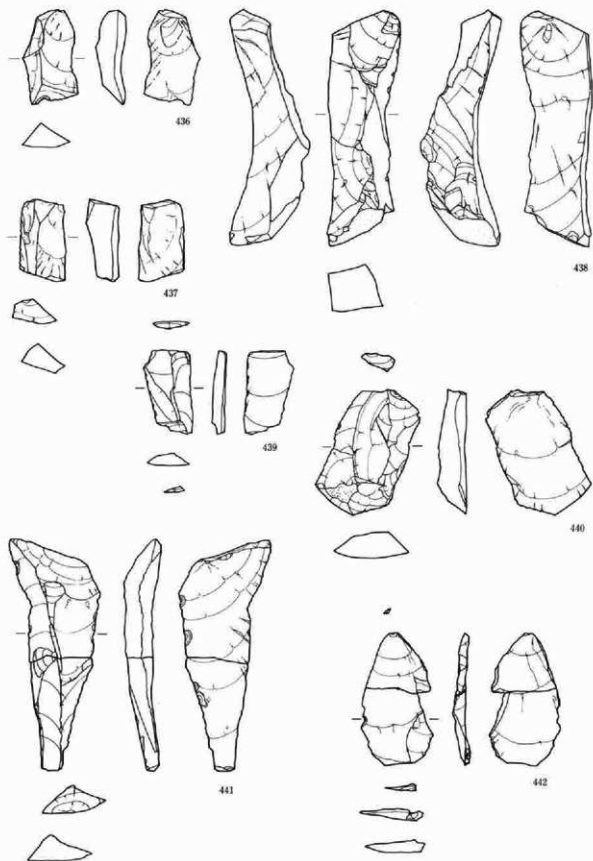
第65図 縦長剥片(6)

0 10cm



第66図 縦長利片(7)

0 10cm



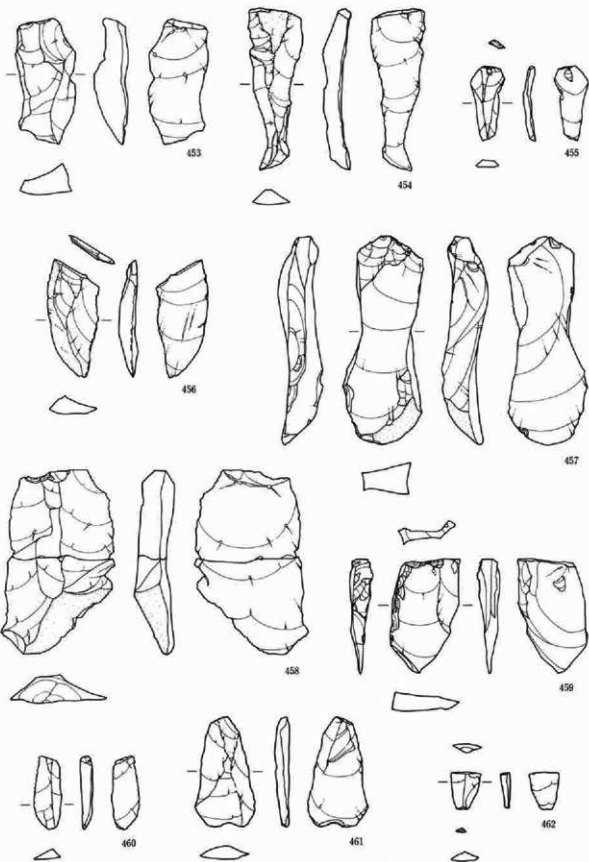
第67図 縦長剥片(8)

0 10cm



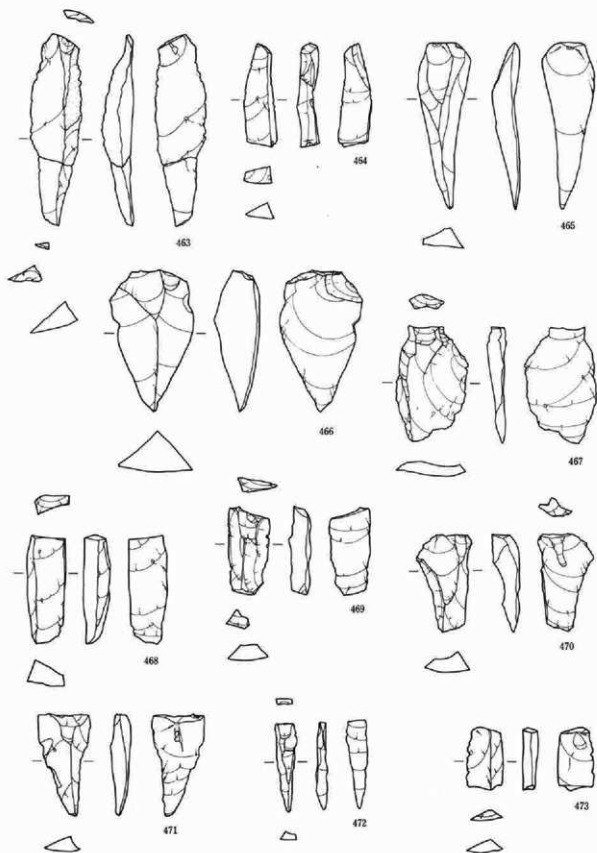
第68図 縦長刺片(9)

0 10cm



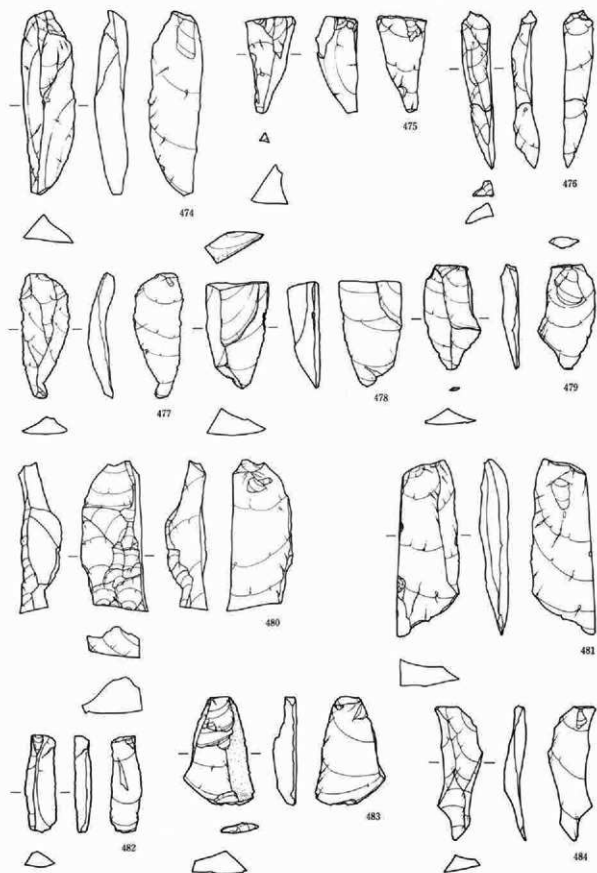
第69区 縦長剥片群

0 10cm



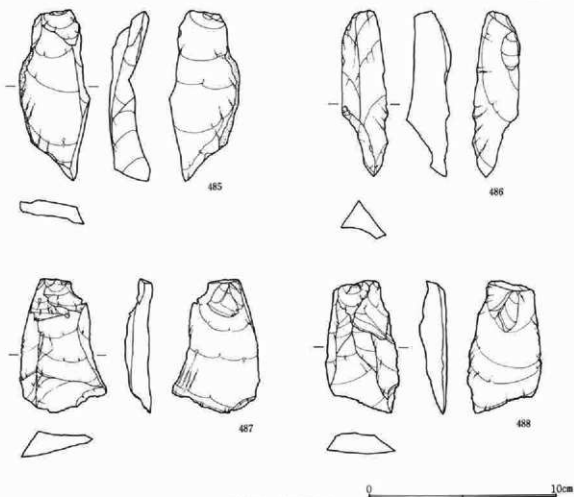
第70図 縦長剥片10

0 10cm



第71図 縦長切片02

0 10cm



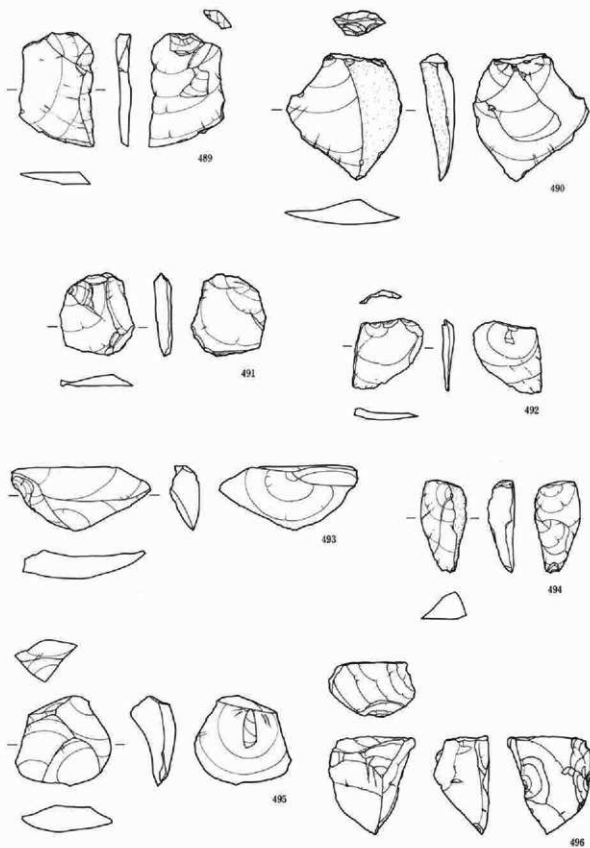
第72図 縦長剥片03

17. 礫器（第94図-572-575、接合資料55-1、接合資料63-5）

礫、あるいは分割礫の周縁から加撃されて、刃部が作り出されたものを礫器としたが、一部には多少の打ち欠きがあるだけの資料も含める。

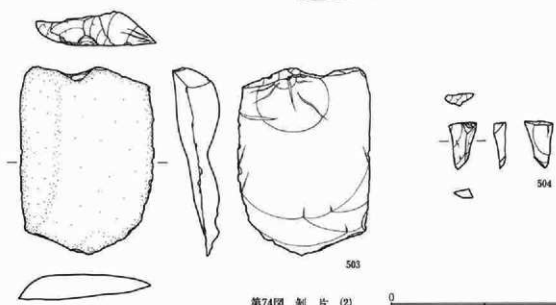
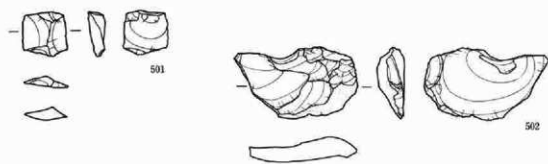
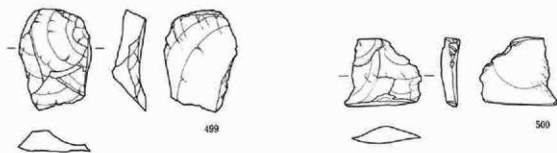
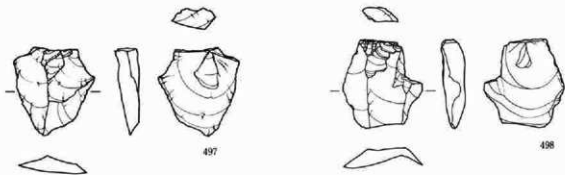
18. 礫・原石

本遺跡からは380点もの礫が出土しているが、その大部分は長径5cm以下の小礫である。だが、一部には大形の礫も存在しており、石器の原材として遺跡内に運び込まれたと考えられる資料（第92図-579）等もある。



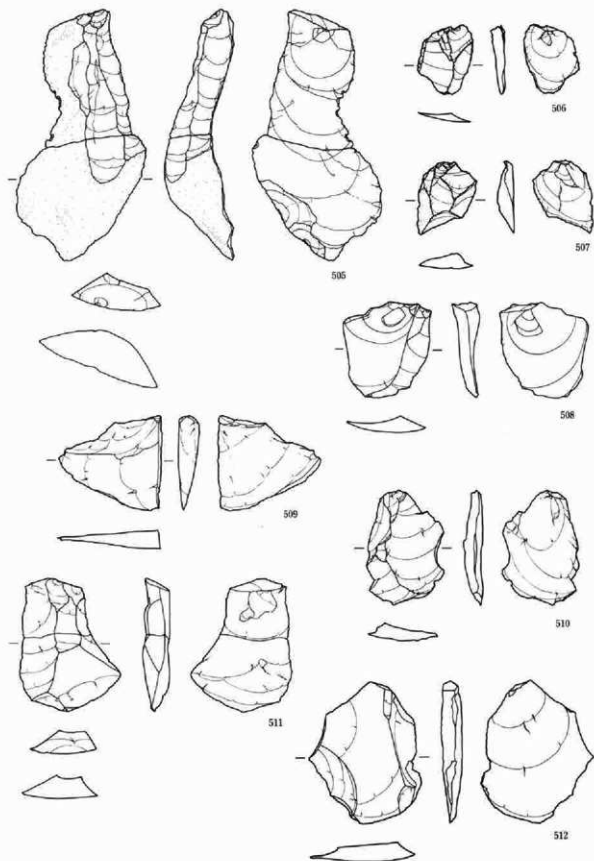
第73図 剥片 (1)

0 10cm

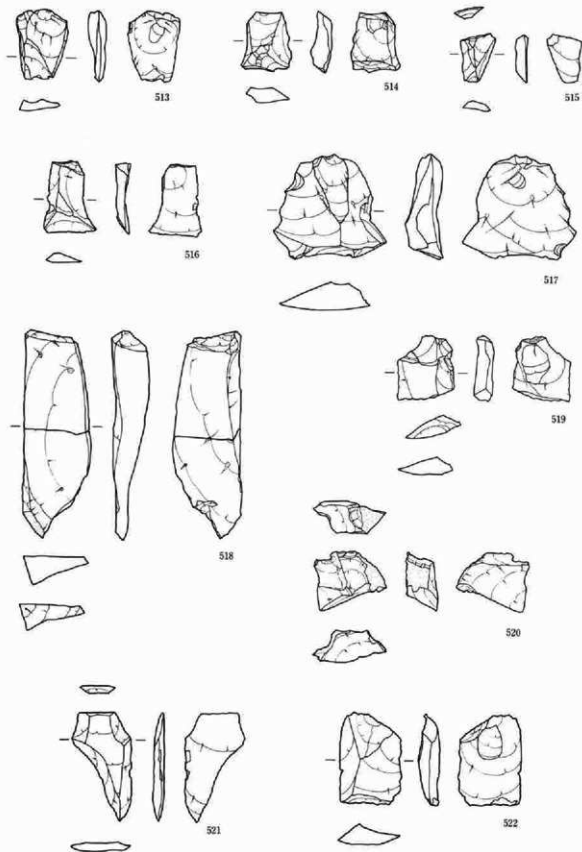


第74図 剥片(2)

0 10cm

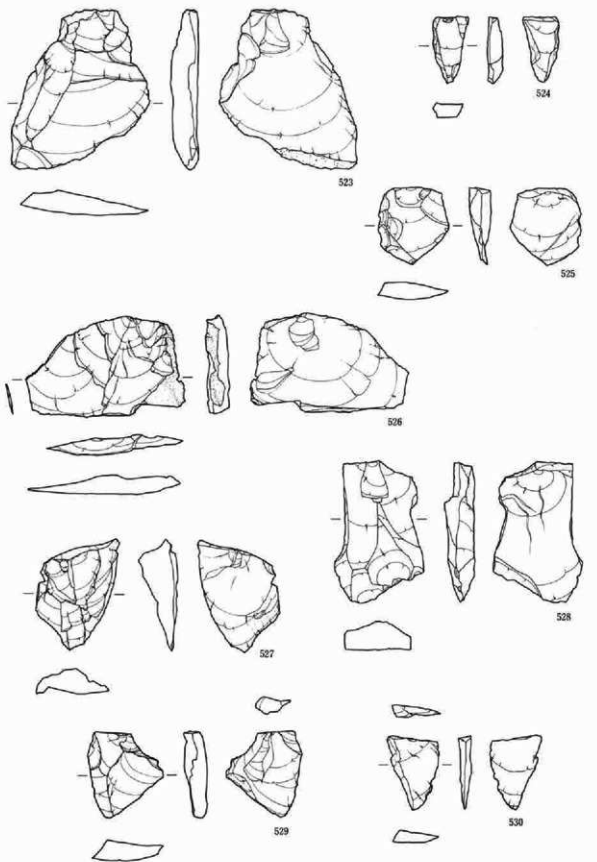


第75図 剥片 (3)



第76図 剥片 (4)

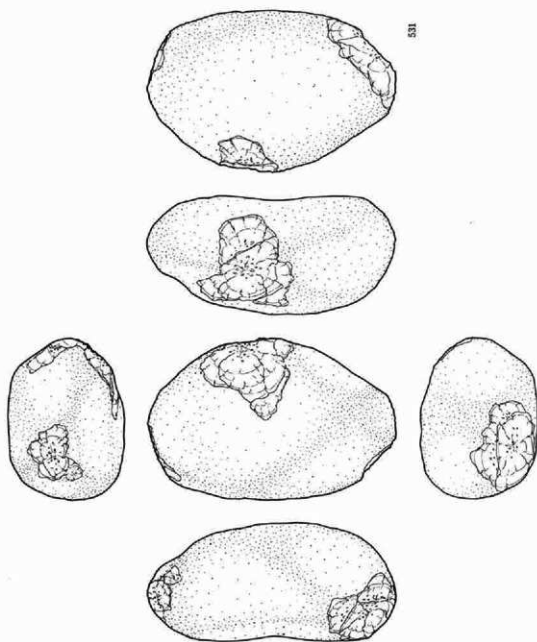
0 10cm



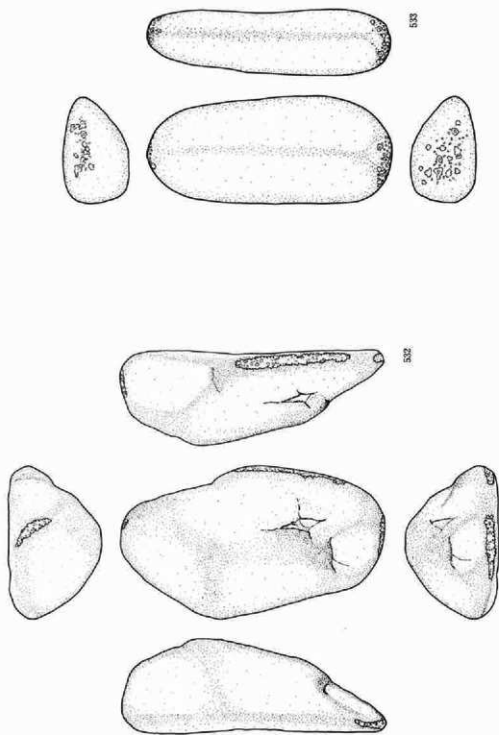
第77図 剥片 (5)



531



第78図 礫石 (1)

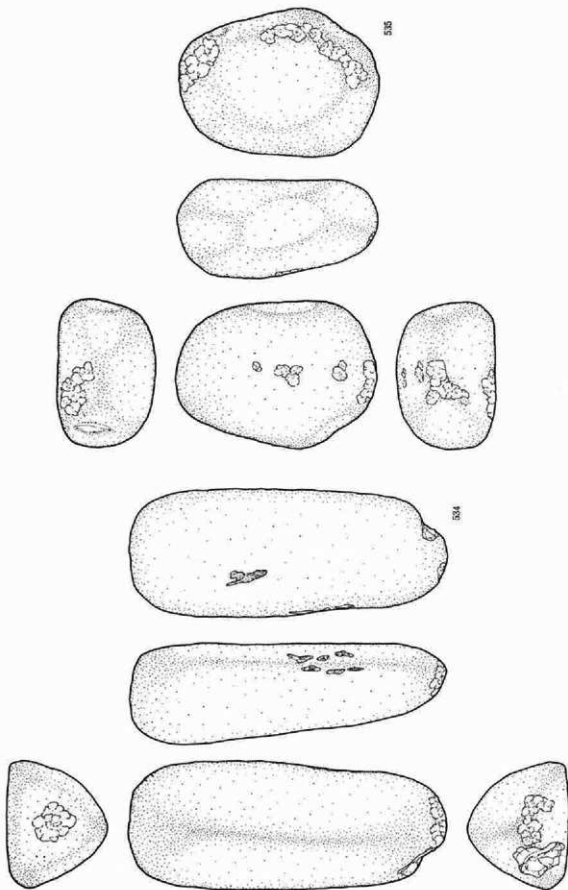


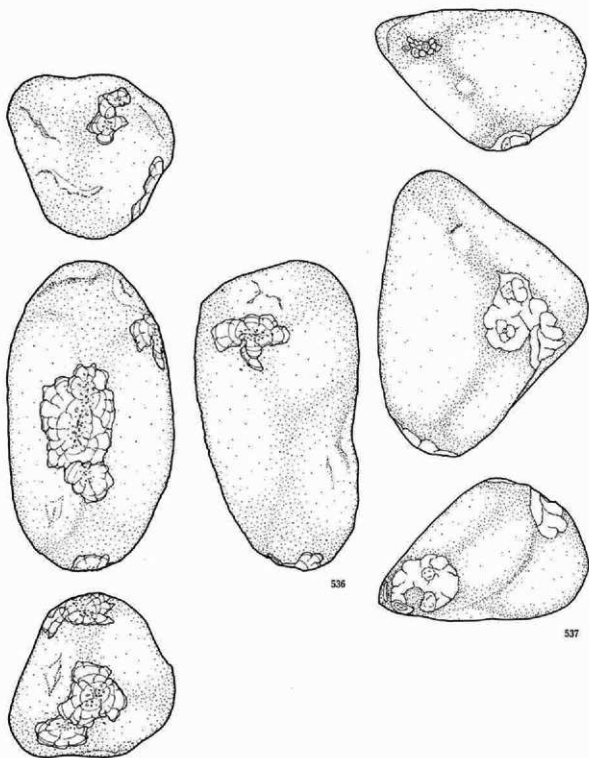
0 10cm

第79図 巖石(2)



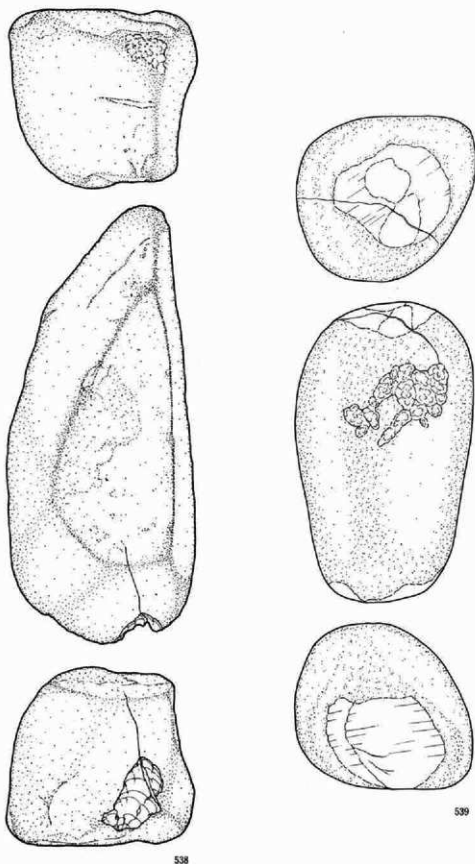
第80回 雑石 (3)



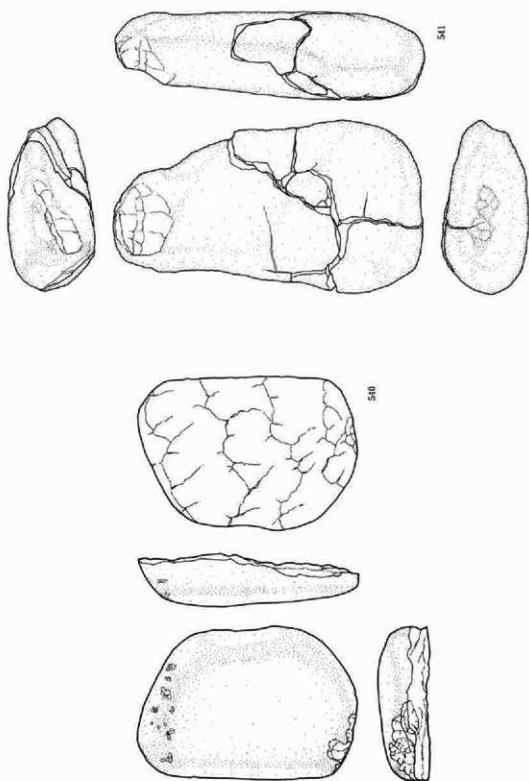


第81図 敲石 (4)

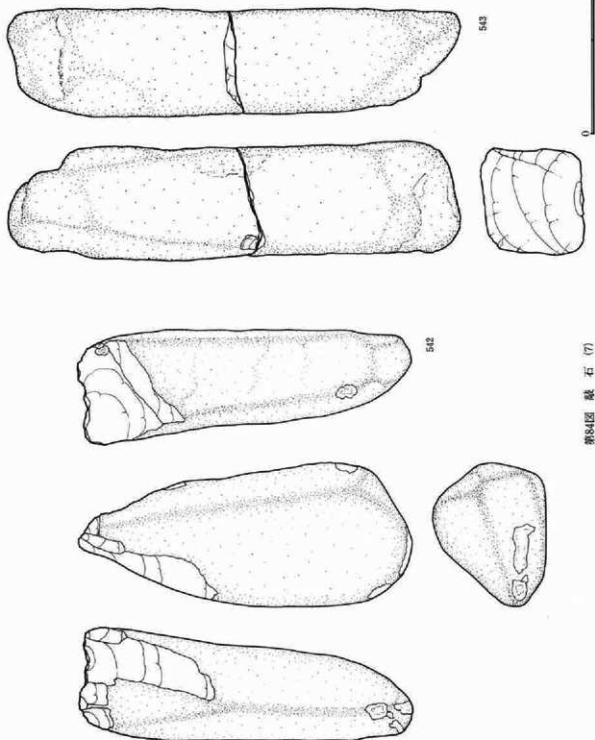
0 10cm



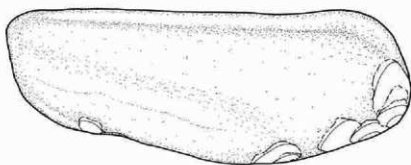
第82図 敲石 (5) 0 10cm



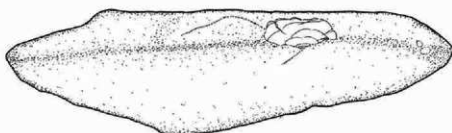
第33図 礫石 (6)



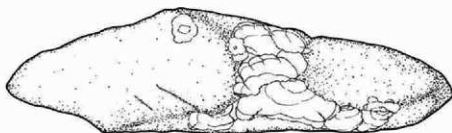
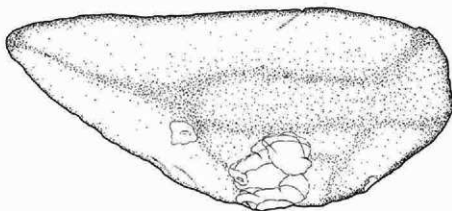
第84図 緑石 (7)



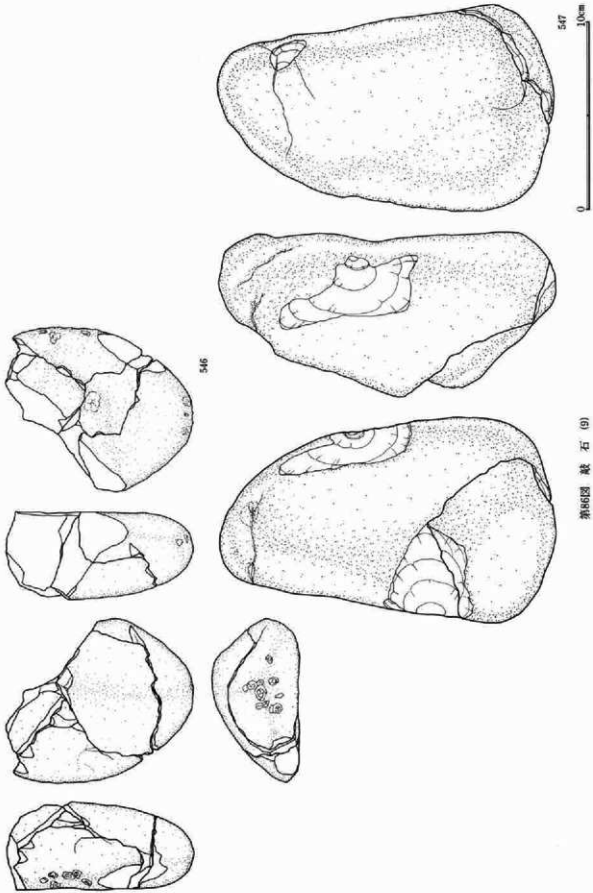
545



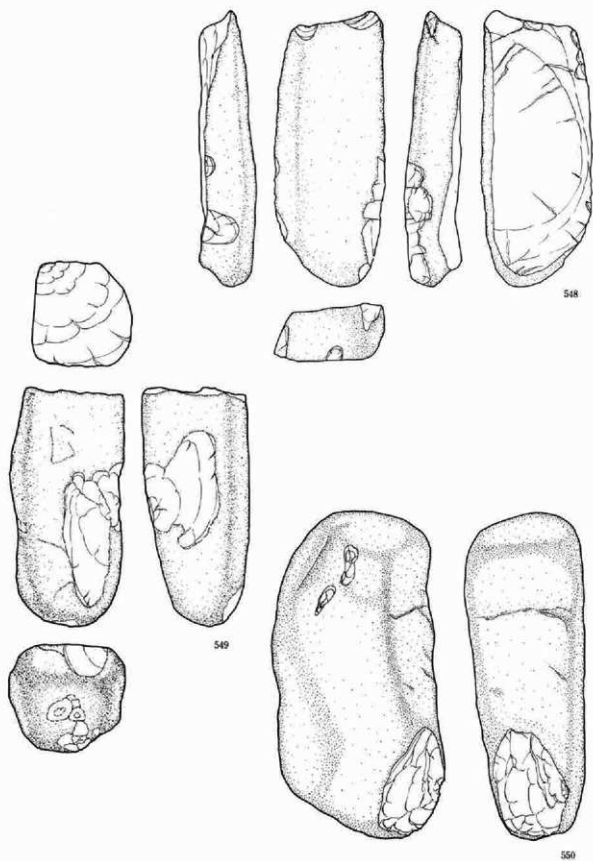
544



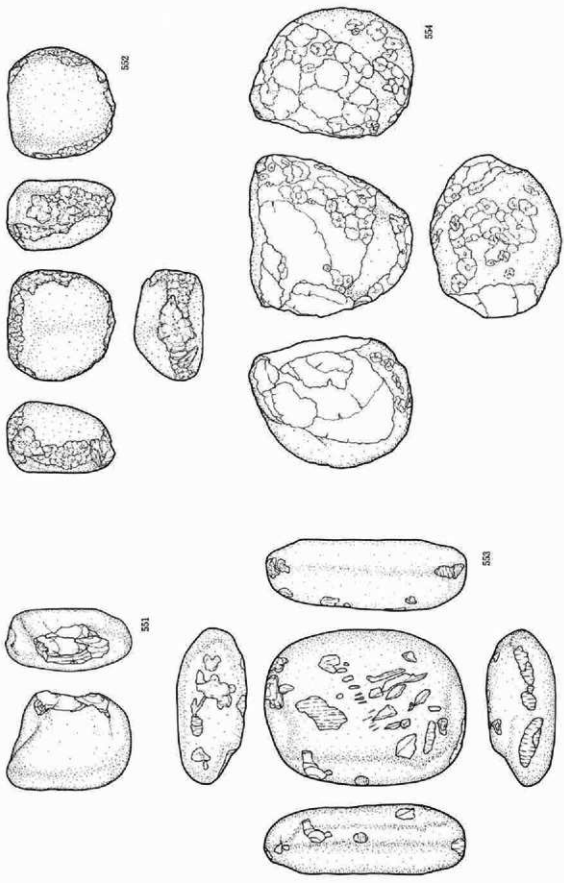
第55図 巖石 (8)



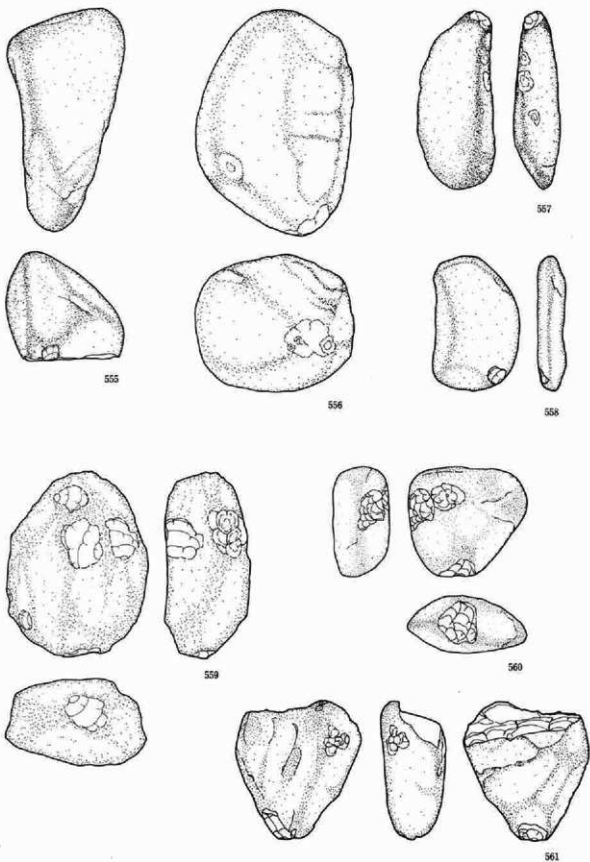
第166図 敲石 (9)



第87図 葎石 00 0 10cm

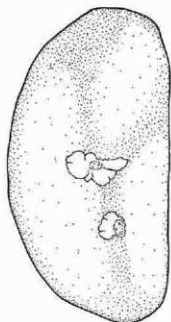
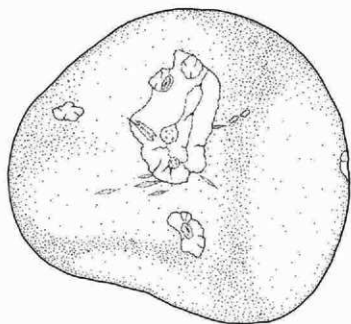


第38図 絞石 01

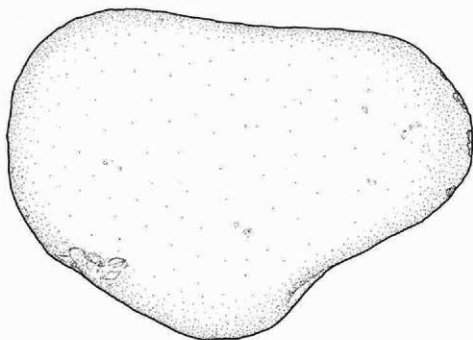


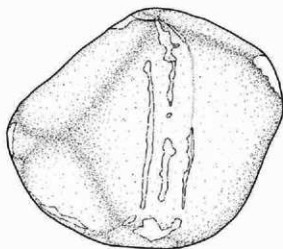
第89図 敲石 02

0 10cm

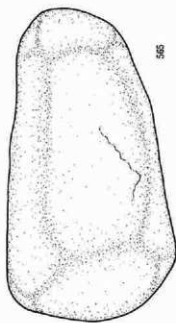
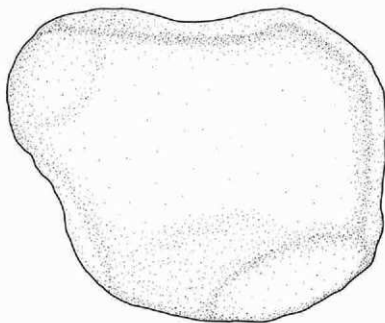


第900図 巖石 019

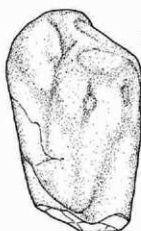
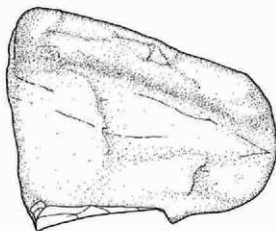




506



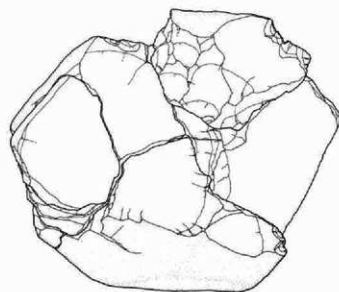
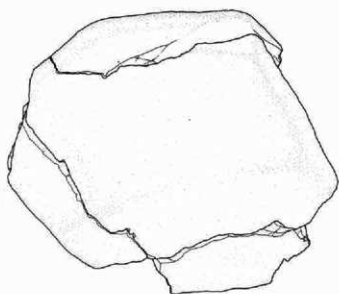
505



504



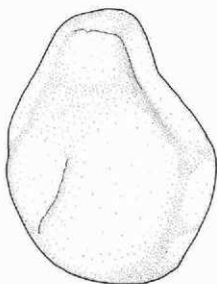
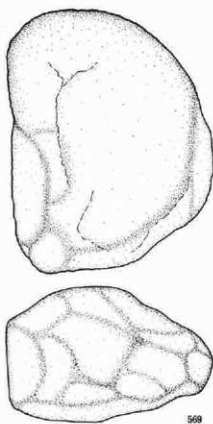
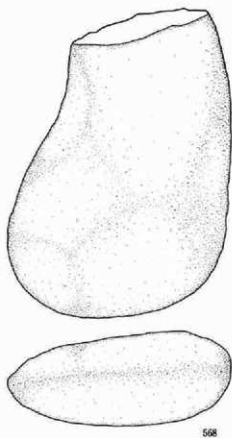
第91図 台石・磨石



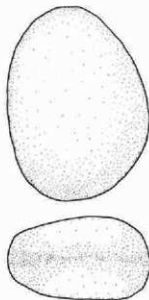
567

第92図 台石

0 10cm



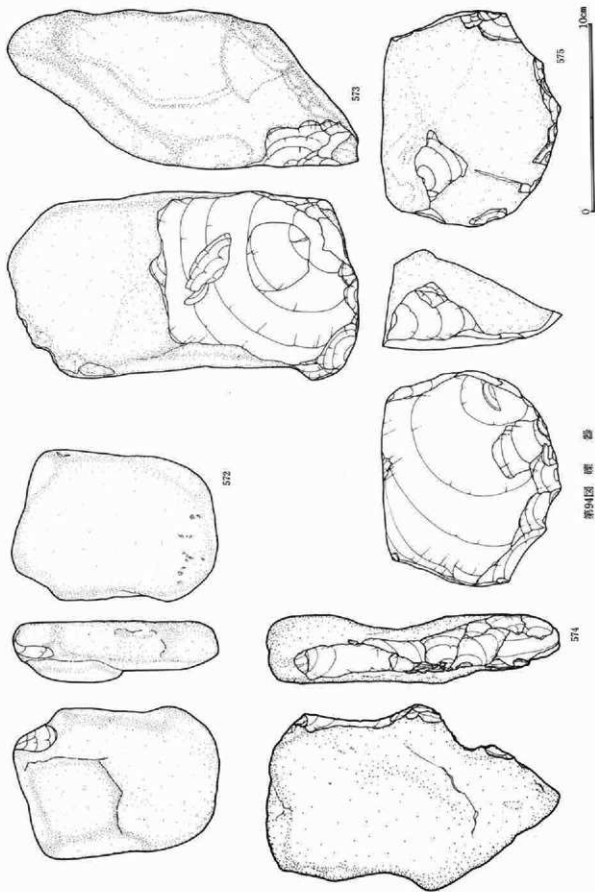
570

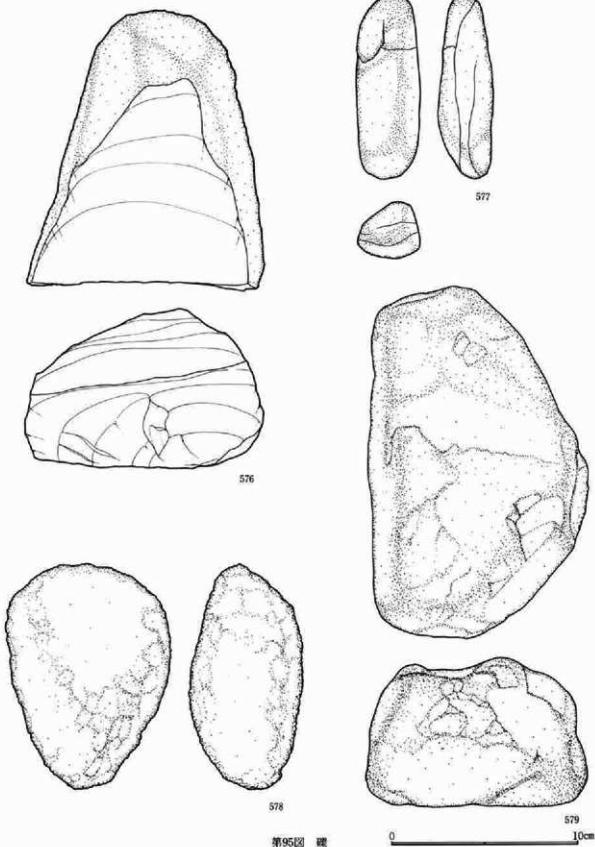


571

第93図 原石・磨石

0 10cm





第95図 礎

第3節 表採資料の説明（第96～98図、写真図版28-2、29-1）

一括資料は、縄文時代以後の遺構覆土中から出土した資料や調査区域内とその周辺から表採された資料の内で、明らかに旧石器時代の石器と考えられるとして抽出したものである。また、調査中の1982(昭和57)年8月1日から2日にかけて群馬県を襲った大型の台風10号に伴う雷雨によって、水平分布図に記録されながら原位置を失った数十点もの遺物も含まれる。

遺物は大きく分けて二つに分けられる。一方が本来は本遺跡の石器群と同一時期に属していたと考えられる資料で石刃を主体としている。もう一方は打製石斧や有舌尖頭器等の旧石器時代終末期から縄文時代早期にかけてと考えられる石器である。

1. 片刃打製石斧（第96図-580、写真図版29-1）

長さ16.2cm、幅5.6cm、厚さ3.7cmのやや短冊形で、横断面が三角形を呈する片刃打製石斧である。両側縁は、頭部部分がやや一側縁側に尖り、中央部は両側縁共にやや内湾している。

県内での片刃打製石斧の資料としては、後田遺跡の所在する利根郡月夜野町の大字月夜野字下石倉高萩出土とされる資料があり、既に岡本東三氏(岡本 1970)、中東耕志氏(中東 1980)によって紹介されている。形態は本遺跡と同様に、II b類と分類されている。他に同様の資料は認められず、月夜野町内だけで出土している点は興味深い。

2. 大形木葉形尖頭器（第96図-581、写真図版29-1）

長さ9.2cm、幅5.1cm、厚さ1.5cm、重さ53.4gの黒色頁岩製の半両面尖頭器である。形状は洋梨形を呈し、素材は横長の剥片である。裏面には一側縁のみに調整が施されているが、打瘤の除去をも兼ねている様である。

3. 加工痕ある剥片（第96図-582）

石材は白色の珪質頁岩である。寸詰まりの剥片を素材として、その先端部に調整加工を施すと共に、剥離面頭部調整が表面に、表面の打点部にも打瘤を除去するために調整が加えられている。いわゆる「立野ヶ原型ナイフ形石器」と言える様な資料であるものの、表採のために年代的な事はまったく不明である。

4. 有舌尖頭器（第96図-583・584、写真図版29-1）

有舌尖頭器は2点出土している。583は珪質頁岩製で、いわゆる「小瀬ヶ沢型」であり、先端部及び基部を欠損している。584は縦長の剥片を素材としており、返しがやや浅い。石材はチャートである。

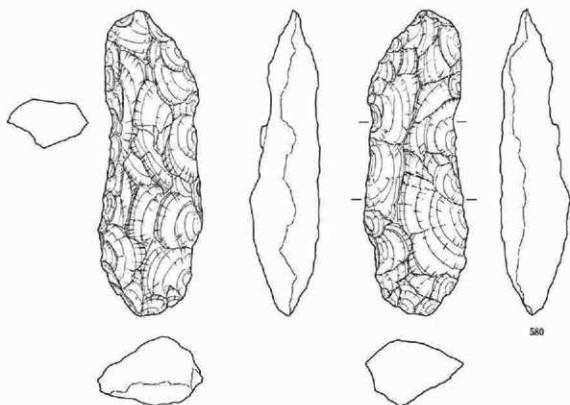
県内での有舌尖頭器の出土遺跡は、特に赤城山南麓から西麓、さらには利根川上流域にかけての台地や河岸段丘上に集中しており、月夜野町でも本遺跡を含めて4遺跡が知られているが、すべて単独出土であり、共伴遺物も不明である。

5. 小形木葉形尖頭器（第97図-585～587、写真図版29-1）

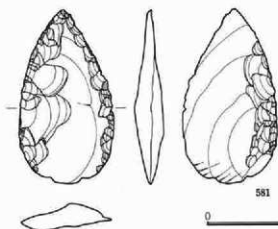
3点検出されており、585は縦長剥片を素材とし、石材は珪質頁岩である。586は先端部をやや欠いており、石材は石英である。587は両端を折断されているが、あるいは細身の「本ノ木型」なのかも知れない。

6. 石刃（第97図-588～591、第98図-592～597、写真図版28-2）

石刃類は多数出土しているが、代表的なものをここにあげた。やはり黒色頁岩や珪質頁岩を主体としており、打面には調整が認められない。また、折断も多く見られる。

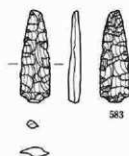


580

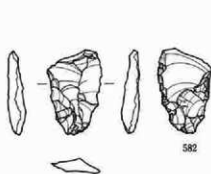


581

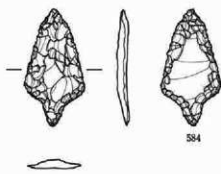
0 10cm



583



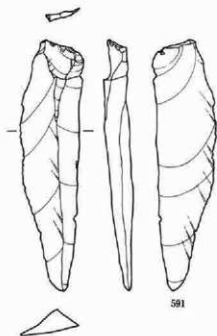
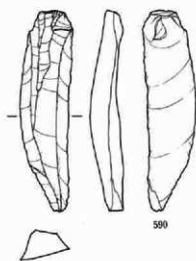
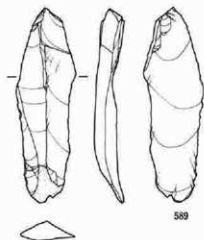
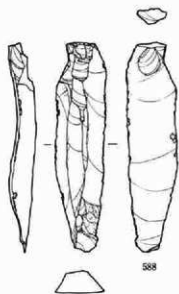
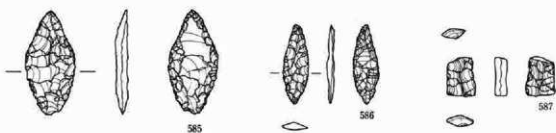
582



584

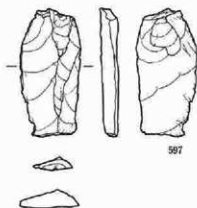
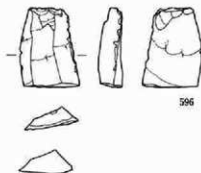
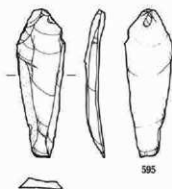
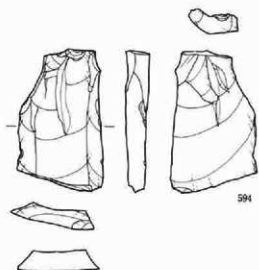
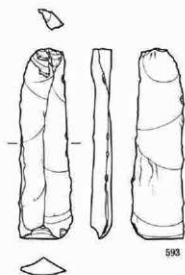
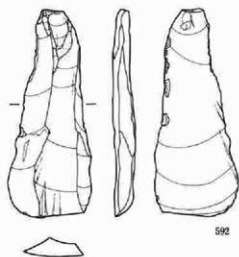
第96図 表採資料(1)

0 5cm



第97図 表採資料(2)





第98図 表採資料(3)

0 10cm

第4章 検出された遺構

第1節 出土状況の概要とブロックの設定

後田遺跡からは総数4,119点の石器と総数380点の礎が出土した。他に多数の石器が表採あるいは一括の形で採集されている。それらの大部分は南に延びる舌状台地の稜線付近を中心として分布しており、地形図(付図28)と分布図(付図27)を併せて見るとその状況が理解できよう。

だが、焼土塊や炭火物の集中部、あるいは炉跡等の様な明確な形での遺構は検出されず、また、木や骨・角等の素材とする道具、あるいは動物・植物遺体等も出土しなかった。ただ、焼成を受けた様な痕跡を持つ礎が存在する事から、その出土地点の周辺に炉跡が存在していたかも知れない。

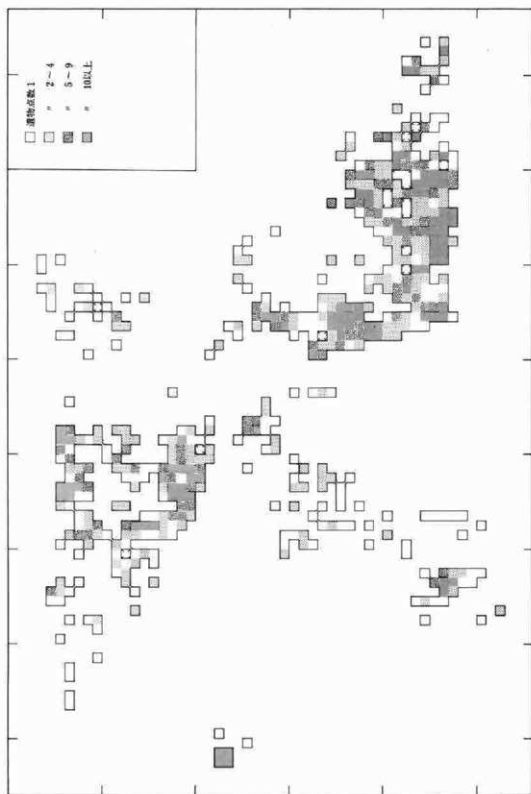
石器の出土状態については、比較的密に集中する部分と散漫な部分との2つに把握できるが、隣接した部分では連続的に分布しているために分離される事が難しい。特に、台地の稜線を中心に両側の緩やかな斜面上の約13,000㎡もの広さの範囲に分布する約4,500点の石器は、他の集中よりかなり距離を置いて出土しているものを除けば、大きくは北西部分と南東部分の2つにまとめる事が可能で、前者は直径約40m、後者は直径約60mのほぼ円形に近い分布形態を示しており、周縁部の集中が密なのに対して中心部の分布が薄い、いわば環状を成しているといえるが、それらをさらに細分するには接合関係や母岩別分類の分析を経たうえで実施すべきで、ただ単に見ただけで分離する事は無理がある。なお、調査は台地の先端部のほぼすべてを掘り下げた形である。

そこで、遺跡の全面に既に設定している2m単位のグリッドを用いて、2m方眼の中に何点の遺物が存在するのかを調べたうえで、その点数の量からみた分布等量図を作成した(第99図)。そこから単独でまとまりを持つ部分がいくつか存在する事が認識できる一方、環状やあるいはそれに近い形で分布が連なっている大きなまとまりが2箇所も存在する事がはっきりと理解できる。この大きなまとまりは、その内側にいくつもの集中部を抱え込む形で展開しており、それぞれを個々のまとまりとして把握する事は視覚的に難しい。実際、最初の分析の段階で20箇箇所のまとまりとして考えていたものの、分析を続けていく過程で石材別の分布やその母岩別分類、接合資料の分布状態等から、最終的には42箇所ものまとまりとして把握する事となった。第100図はその状態を模式図化したものである。これらのまとまりについては、従来から「ブロック」や「ユニット」、あるいは「地点分布」、「スポット」等の名称が使用されているが、ここでは、「ブロック」の名称を使用する事とする。これについては、鈴木忠司・山下秀樹の高氏を中心とする静岡県寺谷遺跡、同広野北遺跡、富山県野沢遺跡で実践された集落の復元過程での方法論に学ぶところが大きい。そこでまず、個々のブロックについて、その器種組成及び石材構成とそれらの分布状態、接合資料からみた切片剥離工程の解明と復元、さらにはその分布状態と他のブロックとの関係を把握する事により、本遺跡での構造解明を試みる事とする。

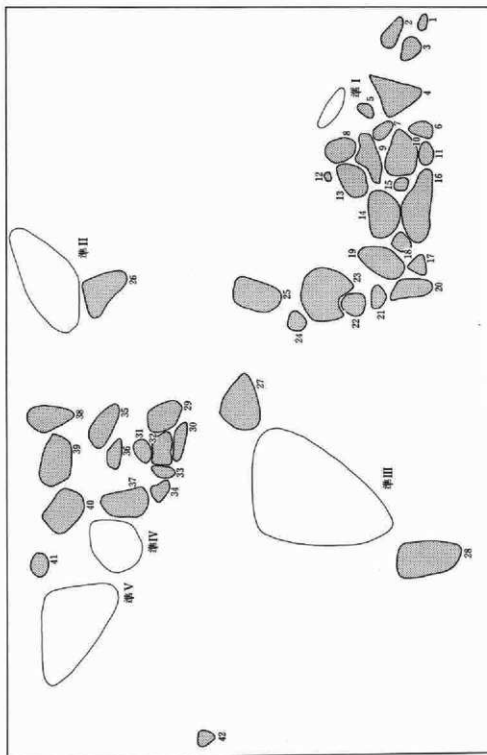
第2節 各ブロックの説明

第1ブロック

C区、66-C-47グリッド周辺に位置する。調査区域内での台地の南東端にあたり、台地の稜線と東側斜面との傾斜変換線上に位置する。分布形態は長軸2.7m、短軸1.5m程の楕円形を呈し、2.6㎡の広がりを持つ。出土状態はやや密集する形で楕円形の西側半分に偏る傾向を示す。東側と中央部に空白部を持つが、東側の遺物は北西方向から南東方向への地形の傾斜による移動と考えられよう。ただし、調査区の範囲ぎりぎり



第99図 遺物分布等量図



第100図 ブロック配置図 (1/800)

の位置であることから、ブロックの一部が調査区外に延びる可能性が高く、ブロックの全容をすべて把握できたとは言い切れない。周辺・隣接ブロックとの関係では、第2・第3ブロックと隣接するが、その他のブロックとはやや距離を置く。標高値からも石器群の同時性を疑う要素は見い出せない。

ブロックを構成する総点数は52点。石器組成は表に示されている様に、ナイフ形石器、使用痕ある剥片、石刃類、石核等から成る。石材別の分布をみると、母岩別分類が容易に可能な緑色系の珪質頁岩が21点（この珪質頁岩と同一母岩の剥片1点が第2ブロック内の北側部分に存在する）、列点状の気泡を特徴にもち同一母岩と考えられる黒色安山岩が25点、黒色頁岩6点、灰白色の珪質頁岩1点等である。特に、灰白色の珪質頁岩は特徴が明瞭であり、他の出土遺物の中に同一母岩の資料は見当たらない。さらに、器種はナイフ形石器で中途で折損しており、基部側の半分も調査区内からは検出されておらず、台地の先端の未調査部分に存在する可能性もあるが、この石材自体は単独の搬入品と考えてよい。また、珪質頁岩がブロック内全域にほぼ分布するのに対して、黒色安山岩はブロックの東西に二分される形で分布する。

接合資料は5例19点から成り、すべてが当ブロック内で完結する。さらに、母岩別分類により珪質頁岩2例7点と黒色安山岩3例12点の2個体のみを細分でき、前者を母岩別資料1、後者を母岩別資料2とし、その剥片剥離工程を分析する。

母岩別資料1（接合資料1・2）

5点と2点の2つの接合資料と15点の非接合資料の合計22点から成る。石材は緑色系の珪質頁岩で、原石の大きさは30cm程の長方体の角礫と推定される。接合資料1つは礫面を打面とし、縦長剥片及び不定形な剥片を剥出する作業途中の段階のものであり、もう1つは単独の打面で剥離面頭部調整をもつ縦長の剥片同士の接合例である。非接合資料では単設打面で剥離面頭部調整をもつ縦長の剥片が主体を占めるのに対して、2個の石核は表面側に残存する礫面を打面として、剥離作業面側の中心に向かって求心的な剥片剥離を施した剥離面を残しており、その形状は円盤状である。

接合資料1（第102図、写真図版30）

①→②(3796+3797)→③(3795-3790-3782)→④

①長方体の角礫の原材の礫面を打面とし、長軸に対して垂直方向への剥離を数回加えて一部に礫面を残す縦長の剥片を数枚剥ぎ取る。②続けて剥出した大形の縦長剥片を、表面側からの加撃によりほぼ中央で折断する。③礫面を打面としながら、打点を移動させて数枚の剥片を剥出する。④残核が残存するもの、途中の剥片剥離工程が不明である。

この剥片剥離作業の過程では、礫面を打面とする縦長剥片及び不定形剥片の剥出が優位な状況の様であるが、同一母岩の非接合資料には単設の打面をもつ石刃状剥片や縦長剥片が数多く存在することから、むしろ、打面調整を施さない石核からの剥片剥離技術が主体を占めると考えられる。

接合資料2（第103図）

①→②→③(3783)→④(3771)

①単剥離の打面設定。②3枚程の縦長剥片を剥ぎ取る。③続けて1枚の石刃状剥片を剥ぎ取り、連続して2枚の縦長剥片を剥出すると共に、数条の頭部調整を施す。④さらに縦長剥片を剥ぎ取る。

この接合資料からも、打面調整を施さない石核の存在が想定される。

ところが、残存する2点の石核は礫面を打面とする求心的な剥片剥離から成る円盤状の石核であり、それから剥出される剥片は、不定形な横長の剥片が圧倒的である。だが、この2点の石核の原材での位置は、長方体の角礫の両端であり、むしろ打面作出剥片（あるいは分割礫）の転用とも考えられる。そして、中央部

の分割線からは主として縦長の剥片を多数剥出する石刃石核が作り出されたと想定できよう。ただ、この石核は未発掘部分か、あるいは他の地点に搬出されたものと考えられる。

同一母岩で接合しない資料は以下の通りである。

石核 3点 3760 (第30図-97)、3770、3776 (第30図-98)

石刃状剥片 1点 3754 (第59図-347)

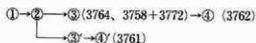
縦長剥片 3点 3773 (第69図-456)、3792 (第69図-459)、3794

剥片10点 3750、3757、3763、3769、3779、3787、3798、3799、3802、4399

母岩別資料 2 (接合資料 3・4)

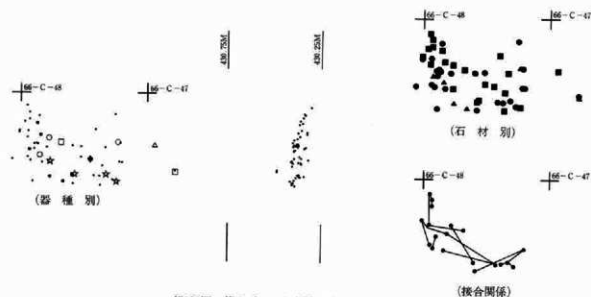
5点と5点の2つの接合資料と15点の非接合資料の合計25点から成る。石材は列点状の気泡をもつ特徴的な黒色安山岩であり、直径20~30cm程の円礫もしくは楕円礫が原石と考えられる。この黒色安山岩は第1ブロック内の安山岩すべてを占め、その分布はブロックの西側半分に限られている。接合資料の1つは分割された円礫をさらに2つに分割し、そのそれぞれが石核となる剥片剥離を施すもので、もう1つは長方体の剥片の両側の短辺を打面とし、両設打面から縦長剥片を剥出する工程により石核が残存するものである。

接合資料 3 (第104図、写真図版30)

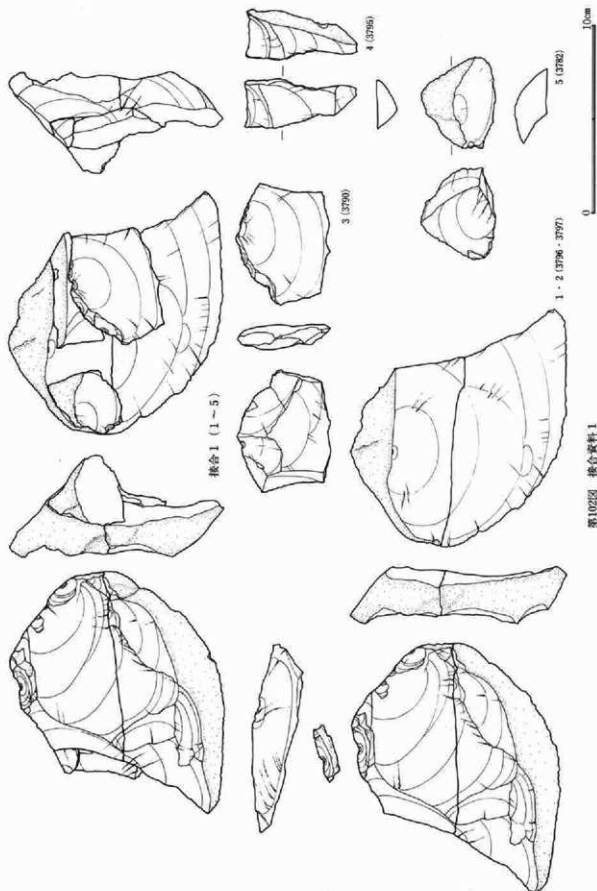


第5表 第1ブロック石材別石器組成表

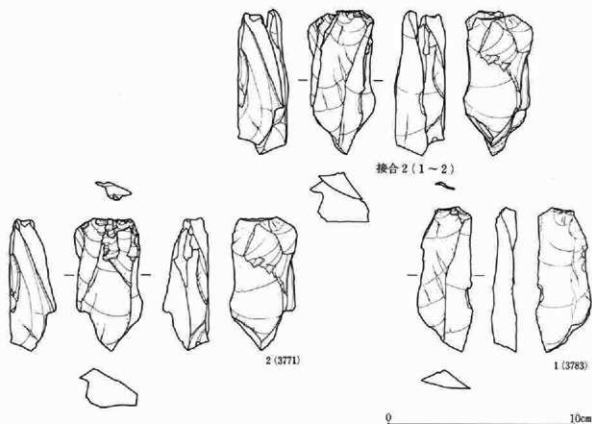
石材別	器種名 ナイフ 彫石器	石鏝	掻器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 鏢形	巖石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
黒色安山岩	1				1					2	3	3		21	2	1	25
珧質頁岩											1			11			21
黒色頁岩					1						2	3					6
計	1				2					5	3	6		32	2	1	52



第101図 第1ブロック水平・垂直分布図 (1/60)



第1022号 様合資料1



第103図 接合資料 2

①扁平な円礫を分割し、半円球状の大きな剥片を剥出する。②この剥片を中央からはほぼ均等に二分分割する。ここで分割された2つの剥片はそれぞれに剥片剥離が施されて、最終的には石核になるが、その工程の前後関係が明らかでないために③及び③'として、それぞれを説明することとする。③礫面を打面として、周縁から数枚の剥片を剥出する。④石核が残存する。③'分割面及び礫面を打面として数枚の剥片を剥出する。④'石核が残存する。

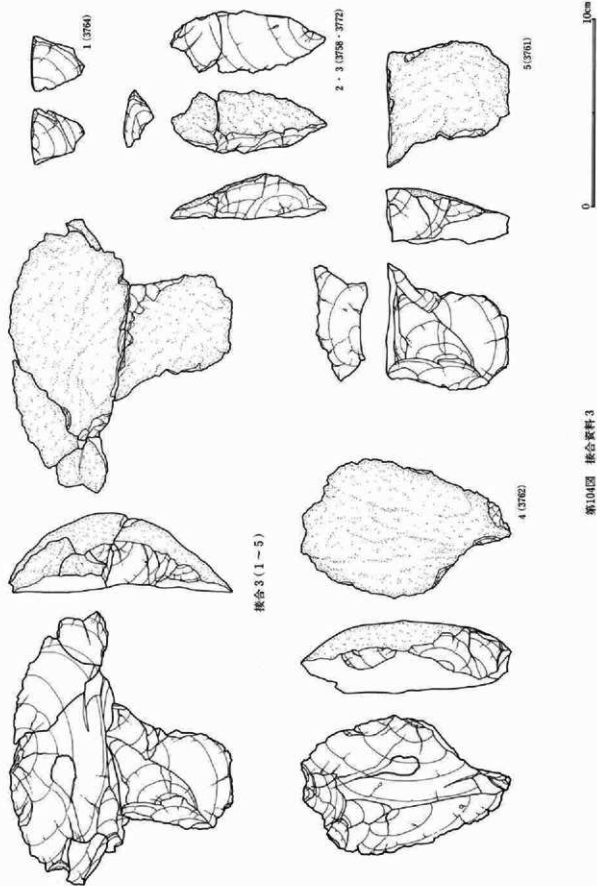
接合資料 4 (第105図、写真図版30)

①→②→③(3766→3777)→④(3784→3800)→⑤(3780)

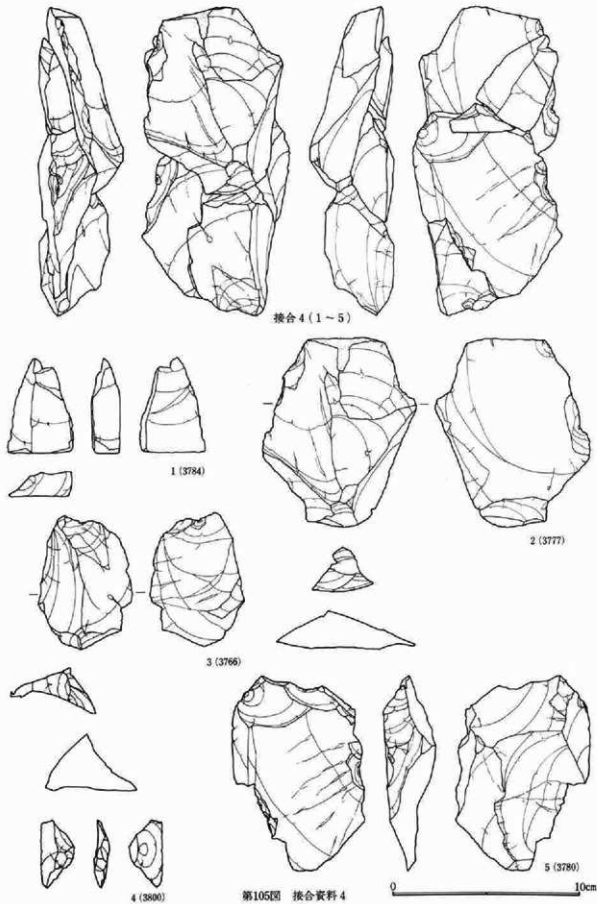
①礫を分割する。ただし、この分割面はもう一方の接合資料の分割面と接合しないことから、礫全体としては3個体以上の分割が考えられよう。②分割面を打面として、剥片の中心に向かって求心的な剥片剥離を施す。③続けて長軸の両端から相対する方向に剥片剥離が交互に施されて、やや大きな剥片が2点剥ぎ取られる。④打面上を打点が移動して、横長の剥片を2点剥出する。接合資料3との剥片剥離工程上の前後関係は不明である。⑤石核が残存する。

これ以外の接合としては、黒色安山岩の剥片の折断面例(3779+3788)がある。

ブロックの性格としては、石器組成に敲石、白石等の石器加工具が存在しないものの、礫を除いた総点数の約4割(39.2%)もの接合関係がある事や、母岩別分類でも僅か4個体分しかなく、しかもその内の2個体分の5点はほぼ完成された石器として持ち込まれたと考えられる事から、石器製作の場としての機能を有していたと言える。



第104図 接合資料 3

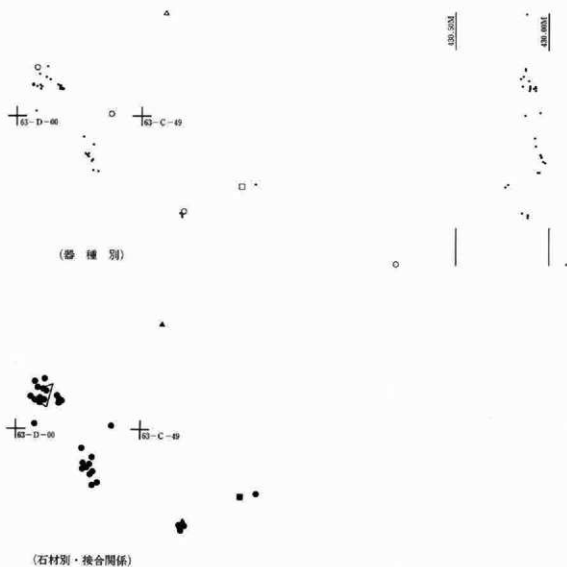


第2ブロック

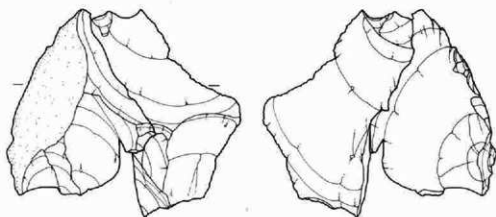
C区、64-C-49グリッド周辺に位置する。調査区域内での台地の南東端付近の稜線上の東側斜面寄りに位置する。出土状態はやや散漫であり、さらに南北2ヶ所に細分できるかも知れない。分布形態は周囲を直径1m以上の転石に囲まれる形で存在しその内部面積は11.5㎡、ブロック自体も長軸約7m、短軸約3mの楕円形を呈し、約11.5㎡の広がりを持つ。この周囲の転石を壁の用材とする住居跡が想定できる可能性もあ

第6表 第2ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石鎌	播器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 鋸器	敲石 磨石	白石	石楯	石刀 石杖 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石数	剥片	砕片	原石 塊	計
黒色火山岩											2	3		21	3		29
砂岩					1						1			1			1
堆積頁岩											1						2
黒色頁岩											1					1	2
計					1						4	3		22	3	1	34



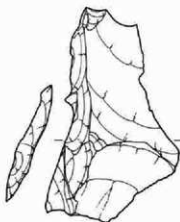
第116図 第2ブロック水平・垂直分布図 (1/60)



接合5(1~2)



1 (3819)



2 (3827)

第107図 接合資料5



第4章 検出された遺構

ろう。すぐ隣接して第3ブロックがまばらに展開し、南側には第1ブロックが存在する。

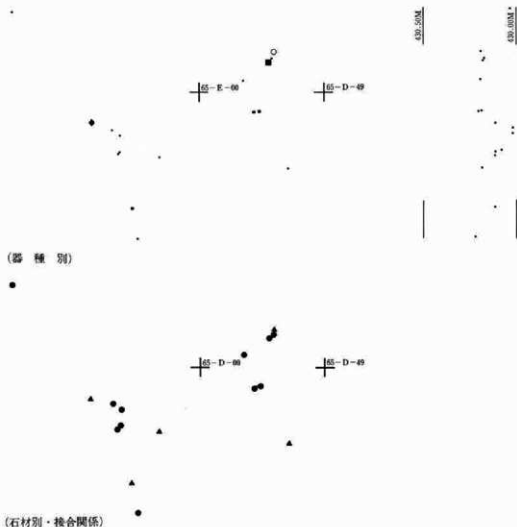
ブロックを構成する総点数は34点で、組成は石刃類、使用痕ある剥片等から成るが、主要な器種は含まれてはいない。石材別の分布では、ブロックの東端で他の遺物とやや距離を置く形で存在する石刃状剥片と、南寄りのまとまりのうちの石刃状剥片が黒色頁岩、使用痕ある剥片は緑色系の珪質頁岩で第1ブロックの珪質頁岩と同一母岩であり、これらと1点の礫以外はすべて黒色安山岩（29点）であるが、母岩別分類で2個体に分けられる。そのうちの1個体は列点状の気泡を特徴とし、第1ブロックの黒色安山岩とはほぼ同一母岩の可能性が高い。

接合資料は2例4点と少なく、10cm程と近接して位置し、ブロック内で完結する。

接合資料5（第107図）

2点のやや大形の剥片から成る。求心方向への剥片剥離とも考えられる資料で、石材は黒色安山岩である（3819→3827）。もう一つの接合は黒色安山岩の折断例（3805+3807）である。

ブロックの性格としては、前述した事から第1ブロックとの関連が想定されるものの、廃棄の場ともそれ以外の機能の場ともはっきりした事が残念ながら明言できない。



第108図 第3ブロック水平・垂直分布図（1/60）

第3ブロック

C区とD区の地にあたる65-C-00グリッド周辺に位置する。台地の稜線から東側斜面にかけての傾斜変換線付近で、調査区域内の南端部に位置するが、地形的には古状台地の先端部付近といえる。このブロックも第2ブロックと同様に周囲に3個の転石が存在することから、やはり転石を用材とする住居跡が想定できるのではないだろうか。この転石に囲まれた範囲は10.6㎡であるが、分布形態は長軸約3m、短軸約2mの円形を呈し、10.6㎡の広がりを持つ。東西両側に分布が偏るために、中央部に空白部が南北方向を軸に広がる。北側に散漫な分布の第2ブロック、東側に第1ブロックが隣接して存在する。

ブロックを構成する総点数は16点と少ないが、石器組成ではナイフ形石器、石刃類、使用痕ある剥片等の石器の占める割合は高い。石材別の分布では、2個体分から成る黒色頁岩5点がブロック内に散在し、同一母岩と考えられる黒色安山岩11点（約68.8%）が主体を占める。

接合資料は1例2点であり、黒色安山岩の縦長剥片をほぼ中途で折断したものである。ブロック内で完結し、約10cm離れて存在する。（3813+3814、第70図-463）

石器組成では完形のナイフ形石器をはじめ、石刃、縦長剥片、折断剥片等の主要石器類が主体を占めているととても過言でない状況であり、ブロックの性格として石器製作址とは考えにくい。むしろ、居住空間の一部としての石器消費地と考えるのが妥当であろう。

第7表 第3ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石鏃	鏃器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 類器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 磨	計
黒色安山岩 黒色頁岩	1				1						1	2 1		7 2	1		11 5
計	1				1						1	3		9	1		16

第4ブロック

D区、64-D-05グリッド周辺に位置する。台地の稜線よりやや東側斜面の傾斜変換線付近に位置する。出土状態は極めて散漫であり、分布形態もむしろブロックと認定しにくい程に不定形で範囲も広いが、長軸約9m、短軸約5mの片側がやや偏平な楕円形を呈した39.4㎡の広がりを持つといえる。北側には近接して第5・第6・第7ブロック、南側にやや距離を置いて第2・第3ブロックが存在する。

ブロックを構成する総点数は29点。組成は縦長剥片、折断剥片、打面再生剥片等から成り、主要器種は含まれない。石材の面でもほとんどが黒色安山岩であり、その大部分は同一母岩と思われる。

ブロックの性格は接合資料も存在しない事からも、石器製作の場と考えるよりも、むしろ廃棄に近い形で散在したと考えられる。

第8表 第4ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石鏃	鏃器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 類器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 磨	計
黒色安山岩 黒色頁岩												3 1	1	23	1		28 1
計												4	1	23	1		29

第4章 検出された遺構

第5ブロック

D区、60-D-06グリッド周辺に位置する。台地の稜線部のやや東側に位置するが、すぐ傍を北から東に蛇行する形で後世の大溝が存在するためにブロックの東側の一部が壊されている可能性が高い。分布形態は長軸約3.5m、短軸約2mの楕円形を呈し、4.1㎡の広がりを持つ。出土状態はまばらで、南北の2箇所に数点ずつ分布が偏る傾向を示すが、前述した様に、ブロックが壊されている可能性もあり、本来の姿を留めているか多少問題がある。周辺・隣接ブロックとの位置関係では、隣接して北から左回りで第8・第7・第4の各ブロックが存在する。

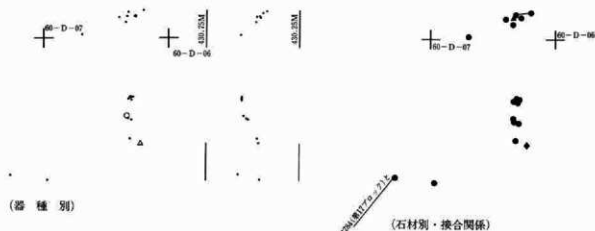
ブロックを構成する総点数は18点。石器組成は、石刃状剥片、縦長剥片等から成る。石材別の分布では、小礫1点以外の大部分が列点状の気泡を持つ黑色安山岩であり、第2ブロックの黑色安山岩と同一母岩の可能性が高い。

2例4点の接合資料があり、1例は距離20cm程の近さで出土している黑色安山岩の剥片の折断面資料2点(3897+3899)でブロック内で完結し、もう一例は第10ブロックの資料と接合する黑色安山岩の剥片2点(4107→4284)である。

ブロックの性格としては、主要石器がなく、接合も少ない事から居住空間や石器製作址ではなく、むしろ廃棄の場と考えられる。

第9表 第5ブロック石材別石器組成表

石材別 \ 器種名	ナイフ形石器	石鏟	掻器	彫器	加工使用剥片	楔形	石斧 礫器	台石	石枕	石刃状剥片	縦長剥片	打削打再石核	剥片	砕片	原石礫	計
輝緑岩															1	1
黑色安山岩										1	2		13			16
黑色頁岩													1			1
計										1	2		14		1	18



第110図 第5ブロック水平・垂直分布図 (1/60)

第6ブロック

D区、66-D-08グリッド周辺に位置する。台地の稜線付近で、調査区域の南端部分に位置する。出土状態は点数が少ないがまとまっており、直径約5mの円形を呈した12.7m²程の広がりをもつ。東側に第4ブロック、北側から西側にかけて第7・第10・第11の各ブロックが存在する。

ブロックを構成する点数は17点と少なく、器種組成も石刃状剥片、縦長剥片、石核、折断剥片、加工痕ある剥片等から成る。石材は黒色安山岩が大部分を占める。接合資料は存在しない。

ブロックの性格としては、2点の石核の存在や、比較的まとまった出土状態である事から石器製作の場の可能性が高い。

第10表 第6ブロック石材別石器組成表

器種名 ナイフ形 石器	石錐	掻器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 鑿器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	碎片	原石 礫	計
安山岩															1	1
黒色安山岩				1					2		3		7			13
黒色頁岩													2		1	3
計				1					2		3		9		2	17



第111図 第6ブロック水平・垂直分布図(1/60)

第7ブロック

D区、62-D-09グリッド周辺に位置する。台地の稜線から西側斜面への傾斜変換線付近に位置する。出土状態はやや集中する形であり、分布状態は直径約4mの円形を呈した6.8m程の範囲である。中央部からやや南側部分にかけて空白部を持つ。周辺・隣接ブロックとの関係では、東側に第5・第4ブロック、南側に第6ブロック、西側には北から第8・第9・第10・第11の各ブロックが隣接して存在する。

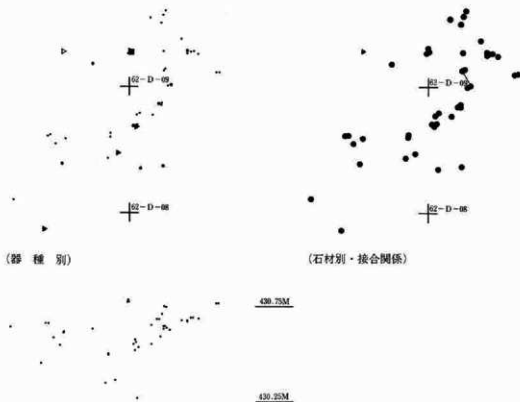
ブロックを構成する総点数は44点。石器組成では石核、縦長剥片、折断剥片、加工痕ある剥片等の石器製作に関連する石器の占める割合が高く、3点もの石核の存在はブロックの性格を知るうえで重要な意味を持つといえる。石材も黒色頁岩が1点だけで、他の43点はすべて黒色安山岩である。

接合資料は1例2点で、黒色安山岩の縦長剥片の中央よりやや先端寄りでの折断した例（4157+4158、第71図-476）である。

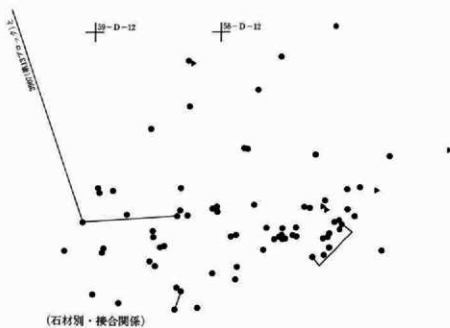
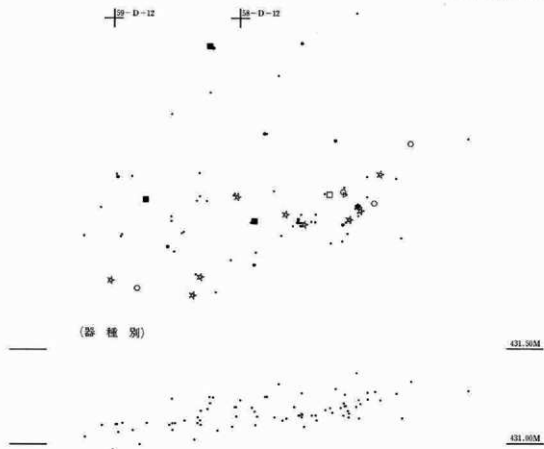
ブロックの性格は、前述した点からも石器製作の場と考えられる。

第11表 第7ブロック石材別石器組成表

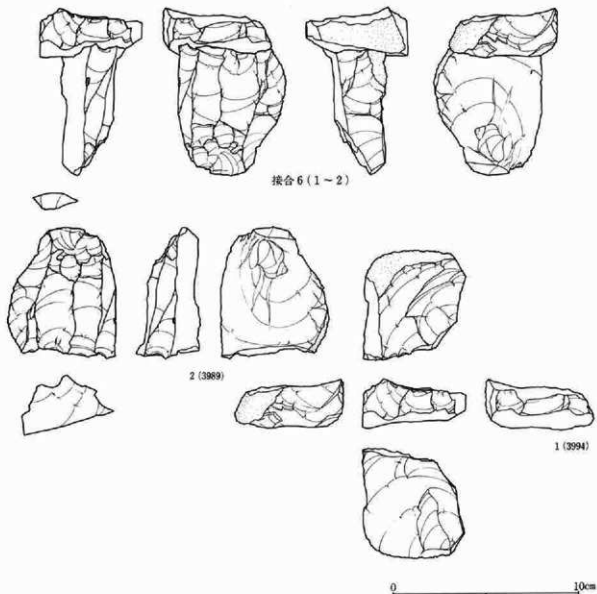
石材別	器種名 ナイフ形 石器	石錐	播器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石岸 礮器	黒石 磨石	白石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	碎片	黒石 礮	計
黒色安山岩 黒色頁岩					1					3		8		29	2	1	43 1
計					1					3		8		29	2	1	44



第112図 第7ブロック水平・垂直分布図 (1/60)



第113図 第8ブロック水平・垂直分布図 (1/60)



第114図 接合資料6

第8ブロック

D区、58-D-10グリッド周辺に位置する。台地の稜線付近から西側斜面への傾斜変換線付近に位置する。分布形態は長軸約6m、短軸約4mのやや楕円形を呈し、約18.3㎡の広がりを持つ。出土状態は密集する形で、北側の一部にやや集中が偏る傾向を示す。ただし、ブロックの東側を後世の大溝が横切るためにブロックの一部が壊されている可能性が高く、ブロックの本来の姿を留めていないおそれもある。周辺には南から西にかけて時計回りに第9・第13・第12の各ブロックが存在する。

ブロックを構成する総点数は78点。石器組成にはナイフ形石器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、石刃類があるが、特に石核の9点はブロック内の点数の11.5%とかなり高い割合を占めており、ブロックの性格を示したとも言える。石材は黒色頁岩の5点に対して黒色安山岩が73点(約93.6%)と大部分を占める。

接合資料は3例7点であり、うち2例はブロック内で完結するものの、1例は第9ブロックの遺物との間に接合関係を持つ。

第12表 第8ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形石器	石鏃	搔器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 鐮器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	黒石 礫	計
黒色安山岩	1				4					9	3	9		45	2		73
黒色頁岩											1	1		2		1	5
計	1				4					9	4	10		47	2	1	78

接合資料6

打面再生剥片と剥片の2点の接合から成る。剥片については表面に10枚程の剥離面が認められるが、裏面が石核からの剥離面であるために、剥離面の調整剥片とも考えられる。石材は黒色安山岩である。

①→②→③(3994)→④→⑤→⑥(3989)

①礫を分割したかは不明であるが、打面を作出する。②3枚程の縦長の剥片を剥ぎ取る。③剥離面正面のやや右寄りを打点として、打面再生を施す。④再生した打面に打点を配置し、5枚以上の縦長の剥片を剥ぎ取る。⑤打面を180°転移し、6枚程の剥片を剥ぎ取る。(その際に打面設定したのか、以前からあるのかは不明)⑥剥離面の調整とも考えられる剥片1点を剥出する。

他の接合資料のうち、一例は黒色安山岩の石核の折断例(4140+4141、第30図-95)で、円盤状の半両面の剥離面を持つ第IV類に相当する。もう一例は黒色安山岩の剥片3点の接合例(3907→4251→4238)である。

ブロックの性格は、多数の石核や打面再生剥片等の存在から、石器製作址と考えられる。

第9ブロック

D区、60-D-11グリッド周辺に位置する。調査区内のほぼ稜線部分に位置する。分布形態は長軸10m、短軸約5mの楕円形を呈し、約26.4㎡の広がりを持つ。出土状態はやや散漫であるが、東側の小さなまとまりと西側のまとまりとに分けられる可能性もある。もし分離して考えるならば、共に分布が環状の東側に偏っている点が興味深い。周辺には北から第8・第5・第7・第10・第15・第14・第13・第12の各ブロックが存在するが、特に第8・第13の2つのブロックとは中間の空白部をはさんで、環状に分布している様子も見える事から関連して捉えてもよいのかも知れない。

ブロックを構成する総点数は35点。石器組成は加工痕ある剥片、石核、石刃類であるが、特に石核が5点と少ない総点数に対して非常に割合が高い。石材も黒色安山岩が32点と非常に多く、他は石英閃緑岩、黒曜石、砂岩の各1点ずつである。特に1点の黒曜石は、全体で6点のうちの数少ない存在である。

接合資料は1点もないが、多数の石核の存在から石器製作址の可能性が高い。

第13表 第9ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形石器	石鏃	搔器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 鐮器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	黒石 礫	計
石英閃緑岩																1	1
黒曜石					1												1
砂岩														1			1
黒色安山岩					2					5	2	5		16	2		32
計					3					5	2	5		17	2	1	35

第4章 検出された遺構

第10ブロック

D区、64-D-11グリッド周辺、調査区内の台地の稜線部分に位置する。分布形態は長軸約9m、短軸約6mの楕円形を呈し、約40.5㎡の広がりを持つ。出土状態はやや密集する形で、特に西半分に集中し、北東部分には空白部が広がる。さらに南側部分には直径約1mの円形の空間も存在する。周辺・隣接ブロックとの関係では、北から周囲に時計回りに第9・第7・第6・第11・第16・第15・第14・第13の各ブロックが接近して存在する集中地帯である。

ブロックを構成する総点数は203点。石器組成はナイフ形石器、彫器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、石核、石核残付き剥片等であり、特に石核の12点、石核残付き剥片の2点、それに彫器の2点が特徴的である事からブロックの性格の解釈上での一助となるであろう。石材は黒色安山岩が194点(約95.6%)と大部分を占める。

接合資料は9例19点で、7例についてはブロック内で完結するが、残りの2例4点は第5ブロックと第11ブロックとの間に接合関係を持つ。

第14表 第10ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名	ナイフ形石器	石鏃	挿器	彫器	加工使用剥片	楔形	石押	石押	石核	石刃石状剥片	縦長剥片	打作打再石核	剥片	砕片	原石	計
石英閃緑岩																1	1
安山岩																1	1
輝石安山岩																1	1
黒色安山岩					2	4				10	8	32	2	125	11		194
珸質頁岩														1			1
黒色頁岩		1														2	4
不明																1	1
計		1			2	4				10	8	33	2	126	11	6	203

接合資料7 (第117図)

剥片と縦長剥片の2点から成る。ほぼ同一方向の剥離面を持つ剥片同士で、連続して剥出されている。打面には調整が認められないが、剥離面の頭部調整は一部に見られる。石材は黒色安山岩である。

①→②→③(3677、3681)

①打面を作出する。②剥離面頭部調整を含めて数枚の剥片を剥出する。③連続して剥片と縦長剥片を剥出する。

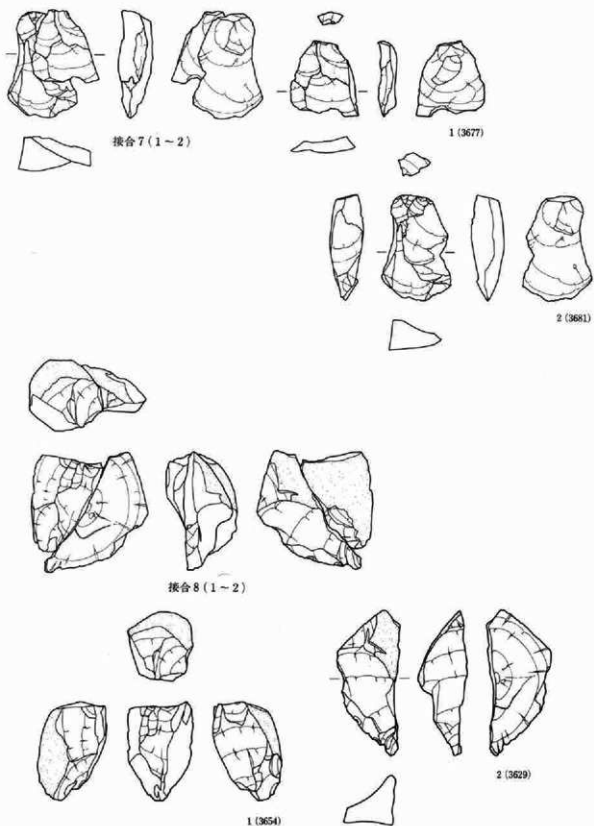
接合資料8 (第117図)

石核と剥片の2点から成る。接合の状態から早い段階に分割されたのちに、一方は剥片、もう一方は石核として剥出されたものと考えられる。石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④→⑤(3654)

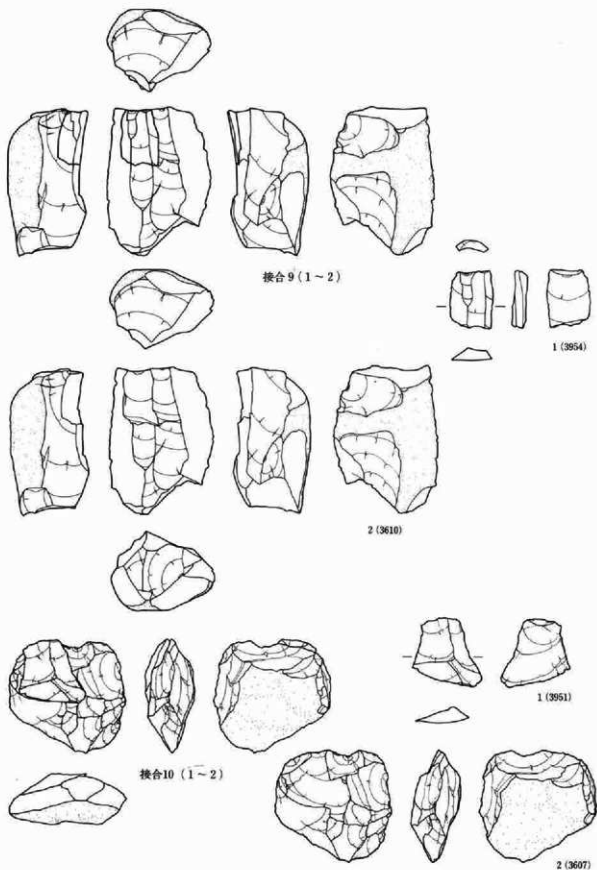
↓
④(3629)

①礫を分割する。②打面を作出するが、これに伴う剥片剥離ははっきりしない。③礫面残存の背面から2つに分割する。ここからは前後関係がはっきりしないため、便宜的に一方を④、もう一方を⑤としておく。④打面に一回の調整を施し、少なくとも2枚の剥片を剥出する。⑤石核が残存する。④分割面を打面として1枚の剥片を剥出する。

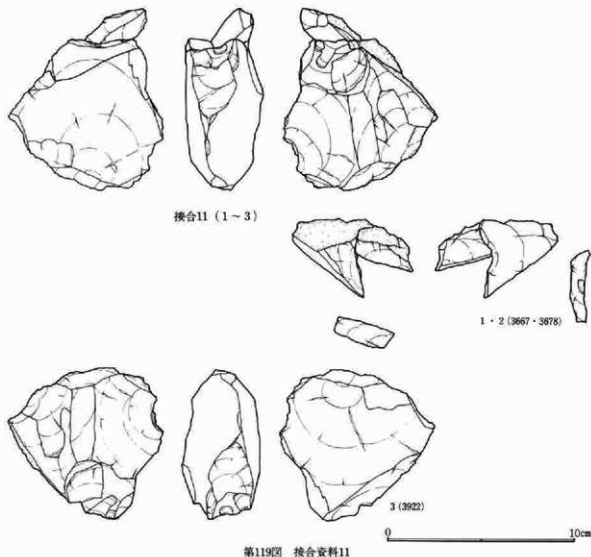


第117回 接合資料 7・8

0 10cm



第118図 接合資料9・10



第119図 接合資料11

接合資料9 (第118図)

剥片と石核の2点の接合から成る。剥片は台形断面の石刃に近いが、途中で剥離が方向を変えて抜け出てしまったために、寸詰まりの形になってしまっている。この種の方向をまったく変えてしまう剥離によって作り出された剥片は、その先端の様子をただだけでは折断剥片と間違える恐れもあると考えられる。特に安山岩系の石を原材とする場合はかなり可能性が高い。また、石核については、正面の剥離面では単設打面からの一方への剥離しか認められないが、側面・背面・下面には逆方向や直交する方向への剥離面が認められる。石材は黒色安山岩である。

①→②→③(3954)→④→⑤(3610)
①'→②'→③'

①礫を分割する。②一端に打面を作出する。ただし、これ以前に剥片剥離が行われた可能性もある。③連続して5枚程度の剥片が剥離される。④剥離面の一つを打面として90°打面転位し、2枚の剥片を剥ぎ取る。一方でこれとは別に、前後関係が途中まではっきりしない工程を説明する。①'180°相対する打面を作出し、両設打面とする。②'1枚の礫面を表面に残す剥片を剥ぎ取る。③'この剥離面に90°打面転位して、元の打面側から1枚の剥片を剥ぎ取る。⑤石核が残存する。

接合資料10 (第118図、写真図版30)

剥片と石核の2点から成る。石核は求心的な剥離方向を持つ円盤状で、第IV類に分類される。背面に礫面が残存する。剥片は長幅比がほぼ1:1の寸詰りの形状で、求心方向への剥離によるものである。石材は黒色安山岩である。

①→②→③(3951)→④(3607)

①一面に礫面を残す大形の剥片を分割する。②剥離面を打面として礫面を残す剥片を3枚程剥出し、円盤状の石核素材を得る。③礫面側の剥離面を打面として求心方向への剥片剥離を数回行う過程で、長幅比がほぼ等しい寸詰りの不定形剥片が剥出される。④石核が残存する。

接合資料11 (第118図)

石核と2点の剥片3点の接合から成る。ただし、その内の2点は折断された資料で、打点側寄りの一部を失っている事が実測図からも理解できよう。また、素材については分割礫か、あるいは大形の剥片なのかははっきりしない。石材は黒色安山岩である。

①→②→③(3667+3678)→④(3922)

①剥離面を作出する。②前後関係がはっきりしない周囲からの剥片剥離痕を持つ剥片を剥出する。③その剥片の剥離痕の一つを打面として、表面の一部に礫面を残す剥片を剥出するが、その際かどうかははっきりしないが、少なくとも3つに砕けてしまう。④剥離面を打面として一枚の剥片と3回の頭部調整を行う。

この他の接合例は、縦長に近い剥片のほぼ中央部での折断例(3672+3683、第76図-518)、剥片の折断例(3652+3962)の2例の折断例と、下記の2例である。

①→②→③(4506+3679)

①打面を作出する。②5枚程の剥片を剥ぎ取る。③連続して縦長剥片と剥片を剥出する。次に縦長剥片をやや打点側寄りの位置で折断する。

①→②→③→④(4284→4107)

①打面作出のためか、礫面を表面に残す剥片を剥ぎ取る。②礫面、あるいは剥離面を打面として、4枚程の剥片を剥ぎ取る。③前後関係がややはっきりしないが、180°相対する側に打面設定し、1枚の剥片を剥ぎ取る。④再び180°打面転位して、礫面を打面として2枚の剥片を連続して剥出する。

接合資料の分布を見ると、ブロックの西側部分に8例も偏っており、東側には1例しか存在しない。接合間の距離も1m前後のものは3例しかなく、残りは2m以上で5m前後とかなりの距離を持っている例である。また、ブロック内での外縁部分に近い位置の資料が多い様子であり、この事から器種別分布での石核の出土位置がブロックの周縁部分にあたる事と深い関係があると考えられよう。ナイフ形石器や彫器等の分布がやや東側部分に偏る感じであるのに対して、石核核付き剥片や加工度ある剥片、使用痕ある剥片等は西側部分に偏っており、以上の事から石器製作址の場と道具類の置き場の2つの機能を有していると考えられる。さらに推測を進めるならば、ブロックの中央部の空白部を居住空間と考えて、その東側から南側にかけての周縁部に生産活動に伴う石器類が配置され、居住空間の内側か外側かははっきりしないが、東側部分に製作址に伴う構造を考えてもいいであろう。

第11ブロック

D区、67-D-11グリッド周辺に位置する。台地の稜線付近、調査区域の南端付近で、確実にブロックの一部が調査区域外に延びる場所に位置する。分布形態は長軸約4.5mであるが、前述した様にブロックの全容

を捕捉した訳ではないので、形態が楕円形か円形かははっきりしないが、一応楕円形の北側半分が検出されたものと考えて面積を求めると、約7.5m²の広がりを持つことになる。出土状態はやや密に集中するものの、2箇所の空白部を持つ傾向を示す。周辺や隣接したブロックとの関係では、北側にはは接する様な形で第10ブロック、東側に近接して第6ブロック、西側には第16ブロックが近接して存在する。

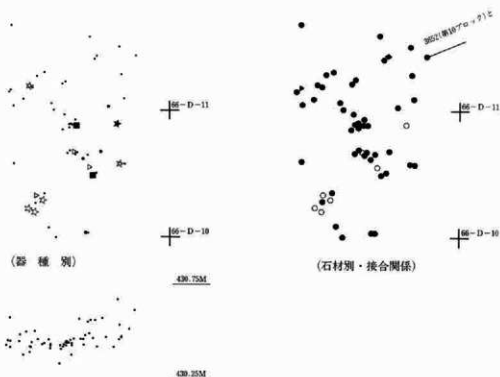
ブロックを構成する総点数は56点。石器組成は敲石、台石、石核、縦長剥片等から成り、器種別の分布では遺物分布の空白部の周辺に敲石と台石がそれぞれ位置しているが、3点の台石は1個体が splitted 資料であり、火を受けたものかも知れない。石材は黒色安山岩が46点（約82%）と多く、輝石安山岩等も存在する。

接合資料は1例2点だけだが、第10ブロックとの接合関係を持つ黒色安山岩の剥片2点の折断例（3652+3962）である。

ブロックの性格は、接合資料が少ないものの、石核と敲石と台石の組み合わせから小規模な石器製作址と考えられる。

第15表 第11ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形石器	石鏃	鏃器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 鏃器	敲石 磨石	台石	石核	石刀 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打棒 石核	剥片	碎片	黒石 礫	計
安山岩																3	3
輝石安山岩								1	3								4
黒色安山岩					2					2		4	1	35	2		46
黒色頁岩														1		1	2
珪質灰質岩														1			1
計					2			1	3	2		4	1	37	2	4	56



第120図 第11ブロック水平・垂直分布図（1/60）

第12ブロック

D区、56-D-13グリッド周辺に位置する。台地の稜線部分から東側の傾斜交換線付近にかけての場所に位置する。分布形態は長軸約1.5m、短軸約1mの小さな楕円形を呈し、約1.0㎡とかなり狭い範囲に分布する。出土状態は点数が少ないものの、やや北側に集中する形の傾向を示す。周辺・隣接ブロックとの関係では、すぐ南側に第13ブロックが近接して存在する。

ブロックを構成する総点数は12点と数少ない。石器組成も加工痕ある剥片、縦長剥片、剥片類だけである。石材はすべて黒色安山岩であるが、接合資料は1例もない。

ブロックの性格は、主要石器や接合資料もない事から廃棄の場とも考えられなくもないが、やや資料不足の感がある事から不明と言うしかない。

第16表 第12ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名	ナイフ形石器	石鏃	投器	彫器	加工使用剥片	楔形	石斧 礮器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石刃剥片	縦長 剥片	打面 打再 石核	剥片	碎片	原石 礫	計
黒色安山岩						1							3		6	2		12
計						1							3		6	2		12



第121図 第12ブロック水平・垂直分布図

第13ブロック

D区、58-D-14グリッド周辺に位置する。台地の稜線部分よりやや東側に位置する。分布形態は長軸約8m、短軸約5mの楕円形を呈し、約29.5㎡の広がりを持つ。出土状態はやや密に集中するが、東側と西側の2箇所、ないしは3箇所に分割できる可能性も存在する。周辺・隣接ブロックとの関係では、北に第12、東に第8、南に第9、西に第14の各ブロックが存在するが、特に第8ブロック及び第14ブロックとの間は遺物をはっきりと絶える訳ではなく、やや空間が広がっている事から分離した。

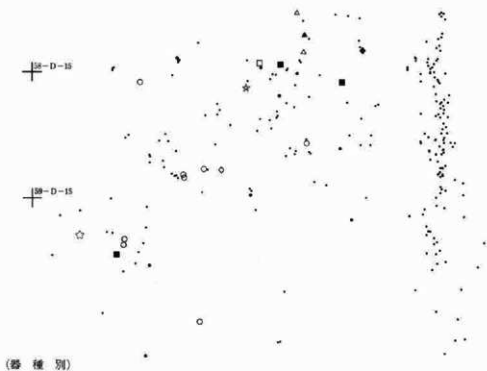
ブロックを構成する総点数は129点。石器組成はナイフ形石器、彫器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、石核、打面再生剥片、台石、石刃類から成るが、主体は約76%を占める剥片類である。

石材は黒色安山岩が全体の93%の高い割合を占めるが、黒色頁岩が3点共に石刃類、珪質頁岩が加工痕ある剥片としてのみ存在する事から、それぞれが単独資料として持ち込まれたと考えられる。

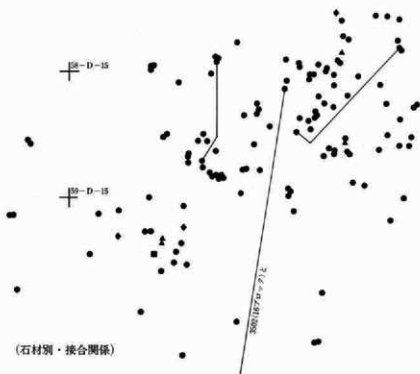
接合資料は5例10点であるが、ブロック内で完結するのは4例8点であり、残りの1例2点は第16ブロックと接合関係を持つ。

431.00M

431.00M



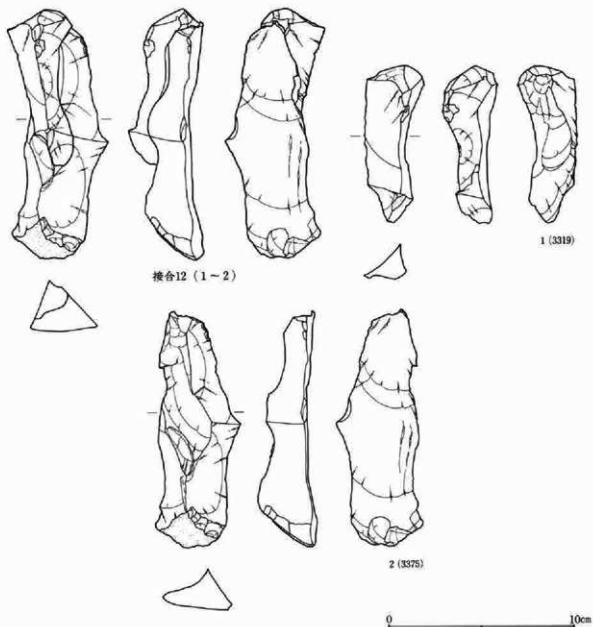
(器種別)



(石材別・接合関係)

第122図 第13ブロック水平・垂直分布図 (1/60)

第4章 検出された遺構



第123図 接合資料12

第17表 第13ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石錐	搔器	彫器	加工 使用 削片	楔形	石斧 鎌器	敲石 磨石	白石	石核	石刀 石状 削片	縦長 削片	打作 打再 石核	削片	砕片	原石 礫	計
黒色安山岩	1			1	3					1	5	10	1	82	16	1	120
陸質凝灰岩								1									2
陸質頁岩					1						3					2	1
黒色頁岩														1			5
不明																	1
計	1			1	4			1	1	8	10	1	83	16	3		129

接合資料12 (第123図)

2点の剥片から成る。連続して剥出された剥片同士であるが、側面に残存する剥離面が中央の稜から側縁方向に向うものであり、接合状態での断面が三角形に近いことから石核残付剥片に分類可能だが、向って左側の剥離方向がやや打面方向からと考えられるために、あえて剥片とする。石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④(3319+3375)

①稜の一端に打撃を加えて打面を作出する。②打面に1回の打撃を加えて剥片を剥出する。③その剥離面を打面として向って右方向への剥片剥離を2回連続して行う。この際に剥出された2枚の剥片はやや横長の破面を残すものと想定される。④当初の打面にもどって、2枚の剥片を連続して剥出する。

この他の接合は、石刃のはば中央での折断例(3331+3332、第45図-214)と、剥片の折断資料2例(3096+3325)、(3013+3014、第56図-328)、それに第16ブロックと接合資料(3305→3502)であり、すべて黒色安山岩である。

ブロックの性格は、石核や台石の存在や接合資料の存在から石器製作址と考えられるが、一方では接合資料の少なさや単独で持ち込まれた石器の存在から居住空間の一部、もしくは石器消費地、つまり調理の場的な機能の可能性も存在する。

第14ブロック

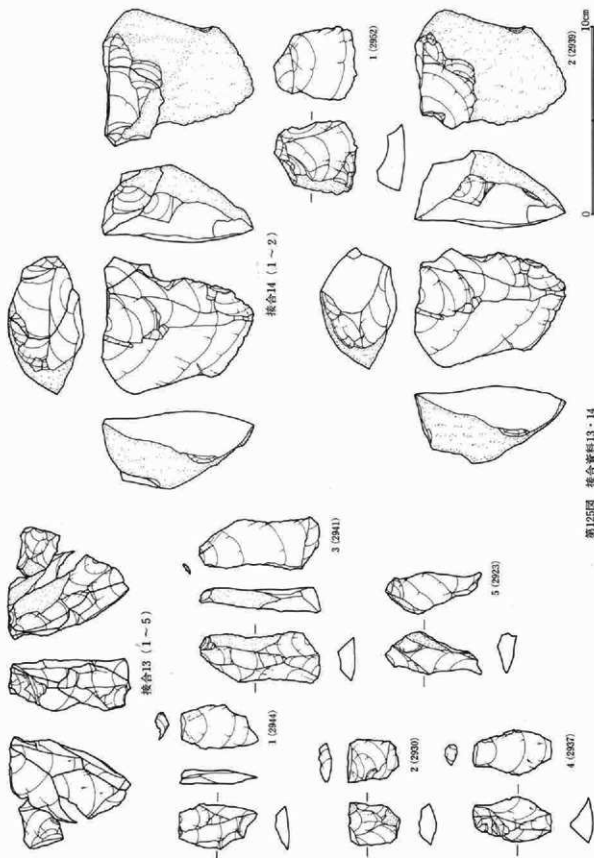
D区、63-D-17グリッド周辺に位置する。調査区域内の南側寄りで台地の稜線部分に位置する。分布形態は長軸約11m、短軸約9mのやや一端が先細り気味の楕円形を呈し、63.3m²程の広がりを持つ。出土状態は東側半分がやや集中するものの、西側は逆にやや散漫な感じで、直径約4mの環状の分布が2個連続した様な「8の字」状を呈している様子にも見え、東西の2箇所に分離できる可能性も想定できる。周辺・隣接ブロックとの関係では、東側から西側にかけて時計回りに第13・第9・第15・第16・第18・第19の各ブロックが存在するが、北側にはほとんど遺物が分布していない。

ブロックを構成する総点数は92点。石器組成では加工痕ある剥片、石核、敲石、台石、石刃状剥片、縦長剥片等から成るが、やはり剥片類が60点(約66.3%)と高い割合を占めている。石材構成も黒色安山岩が65点(約70.7%)と多く、次の黒色頁岩が18点(約19.6%)とこの2種類で大部分を占めている。

接合資料は3例9点であるが、1例2点がブロック内で40cm程の距離で完結するのに対して、残りの2例は第16ブロックの資料との間に接合関係が存在する事から、本ブロックと第16ブロックとの関係を把握する事がブロックの性格を知る上での一助となりそうである。

第18表 第14ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石錐	鏃器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石片 礫器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
黒色安山岩					1					1	1	9	1	49	3		65
溶結凝灰岩								1									1
埴質頁岩														1			1
黒色頁岩					1			1		1				5		10	18
黒色片岩																1	1
埴質安質岩														2		1	3
不明																3	3
計					2			1	1	2	1	9	1	57	3	15	92



第125図 組合資料13・14

接合資料13 (第125図、写真図版30)

石刃状剥片1点、縦長剥片2点、剥片2点の計5点から成る。この資料は両設打面ではあるが、両端の打面は平行でなくて約45°に斜交する形である。そのために剥片剥離が進むに従って剥片の長さも徐々に短くなっていく事になる。それから想定される石核は盤状の小さなものであろう。石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④→⑤(2944)→⑥(2941→2937)→⑦(2930)→⑧(2923)

①礫を分割する。②剥出された剥片の一端に打撃を加えて打面を作面する。③相対する一端にも打面を作面するが、あるいは最初の段階の分割面がそのまま利用されているかも知れない。④一方の打面から少なくとも4枚程の剥片を剥ぎ取る。⑤もう一方の打面に転移して、頭部調整を含めて4枚程の剥片を剥ぎ取る。⑥再び180°の打面転位し、1枚の縦長剥片を剥出する。⑦さらに180°の打面転位で、石刃状剥片と縦長剥片の2枚を剥出する。⑧再度180°の打面転位をし、4枚程の剥片を剥出する。⑨再び180°の打面転位を行い、1枚の剥片を剥出するがそれ以後は不明である。

接合資料14 (第125図)

石核と剥片の2点から成る。石核は背面に確面が残存し、分類では第Ⅲ類に属する。打面部分にパンチ痕が認められる。石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④(2952)→⑤→⑥(2939)

①礫を分割し、円盤状の石核素材を得る。②分割面に直交する形で打面を作面する。③頭部調整をはさみながら3枚程の剥片を剥ぎ取る。④剥離面に対して時計回りに90°の打面転位、つまり剥離面を打面として最初の打面に平行する方向に打撃を加えて2枚の剥片を剥出するが、この剥離面が打面再生に相当する。⑤その剥離面を打面として1枚の小さな剥片を剥ぎ取る。⑥石核が残存する。

この他の接合は、剥片同士の接合例(2905-2908)であるものの、全体に風化が激しいために剥離順序がほとんど確認できない状態である。

ブロックの性格は、第16ブロックとかなり密接な関係を持つ石器製作址の場と考えられる。

第15ブロック

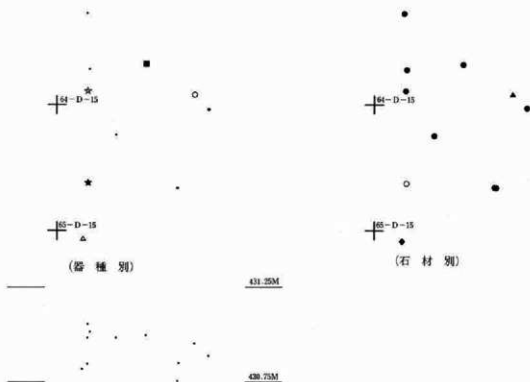
D区、64-D-14グリッド周辺に位置する。台地の稜線よりやや西斜面寄りに位置する。分布形態は半径約2mの半円形を呈すが出土状態はまばらであるために、ブロックと認定する事にはやや問題があるかも知れない。広がりは約6.0㎡で、周辺・隣接ブロックとの関係は、東側から時計回りに第10・第16・第14の各ブロックがほとんど隣接して存在しており、3つのブロックに囲まれた空白部分とも言える。

ブロックを構成する総点数は11点と非常に少なく、石器組成は加工痕ある剥片、敲石、石核、打面作出剥片等であるが、剥片が約36.7%を占める。石材も黒色安山岩が8点（約72.7%）と主体を占め、他に輝石安山岩、溶結凝灰岩、黒色頁岩が各1点ずつである。

ブロックの性格としては、接合資料は1例も存在しないが、敲石や石核の存在から石器製作址の場とも考えられるものの、単に廃棄の場としての意味しかない可能性もある。

第19表 第15ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石錐	掻器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石押 礫器	敲石 磨石	台石	石核	石刀 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打面 石核	剥片	碎片	集石 礎	計
輝石安山岩								1									1
黒色安山岩					1					1		1		5			8
溶結凝灰岩																1	1
黒色頁岩											1						1
計					1			1		1	1	1		5		1	11



第126図 第15ブロック水平・垂直分布図 (1/60)

第16ブロック

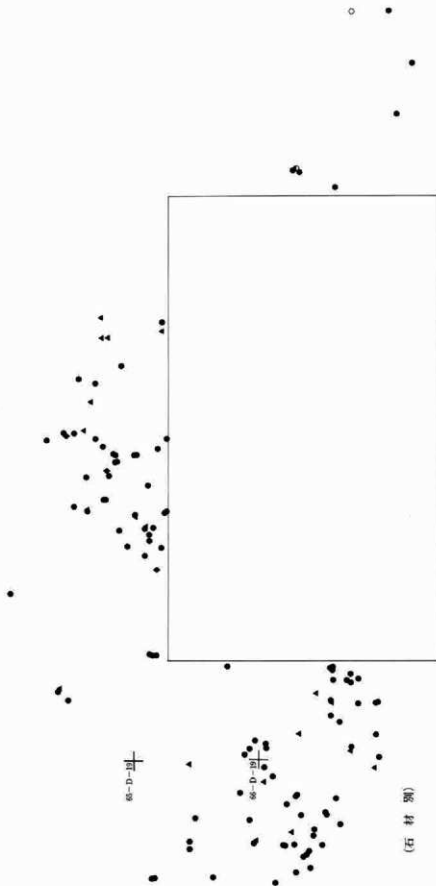
遺物の最も集中する部分がD区、66-D-15グリット付近に位置し、かなり広い範囲に分布を持つブロックである。調査区域の南端にあたり、台地の稜線部分より、西斜面寄りに位置する。分布は調査区域外に延びる様な帯状の長い形であり、確実に調査区域外にも分布が延びていると考えられる。分布形態は現状で検出されている範囲では長軸約14m、短軸約6mの楕円形を呈するが、前述した様に本来のブロックすべてを検出できた訳ではなく、その広がりについても調査区域内で検出された範囲でしか把握されていない。広がりも約69.6㎡の面積であるが、これも本来の面積から見れば一部でしかないであろう。

本ブロックは分布状況だけから見れば、2箇所以上の遺物集中に分ける事も可能な程度であるので当初は東西2箇所のブロックとして捉えていた。しかし、接合資料や母岩別資料の分布状況等から1つのブロックとして大きな範囲で把握する方が最良と判断し、第16ブロックとしてまとめる事とした。

ブロックを構成する総点数は857点と、すべてのブロックの中で最も点数が多い。石器組成はナイフ形石器、掻器、石錐、礫器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、敲石、台石、石核、打面作出剥片、打面再生剥片、石核稜付き剥片、石刃類等から成るが、やはり剥片類が608点(約71.3%)と最も量が多い。だが、25点もの石核や石刃類と縦長剥片の点数も比較的多く、石器製作址的な要素が強いと言える。一方、ナイフ形石器の4点や加工痕ある剥片の31点等も出土しており、これらの器種を中心とした特徴的なまとまりが認められ、やや東側に偏る傾向がみられる。特に66-D-15グリットを中心とした南北に延びる帯状の集中部分には、13点もの石核が存在する。石材は、やはり黒色安山岩が723点(約84.4%)と主体を占めるものの、黒色頁岩も81点(約9.5%)と比較的多く、不明も含めて17種類もの石材が運び込まれている。一方で石刃類には黒色安山岩の15点(約45.5%)に対して、黒色頁岩が17点(約51.5%)と圧倒的に多数を占め、石材総数からみても石刃類に対しての黒色頁岩の利用度がかなり高いと言える。この事から石刃技術に対しての黒色頁岩の優位性が証明されたと言える。また、石核も黒色安山岩が24点であるのに対して、黒色頁岩は僅かに1点であり、連続して石刃類が剥出される割合が黒色頁岩に多い可能性を示すものではないだろうか。

第20表 第16ブロック石材別石器組成表

器種名 石材別	ナイフ形石器	石錐	掻器	彫器	加工使用剥片	使用痕剥片	石錐礫器	敲石	台石	石核	石刃石状剥片	縦長剥片	打面打再石核	剥片	碎片	単石器	計
石英閃緑岩																1	1
流紋岩																3	4
安山岩														1		1	2
輝石安山岩							1	1								6	8
黒色安山岩	2	1	1		27					26	15	71	4	497	79		723
灰色安山岩															1		1
安山岩								1									1
礫灰岩																1	1
珪質礫灰岩																1	1
溶結礫灰岩																1	1
砂岩														1		4	5
珪質頁岩					1						1	1		3		2	8
黒色頁岩	2				4		2			1	17	5		21	4	26	82
点紋頁岩																1	1
青色珪質岩															1		1
珪質安山岩														1		4	5
不明																12	12
計	4	1	1		32		2	3	1	27	33	77	4	524	85	63	857



第129図 第16ブロック(周縁部)水平分布図(1/60)
(ワク内の遺物分布は第130図に拡大して収録)

接合資料は51例180点とかなり多く、礫を除いた総点数からみた接合率も約22.7%と高い割合を占めており、石器製作址的な様相が強い。資料の分布自体は大部分がブロック内で完結するものの、一部は第14ブロックの資料との間に接合関係を持つ。

接合資料15 (第134～136図、写真図版31)

石核と石核接付き剥片と9点の剥片の計11点から成る。原材がほぼ復元できる資料だが、やや質が劣る石材のために縦長剥片が剥離しにくいと考えられたのか、剥離面の調整段階直前で工程が中止されている。打面作出剥片は打ち欠かされているが、人為的なものか偶発的なものなのかははっきりしない。剥片もその大部分が石核の側面調整に伴う資料である。原礫の大きさは長軸約20cm、中軸約16cm、短軸約10cmのやや扁平な楕円球状で、石材は黒色安山岩である。

①(2940+2954+2978+3527)→②→③(2972+2973+2977+3259→2948)→④(3296)→⑤(2963)

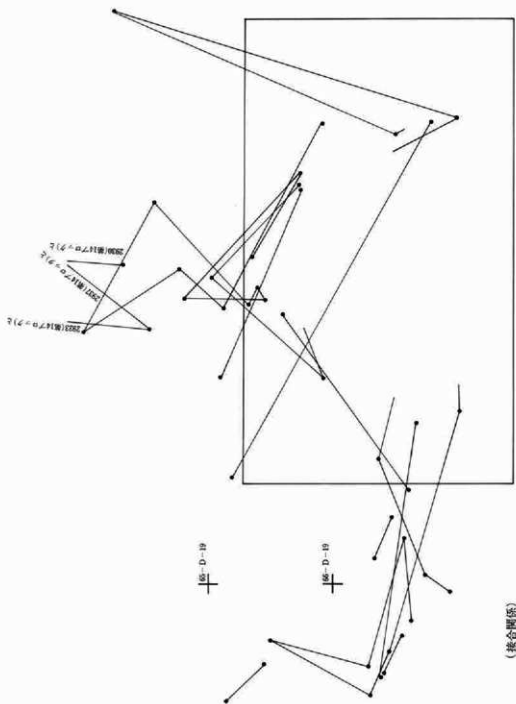
①原礫のやや尖った様な部分の礫面を打点として、打面作出剥片を剥出して打面を作出する。この加撃の際の衝撃によるものか、あるいはその後打ち割ったのかは不明であるが、打点部分が打ち欠かれて3点の剥片が得られる。②打点部分付近に打点を設定し、石核の側面調整として正面より左側から1枚剥ぎ取る。③その剥離面に打点移動し、右側面調整の剥片を2枚剥出するが、その内の1枚はその際の衝撃によるものかは不明であるが4点に砕かれる。④当初の作出打面に転位し、石核接付き剥片を1枚剥出する。⑤石核が残存する。

接合資料16 (第137～139図、写真図版32)

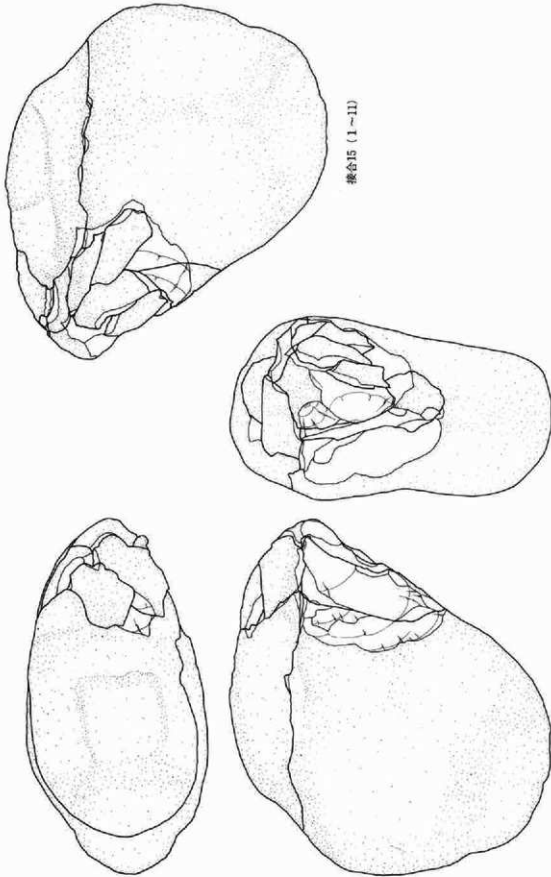
石核と14点の剥片から成る。この資料はほぼ原礫の形状を復元する事が可能であり、やや扁平な楕円球の両側の平らな面を打ち欠く事により3分割としたものの、真ん中の円盤状の部分を素材としている。分割面ともう一方の分割面との間の厚さはほぼ等しいため、この素材から得られる剥片の長さはかなり規制されている。打面は分割面や剥片剥離面を用いているが、打面調整や石核側面調整が行われないうちに、縦長と横長の剥片が不規則に剥出される。石核は第IV類に属する。石材は黒色安山岩である。

①→②→③(4386→4030)→④(4070)→⑤(4055)→⑥(3590)→⑦→⑧(3583+3031→4086)→⑨(4089)→⑩(4017+3559→4639+4315)⑪(3050)→⑫(3072)

①原礫の長軸に平行する形で、扁平な両礫面をそれぞれ側面側の同一方向から打ち欠いて3分割とする。②真ん中の部分を石核素材として、その一端の礫面を打点として表面が礫面の剥片を剥ぎ取り、打面を作出する。③その打面に打撃を加えて、剥離面調整を含めて4枚かそれ以上の剥片を剥出する。④その剥離面に90°の打面転位し、1枚の剥片を剥出する。⑤その剥離面を打面として90°転位し、1枚の剥片を剥出する。⑥前後関係がはっきりしないが、側面に残存する礫面を打面として、1枚の剥片を剥出する。⑦その後の工程がしばらくははっきりしないが、剥離面を打面として再び90°の打面転位を行った様で、数回の剥離面が認められる。⑧最終に近い剥離面に90°の打面転位し、3枚程の剥片を剥出するが、その内の1点はさらに折断が施されている。⑨もう一方の側面に残存する礫面を打面として2回程の剥離面を行って打面を作出し、1枚の剥片を剥出する。⑩打面を転位し、連続して2枚の剥片を剥出するが、2枚共に折断される。⑪その剥離面を打面として90°転位し、1枚の剥片を剥出する。⑫石核が残存する。



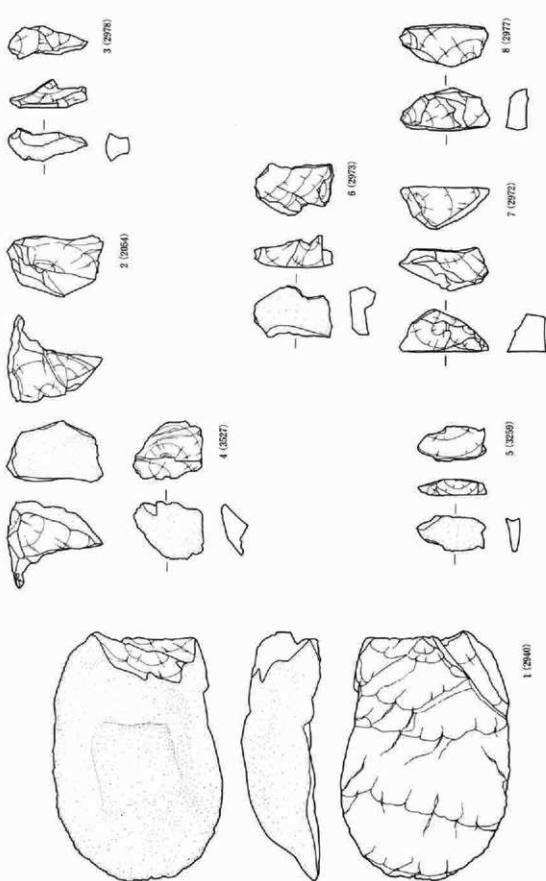
第131図 第16ブロック（照緯部）水平分布図（1/60）
（ワク内の遺構分布は第132図・133図に拡大して取録）



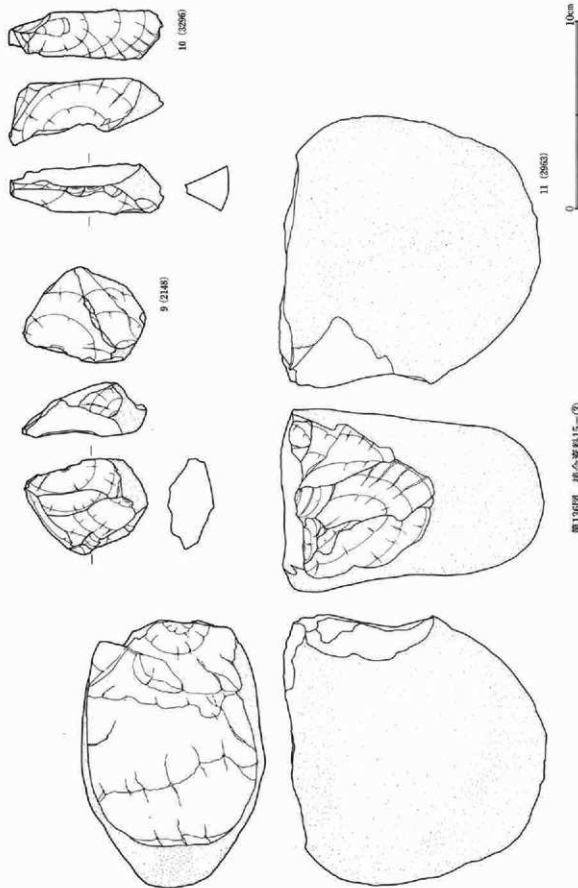
様合15 (1~11)

0 10cm

第134図 様合資料15-0



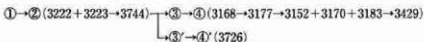
第135図 検出資料15-②



第136図 組合資料15-③

接合資料17 (第140・141図、写真図版30)

石核と9点の剥片の計10点から成る。接合した状態に残存する礫面から、原礫の形状はやや扁平な楕円球状と考えられる。主として縦長の剥片が剥出されているが、折断も認められる。



①打面を作出する。それ以前の段階の1枚の剥離が認められるが、分割のためかどうかは不明である。②少なくとも3枚程度の剥片を剥出するが、その際に加撃の衝撃のためか、剥片の1つは長軸方向にほぼ2つに分割される。これ以後の工程が2つに分かれる。③剥離面を打面として加撃し、打面を作出する。④3枚以上の剥片を剥出するが、それらの剥片に折断を施す。もう一方の工程は、③'分割面を打面とし、2枚の剥片を剥ぎ取る。④'石核が残存する。

接合資料18 (第142図、写真図版33)

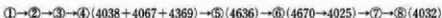
石核と打面作出剥片と縦長剥片、それに3点の剥片の計6点から成る。主として縦長剥片を剥出する剥片剥離工程を示しているが、石核の素材自体の形状に規制されるために幅の広い剥片が多い。縦長剥片は両端への折断により打点部と先端部が失われている。石核は第I類で、石材は黒色安山岩である。



①角柱状、あるいは楕円球状の原礫を分割するが、前後関係がはっきりしない剥離が側面に存在する。②石核素材の礫面の一端に剥離を加えて2枚の剥片を剥出し、打面を作出する。③連続して4枚程度の剥片を剥出する。その後、その内の1点が両端を折断される。④石核が残存する。

接合資料19 (第143図、写真図版33)

石核と2点の縦長剥片、それに4点の剥片の計7点から成る。接合状態から見て、原礫は角柱状と推定され、全体の1/6あるいは1/8の部分がいわれているが、この事は2箇所、あるいは3箇所に認められる分割面から判断される。石核は第III類で、石材は黒色安山岩である。



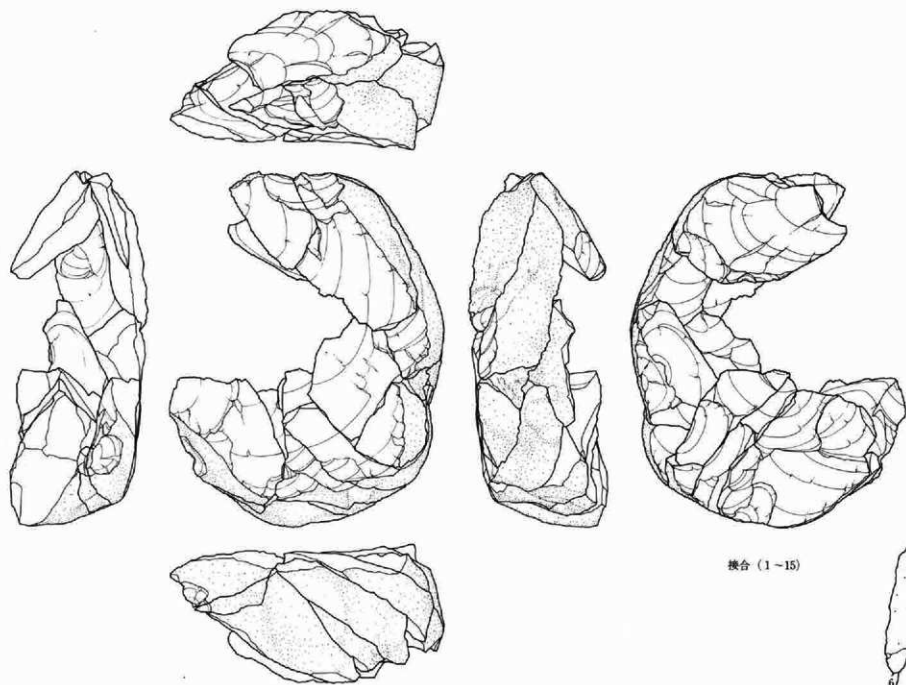
①角柱状の原礫を、その長軸に直行する形で2あるいは3回の分割を行う。②一方の分割面から直交する形で分割する。③礫面を打面として1枚の剥片を剥ぎ取る。④その剥離面に打面転位して1回の打撃を加え、縦長剥片を剥出しようとするが、打点部を中心に3片に分割された状態となる。⑤その剥離面に90°の打面転位をし1枚を剥出する。⑥打面を180°転位し3枚の剥片を剥出するが、その際の打面部に認められる小さな剥離が、この打面転位の直前に行われたのか、あるいはそれ以前の古い段階に行われたのかははっきりしない。⑦打面を180°転位し1枚の剥片を剥ぎ取る。⑧石核が残存する。

接合資料20 (第144図、写真図版33)

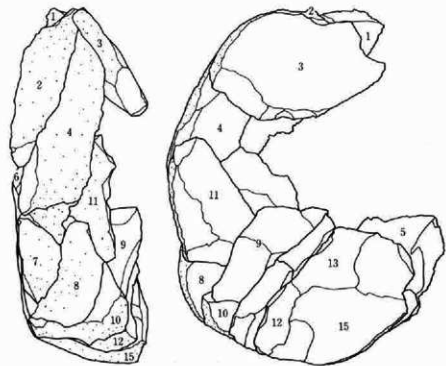
石核と加工痕ある剥片、それに5点の剥片の計7点から成る。石核素材が分割によるものなのかははっきりしないが、その可能性は高い。縦長や横長、それに長幅比のほぼ等しい寸詰まりの剥片を剥出しているが、主体はやはり縦長である。石核は2箇所の打面を持つ第III類であるが、打面転位後は主として一定方向への剥片剥離を主としている。なお、加工痕ある剥片は寸詰まりの剥片の左側縁に3回の調整を加えた資料であり、ナイフ形石器の範疇に含めて考える事が可能なもので、「立野ヶ原型」ナイフ形石器との関連も併せて考えられる。石材は黒色安山岩である。



①打面を作出する。②表面に礫面が残存する剥片を剥出する。③その剥離面を打面とし、3枚の剥片を剥

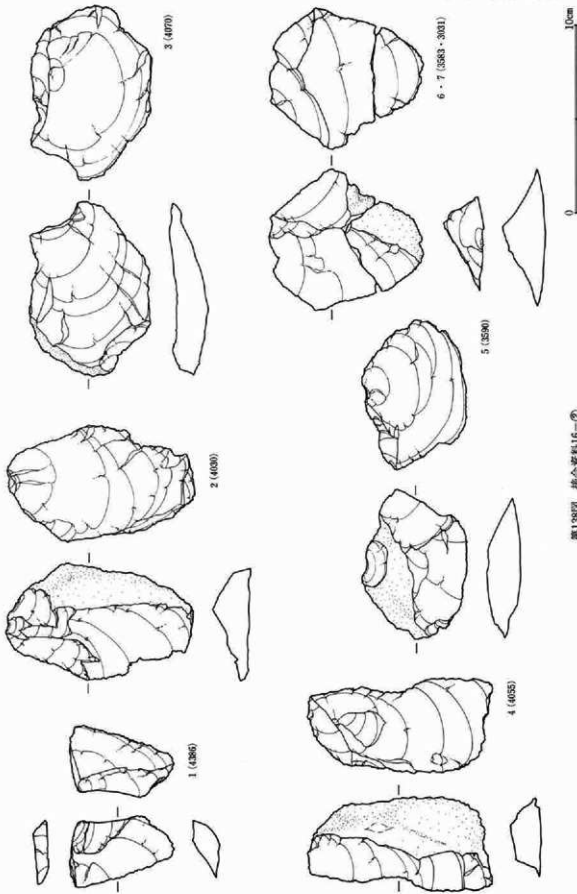


接合 (1-15)

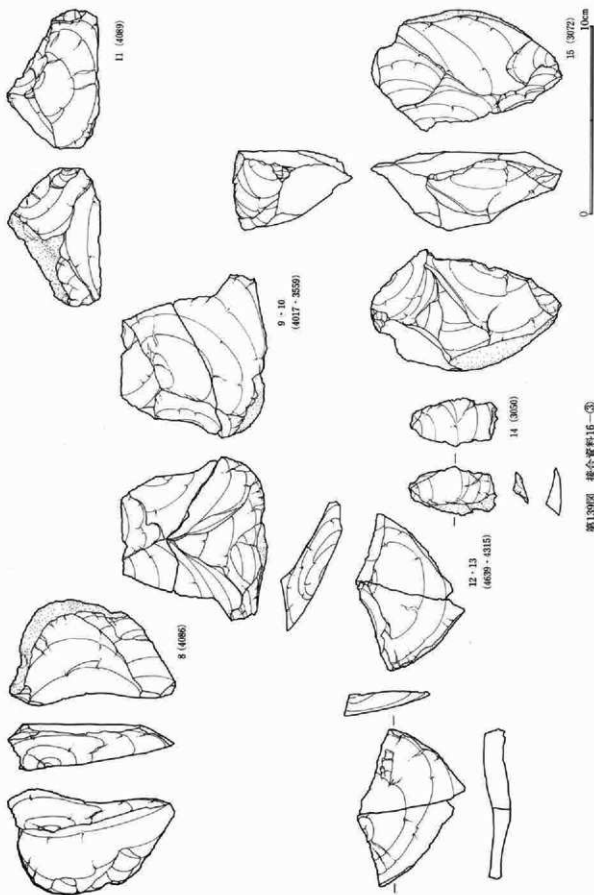


0 10mm

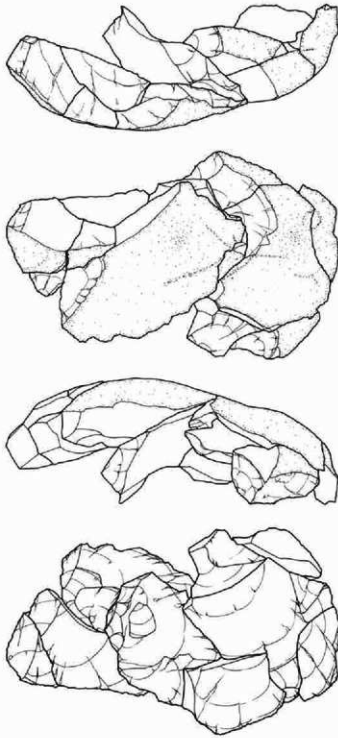
第137图 接合資料16-① 接合圖及U模式圖



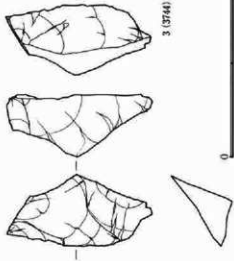
第136図 接合資料16-②



第139図 検出資料16-⑤

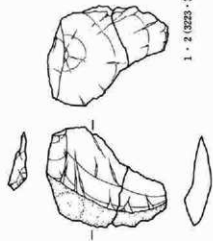


接合17 (1~10)

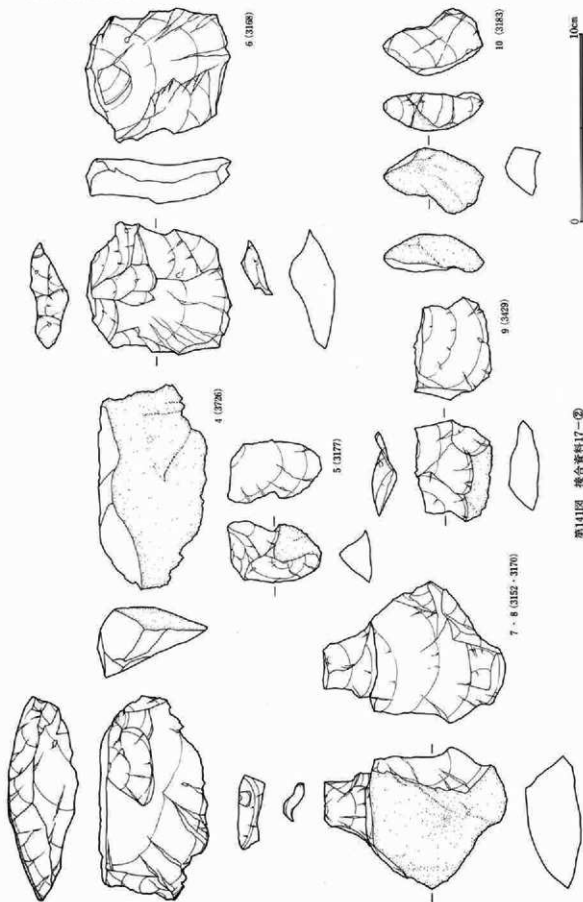


3 (3764)

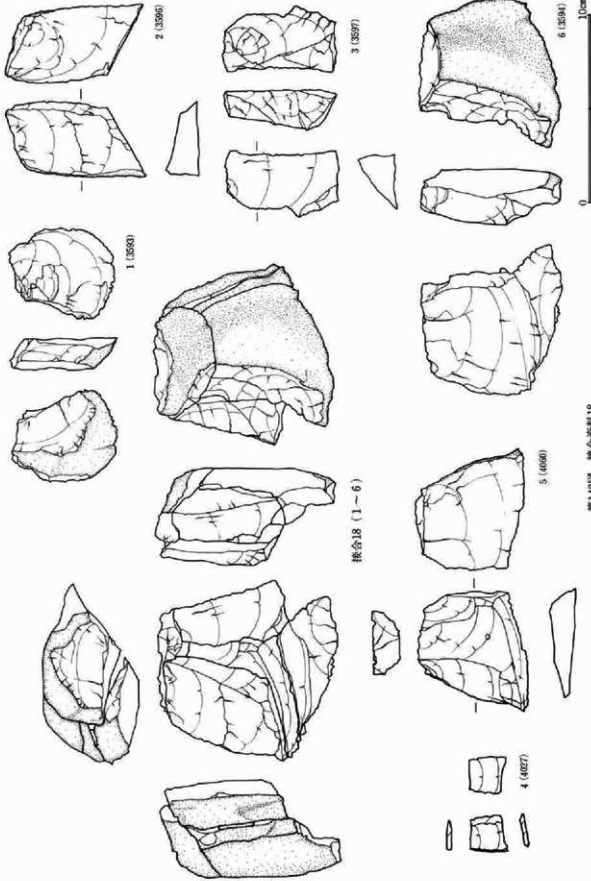
第140図 接合資料17-①



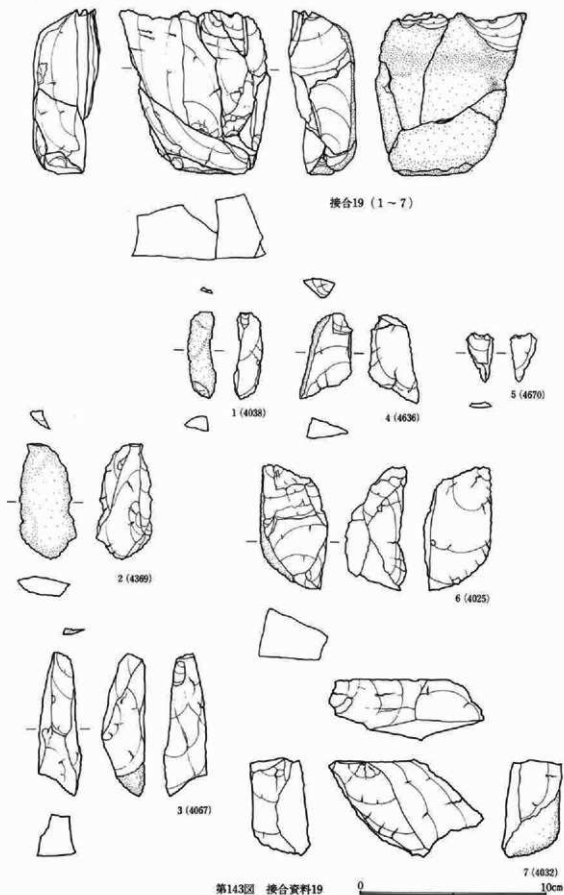
1・2 (3223・3222)

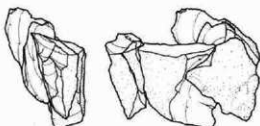


第141図 接合資料17-②

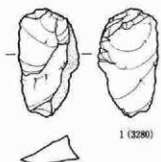


第142図 様合資料18

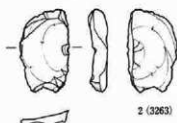




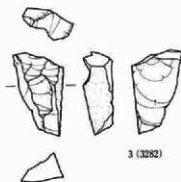
接合20 (1~7)



1 (3280)



2 (3263)



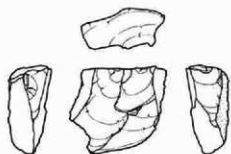
3 (3282)



4 (3534)



5 (3030)



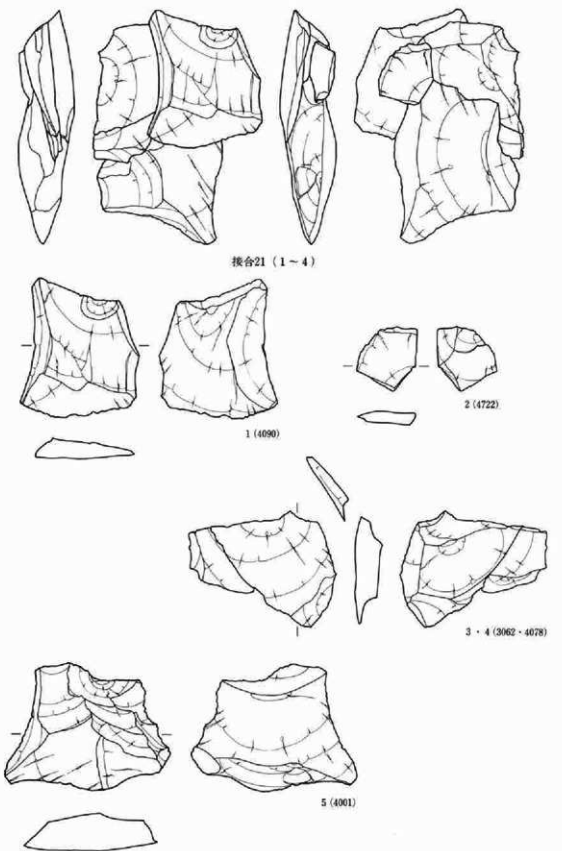
7 (3283)



6 (4659)

第144図 接合資料20





第145図 接合資料21

0 10cm

出する。その後の工程がしばらく不明である。④新たな打面を作成する。⑤剥片を9枚程剥出する。⑥石核が残存する。

接合資料21 (第145図)

折断を含む5点の剥片から成る。大形の剥片が多く、打点が円を描く様に移動して求心的な剥片剥離工程を示している事から、石核は円盤状の第IV類、もしくは第V類が想定される。石材は黒色安山岩である。

①→②(4090)→③→④(4078+3062→4001+4722)

①打面を作成する。これ以前の工程はほとんど不明であるが、分割面が残存する事から分割した素材を利用したと考えられる。②2枚程の剥片を剥出する。③打点を90°移動して、打面を作成する。④その打面から連続して5枚程の剥片を剥出する。これ以後の工程は不明である。

接合資料22 (第146図、写真図版33)

石核と縦長剥片と2点の剥片の計4点から成る。両設打面による剥片剥離工程を示す最良の資料であり、当然、石核は第II類に属する。石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④→⑤→⑥(4747→4626)→⑦(3571)→⑧(4021)

①礫を分割する。②打面を作成する。③少なくとも3枚以上の剥片を剥出する。④相対する一端に打面を作成する。⑤剥片を4枚程剥出する。⑥180°打面転位し、剥離面頭部調整を含めて5枚程の剥片を剥出する。⑦打面を再び180°転位し、3枚程の剥片を剥出する。⑧石核が残存する。

接合資料23 (第146・147図)

2枚の大形の剥片から成る。石材は黒色安山岩である。

①→②(3715)→③→④(3174)

①打面を作成する。②剥離面頭部調整を含めて9枚程の剥片を剥出する。③90°打面転位し、剥離面を打面として2枚程の剥片を剥ぎ取る。④剥離面を打面とし、再び90°打面転位して1枚の剥片を剥出する。

接合資料24 (第147図)

石核と剥片の2点から成る。石核は第III類に属し、石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④(4052)→⑤→⑥(4088)

①礫を分割する。②打面を作成する。③大形の剥片を剥出する。④剥片をほぼ中央で折断し、一方を石核素材とする。⑤最初の分割面、及び剥離面を打面として、それぞれ2～3枚の剥片を剥ぎ取る。⑥石核が残存する。

接合資料25 (第148・149図)

縦長剥片と7点の剥片の計8点から成る。石材は黒色安山岩である。

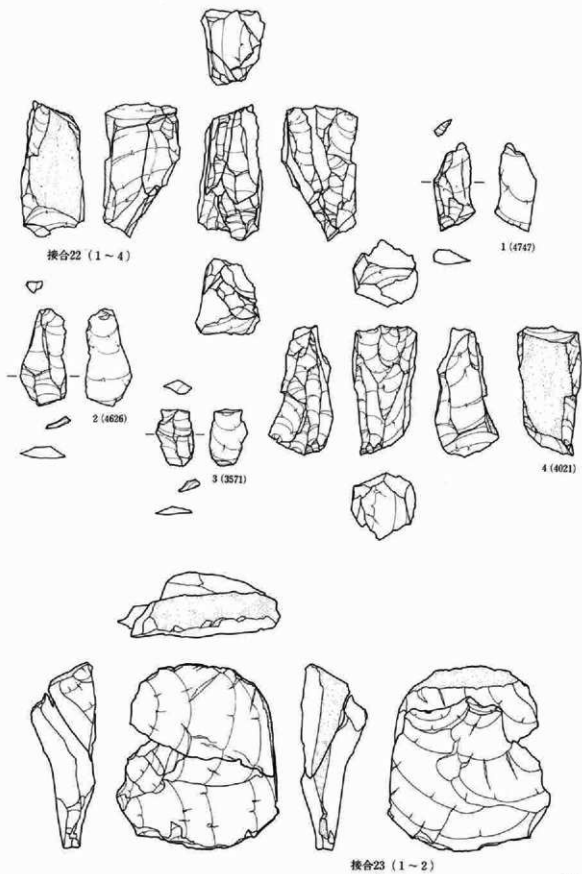
①→②→③(4075)→④→⑤(3536→3550→4620→4735)→⑥→⑦(4303→4043→3588)

①礫を分割する。②打面を作成する。③縦長剥片を1枚剥出する。④前後関係ははっきりしないが、直交する形で相対する位置から1枚ずつ剥片を剥ぎ取る。⑤再び元の打面に転位し、剥離面頭部調整を含めて10枚程の剥片を剥出する。⑥打面に剥離面とは反対の剥離を2回程加えて、新たな打面を作成する。⑦少なくとも5枚、あるいはそれ以上の剥片を剥出する。

接合資料26 (第150図、写真図版33)

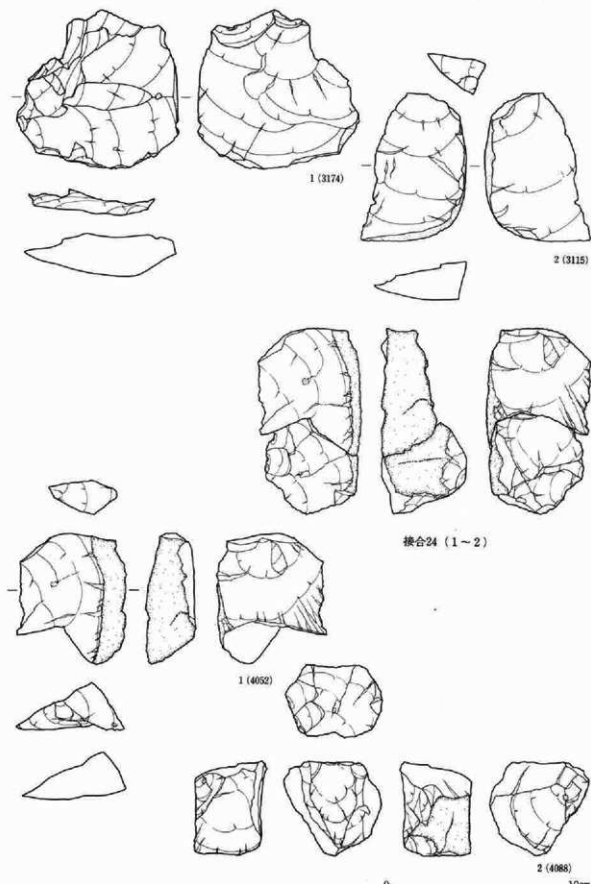
石核と石刃状剥片と剥片の計3点から成る。素材は大形の剥片であり、石核は両設打面の第II類に属する。剥片については打面作出に伴う剥片と考えられる。石材は黒色安山岩である。

①→②(4318)→③→④→⑤(4785)→⑥→⑦→⑧(3580)

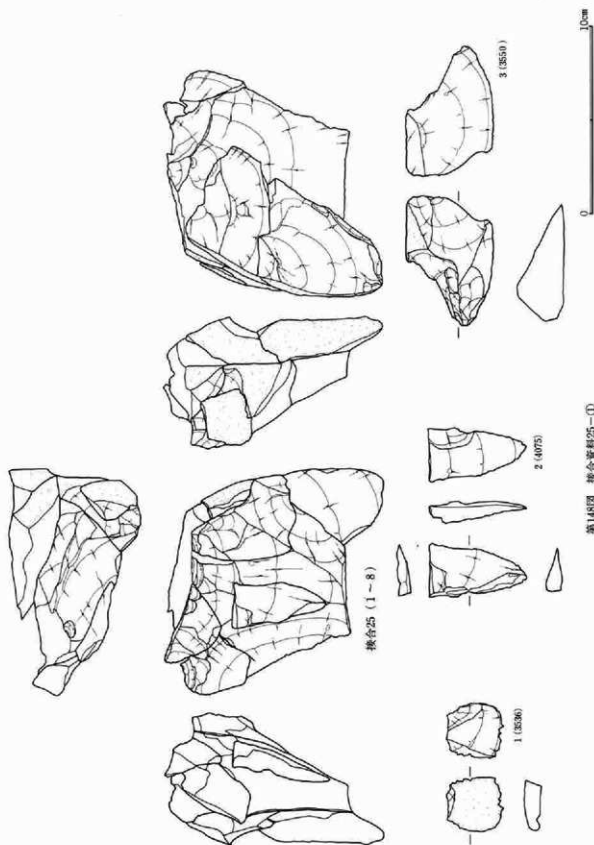


第146図 接合資料22・23-①

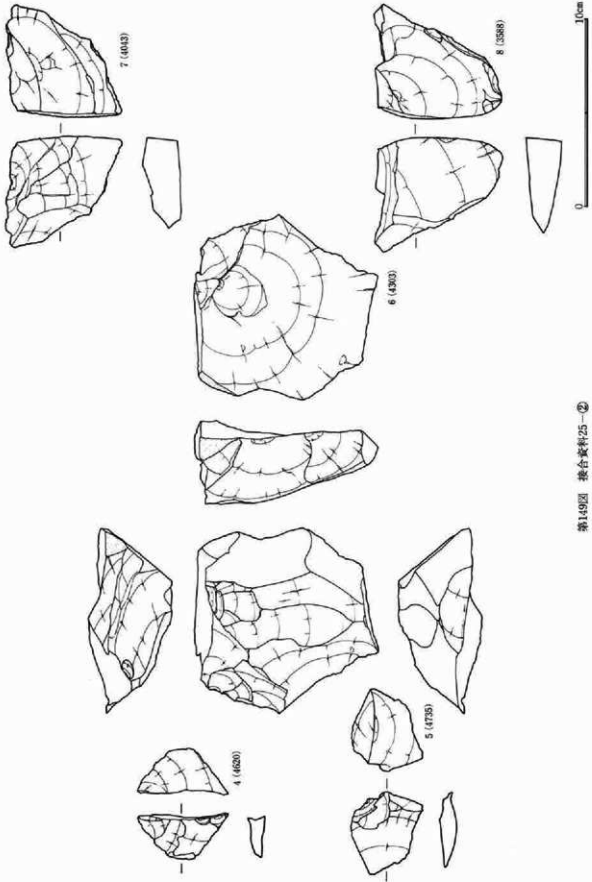
0 10cm



第147図 接合資料23-②・24



第148図 検出資料25-①



第149図 接合資料25-②

①打面を作出する。②石刃状剥片を含む4枚程の剥片を剥出する。③打面を180°転位し、1枚の剥片を剥ぎ取る。④石核素材の大形剥片を剥出する。⑤打面を作出する。⑥180°打面転位し、頭部調整を含めて4～5枚程の剥片を剥ぎ取るが、この打面の作出段階ははっきりしない。⑦打面を再び180°転位し、3枚程の剥片を剥ぎ取る。⑧石核が残存する。

接合資料27 (第150図)

折断により2点に分割された剥片を含めた3点の剥片から成る。石材は黒色安山岩である。

①→②→③(4343→3547+4657)

①分割の痕跡と思われる剥離面の存在から分割が行われたと考えられる。②打面を作出する。③連続して4枚の剥片を剥出するが、その内の1点について折断を施す。その後の工程は不明である。

接合資料28 (第151図、写真図版33)

石核と縦長剥片と剥片の3点から成る。石核は板状の剥片を素材とし、単設打面からの一定方向のみの剥片剥離を施す第1類に属する。左側面には分割面、右側面には素材の剥片の剥離面が認められる。剥出される剥片は主として縦長であり、打面の調整は認められない。石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④(4044)→⑤(4061)→⑥→⑦(4083)

①礫を分割する。②石核素材の剥片を剥出する。③打面を作出する。④一端より4枚程の剥片を剥出する。⑤もう一端より3枚程の剥片を剥出する。⑥分割の痕跡が認められる面で2枚程の剥片を剥ぎ取る。⑦石核が残存する。

接合資料29 (第151図)

2点の剥片から成る。一方については、打面作出剥片とも、打面再生剥片とも考えられるが、次の工程ははっきりしない事からあえて剥片とする。石材は黒色安山岩である。

①→②(2960)→③→④(3262)

①礫を分割する。②打面を作出する。③1枚の剥片を剥ぎ取る。④礫面に打面を90°転位し、横長の剥片を剥出する。

接合資料30 (第152図、写真図版33)

石核と2点の剥片の計3点から成る。素材は大形の剥片であり、一部に分割面を残す。石核は第IV類に属し、石材は黒色安山岩である。

①→②→③(3197→4392)→④(4033)

①礫を分割する。②礫面、あるいは分割面を打面として、2～3枚程の剥片を剥ぎ取る。③それらの剥離面を打面とし、石核の周縁部で打点の移動を頻繁に行い、6枚程の剥片を剥出する。④石核が残存する。

接合資料31 (第152・153図)

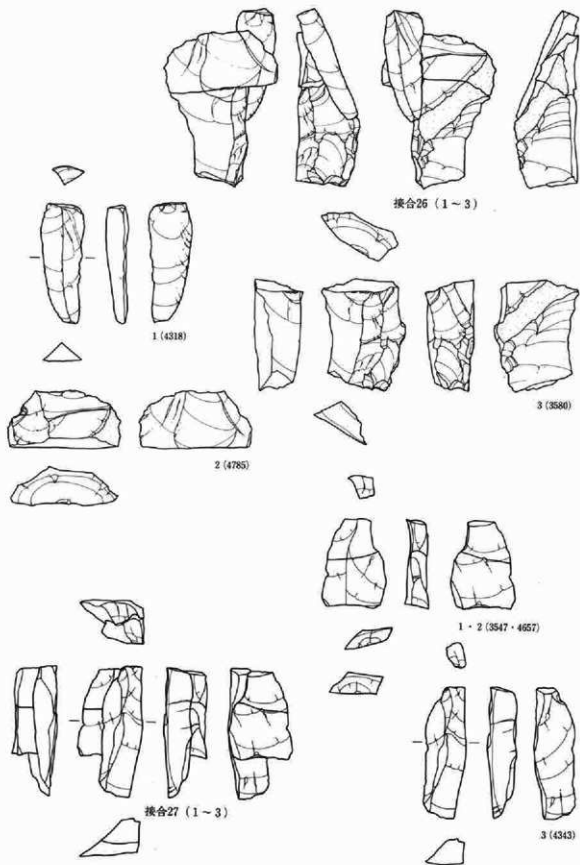
折断された資料も含めて、5点の剥片から成る。礫面、あるいは礫面に沿った1枚の剥離面を打面として、5～6枚程の剥片が剥出される資料(4732+4800→3493→2967→3203)であるが、打面を左右に移動させながら後退しており、横長の剥片や寸詰まりの剥片を連続して剥出する。

接合資料32 (第153図、写真図版33)

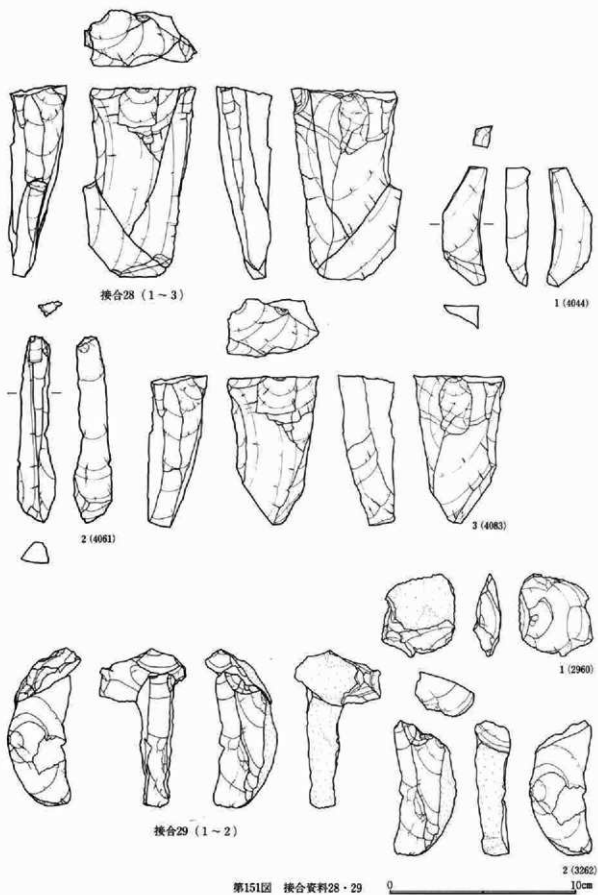
石核と石刃状剥片と縦長剥片の計3点から成る。石核は第1類に属し、石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④(4098→4705)→⑤(4087)

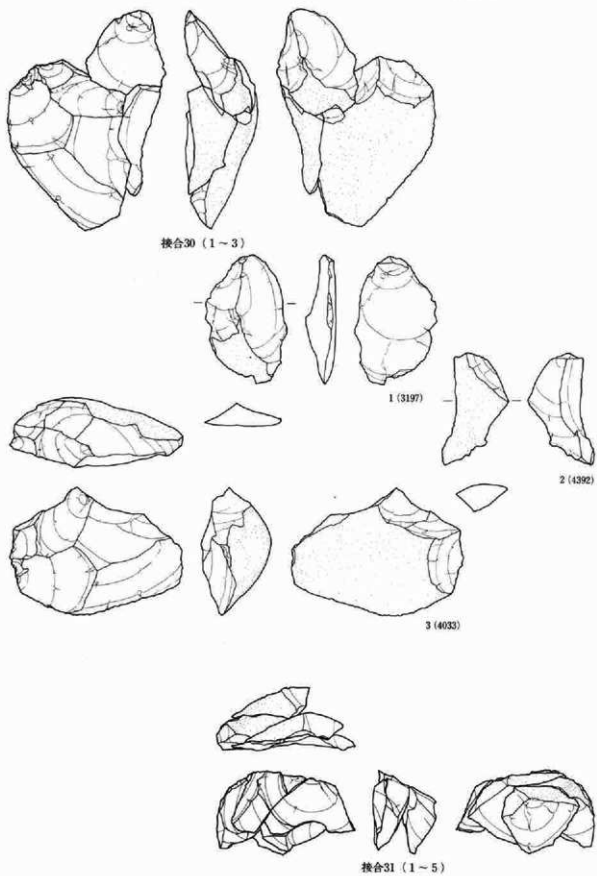
①礫を分割する。②周縁から礫面を打面として2～3回程の打撃を加えるが、しっかりした剥片を剥ぎ取るものではない。③打面を作出する。④6～7枚程の縦長の剥片類を剥出する。⑤石核が残存する。



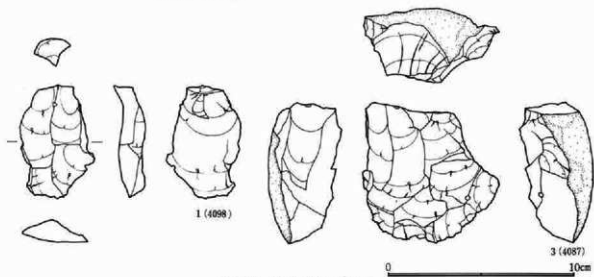
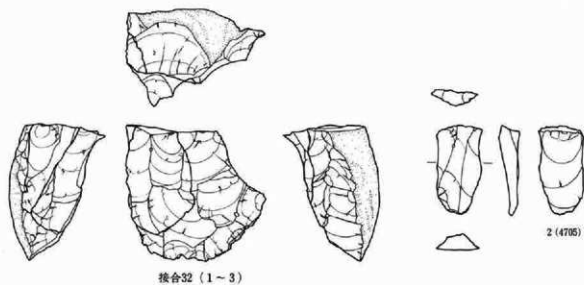
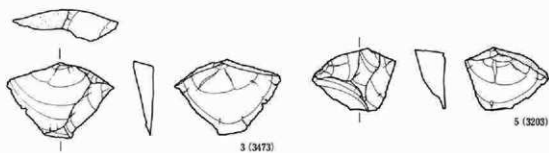
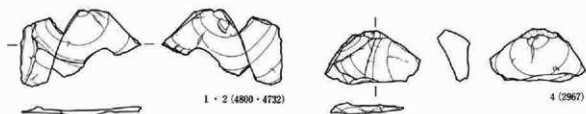
第150図 接合資料26・27 0 10cm



第151図 接合資料28・29



第152図 接合資料30・31-①



第153図 接合資料31-②・32

接合資料33 (第154図)

石核と剥片の2点から成る。分割面あるいは大形の剥片を素材とし、3面の打面を持つ石核で、第Ⅲ類に属する。石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④→⑤→⑥(3577)→⑦→⑧(3585)

①打面を作出する。②2枚程の剥片剥離に続いて、石核素材となる大形の剥片を剥出する。③打面を剥出する。④3～4枚程の剥片を剥出する。⑤剥離面に90°の打面転位し、3枚程の剥片を剥ぎ取る。⑥この剥離面に再び90°の打面転位をし、4～5枚程の剥片を剥出する。⑦最終剥離面を打面とし、1枚の剥片を剥ぎ取る。⑧石核が残存する。

接合資料34 (第155図)

2点の縦長剥片と剥片の計3点から成る。同一打面から連続して8枚程の剥片が剥出された資料(3521→3557→3513)であり、2点の縦長剥片は折断されている。石材は黒色安山岩である。

接合資料35 (第155図)

2点の縦長剥片から成る。同一打面から剥出されているが、相対する方向からの剥離面の存在から、打面転位を交互に行った剥片剥離工程を示した資料(4635→4045)である。石材は黒色安山岩である。

接合資料36 (第156図)

石核と2点の剥片の計3点から成る。石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④→⑤→⑥(3563→4321)→⑦(4384)

①礫を分割する。②打面を作出する。③2枚程の剥片を剥ぎ取る。④分割面に打面転位し、3枚程の小さな剥片を剥ぎ取る。⑤打面を作出(あるいは、②の段階への転位)する。⑥4枚程の剥片を剥出する。⑦石核が残存する。

接合資料37 (第156図)

縦長剥片と剥片の2点から成る。同一打面から連続して剥出された資料(3556→3565)だが、表面に残存する剥離痕から開設打面、あるいは求心的な周縁からの剥離を持つ石核のいずれかが想定される。石材は黒色安山岩である。

接合資料38 (第157図)

折断により二分された資料を含む3点の剥片から成る。石核は剥片の裏面や打面に認められる剥離面から円盤状を呈した求心的な周縁からの剥離を持つ石核と考えられるが、その石核の表面の大部分を残存する剥片を剥出する段階までを示した接合資料(2980→3419+3272)である。石材は黒色安山岩である。

接合資料39 (第158図)

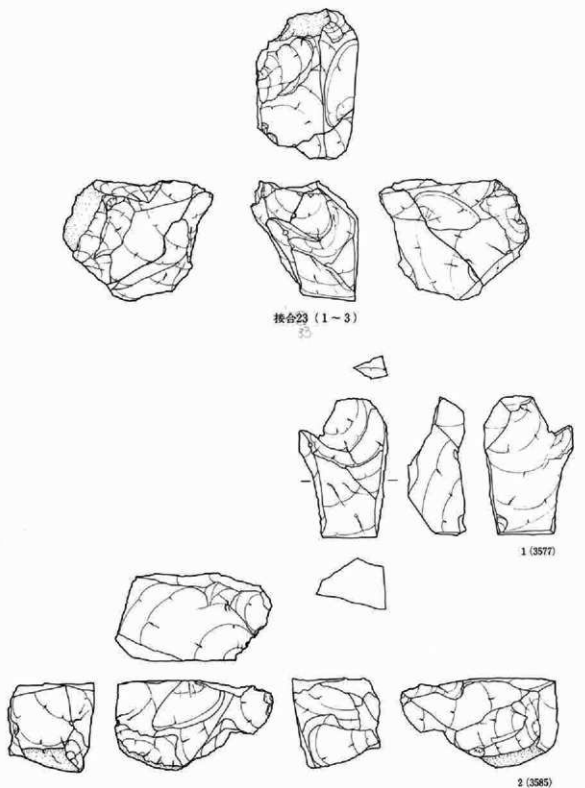
1点の横長の剥片を素材とし、剥離時の加撃、その後の折断により5点以上に分割した資料(4020+4056+4367+4693+4696)であり、石材は黒色安山岩である。

接合資料40 (第158図)

2点の剥片(3149+3151)から成るが、見方によっては打面作出剥片と石核とも言える。ただし、殆んど剥片らしい剥片は剥出されていない事から、石核と認定しない事とした。石材は黒色安山岩である。

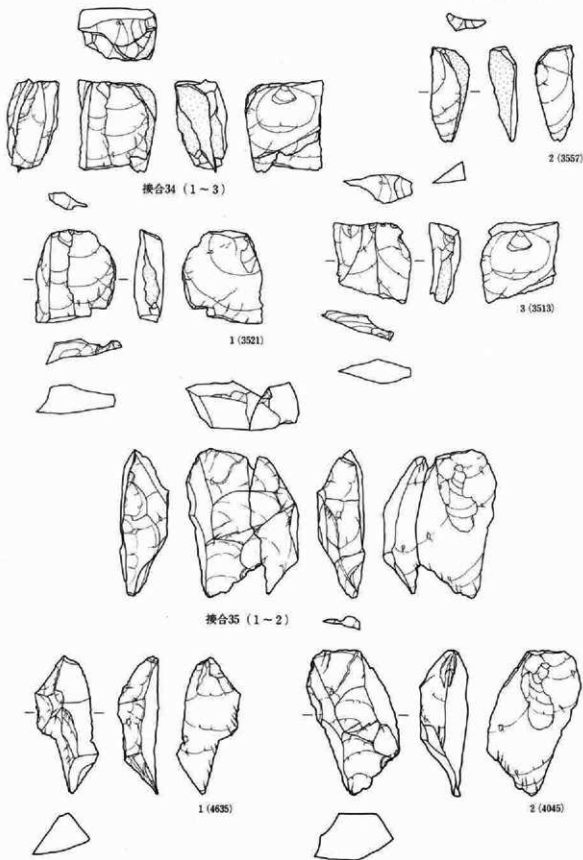
接合資料41 (第158図)

1点の石刃状剥片が4点(内1点は失われている)に折断された資料と石刃状剥片の計4点から成る。残存する剥離面と先端部からは開設打面か、あるいは両極打法の存在が認められる。(3287→3574+4590+3518)



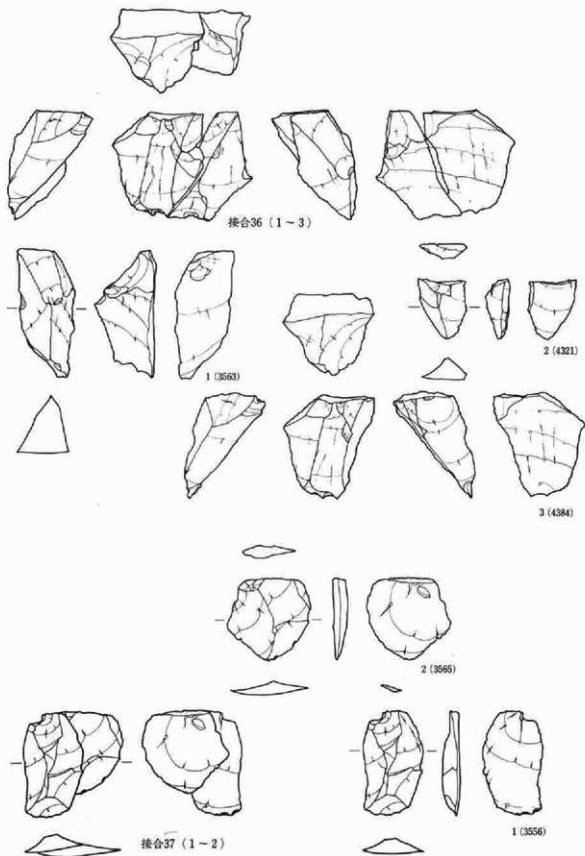
第154図 接合資料33

0 10cm



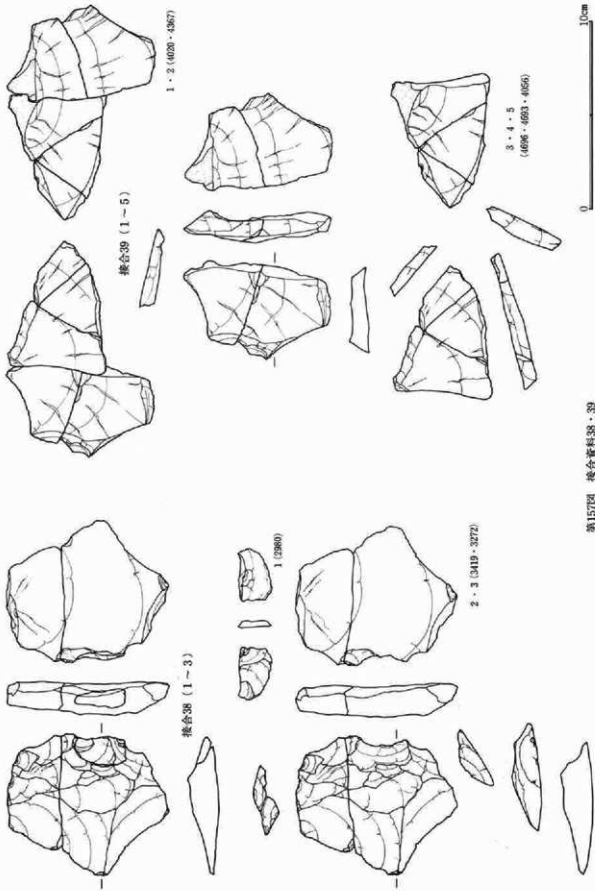
第155図 接合資料34・35

0 ————— 10cm

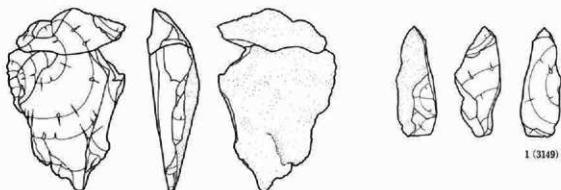


第156図 接合資料36・37

0 10cm



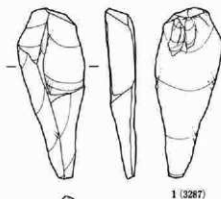
第157図 接合資料38・39



接合40 (1-2)



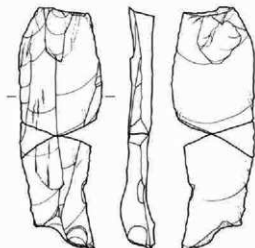
2 (3151)



1 (3287)



接合41 (1-4)



2・3・4
(3574・4590・3518)



第158図 接合資料40・41 0 10cm

接合資料42 (第159・160図、写真図版33)

黄褐色の特徴的な珪質頁岩で、ほぼ原礫の形状に復元される。石核は剥離面と打面が交互に転位する第Ⅲ類に属する。

①→②→③(3225)→④(3436→3412)→⑤(3184)

①三面体に近い礫の一端から2点の表面に礫面を残す剥片を剥ぎ取り、打面を作成する。②その剥離面に打面を90°転位し、4枚程度の縦長剥片を剥ぎ取る。③剥離面に90°の打面転位し、剥片を3枚程度剥出する。④再び剥離面に対して90°の打面転位をして、剥離面頭部調整を含めて7枚程度の剥片を剥出するが、その内の1点には折断を施す。⑤石核が残存する。

この他の接合資料は次の通りである。

剥片4点の接合例 3485→2997→3205→4305 折断を含む剥片4点の接合例 4049→4376→4097+4251

石核と剥片の接合例 3273→3472

剥片2点の接合資料4例 3181→3173、3279→3482、3285→3569、4344→3570

加工痕ある剥片の折断例 4378+4699 (第36図-145)

石刃状剥片の折断例 3292+3500 (第55図-325)

縦長剥片の折断資料3例

3293+3598 (第67図-441)、2982+4317 (第67図-442)、3713+3739 (第69図-458)

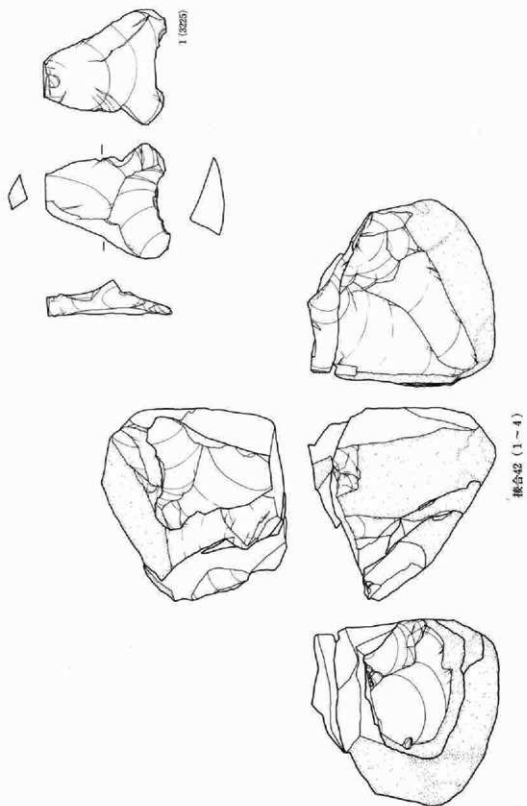
剥片の折断資料10例

2592+3481、2968+2969 (第75図-511)、3025+3723、3066+3071、3173+3181、3198+4672、

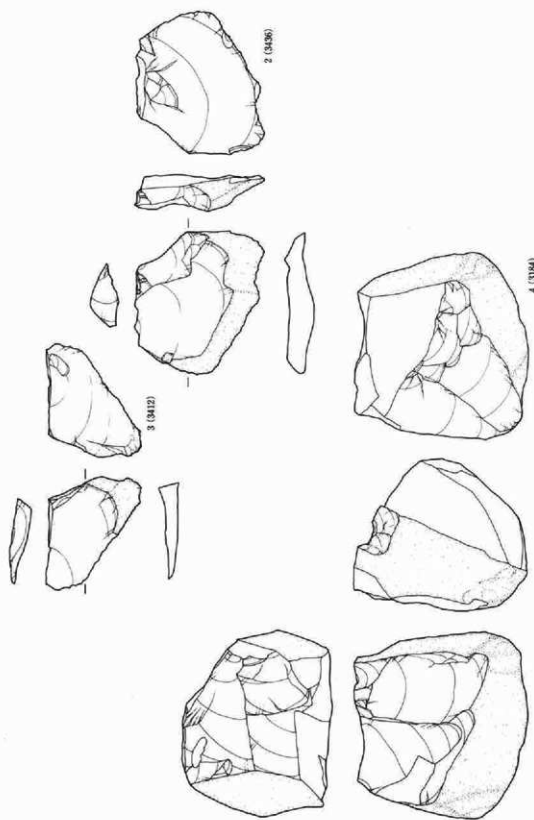
3409+3410、3746+3747、4652+4653、3470+4765

それ以外に、焼成を受けたためか3つに砕けている礫が存在する。(4050+4084+4085)

ブロックの性格としては、居住空間的な面も持つ部分も存在するであろうが、主体としては石器製作場としての場の機能を有すると言える。



第159図 集合資料42-①



第160図 検出資料42-②

第17ブロック

D区、65-D-22グリッド付近、台地の稜線付近より西斜面側の調査区域の南端寄りに位置する。分布状態は直径4m程の不整形な円形を呈し、約7.6㎡の広がりを持つ。出土状態は極めて散漫であり、ブロックと認定した事に問題がある程である。周辺・隣接ブロックとの関係では、東側から西側にかけて反時計回りに第16・第18・第19・第20の各ブロックが存在する。

ブロックを構成する総点数は8点と極めて少なく、石器組成も礫が5点(62.5%)と多いが、ナイフ形石器、敲石が各1点ずつ存在する事は極めて興味深い。この敲石は第19ブロックの資料と接合し、ほぼ中央で折れている(2843+2847、第84図-543)。この事から第19ブロックとの何らかの関係が存在しそうである。

接合資料は前述した敲石の接合例のみである。

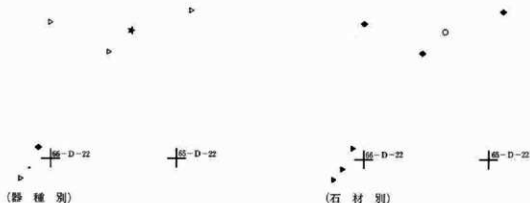
ブロックの性格としては、第19ブロックに伴う廃棄の場か、もしくは第19ブロックに関連する何らかの場の機能を有していると考えられる。

第21表 第17ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名														計		
	ナイフ形石器	石鏃	棒器	彫器	加工使用削片	楔形	石斧 礫器	敲石 磨石	台石	石核	石刀 石状 削片	細長 削片	打作 打再 石核	削片		砕片	重石 礫
輝石安山岩								1									1
黒色頁岩	1													1			1
珪質安山岩																	2
不明																	2
計	1							1						1			5

▷

◆



431.75M

431.25M

第161図 第17ブロック水平・垂直分布図(1/60)

第18ブロック

D区、64-D-20グリッド周辺、台地の稜線付近よりやや西斜面寄りに位置する。分布形態は長軸5m程、短軸3m程の楕円形を呈し、約10.5m²程の広がりを持つ。やや密集する出土状態で、東半分に集中する。北側に第19、東側に第14、南側に第16、西側に第17の各ブロックが隣接して存在する。

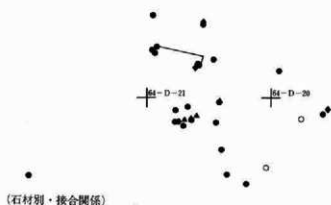
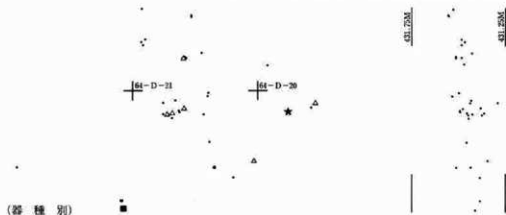
ブロックを構成する総点数は33点で、石器組成は剥片類が23点(約69.7%)と主体を占めるが、加工済ある剥片や台石も各1点ずつ存在する。石材はやはり黒色安山岩が22点(約66.7%)と高い割合を占める。

接合資料は1例2点で、黒色安山岩の剥片の折断例(3110+3113)である。

ブロックの性格は、石核が存在しないものの、石器製作址の場と考えられる。

第22表 第18ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名	ナイフ形石器	石鏃	掻器	形器	加工使用剥片	楔形	石斧 鎌器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打附 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
安山岩																	1	1
輝石安山岩									1									1
黒色安山岩													2		18	2		22
砂岩						1											1	1
黒色頁岩															2		2	5
珪質凝灰岩															1		1	2
不明																	1	1
計						1			1				2		21	2	6	33



第162図 第18ブロック水平・垂直分布図(1/60)

第19ブロック

D区、62-D-22グリッド周辺を中心に位置する。台地の稜線部分より西側斜面寄りに位置する。分布形態は長軸約9m、短軸約6mの楕円形を呈し、面積40.0m²程の広がりを持つ。出土状態は北側部分と中央部分、それに南側部分と3つの部分に分離した形で、それぞれが比較的集中して検出されている。周辺・隣接ブロックは、東側から時計回りに第14・第18・第17・第20・第21・第22・第23の各ブロックが隣接する。

ブロックを構成する検点数は62点。石器組成では剥片類が27点(約46.8%)、礫が21点(約33.9%)と高い割合を占めるが、ナイフ形石器、敲石、石核も存在する。だが6点の敲石に対しての石核の1点のみは興味深い。石材は黒色安山岩がやはり多いものの、石種が不明を含めて12種類も存在する。

接合資料は4例8点だが、1例2点は第17ブロックで説明した敲石の接合例であり、残りの3例は、剥片同士の接合例(2861→2856)、縦長剥片の折断例(2871+2891)、剥片の折断例(2831+2867)で、3例共P



第163図 第19ブロック水平・垂直分布図(1/60)

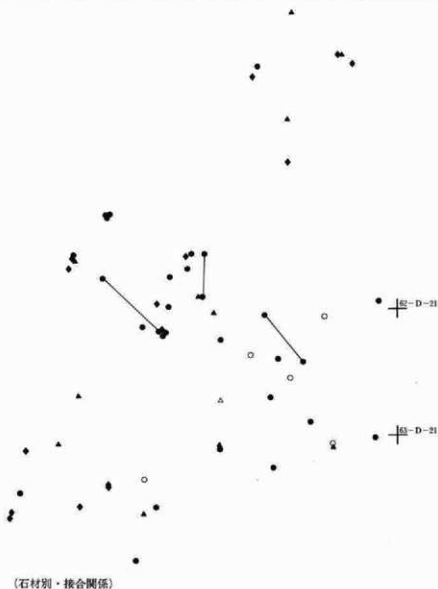
ロック内で完結する。それぞれが1m以内の距離の接合であり、中央部に偏って存在する。

ブロックの性格を考える上では、北側と南側の礎を除外し、中央部に敲石やナイフ形石器、それに接合資材が集中する事から石器製作址の場、あるいは道具類の置き場的な意味を持っていると考えられる。

第20ブロック

D区、65-D-25グリッド周辺、台地の稜線付近より西側斜面寄りで調査区域内の南端部分に位置する。分布形態は長軸約7m、短軸約3mの細長い楕円形を呈し、面積は17.8㎡程の広がりを持つ。出土状態は中央部にやや空白部を持ち、集中が南側部分と北側部分に二分して存在している様にも見える。北側から第21・第19・第17の各ブロックが時計回りに隣接しているが、西側は町道、南側は調査区域外のために不明。

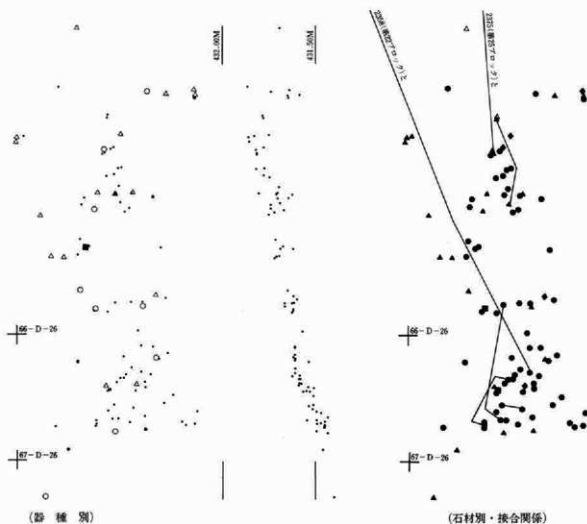
ブロックを構成する総点数は95点。石器組成は加工痕ある剥片、石核、石刃類等から成るが、剥片類が63点（約66.3%）と高い割合を占め、礫も比較的多い。石材はやはり黒色安山岩が63点（約66.3%）と多いが



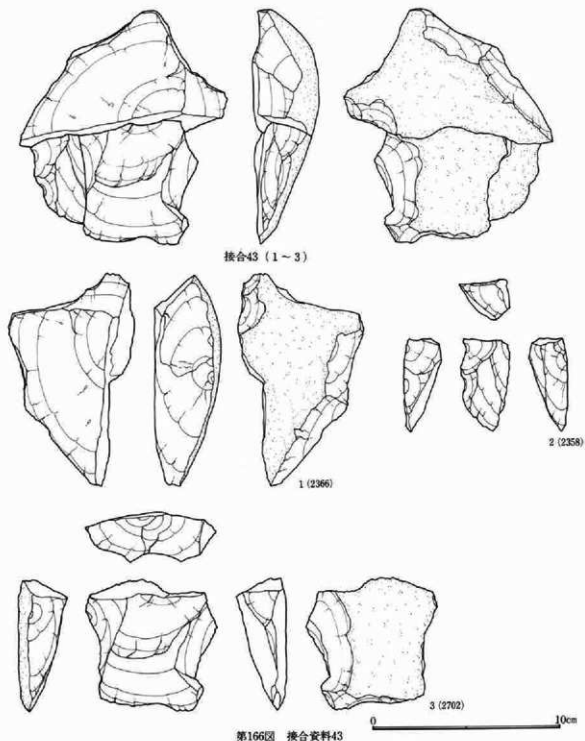
第164図 第19ブロック水平分布図 (1/60)

第23表 第19ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石錐	棒器	形器	加工 使用 剥片	微形	石斧 礮器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石次 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
花崗岩							1										1
石英斑岩																1	1
輝緑岩																1	1
安山岩																1	1
輝石安山岩							4										4
黒色安山岩										1	2			25	2		30
凝灰岩																1	1
砂岩							1									5	6
頁岩	1																1
黒色頁岩										1			2		8		11
珪質雲母質岩															1		1
不明							1								3		4
計	1						7			1	1	2		27	2	21	62



第165図 第20ブロック水平・垂直分布図 (1/60)



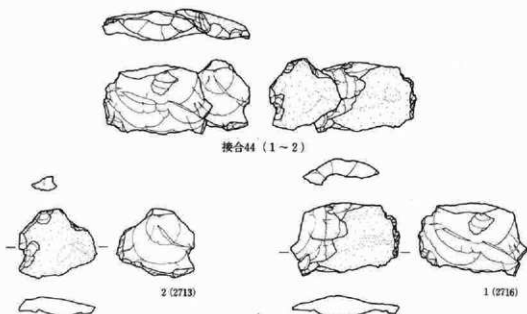
第166図 接合資料43

黒色頁岩も23点と比較的多いものの、その内の10点は礫である。

接合資料は6例15点で、4例8点はブロック内で完結するが、1例3点は第22ブロック、1例4点は第25ブロックのそれぞれの資料との間に接合関係が存在する。特に後者は接合資料100として後で説明する。

接合資料43 (第166図、写真図版33)

石核と2点の剥片から成る。礫面が表面に残存する分割剥片を素材とし、石核は折断面と礫面を打面とする第Ⅲ類である。石材は黒色安山岩である。



第167図 接合資料44

0 10cm

第24表 第20ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石鈎	石錐	標器	形器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 礮石	敲石 礮石	台石	石核	石万 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 礮	計
流紋岩					1					1	1	3		49	8	1	1
黑色安山岩														1		1	63
砂岩														1			2
頁岩														1			1
珉質頁岩											1	1					2
黑色頁岩											7	2		4		10	23
点紋頁岩																1	1
珉質燧頁岩																1	1
不明																1	1
計					1					1	9	6		55	8	15	95

①→②→③(2366)→④(2358)→⑤(2702)

①原礮を分割する。②分割面を打面として、ほぼ輪切り状に素材の剥片を剥出する。③剥片を中央で2つに折断する。これと前後して剥片の周縁に認められる剝離を施す。④折断された一方の剥片の礮面に打点を移動して2～3枚の剥片を剥出する。⑤折断面を打面として、1枚の剥片を剥ぎ取る。⑥石核が残存する。

他の接合資料は、剥片の折断例の(2695+2717)と(2657+2678)、剥片同士の接合例の(2716→2713)と(2720→2707)の4例である。

接合資料44 (第167図)

2点の剥片から成る。同一打面から連続して剥出された資料(2716→2713)で、石材は黑色安山岩。

その他の接合資料は、2点の剥片同士の接合例(2720→2707)と、剥片の分割例(2695+2717)であり、石材は共に黑色安山岩である。

ブロックの性格は、石器製作の場、あるいはそれに付随する場の機能を有していたと考えられる。

第21ブロック

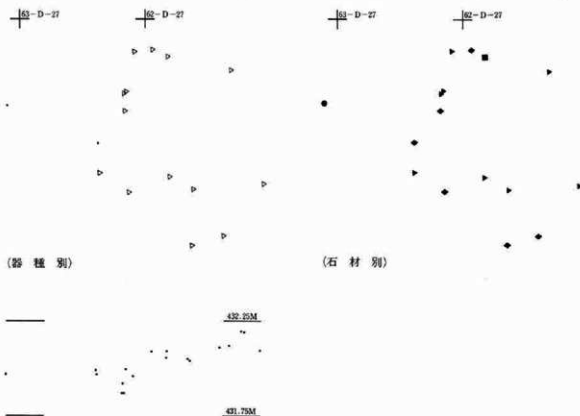
D区、61-D-26グリッド付近、台地の稜線部分よりやや西斜面寄りに位置する。分布形態は直径4m程のやや扁平な円形を呈し、約13.0㎡の広がりを持つ。出土状態は中心部が空白部分の環状を呈す。周辺・隣接ブロックとの関係は、北側から時計回りに第22・第19・第20の各ブロックが存在するが、西側は町道により削平されておりはっきりしない。

ブロックを構成する総点数は18点と少なく、石器組成も確が14点(約78%)で、残りはすべて剥片類である。石材も黒色頁岩が9点(約44.4%)と多く、黒色安山岩は碎片の1点のみである。

ブロックの性格は、接合資料が無い事からも廃棄の場と考えられる。

第25表 第21ブロック石材別石器組成表

器種名 石材別	ナイフ形 石器	石鏃	掻器	形器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 鎌器	敲石 磨石	白石	石核	石刀 石状 剥片	龍長 剥片	打作 打再 石核	剥片	碎片	原石 礫	計
石英														1			1
黒色安山岩															1		1
塔結晶灰岩																1	1
砂岩														1		1	2
珪質頁岩																1	1
黒色頁岩														1		8	9
不明																3	3
計														3	1	14	18

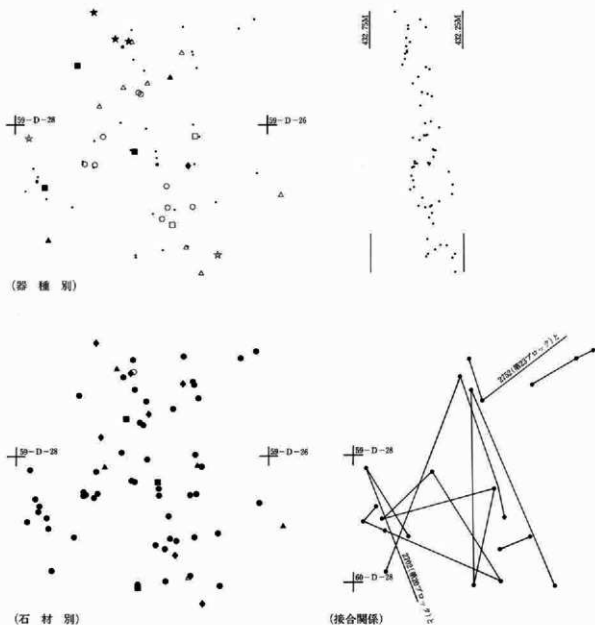


第168図 第21ブロック水平・垂直分布図(1/60)

第22ブロック

D区、59-D-27グリッド周辺、台地の稜線から西斜面寄りに位置する。分布形態は直径約5mの円形であり、約15.4㎡の広がりを持つ。出土状態はやや集中するものの、西半分に2箇所の空白部を持つ。周辺・隣接ブロックとの関係は、北側から西側にかけて第23ブロックが半分程覆い被さる様に隣接しており、同一の集中と考えられる可能性もある。南側には第21ブロックが存在するが、西側は町道に削平されているためにはっきりしない。

ブロックを構成する総点数は67点。石器組成は台形状のナイフ形石器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、敲石、石核、石核稜付き剥片、石刃類等であり、特に3点もの敲石がブロックのほぼ北隅に近接して存在する事はブロックの性格を把握する上での一助となりそうである。石材はやはり黒色安山岩が51点（約76%）と高い割合を占めるが、黒曜石も使用痕ある剥片として1点存在する。



第169図 第22ブロック水平・垂直分布図 (1/60)

第26表 第22ブロック石材別石群編成表

石材別	器種名	ナイフ形石器	石錐	搔器	彫器	加工使用剥片	楔形石器	石斧	敲石	台石	石核	石刃状剥片	縦長剥片	打作打再石核	剥片	砕片	原石礫	計
石英閃緑岩																	1	1
黒曜石						1												1
安山岩																	1	1
黒色安山岩		1				3					3	8	3	1	27	5		51
溶結凝灰岩									1									1
砂岩								1									3	4
堆積頁岩															2		1	3
黒色頁岩						1			1			1					1	4
点紋頁岩																	1	1
計		1				5			3	3	9	3	1	29	5	8		67

接合資料は6例24点存在するが、ブロック内で完結するのは4例18点であり、残りの2例は第20ブロックと第23ブロックの資料と接合関係を持ち、その内の1例は既に第20ブロックで説明済みである。

接合資料45 (第170・171・172図、写真図版34)

やや扁平な楕円球状の黒色安山岩を原材としており、礫面の一部の風化が特徴的である。

①→②→③(2362→2360)→④(2364)→⑤(2517+2350)→⑥(2363)→⑦→⑧(2501→2368)→⑨→⑩(2341)→⑪(2520)

①原礫を分割する。②分割面を打面とし、礫の先端部分周辺から4枚程の表面に礫面が残存する剥片を剥出する。③打点を打面の周縁に沿って反対側に移動し、同じ様に表面に礫面が残る剥片を剥出するが、その剥片も先端部が折断される。④剥離面の一つを打面として、礫の一端を打ち取り打面を作出する。⑤打面の周縁に沿って打点を移動させて、縦長の剥片を含む3～4枚の剥片を剥出するが、その内の一点は先端部が折断されて二つに分かれる。⑥剥離面の一つを打面として、新たに打面再生を施す。⑦この打面と相対する一端にも打面が作出されるが、前後関係ははっきりしない。⑧再生された打面から2～3枚程の剥片を剥出する。⑨打面を90°転位し、剥離面頭部調整を含めて4～5枚程の剥片を剥出する。⑩再び元の打面に90°打面転位し、1枚の剥片を剥出する。⑪石核が残存する。

接合資料46 (第172図)

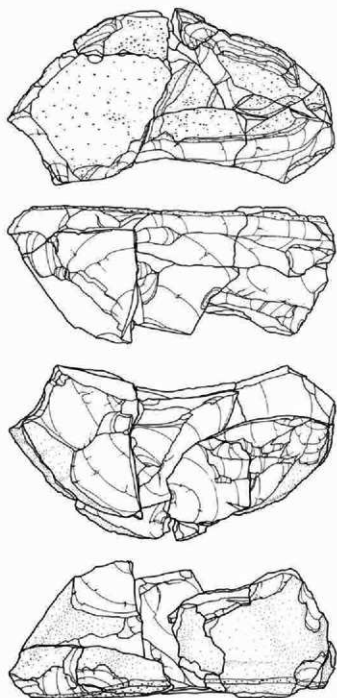
石核接付き剥片と石刃状剥片と縦長剥片の計3点から成る。石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④→⑤(2367→2338→2503)

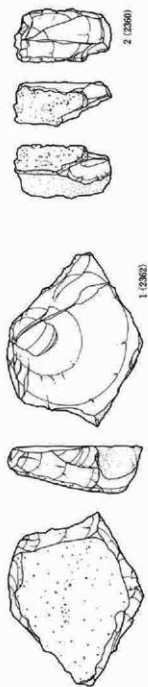
①礫を輪切り状に三つ、あるいはそれ以上に分割する。②さらに分割面に直交する形で二つに分割する。③最初の段階の一つの分割面を打面として、5枚程の剥片を剥ぎ取る。④その剥離面の一つを打面として90°転位し、3枚程の剥片を剥出する。⑤相対する側の礫面に打面を180°転位し、連続して剥離面頭部調整を含めて4～5枚程の剥片を剥出する。

その他の接合資料は、石刃状剥片の折断例(2511+2515、第53図-298)、二つに分断された剥片と剥片の計3点の接合例(2493+2494→2491)、第23ブロックの資料と接合関係を持つ3点の剥片の接合例(2752→2497→2336)である。

ブロックの性格は、3点もの敲石や石核及び石核接付き剥片の存在や、ブロック内での接合資料の量や接合率(約33.9%)からみて、石器製作址の場であると考えて間違いなく共に、第23ブロックと密接な関係が存在するブロックであると言える。



検合45 (1~10)



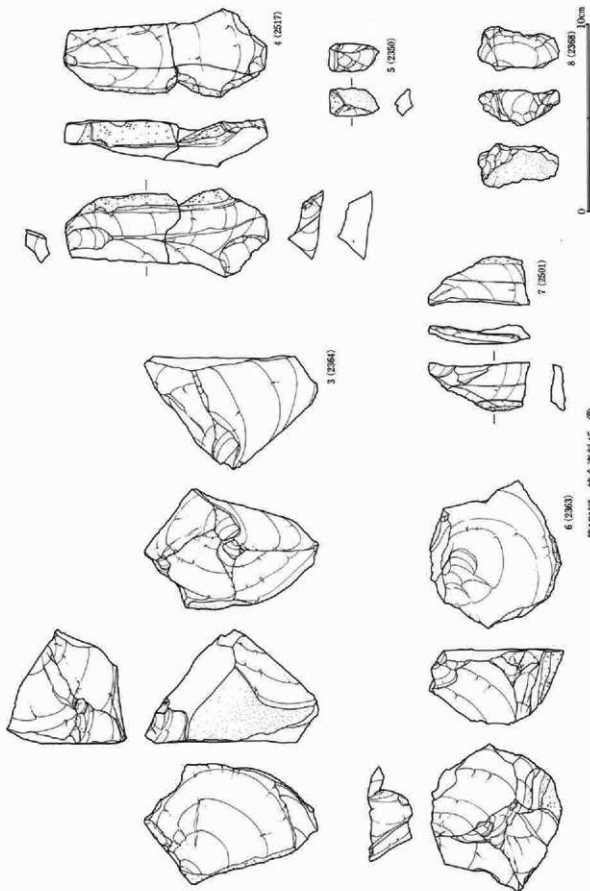
2 (2360)

1 (2362)

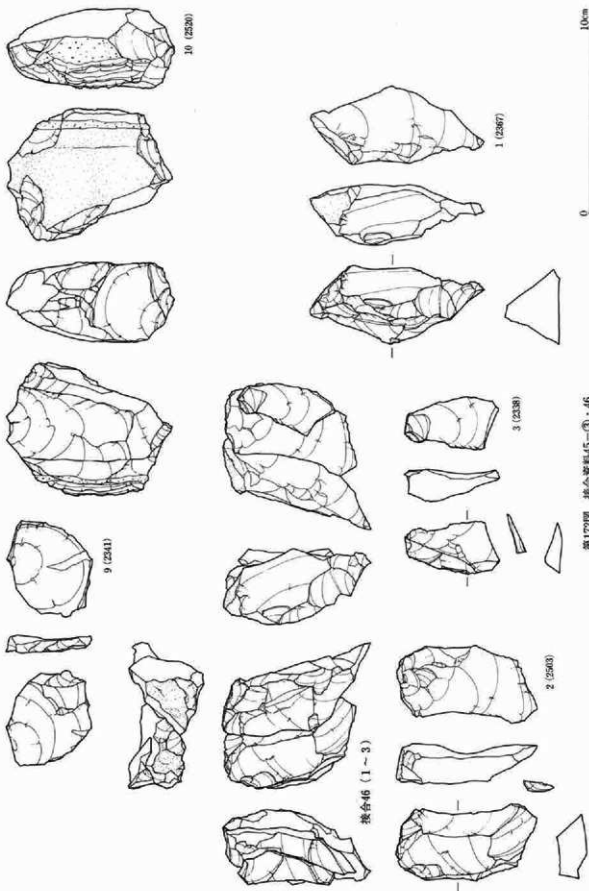


第170図 検合資料45-0

第4章 検出された遺構



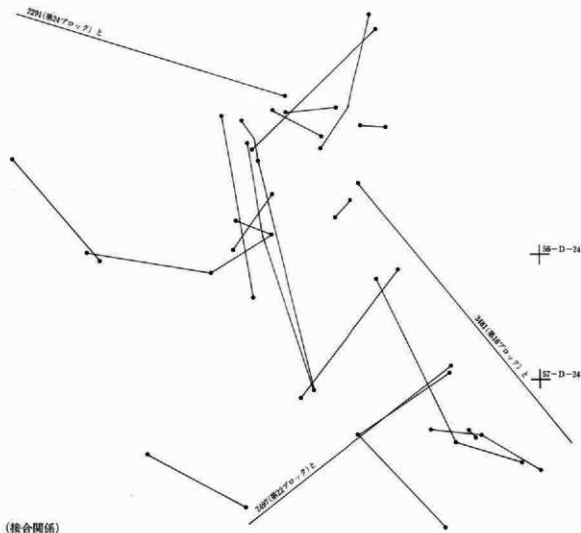
第171図 検出資料45-②



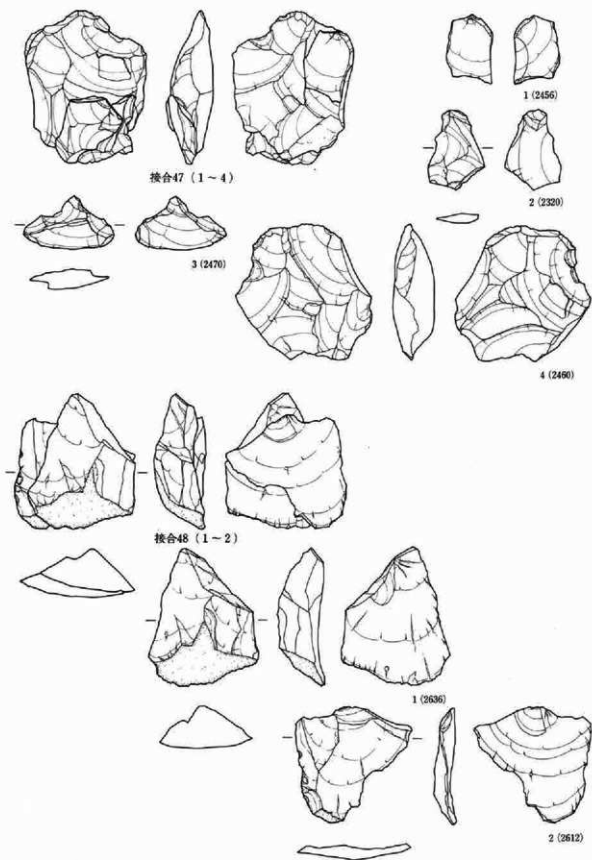
第23ブロック

D区、56-D-26グリッド周辺に位置する。調査区域のほぼ中央部で、台地のほぼ稜線上に位置する。分布形態は直径約12mのほぼ円形を呈し、面積も88.8㎡程とかなりの広がりを持つ。出土状態はかなり密に集中しているが、やや西側の分布が薄く、空白部が目立つ。また、東側に2m程離れて8点から成るまとまりが存在する。周辺・隣接するブロックとの関係は、北側に第25・第24、南側にほとんど包み込むように隣接して第22の各ブロックが存在する。

ブロックを構成する総点数は316点。石器組成は剥片類が166点（約62.7%）と高い割合を占めるものの、ナイフ形石器、彫器、礫器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、敲石、台石、石核、石刀類と器種は豊富で、特にナイフ形石器は6点と石器群全体の20%も占める高い割合である。器種別の分布状態も、北側の最も集中する部分にナイフ形石器や加工痕ある剥片等が分布するのに対して、南側部分に台石や石核が集中しており、器種分布に偏りが認められる事から、場の機能の違いが示されていると考えられよう。石材は黒色安山岩が204点（約65.8%）、黒色頁岩が65点（約19.3%）と大部分を占めてはいるが、不明も含めて20種類もの石材が検出されている。

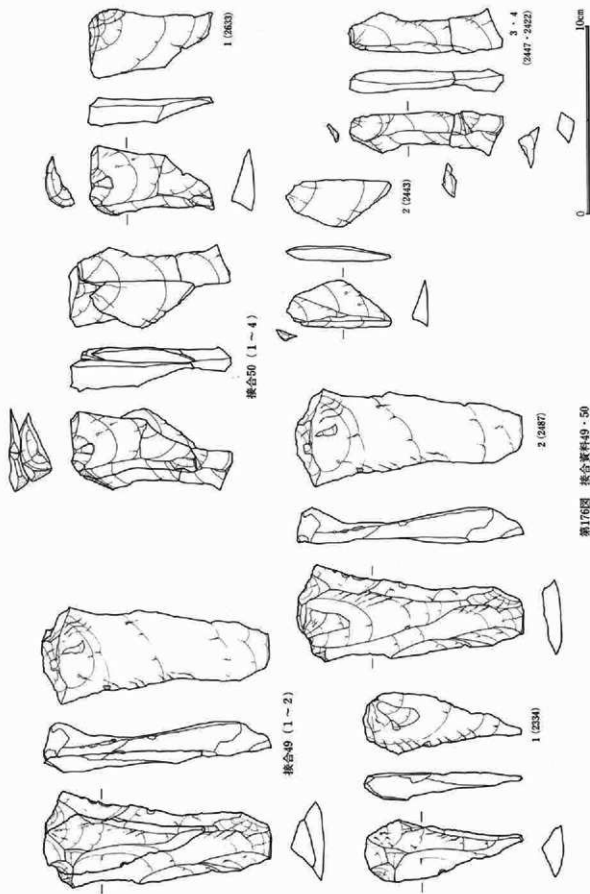


第174図 第23ブロック水平分布図 (1/60)

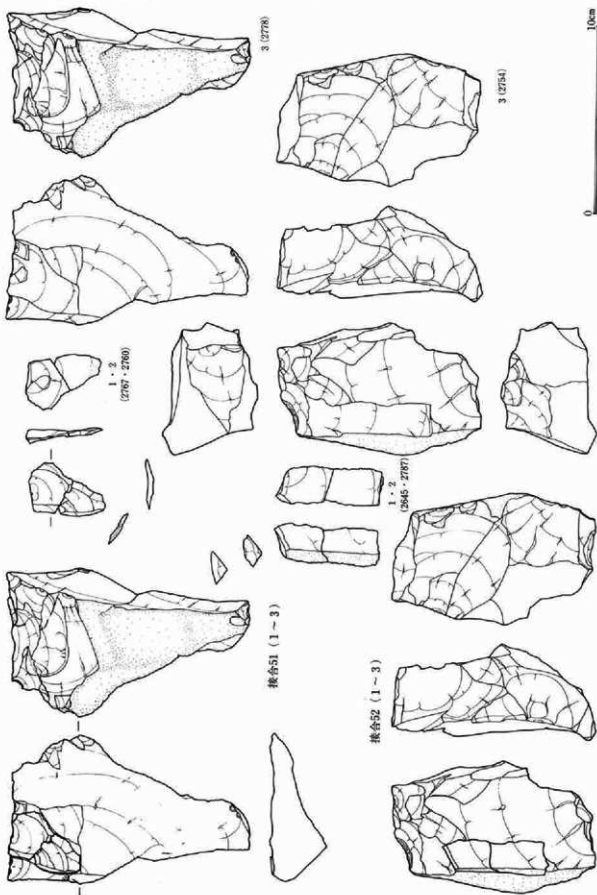


第175図 接合資料47・48

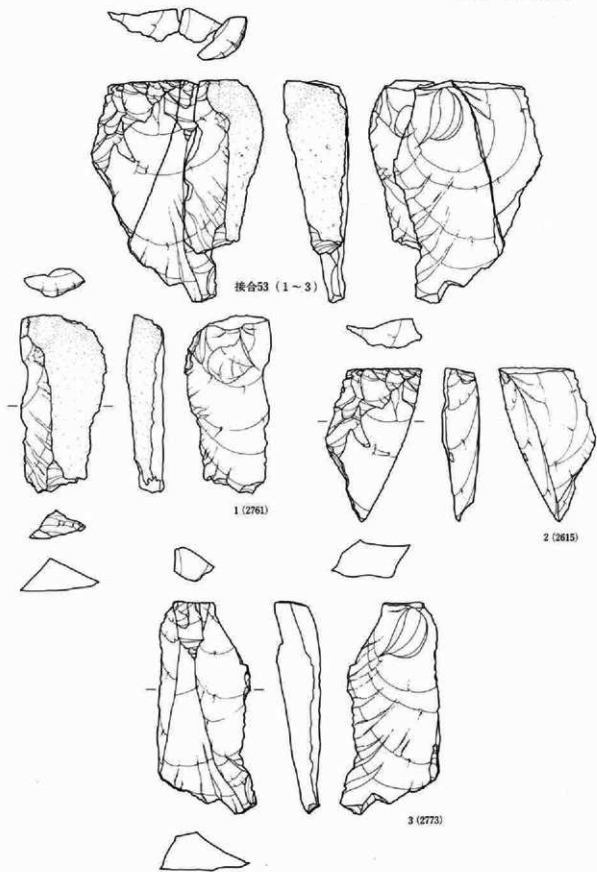
0 10cm



第176図 接合資料49・50



第177図 接合資料51・52



第178図 接合資料53

0 10cm

第4章 検出された遺構

第27表 第23ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石錐	掻器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 磨器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	剥片	取石 磨	計
花崗岩								1									1
石英斑岩							1										1
砂岩									1								1
輝緑岩															1		1
流紋岩																3	3
安山岩														1			1
輝石安山岩								1								2	3
黒色安山岩				1	10					3	12	12		139	27		204
実質安山岩																1	1
溶結凝灰岩																4	4
アイサイト質凝灰岩																1	1
砂岩																2	2
頁岩														4			4
珪質頁岩					2									6	1		9
黒色頁岩	6				1						28	2		14	1	13	65
点紋頁岩																1	1
赤色珪質岩															1		1
実質岩																1	1
珪質実質岩														2	1	5	8
不明																4	4
計	6			1	13		1	2	1	3	40	14		166	32	37	316

接合資料は21例50点とかなり多く、17例43点がブロック内で完結し、残りの3例は第16・第22・第24の各ブロックの資料との間に接合関係が存在する。ブロック内での接合は折断による2点の接合例が多く、その距離も2m前後と比較的近い範囲内である。また、それぞれの範囲も北側半分と南側半分とに分かれているものも多く、やはり北と南のそれぞれの集中部分での場の機能の違いを示すものと言えよう。

接合資料47 (第175図、写真図版34)

石核と3点の剥片の計4点から成る。石核は円盤状を呈する周縁からの求心方向の剥離を持つ第V類に属し、剥出される剥片は縦長の剥片や寸詰まりの剥片が多い。石材は黒色安山岩である。素材が分割確なのか、あるいは大形の剥片なのかははっきりしないが、一方の面の周縁に打点を移動させて求心的方向へ剥片を剥出させて、その剥離面を打面として一方の面に対して同様の剥離を施す資料(2320→2470→2456→2460)であるが、交互に打面転位を繰り返すために、ほぼ円盤状に石核が作り出される。

接合資料48 (第175図)

使用痕ある剥片と剥片の2点から成る。打点部分が加撃の衝撃により砕けた状態になっているものの、ほぼ同一の打面からの5枚程の剥片剥離を示す資料(2636→2612)である。石材は黒色安山岩である。

接合資料49 (第176図)

2点の石刃状剥片の接合から成るが、1点には使用痕が認められる。同一打面から連続して6～7枚程の縦長の剥片が剥出されているが、それ以前に相対する方向からの4枚程の剥出も認められ、両設打面に伴う剥片剥離工程を示す資料(2334→2487)と言える。石材は黒色安山岩である。

接合資料50 (第176図)

2つに折断された資料を含む3点の縦長剥片と剥片の計4点から成る。同一打面から連続して5枚程が剥

出された縦長の剥片剥離工程を示す資料(2633→2443→2447+2422)であるが、相対する方向からの剥離面も1枚認められる。これが、分割面に相当するの、両設打面に伴う剥離面なのかは不明である。石材は黒色安山岩である。

接合資料51(第177図)

石核と二つに折断された剥片の計3点から成る。石核は第Ⅲ類に属し、石材は黒色安山岩である。

①→②→③(2767+2760)→④(2778)

①礫を分割する。それ以前に直交する方向から1～2回の剥離が加えられている。②分割面を打面として、石核素材となる横長の大型剥片を剥出する。それと前後して、同じ打面から2枚程の剥片を剥ぎ取っている。③打面を90°転位し、4枚程の剥片を剥出する。④石核が残存する。

接合資料52(第177図)

石核と三つに折断された内の2点の剥片の計3点から成る。石核は3～4面の打面を持ち、第Ⅲ類に属する。石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④→⑤(2645+2787)→⑥→⑦(2754)

①礫の一端を打ち取り、打面を作成する。②打面から礫の長軸方向に平行して分割し、前後関係ははっきりしないが、2枚程の剥片が剥出されている。③分割面を打面として1枚の剥片を剥ぎ取る。④分割時の打面と相対する一端に打面を作成する。⑤縦長の剥片も含めて6～7枚の剥片を剥出する。⑥剥離面の一つを打面として、2～3枚の剥片を剥ぎ取る。⑦石核が残存する。

接合資料53(第178図、写真図版34)

3点の剥片の接合から成り、石材は黒色安山岩である。

①→②(2761+2615→2773)

①礫を分割する。②分割面を打面として、剥離面頭部調整を含めて10枚程の剥片を剥出するが、その途中で相対する方向からの1枚程の剥離面が認められる。また、加撃時の衝撃のためか、ほぼ中央部で長軸方向に対して分割されている。

その他の接合資料は次の通りである。

2点の剥片の接合資料5例 2421→2468、2575→2577、2449→2463、2771→2769、2727→2562

使用痕ある剥片の折断例2542+2583(第39図—166)、石刃状剥片の折断資料3例2602+2604(第53図—296)、2413+2571(第52図—291)、2296+2321(第51図—275)、剥片の折断資料2例2445+2543、2784+2786

ブロックの性格としては、器種別や接合資料の分布状態から大きくは2つの集中部分に分ける事が可能であり、それぞれの場の機能も北側部分と南側部分とは異なると考えられる。つまり、前者は接合関係が第24ブロックとの間にあり、分布する器種もナイフ形石器や加工痕ある剥片等の様な生産用具、すなわち消費石器が主体であり、接合資料の分布もやや東側に偏っている。また、集中の中心部がやや空白部分である事や、第24ブロックの性格が石刃類を中心とした道具置き場、あるいは居住空間と考えられる事から、石器製作址を兼ね備えた住居的な場の機能を有しているのに対して、後者には石核や敲石が存在し、接合資料もその周辺を中心に分布しており、第22ブロックとの間に接合関係を持つ事から、石器製作址としての場の機能を有していると考えられる。つまりは、同一のブロック内で異なる場の機能が存在する訳である。この事からブロックが細分されるのか、あるいは周辺ブロックをも含めた形で考えていくのかははっきりしないが、視覚的には分離は難しく、やはり石器製作址と居住空間の同時存在と考えるのが妥当であろう。

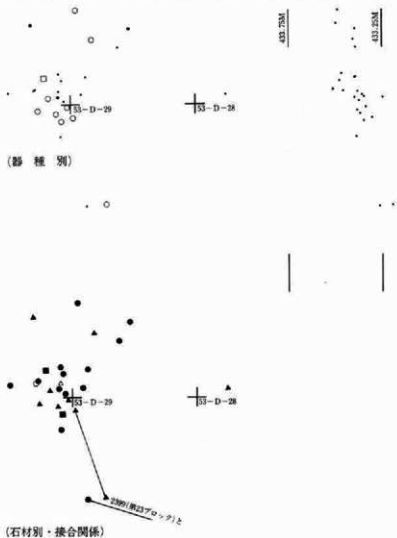
第4章 検出された遺構

第24ブロック

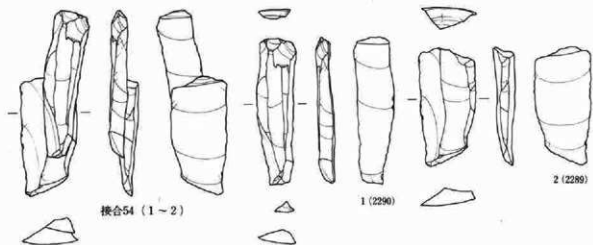
D区、53-D-29グリッド周辺に位置する。調査区域のほぼ中央部、台地の稜線付近に位置する。分布形態は直径約4mのほぼ円形を呈し、7.3㎡程の広がりを持つ。分布状態は円形の北側に集中が偏るため、あるいは直径2m程の円形の範囲を中心とするのが本来の姿なのかも知れない。周辺・隣接するブロックとの関係では、南側に隣接して第23ブロック、東側にやや近接して第25ブロックが、また北西に約12m離れて第27ブロックが存在する。

第28表 第24ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名	ナイフ形石器	石鏃	掻器	彫器	加工使用剥片	楔形	石押礎器	融石磨石	白石	石核	石刀石杖剥片	縦長剥片	打伴打再石核	剥片	砕片	原石礫	計
安山岩															1			1
黒色安山岩												1	2		9	1		13
頁岩															1			1
陸奥頁岩					1							1						2
黒色頁岩												7	1		1			9
計						1						9	3		12	1		26



第179図 第24ブロック水平・垂直分布図 (1/60)



第180図 接合資料54

0 10cm

ブロックを構成する総点数は26点と少ない。石器組成は使用痕ある剥片、石刃類が存在するが、剥片類が12点(約50%)と半数を占めている。特徴としては、石刃類が9点(約34.6%)とかなり高い割合で存在する事や、確が1点も無い事があげられる。石材は黒色安山岩が13点(約50%)、黒色頁岩が9点(約34.6%)、珪質頁岩が2点(約7.7%)と、安山岩類と頁岩類がほぼ均等しており、石刃類では頁岩類が大部分を占める事から石刃剥離工程には頁岩が適していると言えよう。

接合資料は2例4点であり、1例はブロック内で完結するが、残りの1例は第23ブロックの資料との間に接合関係を持つ。

接合資料54 (第180図)

石刃と石刃状剥片の2点から成る。1点は先端部を、もう1点は中央部で打点部面をそれぞれ折断により失っている。石刃は黒色頁岩である。

①→②→③(2290→2289)

①確を分割する。②打面を作出する。③剥離面頭部調整も含めて、連続して10枚程の剥片を剥出するが、その内の2点に折断を施す。その後の剥離工程は不明である。

もう一つの接合資料は、2点の剥片の接合例(2399→2291)で、第23ブロックの資料に続いて剥出された剥片がブロックの南端に分布する。

ブロックの性格としては、石刃類の割合がとても高い事や、集中部の範囲が比較的狭い事から、生産用具置き場、あるいは居住空間としての場の機能が考えられる。その場合にも隣接する第23ブロックとの関係がかなり注目される。

第25ブロック

D区、48-D-26グリッド周辺に位置する。調査区域のほぼ中央部、台地のほぼ稜線上に位置する。分布形態は長軸約13m、短軸約9mの楕円形を呈し、約52.7㎡の広がりを持つ。出土状態はやや集中するが、分布状況から更に2つの集中部に分離され、それぞれの中央部に空白部を持つ。周辺・隣接ブロックの関係では、南側に第23・第24ブロックが存在する。

ブロックを構成する総点数は106点。石器組成ではナイフ形石器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、敲石、

第4章 検出された遺構

石核、石刃類から成るが、剥片類が62点（約56.7%）と高い割合を占める。ナイフ形石器はブロックから東側にやや離れて存在するが、出土層位及び状態には何ら問題は無く、同一の石器群に属すると言える。石材は黒色安山岩が52点（約50%）、黒色頁岩が33点（約31.7%）と大部分を占める。

接合資料は1例4点存在するが、第20ブロック及び第33ブロックの資料との間に接合関係があり、後で述べる事とする。（接合資料100、写真図版35）

ブロックの性格は、接合資料が少ないものの、敲石や石核の存在から石器製作の場と考えられる。

第29表 第25ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石核	掻器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 鑿器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
黒曜石														3			3
安山岩							1									1	1
輝石安山岩																	1
黒色安山岩	1				2						2	5		27	15		52
砂岩																3	3
頁岩																1	1
埴質頁岩					2											1	3
黒色頁岩					2					1	7	3		12	2	6	33
点紋頁岩																1	1
埴質凝灰岩																1	1
火山灰															1		1
デイサイト																1	1
不明														2		3	5
計	1				6		1			1	9	8		44	18	18	106

第26ブロック

D区、32-D-25グリッド周辺に位置する。調査区域内の北東部、台地の稜線より東斜面寄りに位置する。出土状態はやや散漫であり、直径2m程の円形の範囲に10点程が出土し、やや離れて数点が分布するだけの小規模なブロックでしかなく、分布形態についてもはっきりしない。隣接するブロックはなく、最も近い第35ブロックとも約20m近く距離を置く。ただ北面に広範囲に極めて散漫な形で遺物の分布がみられるが、ブロックとは認定できない状況である。

ブロックを構成する総点数は17点と少なく、その内の13点がやや集中するだけで、北面に1点、南側に3点が距離を置いて分布する。石器組成は石核、加工痕ある剥片、縦長剥片、剥片類から成り、特に剥片類が12点（約75%）と高い割合を占める。石材は黒色安山岩が15点（約93.8%）と大部分を占める。

接合資料は1例5点で、ブロック内で完結する。（4570+4559+4569→4572+4574）

第30表 第26ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石核	掻器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 鑿器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
黒色安山岩					1					1		1		11	1		15
埴質頁岩					1												1
黒色頁岩																1	1
計					2					1		1		11	1	1	17

第27ブロック

D区、47-D-37グリッド周辺に位置する。調査区域のほぼ中心、台地の稜線上に位置するが、すぐ北側から東側にかけての一带が町道により掘り下げられている事から、ブロックの一部が壊されている可能性が高い。出土状態は中央部の集中と南東及び南西端に数点ずつの分布がみられ、中央の集中の中心に空白部を持つ。周辺・隣接ブロックとの関係では、北方向に第18・第19ブロックが存在し、南西方向には広範囲にまばらな状態で遺物が分布している地点がある。

ブロックを構成する総点数は41点。石器組成ではナイフ形石器、彫器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、敲石、礮器、石核等と比較的主要な石器が多い。その分布も敲石や台石がブロックの周辺部に存在するのに対して、ナイフ形石器や加工痕ある剥片等は中央部に集中して存在しており、ブロック内での場の機能の違いを表わしている可能性もある。石材は黒色頁岩が21点(約51.2%)、黒色安山岩が16点(約39%)と、他のブロックと異なり、黒色頁岩の方が多い。

接合資料4例9点で、3例7点はブロック内で完結するが、1例2点は第28ブロックの資料との間に接合関係を持つ。

接合資料55 (第183図)

礮器と剥片の2点から成る。ほぼ原礮の形状が復元できる資料(1710→1718)であり、長軸約13cm、中軸約10cm、短軸約4.5cmのやや扁平な楕円礮である。礮器は長さ7.2cm、幅11.5cm、厚さ4.8cmで、両刃を持つ。石材は黒色頁岩である。

接合資料56 (第183図)

同一打面から剥出した加工痕ある剥片と二つに折断された剥片の計3点から成る資料(1689+1688→1686)であり、石材は珪質頁岩である。両設打面から交互に剥片が剥出された剥離面を持ち、裏面の先端部周縁に調整加工が施されている。この接合間には、さらに3枚程度の剥片剥離工程が存在したと考えられる。

接合資料57 (第185図)

石核と剥片の2点の接合から成る。石核は両設及び側面の4面を打面とする複設打面を有する第III類に属し、形状は立方体、いわゆるサイコロ状を呈す。石材は黒色安山岩である。

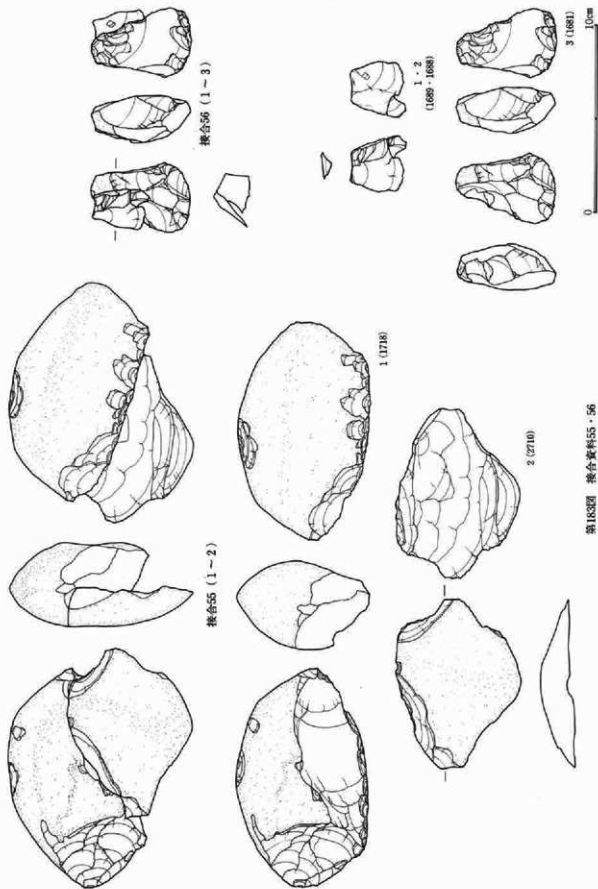
①→②→③→④→⑤→⑥(1789)→⑦(1681)

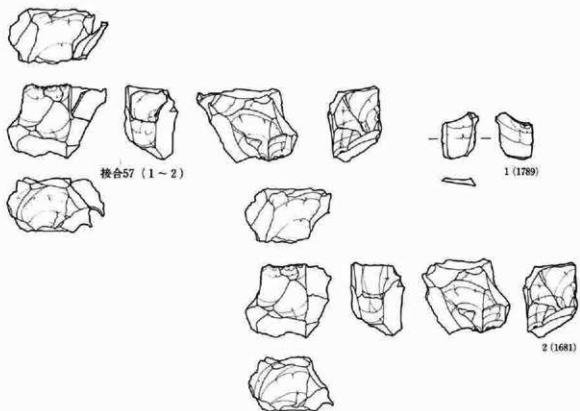
①素材ははっきりしないが、一端に打面を設定する。②打面の周縁に沿って打点を移動して5枚程度の剥片を剥ぎ取る。③相対する一端に打面を作出する。(180°の打面転位)④やはり打面の周縁に沿って5～6枚の剥片を剥ぎ取る。⑤剥離面を打面として90°の打面転位し、1～2枚少ないが剥片を剥ぎ取る。⑥再び打面を180°転位して、2～3枚の剥片を剥出する。⑦石核が残存する。

この資料が第28ブロックとの間に接合関係を持つものである。

第31表 第27ブロック石材別石器組成表

器種名	ナイフ形石器	石鏃	礮器	彫器	加工痕ある剥片	楔形	石斧	礮器	台石	石核	石刀	石刀	打作	剥片	剥片	原石	計
石材別																	
黒色安山岩					1					1	1	2		9	2		16
富貴安山岩																1	1
珪質頁岩					1									1	1		3
黒色頁岩	1			1	5		1	1		1		3		8			21
計	1			1	7		1	1		2	1	5		18	3	1	41





第185図 接合資料57

その他の接合資料は、大形の剥片の折断例（1704+1712）であり、石材は黒色安山岩である。

ブロックの性格は、中央部が生産用具置き場、あるいは居住空間であるのに対して、周辺部、それも特に東側部分に石核や敲石が分布する事から、石器製作址の場が隣接して存在したか、あるいは同時に兼ね備えていたのかも知れない。

第28ブロック

E区、66-E-03グリッド周辺に位置する。台地の西斜面の傾斜変換線付近で、調査区域内で最も西南端に位置する。分布形態は長軸約13m、短軸約7mとかなり細長い楕円形を呈しており、面積も62.1㎡程の広がりを持つ。出土状態は中央部では直径約4mの円形状に集中するものの、その北側や南側にもまばらに分布の広がりが続く。西側にはブロックに接する形で直径1m前後の転石が多数存在するが、これらは三峰山からの崩壊土石流に伴うものであり、傾斜がやや緩やかになる部分にまとまって残されたのである。第2ブロックと同様に、この転石を風避け、あるいは壁の用材として用いる住居跡を想定する事も可能であろう。周辺・隣接ブロックとの関係では、最も近い第27ブロックとでも北東方向に約40m、東側に位置する第20ブロック等とも約50mとかなり距離がある。準IIIブロックとやや近接しているものの、ブロックとしてはほぼ独立して存在すると考えてよいであろう。

ブロックを構成する総点数は145点。石器組成は加工痕ある剥片、敲石、石核、石刀類、縦長剥片等から成るが、やはり主体を占めるのは剥片類で113点(約79.3%)とかなり高い割合である。敲石は5点出土しているが、その内の3点は1個体が砕けたもの(第86図-546)であり、痕跡ははっきりとはしていないものの、割れ方から熱を受けた可能性も考えられる。敲石等の主要器種はブロックの西側半分に極めて集中した形で分布している。石材は黒色安山岩が105点(約71.0%)と高い割合を占めるが、黒色頁岩も22点(約16.6%)である。特に、石刀類の石材は黒色頁岩が数量で優っており、石材の適応性が充分に考えられる。一方で、縦長剥片に黒色安山岩が多い点については、比較的縦長剥片を剥出する工程を示す接合資料の存在から見て、このブロックでの特徴の一つと考えられる。

接合資料は12例49点と比較的多く、礫を除いた総数での接合率は約36.8%とかなり高い割合を示す。1例2点が第27ブロックの資料と接合関係を持つだけで、残りの11例47点はすべてブロック内で完結する。

第32表 第28ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名	ナイフ形石器	石鏃	器種	彫器	加工使用剥片	楔形	石斧	敲石	石核	石刀	縦長剥片	打作打再石核	剥片	砕片	礫石	計
花崗岩									1								1
流紋岩														1			1
安山岩																1	1
輝石安山岩									4								4
黒色安山岩										2		7		65	30	1	105
珸質凝灰岩											1					1	2
砂岩																1	1
頁岩																1	2
黒色頁岩						1					3	1		14	1	2	22
珸質黄頁岩																1	1
不明															1	4	5
計						1			5	2	4	8		80	33	12	145

接合資料58(第187・188図、写真図版34)

石核と3点の剥片と6点の剥片の計10点から成る。その内の4点の剥片については、1点の縦長剥片が折断等により4つに分割されていた資料である事からも、この接合資料は主として縦長剥片を剥出する工程であると言える。しかし、石核だけを見れば求心的な剥片剥離を示しており、石刀技法とはやや異なる剥片剥離技術が存在すると考えられる。石核は第IV類に属し、石材は黒色安山岩である。

①→②(1787+1829+1857+1858)→③(1772→1781→1795→1852→1790)→④(1824)

①打面を作出する。おそらく楕円球状の原礫の一端を打ち欠いたと考えられる。②少なくとも4枚以上の剥片を剥出する。その後の工程はしばらく空白である。③剥離面を打面として剥片が剥出されるが、石核の周縁に沿って打点が移動するために、最終的には10数枚の縦長剥片を主体とする剥片が剥出される。④石核が残存する。

接合資料59 (第189・190図、写真図版35)

石核と縦長剥片と8点の剥片の計10点から成る。原礫の形状がある程度復元できる資料で、石核は第Ⅲ類に属し、石材は黒色安山岩である。

①→②→③(1875)→④(1750→1876)→⑤→⑥(1770)→⑦(1820→1785)→⑧(1825+1865)→⑨(1841)→⑩(1859)

①礫を輪切り状に三つ、あるいはそれ以上に分割する。②分割面の一方を打面として、表面に礫面が残存する剥片を1～2枚剥ぎ取る。③相対する面に打面を180°転じし、2～3枚の剥片を剥出する。④同一打面上で打点を反対側の礫面付近に移動して、表面に礫面が残存する剥片を含めて3枚程剥出する。⑤剥離面を打面として90°転じし、剥片を3枚程剥ぎ取る。⑥さらにその剥離面を打面として90°転じし、2枚、もしくはそれ以上の剥片を剥出する。⑦再び剥離面を打面として90°転じし、2枚程の剥片を剥出する。⑧打面を相対する面に180°転じし、2～3枚の剥片を剥出する。⑨打面を再び180°転じし、2～3枚の剥片を剥出する。⑩石核が残存する。

その他の接合資料は次の通りである。

ほぼ原礫に復元できるものの、焼成により砕けたと考えられる黒色頁岩の8点の接合例 1758—1759—1777—1805—1807—1828—1849—1906

前述の三つに砕けた敲石 1780—1791—1905 (第86図—546)

二つに折断された資料を含む3点の剥片の接合例 1891+1882→1884

三つに折断された剥片の接合例 1835+1843+1856

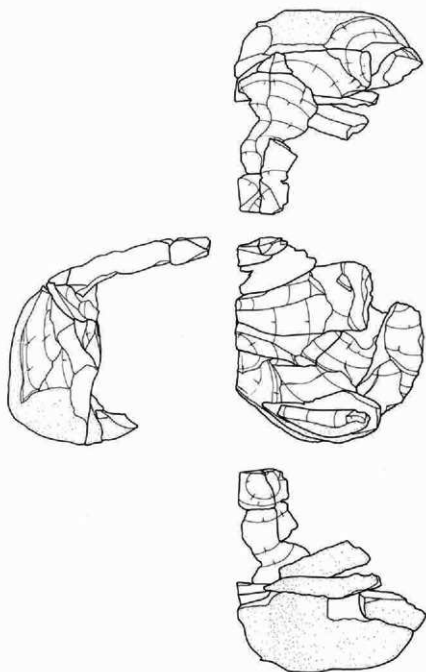
2点の剥片の接合例 1756→1850

二つに折断された剥片の接合資料4例 1822+1885(第75図—505)、1834+1836、1782+1842、1769+1869
ブロックの性格は、12点の石核と5点もの敲石、それに全体の1/3を占める接合資料の存在から石器製作址と考えられる。さらに、この事と独立して存在する点が第42ブロックと類似しており、遺跡内での位置付けも專業的に石器製作が行われた場として機能していたと考えられよう。

第29ブロック

D区、38—D—38グリッド周辺に位置する。調査区域のほぼ中央部、台地の稜線付近に位置する。分布形態は長軸約8m、短軸約6mの楕円形を呈し、約29.1㎡程の広がりを持つ。出土状態はブロックの北側半分が比較的集中しているのに対して、南側半分はまばらである事から、北側部分の直径約4m程の環状の集中と南側部分との2箇所に分離できる可能性もある。前者の環状のまとまりも集中がやや南側半分に偏る傾向が認められるが、地形の斜面の傾きが南西に向っている事にも関係があるのかも知れない。周辺・隣接するブロックとの関係は、北側から反時計回りに第35・第36・第31・第32・第30・第27の各ブロックが存在する。

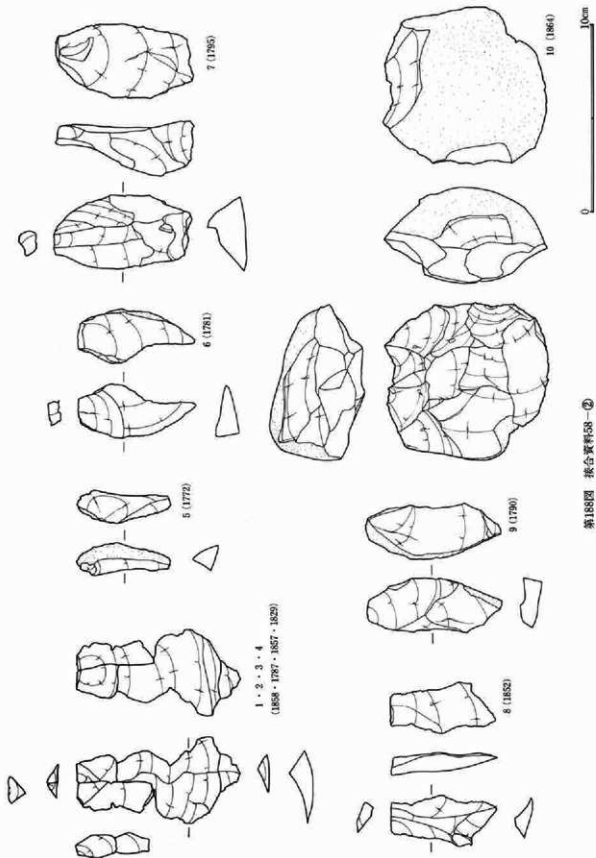
ブロックを構成する総点数は59点。石器組成はナイフ形石器、使用痕ある剥片、石核、石刃類、縦長剥片等から成るが、やはり剥片類が44点(約74.6%)と高い割合を占める。器種別の分布では、石核が北側部分の集中の東端に位置するのに対して、使用痕ある剥片や石刃類は逆に西側に偏っている。つまり、中央の空



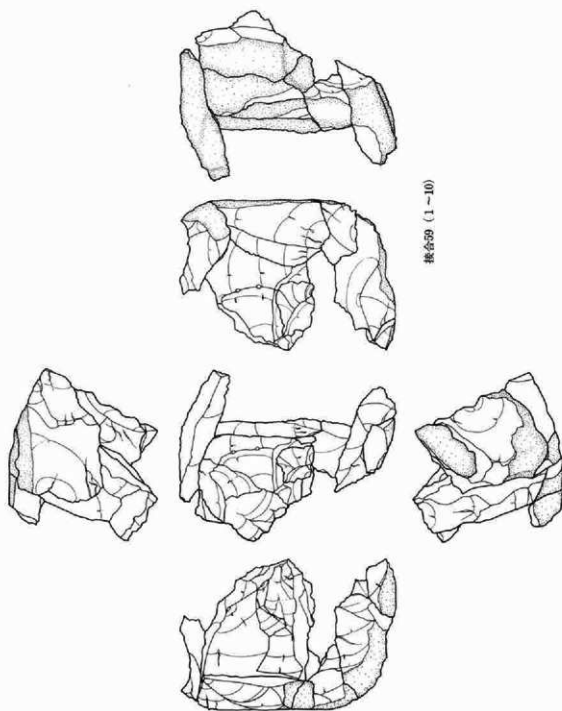
接合58 (1~10)



第187図 接合資料58-①



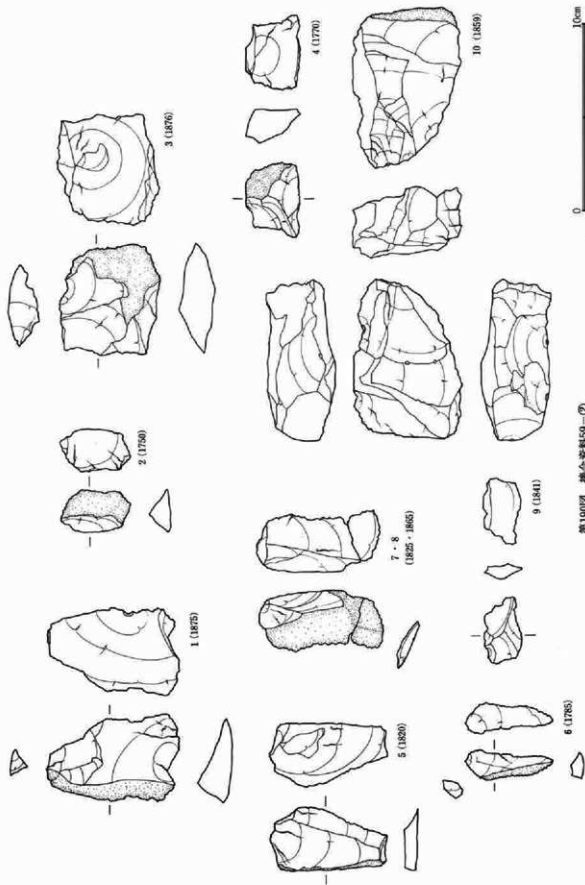
第188図 検出資料58-②



接合59 (1-10)

第188図 接合資料59-①





第190図 検出資料59-②

白色をはさんで両側の機能が異なる事を示していると考えられる。石材は黒色安山岩が34点(約57.6%)と過半数を占めているものの、黒色頁岩も20点(約32.2%)と比較的高い割合を占める。

接合資料は6例21点と多く、礫を除いた点数での接合率は37.5%とかなり高い。また、接合関係はすべてブロック内で完結し、それも北側部分の2m前後の距離内での5例と南側部分の1例とにうまく分離して存在する。

第33表 第29ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形石器	石鏃	接器	彫器	加工 使用 剥片	楔形 石片 礫器	敲石 磨石	台石	石核	石万 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
砂岩																
黒色安山岩					1				1	2	1		23	6	1	34
頁岩															1	1
珉質頁岩										1						1
黒色頁岩	1									5			12	1	1	20
珉質頁岩													2			2
計	1				1				1	8	1		37	7	3	59

接合資料60 (第192図)

剥片5点の接合から成る。やや大形の縦長剥片に折断や剥離を施すものであるが、最後に残る剥片についてはむしろ石核と考えるべきなのかも知れない。石材は黒色安山岩である。

①→②(209+221)→③→④(210→58)→⑤(191)

①表面に礫面を残す大形の縦長剥片を剥出する。その段階以前に、打面側、及びそれに相対する方向から、それぞれ1枚の剥離が施されている。次の工程は二つに分かれ、その前後関係ははっきりしない。②剥片の先端部を折断するが、その際の衝撃により二つに分断される。③折断面を打面として1枚の剥片を剥ぎ取る。④剥片の打面寄りの表面に残る剥離面に打面を90°転位し、折り取る様に連続して3枚の剥片を剥出する。⑤剥片が残るが、この最後の剥片は板状剥片石核と考えるとよさそうであり、長さが規制される剥片を剥出する事から第VI類と考えられる。

接合資料61 (第192図)

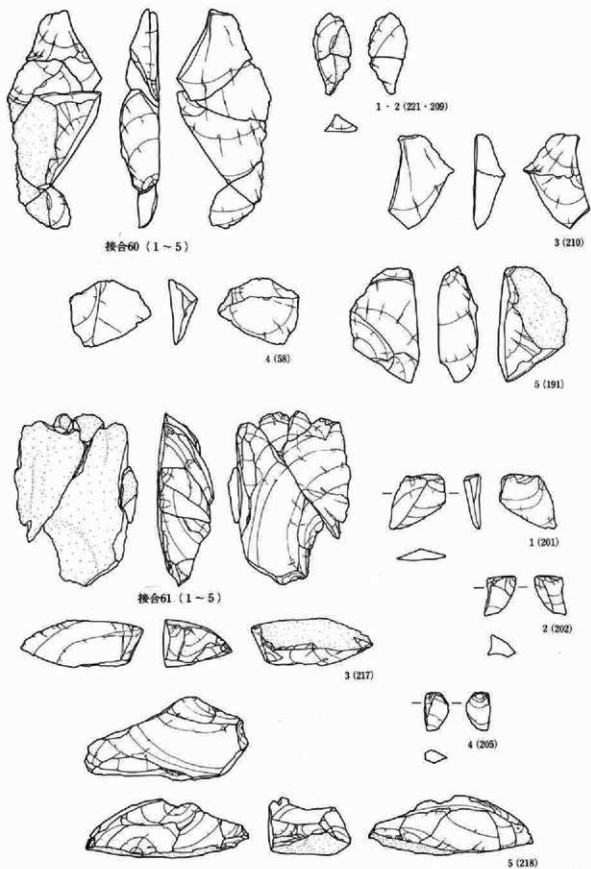
これも剥片5点の接合から成るが、主として礫面を打面とし、素材自体の厚さから剥出される剥片の長さも規制される石核と考えるとよさそうである。石材は黒色安山岩である。

①→②→③(208)→④→⑤(218)
 ↓
 →③'(202+205)→④'(217)

①原礫の形状は不明であるが、表面に礫面が残存する円盤状の剥片を剥出する。②剥離面を打面として三つに分割する。これから先は工程が二つに分かれると共に、前後関係ははっきりしない。③礫面を打面として、周縁に沿って打点を移動し3枚程の剥片を剥出する。④打面を180°転位し、1枚の剥片を剥出する。⑤石核が残存する。③'礫面を打面として、2枚程の剥片を剥出する。④'石核が残存する。

その他の接合資料は、剥片の折断例(192+970+969)、3点の剥片の接合資料2例(223→225→234、212→224→215)、2点の剥片の接合例(206→220)である。

ブロックの性格は、中央の空白部をはさんで東側に石核等の石器製作に伴う器種と5例18点にも及ぶ接合資料が分布するのに対して、西側には石刃類が分布し、接合資料も無い事から、石器製作の場と生産用具置き場という異なった機能が共存して存在していると考えられるが、この直径約2mの空白部自体の機能についても居住空間的な意味を持つと考えられまいだろうか。



第192図 接合資料60・61

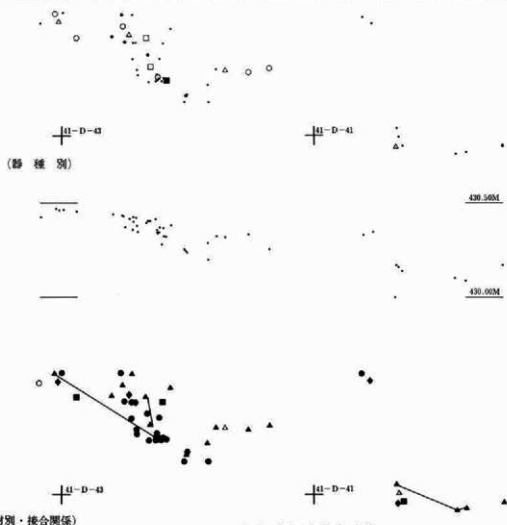
第4章 検出された遺構

第30ブロック

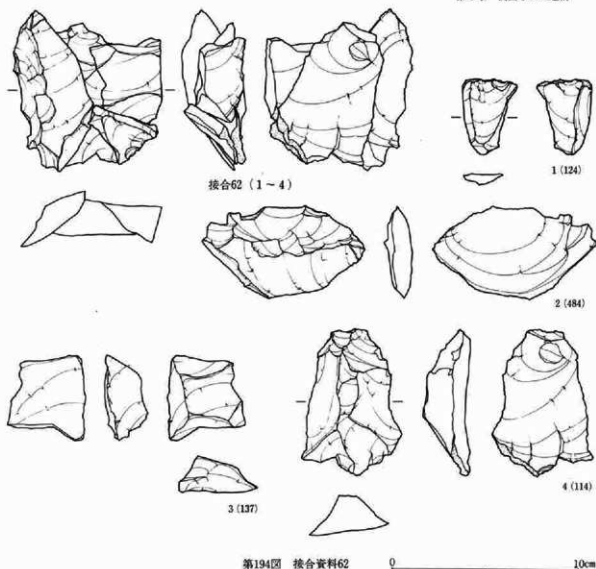
D区、40-D-42グリッド周辺に集中部分が位置する。台地の稜線付近よりやや西側斜面寄りで、調査区域の中央部よりやや北西方向に位置する。出土状態は東西二箇所に集中が分かれ、約2mの距離を持つ事から2つのブロックにむしろ分離した方がよいのかも知れない。1つのブロックとしての分布形態は、長軸約8m、短軸約2mのかなり細長い楕円形を呈し、10.0m²程の広がりを持つ。周辺・隣接ブロックの関係は、

第34表 第30ブロック石材別石器組成表

器種名 石材別	ナイフ形石器	石鏃	棒器	彫器	加工使用剥片	衝形 鏃器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	短長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	黒石 礫	計
輝綠岩														1		1
輝石富山岩														1		1
黒色安山岩					1						3		12	6		22
頁岩													1		1	2
珪質頁岩										1			1	1		3
黒色頁岩					2					5	3		5	2		17
珪質実質頁岩															2	2
不明															1	1
計					3					6	6		19	11	4	49



第193図 第30ブロック水平・垂直分布図 (1/60)



第194図 接合資料62

0 10cm

北側に東から第29・第32・第33の各ブロックが、また南側には第27ブロックがやや離れて存在する。

ブロックを構成する総点数は49点。石器組成は加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、石刃類等であり、主要石器は存在しない。主体はやはり剥片類で30点（約61%）を占めるが、石刃類や縦長剥片も計12点存在し、その大部分は西側の集中部分に含まれる。石材は黒色安山岩が22点（約44.9%）、黒色頁岩が17点（約34.7%）とほぼ均等しており、特に石刃類に黒色頁岩が多い事から石刃の剥離に適していると考えられる。

接合資料は4例11点で、すべてブロック内で完結する。

接合資料62（第194図、写真図版34）

縦長剥片と3点の剥片の接合から成る、求心的な剥片剥離工程に伴う資料で、石材は黒色安山岩である。

①→②(124→484→137→114)

①礫を分割して円盤状の石核素材を得る。②石核の周縁に沿って打点を移動させて、10数枚の剥片を剥出する。想定される石核は背面に踵面を残す第IV類である。

その他の接合資料は、使用痕ある剥片の折断例（109+115、第37図-151）、石刃の折断例（125+129、第40図-171）が黒色安山岩、剥片の折断例（239+240+903）が黒色頁岩である。

ブロックの性格は、敲石や石核等が無いものの、石器製作址の場と考えられる。

第4章 検出された遺構

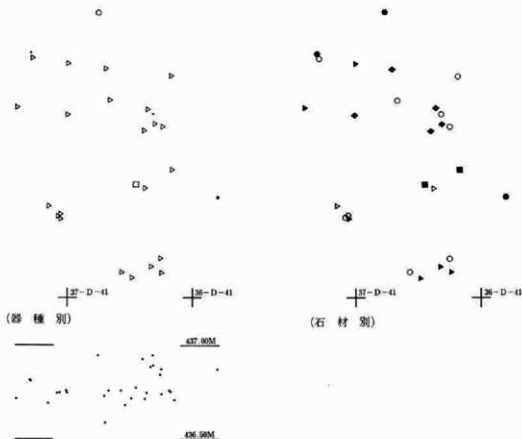
第31ブロック

D区、36-D-42グリッド周辺、台地の稜線付近に位置する。分布形態は長軸約4m、短軸約3mの楕円形を呈し、面積は約9.4㎡程である。出土状態は中心部に空白部を持ち、やや西半分に集中する。北側から第36・第35・第29・第32・第33・第37の各ブロックが近接して存在する。

ブロックを構成する総点数は27点だが、礫が22点（約81.5%）を占めており、使用痕ある割片と割片類しか資料がない。石材も不明を含めて11種類と多い。

第35表 第31ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石鏃	接器	彫器	加工 使用 割片	楔形	石斧 礫器	敲石 磨石	台石	石柱	石刃 石状 割片	板状 割片	打作 打再 石礫	割片	砕片	原石 礫	計
石英斑岩																1	1
流紋岩																1	1
安山岩																5	5
輝石安山岩															1	1	2
黒色安山岩												1	1				3
安山岩																2	2
砂岩																2	2
頁岩					1											2	2
珪質頁岩																1	2
黒色頁岩																6	6
不明																1	1
計					1						1	1			2	22	27



第195図 第31ブロック水平・垂直分布図 (1/60)

ブロックの性格は、接合資料も無い事からも、ほとんど廃棄の場と考えられるが、むしろブロックとして人為的な場の機能を考える事自体に無理があるのかも知れない。

第32ブロック

D区、38-D-41グリッド、及び38-D-42グリッド付近を中心に位置する。台地のはは後線付近で調査区域の中央より北寄りに位置する。出土状態は比較的密に集中しているものの、中央部分の集中がやや薄く、東西二箇所の集中に分離できるが、接合資料や同一母岩の石材の分布等から同一ブロックとした。第33ブロックとの関係もかなり近接した状態ではあるが、同様の理由から別ブロックとして認識した。分布形態は長軸約7m、短軸約4mの楕円形を呈し、約21.7㎡程の広がりを持つ。周辺・隣接ブロックとの関係は、東側に第29、南側に第30、西側に第33、北側に第31の各ブロックが隣接して存在する。



第196図 第32・33ブロック水平・垂直分布図 (1/60)

第4章 検出された遺構

ブロックを構成する総点数は338点。石器組成はナイフ形石器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、敲石、石核、石刃類等から成るが、主体はやはり剥片類で277点(約80.9%)とかなり高い割合を占める。石材は黒色安山岩が267点(約78.5%)と最も多いが剥片類の245点(約88.4%)を占めるのに対して、黒色安山岩は51点(約15.3%)とやや少ないものの、ナイフ形石器や石刃類の大部分を占める。この事から本石器群に見られる特徴として、ナイフ形石器等の主要器種の石器には縦長の剥片が多用される事と、その縦長の剥片は主として黒色頁岩を石材とする剥片剥離工程から作り出される事が見られる。

接合資料については点数が多いものの、第33ブロックの資料との間に接合関係を持つ事から、後でまとめて記述する事となる。

第36表 第32ブロック石材別石器組成表

石材別	ナイフ形石器	石核	接器	形器	加工使用剥片	楔形石片	敲石	台石	石核	石刃石状剥片	縦長剥片	打作打再石核	剥片	砕片	原石塊	計
石英斑岩							2									2
輝緑岩													1			1
流紋岩					1											1
安山岩															2	2
黒色安山岩					7	1			3	4	4		162	86		267
頁岩															1	1
珪質頁岩										1	1		2			4
黒色頁岩	2				2					19	3		16	6	3	51
雲母石英片岩															1	1
点紋雲母石英片岩															1	1
珪質実頁岩													1			1
不明													1	2	3	6
計	2				10	1	2		3	24	8		182	95	11	338

第33ブロック

D区、38-D-44グリッド周辺に位置する。台地の稜線部分よりやや西側斜面寄りに位置する。分布形態は長軸約5m、短軸約2mの楕円形を呈し、約7.9㎡程の広がりを持つ。出土状態は第32ブロックとほとんど近接し、かつ密に集中して分布する。さらに北寄りの部分がやや稀薄なのに対して、中央部は直径2m程の円形状に集中しており、南側部分にも小さな集中が認められる。接合資料等の分布から見ても、第32ブロックとかなり密接な関係が存在すると思われる。周辺・隣接ブロックとの関係は、東側に第31・第32・第30、西側に第34の各ブロックが存在するが、特に第32ブロックの間を明確に区切る事が難しい。

ブロックを構成する総点数は252点。石器組成はナイフ形石器、敲石、打面作出剥片、2点の打面再生剥片、石核、石刃類等から成るが、やはり剥片類が187点(約74.2%)と高い割合を占める。ナイフ形石器はブロックの東側に位置し、敲石や石核、原石等の剥片剥離工程に関係する資料は中央の集束部分に分布する。石材は黒色安山岩が44点(約17.5%)であるのに対して黒色頁岩は104点(約41.3%)、珪質頁岩が94点(約37.3%)と、他のブロックと比較しても頁岩類の割合が安山岩類よりもかなり高い。特に、石刃類や縦長剥片の点数は圧倒的に頁岩類が多く、縦長の剥片を剥出する工程の上で、安山岩よりも頁岩の方が優位である事を示すものと言える。

接合資料については、数多く存在するものの、第32ブロックと第33ブロックにまたがって分布する資料が多い事から、両ブロックの接合資料をまとめて記述する事とする。

第37表 第33ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石鏃	標器	形器	加工 使用 剥片	楔形 石器	石斧 磨石	台石	石核	石片 石状 剥片	縦長 剥片	打点 打再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
花崗岩							1									1
輝綠岩													1			1
流紋岩							2									2
黒色安山岩	1								1	1	7		25	9		44
珪質頁岩									1	4	7	1	43	37	1	94
黒色頁岩									4	14	11	2	52	19	2	104
安山岩													1			1
珪質安山岩															1	1
不明															4	4
計	1						3		6	19	25	3	122	65	8	252

接合資料63 (第202図、写真図版35)

礫器と4点の剥片の計5点から成る。原礫の形状をほぼ留めており、周縁からの剥離と整形のためと考えられる一端の打ち取りが認められる資料(348→872→895→365→401)であるが、剥離順序はほとんどははっきりしない。礫器の表面も風化が激しく、磨痕や使用痕等はまったく見出す事ができない。

接合資料64 (第202・203図、写真図版34)

石核と加工痕ある剥片と12点の剥片の計14点から成る。剥出された剥片の大部分は寸詰まりの不定形であり、石核も円盤状の求心方向への剥片剥離を持つ第IV類に属する。石材は黒色安山岩である。

①→②(278→331→316+887→354→324→470→444→308→464→517→430→506)→③(309)

①礫を分割し、一面に礫面が残存する大形の剥片を石核素材とする。②礫面を打面として、打点を周縁に沿って移動させながら連続して剥片を剥出する。その途中で礫面側への剥片剥離も2回程施されているが、その段階の順序ははっきりしない。③石核が残存する。

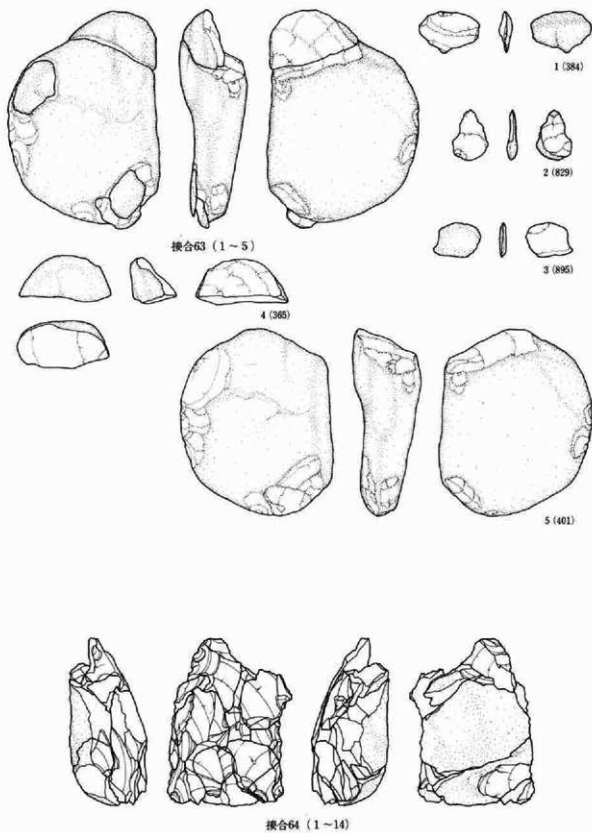
この資料は本石器群に伴う剥片剥離技術の一つの特徴を示すもので、主として縦長の剥片を剥出する資料と対峙するものであり、第IV類に属する石核の剥片剥離状態を示す典型的な例である。

接合資料65 (第204図、写真図版33)

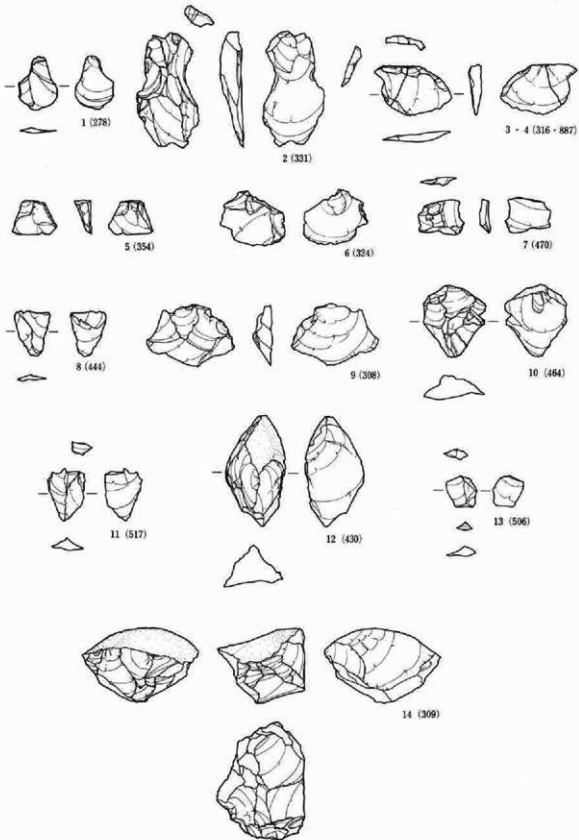
石核と折断を含む6点の剥片の計7点から成る。石核は第III類に属し、石材は黒色安山岩である。

①→②(379→355)→③(879+353→312→350)→④(338)

①礫を分割する。②礫面を打面として3枚程の剥片を剥出する。③打面を90°転位し、やはり礫面を打面として4～5枚の剥片を剥出する。④石核が残存する。

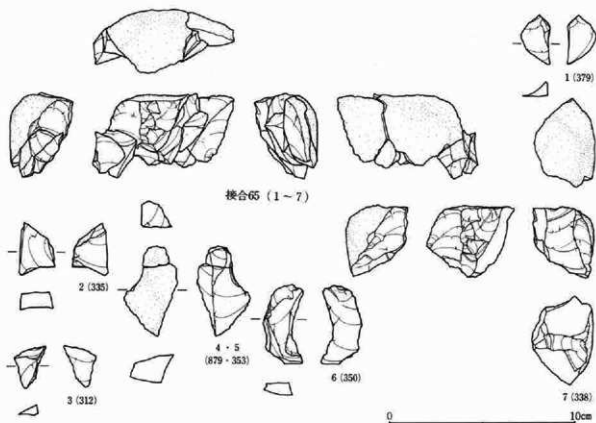


第202図 接合資料63・64-① 0 10cm



第203図 接合資料64-②

0 10cm



第204図 検合資料65

母岩別資料3 (接合資料66)

35点から成る1つの接合資料と29点の非接合資料の合計64点である。石材は緑灰色系の珪質頁岩で、原石は長さ19cm、幅10cm程の長方体のやや片細りの角礫である。接合資料は礫の一端を打ち欠き打面とし、縦長剥片を多数剥き取った後に、打面再生を施すものの失敗、もう一端側に剥離作業を移し、礫面に打面に横長な不定形剥片を剥き取るものであり、石核までの全工程をほとんど示す重要な資料である。

接合資料66 (第205～208図、写真図版36)

①(610)→②(724→738→532→613+946)→③(941→404→65+411→646→936→650)
→④(644→629)→⑤(586→614)→⑥(729)→⑦(21)→⑧(126)→⑨(730→577→631→548)
→⑩(628→558)→⑪(655)→⑫(412)→⑬(725+720→645)→⑭(543→572)→⑮(566)

①長方体の角礫の一端を水平に打ち取り、打面を作出する。②作業剥離面の左端より表面に礫面が残存する剥片を含めて5枚程を剥出する。③次に右端に打点を移して、表面に礫面が残存する剥片を含めて4枚程が剥出される。④打点を中央部に移し、縦長剥片を1枚以上剥出する。⑤左側に打点を移して、剥離面頭部調整剥片を含めて6枚程剥出する。⑥右側に打点を移し、剥離面頭部調整を含めて5枚程剥出する。⑦左側面の礫面を表面に残す大形の剥片が剥出される。⑧中央部から大形の剥片が剥出される。⑨左側、及び右側から剥離面頭部調整を5～6回施す。⑩石核の表面の礫面から加撃して打面再生を施すが、打面の状態が良好でなく、再び礫面側から加撃し、打面を再度再生する。だが、礫自体の形状(一端が偏平)が原因なのか、再生打面からは剥片剥離を行わない。⑪打面を下側の礫面に転位し、大形の表面に礫面を残す横長の剥片を剥出し、打面を作出する。⑫この打面からかなり深い角度で表面に礫面を残す剥片を3枚剥出する。⑬この剥離面と隣接する礫面を打面として、一部に礫面を残す横長の剥片を4枚程剥出する。⑭左側面の剥離面を打面として、礫面が残存する剥片を5枚程剥出する。⑮石核が残存する。

この資料は、打点を左右に移動させながら後退し、縦長の剥片を連続して剥離する作業を目的としたもので、本遺跡の剥片剥離技術の一つの代表例である。

同一母岩で接合しない資料は次の通りである。

縦長剥片3点 562、698、723

剥片11点 524、530、551、552、605、612、630、634、705、719、741

砕片14点 528、564、570、606、615、617、618、653、658、660、663、665、670、679

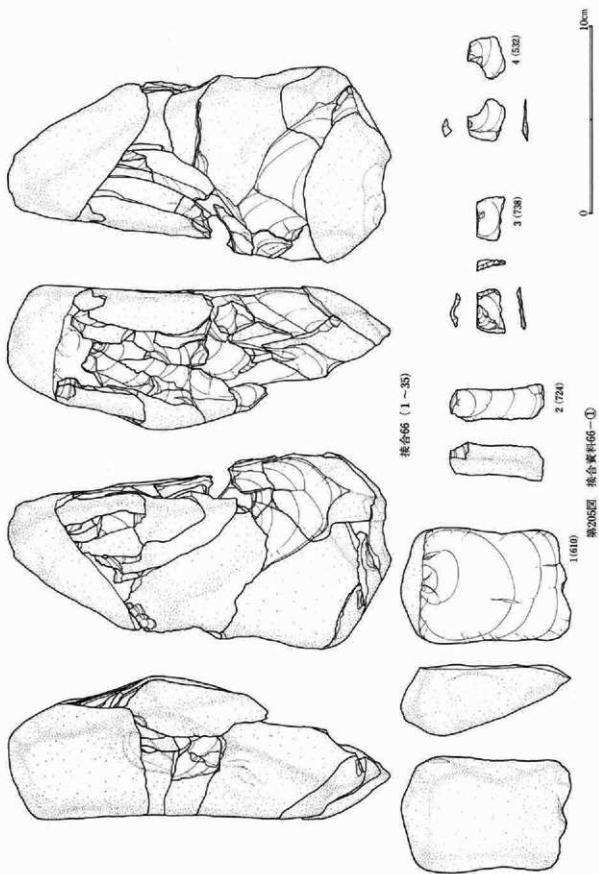
この他にナイフ形石器の230(第111図-9)も同一母岩と考えられる。

接合資料67 (第209・210・211・212図、写真図版37)

二つに分割された石核と二つに砕けた打面再生剥片と石刃状剥片、14点の剥片、それに1点の砕片の計20点から成り、ほぼ原礫に近い状態にまで復元できる。石材は黒色頁岩である。

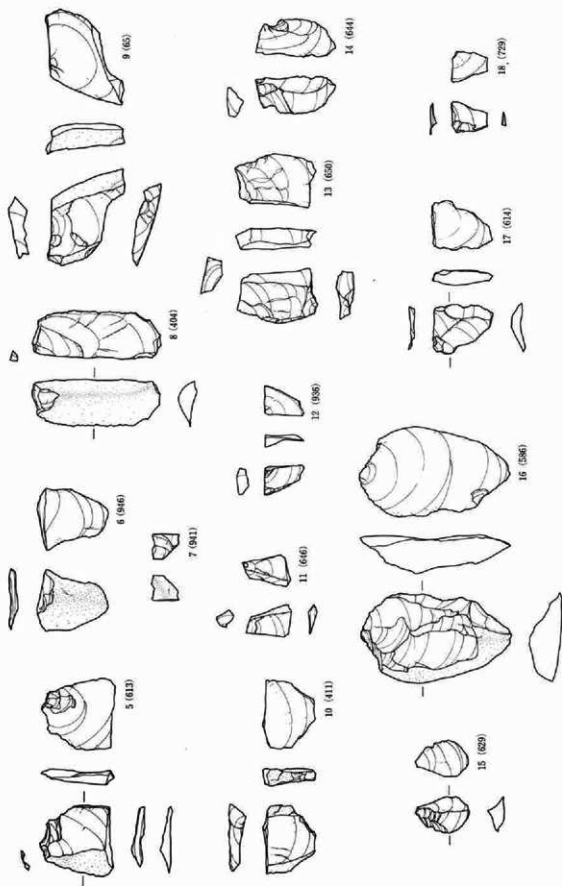
①→②(920+722→638)→③(622+637)→④(585+636→616→691→695+659+561+680→675→696→700+706→958)→⑤(635+682)

①長方体の角礫の一端を水平に打ち取り、打面を作出する。②表面に礫面を残す剥片や剥離面頭部調整を含めて6枚程剥出する。③打面再生を施すが、角度がやや斜めである事から再生打面からの剥離は行われな。打面再生剥片自体も加撃時の衝撃で砕けてしまう。④もう一端側の礫面に打面を転位して、大形の表面に礫面を残す剥片を連続して8枚程剥出する。⑤石核の側面に加撃し、石核を二つに分割する。ところが、ここで作業は終了であり、この分割の意味もはっきりしない。

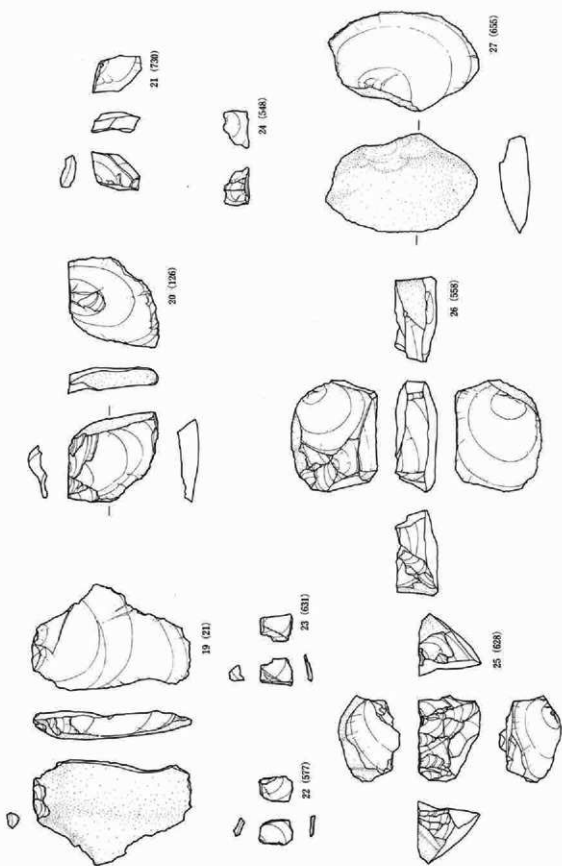


接合66 (1-35)

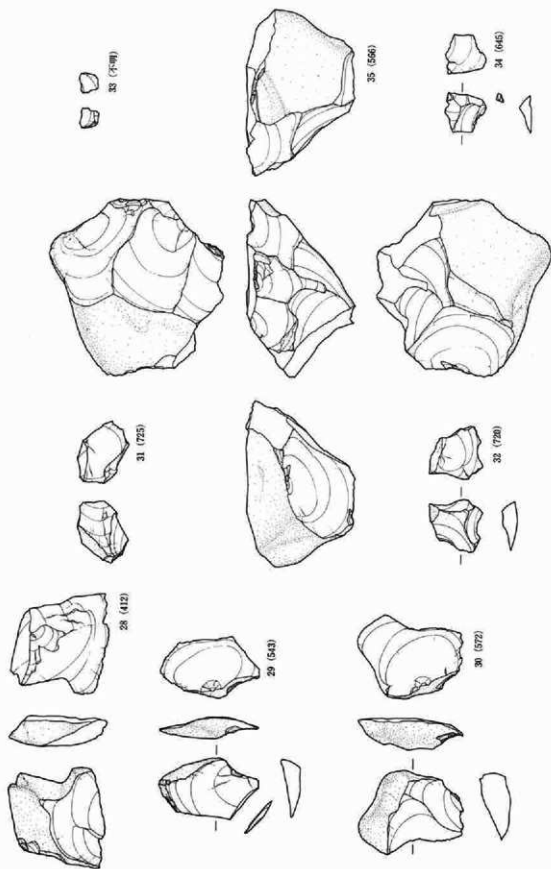
第2056号 接合資料66-①



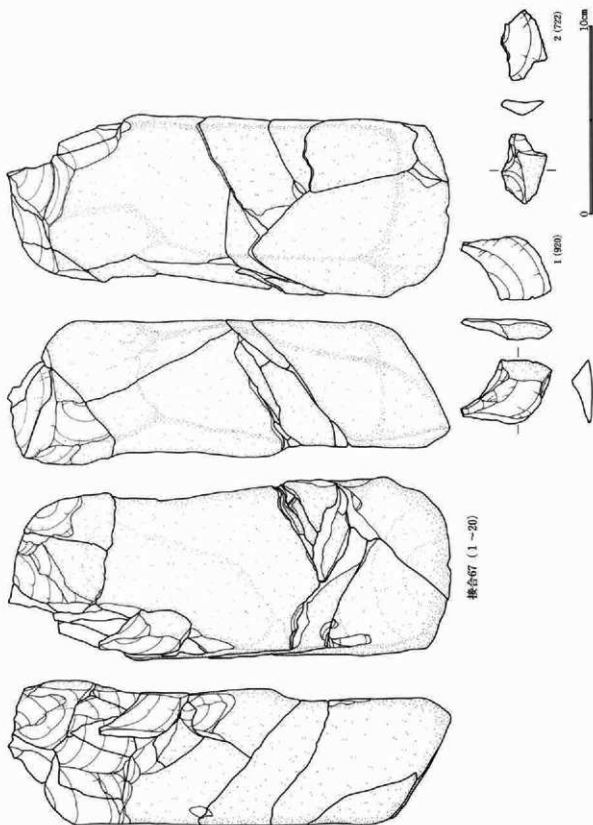
第2065図 接合資料65-㉔



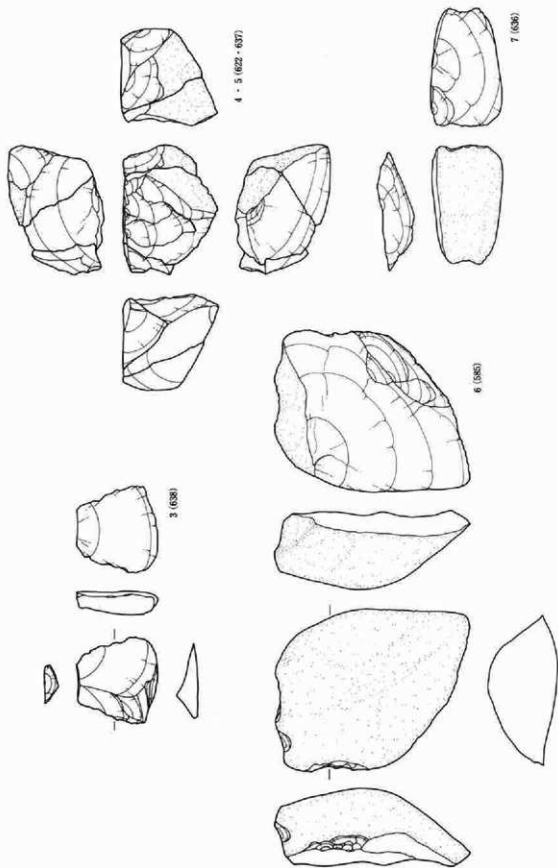
第207図 検出資料66-③



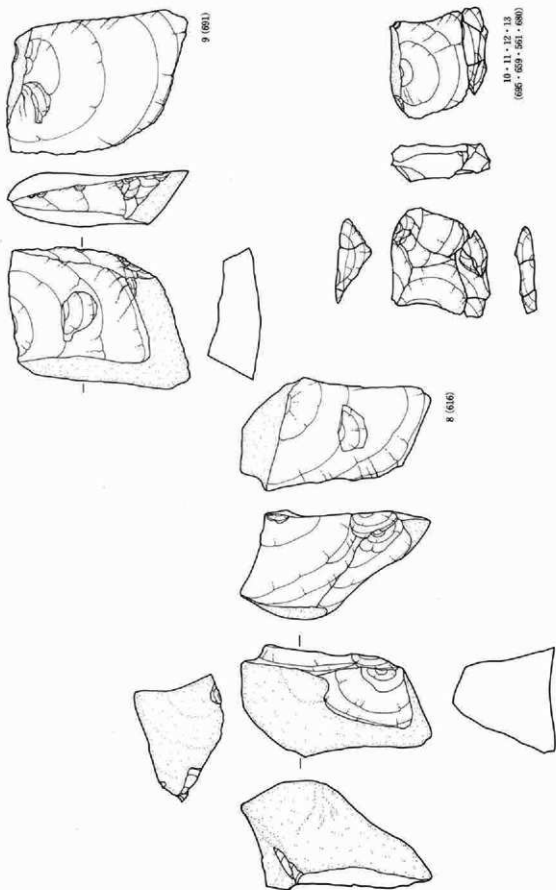
第208図 組合資料65-①



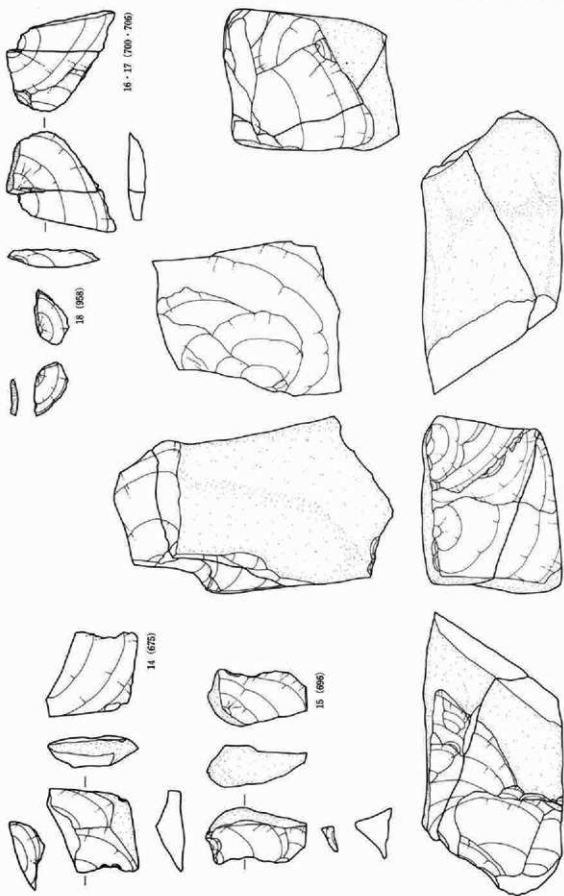
第209図 検合資料67-0



第210図 接合資料67-②



第211図 接合資料67-③



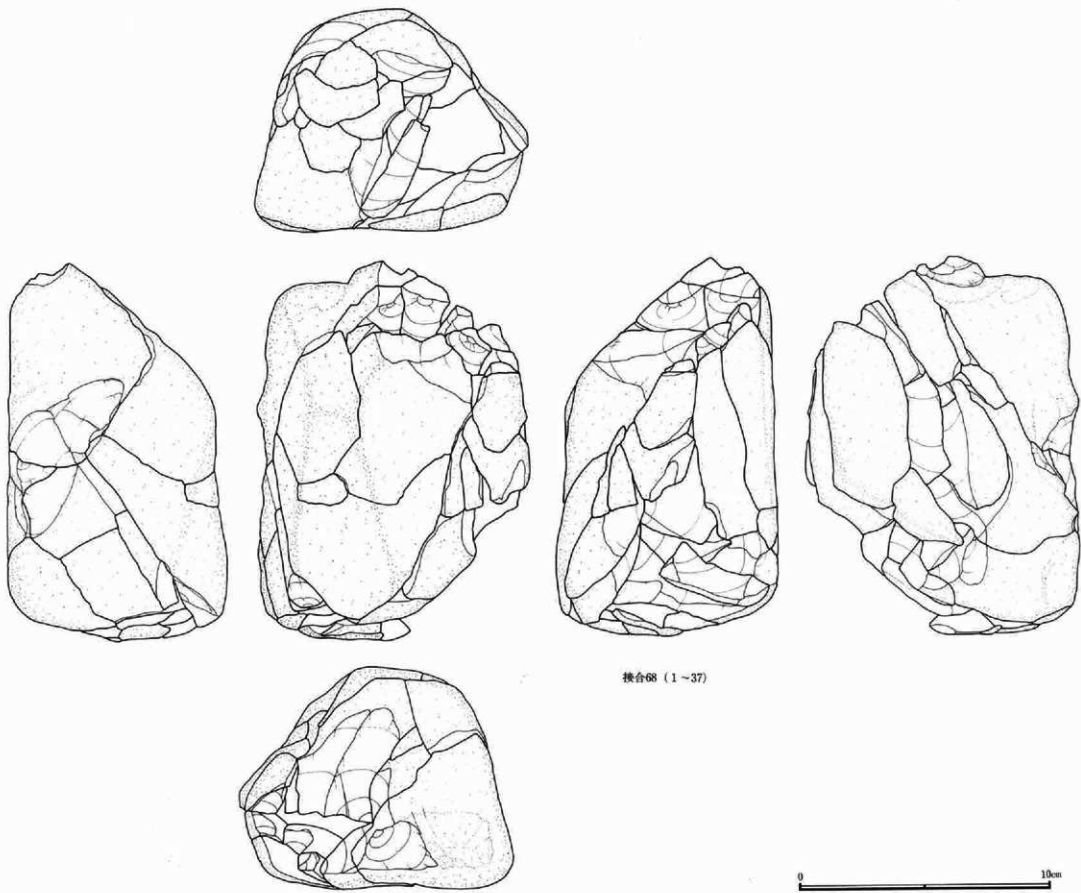
第212図 接合資料67-④

接合資料68 (第213・214・215・216・217図、写真図版36)

石核と石刃状剥片と7点の縦長剥片、27点の剥片と1点の碎片の計37点もの接合から成る。表面の風化が激しいものの、ほぼ原礫の段階にまで復元できる過程は本石器群での代表的な剥片剥離技術に属するものである。石材は黒色頁岩である。

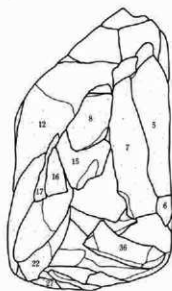
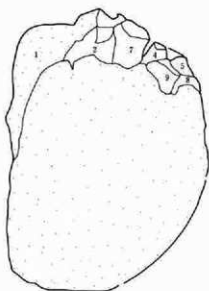
①→②(487→624→625→643→712→654→623-931→649→908+68)→③(594→557→70→560)→④(539)→⑤(547→584)→⑥(582)→⑦(474→598→541→544→527+602)→⑧(597→583→69→600+509→545→581→909→668→599→555)→⑨(540)

①礫の一端を打ち取り、打面を作成する。②打面の周縁上に沿って打点を移動させて、表面に礫面が残る剥片や剥離面頭部調整を含めて、連続して縦長の剥片を10枚剥出する。③これらの剥離面を打面として90°転位し、表面に礫面が残存する剥片を含めて5枚程剥出する。④下端の礫面に打面をほぼ180°転位して1枚の大形の剥片を剥出する。⑤以前の剥離面を打面として180°に近い転位を行い、2枚程の剥片を剥出する。⑥打点を移して2枚程の剥片を剥出する。⑦下端の礫面、及び周辺の剥離面を打面として5枚程の剥片を剥出するが、さらにその一部を折断する。⑧それらの剥離面を打面として90°転位し、縦長に近い剥片を連続して剥出するが、剥離作業面自体が短いために、それに規制された形で長い剥片はほとんど剥出されない。また一部に折断が輪される。⑨石核が残存する。

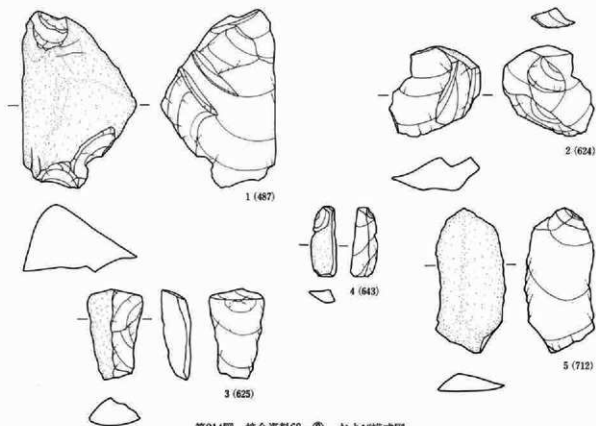


接合68 (1~37)

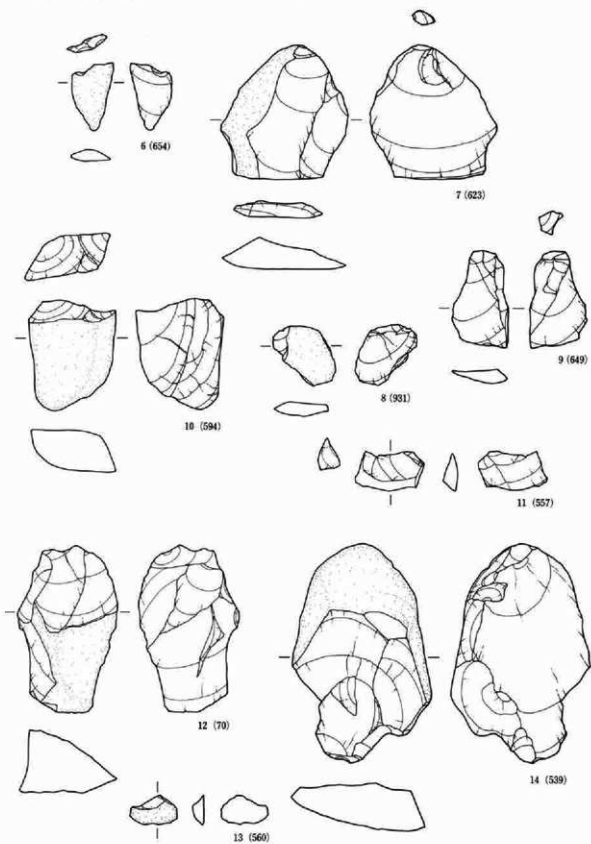




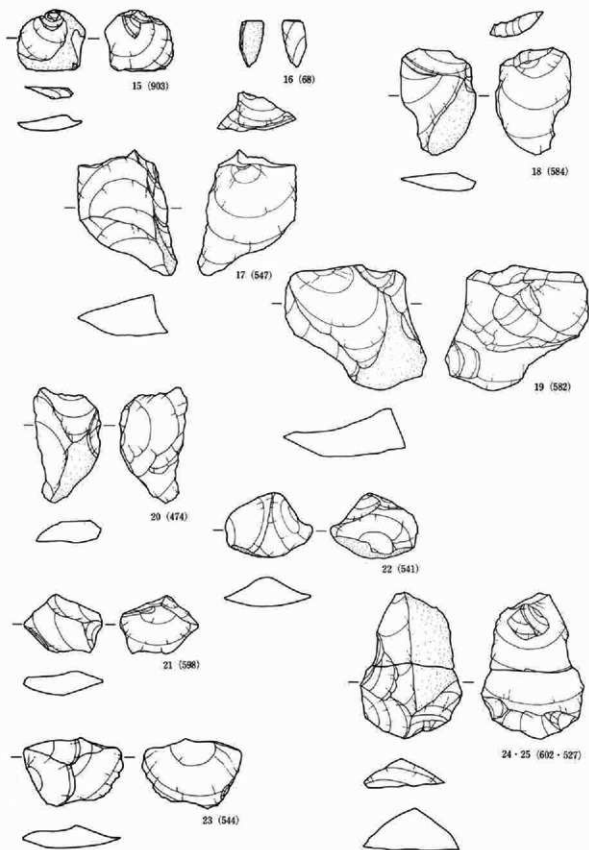
模式図



第214図 接合資料68-② および模式図

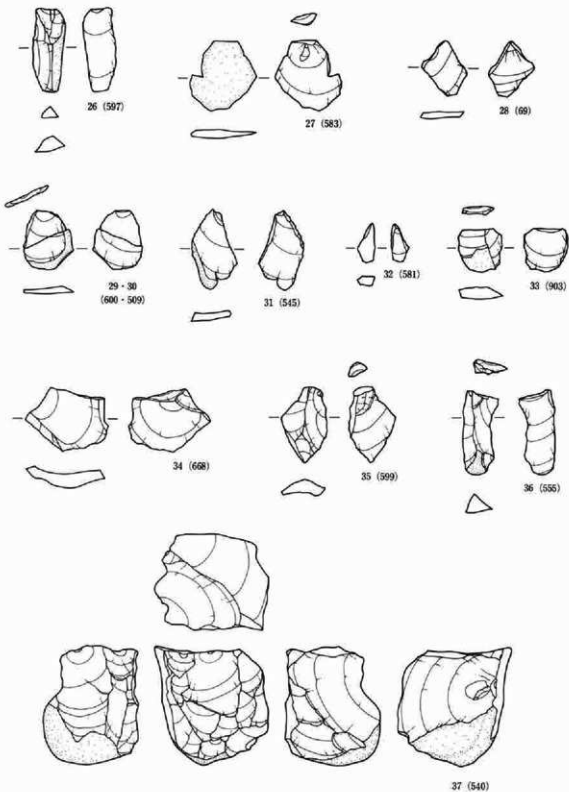


第215図 接合資料68-③ 0 10cm



第216図 接合資料68-④ 0 10cm

第4章 検出された遺構



接合資料69 (第218図、写真図版34)

石刃状剥片等の縦長の剥片を主体とし、折断が多用されている15点の資料から成る。剥離作業面の左端から打点を左右にずらしながら後退させていくもので、接合資料66の初期の段階に類似している。石材は頁岩である。

①→②(671→684→686→707+690+674→693+689→688+669→683+687→699+923→676)

①打面を作出する。②剥離作業面の左端、及び右端から打点を左右に後退させながら移動させて、打角が110度～130度の間で剥片を剥出する。この作業によりほぼ同じ長さの石刃を始めとする縦長の剥片が目的通りに連続して剥出される。

接合資料70 (第219図、写真図版38)

石核と折断された資料を含む7点の剥片の計8点から成る。石核は第III類に属し、立方体を呈す。石材は黒色安山岩である。

①→②→③(727→18+935→591→731)→④(589)→⑤(565)→⑥(521)

①礫を分割し石核素材を立方体状に整えている。②打面を作出する。この段階以前にも数回の打面作出と剥片剥離が施されているが、順序や方向等がはっきりしない。③打面の周縁に沿って打点を移動し、横長の剥片を主体に5～6枚剥出する。④剥離面を打面として90°転位し、2～3枚程の剥片を剥出する。⑤打面を再び前の段階の面に転位し、剥片を剥出する。⑥石核が残存する。

第32ブロックと第33ブロックについては、接合資料の分布状態から見てもかなり密接な関係を持つと考えられる。両ブロック共、中央部の集中部分に敲石や石核等の剥片剥離工程に伴う器種が分布し、それを中心に接合資料が分布している事から、石器製作の場の機能を有していたと考えられる。ただし、ナイフ形石器等の主要石器が両ブロックの周縁部分に分布する事から、隣接する部分に道具置き場、あるいは居住空間的な広がり、つまり住居跡の存在が想定できよう。

その他の接合資料は次の通りである。

主として32ブロックを中心に分布する接合資料

折断を施された剥片を含む8点の剥片と2点の碎片の計10点から成る接合資料

314→277→371→299→360→374→135→306+890→307

折断を施された資料を含む5点の剥片から成る接合資料 535→537+518→426→857

2点の剥片から成る接合資料2例 363→358、501→270

3つに折断された石刃の接合例 62+63+66 (第40図-170)

2つに折断された石刃及び石刃状剥片の接合資料4例

454+462(第41図-182)、340+349(第41図-179)、364+382(第47図-230)、294+886(第46図-228)

3つに折断された剥片の接合資料2例 398+514+409、448+894+439

2つに折断された剥片の接合資料5例 243+297、854+885、421+427、64+407、406+508

主として33ブロックを中心に分布する接合資料

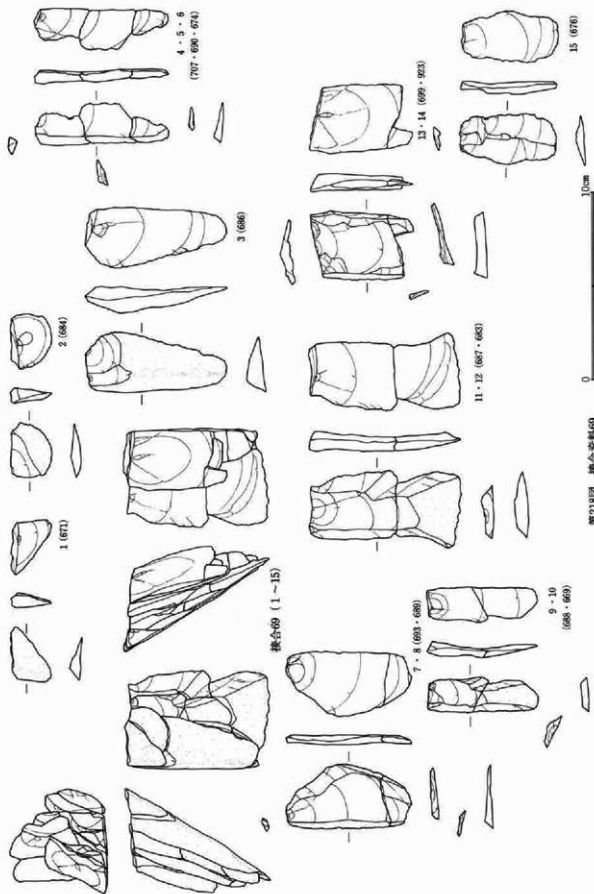
折断を含む4点の剥片から成る接合例 912→626→596+571

剥片3点から成る接合資料2例 279→519→455、8+20→746

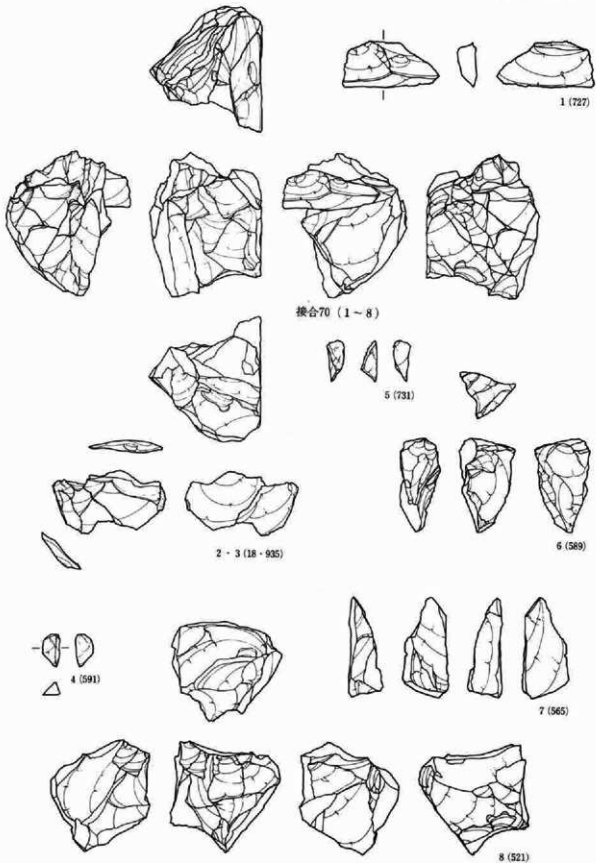
3つに折断された縦長剥片の接合例 652+703+918

2つに折断された石刃の接合例 526+647 (第41図-185)

2つに折断された剥片の接合資料2例 567+933、574+575



第218図 接合資料69



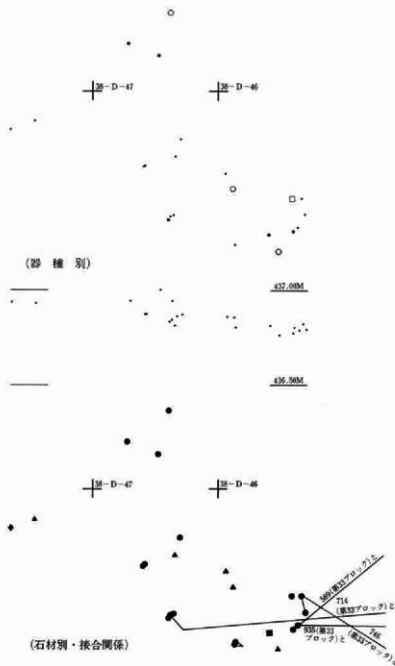
第219図 接合資料70

0 10cm

第4章 検出された遺構

第38表 第34ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名	ナイフ形石器	石鎌	搔器	彫器	加工使用剥片	楔形	石斧 鎌器	敲石 磨石	白石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 石再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
黒色安山岩						1						1	4		9			15
珉質頁岩													1					1
黒色頁岩												2			3			5
不明																1		1
計						1						3	5		12	1		22



第220図 第34ブロック水平・垂直分布図 (1/60)

第34ブロック

D区、38-D-46グリッド周辺、台地の稜線付近より西側部分に位置する。分布形態は長軸5m、短軸約3mの楕円形を呈し、9.7m²程の広がりを持つ。出土状態はやや南側に集中する形で、北側はまばらである。周辺・隣接ブロックとの関係では、北側に第37、東側に第33の各ブロックが存在する。

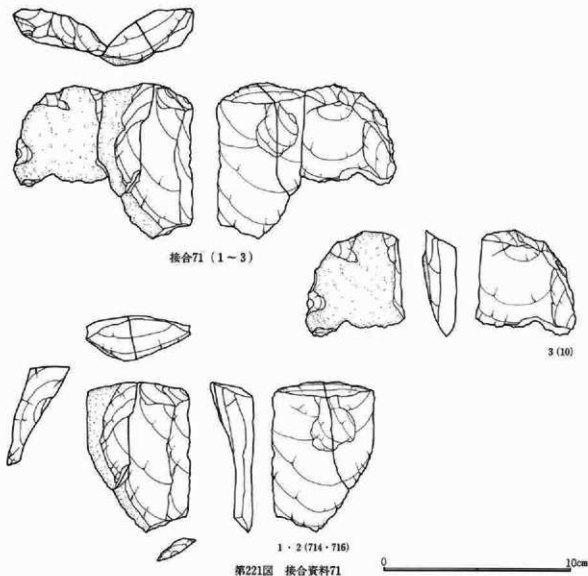
ブロックを構成する総点数は22点と少ない。石器組成は使用痕ある剥片、石刃類、縦長剥片等であるが、剥片12点(約54.5%)と半数を占める。石材は黒色安山岩が15点(約68.2%)と高い割合を占める。

接合資料は4例16点と比較的多い。ブロック内で完結するのは1例のみで、残りはすべて第33ブロックとの間に接合関係を持つ。

接合資料71 (第221図)

同一打面から連続して4枚以上剥出された縦長剥片等の3点(714+716→10)から成るが、縦長剥片はほぼ中央部で長軸方向に沿って折断されている。石材は黒色安山岩である。

ブロックの性格は、第33ブロックと密接な関係を持つ石器製作址か、廃棄の場に近いと考えられる。



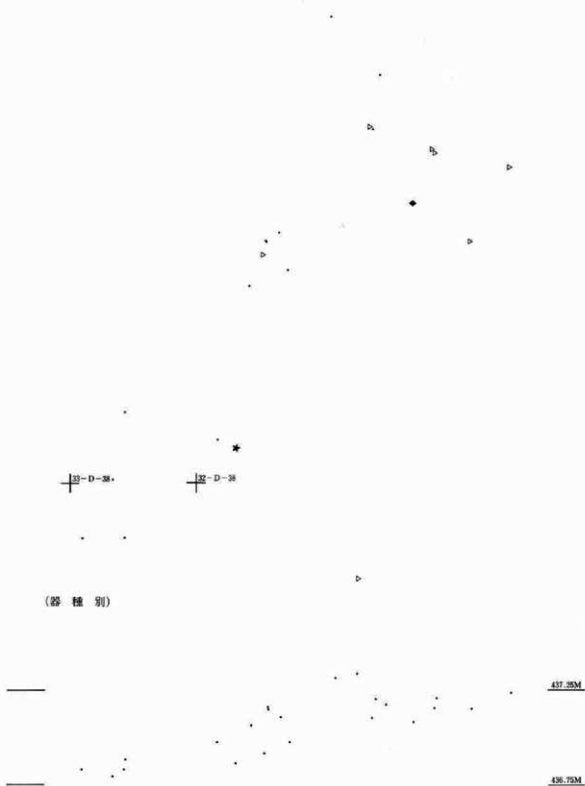
第35ブロック

D区、31-D-40グリッド周辺、台地の稜線部分よりやや東側斜面寄りに位置する。分布形態は長軸約9m、短軸約4mとかなり長細い楕円形を呈しており、36.9m²程の広がりを持つ。出土状態はかなりまばらで、北西方向から南東方向にかけて散在している形である。周辺・隣接ブロックとの関係では、北側から反時計回りに第38・第39・第36・第31・第29の各ブロックが存在する。

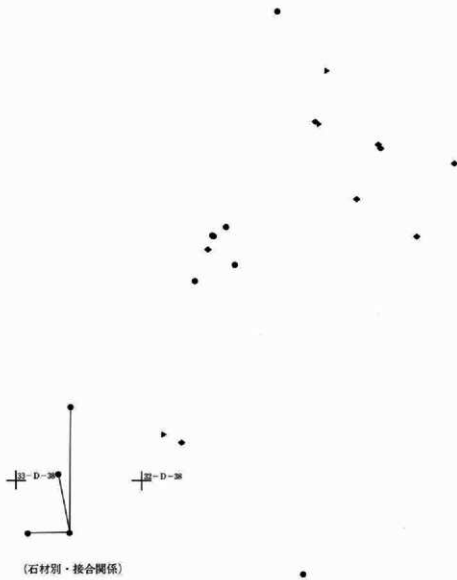
ブロックを構成する総点数は22点と少ないが、ナイフ形石器、磨石を持つ石器組成である。主体は剥片13点(約59.1%)、礫7点(約31.8%)であるものの、西側にナイフ形石器、東側に磨石が分布する。黒色安山岩が11点(50%)と石材の半数を占めるが、不明も含めて8種類も存在する。

接合資料は1例4点と少ないが、二つに折断された剥片を含めた4点の剥片の接合例(95→94+48→97)で、石材は黒色安山岩である。

ブロックの性格は、主要石器が存在するものの西側に偏って存在し、それに対して東側には接合資料と磨石が分布する事から、西と東で場の機能が異なっていると考えられ、前者は道具置き場や居住空間の一部であるのに対して、後者は接合点数からみて二次的な石器製作の場と考えられる。



第222図 第35ブロック水平・垂直分布図 (1/60)



第223図 第35ブロック水平分布図 (1/60)

第39表 第35ブロック石材別石器組成表

器種名 石材別	ナイフ形 石器	石鏃	播磨	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 磯器	敲石 磨石	白石	石杖	石刀 石杖 剥片	短長 剥片	打作 打再 石鏃	剥片	砕片	原石 塊	計
輝緑岩																1	1
縞紋岩	1																1
黒色安山岩														10		1	11
砂岩															2		2
黒色頁岩														3			3
点紋頁岩																1	1
珪質燧岩																1	1
不明								1								1	2
計	1							1						13		7	22

第36ブロック

D区、33-D-42グリッド周辺・台地の稜線付近に位置する。分布形態は南北に細長い楕円形を呈し、長軸約6m、短軸約2m、面積は約14.6㎡の広がりを持つ。出土状態はかなり散漫である。周辺・隣接ブロックの関係は、北側から時計回りに第39・第35・第31・第37・第40の各ブロックが近接して存在する。

ブロックを構成する総点数は14点と少なく、縦長剥片、剥片、礫の石器組成である。石材は黒色安山岩が7点（50%）、黒色頁岩が5点（約35.7%）と数が近接している。

ブロックの性格としては、主要な石器や接合資料が無く、分布自体もまばらな事から、廃棄に伴う場の可能性が高い。

第40表 第36ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石錐	棒器	彫器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 礫器	礫石 磨石	台石	石柱	石刀 石状 剥片	縦長 剥片	打削 打再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
流紋岩																1	1
黒色安山岩												2		5			7
塊頁岩																1	1
黒色頁岩												1		2		2	5
計												3		7		4	14

(器種別)

(石材別・接合関係)

437.00M

437.00M

第224図 第36ブロック水平・垂直分布図（1/60）

第37ブロック

D区、34-D-47グリッド周辺・台地の稜線からやや西斜面寄りに位置する。分布形態は南北に細長い楕円形を呈し、長軸約9m、短軸約5m、面積約40.03㎡の広がりを持つ。出土状態は北側部分、中央部分にやや集中するが、南側部分は散漫で中心に空白部を持つ。周辺・隣接ブロックの関係は、北側から時計回りに第40・第36・第31・第33・第34・準IVの各ブロックが存在する。

ブロックを構成する地点数は70点。楔形石器や加工痕ある剥片もあるが、石器組成の主体は縦長剥片や剥片類であり、39点(約55.7%)と比較的高い割合を占める。石材は黒色頁岩33点(約47.1%)、黒色安山岩28点(40%)の順であり、他のブロックと比較してみても黒色頁岩の方が多し事は興味深い。また北側部分に黒色頁岩、中央部分に黒色安山岩が偏って分布する傾向も認められる。

接合資料は8例20点で、7例17点については1～2m以内の近い距離で接合しているものの、残りの1例3点は準IVブロックと準Vブロックの間に接合関係があり、後で記述する事とする。

第41表 第37ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石鏃	挿器	形器	加工 使用 剥片	楔形	石鏃 礫器	敲石 磨石	台石	石核	石刀 石杖 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
石英																1	1
安山岩																1	1
黒色安山岩											1	4		19	4		28
砂岩																3	3
頁岩														1		1	2
黒色頁岩					1	1					2	9	1	9	5	5	33
不明														1		1	2
計					1	1					3	13	1	30	9	12	70

接合資料72 (第226図)

二つに折断された剥片を含む4点の剥片から成る。残存する剥離面からは求心的な剥片剥離が考えられ、円盤状の石核が想定される。原礫ははっきりしないが分割面も残存している。打面は背面側に設定されており、打点は周縁に沿って移動する資料(775→770→772+769)である。石材は黒色安山岩である。

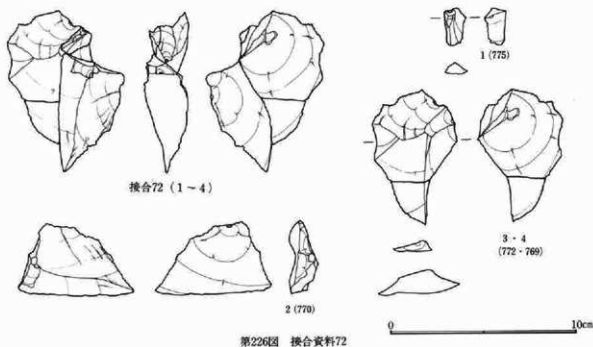
その他の接合資料は次の通りである。

三つに折断された剥片の接合資料 2195+2208+2207

2点の剥片の接合資料2例 749+765、783+786

二つに折断された剥片の接合資料2例 761+768、2199+2213 (第64図-406)

ブロックの性格は、石核が存在しないものの、接合資料の割合が高いことから石器製作址と考えられる。



第38ブロック

D区、26-D-38グリッド周辺に位置する。調査区域の北側、台地の稜線よりやや東斜面寄りで、直径1m程の転石2個の間に位置する。調査区の北限ぎりぎりの場所であることから、ブロックの一部が調査区外に延びる可能性が高いうえに、すぐ東側に町道が南北方向に幅3mで延びているために、ブロックの東側部分が壊されている可能性もある。そのため、本来の分布形態を留めているかどうかは不明である。現存する状態は長軸約9m、短軸約5mの楕円形であり、約27.1㎡の広がりを持つ。また、転石の間に分布することから、第2・第3の各ブロックと同様にこの転石を壁の用材とする住居跡が想定できるかも知れない。出土状態はやや密集する形で、特に中央部分に集中する傾向を示す。周辺・隣接ブロックとの関係では、西側から南側にかけて第39・第36・第35の各ブロックが存在する。

ブロックを構成する総点数は133点。石器組成はナイフ形石器、加工痕ある剥片、礫器、石核、打面再生剥片、石刃、縦長剥片等が存在し、特に石刃類と縦長剥片の2種だけで19点(約14.3%)と24点(約18%)とかなり多く、このブロックでの縦長の剥片への依存度が非常に高いと言える。主体は剥片類で76点(約57.1%)と過半数を占める。石材は黒色安山岩が118点(約88.7%)とかなり高い割合を占める。

第42表 第38ブロック石材別石器組成表

石種名 石材別	ナイフ形石器	石核	礫器	形器	加工使用剥片	横形	石片礫器	敲石磨石	台石	石核	石刃石状剥片	縦長剥片	打作打再石核	剥片	砕片	原石礫	計
	石英																1
黒色安山岩					1					3	19	24	1	55	15		118
灰色安山岩														1			1
真岩																1	1
黒色真岩	1				1		1			1				5			9
珪質安山岩																2	2
不明																1	1
計	1				2		1			4	19	24	1	61	15	5	133

接合資料は10例34点で、すべてブロック内で完結する。

接合資料73 (第228・229図、写真図版35)

石核、石刃状剥片、縦長剥片と9点の剥片の計12点から成る。ほぼ半分に分割した礫を素材としており、原礫の形状をほぼ復元できる資料である。石材は黒色安山岩である。

①→②(1976→1975+2003→1984→1960+1961→1967→1971→1922→1962)→③(1980)→④(2023)

①礫を半分に分割する。②一方の半礫の一端側の礫を打ち取り、打面を作出する。③打点を左右にずらしながら後退させ、剥離面頭部調整を含めて20枚前後の剥片を剥出する。剥出された剥片のいくつかには折断が施される。④最終剥離面を打面として90°転位し、4～5枚の剥片を剥出する。④石核が残存する。

この資料に認められる打面転位は本石器群の剥片剥離技術の特徴の一つである。

接合資料74 (第230図、写真図版38)

石核と石刃状剥片と剥片の計3点から成る。石核は第I類に属し、石材は黒色安山岩である。

①→②→③(1921→1939)→④(1927)

①礫を分割し、石核素材を得る。②打面を作出する。③打面の周縁に沿って打点を移動し、剥離面頭部調整を含めて10数枚の剥片を剥出する。④石核が残存する。

接合資料75 (第230図)

ほぼ中央で二つに折断されたり、打点部分が失われたりした4点の石刃状剥片が、同一打面から連続して剥出された資料(1988→1949→2041+2042)であるが、残存する剥離面の観察から両設打面の石核より剥出されたと考えられる。

接合資料76 (第231図、写真図版38)

石核と打面再生剥片の2点から成る。石核は背面に礫面を残し、第I類に属する。打面再生剥片に残存する剥離面はあまり顕著でなく剥出される剥片も不定形に近い。石材は黒色安山岩である。

①→②→③→④→⑤(2036)→⑥→⑦(2028)

①礫を分割する。②打面を剥出する。③2～3枚の剥片を剥ぎ取る。④相対する側に打面を作出する。⑤剥離面頭部調整を含めて5枚程の剥片を剥ぎ取る。⑥石核の背面側から加撃し、打面再生剥片を剥出し、打面を新たに作出する。⑦4～5枚の剥片を剥ぎ取る。⑦石核が残存する。

接合資料77 (第231図)

同一打面から連続して剥出された石刃状剥片と縦長剥片の計3点の資料(1966→2039+2025)であるが、両端部分に折断が施されている。石材は黒色安山岩である。

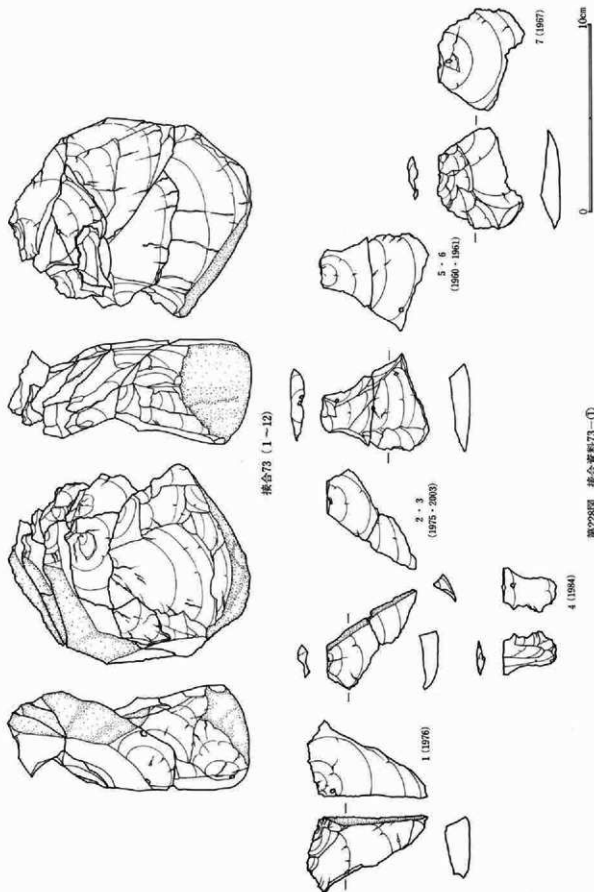
その他の接合資料は次の通りである。

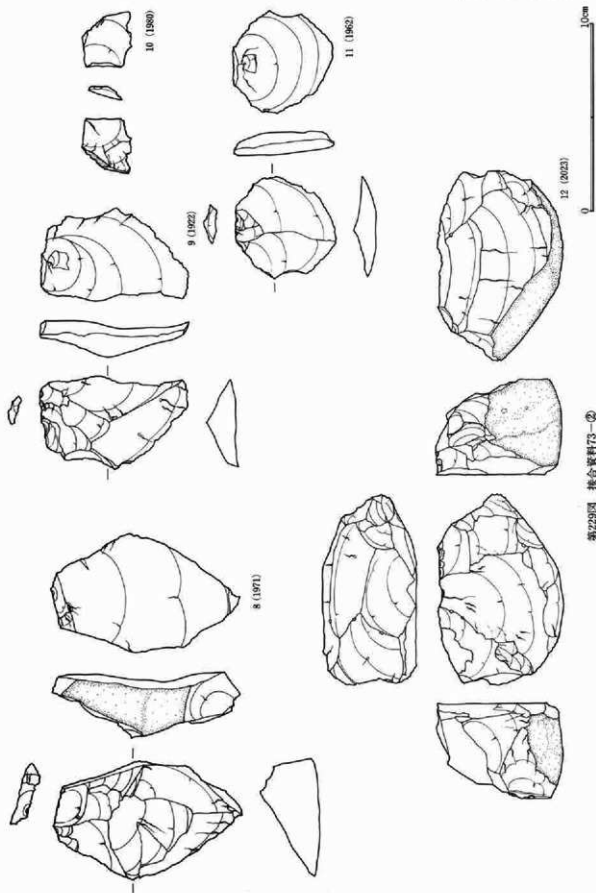
二つに折断された石刃・石刃状剥片の接合資料 3例 1974+2006、1969+1970、1958+1998

二つに折断された剥片の接合例 1940+1992

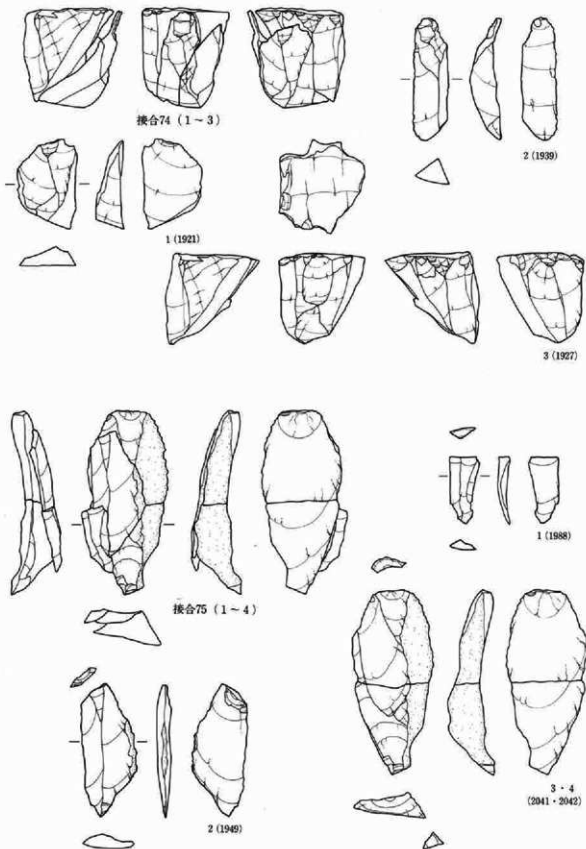
二つの剥片の接合例 1920→1963

ブロックの性格は、接合資料の多さから石器製作址と考えられる。

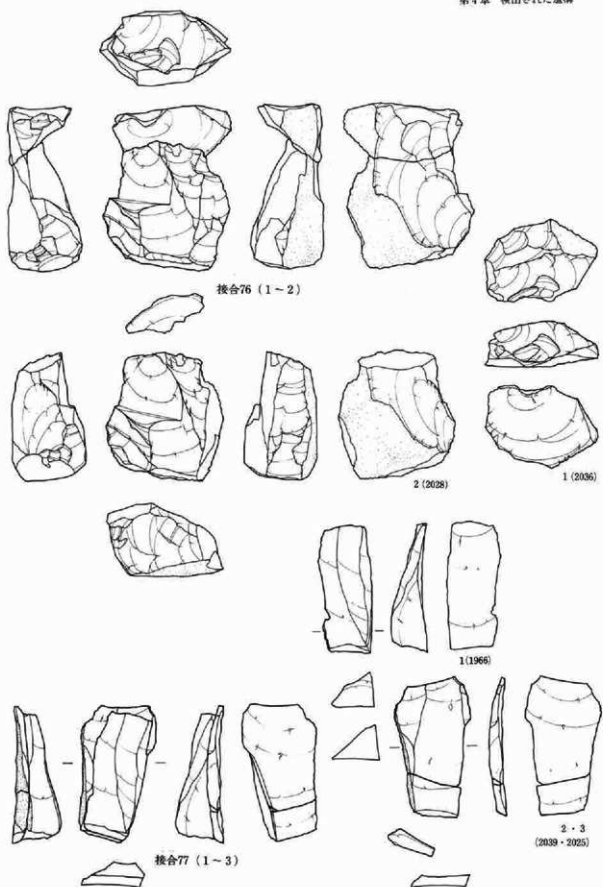




第229図 接合資料75-②



第230図 接合資料74・75 0 10cm



第231図 接合資料76・77

第39ブロック

D区、26-D-38グリッド周辺に位置する。調査区域の北側、台地の稜線よりやや東斜面寄りに位置する。分布形態は長軸約9m、短軸約7mの楕円形を呈し、約47.2㎡程の広がりを持つ。出土状態は北側部分と南側部分の二箇所に集中がそれぞれ偏るために、二つのブロックに分離できる可能性も考えられる。特に、北側の集中が直径約2m程の円形状に密に分布するのに対して、南側は直径約6m程の円の周縁部分に分布しており、中央に空白部分が広がり南端的な分布が途切れている。これは「場の機能」の違いからきているものかも知れない。周辺・隣接ブロックの関係では、北側は調査区域外になるために不明であるが、東側から西側にかけて時計回りに第38・第35・第36・第37・第40の各ブロックが存在する。

ブロックを構成する総点数は149点。石器組成はナイフ形石器、彫器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、石核、石刃類、縦長剥片等から成るが、主体はやはり剥片類で115点(約77.2%)と高い割合を占める。主要石器は北側の集中に偏る傾向が認められるものの、ナイフ形石器が北側に分布するのに対して、彫器は南側に分布する。石材は黒色安山岩が122点(約81.9%)とかなり高い割合を占め、黒色頁岩は13点(約8.7%)と1割にも満たない。種類は不明も含めて9種であるが、黒曜石が1点存在するのが特徴的である。

接合資料は8例25点存在するが、その内の7例18点はブロック内で完結し、残りの1例7点が第40ブロックの資料との間に接合関係を持つ。分布状態に特徴があり、すべての北側の集中に偏って存在するが、これも「場の機能」を考える上で重要な点と言える。特に北側の集中の東端部分を中心に分布しており、敲石や台石等は分布していないものの、石核が2点も存在する事から、この部分を中心とした剥片剥離工程の展開が想定される。

接合資料78(第233・234図、写真図版38)

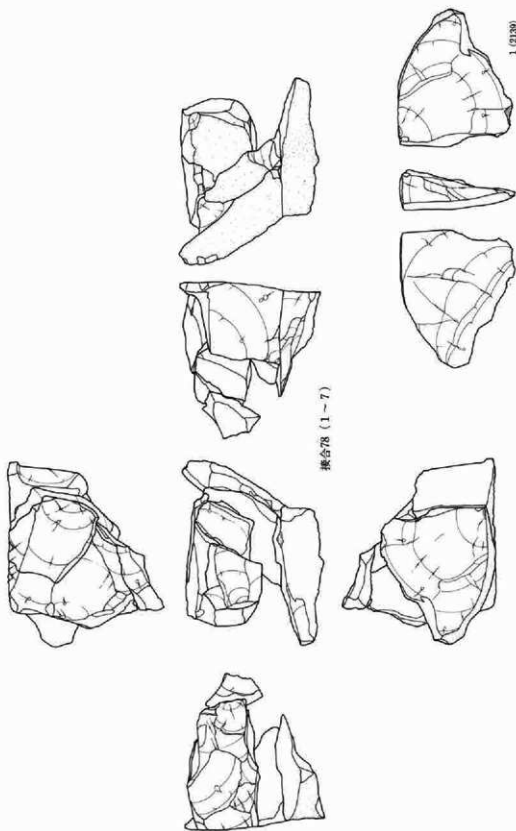
石核と石刃状剥片と5点の剥片の計7点から成る。打面転位を頻繁に繰り返しており、石核は第III類に属する。石材は黒色安山岩である。

①→②→③(2139)→④(2167→2109)→⑤→⑥(75)→⑦(2147)→⑧(2150)→⑨(2129)

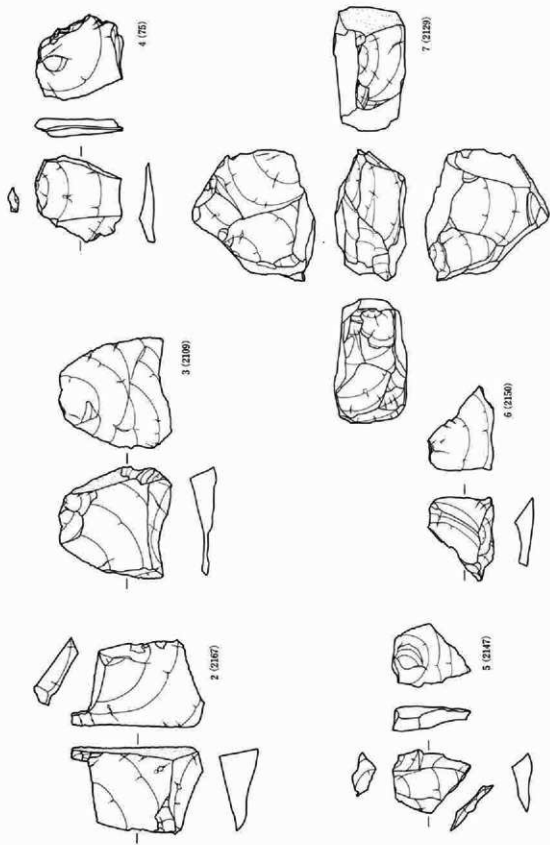
①原礫の形状ははっきりしないが、長軸方向に直交する形で輪切り状に3分割、あるいはそれ以上に分割されたものの真ん中の剥片を素材とする。②次に長軸方向に平行する形で2つに分割する。③側面を打面として2枚程の剥片を剥出する。④打面を分割面に移動して、3枚程の剥片を剥出する。⑤打面を相対する側に180°転位し1枚の剥片を剥ぎ取る。⑥再び打面を180°転位し3枚程の剥片を剥出する。⑦打面を180°転位し3枚程の剥片を剥出する。⑧剥離面を打面として90°転位し、1枚の剥片を剥出する。⑨石核が残存する。

第43表 第39ブロック石材別石器組成表

石材別	ナイフ形石器	石鏃	標器	彫器	加工使用剥片	裏形	石片	敲石	台石	石核	石刃状剥片	縦長剥片	打作打再石核	剥片	砕片	黒石	計
石英														1			1
流紋岩				1	1									1		1	4
黒曜石					1												1
安山岩																2	2
黒色安山岩	1				2					3	4	5		75	32		122
頁岩														1	1		2
塊頁岩												1					1
黒色頁岩					1						5	1		4		2	13
不明																3	3
計	1			1	5					3	9	7		82	33	8	149

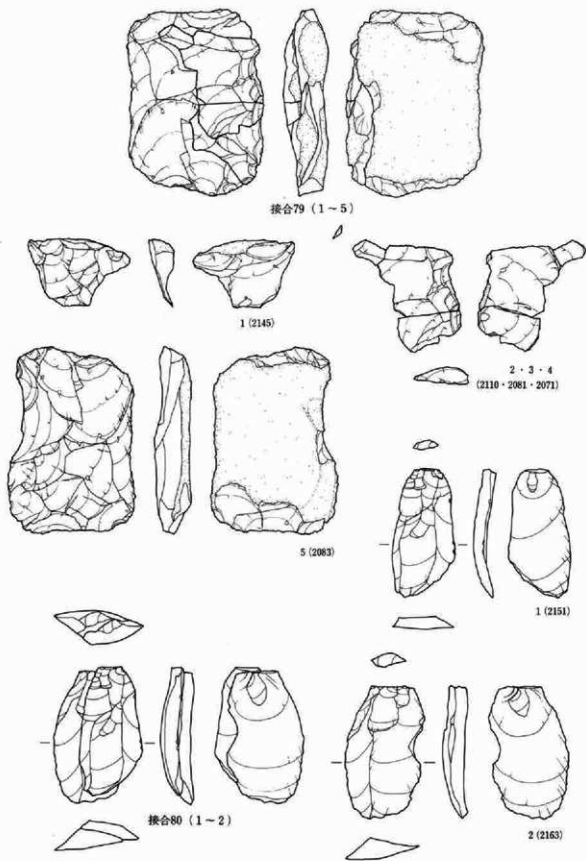


第233図 検合資料78-①



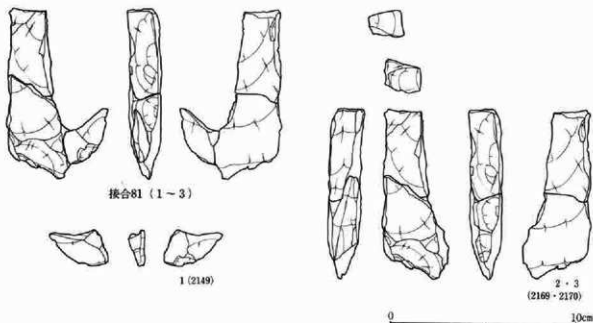
第234図 接合資料78—②

0 10cm



第235図 接合資料79・80

第4章 検出された遺構



第236図 接合資料81

接合資料79 (第235図、写真図版39)

石核と折断を施された資料を含む3点の剥片の計4点から成る。石核は背面の大部分に礫面が残存し、形状は長方形に近いものの、周縁からの求心方向への剥片剥離工程を示し、第IV類に属する。剥片の打面は2点共に礫面であり、背面を打面としている。そのために剥出される剥片は、横長や寸詰まりの形状を呈す。石材は黒色安山岩である。

①→②→③(2081+2071+2110→2145)→④(2083)

①礫を分割し、一面に礫面を残す大形の剥片を石核素材とする。②分割面を打面として両端部分で礫面側に向けてそれぞれ2～3枚の剥片を剥ぎ取るが、打面の作出に伴うものであるかも知れない。③礫面を打面として周縁から求心方向に加撃して、10数枚の剥片を剥出する。④石核が残存する。

接合資料80 (第235図)

同一打面から剥出された石刃状剥片の2点から成る資料(2151→2163)である。表面に残存する剥離面からは単一方向からの剥離しか認められず、剥離面頭部調整も顕著である。2点の間にも剥離面頭部調整を含めて3枚の剥片が剥ぎ取られている。

接合資料81 (第236図)

折断を施された2点の剥片と碎片の計3点から成り、石材は黒色安山岩である。素材は長方体盤状の剥片であり、長軸方向に沿ってほぼ半分分割した後に、さらに中央に折断を施して2つに分割する資料(2169+2170+2149)である。

これ以外の接合資料は次の通りである。

剥片が2つに折断された資料4例8点

2086+2114、2082+2108、2096+2101、2153+2155

ブロックの性格は、前述した点から見ても、北側部分に明らかに石器製作に伴う場があるのに対して、南側は空白部分を居住空間とする住居跡的な場の機能を有する。

第40ブロック

D区、28-D-48グリッド周辺に位置する。台地の稜線上、調査区域の北端に位置する。分布形態は長軸約9m、短軸約5mの楕円形を呈し、約40.3㎡の広がりを持つ。出土状態は比較的まとまりを持つ。東側から西側にかけて時計回りに、第39・第35・第36・第37・準IV・第41の各ブロックが近接して存在する。

ブロックを構成する総点数は40点。石器組成は加工痕ある剥片、敲石、打面再生剥片、石刃類等から成るが、主体は剥片類28点（70%）が占める。石材は黒色安山岩が30点（75%）と主体を占める。

接合資料は3例8点で、剥片の3点の接合例（2186→74→76）、剥片の折断例（83+84+85）、石刃状剥片の折断例（2192+2193、第50図-272）で、すべてブロック内で完結する。

ブロックの性格は、石核自体は無いものの、打面再生剥片や敲石の存在とその周辺に分布する接合資料の存在から石器製作場の場と考えられる。

第44表 第40ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名	ナイフ形石器	石鏃	掻器	彫器	加工使用剥片	楔形	石押器	敲石	台石	石核	石刃状剥片	短長剥片	打面再生剥片	剥片	碎片	原石	計
安山岩																	2	2
黒色安山岩						1						3	2		22	2		30
実質安山岩																	1	1
黒色頁岩															4		1	5
珉質実質岩															1			1
不明									1									1
計						1			1			3	2		27	2	4	40

第41ブロック

E区、25-E-03グリッド周辺に位置する。台地の稜線部分で、調査区域内の北端に位置するためにブロックの一部が調査区域外に延びる可能性が高い。分布状態は長軸約6m、短軸約3mとやや楕円形を呈し、約12.3㎡程の広がりを持つ。出土状態は極めて散漫である。周辺・隣接ブロックの関係は、北側は調査区域外のために不明であるが、東側に第40、南側に準IV西側に準Vの各ブロックが存在する。

ブロックを構成する総点数は8点と極めて少ないが、ナイフ形石器、石刃類3点と主要石器の占める割合が非常に高い。石材は黒色頁岩、珉質頁岩が大部分を占め、安山岩は1点のみである。

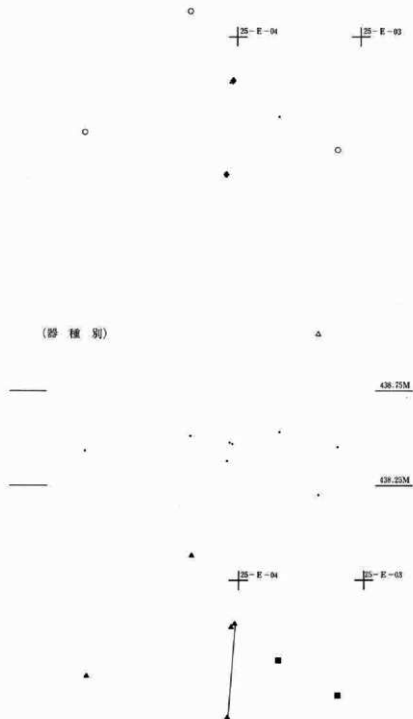
接合資料は1例2点のみで、ナイフ形石器がほぼ中央部で折断された資料（2245+2246）である。

ブロックの性格は主要石器の占める割合等から、石器消費地か、あるいは居住空間の一部に相当すると考えるのが妥当である。

第45表 第41ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名	ナイフ形石器	石鏃	掻器	彫器	加工使用剥片	楔形	石押器	敲石	台石	石核	石刃状剥片	短長剥片	打面再生剥片	剥片	碎片	原石	計
安山岩																	1	1
珉質頁岩												1			1			2
黒色頁岩												2			1			5
計												3			2		1	8

第4章 検出された遺構



(器 種 別)

(石材別・接合関係)

第42ブロック

E区、43-E-22グリッド周辺に位置する。調査区域の西側の沢を望む、台地の西側斜面の傾斜変換線付近に位置する。分布状態は長軸約3.5m、短軸約2.5m程の楕円形を呈し、約6.4㎡の広がりを持つが、地形の傾斜方向に沿って遺物がやや移動した可能性も考えられる。出土状態は極めて密に集中する形であり、中央部付近に2箇所の空白部を持つ。周辺には他のブロックが存在せず、最も近いブロック（東側に第34・第37ブロック、南側に第28ブロック）との間も約40mとかなりの距離を置いており、遺跡内でもほぼ独立した単独の存在と考えられる。

ブロックを構成する総点数は535点。石器組成は、使用痕ある剥片、敲石、石核、打面作出剥片、打面再生剥片、石核授けき剥片、石刃類であるが、主として剥片類が384点（約71.8%）とかなり高い割合を占めている。石材は黒色安山岩が138点（約25.8%）であるのに対して、黒色頁岩が339点（約63.4%）、珪質頁岩が42点（約7.7%）とかなり高い割合を占めており、これは他のブロックと比較して顕著な違いであり、このブロックの特徴の一つと言える。また、石刃類や縦長剥片も頁岩類が32点（94%）と58点（約79.5%）で安山岩類の2点（6%）と15点（約20.5%）に比べて高く、石材比から見ても石刃類に対しての頁岩類の優位が明らかに立証されている。この特徴は本石器群に認められるものである。

接合資料は41例207点存在するが、すべてブロック内で完結する。これからも他のブロックからまったく独立した存在である事がわかる。また、接合の分布も中央部分をはさんで周縁部分に展開する傾向が認められる事から、中央部の空白部分の存在も「場の機能」を考える上で重要な位置を占めていると言える。

接合資料82（第240・241・242・243・244・245・246・247図、写真図版40）

3点の石核と石刃状剥片の縦長剥片を含む57点の剥片の計60点から成る接合資料で、本報告内で最も点数が多く、ほぼ原曝の状態に復元できた資料である。打面作出剥片等の大形の剥片を素材とする石核の存在や、最終段階で認められる縦長の剥片の連続剥離工程、さらに打面調整が認められない点等、本石器群に認められる特徴のほとんどを有する資料でもある。石核は1点が第I類、2点が第III類に属する。剥出された剥片には折断が施される資料も認められる。石材は黒色安山岩である。

第46表 第42ブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石鏃	擗器	形器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 礮石	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
閃緑岩																2	2
石英閃緑岩							1									1	2
輝緑岩																1	1
流紋岩																1	1
安山岩					1					3	2	15		70	47	2	2
黒色安山岩																	138
溶結凝灰岩							1										1
砂岩																1	1
頁岩																1	1
珪質頁岩					3					7	7	5	1	19	7		42
黒色頁岩					5					7	25	53	5	181	60	3	339
点紋頁岩														1			1
珪質安山岩																1	1
不明																3	3
計					9		2			10	34	73	6	271	114	16	535

→⑤^r(1608→1274)→⑥^r(1637+1433+1438)→⑦^r(1460+
1632→1133→1431→1631+1190→1462→1208)→⑧^r(1623)
→⑦^r(1324→1557+1272→
1321)→⑧^r(1538)

①→②(1610+1598)→③(1327)→④(1459+1450)→⑤(1293)→⑥(1599+1613→1220→1615+1471+
1617→1204→1624→1434→1190→1630→1078+1292→1628+1627+1209)→⑦(1626→1470→1117)→
⑧(1604+1103→1609)→⑨(1629+1235)→⑩(1435→1606→1611)⑪(1621)→⑫(1086+1083→1139→
1605→1234→1466)→⑬(1357)

①原礫の一端の平らな礫面を剥ぎ取る様に打ち欠く。②平らな礫面の周縁を180°移動し、相対する方向から同じ様に剥出する。③平らな礫面を打面として表面に礫面が残存する剥片を2～3枚程剥出する。④その剥離面を打面として数枚の剥片を剥出し、打面を作成する。これ以後は、2つの工程に分かれる。⑤再び剥離面を打面とし、下端から表面に礫面が残存する剥片を剥出する。⑥作出した打面の周縁に沿って打点を移動して10枚程度の剥片を剥出するが、一部の剥片にはさらに折断が施される。この段階で剥出された大形の剥片を石核素材とする工程に分かれる。⑦石核素材の下端側から剥片を剥出する。⑧再び打面を180°転位し、以前の打面から2枚程の縦長剥片を剥出する。これ以後の工程は資料の中心部に空間が広がるために、しばらくの間不明である。⑨石核の下端の礫面側から剥片を剥出する。⑩最初の段階の打面から連続して3枚程の剥片を剥出する。⑪再び、石核の下端から1枚の剥片を剥出する。⑫再び、以前の打面から縦長の剥片を連続して5枚程剥出する。⑬石核が残存する。

⑤剥出した数枚の大形剥片の内の1枚を分割する。⑥別の1枚を分割し、一方をさらに3つに分割する。⑦分割した残りを石核素材として、剥片を剥出する。⑧石核が残存する。

⑦分割した剥片の剥離面を打面として剥片を剥出する。⑧石核が残存する。

母岩別資料4 (接合資料83、84、85、86)

7点と2点、2点と2点の4つの接合資料と32点の非接合資料から成る。石材は黄褐色系の珪質頁岩で、かなり特徴的で母岩別化は容易である。原石の大きさは約30cm程の長方形の角礫である。接合資料の3つは剥片同士の接合であるが、残りの1つは打面作出剥片を含み、剥片剥離工程の復元が可能な資料である。この事からも両設打面の石核が想定されるが、調査区域外に存在するのか、あるいは他の場所に持ち去られたのかどうかは不明であるが、このブロック内には存在しない。非接合資料にも縦長の剥片が多い。

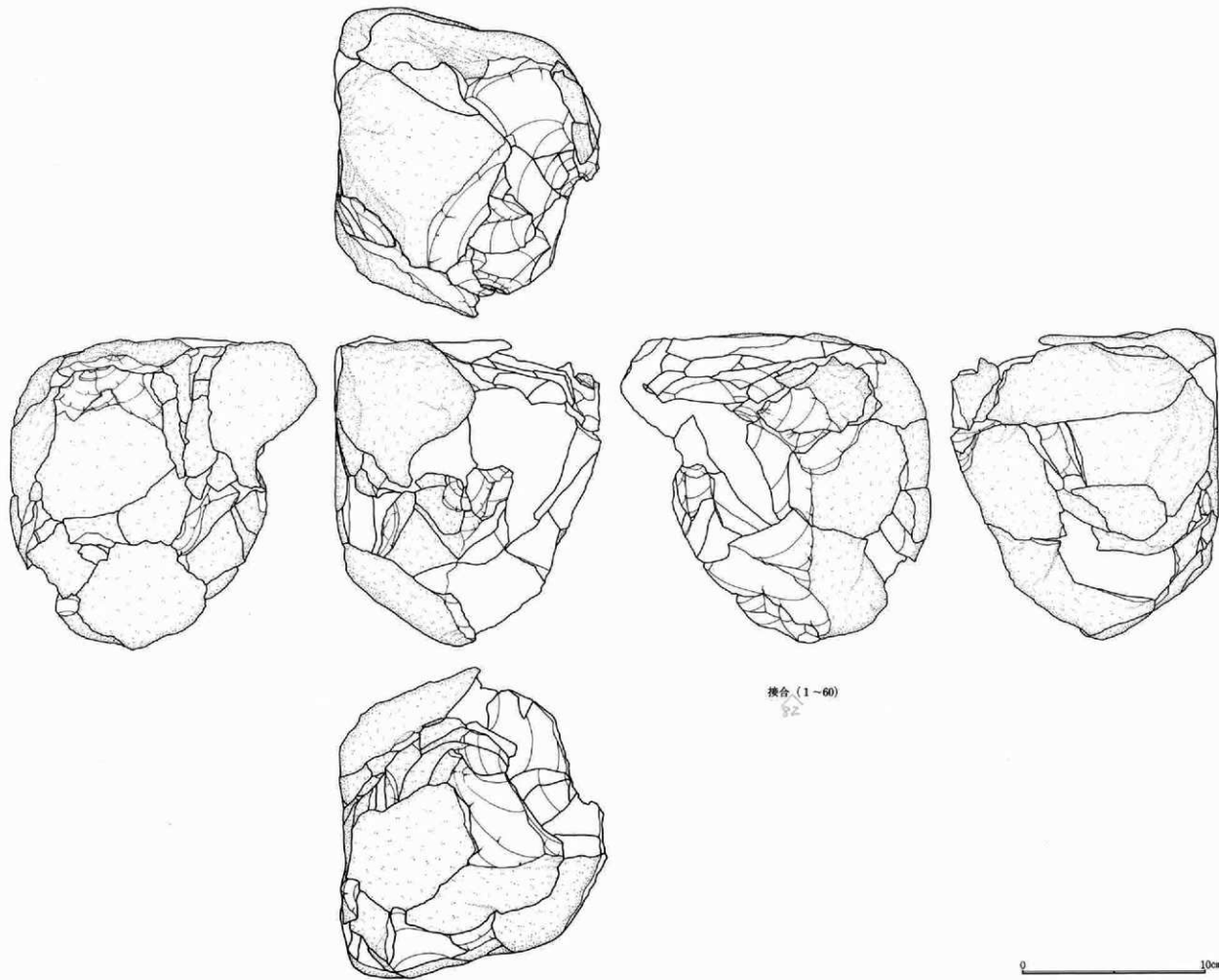
接合資料83 (第249・250図、写真図版41)

①(1273+1277)→②(1559)→③→④(1275)→⑤(1383→1560→1283)

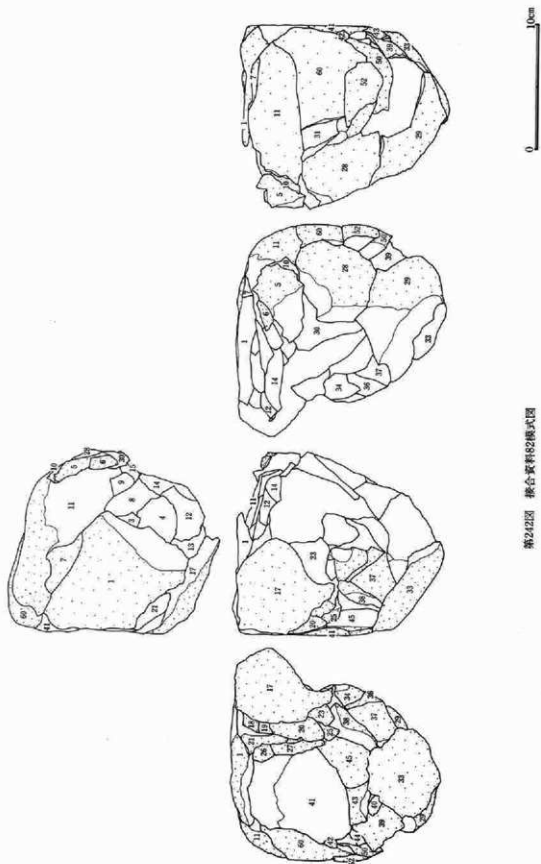
①長方形の角礫の一端を長軸に対してやや水平に打ち取り、打面を作成する。②表面に礫面の残存する剥片を含めて4点程の縦長剥片が剥出される。③もう一端も打ち取り、打面を作成する。つまり両設打面の石核が想定される。④同様に表面に礫面が残存する剥片を含めて6点以上の剥片が剥出される。⑤最初に設定した打面に転位し、主として縦長剥片が7点以上剥出される。これ以後も両設打面を利用して剥片が連続して剥出されたと考えられるが、石核が残存しないためにはっきりしない。

接合資料84 (第250図)

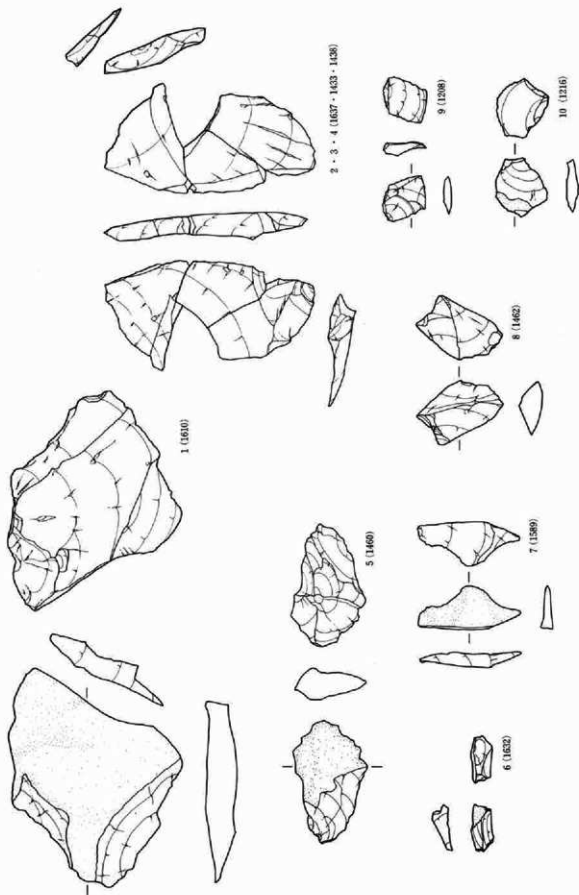
表面に礫面が残存する剥片同士の接合であり、剥片剥離工程の初期段階か、もしくは礫面近辺での調整的な意味での剥離に伴う資料と考えられる。ただし、接合資料83との前後関係ははっきりとはしないが、多分後だと考えてよいであろう。



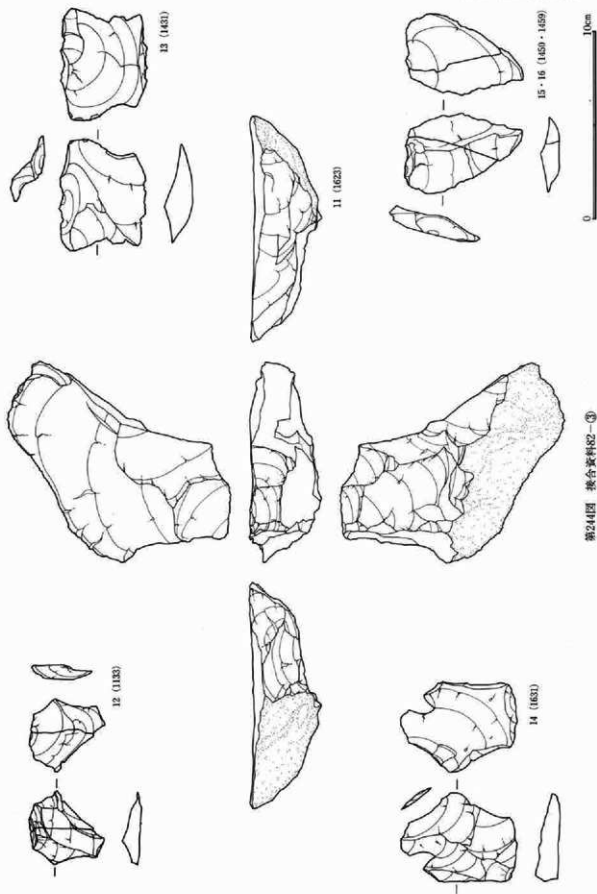
第241圖 接合資料82-①



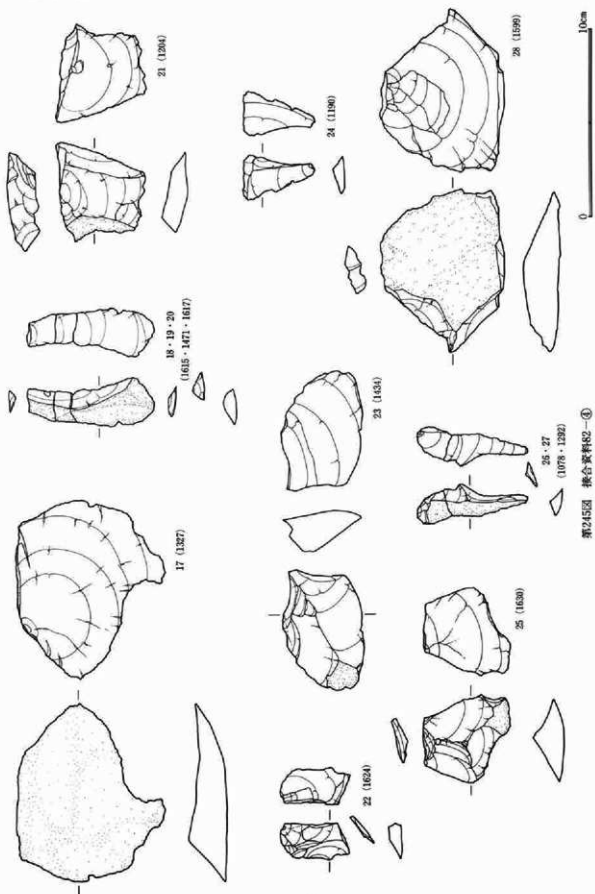
第242図 様合資料82模式図



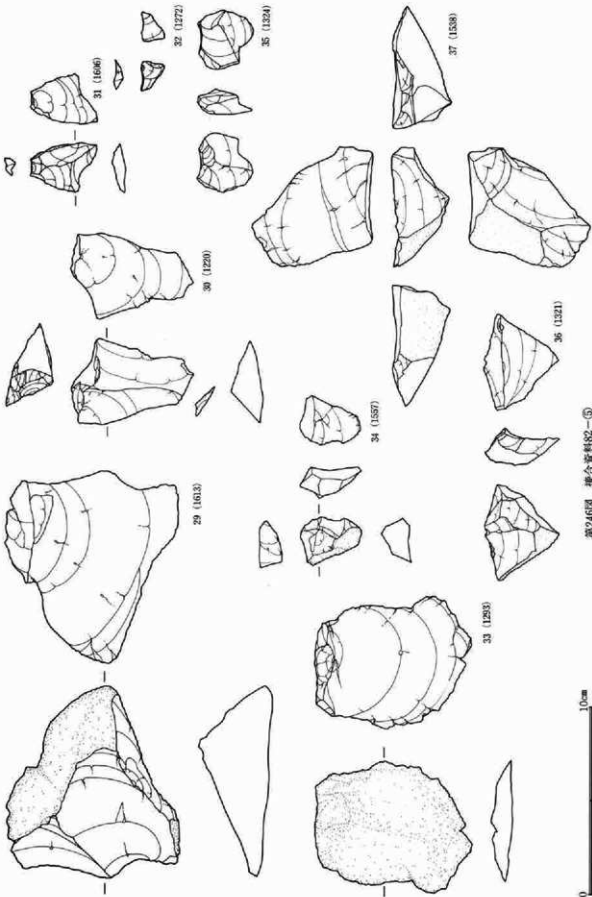
第243図 検出資料82-②



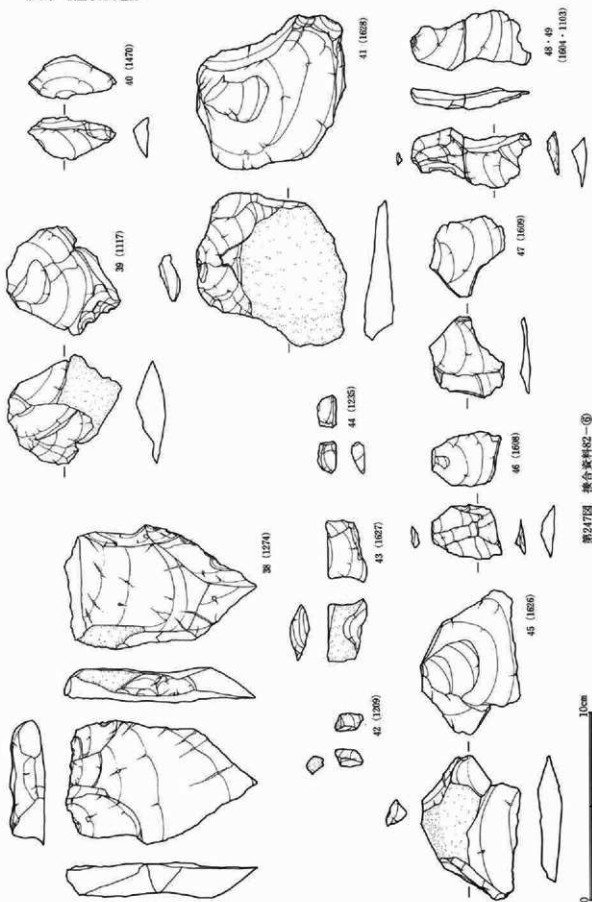
第244図 検出資料82-③



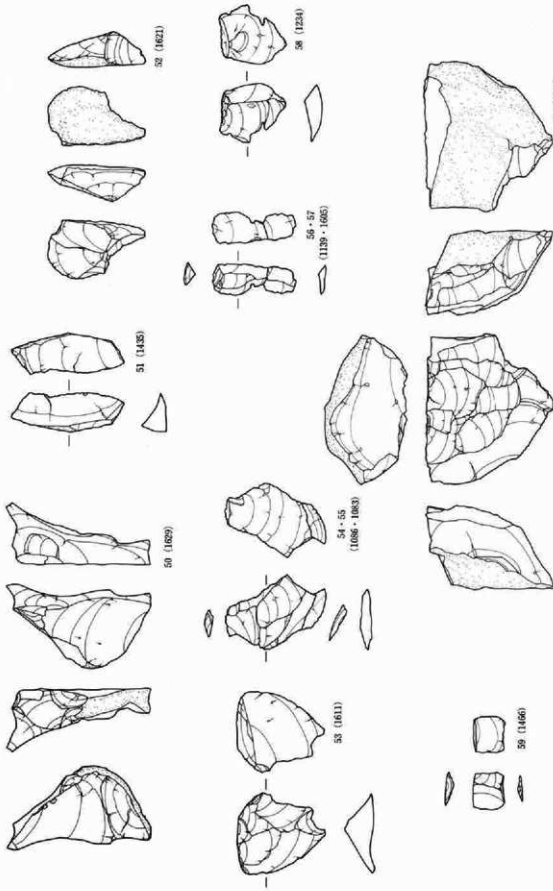
第245図 検出資料K5-④



第246図 集合資料82-⑤



第247図 検出資料82-⑧



第248図 接合資料①-⑦

①→②(1250→1122)

①打面を作出する。②剥片を3枚程連続して剥出する。

接合資料85(第250図)

表面の一部に礫面が残存する剥片同士の接合から成る。剥片の1点は折断されており、打面部分が取り去られている。多分、接合資料83よりも後出と考えられる。

①→②(1159→1228)

①打面を作出する。②連続して4枚程か、もしくはそれ以上の剥片を剥出する。

接合資料86(第251図)

表面の一部に礫面が残存する石刃状剥片と使用痕ある剥片の2点から成る。接合資料85と同様に、接合資料83よりも後出するものと考えられる。

①→②(1221)→③→④(1400)

①打面を作出する。②頭部調整剥片を含めて7枚程の剥片を剥出する。③180°打面転位し、剥片を2枚剥ぎ取る。④再び180°打面転位し、1枚の剥片を剥出する。

同一母岩で非接合の資料は以下の通りである。

石刃2点 1176(第41図-184)、1580(第42図-191) 石刃状剥片1点 1566(第48図-259)

縦長剥片6点 1155、1167、1246、1279、1283、1518(第62図-386)

剥片15点 1112、1169、1171、1187、1224、1242、1248、1254、1257、1259、1264、1266、1542、1543、1595(第74図-498)

砕片8点 1094、1122、1232、1262、1499、1540、1550、1581

接合資料87(第250・251図、写真図版38)

石核と4点の縦長剥片と2点の剥片の計7点から成る。剥片の表面に残存する剥離面から両設打面による剥片剥離工程に伴う資料と考えられる。石核については、むしろ剥片と考えてもよきような資料である。石材は黒色頁岩だが、黄褐色に風化しており母岩別に分類する事は不可能である。

①→②(1600→1340)→③→④(1451+1144→1506→1505)→⑤(1515)

①打面を作出する。②表面に礫面が残存する剥片を含めて5枚程剥出される。③前後関係は不明だが、相対する面に打面を作出し、180°の打面転位をし、1～2枚の剥片を剥ぎ取る。④再び最初の打面に転位し、剥離面頭部調整を含めて4～5枚程の剥片を剥出する。⑤再び打面を180°転位し、1枚の剥片を剥出するが、加撃時の衝撃により打点部分を失っている。その後の剥片剥離工程は不明である。

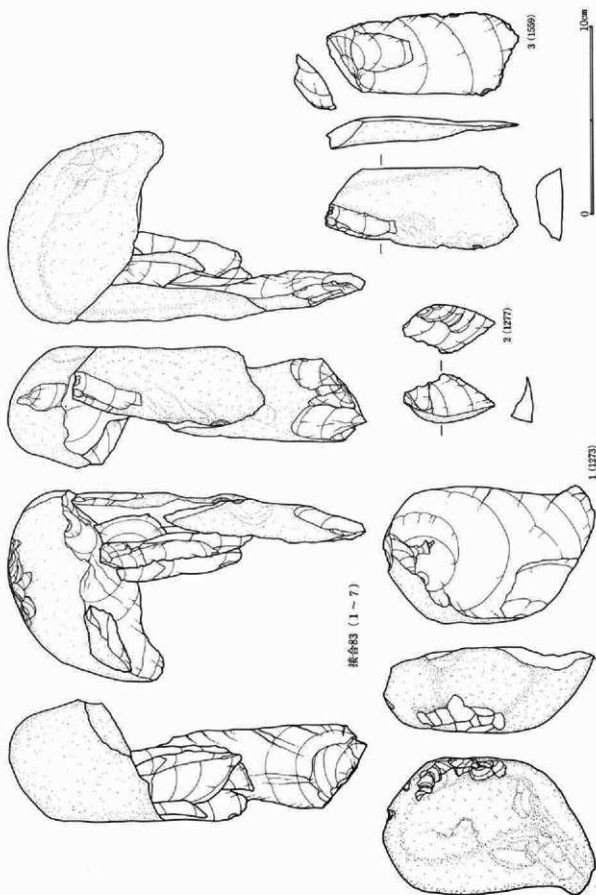
接合資料88(第252・253図、写真図版39)

2点の石核と打面再生剥片、それに石刃状剥片と3点の剥片から成る。角柱に近い形状の原礫を2つに分割し、それぞれに剥片剥離工程が加えられて、最終的には2点の石核が残されるが、その過程には打面再生等も認められる。石材は黒色頁岩である。

①→②→③(1439)→④(1514)→⑤→⑥→⑦(1322)

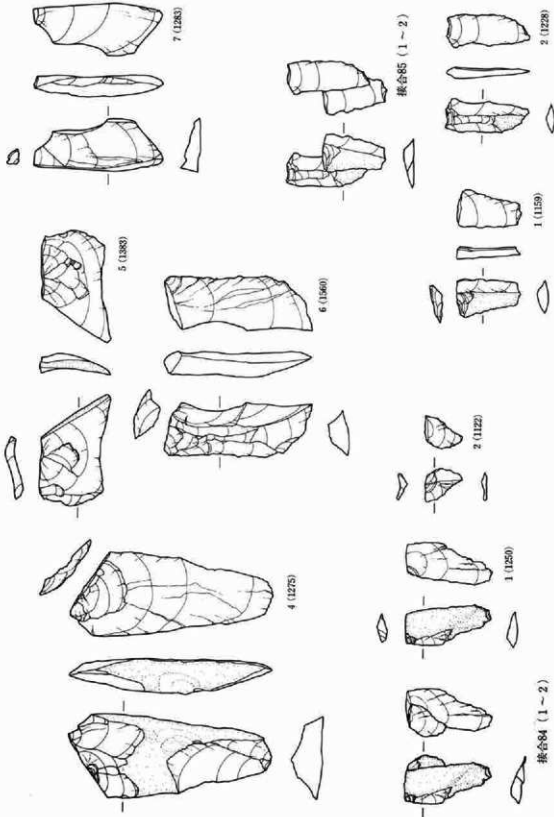
↳③'→④'(1588)→⑤'(1096→1128)→⑥'→⑦'(1401)

①礫の一端から表面に礫面を残す剥片を2枚剥ぎ取る。②その剥離面を打面として礫の長軸方向に加撃し、礫を2分割する。③分割面を打面として横長の剥片を剥出する。④一方の分割礫をさらに2分割して、一つを石核素材とするが、もう一つは工程がはっきりしないものの、折断された剥片が残されている。⑤礫面を打面として3～4枚の剥片を剥ぎ取る。⑥前後関係がはっきりしないが、相対する面から小さな剥片を3枚

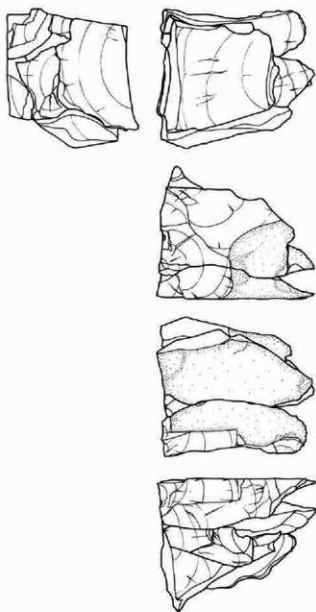
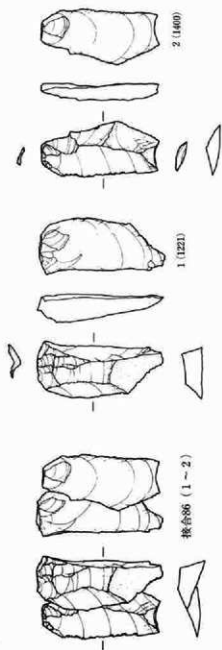


様合83 (1~7)

1 (1273)
第2498図 様合資料83-①



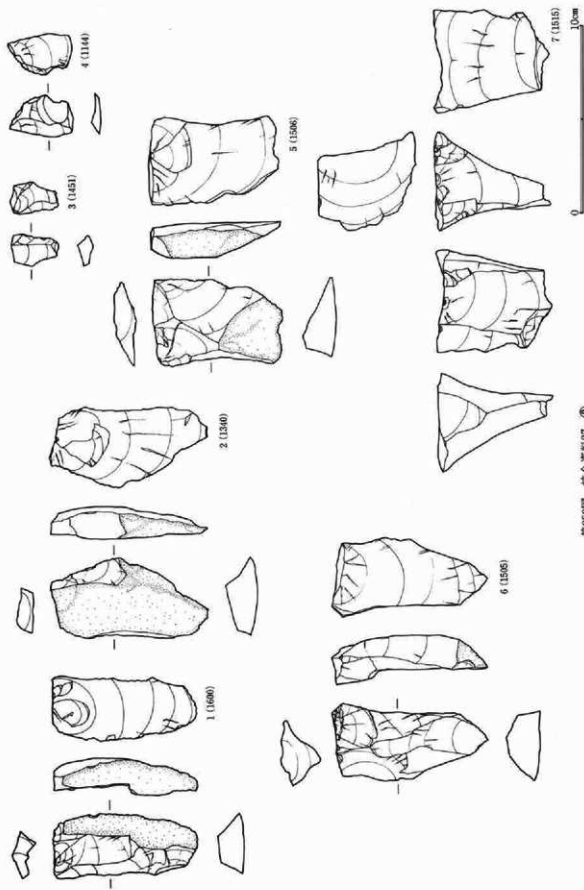
第250図 接合資料83-②・84・85



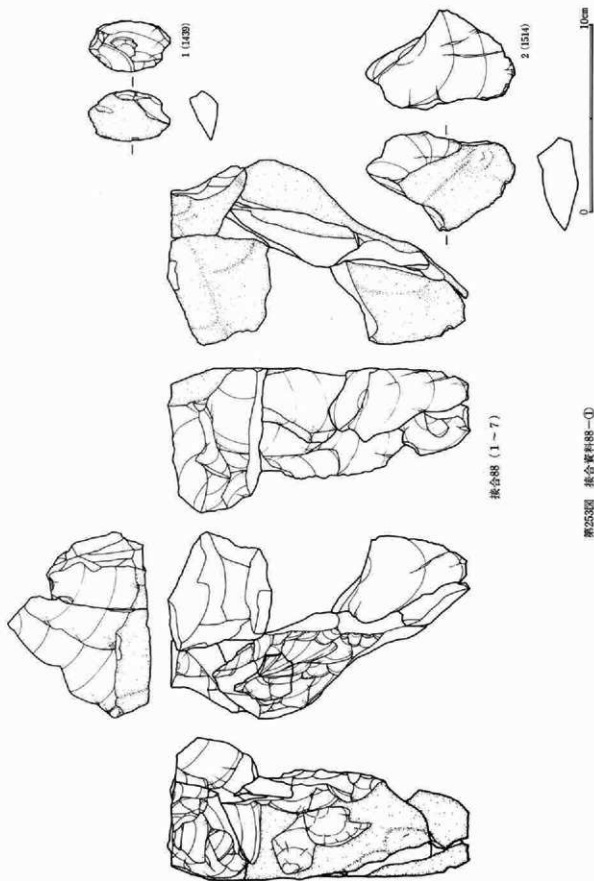
様合87 (1~7)

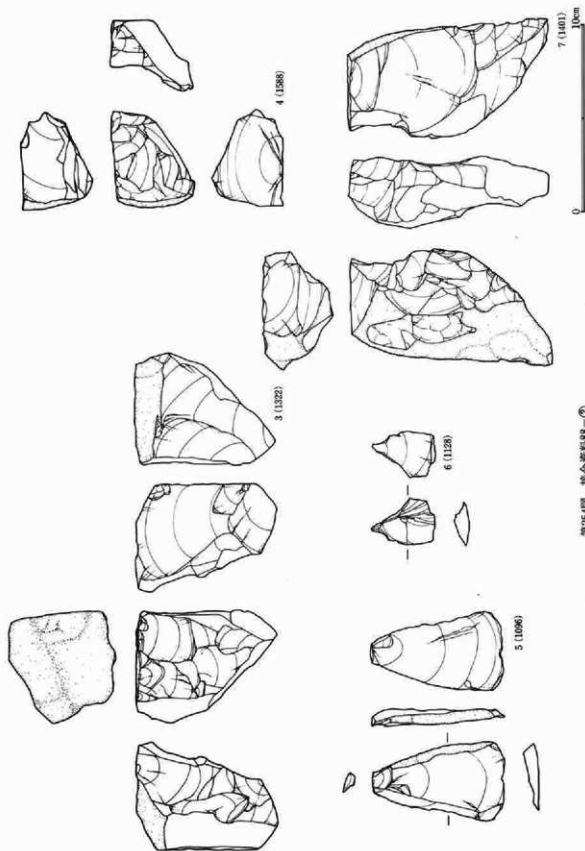
第251図 様合資料86・87-①



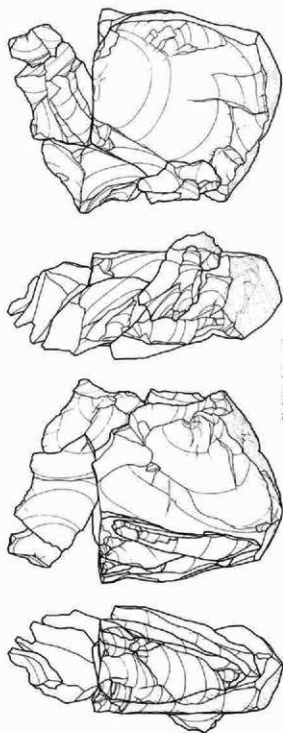


第252図 接合資料87-②

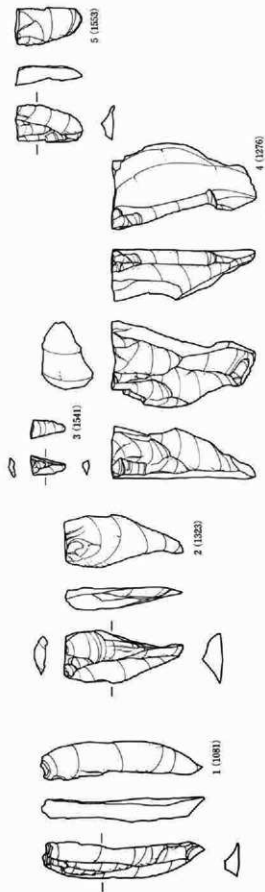




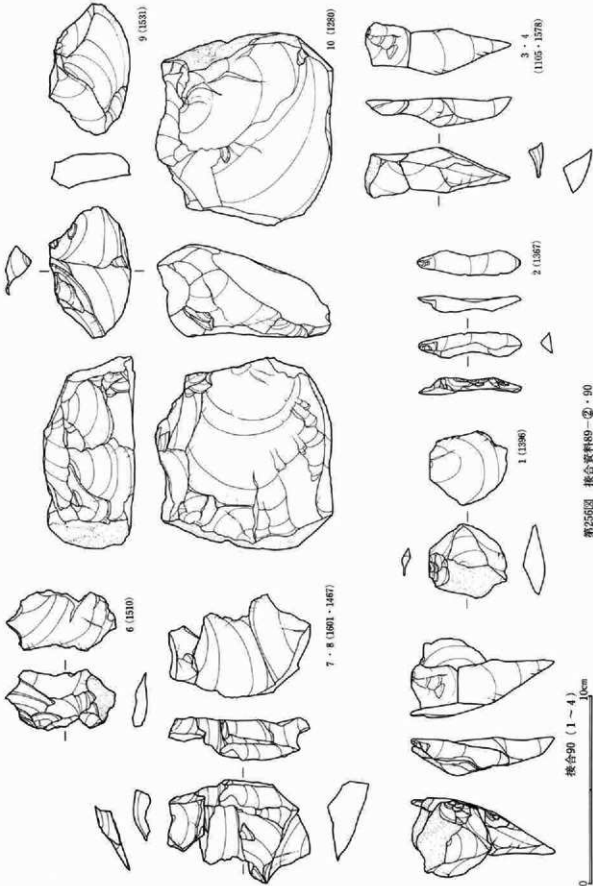
第254図 接合資料85-②



接合89 (1~10)



第2555図 接合資料89-①



第256図 接合資料89-②・90

接合90 (1~4)
0 10cm

剥ぎ取る。⑤これらの剥離面を打面として90°転位し、5枚程の剥片を剥出する。⑥再び90°の打面転位をし元の打面に戻り、剥離面頭部調整を含めて6～7枚の剥片を剥出するが、その後ははっきりしない。

接合資料95 (第259図)

2点の石刃状剥片と1点の縦長剥片、それに4点の剥片から成る。明らかに両設打面による剥片剥離工程の資料であり、石材は黒色頁岩である。

①→②→③(1520→1113→1157)→④(1504→1593+1481)→⑤(1526)

①礫を分割する。②打面を作出する。③石刃状剥片や剥片等を5枚程剥出する。④180°打面転位し、2枚程の剥片等を剥出するが、その内の1点は中央部よりやや打点寄りの位置で折断される。この剥離の打面がどの段階で作出されていたかははっきりしない。⑤再び180°打面転位し、1枚の剥片を剥出する。

接合資料96 (第260図)

石刃状剥片と使用痕ある剥片、剥片と破片の4点から成る。

①→②(1376→1493)→③(1596+1194)

①打面を作出する。②剥離面頭部調整を含めて10枚程の剥片類を剥出する。③最終剥離面に打面転位し、1枚の剥片を剥出するが、その際の衝撃によるものか、1点の破片が剥出する。

接合資料97 (第260図)

石刃状剥片と縦長剥片の2点から成る。表面に残存する剥離から両設打面による剥片剥離工程に伴う資料(1134→1395)と考えられる。石材は黒色頁岩である。

接合資料98 (第261図、写真図版38)

打面作出剥片と2点の石刃状剥片、使用痕ある剥片と剥片の計5点から成る。残存する礫面の様子から長方形の角礫と推定される。明らかに両設打面による剥片剥離工程の資料であり、石材は黒色頁岩である。

①→②→③(1573)→④(1082)→⑤(1539)→⑥(1389→1393)

①原礫を長軸の平行方向に分割する。②打点を90°移動し、さらに分割する。③分割面を打面とし、礫面の残存する一端から頭部調整や打面作出剥片等を10枚程剥出し、打面を作出する。④1枚の石刃状剥片を含めて、2～3枚の剥片を剥出する。⑤180°打面転位し、1枚の使用痕ある剥片を剥出するが、この打面の作出段階がはっきりしない。⑥再び180°打面転位し、剥片と石刃状剥片を連続して剥出する。

接合資料99 (第262図)

2つに折断された石核残付剥片と石刃状剥片、それに縦長剥片と2点の剥片の計6点から成る。

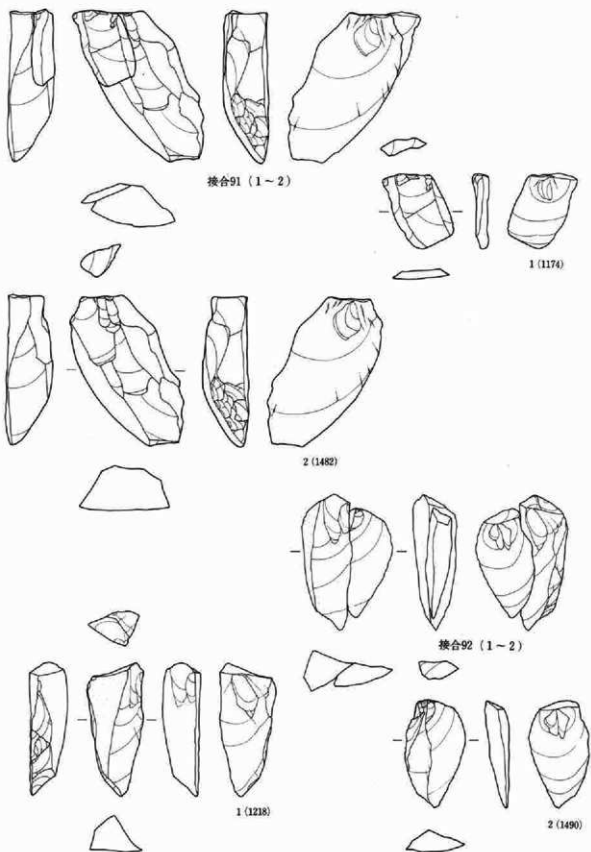
①→②→③(1352+1151→1165)→④(1500→1398+1385)

①礫、もしくは大形剥片を2回程度分割する。②石核の剥離面調整を施す。③分割面を打面とし、石核残付剥片を含めて4枚程の剥片を剥出する。④剥離面を打面とする90°の打面転位をし、1枚の縦長剥片を剥出する。その後、1～2枚の剥片に続いて大形の剥片を剥出するが、その際の衝撃に寄るものなのか、1枚の剥片が剥出される。大形の剥片も打点部調を折断により失っている。

その他の接合資料は、以下の通りである。

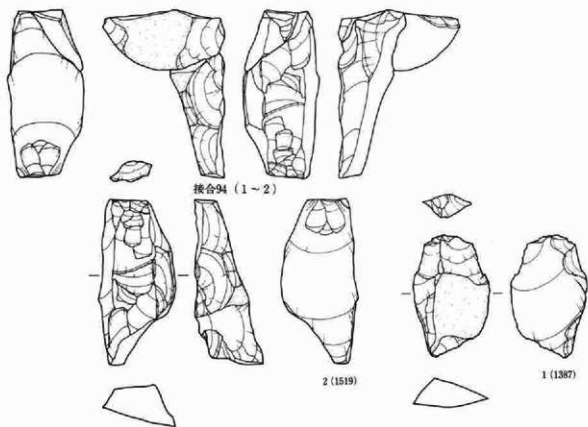
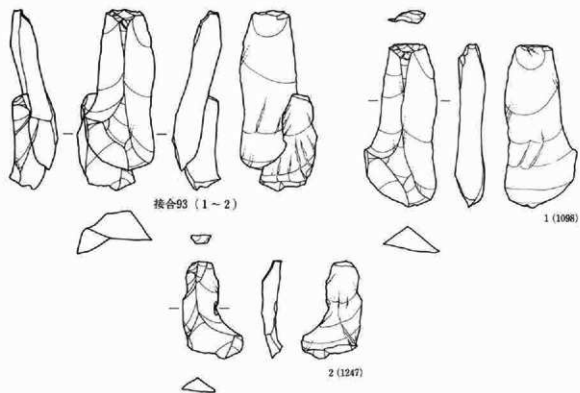
石核と2点の縦長剥片と6点の剥片と1点の破片の計10点から成る接合資料で、分割礫を素材とし、さらに分割を施し、一方は石核に至るまでの剥片剥離工程を示す。石核は第I類に属し、石材は黒色頁岩である。

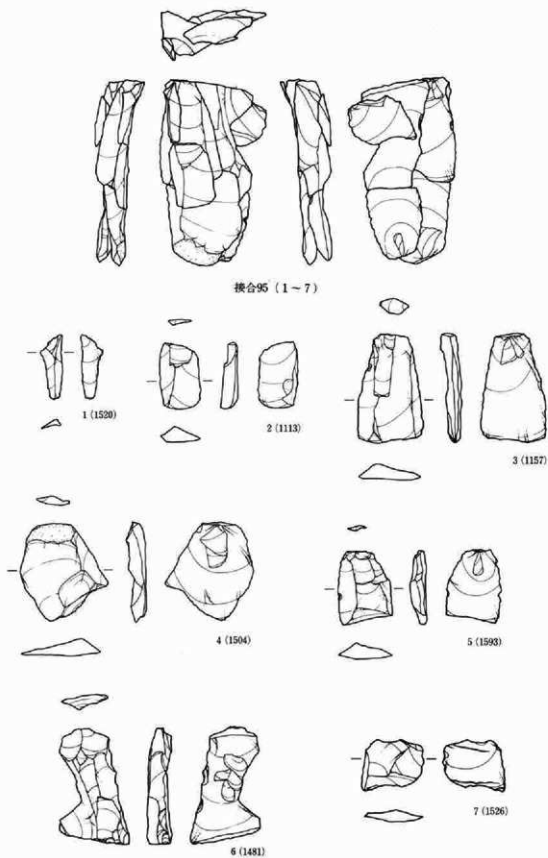
①→②→③(1535)
①→②→③→④(1495)→⑤(1315→1300→1166)→⑥(1281)
②→⑦(1427+1616+1619→1478)



第257図 接合資料91・92

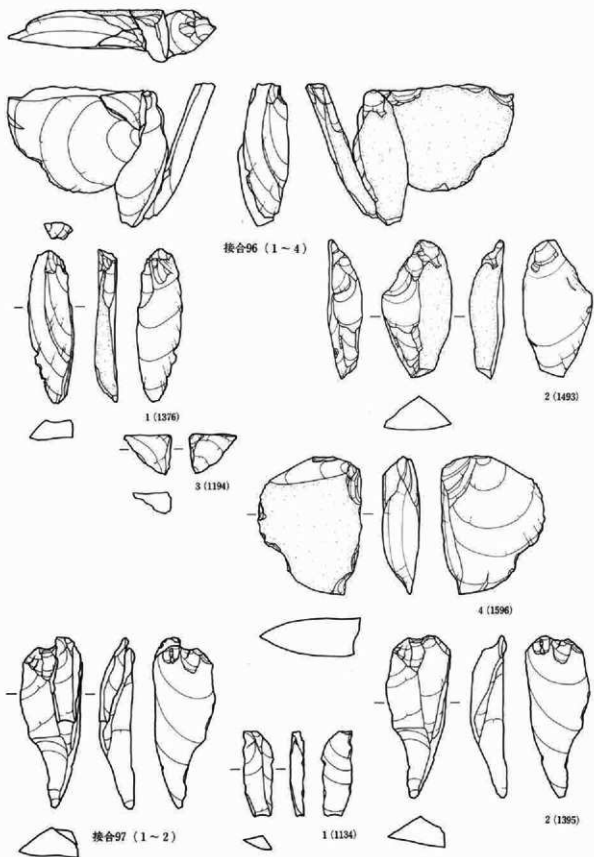
0 10cm





第259図 接合資料95

0 10cm



第260図 接合資料96・97

①礫を分割する。②さらに分割する。③打面を作出する。④石核素材の側面を剥出する。⑤打面より剥離面頭部調整を含めて10枚近くの剥片を剥出する。⑥石核が残存する。⑦分割した剥片から数枚の剥片を剥出するが、1点は加撃の衝撃で3つに砕ける。⑧分割した剥片の分割面を打面として1枚の剥片を剥出する。

石刃状剥片と折断を施された5点の縦長剥片と3点の剥片の計9点から成る接合資料で、両設打面による剥片剥離工程を示す。石材は黒色頁岩である。

①(1312)→②→③(1184→1411→1251+1501+1089→1076→1359)→④→⑤(1310)

①石核素材の側面から3枚、あるいはそれ以上の剥片を剥出する。②打面を90°転位するが、これ以前に作出された打面かとはっきりしない。③連続して5枚以上の縦長の剥片を剥出する。④打面を180°転位するが、この打面の作出段階ははっきりしない。⑤剥離面頭部調整を含めて数枚の剥片を剥出する。

剥片6点の接合資料 1612+1618→1201→1410+1211+1452

剥片4点の接合例 1497→1307→1407→1297

剥片3点の接合資料4例 1527→1529→1487、1119→1127→1503、1181→1311→1314、1195→1205→1421

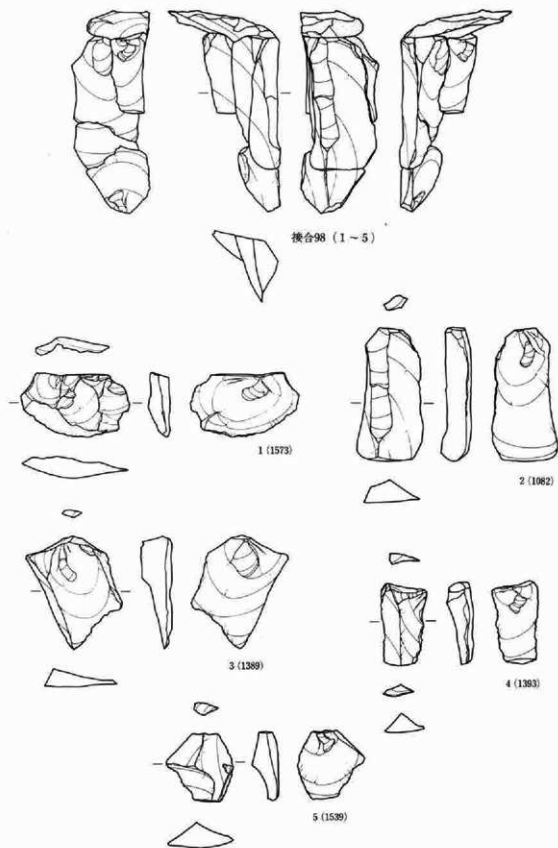
剥片2点の接合資料3例 1581→1313、1118→1483、1584→1180

2つに折断された剥片の接合資料12例

1230+1295、1073+1317、1107+1453、1200+1290、1108+1109、1091+1141、1210+1620、1536+1586、1135+1574、1302+1380 (第48図-247)、1464+1465、1373+1558

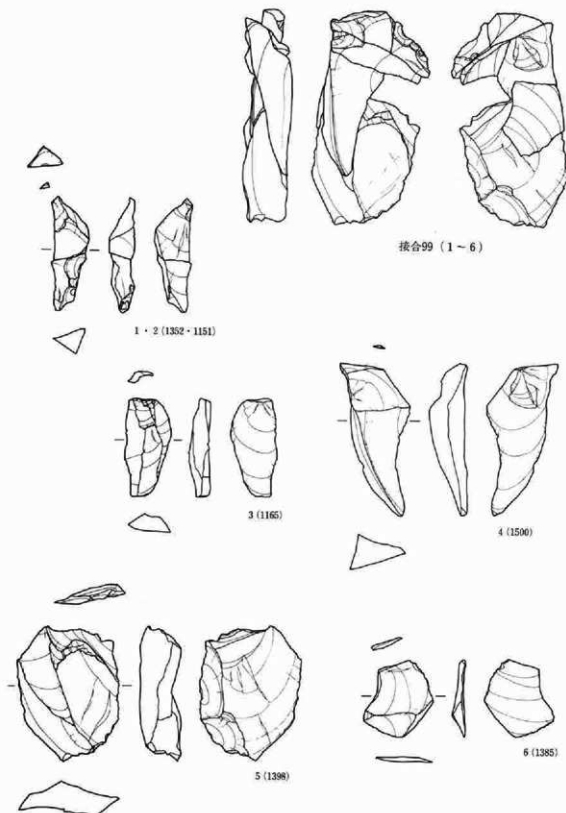
ブロックの性格としては、接合資料の41例206点すべてがブロック内で完結する事や、他のブロックとの距離もかなり離れているために、単独で存在するとは考えられず、主要器種がほとんど無く、むしろ剥片剥離工程に関連する資料が多い事から、石器製作の場の機能のみを有していたと考えられる。その場合、中央部に存在する直径50cmの空白部分に製作者が位置していたと考えられるのではないだろうか。接合資料の分布も、この空白部分の周辺に認められる事からも間違いないと考えられる。

今まで記述してきたブロックの他に、ブロックに比べて分布範囲が広く、集中自体もかなり稀薄であるものの、ある程度のまとまりとして把握できるものについて、準ブロックとの名称で認識する事とした。



第261図 接合資料98

0 10cm



第262図 接合資料99

0 10cm

第4章 検出された遺構

準Iブロック

D区内の台地の稜線部分よりも東斜面寄りに位置するが、後世の溝によって壊されている可能性が高い。5箇所の準ブロックの内では、点数、分布範囲共に最も少ない。点数は6点だが、石核、使用痕ある剥片を含む。周辺・隣接ブロックとの関係では、南側に第5・第7・第9・第8の各ブロックが存在する。

準IIブロック

D区内の調査区域の最も北東部、台地の稜線部分よりも東斜面側の傾斜変換線付近に位置する。構成点数は21点で、石器組成は3点の石核と1点の敲石、それに4点の加工痕ある剥片等から成る。すぐ南側に第26ブロックが存在する事から、何らかの関係が想定されるが、接合資料は無い。

準IIIブロック

D区内の台地の稜線部分より西側斜面寄りに位置する。5箇所の準ブロックの内では点数、分布範囲共に最も大きく、62点から成る。石器組成はナイフ形石器と4点の敲石に台石、加工痕ある剥片に使用痕ある剥片等から成る。周辺・隣接ブロックとの関係では、第27ブロックと第28ブロックとの間に存在する。

準IVブロック

D区とE区の境に近く、台地の稜線付近よりやや西側斜面に位置する。総点数は24点で、2点の使用痕ある剥片や石刃を含むが、大部分は剥片類と礫から成る。東側に隣接して第37ブロックが存在する。

準Vブロック

E区内の台地の稜線部分より西側斜面寄りに位置する。総点数は13点で、石核と2点の石刃状剥片等の石器組成である。周辺・隣接ブロックとの関係では、東側に準IVブロックと第41ブロックが存在する。第33・第37・準IVの各ブロックとの間に接合関係を持つ資料が1例4点ある。

第47表 準Iブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石鏃	掻器	形跡	加工 使用 剥片	楔形	石片 礫器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
黒色安山岩 瑠璃頁岩					1					1				3	1		5 1
計					1					1				3	1		6

第48表 準IIブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石鏃	掻器	形跡	加工 使用 剥片	楔形	石片 礫器	敲石 磨石	台石	石核	石刃 石状 剥片	縦長 剥片	打作 打再 石核	剥片	砕片	原石 礫	計
珸岩 輝緑岩 安山岩 輝石安山岩 黒色安山岩 瑠璃頁岩 黒色頁岩					1			1								1	1 1 1 1 10 1 6
計					4			1		3		1		11		1	21

第49表 準IIIブロック石材別石器組成表

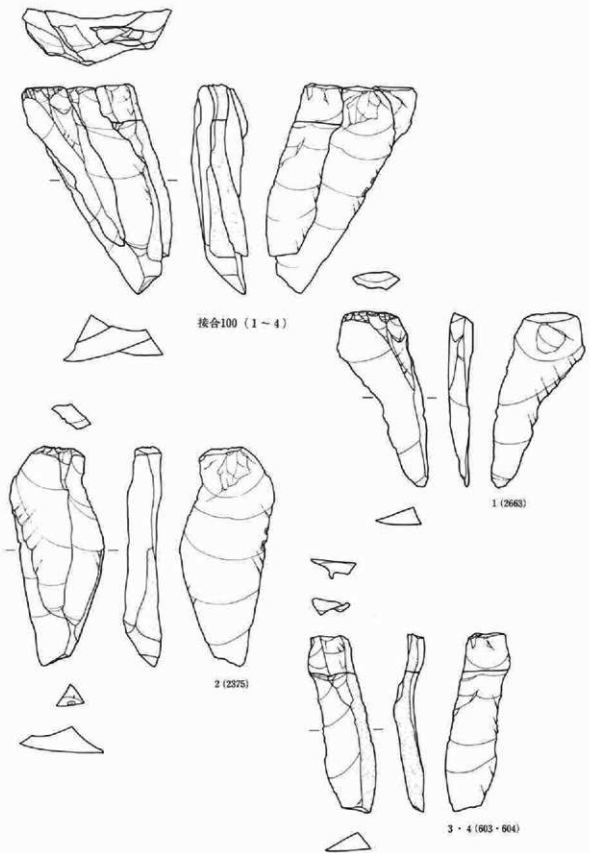
石材別	器種名 ナイフ形 石器	石籠	播器	形器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 礮器	敲石 磨石	台石	石槌	石刀 石状 剥片	細長 剥片	打作 打再 石槌	剥片	砕片	原石 礮	計
閃緑岩																1	1
石英閃緑岩									1							1	2
輝緑岩							2							2		1	5
流紋岩																2	2
黒色安山岩					1					1	1	4		25			32
灰色安山岩							2										2
凝灰岩																1	1
砂岩																2	2
珸質頁岩														1			1
黒色頁岩	1				1									7		1	10
珸質安頁岩																2	2
不明														2			2
計	1				2		4	1	1	1	4			37		11	62

第50表 準IVブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石籠	播器	形器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 礮器	敲石 磨石	台石	石槌	石刀 石状 剥片	細長 剥片	打作 打再 石槌	剥片	砕片	原石 礮	計
安山岩														1		1	2
輝石安山岩															1	1	2
黒色安山岩												1		3	2		6
砂岩																2	2
点紋頁岩																2	2
珸質頁岩														1	1	1	3
黒色頁岩					1					1						3	5
青色珸質岩					1												1
不明															1		1
計					2					1	1			5	5	10	24

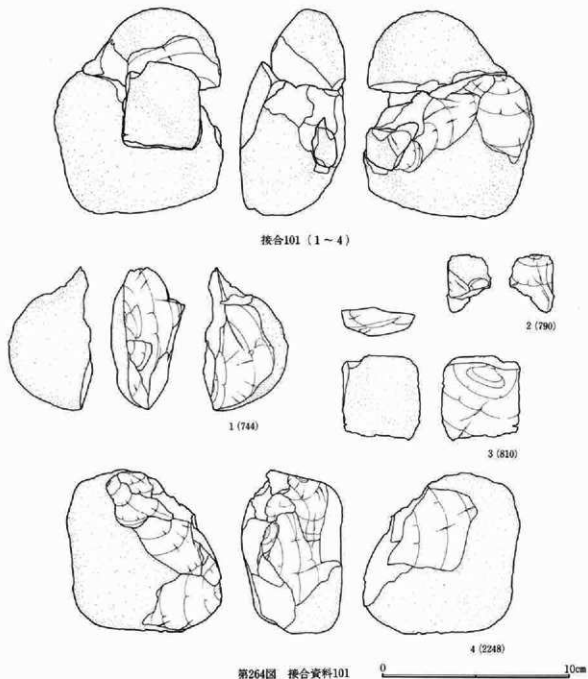
第51表 準Vブロック石材別石器組成表

石材別	器種名 ナイフ形 石器	石籠	播器	形器	加工 使用 剥片	楔形	石斧 礮器	敲石 磨石	台石	石槌	石刀 石状 剥片	細長 剥片	打作 打再 石槌	剥片	砕片	原石 礮	計
花崗岩																1	1
黒色安山岩										1				2	1		4
珸質安山岩															1		1
砂岩																1	1
珸質頁岩											1						1
黒色頁岩											1						4
不明																1	1
計										1	2			5	2	3	13



第263図 接合資料100

0 10cm



第264図 接合資料101

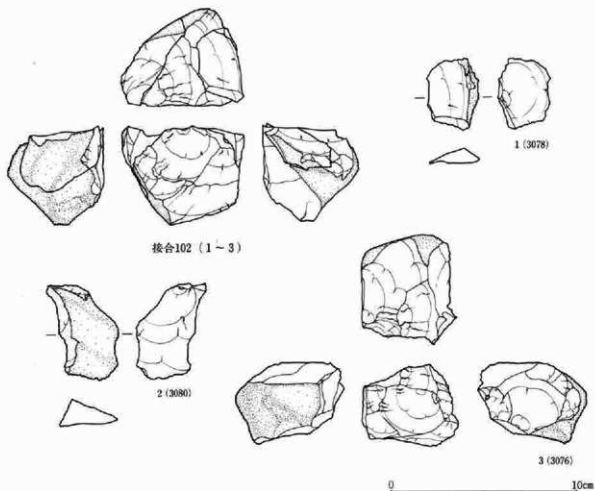
接合資料100 (第263図、写真図版35)

1点の石刃状剥片が打点寄りの3/4程の位置で折断された資料、さらに2点の石刃状剥片の計4点から成る。石材は珪質頁岩であり、その石質や色調から母岩別分類が可能であるが、この4点のみである。

①→②(2663→2375→603+604)

①打面を作出する。②剝離面頭部調整を含めて10枚前後の縦長の剥片が、ほぼ連続して剥出される。その後、最後に剥出された石刃状剥片が折断される。

この資料は第20ブロックと第25ブロックと第33ブロックの間の接合関係を示すだけでなく、東西の大きな二つのまとまりの間にも接合関係が存在する事を証明するものでもある。



第265図 接合資料102

接合資料101 (第264図、写真図版39)

石核と打面作出剥片と2点の剥片から成る。ほぼ原礫の形状を留めているが、かなり質の悪い黒色安山岩のためか、途中で中止されたと考えられる。打面を作出した後、主として縦長剥片を剥出しようとした様子であり、本石器群での特徴的な剥片剥離工程の一つを示すものである。

①(744)→②(810)→③→④(2248)

①原礫の一端を打ち除くように打面を作出する。②打面の周縁を打点移動し、表面に礫面を残す剥片を2枚程剥出する。③90°打面転位し、礫面を打面として2～3枚の剥片を剥出するもの。一部は剥片が砕けるようにしか存在しておらず、石質の悪さに原因するものと考えられる。④石核が残存する。

この資料は第33ブロックと第37ブロックと準IVブロックの間に接合関係を持つものである。

接合資料102 (第265図、写真図版38)

石核と2点の剥片の計3点から成る。石材は黒色安山岩であり、石核は第III類に属する。

①→②→③→④(3080→3078)→⑤(3076)

①礫を分割する。②打面を作出する。③2枚程の剥片を剥ぎ取る。④90°打面転位し、剥離面を打面として3枚程の剥片を剥出する。⑤石核が残存する。

この資料は54-D-13グリッド周辺に分布するが、ブロック外である。

第5章 まとめ

第1節 器種別資料の検討

本遺跡から検出された石器群は4,499点で、その組成はナイフ形石器30点、打製石斧1点、彫器6点、搔器1点、楔形石器1点、石錐1点、礫器6点、加工痕ある剥片95点、使用痕ある剥片44点、敲石38点、磨石2点、台石9点、石核118点、石刃68点、石刃状剥片221点、縦長剥片414点、打面作出剥片6点、打面再生剥片9点、石核後付き剥片7点、剥片2,443点、砕片599点、原石2点、礫378点から成る。

ナイフ形石器

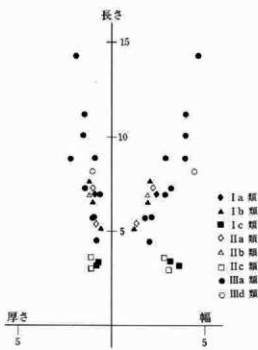
ナイフ形石器については6種類に分類したが、いくつかの問題が含まれている。

まず第一に、点数こそ少ないが二側縁調整のI a類については、いわゆる茂呂型の範疇に含まれる資料である。二側縁調整のナイフ形石器は南関東福年のIX・X層でも認められるが、この場合は大半が切出状を呈しており、茂呂型はほとんど見当たらない。僅かな例として、千葉県中山新田II遺跡(清藤他 1984)、同県中山新田I遺跡(田村他 1986)等の下総台地を中心とする地域から検出されているが、組成上の主体となってくるのはVII層からVI層にかけてであり、東京都鈴木遺跡VI層(鈴木遺跡調査団 1980)、千葉県東林跡遺跡(麻生他 1984)、同県聖人家遺跡(田村他 1986)、埼玉県西松原遺跡VII層(佐々木他 1977)、同県打越遺跡KA地点VII層(荒井他 1978)、神奈川県寺尾遺跡VI層(白石他 1980)等に代表される。特に東林跡遺跡及び聖人家遺跡の資料は比較的長めの石刃を素材とし、表裏両面からの調整を加えているものもあり、I b類及びII b類との関連も考えられる。

第二に、I c類及びII c類に見られる台形状の資料については、類似する資料がIV上層を中心として検出されており、主として縦長剥片を折断して素材を得る点も共通しているものの、本遺跡の資料すべての出土層位、及び出土ブロックの石器組成等からみれば、著しい時期差が存在する。一方、IX・X層の石器と対比した場合、類似する資料はあるものの、石器組成全体に占める割合は極めて低い。こうした点から見て、むしろ、寺尾遺跡VI層や鈴木遺跡VI層等に多数認められる折断手法の延長上で捉えるのがよいのかも知れない。

第三には、基部及び先端部、あるいはどちらか一方に調整が認められる資料についてである。これらは一般に杉久保型ナイフ形石器と呼ばれ、素材の形状をほとんど変えない点をその特徴としている。特に、本遺跡での資料は素材の長さか10cmを超えるものも多く、調整の部位も基部や先端部から中央部付近までと、その範囲が比較的及んでいる。これについて安藤政雄氏は、形状保持的な技法として把握し、さらに本遺跡と埼玉県打越遺跡第VII層の資料を打越型とし、東京都高井戸東X層及び岩宿Iから成る岩宿型よりも「細部加工度が高まり石核整形度がよまる」技術的変異を生じているとしている(安藤 1986)。確かに岩宿Iの石刃に認められる剥離面頭部調整とそれに直交する調整の割合は低く、それに対して、後田遺跡の石器群では調整の割合が高く、安藤氏の指摘通りであると言える。この事から後田遺跡はVII層に対比される可能性が高いと考えられる。

第四は、素材の形状をほとんど変えずに、打面部分にノッチ状の調整を施す事により基状の基部を持つ資料についてである。この資料に類似するものとして最初にあげられるのは、九州地方を中心に検出されている剥片尖頭器と呼ばれる石器であろう。この石器を定義づけた清水宗昭氏は、「素材である剥片の原形を復元できる程度に保ち、しかも尖頭器の形態として不可欠な石器先端の尖鋭性を有するもの」とし、調整部位により3型式に分類している。その内のI型とした基部のみに調整加工が集中するものが、本遺跡の資料(第16図-30)に相当する。だが、剥片尖頭器の出土層位はすべてA T層序の直上であり、A T降下期に極めて



第266図 ナイフ形石器長幅厚相関図

近接するものの、本遺跡の石器群の出土層序とはかなりの違いがある。また、九州地方以外の地域で類似する資料はほとんど無く、時間差と地域差から見ても直接関係があるとは考えにくい。むしろ、「立野ヶ原ナイフ形石器」との関連で比較される、栃木県磯山遺跡等で検出されている「ベン先型ナイフ形石器」との相似点、すなわち平坦剥離による基部の作り出しに注目すべきかも知れない。

加工痕ある剥片

加工痕ある剥片の一部にある種特徴的な石器が存在する。縦と横の長さの比がほぼ等しい剥片の一端にプランティングに近い細部調整が施され刃部が側縁部分に位置する資料の一群である。いわゆる「立野ヶ原型ナイフ形石器」の特徴と共通する要素を持つものであるが、型的に独立して考えるには資料不足の感もあり、ここでは二次加工として把握し、分類上は加工痕ある剥片に含める。

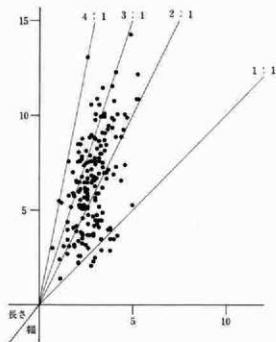
「立野ヶ原型ナイフ形石器」については、寸詰まりの剥片の末端部に二次加工が施された台形を呈するものと定義されているが(麻柄一志 1986)、実際にはこの定義に当て

はまるものは少なく、むしろ定義の一部分に該当するものからその範疇に含めていることが多い。そのためにバラエティーに富む石器として把握されながら、定義そのものにも問題点を多く含んでいる。また扁平的な位置付けもIX・X層を主体とするとの考え(麻柄 1985)も一方、AT降下期以前のIV層にも認められ、特定の時期に限られるものではないとも考えられる事から石器の型式としての認定問題も抱えている。さらに前述した様に、栃木県磯山遺跡に代表される「ベン先型ナイフ形石器」もその範疇に含めて考える意見も麻柄氏等から提示されており、それから考えれば分郷八崎遺跡での「基部調整尖頭石器」、下触牛伏遺跡での「基部・側縁部整形石器」、和田遺跡のナイフ形石器等も含まれると言える。

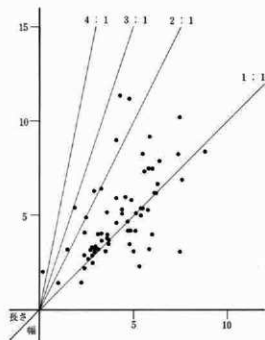
剥片類の長幅関係

本石器群には横長や不定形の剥片も存在するものの、主体となるのは縦長の剥片類である。特に、石刃や石刃状剥片と分類した資料については、長さが10cm前後のものも数多く存在し、岩宿遺跡(杉原 1956)、栃木県磯山遺跡(芹沢 1977)等と類似している。

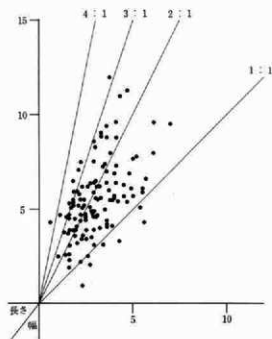
第267図～第269図は、石刃及び石刃状剥片と縦長剥片、それに剥片についてのそれぞれの長幅相関関係をグラフに示したものである。石刃及び石刃状剥片は、長さが1cmから15cm、幅が1cmから5cmの間に分布し、長幅比は1:1から4:1の間に包摂されている。次に、縦長剥片は長さが1cmから12cm、幅が1cmから7cmの間で、長幅比は1:1から3:1の間に包摂されている。さらに、剥片は長さが1cmから12cm、幅が0.5cmから9cmの間に包摂されており、長幅比は0.5:1から3:1の間とかなり分散している。だが、中心となるのは石刃及び石刃状剥片が2:1から3:1の間、縦長剥片が2:1、剥片が1:1の長幅比であるといえる。



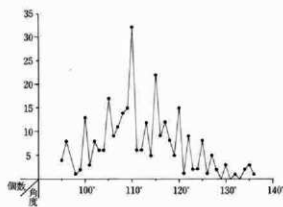
第267図 石刃・石刃状剥片の長幅相関図



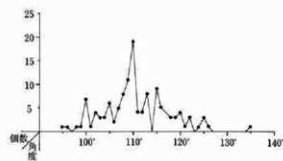
第269図 剥片の長幅相関図



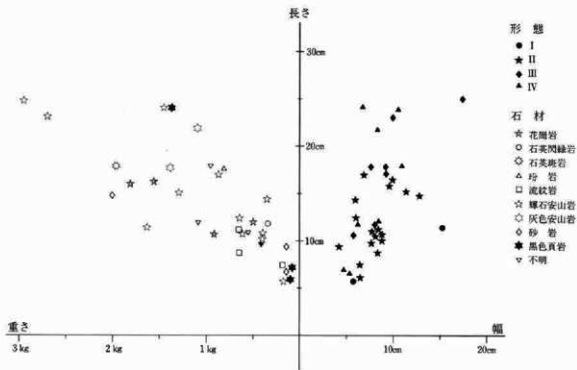
第268図 縦長剥片の長幅相関図



第270図 打角分布図



第271図 石刃・石刃状剥片の打角分布図



第272図 砥石・磨石の長幅及び長重相関図

第2節 剥片剥離技術の検討

本遺跡での接合資料は全部で249例953点もあり、接合率は約23.1%もの高い割合を占める。この内の多くは折断や分割等によるものであるが、残りは点数こそ異なるものの、本石器群での剥片剥離工程の特徴を示す資料である。

剥離技術

本遺跡での代表的な剥片剥離技術は大きく2つに分類できる。一つは単設、あるいは両設や複設の打面を準備して縦長の剥片を剥離するもの、もう一つは円盤状の石核の周縁から求心方向へ向って、横長や不定形な剥片を剥出していくものである。

前者はさらにいくつかに分類できる。一つは接合資料15に見られる様に、礫の一端を打ち取って打面を作り出し、剥離作業面に設定した部分を左右に剥ぎ取って稜を作り出す資料である。この工程からは、石刃等の縦長の剥片と共に石核残付き剥片が剥出される。もう一つは接合資料66や接合資料83の様に、礫の一端を打ち取って打面を作出するまでは同じであるが、剥離作業面の隅から打点を左右にずらしながら後退させていく工程の資料である。この場合には剥離作業上で打面、あるいは打角の調整が必要となった場合に、打面再生を施して新たな打面から剥離作業を続けていく場合もある。さらに、母岩別接合資料1の様に、剥出した打面作出剥片自体も石核素材に利用する例もあり、この場合の石核は円盤状の求心方向への剥片剥離工程を施される。この工程に類似する資料が東京都下里本邑遺跡第VII層（大竹他 1982）に認められる。

後者の場合については、接合資料64や接合資料79に見られる様に、大形の盤状剥片を素材としており、背面に礫面を残存する事が多く、石核も第IV類や第V類に属する。

以上の事から、本石器群には縦長の剥片を主として剥離する工程と、横長あるいは寸詰まりの剥片を主と

して剥出する工程の二つの剥片剥離技術が併存するといえる。

剥離角

剥片剥離技術を知る一助として、剥離角を調べる方法がある。この場合にはいくつかの測定方法があるが、ここでは打点を中心にほぼ平坦な打面と打面の頂点との成す角度を測定する事とする。

第270図が剥片類の打角分布図である。これからは95度から135度までの幅はあるものの、主として110度周辺に偏る傾向が認められる。この事は石核に残存する剥離の痕跡からも追証でき、剥片剥離技術の特徴の一つといえる。石刃及び石刃状剥片も同様の結果である事が、第271図から認められる。

そこでATを目安として、その下位から出土している石器群等と対比してみる事とする。まず、県内の遺跡では見立溜井遺跡第IV文化層があげられる。ここは出土点数が28点と少ないものの、その内の4点(ナイフ形石器1点、石刃3点)について打角が測定されており、120度が3点、残りの1点が125度である。これから見ると本遺跡よりやや角度が深い感じであるが、本遺跡でも110度程度ではないものの、120度周辺に1つの小さなピークが見られる事からもデータの抽出自体の偏りともいえよう。次に岩宿遺跡(岩宿I文化)では29点の出土遺物の内の7点について測角がなされ、103度が1点と111度から115度にかけてが6点の結果が出されている。7点は測定可能な剥片類の大部分であり、その意味では岩宿I文化の打角傾向を正確に示しているといえ、本遺跡との数値上の類似点が存在する事を裏付けるものである。

パンチ痕(打撃痕)

本遺跡出土の黒色安山岩の打面部分に細身の三日月状の傷の様な痕跡が多数認められる。写真図版29-2の写真とその模式図がそれである。この馬蹄形の痕跡は他の遺跡でも確認されており、剥片剥離の過程上での加撃による傷跡、いわゆるパンチ痕と認定されている。この事は打面部分の打点及びその周辺に集中する事からも間違いないと考えられる。

このパンチ痕についての松沢亜生氏の実験によれば、「鹿角パンチを用いたときバルブは不明瞭なものとなり、いわゆる打痕は残らない」という事であり、「剥片取り段階における石製ハンマーによる直接加撃の打痕を考慮にいれるならば、従来いわれて来ている「パンチ痕」なるものは硬質ハンマーによる痕跡であり、軟質ハンマー使用のとき生ずる性質のものではない」と結論づけている(松沢・岩本 1975)。この実験では瀬戸内技法による石器製作技術の復元研究の過程で、第1段階の翼状剥片を得るための素材用剥片を打ち取るために硬質ハンマーを、第2段階の翼状剥片を連続して打ち取るために鹿角製パンチと鹿角ハンマーを利用しており、明らかに目的とする剥片の剥離によりハンマーの使い分けを実施した訳である。

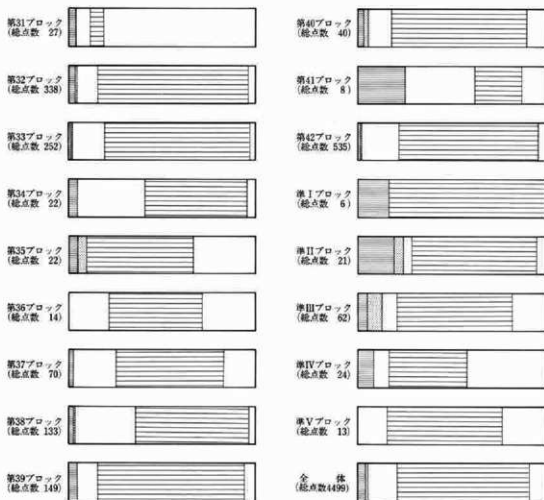
松藤和人氏は、二上山北麓の各遺跡から発見される瀬戸内技法に関する資料から興味深い点を指摘している。それは石核から剥離された盤状剥片の打面部と、その盤状剥片を石核素材として剥離された翼状剥片の表面にパンチ痕が残存する例である。つまり、石核より110度から140度の深い角度で剥離された盤状剥片の加撃には、松沢氏の実験結果から見れば、硬質ハンマーが用いられた事になる。また、翼状剥片の表面に認められるのは、盤状剥片の打面と剥離面から見て反対側の面を打面とするために、剥離された1枚目にパンチ痕部分が残っているからである。

ところが、本石器群の縦長の剥片を剥離した石核の打面と、剥離された縦長の剥片の打面の打点部分にパンチ痕が残存している例が数例存在する。この事は前述した点から考えれば、石核から縦長の剥片を剥離する際に硬質ハンマーを直接使用する例があるという事であり、一般に軟質ハンマーを間接的に用いるといわ

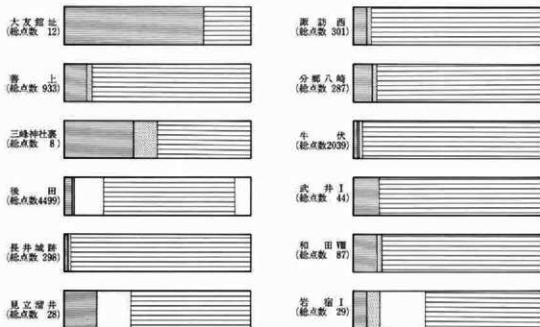
第5章 まとめ

第1ブロック (総点数 52)		第16ブロック (総点数 857)	
第2ブロック (総点数 34)		第17ブロック (総点数 8)	
第3ブロック (総点数 16)		第18ブロック (総点数 33)	
第4ブロック (総点数 29)		第19ブロック (総点数 62)	
第5ブロック (総点数 18)		第20ブロック (総点数 95)	
第6ブロック (総点数 17)		第21ブロック (総点数 18)	
第7ブロック (総点数 44)		第22ブロック (総点数 67)	
第8ブロック (総点数 78)		第23ブロック (総点数 316)	
第9ブロック (総点数 35)		第24ブロック (総点数 26)	
第10ブロック (総点数 203)		第25ブロック (総点数 105)	
第11ブロック (総点数 56)		第26ブロック (総点数 17)	
第12ブロック (総点数 12)		第27ブロック (総点数 41)	
第13ブロック (総点数 129)		第28ブロック (総点数 145)	
第14ブロック (総点数 92)		第29ブロック (総点数 59)	
第15ブロック (総点数 11)		第30ブロック (総点数 49)	

(その他)
 (石類・石機・打石・打石・削片・砕片)
 (石刀・石刀状・短石)
 (燧石・台石・礫石・磨石・石岸)
 (ナイフ・加工・使用・彫刻・磨石・石鏡)

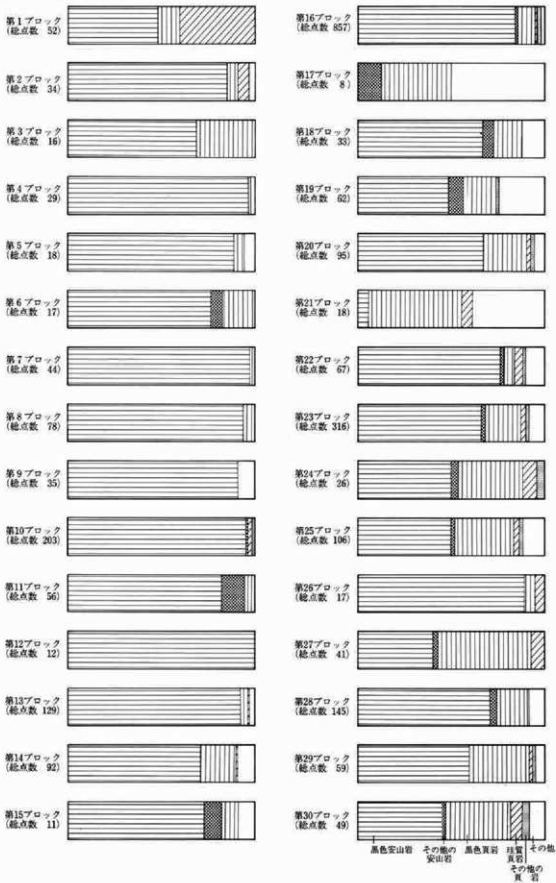


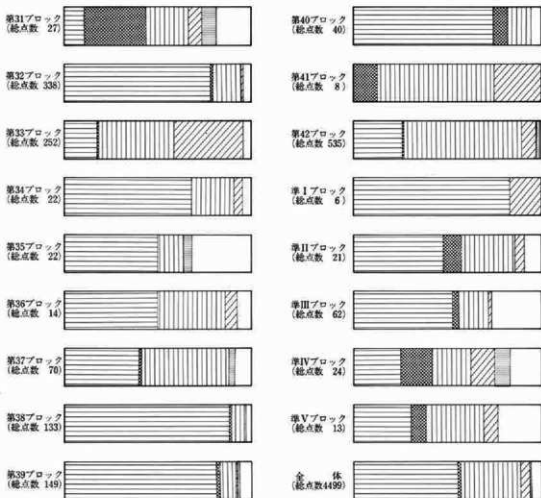
第273図 ブロック別石器組成図



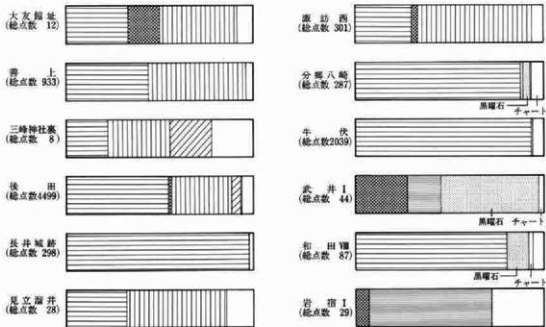
第274図 遺跡別石器組成図

第5章 まとめ





第275図 ブロック別石材構成図



第276図 遺跡別石材構成図

れている事と異なる見解になる。数量的には少ないものの、興味深い資料といえる。

石材

群馬県は関東地方の北西部に位置し、県南東部の利根川流域に広がる平野部を除けば、その他の部分を山地が占める内陸県である。北部の三国山脈は中生代～第三紀の堆積層が主体で、花崗岩・閃緑岩やグリーンタフ変動に伴う緑色凝灰岩等から成る。県中央部の山々は那須火山帯の南端に位置し、東から日光白根山、赤城山、子持山、小野子山、樺名山、草津白根山、浅間山等の第四紀から現在に至る期間に火山活動を繰り返した山々が存在し、洪積台地上のローム層を形成すると共に、安山岩等の火成岩を噴出した。一方、古生代に水成堆積した地層である秩父古生層から成る足尾山地や多野山地は、粘板岩・チャート・輝綠凝灰岩等の堆積岩や結晶片岩類を産出する。この様に多種に亘る岩石を豊富に産出する地域は関東地方では少なく、県内の利根川流域にも転石として多くの岩石が存在し、地域により種類にバラエティが見られる。

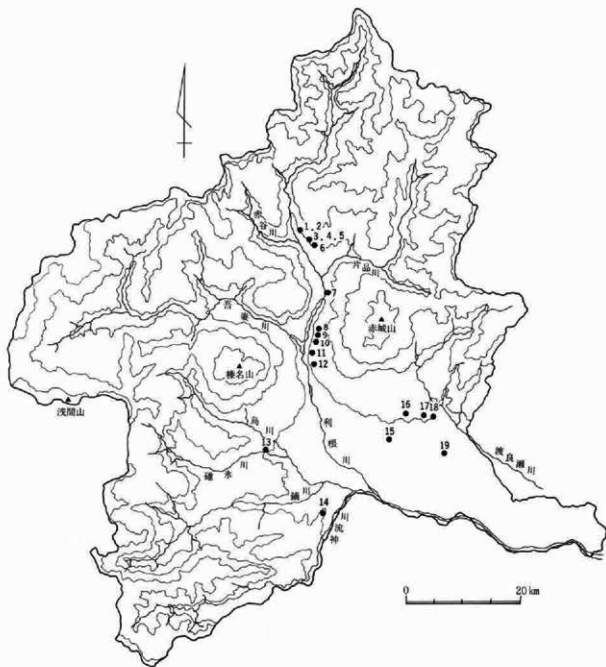
この事に関して調査した例としては、県立歴史博物館（飯島・中東 1984、関・上村 1985）や県立自然科学資料館で開催された「利根川展」（1986）があり、利根川とその支流の各地での河原石の種類別割合が公表されている。それを見ると、上流域の藤原湖周辺や月夜野町内では花崗岩類が半数以上とかなり多く、砂岩や凝灰岩がこれに続くが、赤谷川と利根川の合流点では頁岩の割合が多くなっている。これは赤谷川上流域に広がる第三紀中新世の赤谷累層を構成する黒色頁岩が多量に転石として流れ込むためであり、赤谷川と利根川の左岸に形成された河岸段丘（通称「名胡桃平」）を構成する礫層中にも角柱状の黒色頁岩が多数含まれている。また、後田遺跡が存在する河岸段丘より下位段丘の構成層にも若干含まれている。

一方、片品川と利根川の合流地点では、黒色安山岩等の安山岩類の割合が高くなる。この事から片品川流域での安山岩産出地を追求すると、武尊山系に求められる段階であるが、まだ追証が必要とされる。中村由克（中村 1986）によれば、新潟県と長野県の境である信濃川中流域から黒色ガラス質安山岩が産出し、旧石器時代から主要な石材のひとつとして多用されているという事であり、群馬県内の黒色安山岩との関係が目ざされる資料として両者の精密な分析と対比が望まれる。

後田遺跡から出土した石器の石材は第4表の通り多種に及ぶが、主体を占めるのは黒色安山岩と黒色頁岩である。これらの石材の産出地については前記の通りであり、主に在地系の石材を多用している点がはっきりと読み取れる。第275図の棒グラフは遺跡全体及び各ブロックでの石材構成を示した資料である。全体では黒色安山岩と黒色頁岩の2種類で9割近くを占めているのがわかるが、各ブロック毎ではかなりの相違が認められる。だが、これが場の機能の差を示すものなのかどうかは、器種組成や接合関係も含めて総合的に判断する必要がある。

第276図は県内でA T下位の暗色帯中やその下層から石器群が出土している遺跡での石材構成の割合を示す棒グラフであり、各遺跡で黒色安山岩と黒色頁岩が主体を占めているのが理解できる。ただ、両者の割合を比較してみると、黒色安山岩が半数以上を占めるのは、後田遺跡、長井城跡遺跡、分郷八崎遺跡であるが、下触牛伏遺跡の安山岩と和田遺跡第Ⅷ層の玻璃質安山岩についてもその大部分が黒色安山岩である事から同様と考えてよい。一方、黒色頁岩が主体を占めるのは、大友館址遺跡、善上遺跡、三峰神社裏遺跡、見立溜井遺跡第Ⅳ文化層、諏訪西遺跡で、岩宿遺跡第Ⅰ石器文化についても、頁岩の大部分は黒色頁岩に相当する。ただし、大友館址、三峰神社裏、見立溜井の3遺跡については総点数が非常に少ないために比較の対象とするにはやや無理がある。

これらの遺跡の分布を見た場合、第278図で示す様に、後田遺跡と善上遺跡、諏訪西遺跡と分郷八崎遺跡、



第278図 県内旧石器時代主要遺跡

1 小竹A	(利根郡月夜野町)	8 勝保沢中ノ山	(勢多郡赤城村)	15 下触牛伏	(佐波郡赤堀町)
2 大竹	(")	9 見立溜井	(")	16 武井	(勢多郡新里村)
3 大友館址	(")	10 諏訪西	(")	17 和田	(新田郡笠懸村)
4 善上	(")	11 房谷戸	(勢多郡北橋村)	18 岩宿	(")
5 三峰神社裏	(")	12 分郷八崎	(")	19 藪塚	(新田郡藪塚本町)
6 後田	(")	13 古城	(安中市)		
7 長井坂城跡	(利根郡昭和村)	14 北山	(藤岡市)		

和田遺跡と岩宿遺跡というそれぞれ隣接する遺跡での主要石材の違いはあるものの、地域での偏りは認められない。

結果としては地域差、あるいは時期差による石材選択の違いは残念ながら立証できない。

ただ、黒曜石について見ると、武井I石器文化で23点(52.3%)、和田遺跡第VIII層で10点(約11%)、分郷八崎遺跡で10点(約3.5%)と比較的高い割合で存在する。この事が、時期差を示すものかどうかははっきりしないが、興味深い点ではある。

また黒色安山岩と黒色頁岩は、風化により本来の色調を留めていない場合が多い。縄文時代の同質の石材を用いた石器よりも風化の度合いが激しく、見分ける事が不可能な程である。また赤城山西麓での遺跡のA T下位から出土している旧石器時代の遺物で、同質の石材を用いた石器も風化は激しいものの、本遺跡の資料ほどではない。これらの事から、ローム層中に含まれている事や、地域が異なる事による等が原因で、こうした石材の風化状況の違いが生じるのであり、さらには同じ遺跡でも地点が異なる事で、同様の事態が生じている。この事は、県内の旧石器時代遺跡、特に年代が古い暗色帯(黒色帯)中に含まれる資料を分析する上で、母岩別分類が非常に難しい状況である事を裏付けるものである。

第3節 ブロック間の検討

接合資料はそこに含まれる遺物の同時存在を証明する証拠品であり、その分布状態は製作者の何らかの行動の痕跡を示すものといえる。ここではブロック単位での接合関係に関して述べる事とする。

本遺跡の42箇所のブロックには、接合資料が存在するものとしないものがあり、前者はさらに同一ブロック内で完結するものと複数のブロックにまたがるものとに分けられる。以上の3通りの関係を図示したものが第277図である。この図のブロックの位置は必ずしも実際の位置関係を示しているとはいえないものの、大まかなブロック間の関係を把握する上で有効といえよう。

個別的看着ていくと、他のまとまりからやや離れて存在する第1、第2、第3では個々のブロック内で接合関係が完結し、各ブロック間では接合関係は認められないが、同一母岩と考えられる石材が存在する事からある程度の関連が想定できる。第4～第25の22箇所のブロックは環状の分布形態を呈しているが、接合資料が存在しない第4、第6、第12、第17、第21の各ブロックを除いて、個々のブロック内で接合関係が完結するものと、隣接するいくつかのブロック間に接合関係が認められるものの2通りが存在する。前者には第7、第18、第19の各ブロックが、後者には第5+第10+第11、第8+第9、第13+第14+第15+第16+第20+第22+第23+第24+第25+第33の各ブロックが相当する。特に、第16ブロックを中心とした接合関係は第23ブロックを中心とした接合関係のみならず、もう一方の環状分布に属する第33ブロックとの間にも及んでおり、2つの環状分布の同時性を示すものといえる。同じ様にもう一方の環状分布を見ると、接合資料の無い第31ブロックを除いて、単独で接合資料を持つ第35、第36、第38、第14の各ブロックと、ブロック間に接合関係を持つ第30+第32+第33+第34+第37+準IV+準V、さらに、第39+第40が存在する。特に、第32と第33と第34の間の接合数の多さと、これらを中心として展開する接合関係は第16ブロックの場合に類似しており、両者の遺跡内での性格を考える上での重要要素といえよう。

他のブロックについて見てみると、ほぼ単独で接合関係を持つ第26ブロックと第42ブロック、独立的ではあるが共に接合関係を持つ第27+第28の各ブロックの姿がある。特に、第42ブロックの場合は主要器種の少なさに対して、最も接合資料が多く復元率も高い事から、他のブロックからほぼ独立した形で、原材の段階から剥片剥出のほぼすべての剥片剥離工程を行った場といえ、いわば専門的な石器製作に伴う場として遺跡

第5章 まとめ

内でも主要な位置を占めていたと考えられるものの、逆に他のブロックからかなり距離を置く事の意味ははっきりしない。第16ブロックや第33ブロックとの違いはそこにあるといえる。むしろ第28ブロックは第42ブロックに近い形の関係と位置付ける事もできよう。

次に各ブロックごとの場の機能をまとめる事とする。

主として石器製作の場と考えられるブロック

第1、第6、第7、第8、第9、第10、第11、第13、第14、第15、第16、第18、第19、第20、第22、第23、第25、第26、第27、第28、第29、第32、第33、第34、第35、第37、第38、第39、第40、第41、第42。

主として住居の場と考えられるブロック

第3、第23、第24、第35、第39、第41。

主として廃棄の場と考えられるブロック

第2、第4、第5、第17、第21、第31、第36。

第4節 県内旧石器遺跡間の検討

1949(昭和24)年に実施された新田郡笠懸村所在の岩宿遺跡の発掘調査により日本旧石器時代研究発祥の地となった本県も、その後の1980年代までの約20年間はほとんど空白地帯であったと言っても過言ではない状況であった。確かに相沢忠洋氏らによる赤城山南麓での調査は続けられており、杉原荘介氏らの明治大学や芹沢長介氏らの東北大学の考古学研究室による調査も実施されていたが、その詳細な内容はほとんど1980年前後まで明らかにはされず、現在でも未発表となっている資料も少なくない。また、県内での県や市町村段階での調査工程でも、ローム層への注意はほとんど考慮されずにいた事も事実であろう。

だが、関越自動車道を始めとする大型開発に伴う発掘調査により、従来から知られていた赤城山南麓以外の洪積台地や上位河岸段丘面からも多数の旧石器時代の遺跡が発見され、さらには複数の文化層を持つ遺跡もいくつか存在すると共に、新たに確認された軽石をも含めたテフラの同定研究とそれに伴う形での遺跡での複数の火山灰の検出という自然科学との協同作業も実施された。これによる遺跡間の層序対比も不十分なが可能となってきており、特に鍵層となるA TやAs-B P等のテフラ層序の存在は、編年作業上の一助になっているといえる。

そこで、ここ数年の内で明らかにされた旧石器時代遺跡を中心に、県内でA T及び暗色帯(黒色帯)に関連する石器群について記述すると共に、後田遺跡との対比を試みる事とする。

1. 小竹A遺跡(利根郡月夜野町大字下牧字小竹、文献127)

利根川左岸の河岸段丘最上位面と三峰山からの土石流による扇状地形が複合し、南西方向に流れる沢により形成された舌状の台地の先端部に位置し、標高455mである。地形的には後田遺跡と類似する。出土層位はA Tを包含する第V・VI・VII層の3層にまたがる。直径8-10m程の2箇所のブロックが検出され、石器組成も石刃、石核等が主体で、4,564点の中にはナイフ形石器等の主要石器は認められない。ブロックの性格は、2箇所に共に石器製作場と考えられるが、残念ながら接合資料の存在の有無すら記述されていない。石刃や縦長剥片等の打面部に調整が認められない事や、円盤状の求心的な剥片剥離工程を持つ石核の存在等から、後田遺跡にかなり類似しており、ほぼ同時期に相当するといえる。

2. 大竹遺跡(利根郡月夜野町大字下牧字大竹、文献127、第9図)

小竹A遺跡と沢をはさんだ対岸に位置し、立地もほぼ同じである。出土層位はA Tを含む暗色帯中とその前後の層からである。石器組成はナイフ形石器、局部磨製石斧、削器、石刃、石核等から成り、178点もの実

測図が提示されているものの、残念ながら総点数は明記されていない。検出されたブロックは22箇所であり、ブロックの性格についてはある程度理解できるものの、接合資料の存在は不明である。ナイフ形石器については、二個縁調整、一個縁調整、基部調整の3種類共存在する。担当者は尖頭器の存在や切出し形ナイフ形石器等から、A T降下以後の三つの時期から成るとしているが、尖頭器に認定されている資料は、むしろ削器と考えた方がよほど周縁からの調整が不十分である。また、打面調整も認められず、石刃の形状や石核の形態から見ても、後田遺跡の資料との類似点も多く、A T以前の時期と考える方が妥当だといえる。

3. 大友館址遺跡（利根郡月夜野町大字師字上の原、文献140）

やはり、利根川左岸の河岸段丘最上位面と三峰山からの土石流による扇状地形が複合した台地上に立地する点は、後田遺跡とはほぼ同様である。出土層位はA T包含層であり、点数も12点と少ない。石器組成も削器、加工底ある剥片等であり、主要石器は認められない。そのために、明確な時期判定はできないものの、後述する善上遺跡と比較して、出土層位及び位置関係からかなり関連があると考えられる。

4. 善上遺跡（利根郡月夜野町大字師字善上、文献140、第9図）

大友館址遺跡に隣接しており、立地状態はほぼ同じである。出土層位はA T包含層であり、ナイフ形石器、打製石斧、彫器、石核、敲石等の石器組成である。総点数は933点で、大小12箇所のブロックで検出されている。剥片剥離工程は縦長剥片が主体で、打面再生や打面転位を施す。また、折断技法を多用しており、後田遺跡と類似点が多い。三宅敦気氏はVII～IX層、特に南関東編年のI b期にあたるIX層に想定しているが、むしろVII層の石器群に近いと考えられ、後田遺跡とはほぼ同じ時期と考えてよいであろう。

5. 三峰神社裏遺跡（利根郡月夜野町大字師字中堀、文献140、第9図）

善上遺跡と後田遺跡の中間に位置し、立地はほぼ同じであるものの、東西を沢により開析された小さな舌状台地上に分布する。出土層位はやはりA T包含層である。総点数は8点とかなり少ないものの、ナイフ形石器が検出されている。ナイフ形石器は一個縁調整で縦長剥片を素材としている。大友館址遺跡と同様に、善上遺跡との関連が想起される。

7. 長井坂城跡遺跡（利根郡昭和村大字川瀬字原、文献128、第9図）

赤城山西麓と利根川が接する台地上に位置する。出土層位はA T直下のX層であり、暗色帯と考えられる。総点数は298点で、石器組成はナイフ形石器、楔形石器、礫器、縦長剥片等である。特に、ナイフ形石器は2点共に縦長の剥片を素材とし、1点は基部調整のみが施されており、後田遺跡のIII a類に、もう1点は二個縁調整で縁が高くI b類（第10図-2）に類似している。石核や接合資料が無いものの、後田遺跡とはほぼ同じ時期と考えておかしくないといえる。

8. 勝保沢中ノ山遺跡（勢多郡赤城村大字勝保沢、文献105）

長井坂城跡遺跡と同様に、赤城山西麓東端部で南北を赤城山から利根川に流れ出る沢により浸食された舌状の台地上に位置する。出土層位はAs-B P直下の15層から17層にかけてで、16層上位部分にA Tの極大値が認められる。総点数は約2,000点で、石器組成はナイフ形石器、楔形石器、石斧、石刃、石核等から成り、ナイフ形石器は基部調整を主体とする。3箇所のブロックが検出され、石材は安山岩が主体を占めるものの、黒曜石、頁岩、粘板岩等が存在する。整理作業が未着手のために詳細は不明である。

9. 見立溜井遺跡（勢多郡赤城村大字見立字溜井、文献129、第9図）

立地は勝保沢中之山遺跡とはほぼ同じであり、出土層位はA Tの極大値が認められる第XIV層の下層で、暗色帯と考えられる。総点数は28点と少ないものの、3点のナイフ形石器、楔形石器、石刃、石核等の石器組成である。ブロックは4箇所検出されている。特に、ナイフ形石器は3点共に石刃を素材とし、1点は一側

線調整で後田遺跡でのII a類に、1点は一側縁側のみ基部調整でIII a類に、もう1点は打点部及び先端部を折断し、折断面に調整を施す、I c類に対比される。また、打面調整が認められない点等が後田遺跡に類似しており、ほぼ同じ時期と考えて間違いのないようである。

10. 諏訪西遺跡（勢多郡赤城村大字三原田字諏訪西、文献130、第9図）

やはり勝保沢中之山遺跡等と同様の立地であり、出土層位もA Tの極大値が認められる第XVI層及び暗色帯と考えられる第XVII層である。総点数は301点で、ナイフ形石器、彫器、削器、石核、敲石等の石器組成から成り、7箇所のブロックが検出されている。ナイフ形石器は石刃を素材とし、基部及び先端部に調整が施されている。剥片剥離技術では、両設打面は存在するものの、打面再生や打面調整は認められず、打面も頻繁に転位される。これらの事から後田遺跡とはほぼ同時期か、やや先行する段階に位置付けられる。

11. 房谷戸遺跡（勢多郡北橋村大字八崎字房谷戸、文献114）

勝保沢中之山遺跡等と同様の立地であり、出土層位はA Tの極大値が認められる層の下層であり、暗色帯と考えられる。ナイフ形石器、打製石斧、削器、敲石、石核等を主な組成とするものの、整理作業が未着手のため、詳細は不明である。

12. 分郷八時遺跡（勢多郡北橋村大字分郷八崎字八幡、文献141、第9図）

こも他の赤城山西麓に位置する遺跡と同様の立地であり、出土層位も上部にA Tの極大値が認められる第XIV層及び第XV層で、共に暗色帯と考えられる。総点数は287点で、ナイフ形石器、局部磨製石斧、削器、石核等の石器組成から成る。出土状態は直径20m程の環状で検出されている。白石典之氏は、ナイフ形石器の一部を「基部調整尖頭石器」の名称にしているが、いわゆる「ベン先型ナイフ形石器」の事である。剥片剥離工程では、盤状の剥片を石核素材とする横長あるいは寸詰りの不定形剥片の剥離を目的とし、打面を頻繁に転位するのが特徴である。縦長の剥片も剥離されているものの、明確な工程を示す資料は認められない。また局部磨製石斧の存在も年代を考える上での重要な位置を占める。以上の事から見て、A T下位の石器群の内でも比較的古い段階に位置付けられる。つまり南関東編年でのIX・X層に対比されよう。

13. 古城遺跡（安中市板鼻字古城、文献153）

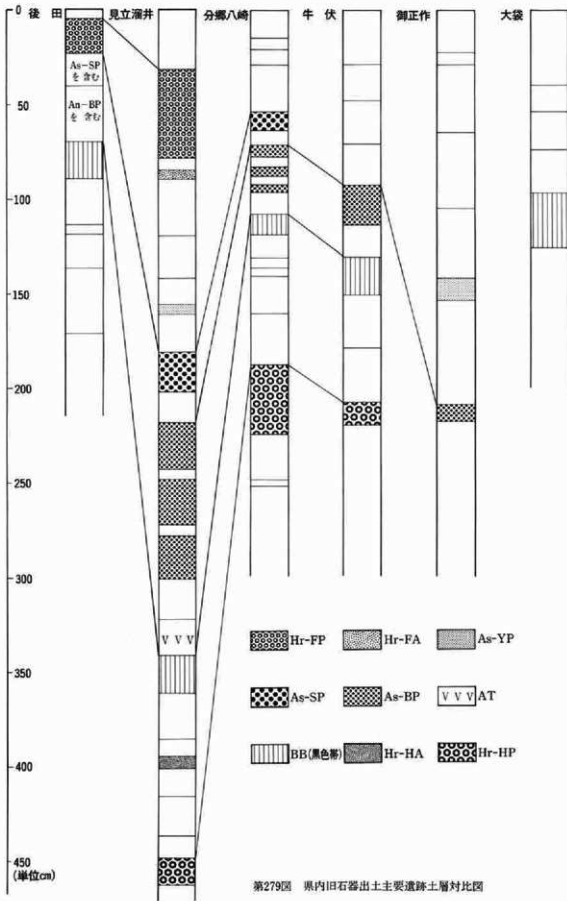
碓氷川左岸の丘陵の南側縁辺に位置する。出土層位はA T純層の下層で、ナイフ形石器、局部磨製石斧等が出土しているが、整理作業が未着手のために詳細は不明である。

14. 北山遺跡（藤岡市藤岡字北山、文献155）

今から約20,000年から10,000年前の間に形成された藤岡台地より、さらに上位の丘陵に位置する。A Tの極大値が認められる上下から出土しており、ナイフ形石器、削器等の総点数30点から成る。現在整理作業中であり、詳細は不明である。

15. 下触牛伏遺跡（佐波郡赤堀町大字下触字牛伏、文献143）

赤城山南麓の先端部の丘陵性台地上に位置する。出土層位はVI層からIX層にかけてであり、VI層下位にA Tの極大値が認められ、VII層及びVIII層は暗色帯と考えられる。総点数は2,039点で、石器組成はナイフ形石器、局部磨製石斧、擗器、彫器、敲石、石核等から成る。出土状態は直径50m程の範囲で環状に検出されている。ナイフ形石器は、縦長の剥片の形状をほとんど変えずに基部のみに調整が施されている資料と、折断された剥片を素材として、基部あるいは側縁に平坦な調整を施す資料から成る。岩崎泰一氏は、後者に「基部整形石器」及び「側縁整形石器」の名称を使用しているが、いわゆる「ベン先型ナイフ形石器」である。剥片剥離工程は板状や円盤状の石核から不定形剥片を剥離しており、縦長の剥片の剥離工程は認められない。以上の事から見て、分郷八時遺跡と類似する点も多く、やはり南関東編年のIX・X層に対比されると考えて間違



第279図 県内旧石器出土主要遺跡土層対比図

いない。

16. 武井遺跡 (勢多郡新里村大字武井字内出東、文献62)

赤城山南麓の丘陵状台地上に位置する。出土層位は暗色帯上部であるが、A Tとの関係ははっきりしない。総点数は44点で、ナイフ形石器、削器、石核等の石器組成である。ナイフ形石器は縦長の剥片を素材として基部のみに調整を施す資料と、横長の剥片の両側に平坦に近い調整を施す資料の二種類であり、下触牛伏遺跡の資料に類似している。安森氏の様に南関東編年のIV層相当とする考え方もある(文献98)が、やはりIX・X層に対比されよう。1984(昭和59)年に隣接地が新里村教育委員会により調査されたが、詳細は不明である。

17. 和田遺跡 (新田郡笠懸村大字西鹿田字和田、文献99、第9図)

武井遺跡と同様に、赤城山南麓の丘陵状台地上に位置する。出土層位は暗色帯と考えられるⅧ層であり、この層の上面にA Tが薄く堆積している。総点数は87点で、石器組成はナイフ形石器、削器、敲石、石核等から成る。ナイフ形石器は折断剥片を素材として、平坦剥離を施している。剥片剥離工程は大形の剥片から折断により素材剥片を剥出する。若月省吾氏は武井I石器文化との類似点を指摘し、相模野台地のB3上面の時期に対比しているが、やはり下触牛伏遺跡との類似点が多い事から、ほぼ同時期と考えられる。

18. 岩宿遺跡 (新田郡笠懸村大字阿見字沢田、文献10)

大間々扇状地のI面とII面の境界部分に存在する丘陵上に位置する。出土層位は「岩宿層」と呼ばれた暗色帯からであり、A T下位の層序と理解されている。出土遺物は29点で、局部磨製石斧、ナイフ形石器、石刃等の組成から成る。IX・X層の石器文化を代表する石器群といわれているが、本来の石器組成すべてが把握されているかどうかは不明である。

19. 藪塚遺跡 (新田郡藪塚本町塚の台跡山、文献8)

渡良瀬川右側の八王子丘陵上に位置し、出土層位は武井遺跡と同様に暗色帯中であるが、A Tとの関係は不明である。総点数は19点と少ないものの、石器組成はナイフ形石器、石核等から成る。ナイフ形石器は縦長の剥片を素材として平坦に近い調整が施される2点と、縦長の剥片を素材として基部のみに調整が施される1点に区別できる。安森氏も武井I石器文化との類似は指摘しており、時期的に古い段階に位置付けられよう。

以上、A Tに関連する県内の石器群を見てきたが、縦長の剥片を主体とする石器群と、横長の剥片、あるいは折断剥片を主体とする石器群の併存する遺跡と、どちらか一方のみに偏る遺跡とに分けられるもの、県内での編年については今後も検討を必要とする。

群馬県には第4紀洪積世に活動した火山が多く、ほぼ県下全域がその火山性土壌に覆われている。火山自体も主として安山岩を噴出し、円錐形の成層火山を形成している。その山麓には扇状地形が広がり、また河川の浸食により溪谷や河岸段丘を作り出している。一方では、日本有数の河川である利根川が、北部ではほぼ南流し、県央部で向きを西に変えて関東平野へと流れていく。この利根川の流路の変遷の歴史が、主に県東部の地形の変化を生んで来たのである。さらには、県内及び県境に位置する火山のそれぞれの活動の歴史が、県内各地での土層の堆積状態を大きく変化させている。

かつて、県内の三地域(利根・沼田地域、赤城山西麓、赤城山南麓)での主要遺跡の土層堆積状態を、主としてテフラを中心に対比させた(谷藤他 1983)が、ここではさらに邑楽・館林地域を含めた形で土層堆積の対比を行なっていく事とする。この四つの地域には、旧石器時代の遺跡がそれぞれに集中しており、ローム層の堆積状態も他の地域よりもかなり良好である。

まず、館林市大袋Ⅰ遺跡や邑楽郡大泉町御正作遺跡が位置する邑楽台地は、中部ローム層以後の堆積であり、下末吉期に対比されるもの、利根川及び渡良瀬川の流路変更とそれに伴う浸食作用により小枝状に開析谷が展開しており、地点によっては水成堆積しか認められない事もある。特に、暗色帯が確実に存在するのは八王子丘陵とその周辺の丘陵を中心とする範囲であり、それ以外の地域では微妙に堆積状態が異なっている。

次に、下触牛伏遺跡が位置する赤城山南麓及び大間々扇状地Ⅰ面では、AK-UP、あるいはHr-HP以後のローム層が堆積しているものの、As-SPやAs-YPについてはほとんど純層で検出される事が無く、As-BPについてもブロック状で確認される事が多い。

さらに、赤城山西麓では分郷八崎遺跡や見立溜井遺跡等でAs-BPが間層を挟んで3枚存在すると共に、新たにAs-SPが検出されている。従来、県北部でAs-YPと呼ばれていた軽石の大部分がこれに相当する事が判明し、As-YPの分布範囲もかなり狭められた。

一方、利根川上流域に広がる洪積台地は狭く、主要な軽石、火山灰の分布範囲よりやや外れるために、ローム層自体の堆積も薄く、状態もよくない。

以上が、各地域の概要であるが、今後も遺跡毎の層位を対比していく事により、石器群の編年のみならず、県内各地での環境復元、さらには遺跡構造を理解していくことが求められよう。

第5節 コンピューターを利用した遺物分布図の作成について

最近の遺跡調査の大型化や長期化に伴う遺物量と測図量の増加は著しく、調査時のみならず整理段階での作業労力の増大と内容の複雑化を来している。一方で建設事業の増大に伴い、測量技術もコンピューター等の利用による精密なシステム化へと発展してきている。

そこで、従来から手作業であった遺跡での測図にも、この高度な測量技術を応用しようとする傾向がでてきている。それはコンピューターを導入しての測図の自動化や図化方法のシステム化等の形として既にいくつかの遺跡の報告に現れてきている。

実際に考古学にコンピューターを利用しようとする動きは1975（昭和50）年頃から現れてはいたが、それらは主として遺物の統計分析や数量分析のデータ化に応用しようとするものであり、そこには常に分類基準の問題が潜んでおり、一般化していくには難しい面もあった。

これに対して、旧石器時代の遺物分布図を中心に分布を図化する際に、観測点から視準点の三次元座標をその場で測定できるトータル・ステーションと呼ぶ自動化システムを応用する例が増えてきている。このシステムにコンピューターを利用する事で、遺物台帳、遺物水平分布図、接合資料や特定器種別の分布図、任意方向での垂直分布図等を作成する事が自動的に可能となったのである。

本遺跡では手作業による縮尺1/10の水平分布図と標高値による遺物の取り上げを現地で行っていたが、整理作業過程で約4,500点もの遺物の水平・垂直分布図の作成を図るうえでの労力を考えた場合、手作業による時間のロスと作業上のミス削減を考慮し、中央航業株式会社のIDSコンピューターシステムを導入する事にした。この事で遺物実測に労力を集中させる目的も実現可能となった。

まず、水平分布原図からX座標、Y座標をグリッドに合わせてデジタイザーによる入力を実施、これに手作業によるZ座標（標高値）を入力した。このデータをコンピューターで解析して目的の種類別の図面を任意の縮尺で図化する事が可能となった。

この作業中に生じたミスについても、原図のグリッド記入の誤りや、観高値から標高値を割り出す際の計

算ミス、それにコンピューターへのキーボード入力時のミスといったもので、調査時からこのシステムを導入していれば起り得ないミスばかりであり、コンピューターの精度そのものにはまったくの不安はない。

ただし、図化の段階で用いる記号が類似しているため、器種別分布図を作成する際にやや見づらい点がある。これについては、このシステムで作成した図を報告書図版用の原図として活用し、新たに記号を打ち直す事により解決した。

以上の点からも、この様なシステムを導入していく事は整理作業段階での省力化や精度を求めていくだけでなく、分析をするうえで有効な手段と考えられる。今後、遺跡の状況に合わせて導入を図っていく事も決して間違っていないであろう。

コンピューターを利用した遺物取り上げを実施した遺跡発掘調査例

1. 東京都調布市野川遺跡、岡小金井市国際基督教大学構内Loc. 15遺跡等の発掘調査に国際基督教大学計算センターの大型コンピューターを使用して、統計的分析と共に実施した。野川遺跡調査会『野川遺跡概報』1971、J. E. キター一他「国際基督教大学構内Loc. 15の先土器文化」『人類学雑誌』80巻1号、1972
 2. 東京都杉並区高井戸東遺跡 高井戸東遺跡調査会が大型コンピューターを利用して実施した。小田静夫他④。東古地の発掘⑤ コンピューターによる図化』『高井戸東遺跡』高井戸東遺跡調査会 1976
 3. 東京都西多摩郡羽村町羽ヶ田上、山根坂上遺跡 羽ヶ田上、山根坂上遺跡調査団と株式会社社会調査研究所により実施された。C. T. キー他「コンピューターによる遺物分布図の作成」『考古学ジャーナル』No184、p.2-7、ニュー・サイエンス社 1980
 4. 東京都八王子市稲町遺跡 稲町遺跡調査会が東アジア先史研究所に依頼して実施した。
 5. 埼玉県宮林遺跡 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が株式会社社会調査研究所に依頼して実施した。
 6. 埼玉県中三谷遺跡等で財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が株式会社ビジネスサプライに依頼し作成したシステムを利用してゐる。
 7. 兵庫県春日・七日市遺跡 兵庫県教育委員会が御京都コンピューターシステムに依頼して、1985年度に実施した。
 8. 兵庫県溝口遺跡 財団法人古代学協会と御京都コンピューターシステムとの共同開発によって実施した。南 博史「第1章 調査の経過と方法 第4節 発掘調査及び整理作業におけるコンピューターの利用」『兵庫県三田市溝口遺跡—北摂工業地区—』1986
 9. 京都大学農学部熱帯農学科校舎新営予定地の発掘調査等の京都大学構内埋蔵文化財センターで実施する発掘調査現場で導入している。田嶋一志「マイタロコンピューターと遺跡調査」『京都大学構内遺跡調査年報昭和57年度』p.93-103 京都大学構内埋蔵文化財センター、1984
- その他に、国立奈良文化財研究所と埋蔵文化財センターとでシステムの研究を進めている。伊藤太作「コンピューターによる発掘調査記録システム」『国立奈良文化財研究所年報』1985

器種	器種	器種	石材	石材	石材	石材	石材
砂片	緑石	縦長・縦長割片	石英	花崗	花崗	花崗	花崗
割片	石英	石状・石刀状割片	花崗	花崗	花崗	花崗	花崗
石刀		使用・使用済みの割片	閃緑	閃緑	閃緑	閃緑	閃緑
細礫		加工・加工済みの割片	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃
小礫		十折・十イフ形打砕	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃
磨石		打砕・打砕済みの割片	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃
打砕		打砕・石英閃緑岩割片	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃
石状		打砕・石英閃緑岩割片	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃
割石		打砕・打砕済みの	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃
細礫		欠番	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃
小礫		有古・青古欠番	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃
石英			石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃

石材	石材	石材	石材	石材	石材	石材	石材
石英	花崗	花崗	花崗	花崗	花崗	花崗	花崗
閃緑	閃緑	閃緑	閃緑	閃緑	閃緑	閃緑	閃緑
石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩
石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩
石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩
石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩
石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩
石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩
石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩
石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩	石閃	石英閃緑岩

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨固	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨固
1	34	砂片	不明	1.5	9.1	0.4	0.4			51	35	割片	黒安	4.4	3.0	0.5	9.9		
2	34	割片	黒安	1.5	2.2	1.0	2.5			52	36	割片	黒安	4.4	4.0	0.9	15.3		491
3	34	割片	黒安	2.7	2.2	0.8	4.2			53	36	割片	黒安	1.1	2.1	0.5	12.4		
4	34	割片	黒安	1.5	2.5	0.6	2.3			54	37	割片	黒安	2.4	2.6	0.4	2.4		
5	34	割片	黒安	3.7	2.6	0.4	3.8			55	29	細礫	黒安	1.6	1.9	0.6	1.9		
6	34	割片	黒安	2.0	1.5	0.5	1.6			56	29	割片	桂雲	2.2	2.2	0.8	3.7		
7	34	石刀	黒安	6.7	2.7	0.9	13.9	108°	167	57	29	割片	桂雲	5.2	3.7	2.3	35.6		
8	34	割片	黒安	3.2	2.9	0.7	6.9			58	29	割片	黒安	3.5	4.3	1.5	15.0		60-4
9		欠番								59	29	割片	黒安	5.0	2.1	1.9	12.3		
10	34	割片	黒安	5.7	5.4	1.8	51.1	112°	71-3	60	31	石状	黒安	7.0	3.6	1.3	36.5	120°	223
11	34	割片	黒安	2.4	1.6	0.3	1.5			61	32	砂片	不明	1.7	0.9	0.4	0.5		
12	34	縦長	黒安	5.4	2.6	1.1	14.0		365	62	32	石刀	黒安	2.4	1.1	0.4	1.3		170
13	34	割片	黒安	3.3	2.7	2.1	7.8			63	32	石刀	黒安	1.4	1.1	0.4	0.7		170
14		欠番								64	32	割片	黒安	4.1	4.6	2.2	51.7		
15	34	縦長	桂頁	3.1	1.6	0.6	3.1		366	65	32	石刀	桂頁	4.0	5.1	1.1	23.7		66-9
16	34	石状	黒安	10.3	6.0	1.6	75.5	117°	219	66	32	石刀	黒安	0.9	0.9	0.3	0.2		170
17	34	縦長	黒安	5.1	1.9	0.4	3.3			67	32	割片	黒安	1.9	1.7	1.1	3.6		
18	34	割片	黒安	3.4	6.1	0.9	11.7		70-2	68	32	割片	黒安	2.5	1.3	0.4	1.5	120°	68-16
19	34	使用	黒安	5.1	2.3	0.8	7.2		150	69	33	割片	黒安	3.0	2.5	6.4	2.5		68-28
20	34	割片	黒安	3.5	4.0	0.9	12.2			70	33	割片	黒安	8.9	5.3	3.5	145.7		68-12
21	33	割片	桂頁	8.2	5.6	1.1	96.1	128°	66-19	71	36	割片	黒安	8.9	5.3	3.5	154.0		
22	33	石刀	黒安	6.9	3.8	1.1	44.0	109°		72	37	割片	黒安	2.1	1.3	0.3	0.8		
23	39	割片	黒安	2.3	3.1	0.8	5.4			73	40	割片	黒安	9.3	5.5	2.7	87.6		
24	39	割片	黒安	2.2	2.8	0.6	2.5			74	40	割片	黒安	2.8	2.4	1.3	6.5		
25	39	割片	黒安	1.7	1.0	0.4	3.3			75	40	割片	黒安	4.7	4.6	1.0	15.4	120°	78-4
26		欠番								76	40	割片	黒安	5.6	4.4	1.3	23.3		
27	39	石状	黒安	4.1	2.6	0.6	7.1	109°	225	77	40	割片	桂雲	4.9	3.3	1.2	27.6		
28	39	小礫	安	2.1	3.2	1.2	6.8			78	40	縦長	黒安	4.2	2.9	0.7	8.2		372
29	39	割片	黒安	2.9	1.8	0.3	2.2			79	40	割片	黒安	3.4	2.8	1.1	10.2		
30	39	石刀	黒安	5.1	4.7	1.1	40.8	113°	168	80	40	割片	黒安	4.4	4.8	1.3	27.1		
31	39	割片	黒安	1.2	3.0	1.0	4.0			81	40	割片	黒安	3.1	7.5	1.3	34.3	120°	493
32	39	割片	石英	1.9	1.4	0.4	1.5			82	40	割片	黒安	3.5	3.6	0.5	6.8	108°	492
33	39	割片	黒安	4.6	7.0	0.6	25.7			83	40	割片	黒安	5.3	5.5	1.2	28.8		
34	39	石状	黒安	3.0	1.7	0.6	2.5		222	84	40	割片	黒安	4.8	2.7	1.0	8.3		
35	39	砂片	黒安	1.6	2.2	0.6	1.5			85	40	割片	黒安	5.3	2.1	1.2	12.5		
36	39	細礫	不明	2.8	2.4	1.1	7.2			86	準IV	石刀	黒安	9.1	3.4	1.5	31.7	120°	172
37	39	割片	黒安	4.9	2.5	1.5	14.5	107°	494	87	準IV	縦長	黒安	3.4	2.5	0.5	3.7		370
38		欠番								88	準IV	砂片	桂頁	2.0	1.1	0.5	1.0		
39	39	割片	黒安	6.0	4.1	0.9	20.9		489	89	37	縦長	黒安	3.7	5.5	1.9	29.0		368
40	39	割片	黒安	2.1	3.7	0.9	7.0			90		欠番							
41	39	砂片	黒安	1.2	1.1	0.5	0.9	108°		91	37	楔形	黒安	4.5	2.9	1.3	18.0		37
42	39	砂片	黒安	1.4	1.6	0.9	1.7			92	39	割片	黒安	3.8	2.2	0.5	3.9		
43	38	石状	黒安	6.9	4.0	1.6	31.1		220	93		欠番							
44	38	小礫	黒安	3.8	3.8	1.1	13.9			94	35	割片	黒安	1.6	2.4	1.3	3.8		
45	38	割片	黒安	5.9	4.2	1.7	31.4			95	35	割片	黒安	2.3	1.4	0.5	1.7		
46	35	小礫	黒安	4.5	2.8	0.7	8.4			96		欠番							
47	35	割片	黒安	2.6	1.7	0.7	2.4			97	35	割片	黒安	6.6	7.2	2.3	112.6		
48	35	割片	黒安	1.8	3.0	1.0	6.7			98		欠番							
49		欠番								99	35	磨石	不明	10.8	8.2	3.6	506.6		553
50	35	割片	黒安	6.2	6.2	1.5	49.4	106°	490	100		欠番							

第5章 ま と め

番号	フ	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨固	番号	フ	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨固
101	30	砕片	黒安	1.3	0.9	0.4	0.4			161	31	砕片	輝安	1.1	0.8	0.5	0.5		
102	30	砕片	黒安	0.9	1.4	0.3	0.3			162	31	小礫	石斑	6.3	4.1	2.3	85.5		
103	30	砕片	黒安	0.7	1.0	0.2	0.2			163	31	小礫	安安	3.8	2.8	1.2	17.6		
104	30	砕片	黒安	1.0	0.6	0.4	0.2			164		欠番							
105	30	砕片	黒安	3.8	4.0	1.2	14.3			165		欠番							
106	30	砕片	黒安	1.4	0.7	0.2	0.2			166	31	小礫	流紋	4.3	2.8	1.6	22.5		
107		欠番								167	31	小礫	安	3.1	2.2	1.2	7.8		
108	30	砕片	黒安	1.3	2.7	0.6	1.5			168	31	小礫	砂	4.6	3.1	2.2	35.9		
109	30	使用	黒頁	4.1	4.3	0.8	24.2		151	169	31	小礫	黒頁	3.3	2.6	1.3	11.1		
110	30	砕片	黒安	1.2	1.6	0.4	0.9			170	36	砕片	黒頁	3.2	1.5	1.2	4.2		
111	30	縦長	黒安	5.7	4.0	1.3	32.2	124°	367	171	36	縦長	黒安	4.0	2.9	0.9	9.0		369
112	30	砕片	黒安	2.3	2.0	0.7	5.1			172	36	砕片	黒安	2.7	2.5	0.4	5.0		
113	30	砕片	黒安	3.2	2.0	0.4	4.4			173	36	砕片	黒頁	4.1	4.3	1.0	19.1		
114	30	縦長	黒安	7.2	5.4	2.1	68.4	130°	62-4	174	36	縦長	黒頁	4.5	2.5	0.6	7.7		
115	30	使用	黒頁	3.8	3.8	1.0	14.0		151	175	39	砕片	流紋	4.0	2.8	1.2	10.5		
116	30	細礫	柱安	1.5	0.7	0.5	0.6			176	39	加工	流紋	3.5	3.7	1.0	12.2	120°	107
117	30	石状	黒頁	10.0	3.5	1.0	38.9	110°	224	177	39	彫磨	流紋	3.7	3.3	1.0	16.3		
118	30	砕片	黒頁	2.9	4.1	1.0	11.9			178	39	使用	黒曜石	1.5	1.4	0.2	0.4		
119	30	縦長	黒安	7.9	6.4	2.3	93.9	196°	373	179		欠番							
120		欠番								180	39	砕片	黒安	2.6	3.5	0.7	7.5		
121	32	砕片	黒安	2.9	4.5	0.7	15.9			181	39	石核	黒安	7.8	8.0	3.3	186.5		86
122	32	砕片	黒頁	2.7	1.3	0.6	2.8			182	39	砕片	頁	2.3	1.4	1.0	4.9		
123	32	砕片	黒安	1.2	1.2	0.6	1.1			183	39	砕片	黒安	2.3	1.0	0.4	0.8		
124	30	砕片	黒安	4.0	2.9	0.8	7.4		62-1	184	39	砕片	黒安	1.8	1.6	0.6	1.4		
125	30	石刀	黒頁	3.2	2.4	1.0	8.5		171	185	39	砕片	黒安	1.1	3.3	0.4	1.5		
126	30	石状	柱安	4.7	4.8	1.1	29.7	110°	66-20	186	39	砕片	黒安	3.6	3.4	1.2	15.5		
127	30	小礫	不明	3.3	2.5	0.6	6.8			187	39	縦長	黒頁	5.3	1.9	0.7	6.5		
128	30	砕片	輝安	1.6	1.4	0.5	1.4			188	39	砕片	黒安	1.5	1.2	0.3	0.4		
129	30	石刀	黒頁	5.1	2.2	0.9	11.9		171	189	39	石状	黒頁	2.5	2.2	0.5	8.2		
130	32	石状	黒頁	6.7	2.6	0.4	9.0	116°	221	190		欠番							
131	32	砕片	黒安	3.5	2.2	0.7	8.1			191	29	砕片	黒安	6.1	3.7	2.1	47.9		60-5
132	32	砕片	黒安	0.9	0.8	0.3	0.3			192	29	砕片	黒安	3.3	2.8	0.7	4.6		
133	32	砕片	黒安	2.0	0.9	0.9	1.4	110°		193	29	砕片	黒安	2.8	2.5	1.5	12.0		
134		欠番								194	29	砕片	黒安	2.3	2.7	1.4	12.7		
135	32	砕片	黒安	2.0	2.8	0.5	2.3			195	29	細礫	頁	1.4	1.5	0.4	1.0		
136	32	砕片	黒安	2.8	2.7	0.6	4.8			196	29	石状	柱安	2.9	3.3	0.9	8.5	110°	227
137	32	砕片	黒安	4.5	4.2	2.0	34.1		62-3	197	29	砕片	黒頁	2.1	1.5	0.2	0.6		
138	32	砕片	黒安	2.5	2.1	0.5	2.1			198	29	砕片	黒安	1.1	1.2	0.5	0.8		
139	32	砕片	黒安	2.8	1.8	0.4	2.0			199	29	砕片	黒安	0.6	0.6	0.3	0.1		
140	32	細礫	黒頁	1.8	0.8	0.7	1.1			200	29	砕片	黒安	2.6	1.7	0.4	1.6		
141	31	小礫	安	2.6	2.0	1.4	8.1			201	29	砕片	黒安	2.6	1.5	0.5	1.7		
142	31	砕片	黒安	1.1	1.4	0.2	1.2			202	29	砕片	黒安	2.0	1.4	1.5	3.9		61-2
143	31	小礫	頁	5.9	1.9	1.6	22.3			203		欠番							
144	31	小礫	安	2.5	2.0	0.7	4.2			204	29	石核	黒安	5.2	4.7	2.5	54.9		77
145	31	小礫	黒頁	1.6	1.7	1.0	3.3			205	29	砕片	黒安	1.9	1.2	0.5	2.0		61-4
146	31	細礫	安安	1.2	0.9	0.7	1.2			206	29	砕片	黒頁	2.7	4.8	0.9	17.2		
147	32	細礫	黒頁	1.3	0.5	0.3	0.3			207	29	砕片	黒安	3.2	1.5	1.0	3.0		
148	31	小礫	安	3.7	3.2	1.9	27.9			208	29	砕片	黒安	2.7	2.7	0.6	5.5	100°	61-1
149	31	小礫	黒頁	5.0	2.9	1.1	20.1			209	29	砕片	黒安	2.2	1.8	0.8	1.9		60-2
150		欠番								210	29	砕片	黒安	5.0	3.5	1.7	17.6		60-3
151		欠番								211	29	砕片	黒安	2.3	1.8	1.2	3.5		
152	31	小礫	黒頁	2.9	1.3	1.2	5.8			212	29	砕片	黒頁	1.7	1.3	0.3	0.7		
153	31	小礫	黒頁	4.0	3.1	1.8	25.3			213	29	砕片	黒安	2.8	2.2	0.5	2.2		
154	31	小礫	輝安	2.8	2.5	1.6	16.0			214	29	砕片	黒安	1.8	1.9	0.4	1.4		
155	31	小礫	頁	3.6	3.1	0.8	9.5			215	29	砕片	黒頁	5.8	5.2	1.7	49.8		
156	31	使用	柱安	4.2	4.7	1.3	30.1	117°	152	216	29	砕片	黒頁	4.2	5.1	1.1	37.6		495
157	31	小礫	柱安	2.4	1.4	0.8	4.0			217	29	砕片	黒安	2.4	6.6	3.6	55.2		61-3
158	31	小礫	砂	4.2	2.0	1.3	14.4			218	29	砕片	黒安	8.8	4.3	2.9	109.7		61-5
159	31	小礫	不明	2.1	1.7	1.4	5.6			219	29	砕片	黒安	1.9	1.2	0.6	1.3		
160	31	小礫	安	2.6	1.9	1.2	7.0			220	29	砕片	黒頁	3.5	2.3	0.9	7.9		

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神国	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神国
221	29	削片	黒安	2.5	2.0	0.9	3.7		60-1	281	32	削片	黒安	2.3	1.9	0.6	1.4		
222	29	削片	黒真	1.8	1.7	0.3	1.0			282	32	削片	黒安	1.9	1.2	1.3	1.2		
223	29	削片	黒真	3.8	1.6	0.4	2.4			283	32	削片	黒安	2.3	1.9	0.8	2.9		
224	29	削片	黒真	3.7	2.2	0.8	5.7			284	32	砕片	黒安	0.6	1.3	0.3	0.3		
225	29	石状	黒真	3.5	1.6	0.5	3.3			285	32	削片	黒安	3.4	1.8	0.6	2.5		
226	29	削片	黒真	2.2	3.4	2.0	7.2			286	32	削片	黒安	1.8	0.6	0.2	0.2		
227	29	珊瑚	珪	1.4	0.8	0.6	1.1			287	32	削片	黒安	2.7	4.2	0.4	7.8		
228	29	削片	黒真	5.5	5.6	1.7	54.6			288	32	削片	黒安	2.0	1.4	0.4	0.8		
229	29	石状	黒真	6.5	2.1	0.5	2.4		226	289	32	砕片	黒安	1.0	1.3	0.5	0.6		
230	29	ナ形	黒真	7.3	2.2	1.0	17.1		9	290	32	砕片	黒安	1.0	1.2	0.4	0.5		
231	29	石刀	黒安	8.3	3.1	1.5	28.6		107' 169	291	32	削片	黒安	2.4	1.8	1.2	3.9		
232	29	楯長	黒安	7.0	2.2	0.7	10.8		371	292	32	砕片	黒安	1.1	1.7	0.3	0.2		
233	29	使用	黒安	7.5	5.8	1.6	56.8		153	293	32	削片	黒安	2.5	2.3	0.6	4.0		
234	29	石状	黒真	4.1	4.2	1.3	23.1			294	32	石状	黒真	3.5	3.3	1.0	11.7		228
235		欠番								295	32	削片	黒安	1.9	1.1	0.4	0.5		
236	29	削片	黒真	2.6	4.1	0.3	7.9			296	32	削片	黒安	2.7	2.8	0.9	4.9		
237	29	砕片	黒安	1.4	1.4	1.0	1.9			297	32	削片	黒安	3.1	2.6	0.9	7.8		
238	30	楯長	黒真	5.2	2.4	0.8	12.4		109' 374	298	32	小礫	安	3.5	2.1	1.4	10.0		
239	30	削片	黒真	5.2	4.5	0.7	15.3			299	32	砕片	黒安	2.0	1.9	0.8	1.7		
240	30	削片	黒真	5.4	4.9	1.0	19.7			300	32	削片	黒安	1.8	1.8	0.5	1.5		
241	32	削片	黒安	2.7	2.8	0.6	3.3			301	32	削片	黒安	1.8	1.5	0.3	0.7		
242	31	砕片	黒安	1.5	1.5	0.5	0.8			302	32	砕片	黒安	1.4	0.8	0.3	0.3		
243	32	削片	黒安	2.2	2.7	0.5	2.1			303	32	砕片	黒安	1.2	1.4	0.2	0.2		
244	32	石状	黒真	3.9	2.2	0.7	4.4		229	304	32	削片	黒真	2.8	3.1	0.6	4.4		
245	32	削片	黒安	3.3	1.6	0.5	2.5			305	32	貼石	石斑	18.0	10.9	8.7	192.1		547
246	32	砕片	黒安	1.4	1.5	0.3	0.4			306	32	削片	黒安	3.5	2.5	0.7	6.3		
247	32	削片	黒安	2.5	4.8	0.8	8.9			307	32	削片	黒安	4.7	4.2	2.6	37.5		
248	29	石刀	黒真	10.1	3.2	1.8	57.0		105' 173	308	32	削片	黒安	3.3	5.6	0.9	12.0		64-9
249	32	削片	黒安	3.3	0.8	0.5	1.0			309	32	石核	黒安	4.0	4.7	6.1	106.7		64-14
250	32	砕片	黒安	1.1	1.0	0.3	0.3			310	32	砕片	黒安	1.6	1.2	0.2	0.5		
251	32	削片	柱雲	2.5	3.2	1.5	10.4			311	32	石核	黒安	8.2	4.8	2.8	82.3		
252	32	削片	黒安	1.8	1.5	0.4	1.4			312	32	削片	黒安	2.2	1.8	0.6	1.8		
253	32	削片	黒安	3.3	4.8	0.4	13.2			313	32	削片	黒真	1.5	1.6	0.6	1.2		65-3
254	32	削片	黒安	1.8	2.3	1.8	3.0			314	32	削片	黒安	2.5	1.9	0.7	2.7		
255	32	砕片	黒安	1.0	1.2	0.2	0.2			315	32	削片	黒安	2.2	1.6	0.8	2.6		
256	32	砕片	黒安	1.7	1.3	0.3	0.5			316	32	削片	黒安	2.6	3.2	0.4	4.6		64-3
257	32	削片	黒安	2.6	1.2	0.7	1.7			317	32	削片	黒安	1.5	1.2	0.4	0.8		
258	32	砕片	黒安	1.3	0.7	0.6	0.4			318	32	砕片	黒安	0.6	1.9	0.4	0.5		
259	32	砕片	黒安	1.3	0.5	0.2	0.1			319	32	削片	黒安	1.7	4.6	0.8	5.2		
260	32	削片	黒安	2.4	1.5	0.4	1.8			320	32	削片	黒安	1.0	1.8	0.3	0.5		
261	32	砕片	黒安	1.5	1.1	0.5	0.7			321		欠番							
262	32	石刀	黒真	8.5	3.2	1.0	28.5		104' 175	322	32	削片	黒安	2.3	1.6	0.3	0.9		
263	32	砕片	黒安	1.7	0.9	0.6	0.7			323	32	削片	黒安	1.6	1.3	0.5	0.8		
264	32	加工	黒安	3.7	3.0	0.7	4.6		101' 106	324	32	加工	黒安	2.8	3.4	0.5	5.6		64-6
265	32	削片	黒安	2.6	1.5	0.8	2.9			325	32	削片	黒安	2.2	4.4	0.5	5.0		
266	32	砕片	黒安	1.9	1.2	0.2	0.5			326	32	加工	黒安	1.4	2.8	1.2	4.1		
267	32	砕片	黒安	1.3	0.9	0.2	0.2			327		欠番							
268		欠番								328	32	削片	黒安	2.8	1.7	0.4	1.6		
269	32	砕片	黒安	0.7	1.2	0.4	0.4			329	32	砕片	黒安	1.4	1.6	0.5	0.9		
270	32	削片	黒安	6.3	8.7	1.8	0.5			330	32	削片	黒安	2.7	1.6	0.8	2.4		
271	32	削片	黒安	0.1	1.8	0.4	1.4			331	32	削片	黒安	5.9	3.2	1.0	17.7		64-2
272	32	削片	黒安	1.9	1.4	0.5	1.3			332	32	削片	黒安	2.3	2.6	0.6	3.6		
273	32	小礫	安	2.6	0.8	0.6	1.1			333	32	砕片	黒安	1.9	0.8	0.5	0.6		
274	32	砕片	黒安	1.1	1.1	0.5	0.8			334	32	削片	黒安	2.0	1.4	0.5	1.5		
275	32	珊瑚	黒真	1.2	0.7	0.3	0.3			335	32	削片	黒安	2.1	2.4	0.6	3.2		
276	32	砕片	黒安	1.6	1.0	0.2	0.3			336	32	削片	黒真	3.9	1.4	0.7	2.0		
277	32	削片	黒安	3.1	3.3	0.6	6.7			337	32	石状	黒安	7.3	3.4	0.8	24.1		102' 233
278	32	削片	黒安	2.8	2.1	0.4	1.9		64-1	338	32	石核	黒安	3.7	3.3	4.7	55.8		65-7
279	32	削片	黒安	1.7	2.9	0.6	3.4			339	32	削片	黒安	3.0	2.3	0.5	4.2		
280	32	石刀	黒安	5.4	1.2	0.4	3.4		174	340	32	石刀	黒真	3.1	1.3	0.6	2.1		179

第5章 ま と め

番号	ア	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固	番号	ア	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固
341	32	剥片	黒安	1.8	1.5	0.5	1.1			401	32	礮器	黒安	10.0	8.0	3.6	340.6		63-5
342	32	剥片	黒真	2.1	2.5	0.3	3.1			402	32	剥片	黒安	2.1	2.2	0.9	2.7		
343		欠番								403	32	小礮	不明	1.4	2.1	0.6	2.0		
344	32	剥片	黒安	2.2	1.2	0.4	1.2			404	32	縦長	珪頁	6.7	2.5	0.9	19.7		66-8
345	32	剥片	黒真	1.6	2.4	0.6	2.3			405	32	砕片	黒安	2.0	0.6	0.2	0.3		
346	32	砕片	黒安	1.3	1.0	0.5	0.7			406	32	剥片	黒安	4.3	3.3	1.1	15.4		
347	32	剥片	黒安	2.1	1.9	0.6	2.1			407	32	剥片	黒安	3.1	2.1	1.0	5.7		
348	32	剥片	黒安	2.2	3.2	0.7	3.7		63-1	408	32	破石	石斑	18.0	10.9	8.7	192.1		547
349	32	石刀	黒真	5.8	1.7	0.5	5.4		179	409	32	剥片	黒安	2.7	1.7	1.2	4.7		
350	32	剥片	黒安	4.0	2.2	0.8	7.6		65-6	410	32	剥片	黒安	2.0	1.8	0.6	2.1		
351	32	剥片	黒安	5.3	2.9	0.8	9.9			411	32	剥片	珪頁	2.8	3.6	0.9	8.7		66-10
352	32	剥片	黒真	2.0	1.1	0.6	1.3			412	32	剥片	珪頁	4.2	5.3	0.7	42.0		135' 66-28
353	32	剥片	黒安	4.7	2.9	1.5	14.1		65-5	413	32	剥片	黒安	2.5	1.0	0.4	0.9		
354	32	剥片	黒安	1.8	2.4	0.7	2.8		64-5	414	32	剥片	黒安	1.8	1.8	0.6	2.1		
355	32	剥片	黒安	2.4	1.9	1.3	7.4		65-2	415	32	砕片	黒安	1.6	1.2	0.4	0.8		
356	32	石状	黒真	4.9	3.4	0.9	19.2	103'	234	416	32	剥片	黒安	3.9	2.6	0.6	8.2		
357	32	ナ形	黒真	7.0	2.3	0.9	12.5		1	417	32	砕片	黒安	1.3	1.0	0.3	0.4		
358	32	剥片	黒安	4.6	3.9	1.1	18.7			418	32	砕片	黒安	1.4	0.8	0.7	0.7		
359	32	石状	黒真	3.1	2.8	1.0	9.4			419	32	剥片	黒安	1.0	2.0	0.4	1.1		
360	32	剥片	黒安	4.5	2.6	1.2	9.0			420	32	剥片	黒安	3.5	1.6	0.6	2.4		
361	32	剥片	黒安	1.5	1.0	0.5	0.8			421	32	剥片	黒安	3.6	4.5	1.5	18.4		
362	32	石状	黒真	9.4	3.9	1.1	31.2		238	422	32	剥片	黒安	1.0	2.0	0.7	1.4		
363	32	剥片	黒安	4.1	2.9	0.8	10.3			423	32	剥片	黒安	1.8	1.4	0.4	1.1		
364	32	石状	黒真	2.9	3.9	1.2	14.8		230	424	32	剥片	黒安	1.7	2.9	0.4	2.2		
365	32	剥片	黒安	4.8	2.3	3.0	26.5		63-4	425	32	剥片	黒安	2.1	2.5	0.4	1.6		
366	32	加工	黒真	4.8	5.6	1.0	39.4	110'	110	426	32	剥片	黒安	3.4	4.1	1.7	15.9		
367	32	石刀	黒真	3.5	3.3	1.1	14.5	108'	176	427	32	剥片	黒安	2.9	2.1	0.9	5.2		
368	32	加工	黒安	19.5	1.7	0.8	3.0		112	428	32	砕片	黒安	1.3	1.0	0.3	0.4		
369	32	剥片	黒真	2.3	1.2	0.8	1.1			429	32	剥片	黒安	2.4	1.5	1.0	3.1		
370	32	剥片	黒安	4.3	3.6	0.9	16.4			430	32	剥片	黒安	5.8	3.2	2.2	36.1		64-12
371	32	剥片	黒安	2.4	5.0	1.0	9.6			431	32	砕片	黒安	1.3	0.9	0.2	0.2		
372		欠番								432	32	剥片	黒安	2.1	2.2	0.4	1.8		
373	32	使用	黒真	2.5	2.1	0.8	5.2			433	32	剥片	黒安	3.0	1.4	0.7	2.4		
374	32	剥片	黒安	3.8	3.3	1.0	11.7			434	32	砕片	黒安	1.4	1.1	0.3	0.3		
375	32	石状	黒安	3.1	4.1	5.5	62.0			435	32	剥片	黒安	1.4	3.0	0.6	2.5		
376	32	縦長	黒安	5.8	2.9	1.1	21.1			436	32	剥片	黒安	3.8	1.7	0.8	4.7		
377	32	剥片	黒安	4.0	2.7	1.4	16.7			437	32	剥片	黒安	1.5	1.5	0.7	1.6		
378	32	縦長	黒安	2.1	5.3	1.0	22.7			438	32	小礮	点片	5.3	3.0	1.5	32.5		
379	32	剥片	黒安	2.4	1.6	0.8	2.7		65-1	439	32	剥片	黒安	2.0	2.1	1.2	3.2		
380	32	剥片	黒安	3.7	5.0	1.2	22.9			440	32	加工	黒安	7.0	4.1	6.8	15.5		111
381	32	剥片	黒真	2.1	1.3	0.5	1.2			441	32	剥片	黒真	2.7	3.0	0.9	9.7		
382	32	石状	黒真	3.5	3.9	2.1	27.7		230	442	32	砕片	黒真	0.9	0.7	0.1	0.04		
383	32	剥片	黒安	1.9	1.2	0.3	0.6			443	32	剥片	黒安	1.4	1.2	0.8	1.1		
384	32	剥片	黒安	1.9	1.2	0.3	0.5			444	32	剥片	黒安	1.8	2.0	0.4	1.5		64-8
385	32	剥片	黒安	2.4	1.5	0.6	1.9			445	32	砕片	黒安	1.1	1.5	0.7	1.0		
386	32	砕片	黒安	1.0	0.5	0.1	0.1			446	32	縦長	黒真	6.7	3.0	2.8	43.1		377
387	30	石刀	黒真	10.8	4.0	1.8	54.0	111'	177	447	32	剥片	黒安	5.1	4.2	2.9	63.3		496
388	30	石刀	黒真	8.0	3.2	0.6	16.6	117'	178	448	32	剥片	黒安	2.0	1.5	0.6	1.7		
389	30	小礮	頁	2.2	1.7	0.9	3.4			449	32	剥片	黒安	1.2	1.1	0.7	1.0		
390	30	砕片	黒真	1.7	2.3	0.8	3.9			450	32	剥片	黒安	2.8	1.5	0.7	3.4		
391	30	剥片	黒真	2.3	1.2	0.6	1.7			451	32	剥片	黒安	0.9	1.9	0.4	0.5		
392	30	剥片	黒安	2.9	1.5	1.3	5.5			452	32	砕片	黒安	1.5	0.6	1.2	0.2		
393	32	小礮	雲片	3.7	2.7	1.0	9.6			453		欠番							
394	32	剥片	黒安	1.9	1.2	0.4	1.0			454	32	石刀	黒安	5.0	3.5	1.0	21.0		182
395	32	剥片	黒安	2.2	1.7	0.9	2.8			455	32	剥片	黒安	2.5	0.8	2.7	2.9		
396	32	剥片	黒安	2.0	0.9	0.6	0.7			456	32	縦長	黒真	3.6	1.9	1.0	7.7		
397	32	剥片	黒安	2.2	2.6	0.8	3.8			457	32	砕片	黒安	1.1	0.9	0.2	0.3		
398	32	剥片	黒安	3.5	4.1	1.9	23.9			458	32	石状	黒真	3.1	2.0	0.6	5.3		
399	32	使用	炭絨	1.6	1.2	0.7	0.8			459		欠番							
400	32	砕片	黒安	1.1	1.1	0.5	0.4			460	32	剥片	黒安	2.1	1.7	0.3	0.9		

番号	ア	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押込	番号	ア	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押込
461	32	削片	黒安	2.6	1.5	1.3	5.3			521	33	石核	黒安	5.9	5.9	5.3	157.3		70-8
462	32	石刀	黒安	4.8	3.1	1.0	9.4		182	522	33	小礫	不明	3.1	1.5	0.9	2.9		
463	32	石状	黒安	5.3	2.2	1.1	12.0		231	523	33	小礫	不明	3.3	1.7	1.0	6.5		
464	32	削片	黒安	3.5	3.3	1.2	13.7		64-10	524	33	削片	瑠璃	2.9	1.6	0.4	1.3		
465	32	砕片	黒安	1.0	1.3	0.2	0.3			525	33	細礫	瑠璃	1.4	0.8	0.5	0.8		
466	32	縦長	黒安	3.6	1.9	0.8	6.4			526	33	石刀	瑠璃	4.6	2.3	8.5	7.1		185
467	32	削片	黒安	1.4	2.6	0.5	1.9			527	33	削片	黒安	7.8	5.5	2.3	51.7		68-25
468	32	砕片	黒安	1.3	1.1	0.3	0.4			528	33	砕片	瑠璃	1.6	1.2	5.5	0.7		
469	32	削片	黒安	2.0	1.6	1.0	2.6			529		欠番							
470	32	削片	黒安	1.9	2.5	0.5	2.5		64-7	530	33	削片	瑠璃	3.1	2.5	1.1	6.6		
471		欠番								531	33	縦長	黒安	2.5	1.8	0.5	1.7		
472	32	削片	黒安	1.7	1.3	0.6	0.9			532	33	削片	瑠璃	1.9	2.3	0.4	1.6		66-4
473	32	削片	黒安	1.2	1.6	0.4	0.7			533	33	削片	輝緑	3.7	0.9	1.1	10.8		
474	32	削片	黒安	6.2	3.2	1.5	29.3		68-20	534	32	削片	黒安	3.2	3.8	0.9	9.7		
475	30	削片	黒安	4.8	1.7	0.6	5.6			535	32	削片	黒安	1.9	2.5	0.6	2.3		
476	30	削片	黒安	2.5	1.6	0.6	2.6			536	32	砕片	黒安	1.9	1.3	0.3	0.7		
477	30	削片	黒安	1.3	1.8	0.5	0.9			537	32	削片	黒安	3.0	2.3	0.7	3.9		
478	30	加工	黒安	2.1	2.7	0.8	4.1		109	538	33	小礫	不明	2.3	1.8	1.3	4.1		
479	30	縦長	黒安	1.5	4.2	1.0	5.7			539	33	削片	黒安	11.7	7.6	2.7	215.2		68-14
480	30	削片	黒安	2.0	1.7	0.6	1.6			540	33	石核	黒安	6.1	6.3	5.0	221.6		68-37
481	30	削片	黒安	2.3	1.3	0.7	2.3			541	33	削片	黒安	3.5	4.7	1.6	24.6		68-22
482	30	縦長	黒安	3.9	2.2	0.3	3.7			542	33	砕片	黒安	1.7	1.1	0.9	1.2		
483		欠番								543	33	削片	瑠璃	2.9	5.3	0.5	14.3		66-29
484	32	削片	黒安	5.0	8.8	1.3	49.7		62-2	544	33	削片	黒安	3.7	5.3	1.3	20.2		68-23
485	32	砕片	黒安	2.1	1.2	0.4	1.1			545	33	削片	黒安	4.3	2.6	0.6	5.4		68-31
486	32	削片	黒安	4.0	2.6	0.7	7.2			546		欠番							
487	32	削片	黒安	10.0	6.2	4.0	180.6		68-1	547	33	削片	黒安	6.7	5.3	2.4	69.5		68-17
488	32	削片	黒安	3.5	4.3	0.3	6.6			548	33	削片	瑠璃	0.8	2.0	0.9	2.1		66-24
489	32	削片	黒安	1.7	2.6	0.9	3.6			549	33	砕片	黒安	1.1	0.8	0.3	0.3		
490	32	削片	黒安	3.0	1.9	0.7	2.7			550	33	砕片	黒安	1.1	0.9	0.4	0.2		
491	32	削片	黒安	2.9	2.9	1.0	9.4			551	33	砕片	瑠璃	1.9	0.9	0.6	1.0		
492	32	石刀	黒安	7.1	3.4	1.0	20.8		115' 180	552	33	削片	瑠璃	2.0	1.9	1.0	3.4		
493	32	砕片	黒安	1.3	1.8	0.3	0.7			553	33	削片	黒安	2.3	1.3	0.4	1.3		
494	32	削片	黒安	1.9	1.3	0.7	1.8			554	33	砕片	黒安	1.5	0.9	0.4	0.4		
495	32	削片	黒安	1.5	1.8	0.5	1.3			555	33	縦長	黒安	4.5	1.8	1.1	8.1		68-36
496	32	削片	黒安	1.3	1.8	0.3	0.7			556		欠番							
497	32	削片	黒安	0.7	1.4	0.3	0.3			557	33	削片	黒安	2.1	3.7	1.2	7.9		68-11
498	32	削片	不明	1.0	1.1	0.4	0.3			558	33	削片	瑠璃	2.1	5.8	4.6	75.9		66-26
499	32	削片	黒安	3.4	2.5	1.0	7.5			559		欠番							
500	32	削片	黒安	2.6	0.6	0.6	0.8			560	33	砕片	黒安	1.6	2.6	0.6	2.4		68-13
501	32	削片	黒安	2.0	2.7	0.4	2.0			561	33	削片	黒安	2.8	1.6	1.6	5.6		67-12
502	32	砕片	黒安	1.5	1.2	0.4	0.6			562	33	縦長	瑠璃	3.2	0.8	0.5	1.2		
503	32	削片	黒安	0.8	0.6	0.3	0.3			563		欠番							
504	32	削片	黒安	3.3	2.2	0.7	5.0			564	33	砕片	瑠璃	1.1	0.4	0.4	0.2		
505	32	縦長	黒安	4.2	2.0	0.7	5.7			565	33	削片	黒安	5.4	2.5	1.7	23.4		70-7
506	32	削片	黒安	1.7	1.7	0.5	1.5		64-13	566	33	石核	瑠璃	5.8	9.4	9.3	394.4		66-35
507	32	削片	黒安	1.6	1.1	0.4	0.8			567	33	削片	瑠璃	2.4	2.4	1.1	6.2		
508	32	削片	黒安	0.6	2.6	0.9	1.2			568		欠番							
509	32	削片	黒安	1.7	1.2	0.4	0.8		68-30	569		欠番							
510	32	小礫	不明	2.6	2.3	1.2	5.9			570	33	削片	瑠璃	1.8	1.3	0.4	0.8		
511	32	削片	黒安	2.2	1.6	1.2	2.4			571	33	削片	瑠璃	1.0	2.9	1.4	3.1		
512	32	削片	黒安	1.8	2.0	1.1	3.1			572	33	削片	瑠璃	3.9	5.6	1.3	35.1		66-30
513	32	削片	黒安	1.4	1.3	0.5	0.8			573		欠番							
514	32	削片	黒安	1.9	3.0	1.1	7.9			574	33	削片	黒安	1.4	2.9	0.5	1.8		
515	32	小礫	黒安	1.9	1.3	0.4	1.6			575	33	削片	黒安	3.0	3.3	1.0	9.5		
516	32	削片	黒安	1.2	1.1	0.5	0.8			576	33	削片	黒安	1.5	0.6	0.5	0.4		
517	32	削片	黒安	2.8	2.0	0.8	3.1		64-11	577	33	削片	瑠璃	1.8	1.4	0.3	1.3		66-22
518	32	削片	黒安	2.8	3.4	0.6	2.8			578	33	原石	黒安	19.6	11.9	7.4	2278.0		579
519	33	削片	黒安	4.2	3.4	1.1	11.7			579	33	削片	黒安	1.3	0.9	0.5	0.6		
520	33	ナ形	黒安	8.9	3.9	2.2	43.6		21	580	33	削片	黒安	1.3	0.8	0.4	0.4		

第5章 まとめ

番号	ア	群様	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押固	番号	ア	群様	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押固
581	33	剃片	黒真	2.1	0.9	0.6	0.9		68-32	641	33	縦長	珪頁	5.2	3.4	1.9	25.8		
582	33	剃片	黒真	6.7	7.6	2.8	90.9		68-19	642	33	剃片	黒真	1.5	0.9	0.6	2.3		
583	33	剃片	黒真	3.8	3.6	0.6	6.7		68-27	643	33	縦長	黒真	3.8	1.4	1.0	4.9		68-4
584	33	剃片	黒真	5.7	4.1	1.1	23.0		68-18	644	33	縦長	珪頁	3.9	2.0	0.9	6.8		66-14
585	33	剃片	黒真	10.5	8.6	4.1	395.2		67-6	645	33	剃片	珪頁	2.2	2.1	0.6	2.3		66-34
586	33	剃片	珪頁	8.0	4.8	1.5	63.6		66-16	646	33	剃片	珪頁	2.5	1.7	0.5	2.8		66-11
587		欠番								647	33	石刀	珪頁	5.1	2.0	0.7	8.7		185
588		欠番								648		欠番							
589	33	剃片	黒安	4.7	2.0	0.7	21.3		70-6	649	33	縦長	黒真	5.2	3.1	1.2	13.2		68-9
590	33	剃片	黒真	0.9	0.9	0.3	0.3			650	33	縦長	珪頁	4.3	2.9	1.0	16.0		66-13
591	33	剃片	黒安	1.8	1.0	0.7	1.0		70-4	651		欠番							
592	33	剃片	珪頁	0.9	0.7	0.4	0.2			652	33	縦長	黒安	1.9	2.5	1.8	8.8		375
593	33	剃片	黒安	3.5	2.1	0.6	2.2			653	33	剃片	珪頁	1.9	0.9	0.4	0.4		
594	33	剃片	黒真	5.9	4.7	2.4	84.6		68-10	654	33	剃片	黒真	3.6	2.3	0.6	4.6		68-6
595		欠番								655	33	剃片	珪頁	4.1	8.1	1.5	75.6		66-27
596	33	剃片	珪頁	4.3	3.7	1.3	23.4			656	33	敲石	流紋	8.7	8.3	7.0	646.9		554
597	33	縦長	黒真	4.5	1.3	0.8	6.0		68-26	657		欠番							
598	33	剃片	黒真	3.1	4.2	1.3	12.4		68-21	658	33	剃片	珪頁	1.3	1.4	0.4	0.7		
599	33	剃片	黒真	4.1	2.5	0.9	2.3		68-35	659	33	剃片	黒真	1.9	1.3	1.4	2.6		67-11
600	33	剃片	黒真	3.1	2.7	0.4	4.1		68-29	660	33	剃片	珪頁	0.7	0.7	0.3	0.1		
601	33	石刀	黒真	10.1	3.1	1.4	42.3	102°	183	661	33	剃片	黒安	3.1	1.7	0.7	3.7		
602	33	縦長	黒真	7.6	5.5	2.3	25.3		68-24	662		欠番							
603	33	石状	黒真	2.1	2.6	0.7	5.5		100-3	663	33	剃片	珪頁	1.1	1.3	0.4	0.4		
604	33	石状	黒真	7.4	2.7	10.1	22.9	110°	100-4	664		欠番							
605	33	剃片	珪頁	1.7	1.8	1.0	2.2			665	33	剃片	珪頁	1.3	0.8	0.3	0.2		
606	33	剃片	珪頁	1.3	0.8	0.4	0.4			666	33	剃片	黒安	1.6	0.6	0.2	0.1		
607	33	剃片	黒安	3.9	3.5	1.1	15.3			667		欠番							
608	33	小磯	黒真	4.8	2.5	1.8	26.6			668	33	剃片	黒真	3.4	4.5	1.2	10.6		68-34
609	33	石刀	黒真	6.0	1.1	0.7	9.2	111°	181	669	33	縦長	黒真	3.4	1.7	0.4	2.5		69-10
610	33	打撈	珪頁	7.0	6.2	3.6	271.1		66-1	670	33	剃片	珪頁	1.0	1.0	0.3	0.2		
611	33	敲石	流紋	1.4	8.1	5.0	603.5		532	671	33	剃片	黒真	1.8	2.8	0.3	33.5		69-1
612	33	剃片	珪頁	1.9	2.1	0.4	1.5			672		欠番							
613	33	剃片	珪頁	3.7	3.7	0.6	9.7		66-5	673		欠番							
614	33	剃片	珪頁	3.1	2.6	0.7	5.4		66-17	674	33	縦長	黒真	2.1	1.3	0.4	1.0	132°	69-6
615	33	剃片	珪頁	1.5	1.2	0.4	0.6			675	33	剃片	黒真	4.9	4.5	1.7	35.6		67-14
616	33	剃片	黒真	10.2	6.0	5.8	306.8		67-8	676	33	石刀	黒真	5.3	2.6	0.6	7.9	118°	69-15
617	33	剃片	珪頁	1.5	0.8	0.4	0.4			677	33	剃片	黒安	3.6	3.5	1.4	19.2		
618	33	剃片	珪頁	2.0	1.4	0.2	0.7			678		欠番							
619		欠番								679	33	剃片	珪頁	1.3	1.1	1.7	0.6		
620	33	石状	珪頁	6.8	3.1	0.8	14.6	110°	236	680	33	剃片	黒真	1.2	1.0	1.3	0.8		67-13
621	33	敲石	花崗	13.3	8.6	6.1	942.7		531	681		欠番							
622	33	打撈	黒真	6.9	5.1	5.1	107.9		67-4	682	33	石核	黒真	8.4	10.2	6.2	903.4		67-20
623	33	縦長	黒真	7.2	6.8	1.6	74.9		68-7	683	33	石状	黒真	3.5	4.0	0.7	10.9		69-12
624	33	剃片	黒真	4.7	4.9	1.9	34.5		68-2	684	33	剃片	黒真	1.9	2.8	0.6	5.7		69-2
625	33	石状	黒真	4.8	3.0	1.6	21.9		68-3	685		欠番							
626	33	剃片	珪頁	5.5	3.4	0.9	17.3	120°		686	33	石状	黒真	7.1	3.2	0.9	26.0	135°	69-3
627		欠番								687	33	石刀	黒真	4.4	3.6	0.7	19.6	114°	69-11
628	33	剃片	珪頁	3.3	4.5	3.3	44.9		66-25	688	33	石状	黒真	3.1	1.8	0.4	3.9	117°	69-9
629	33	剃片	珪頁	2.9	0.9	1.0	3.9		66-15	689	33	剃片	黒真	1.6	2.7	0.4	1.6		69-8
630	33	剃片	珪頁	2.7	1.4	0.5	1.5			690	33	縦長	黒真	2.9	2.1	0.5	3.0		69-5
631	33	剃片	珪頁	1.6	1.5	0.3	1.3		66-23	691	33	石状	黒真	9.8	7.6	2.9	244.6	125°	67-9
632	33	剃片	黒真	2.7	2.5	0.6	4.8			692		欠番							
633		欠番								693	33	剃片	黒真	5.5	3.4	0.5	10.6	96°	69-7
634	33	剃片	珪頁	2.1	1.5	0.7	1.9			694		欠番							
635	33	石核	黒真	15.0	9.4	7.5	647.0		67-19	695	33	剃片	黒真	4.3	5.7	1.9	46.0	115°	67-10
636	33	剃片	黒真	3.8	6.3	1.9	52.7		67-7	696	33	剃片	黒真	5.4	3.0	2.2	25.6		67-15
637	33	打撈	黒真	4.6	4.7	3.1	52.6		67-5	697		欠番							
638	33	剃片	黒真	4.3	4.6	1.3	24.2		67-3	698	33	縦長	珪頁	1.8	1.0	0.5	0.8		
639		欠番								699	33	石刀	黒真	4.5	3.5	0.7	20.7	126°	69-13
640		欠番								700	33	剃片	黒真	5.9	5.4	1.0	11.9		67-16

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神田	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神田
701	33	剥片	黒頁	3.4	1.8	1.5	7.6			761	37	剥片	黒安	3.3	2.8	2.1	19.7		
702	33	剥片	黒頁	3.6	2.2	0.6	4.4			762	37	剥片	黒安	1.7	2.7	0.6	2.5		
703	33	縦長	黒安	2.1	2.5	1.0	5.3		375	763	37	砕片	黒安	1.8	1.2	0.3	0.6		
704		欠番								764	37	砕片	黒頁	1.7	1.0	0.5	0.9		
705	33	剥片	埴頁	2.5	1.6	0.6	1.9			765	37	剥片	黒安	3.3	2.4	0.6	5.3		
706	33	剥片	黒頁	3.0	3.3	1.0	16.7		67-17	766	37	剥片	黒安	1.5	2.3	0.4	1.0		
707	33	縦長	黒頁	2.6	1.7	0.5	3.1		69-4	767	37	細礫	砂	2.2	1.1	0.6	1.4		
708		欠番								768	37	剥片	黒安	2.1	1.6	1.2	3.4		
709	33	剥片	黒安	2.4	1.3	0.5	1.2			769	37	剥片	黒安	2.1	2.9	0.5	2.4		72-4
710	33	縦長	黒安	1.6	2.2	0.7	2.7			770	37	剥片	黒安	3.9	6.2	1.5	25.9		72-2
711	33	剥片	黒安	1.6	1.2	0.3	0.6			771	37	剥片	不明	2.3	1.4	2.9	3.0		
712	33	縦長	黒頁	7.7	3.8	1.3	108.6		68-5	772	37	縦長	黒安	4.0	4.6	1.5	29.4		72-3
713	33	縦長	黒安	5.9	5.5	2.2	62.2		376	773	37	剥片	頁	1.4	0.7	0.6	1.3		
714	33	縦長	黒安	8.0	5.6	2.4	49.2		71-1	774	37	細礫	黒頁	1.6	1.0	0.5	0.8		
715	33	石状	黒頁	4.2	2.0	5.0	5.9		108'	775	37	剥片	黒安	1.7	1.2	0.6	1.0		72-1
716	33	剥片	黒安	6.0	2.0	2.6	28.3		71-2	776	37	細礫	黒頁	1.6	0.9	0.5	0.9		
717	33	砕片	埴頁	1.3	1.7	0.3	0.6			777		欠番							
718	33	剥片	黒安	2.4	1.5	0.6	1.6			778	37	小礫	砂	5.8	3.4	2.9	65.0		
719	33	剥片	埴頁	2.5	1.6	0.7	2.3			779	37	小礫	黒頁	2.7	2.0	1.0	5.2		
720	33	剥片	埴頁	2.4	2.8	1.0	7.0		66-32	780	37	細礫	石英	6.4	0.9	1.5	2.4		
721	33	剥片	黒安	4.3	4.1	1.2	19.5		115'	781	37	砕片	黒頁	1.4	1.3	0.4	1.8		
722	33	剥片	黒頁	2.4	3.8	0.8	5.1		67-2	782	37	小礫	黒頁	3.2	1.7	1.1	5.7		
723	33	縦長	埴頁	3.2	1.7	0.5	2.5			783	37	縦長	黒安	5.5	3.5	1.5	21.4		
724	33	石状	埴頁	4.7	2.0	0.5	6.2		66-2	784	37	剥片	黒安	1.5	1.7	0.4	0.9		
725	33	剥片	埴頁	2.4	3.3	0.2	6.9		66-31	785		欠番							
726	33	剥片	黒安	1.5	1.6	0.5	0.9			786	37	縦長	黒安	5.4	3.6	0.8	15.0		
727	33	剥片	黒安	2.4	5.2	1.0	12.0		70-1	787	37	砕片	黒頁	1.8	2.1	0.3	1.0		
728		欠番								788	37	剥片	黒安	1.7	1.6	0.5	1.3		
729	33	剥片	埴頁	1.9	1.7	0.2	1.3		66-18	789	37	剥片	黒頁	2.1	1.7	0.4	1.1		
730	33	剥片	埴頁	2.2	2.0	0.8	5.9		130'	790	37	剥片	黒安	3.0	2.4	1.2	7.3		101-2
731	33	剥片	黒安	2.2	0.9	0.8	1.3		70-5	791	37	小礫	頁	2.3	2.3	1.3	7.7		
732	33	剥片	黒頁	2.5	1.5	0.5	1.6		504	792	30	砕片	輝緑	1.7	1.4	0.7	1.2		
733		欠番								793	30	剥片	黒安	2.0	5.8	0.5	6.4		
734		欠番								794		欠番							
735	33	剥片	黒頁	1.9	1.2	0.5	1.4			795		欠番							
736	33	剥片	黒安	1.3	1.7	0.6	1.4			796	準IV使用	黒頁	4.5	4.8	1.4	30.2			
737	33	剥片	黒安	1.6	2.2	0.7	2.1			797		欠番							
738	33	縦長	埴頁	1.5	2.4	0.3	1.4		110'	798	準IV使用	背柱	6.9	5.6	1.8	55.1	105'	154	
739		欠番								799		欠番							
740		欠番								800	準IV細礫	黒頁	1.7	1.6	0.4	1.8			
741	33	剥片	埴頁	1.8	2.3	0.3	1.7			801	準IV小礫	点頁	3.1	3.4	1.4	17.0			
742		欠番								802	準IV剥片	黒安	1.4	3.6	0.5	1.9			
743	33	剥片	黒安	1.7	1.9	0.8	1.7			803		欠番							
744	33	剥片	黒安	7.6	4.5	3.9	2.7		101-1	804	準IV砕片	黒安	1.5	1.4	0.3	0.7			
745	33	砕片	黒安	2.2	1.3	0.3	0.6			805	準IV砕片	黒安	1.4	1.0	1.0	0.8			
746	33	剥片	黒安	6.8	6.0	2.1	71.3			806	準IV小礫	黒頁	4.4	2.6	1.3	17.7			
747	33	剥片	黒安	3.6	1.3	1.0	5.5			807	準IV小礫	埴頁	3.2	1.1	0.7	4.7			
748	33	剥片	黒安	2.4	1.5	0.8	2.0			808	準IV細礫	砂	2.4	1.0	0.8	1.9			
749	37	剥片	黒安	2.1	2.5	0.5	2.0			809	準IV細礫	黒頁	2.1	1.3	0.9	4.5			
750	37	砕片	黒安	2.9	1.4	0.3	1.0			810	準IV剥片	黒安	4.5	4.2	1.5	31.7		101-3	
751	37	剥片	黒頁	2.6	3.0	2.0	10.5			811	準IV砕片	黒安	1.5	1.1	0.8	1.4			
752	37	縦長	黒安	2.7	2.0	1.3	8.3			812		欠番							
753	37	剥片	黒安	2.8	1.8	1.3	5.4			813	準IV剥片	黒安	1.3	3.5	0.5	3.1			
754	34	石状	黒安	2.2	2.1	0.5	2.5		235	814	準IV砕片	不明	1.8	1.2	1.0	1.8			
755		欠番								815	準V砕片	不明	1.9	0.7	0.3	0.5			
756	34	縦長	黒安	2.8	2.1	0.5	3.4			816	準V石状	埴頁	2.9	2.4	0.8	6.1	107'	242	
757	34	縦長	黒安	2.6	1.6	0.5	1.8		111'	817	準V小礫	花崗	1.9	1.3	1.1	2.3			
758	37	砕片	黒安	1.0	1.3	0.4	0.6		378	818	準V砕片	黒安	1.6	1.5	0.2	0.6			
759	37	剥片	黒安	4.9	2.2	1.6	16.1			819		欠番							
760		欠番								820	準V砕片	砂安	1.1	1.6	0.9	1.2			

番号	ア	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押固	番号	ア	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押固
821	準V	機	砂	10.8	4.7	1.4	90.7			881	32	砕片	黒安	1.5	0.7	0.4	0.5		
822	準V	削片	黒頁	7.0	6.9	1.0	62.7			882	32	砕片	黒頁	1.2	1.0	0.3	0.5		
823	準V	削片	黒安	1.8	2.4	0.5	2.3			883	32	削片	黒頁	2.3	0.9	0.3	0.8		
824	準V	削片	黒頁	1.8	2.5	0.4	2.2			884	32	砕片	黒頁	1.2	1.3	0.2	0.3		
825	準V	削片	黒頁	1.6	1.6	0.4	1.1			885	32	削片	黒安	2.3	2.0	1.2	6.1		
826	32	砕片	黒頁	1.3	0.6	0.4	0.2			886	32	石状	黒頁	2.3	2.9	0.9	12.9		228
827	29	削片	黒安	1.7	2.1	0.3	1.2			887	32	削片	黒安	2.1	1.6	0.3	1.3		64-4
828	29	砕片	黒安	0.8	1.1	0.4	0.4			888	32	削片	黒安	2.7	1.2	0.2	0.9		
829	29	削片	黒安	1.4	1.3	0.3	0.5			889	32	削片	黒安	3.1	1.5	0.6	3.3		
830	29	削片	黒頁	2.1	2.0	0.5	1.7			890	32	砕片	黒安	0.7	0.5	0.2	0.1		
831	29	石状	黒頁	5.7	2.4	0.9	9.8		240	891	32	砕片	黒安	1.0	0.5	0.4	0.3		
832	32	砕片	輝緑	1.0	0.6	0.3	0.2			892	32	砕片	黒安	1.2	0.7	0.3	0.3		
833	32	砕片	黒安	1.9	0.8	0.5	0.8			893	32	小礫	黒頁	2.9	1.6	0.9	5.8		
834	32	削片	黒安	2.3	1.1	0.4	1.0			894	32	削片	黒安	1.8	2.1	0.5	1.6		
835	32	砕片	黒安	0.6	0.7	0.1	0.1			895	32	削片	黒安	1.8	2.3	0.3	1.7		63-3
836	32	砕片	不明	0.7	0.5	0.2	0.1			896	32	砕片	黒安	1.4	0.7	0.5	0.5		
837	32	砕片	黒安	1.5	1.0	0.3	0.6			897	32	加工	黒安	1.2	4.3	0.6	2.5		
838	32	砕片	黒安	0.9	0.9	0.2	0.2			898	32	削片	黒安	2.7	1.9	0.5	3.1		
839	32	砕片	黒安	1.2	1.3	0.4	0.5			899	37	細礫	黒頁	2.0	1.4	0.6	1.2		
840	32	砕片	黒安	1.2	0.9	0.3	0.3			900	37	削片	黒安	1.9	1.5	0.3	1.3		
841	32	砕片	黒安	1.2	1.1	0.6	0.6			901		欠番							
842	32	砕片	黒安	1.1	1.4	0.1	0.3			902	準V	削片	黒安	4.0	3.0	1.5	17.6		
843	32	砕片	黒安	1.2	0.8	0.2	0.3			903	30	砕片	黒頁	2.7	2.8	0.6	3.5		68-15
844		欠番								904	30	削片	頁	2.1	1.0	0.5	1.2		
845	32	砕片	黒安	1.1	0.5	0.2	0.1			905	30	削片	頁	2.2	2.0	0.3	1.3		
846	32	砕片	黒安	1.8	1.2	0.9	1.9			906	30	細礫	珪堇	0.7	1.4	0.4	0.6		
847	32	砕片	黒安	0.7	0.5	0.1	0.1			907	33	細礫	不明	2.0	1.0	0.8	2.0		
848	32	砕片	黒安	1.5	0.8	0.1	0.3			908	33	削片	黒頁	3.2	3.6	0.8	10.9		
849	32	縦長	黒安	2.7	1.2	0.4	1.3			909	33	削片	黒頁	2.4	2.4	0.7	4.2		68-33
850	32	砕片	黒安	1.4	0.7	0.2	0.2			910	33	削片	頁	1.7	3.0	0.5	2.2		
851	32	砕片	黒安	1.7	0.9	0.3	0.6			911	33	削片	黒頁	1.6	1.1	0.6	1.5		
852	32	砕片	黒安	0.9	0.6	0.2	0.1			912	33	削片	珪頁	2.3	2.1	0.6	2.0		
853	32	砕片	黒安	1.8	1.7	0.6	1.1			913	33	砕片	黒安	1.0	0.4	0.4	0.1		
854	32	砕片	黒安	1.7	1.9	1.0	2.3			914	33	砕片	頁	0.6	1.4	0.4	0.3		
855	32	砕片	黒安	1.1	0.9	0.1	0.2			915	33	砕片	頁	1.0	0.6	0.2	0.1		
856	32	十形	黒頁	6.5	2.8	0.6	10.1		26	916	33	砕片	黒頁	0.7	0.6	0.1	0.03		
857	32	削片	黒安	1.8	1.6	0.8	2.7			917	33	砕片	黒頁	0.6	0.7	0.1	0.04		
858	32	加工	黒安	3.6	6.2	1.1	23.8			918	33	縦長	黒安	0.9	2.4	2.0	2.1		375
859	32	細礫	不明	1.3	1.0	0.6	0.7			919	33	削片	黒頁	1.1	1.6	0.4	1.0		
860	32	砕片	黒安	1.2	0.6	0.2	0.1			920	33	削片	黒頁	4.9	3.4	1.2	13.7		67-1
861	32	砕片	黒安	1.5	1.2	0.3	0.6			921	33	砕片	黒頁	1.1	1.5	0.3	0.4		
862	33	砕片	頁	1.0	0.9	0.4	0.4			922		欠番							
863	33	砕片	頁	1.8	1.1	0.2	0.5			923	33	石刀	黒頁	1.2	1.2	0.3	0.5		69-14
864	33	砕片	頁	1.1	1.2	0.2	0.2			924	33	砕片	黒頁	1.0	0.7	0.3	0.2		
865	33	削片	頁	0.8	0.6	0.1	0.2			925	33	削片	頁	1.3	1.0	0.4	0.4		
866	33	砕片	頁	0.7	0.5	0.2	0.04			926	33	砕片	黒頁	0.9	0.7	0.1	0.1		
867	32	砕片	黒安	1.9	0.9	0.4	0.6			927	33	砕片	頁	1.8	1.3	0.4	1.3		
868	32	砕片	黒安	1.6	1.1	0.3	0.6			928	33	削片	頁	3.1	1.5	0.5	1.9		
869	32	砕片	黒安	1.0	0.6	0.3	0.1			929		欠番							
870		欠番								930	33	削片	頁	0.9	2.2	0.5	1.5		
871	32	削片	黒安	1.8	3.1	0.9	3.9			931	33	削片	黒頁	3.2	3.4	0.9	7.9		68-8
872	32	削片	黒安	2.5	1.8	0.6	1.9		63-2	932		欠番							
873	32	砕片	黒安	1.6	1.0	0.4	0.8			933	33	削片	珪頁	4.2	4.9	2.2	44.3		
874	32	砕片	黒安	0.8	0.8	0.2	0.2			934	33	砕片	頁	1.0	0.7	0.3	0.2		
875	32	砕片	黒安	1.7	0.7	0.5	0.7			935	33	削片	黒安	3.4	6.1	0.9	6.2		70-3
876		欠番								936	33	削片	珪頁	3.1	1.6	0.6	1.5		66-12
877	32	砕片	黒安	1.9	1.4	0.4	0.8			937	33	削片	頁	2.0	1.0	0.5	0.8		
878	32	砕片	黒安	1.0	1.2	0.2	0.3			938	33	砕片	頁	0.5	0.9	0.2	0.1		
879	32	削片	黒安	4.7	2.9	1.5	2.8		65-4	939	33	砕片	頁	1.2	0.9	0.2	0.3		
880	32	砕片	黒安	1.3	0.9	0.2	0.3			940		欠番							

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固
941	33	砕片	珉頁	1.0	1.4	0.7	1.2		66-7	1001	25	砕片	黒安	2.1	1.1	0.6	0.9		
942		欠番								1002	25	剥片	黒安	2.0	1.4	0.9	1.7		
943	33	剥片	頁	3.6	2.8	0.6	3.9			1003	25	縦長	黒安	3.9	2.2	0.6	2.7		
944		欠番								1004	25	砕片	大粒	1.1	1.1	0.1	0.1		
945	33	剥片	頁	1.6	1.3	0.7	1.6			1005	25	使用	珉頁	5.8	4.9	0.7	20.3	160°	155
946	33	剥片	珉頁	3.8	3.2	3.9	9.5		66-6	1006	25	剥片	黒安	3.3	1.7	0.9	3.8		
947	33	砕片	頁	0.7	1.2	0.1	0.2			1007	25	加工	黒安	12.2	7.6	3.8	278.3		115
948	33	砕片	頁	0.6	1.1	0.5	0.3			1008	25	石状	黒頁	5.2	2.2	0.8	10.6	98°	237
949	33	砕片	頁	1.1	0.8	0.2	0.2			1009	25	剥片	黒頁	3.5	2.3	1.0	5.9		
950	33	剥片	雲霞	2.5	2.8	0.6	5.8			1010	25	剥片	黒頁	1.9	1.7	1.1	3.2		
951	33	砕片	黒安	0.8	1.7	0.2	0.3			1011	25	砕片	黒安	1.6	1.1	0.2	0.3		
952	33	剥片	黒安	3.3	1.2	0.2	1.2			1012	25	砕片	黒頁	1.2	0.9	0.4	0.4		
953	33	砕片	黒安	0.8	2.0	0.2	0.4			1013	25	剥片	黒安	5.0	4.3	0.9	30.5		
954	33	石楨	黒頁	6.6	4.7	3.3	100.5		61	1014	25	細礫	砂	1.0	0.9	0.4	0.4		
955	33	砕片	黒安	0.9	1.1	5.5	0.6			1015	25	細礫	不明	2.1	1.3	0.9	2.5		
956	33	砕片	黒安	1.4	1.7	0.2	0.7			1016	25	石状	黒安	5.1	2.4	1.0	10.8		241
957	33	剥片	黒安	2.0	1.5	0.5	1.6			1017	25	細礫	頁	1.6	0.8	0.6	1.2		
958	33	剥片	黒頁	1.8	3.0	0.5	2.3		67-18	1018		欠番							
959	33	砕片	頁	0.6	0.6	0.2	0.1			1019	25	剥片	不明	1.6	1.2	0.6	1.0		
960	33	砕片	黒頁	1.0	2.0	0.3	0.7			1020		欠番							
961	37	砕片	黒安	2.2	0.6	0.5	1.0			1021	25	剥片	不明	2.0	2.2	0.4	1.8		
962	準IV種	点頁		2.0	0.9	0.6	0.9			1022		欠番							
963	30	砕片	頁	0.9	0.6	0.3	0.2			1023	25	剥片	黒安	3.1	4.1	0.7	5.7		
964	30	剥片	黒安	0.9	1.3	0.2	0.4			1024	25	砕片	黒安	1.6	1.0	0.5	0.5		
965	33	砕片	頁	1.4	1.5	0.2	0.4			1025	25	剥片	黒安	2.7	1.2	0.5	1.2		
966		欠番								1026	25	敲石	輝安	14.4	5.8	2.5	352.0		548
967		欠番								1027	25	剥片	黒安	5.3	3.9	1.8	28.1		499
968	33	砕片	頁	0.5	0.7	0.1	0.04			1028	25	砕片	黒安	1.4	2.0	0.5	0.9		
969	29	剥片	黒安	4.8	2.1	0.8	9.8			1029		欠番							
970	29	剥片	黒安	3.9	5.1	1.1	19.0			1030	25	剥片	黒安	2.4	1.3	0.4	0.9		
971	25	小礫	砂	3.2	1.7	1.0	5.3			1031	25	剥片	黒安	2.6	1.4	0.8	2.9		
972	25	縦長	黒安	2.4	2.1	0.4	2.1			1032	25	縦長	黒安	8.0	4.1	0.8	24.5		
973	25	石状	黒頁	7.3	4.1	1.7	47.3	117°	246	1033	25	加工	黒頁	5.7	2.5	0.6	7.7		114
974	25	剥片	黒安	5.2	2.5	0.7	14.4			1034	25	小礫	デイ	5.1	2.1	1.6	21.3		
975	25	縦長	黒安	6.1	3.0	1.5	20.7			1035	25	加工	黒頁	4.8	6.6	1.0	74.2		
976	25	細礫	不明	1.4	1.0	0.5	1.0			1036	25	ナ形	黒安	7.8	4.4	1.0	28.7		30
977	25	石状	黒安	5.6	3.0	1.3	23.4	122°	239	1037		欠番							
978	25	縦長	黒安	3.8	2.9	0.6	7.3			1038	25	剥片	黒頁	2.6	1.2	0.7	2.6		
979	25	剥片	黒安	2.0	1.5	0.2	0.8			1039	25	細礫	珉頁	1.9	1.5	0.8	3.2		
980	25	石楨	黒頁	9.1	11.1	6.7	824.0		89	1040	25	細礫	黒頁	1.9	0.8	0.4	0.5		
981	25	剥片	黒頁	3.7	2.2	0.6	5.7			1041	25	砕片	黒安	1.1	1.0	0.3	0.3		
982	25	砕片	黒頁	0.7	1.7	0.3	0.4			1042	25	砕片	黒安	1.1	0.7	0.3	0.2		
983	25	剥片	黒安	1.9	2.6	1.0	4.7			1043	25	砕片	黒安	1.6	0.6	0.3	0.2		
984	25	砕片	黒安	1.0	1.4	0.2	0.3			1044	25	砕片	黒安	1.4	1.2	0.3	0.5		
985	25	剥片	黒頁	2.6	6.1	0.6	9.9			1045	25	剥片	黒安	1.8	1.0	0.3	0.7		
986	25	剥片	黒安	2.4	1.9	0.6	3.6			1046	25	砕片	黒安	1.6	0.9	0.4	0.6		
987	25	剥片	黒頁	4.5	6.6	1.1	38.8			1047	25	剥片	黒安	1.8	1.5	0.5	1.6		
988	25	剥片	黒頁	4.9	4.7	1.0	21.1			1048	25	石状	黒頁	7.1	2.6	1.1	18.2		243
989		欠番								1049	25	砕片	黒安	1.4	1.6	0.3	0.6		
990	25	剥片	黒安	1.1	2.4	0.3	0.7			1050	25	砕片	黒安	1.5	0.5	0.3	0.2		
991	25	剥片	黒安	1.8	1.9	0.2	0.7			1051	25	砕片	黒安	1.4	1.1	0.2	0.3		
992	25	剥片	黒安	1.6	1.0	0.3	0.4			1052	25	砕片	黒安	1.1	0.7	0.2	0.2		
993	25	細礫	点頁	1.7	0.7	0.4	0.8			1053	25	砕片	黒安	1.4	0.9	0.3	0.3		
994	25	剥片	黒頁	2.2	1.3	0.4	1.8			1054	25	小礫	砂	3.4	2.4	1.3	13.5		
995		欠番								1055	25	剥片	黒安	2.4	1.6	0.5	1.5		
996	25	剥片	黒安	1.3	1.1	0.3	0.6			1056	25	剥片	黒安	4.1	2.4	0.6	6.4		
997	25	細礫	黒頁	1.6	1.6	0.7	3.3			1057	25	縦長	黒頁	5.9	1.8	0.6	4.3		380
998	25	細礫	黒頁	2.4	1.4	0.5	2.0			1058	25	縦長	黒頁	4.2	2.0	1.0	8.1		382
999	25	小礫	黒頁	3.3	2.4	1.5	17.4			1059	25	剥片	黒安	2.5	2.1	0.6	4.0		
1000	25	小礫	珉頁	4.4	5.0	3.4	67.0			1060	25	縦長	黒頁	3.5	2.8	1.1	8.3		384

第5章 ま と め

番号	ア	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿入	番号	ア	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿入
1061	25	剥片	黒安	3.4	2.0	0.7	3.4			1121	42	砕片	黒真	1.8	2.1	0.3	1.0		
1062	25	剥片	黒安	1.3	1.0	0.6	0.6			1122	42	砕片	珪頁	2.1	1.4	0.4	1.0		84-2
1063	25	細礫	黒真	1.5	1.1	0.6	0.9			1123	42	剥片	黒真	2.4	1.6	0.6	1.5		
1064	25	剥片	黒耀	0.8	1.2	0.3	0.2			1124	42	剥片	黒真	2.4	1.2	0.6	1.7		
1065	25	小礫	安	5.1	2.0	1.6	12.0			1125	42	砕片	黒真	1.4	1.4	0.4	0.6		
1066	25	細礫	不明	0.5	0.6	0.2	0.1			1126		欠番							
1067		欠番								1127	42	縦長	黒真	6.6	4.8	1.7	40.1		
1068	×	加工	青桂	2.4	2.8	1.2	5.4		116	1128	42	剥片	黒真	3.4	2.5	0.9	5.2		88-6
1069	×	剥片	黒安	5.4	3.0	1.3	18.4			1129	42	剥片	黒安	2.1	3.5	0.9	4.9		
1070	×	石状	黒真	7.9	2.8	1.1	23.8			1130	42	砕片	黒真	1.2	0.8	0.2	0.2		
1071	42	砕片	黒安	1.7	0.6	0.5	1.0			1131	42	砕片	黒真	1.3	0.7	0.2	0.2		
1072	42	剥片	黒真	2.5	1.4	0.8	2.1			1132	42	縦長	黒真	3.8	2.0	1.1	9.4		
1073	42	剥片	黒真	4.0	6.6	1.0	29.7			1133	42	剥片	黒安	4.0	3.9	1.1	7.8		82-12
1074	42	砕片	黒安	1.7	1.0	0.2	0.6			1134	42	縦長	黒真	4.5	1.6	0.7	4.2		97-1
1075	42	砕片	黒真	1.7	1.2	0.3	0.5			1135	42	剥片	黒真	2.4	2.9	0.8	5.7		
1076	42	縦長	黒真	5.0	2.3	0.8	11.5			1136	42	剥片	黒真	2.6	2.2	0.5	3.0		
1077	42	細礫	不明	0.8	0.6	0.3	0.1			1137	42	剥片	黒真	2.8	3.4	0.3	3.6		
1078	42	剥片	黒安	5.9	2.1	0.6	1.1		82-26	1138	42	砕片	黒安	1.2	1.4	0.3	0.4		
1079	42	細礫	不明	1.1	0.9	0.4	0.3			1139	42	剥片	黒安	4.5	1.7	0.5	2.4		82-56
1080	42	剥片	黒真	3.9	2.1	1.0	5.4			1140	42	剥片	黒真	1.9	2.6	0.7	3.2		
1081	42	石状	黒真	8.6	2.0	1.6	16.4		89-1	1141	42	剥片	黒安	2.4	2.3	0.3	1.4		
1082	42	石状	黒真	7.0	3.5	1.5	39.1		100' 98-2	1142	42	剥片	黒真	2.4	1.6	0.4	1.2		
1083	42	剥片	黒安	5.2	3.9	0.8	1.0		82-55	1143	42	剥片	黒安	2.6	1.2	0.9	2.2		
1084	42	砕片	黒真	1.1	0.9	0.3	0.4			1144	42	剥片	黒真	3.4	2.2	0.6	4.3		87-4
1085	42	砕片	黒真	1.8	0.8	0.4	0.4			1145	42	剥片	黒真	2.0	2.9	0.2	1.3		
1086	42	縦長	黒安	5.2	3.9	0.8	12.2		82-54	1146	42	剥片	黒真	1.6	2.4	0.6	1.9		
1087	42	砕片	黒安	1.1	0.9	0.3	0.3			1147	42	剥片	黒真	2.5	1.1	0.5	1.2		
1088	42	剥片	黒真	2.7	3.3	0.7	5.2			1148	42	剥片	黒真	1.9	1.7	0.4	1.4		
1089	42	縦長	黒真	5.7	1.8	1.1	5.9			1149	42	剥片	黒真	3.7	2.0	0.7	5.3		
1090	42	剥片	黒真	2.1	1.1	0.6	1.0			1150	42	剥片	黒真	2.7	1.5	0.4	433.5		
1091	42	剥片	黒安	3.3	2.7	0.8	4.4			1151	42	石状	黒真	3.1	1.9	1.1	4.0		99-2
1092	42	剥片	黒安	3.0	0.7	0.3	0.7			1152	42	剥片	黒真	2.2	1.9	0.4	1.7		
1093		欠番								1153	42	剥片	黒真	3.1	1.5	0.5	2.0		
1094	42	砕片	珪頁	1.7	1.7	0.3	0.7			1154	42	石状	黒真	4.4	2.4	1.1	9.4		100' 244
1095	42	剥片	黒真	2.2	1.6	0.9	2.6			1155	42	縦長	黒真	3.0	1.3	0.7	2.9		
1096	42	石状	黒真	7.0	4.2	0.7	25.1		120' 88-5	1156	42	細礫	安	1.6	1.2	0.8	1.3		
1097	42	縦長	黒真	8.5	4.8	1.2	43.8			1157	42	石状	黒真	5.8	3.5	1.1	18.1		95-3
1098	42	石状	黒真	8.5	3.6	1.6	46.2		118' 93-1	1158	42	剥片	黒真	2.5	1.5	0.4	1.9		
1099	42	砕片	黒安	1.2	1.4	0.4	0.7			1159	42	剥片	珪頁	3.5	2.1	0.7	4.1		85-1
1100	42	剥片	黒安	3.2	1.8	1.1	5.6			1160	42	剥片	黒真	2.5	0.9	0.4	0.9		
1101	42	縦長	黒真	4.0	2.1	1.0	6.1			1161	42	砕片	黒真	1.6	1.2	0.6	0.6		
1102	42	砕片	安	1.6	1.3	0.2	0.6			1162		欠番							
1103	42	剥片	黒安	6.2	3.2	0.8	7.3		82-49	1163	42	剥片	黒真	1.9	1.4	0.5	1.3		
1104	42	剥片	黒真	2.7	1.0	0.4	1.2			1164	42	剥片	黒真	1.6	2.4	0.6	2.2		
1105	42	縦長	黒真	2.3	2.3	0.7	3.4		90-3	1165	42	石状	黒真	5.2	2.5	0.8	12.2		115' 99-3
1106	42	縦長	黒真	4.1	2.0	1.0	8.8		388	1166	42	剥片	黒真	4.7	2.8	0.6	6.6		
1107	42	縦長	黒真	3.8	1.7	1.0	5.6			1167	42	縦長	珪頁	5.4	1.8	1.3	9.7		
1108	42	剥片	黒真	2.4	3.2	0.4	3.1			1168	42	剥片	黒真	1.7	2.1	0.9	3.2		
1109	42	剥片	黒真	3.1	2.6	0.5	2.7			1169	42	剥片	珪頁	1.7	1.1	0.5	1.0		
1110	42	砕片	黒真	1.2	0.9	0.2	0.3			1170	42	砕片	黒真	1.7	1.0	0.3	0.4		
1111		欠番								1171	42	剥片	珪頁	2.1	3.0	0.6	3.6		
1112	42	剥片	珪頁	1.6	2.0	0.2	0.7			1172	42	剥片	黒真	1.6	1.8	0.4	0.5		
1113	42	剥片	黒真	3.5	2.1	1.0	6.3		95-2	1173	42	剥片	黒真	3.5	1.6	0.7	3.0		
1114	42	剥片	黒真	2.5	3.3	1.0	6.9			1174	42	石状	黒真	4.0	3.8	0.7	8.9		110' 91-1
1115	42	剥片	黒真	2.3	2.0	0.8	3.2			1175	42	砕片	黒真	2.0	1.2	0.3	0.8		
1116	42	縦長	黒真	8.8	3.6	2.7	59.2		105' 379	1176	42	石刃	珪頁	3.8	2.3	0.7	6.1		184
1117	42	剥片	黒安	6.1	5.8	1.8	46.7		82-39	1177	42	砕片	黒真	1.4	1.4	0.3	0.7		
1118	42	剥片	黒真	2.9	3.3	1.1	8.6			1178	42	縦長	黒安	2.6	2.5	0.6	5.7		
1119	42	剥片	黒真	11.5	6.8	2.2	198.6			1179	42	縦長	黒真	3.7	1.8	0.6	3.6		
1120		欠番								1180	42	剥片	黒真	3.5	4.9	0.8	13.0		

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨因	番号	ブ	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨因
1181	42	砕片	黒頁	4.1	2.6	0.6	5.8			1241	42	細礫	埴安	1.9	1.6	1.3	4.0		
1182	42	磁長	黒頁	4.1	2.0	0.6	4.6			1242	42	砕片	埴頁	1.7	1.3	0.6	1.5		
1183	42	砕片	黒頁	2.2	1.7	0.4	1.2			1243	42	細礫	不明	1.1	1.2	0.6	1.0		
1184	42	磁長	黒頁	4.5	2.6	1.5	12.0			1244	42	砕片	黒安	2.8	2.2	0.4	2.1		
1185	42	砕片	黒安	1.9	1.3	0.4	0.9			1245	42	砕片	黒頁	2.5	2.6	0.9	4.2		
1186	42	砕片	黒安	1.7	1.8	0.3	0.9			1246	42	磁長	埴頁	1.4	1.1	0.4	0.5		
1187	42	砕片	埴頁	2.1	1.6	0.4	1.2			1247	42	磁長	黒頁	5.1	3.2	0.9	10.7	95°	99-2
1188	42	砕片	黒頁	3.0	1.6	0.5	1.9			1248	42	砕片	埴頁	1.6	1.5	0.3	0.8		
1189	42	石状	黒頁	6.5	2.8	0.9	17.3	112°	186	1249	42	細礫	黒頁	1.3	0.6	0.3	0.3		
1190	42	砕片	黒安	3.9	2.4	0.7	3.6		82-24	1250	42	砕片	埴頁	4.0	2.0	0.5	5.5		84-1
1191		欠番								1251	42	磁長	黒頁	3.1	1.7	1.1	4.2		
1192	42	砕片	黒頁	1.8	1.4	0.6	1.0			1252	42	砕片	黒安	1.4	0.9	0.2	0.3		
1193	42	打作	黒頁	10.2	7.5	3.5	277.4		46	1253		欠番							
1194	42	砕片	黒頁	2.2	2.6	1.1	3.9		96-3	1254	42	砕片	埴頁	1.8	1.0	0.2	0.4		
1195	42	砕片	黒頁	3.0	3.1	1.6	14.5			1255	42	砕片	黒頁	1.5	1.0	0.3	0.4		
1196	42	砕片	黒頁	1.1	1.3	0.2	0.3			1256		欠番							
1197	42	磁長	黒安	9.1	6.1	2.4	130.5			1257	42	砕片	埴頁	1.2	1.4	0.4	0.6		
1198	42	砕片	黒頁	3.3	1.2	0.8	3.8			1258	42	砕片	黒頁	1.4	1.0	0.3	0.4		
1199	42	砕片	黒安	2.1	3.4	0.5	3.2			1259	42	砕片	埴頁	2.2	1.1	0.3	0.7		
1200	42	砕片	黒頁	1.9	2.4	1.0	3.8			1260	42	砕片	黒頁	1.7	0.8	0.6	0.8		
1201	42	砕片	黒安	3.9	2.6	0.8	8.3			1261	42	砕片	黒頁	1.5	1.0	0.3	0.4		
1202	42	砕片	黒頁	1.3	1.4	0.5	0.8			1262	42	砕片	埴頁	1.3	1.4	0.4	0.2		
1203	42	砕片	黒頁	1.9	1.0	0.5	0.6			1263		欠番							
1204	42	砕片	黒安	4.2	5.2	0.7	32.5		82-21	1264	42	砕片	埴頁	2.4	1.7	0.5	2.0		
1205	42	砕片	黒頁	3.0	2.1	1.1	5.3			1265		欠番							
1206	42	細礫	頁	1.6	1.0	0.5	0.9			1266	42	砕片	埴頁	1.8	1.6	0.3	1.3		
1207	42	細礫	黒頁	1.6	1.0	0.7	1.3			1267	42	砕片	黒頁	1.4	0.9	0.2	0.3		
1208	42	砕片	黒安	2.1	2.4	0.7	3.3		82-9	1268		欠番							
1209	42	砕片	黒安	1.2	0.9	0.8	1.2		82-42	1269	42	砕片	黒頁	1.5	1.0	0.4	0.4		
1210	42	砕片	黒安	3.9	1.9	0.6	3.2			1270	42	磁長	黒頁	6.4	3.2	0.7	18.6		
1211	42	砕片	黒安	3.2	1.7	0.5	2.9			1271	42	砕片	黒頁	3.3	1.9	0.9	4.6		
1212	42	砕片	黒安	1.3	1.4	0.4	1.0			1272	42	砕片	黒安	1.3	1.6	0.5	0.8		82-32
1213	42	砕片	黒安	1.5	0.5	0.3	0.3			1273	42	打作	埴頁	11.3	7.3	4.5	486.2		83-1
1214	42	砕片	黒頁	1.1	1.6	0.5	0.9			1274	42	石核	黒安	10.1	6.5	1.9	138.3		82-38
1215	42	砕片	黒頁	2.9	2.1	0.4	4.2			1275	42	使用	埴頁	10.9	4.5	1.9	78.5	106°	83-4
1216	42	砕片	黒安	2.8	3.2	0.5	5.7		82-10	1276	42	砕片	黒頁	3.5	2.0	0.7	5.9		89-5
1217	42	砕片	黒頁	1.2	1.6	0.3	0.4			1277	42	砕片	埴頁	4.9	2.1	1.3	11.3		83-2
1218	42	磁長	黒頁	6.5	3.0	2.0	39.1		92-2	1278	42	砕片	黒頁	1.5	1.2	0.3	0.5		
1219	42	砕片	黒頁	3.2	4.7	1.1	10.7			1279	42	磁長	黒頁	3.0	2.9	0.3	2.9		
1220	42	砕片	黒安	6.1	4.5	1.0	35.6		82-30	1280	42	石核	黒頁	8.1	10.2	4.4	546.6		89-10
1221	42	石状	埴頁	6.7	3.0	1.3	24.8	105°	86-1	1281	42	石核	黒頁	12.9	7.2	3.9	282.8		
1222	42	砕片	黒頁	4.4	2.6	1.1	4.6			1282	42	砕片	黒頁	2.0	1.7	0.5	1.6		
1223	42	砕片	黒頁	5.9	3.7	0.8	23.0			1283	42	磁長	埴頁	7.0	2.9	1.2	15.4		83-7
1224	42	砕片	埴頁	1.7	1.0	0.3	0.6			1284	42	砕片	黒頁	3.1	1.8	0.5	2.9		
1225	42	磁長	黒頁	1.7	2.6	0.3	1.9			1285	42	砕片	黒頁	3.8	1.6	0.6	3.3		
1226	42	砕片	黒頁	1.2	1.5	0.2	0.6			1286	42	砕片	黒頁	1.6	1.2	0.3	0.7		
1227	42	石状	黒安	2.5	3.0	0.8	4.2			1287	42	砕片	黒頁	4.2	2.3	0.6	9.9		
1228	42	石状	埴頁	4.5	1.9	0.7	3.9		85-2	1288	42	砕片	黒頁	2.6	2.2	0.7	3.6		
1229	42	砕片	黒頁	1.2	1.1	0.5	0.5			1289	42	砕片	黒頁	1.9	1.5	0.3	1.5		
1230	42	砕片	黒頁	3.4	4.0	1.1	6.7			1290	42	砕片	黒頁	2.0	2.0	1.0	2.8		
1231	42	磁長	黒頁	1.8	1.3	0.3	0.5			1291	42	砕片	黒安	1.8	2.6	0.9	3.3		
1232	42	砕片	埴頁	2.0	1.2	0.6	1.2			1292	42	磁長	黒安	5.9	2.1	0.6	3.0		82-27
1233	42	砕片	黒頁	2.0	1.9	0.5	1.9			1293	42	砕片	黒安	8.4	7.0	1.1	94.1		82-33
1234	42	砕片	黒安	3.6	3.2	0.7	7.9		82-58	1294	42	砕片	黒頁	3.3	1.6	0.7	3.3		
1235	42	砕片	黒安	1.1	1.8	0.7	1.2		82-44	1295	42	砕片	黒頁	3.4	3.9	1.2	12.7		
1236	42	砕片	黒頁	1.9	1.3	1.0	1.8			1296	42	磁長	黒頁	3.9	1.6	0.8	4.4		
1237	42	砕片	黒安	2.1	1.0	0.3	0.7			1297	42	砕片	黒頁	4.9	2.0	1.0	7.6		
1238	42	砕片	黒安	1.1	1.1	0.2	0.3			1298	42	砕片	黒頁	4.0	5.5	1.1	34.3		
1239	42	細礫	輝緑	1.4	1.2	0.5	0.9			1299	42	砕片	黒頁	1.7	0.9	0.4	0.6		
1240	42	砕片	黒安	2.0	0.9	0.4	0.5			1300	42	磁長	黒頁	5.7	2.3	1.2	13.0		

第5章 ま と め

番号	フ	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押固	番号	フ	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押固
1301	42	砕片	黒頁	1.9	1.7	0.3	0.7			1361	42	剥片	黒頁	2.7	1.7	0.5	1.6		
1302	42	石状	黒頁	3.4	2.1	0.6	5.1		247	1362	42	石刀	珉頁	7.0	1.8	0.5	7.2	110°	188
1303		欠番								1363	42	剥片	黒頁	2.5	1.8	0.5	2.8		
1304	42	剥片	黒頁	3.9	2.7	0.8	9.0			1364	42	剥片	黒頁	4.2	4.4	1.1	2.4		
1305	42	剥片	黒頁	2.2	1.7	0.4	1.9			1365	42	砕片	黒頁	1.0	1.0	0.3	0.3		
1306	42	剥片	黒頁	3.7	1.5	1.2	4.6			1366	42	砕片	黒頁	1.9	1.2	0.3	0.7		
1307	42	縦長	黒頁	3.5	1.4	0.6	2.5			1367	42	石状	黒頁	5.5	1.4	0.7	4.2		90-2
1308	42	剥片	黒頁	2.7	1.7	0.3	1.6			1368	42	砕片	黒頁	0.9	1.1	0.4	0.3		
1309	42	砕片	黒安	1.2	2.6	0.3	5.3			1369	42	剥片	黒頁	2.2	2.4	0.7	4.6		109° 501
1310	42	剥片	黒頁	5.9	4.4	3.0	35.2			1370	42	砕片	黒頁	1.4	1.1	0.3	0.5		
1311	42	剥片	黒頁	7.9	3.9	1.9	42.8			1371	42	剥片	黒頁	4.3	1.4	0.4	2.9		
1312	42	剥片	黒頁	3.3	2.1	1.1	3.8			1372	42	砕片	黒頁	1.2	1.2	0.3	0.4		
1313	42	縦長	黒頁	6.1	2.8	1.5	22.9			1373	42	砕片	黒頁	4.0	2.8	0.9	8.4		
1314	42	剥片	黒頁	9.6	5.0	2.5	88.5			1374	42	砕片	黒頁	2.1	1.5	0.4	1.0		
1315	42	縦長	黒頁	8.4	1.9	1.1	13.6			1375	42	縦長	黒頁	8.1	2.5	1.0	23.8		381
1316	42	使用	黒安	8.3	5.5	1.7	74.5		156	1376	42	石状	黒頁	8.2	2.5	1.2	23.8		96-1
1317	42	砕片	黒頁	2.7	1.9	0.5	2.3			1377	42	砕片	黒頁	0.8	1.2	0.2	0.2		
1318	42	剥片	黒頁	2.6	2.3	0.3	2.6			1378	42	剥片	黒頁	3.4	2.7	0.6	0.8		
1319	42	剥片	黒頁	1.1	2.6	0.7	1.5			1379	42	剥片	黒頁	2.3	1.4	0.4	1.3		
1320	42	砕片	黒安	2.0	1.5	1.3	1.9			1380	42	石状	黒頁	3.4	2.8	0.6	6.7		247
1321	42	剥片	黒安	4.0	5.1	1.8	22.6		82-36	1381	42	剥片	黒頁	1.7	3.2	0.4	1.5		
1322	42	石核	黒頁	8.0	5.8	5.7	296.8		88-3	1382		欠番							
1323	42	石状	黒頁	6.2	2.8	1.2	16.9		113	1383	42	剥片	珉頁	3.9	5.9	1.1	13.0		83-5
1324	42	剥片	黒安	3.0	3.1	1.2	9.6		82-35	1384	42	剥片	黒頁	5.5	3.9	0.6	25.0		
1325	42	剥片	黒頁	3.5	2.6	0.6	5.7			1385	42	剥片	黒頁	4.1	3.7	0.6	9.6		107° 99-6
1326		欠番								1386	42	剥片	黒頁	5.5	1.5	0.7	5.8		
1327	42	剥片	黒安	7.9	9.5	2.0	139.4		82-17	1387	42	縦長	黒頁	6.4	4.1	1.7	36.4		94-1
1328	42	縦長	黒安	2.2	1.8	0.3	1.6			1388	42	縦長	黒頁	4.6	2.5	1.3	13.4		390
1329	42	砕片	黒頁	1.1	0.7	0.2	0.1			1389	42	剥片	黒頁	5.9	5.2	1.4	27.9		98-3
1330	42	砕片	黒安	1.3	0.8	0.2	0.2			1390	42	剥片	黒頁	2.2	2.4	0.9	4.5		
1331		欠番								1391	42	剥片	黒頁	1.7	3.0	0.8	3.4		
1332	42	剥片	黒頁	2.6	3.5	0.9	8.5			1392	42	剥片	黒頁	1.9	1.6	0.4	0.9		
1333	42	剥片	黒頁	2.0	1.2	0.3	0.7			1393	42	石状	黒頁	4.1	2.5	0.8	11.8		98-4
1334	42	砕片	黒安	2.2	1.6	0.3	0.8			1394	42	剥片	黒頁	4.2	4.3	0.5	14.6		
1335		欠番								1395	42	石状	黒頁	8.5	3.2	1.6	36.1		97-2
1336	42	砕片	黒安	1.5	0.9	0.1	0.2			1396	42	使用	黒頁	4.1	3.9	1.1	15.0		90-1
1337	42	剥片	黒頁	1.2	1.6	0.4	8.2			1397	42	剥片	黒安	1.9	2.4	0.4	1.5		
1338	42	砕片	黒頁	1.9	0.8	0.6	0.9			1398	42	剥片	黒頁	7.1	5.5	1.8	59.0		99-5
1339	42	剥片	黒頁	2.5	1.6	0.9	2.7			1399	42	使用	黒頁	2.1	3.0	0.5	3.9		
1340	42	縦長	黒頁	8.4	4.3	1.7	57.7		127° 87-2	1400	42	使用	珉頁	6.3	2.9	0.7	13.0		108° 86-2
1341	42	剥片	黒頁	2.1	1.4	0.4	1.1			1401	42	石核	黒頁	10.8	5.7	3.7	236.9		88-7
1342	42	縦長	黒頁	6.1	3.4	0.8	19.4			1402	42	剥片	黒頁	3.6	0.9	0.3	0.8		
1343	42	剥片	黒頁	2.2	2.1	0.7	2.5			1403	42	石核	黒頁	6.3	4.4	2.6	106.4		50
1344	42	砕片	黒安	1.9	1.9	0.2	0.9			1404	42	石状	黒頁	5.8	1.9	1.2	9.6		110° 245
1345	42	剥片	黒頁	2.7	1.0	0.8	1.9			1405	42	砕片	黒頁	1.4	0.8	0.3	0.4		
1346	42	石刀	珉頁	3.8	2.1	0.4	4.1		187	1406	42	剥片	黒頁	2.1	2.3	0.4	2.1		
1347	42	剥片	黒頁	1.2	1.6	0.5	1.1			1407	42	剥片	黒頁	1.8	4.8	0.7	3.9		
1348	42	剥片	黒頁	2.3	1.3	1.1	2.4			1408	42	剥片	黒頁	2.7	5.3	0.4	11.4		
1349	42	剥片	黒頁	3.1	2.8	0.8	5.7			1409	42	剥片	黒頁	2.7	6.9	1.0	27.5		
1350	42	剥片	黒頁	3.7	3.0	0.7	7.3			1410	42	剥片	黒安	4.5	3.7	1.4	25.8		
1351	42	剥片	黒頁	1.6	2.1	0.3	1.5			1411	42	石状	黒頁	7.2	3.0	1.0	20.6		
1352	42	剥片	黒頁	3.4	2.0	1.3	5.9		99-1	1412	42	砕片	黒安	1.2	1.5	0.3	0.7		
1353	42	剥片	黒頁	2.4	2.2	0.4	2.1			1413	42	砕片	黒安	1.4	1.2	0.4	0.7		
1354	42	剥片	黒頁	2.3	2.1	0.7	3.2			1414	42	砕片	黒安	1.0	1.0	0.2	0.3		
1355	42	剥片	黒頁	3.0	1.3	0.3	1.2			1415	42	砕片	黒安	1.9	0.8	0.1	0.3		
1356	42	剥片	黒頁	3.3	2.5	0.6	4.9			1416	42	砕片	黒安	1.2	0.9	0.2	0.3		
1357	42	石核	黒安	6.7	8.0	4.4	231.1		82-60	1417	42	剥片	黒安	1.6	1.2	0.3	0.7		
1358	42	砕片	黒頁	1.5	1.7	0.3	0.7			1418		欠番							
1359	42	縦長	黒頁	4.9	2.1	1.0	6.7			1419	42	砕片	黒安	0.9	1.1	0.3	0.3		
1360	42	剥片	黒頁	1.3	2.7	0.8	7.7			1420	42	剥片	黒頁	4.2	7.7	1.6	69.0		

番号	ブ	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨四	番号	ブ	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨四
1421	42	割片	黒頁	4.5	3.6	1.5	18.6			1481	42	縦長	黒頁	5.2	2.0	0.8	7.4		95-6
1422	42	縦長	黒安	1.8	1.5	0.2	0.9			1482	42	縦長	黒頁	8.0	6.1	2.5	107.9	116°	91-2
1423	42	使用	黒頁	2.6	1.7	0.4	2.0			1483	42	割片	黒頁	7.5	4.6	1.4	42.6		
1424	42	割片	黒安	1.4	1.2	0.2	0.4			1484	42	割片	黒頁	3.1	2.2	1.1	7.7		
1425	42	砕片	黒安	1.5	0.9	0.4	0.4			1485	42	割片	黒頁	4.5	4.5	1.5	23.3		
1426	42	砕片	黒安	0.9	0.9	0.2	0.2			1486	42	割片	黒頁	6.8	6.9	1.0	52.8		
1427	42	割片	黒安	3.1	1.8	0.5	17.4			1487	42	割片	黒頁	8.0	6.1	2.5	59.6		
1428	42	砕片	黒安	0.8	1.2	0.3	0.3			1488	42	縦長	黒頁	8.0	5.0	2.3	75.2		
1429	42	砕片	黒安	2.2	1.1	0.5	0.8			1489	42	石刀	黒頁	5.1	2.6	0.6	10.1		189
1430	42	砕片	黒安	1.5	1.2	0.4	0.7			1490	42	石状	黒頁	5.2	3.2	1.1	19.4	125°	92-2
1431	42	割片	黒安	4.2	5.8	1.5	36.8		82-13	1491		欠番							
1432	42	砕片	黒安	2.4	1.0	0.8	0.8			1492	42	砕片	黒頁	1.9	1.5	0.4	1.0		
1433	42	割片	黒安	4.3	3.5	1.4	26.9		82-3	1493	42	使用	黒頁	7.3	3.8	1.8	40.0		99-2
1434	42	割片	黒安	4.4	6.4	2.2	50.5		82-23	1494	42	打海	黒頁	7.4	3.2	2.1	36.3		43
1435	42	割片	黒安	6.0	2.1	1.3	14.0		82-51	1495	42	割片	黒頁	8.2	12.5	2.8	163.6		
1436	42	砕片	黒安	1.8	1.1	0.2	0.4			1496	42	割片	黒頁	4.9	6.7	2.0	68.3		
1437	42	割片	黒安	2.3	2.0	0.3	1.4			1497	42	割片	黒頁	4.6	8.0	1.7	73.1		
1438	42	割片	黒頁	3.6	1.5	0.8	3.4			1498	42	割片	黒頁	3.0	1.7	0.5	2.5		
1439	42	割片	黒頁	4.3	2.8	1.4	15.4		88-1	1499	42	砕片	埴頁	4.5	2.6	0.8	1.0		
1440	42	砕片	黒頁	1.5	1.7	0.3	0.7			1500	42	縦長	黒頁	8.0	3.8	1.7	30.8	95°	99-4
1441	42	割片	黒安	1.5	1.2	0.9	1.4			1501	42	割片	黒頁	1.9	1.6	0.6	1.7		
1442	42	砕片	黒安	2.0	0.8	0.4	0.8			1502	42	砕片	黒頁	2.2	1.2	0.3	0.7		
1443		欠番								1503	42	縦長	黒頁	8.8	5.5	1.3	54.9		
1444	42	砕片	黒安	1.9	1.5	0.4	0.9			1504	42	割片	黒頁	5.1	4.7	1.0	16.0	110°	95-4
1445	42	砕片	黒安	1.0	1.1	0.2	0.3			1505	42	縦長	黒頁	8.3	4.0	1.8	70.6		87-6
1446	42	細礫	安	1.4	0.9	1.0	1.4			1506	42	縦長	黒頁	6.9	4.7	1.8	6.4	96°	87-5
1447	42	小礫	流紋	3.9	2.4	1.8	22.8			1507	42	割片	黒頁	2.1	1.0	0.4	0.9		
1448	42	砕片	黒安	2.8	1.3	0.4	1.1			1508	42	縦長	黒頁	2.5	1.5	0.3	1.6		
1449	42	割片	黒安	2.8	1.5	0.3	1.8			1509	42	割片	黒頁	2.1	2.9	0.9	5.8		
1450	42	割片	黒安	4.9	3.0	1.2	16.5		82-15	1510	42	割片	黒頁	5.9	3.2	0.8	16.9		89-6
1451	42	割片	黒頁	2.6	1.6	0.8	3.3		87-3	1511	42	石状	黒頁	6.0	2.0	0.8	9.4	108°	248
1452	42	割片	黒安	4.3	3.5	1.2	17.9			1512	42	割片	黒頁	2.2	1.5	0.5	2.1		
1453	42	縦長	黒頁	5.2	1.8	1.3	9.2			1513	42	割片	黒頁	3.6	3.8	1.1	10.4		
1454	42	割片	黒頁	3.1	2.9	0.8	5.8			1514	42	割片	黒頁	8.0	5.0	2.9	80.9		88-2
1455		欠番								1515	42	石状	黒頁	6.1	5.4	5.2	108.1		87-7
1456	42	砕片	黒安	1.4	1.0	0.3	0.4			1516	42	隕石	石閃	11.8	8.2	2.8	342.1		540
1457	42	割片	黒頁	2.5	1.5	0.9	3.0			1517	42	割片	黒頁	6.7	4.0	2.3	49.8		
1458	42	割片	黒安	2.3	1.2	0.5	1.1			1518	42	縦長	埴頁	5.0	2.2	1.6	11.5		386
1459	42	縦長	黒安	5.9	1.9	1.0	9.4		82-16	1519	42	縦長	黒頁	8.8	4.1	3.6	91.8	120°	94-2
1460	42	割片	黒安	4.1	6.5	2.1	36.0		82-5	1520	42	割片	黒頁	3.5	1.1	0.5	11.7		95-1
1461		欠番								1521	42	石状	黒頁	6.8	3.3	0.9	18.8		249
1462	42	割片	黒安	4.6	3.4	1.2	12.7		82-8	1522		欠番							
1463	42	砕片	黒安	1.8	1.0	0.5	0.9			1523	42	縦長	黒頁	3.1	1.2	0.5	1.5		
1464	42	割片	黒安	2.1	0.5	0.3	0.3			1524	42	割片	黒頁	5.9	4.2	0.9	17.8		
1465	42	割片	黒安	2.6	1.3	0.5	1.3			1525	42	砕片	黒頁	1.7	1.5	0.4	0.9		
1466	42	石刀	黒安	1.7	2.0	0.5	1.9		82-59	1526	42	割片	黒頁	2.6	3.3	0.6	5.5		95-7
1467	42	縦長	黒頁	7.2	5.5	1.8	46.2		89-8	1527	42	割片	黒頁	2.8	3.6	1.2	9.2		
1468	42	縦長	黒安	6.1	3.3	1.2	26.1		82-4	1528	42	割片	黒頁	3.2	2.9	0.4	4.3		
1469	42	縦長	黒安	1.8	1.4	0.4	1.1			1529	42	割片	黒頁	5.0	9.6	2.2	89.9		
1470	42	縦長	黒頁	4.6	2.3	0.9	14.0		82-40	1530	42	割片	黒頁	3.3	3.2	0.5	7.2		
1471	42	縦長	黒安	1.3	1.6	0.6	1.3		82-19	1531	42	割片	黒頁	3.9	7.0	1.6	45.3		89-9
1472	42	砕片	黒安	1.3	0.6	0.5	0.4			1532	42	縦長	黒頁	4.2	2.7	0.7	8.5		
1473	42	砕片	黒安	2.1	0.9	0.4	0.8			1533	42	割片	黒頁	3.7	2.0	0.4	3.0		
1474	42	割片	黒安	1.5	1.9	0.5	1.5			1534	42	割片	黒頁	2.5	1.8	0.5	1.8		
1475	42	砕片	黒頁	1.6	1.2	0.6	1.3			1535	42	割片	黒頁	6.3	8.2	3.5	145.9		
1476	42	砕片	黒安	1.8	0.3	0.3	0.3			1536	42	縦長	黒頁	3.1	1.9	1.1	7.0		
1477	42	砕片	黒安	1.7	0.9	0.2	0.4			1537	42	小礫	砂	3.8	2.7	0.6	7.2		
1478	42	割片	黒頁	5.6	2.6	1.4	13.4			1538	42	割片	黒安	3.0	6.4	6.5	87.7		82-37
1479	42	割片	黒安	2.3	2.4	0.5	6.6			1539	42	使用	黒頁	3.1	3.5	1.4	12.2	120°	98-5
1480	42	割片	点頁	2.2	1.9	0.5	2.1			1540	42	砕片	埴頁	2.0	1.5	1.2	1.0		

第5章 ま と め

番号	フ	部種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押固	番号	フ	部種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押固
1541	42	割片	黒頁	1.8	1.1	0.4	0.7		89-3	1601	42	縦長	黒頁	7.2	5.5	1.8	6.3	120°	89-7
1542	42	割片	珪頁	2.9	3.0	0.4	5.5			1602		欠番							
1543	42	割片	珪頁	2.5	1.3	0.6	1.9			1603	42	石状	黒頁	5.5	2.1	0.8	8.0		258
1544	42	砕片	黒頁	1.7	1.3	0.5	0.7			1604	42	縦長	黒安	6.2	3.2	0.8	6.7		82-48
1545	42	割片	黒頁	3.0	2.5	0.4	3.2			1605	42	縦長	黒安	4.5	1.7	0.5	1.1		82-57
1546		欠番								1606	42	割片	黒安	3.6	2.1	0.6	5.9		82-31
1547	42	割片	黒頁	3.4	2.2	0.8	7.6			1607	42	割片	黒頁	2.5	2.2	1.0	3.6		
1548		欠番								1608	42	縦長	黒安	3.7	2.8	0.7	8.8		82-46
1549	42	割片	黒頁	2.0	0.9	0.5	0.9			1609	42	割片	黒安	4.0	4.3	0.4	8.4		82-47
1550	42	砕片	珪頁	1.5	1.5	0.3	0.5			1610	42	割片	黒安	9.3	11.6	1.5	193.0		82-1
1551	42	割片	黒頁	4.2	2.2	1.2	9.1			1611	42	割片	黒安	4.8	4.3	1.7	24.8		82-53
1552	42	縦長	黒頁	4.5	3.8	1.1	10.4		383	1612	42	割片	黒安	2.9	3.2	0.6	6.2		
1553	42	石核	黒頁	7.7	4.6	2.6	78.3		89-4	1613	42	割片	黒安	9.2	10.2	3.6	285.6		82-29
1554	42	割片	黒頁	3.0	2.0	0.6	3.5			1614	42	割片	黒安	1.8	2.0	0.4	1.4		
1555	42	割片	黒頁	1.7	3.7	0.5	5.2			1615	42	縦長	黒安	1.7	1.5	0.5	1.4		82-18
1556	42	割片	黒頁	2.7	2.6	0.6	4.7	113°		1616	42	割片	黒頁	3.5	2.4	2.5	9.3		
1557	42	割片	黒安	2.6	2.6	1.7	10.1		82-34	1617	42	砕片	黒安	4.5	2.4	0.7	8.0		82-20
1558	42	割片	黒頁	3.4	1.7	0.7	3.2	112°		1618	42	割片	黒安	1.9	2.3	0.5	2.1		
1559	42	縦長	珪頁	10.3	4.5	1.7	71.2		83-3	1619	42	砕片	黒頁	1.7	1.3	0.5	1.0		
1560	42	使用	珪頁	8.0	3.0	1.4	30.0	104°	83-6	1620	42	割片	黒安	6.1	4.5	1.0	1.6		
1561	42	割片	黒安	3.4	4.4	0.9	14.3			1621	42	割片	黒安	3.0	3.1	1.2	25.6		82-52
1562	42	割片	黒頁	3.8	6.6	1.1	27.1		502	1622		欠番							
1563	42	割片	黒頁	5.4	1.6	0.7	5.8			1623	42	石核	黒安	3.9	10.6	12.0	347.0		82-11
1564	42	割片	黒頁	3.6	2.1	0.9	9.8			1624	42	割片	黒安	3.7	2.0	0.6	6.3		82-22
1565	42	割片	黒頁	5.0	2.9	1.1	11.4			1625	42	割片	黒安	2.4	1.5	0.7	1.5		
1566	42	石状	珪頁	6.4	3.1	0.7	11.3		250	1626	42	割片	黒安	5.2	7.5	1.1	48.5		82-45
1567	42	縦長	黒頁	5.5	1.4	0.7	1.2	96°		1627	42	割片	黒安	2.1	3.4	1.0	5.9		82-43
1568		欠番								1628	42	割片	黒安	7.8	8.1	1.7	113.8		82-41
1569		欠番								1629	42	割片	黒安	7.7	3.3	4.5	61.5		82-50
1570	42	割片	黒頁	2.1	1.4	0.6	1.7			1630	42	割片	黒安	4.7	4.7	1.7	27.5		82-25
1571	42	割片	黒頁	1.6	1.2	0.4	0.9			1631	42	割片	黒安	6.3	4.8	1.3	36.5		82-14
1572	42	砕片	黒頁	1.8	1.0	0.4	0.7			1632	42	割片	黒頁	3.6	2.3	1.1	5.2		82-6
1573	42	打作	黒頁	3.2	5.8	1.1	21.3	116°	98-1	1633		欠番							
1574	42	縦長	黒頁	2.8	2.4	0.7	2.9			1634	42	嵌石	浴槽	24.0	10.5	6.8	108.0		
1575	42	石状	黒頁	6.2	3.4	1.2	25.4	105°	251	1635		欠番							
1576	42	砕片	黒頁	1.9	1.5	1.5	1.2			1636	42	礫	閃緑	10.0	5.4	2.9	138.5		
1577	42	砕片	黒頁	1.3	1.2	0.3	0.4			1637	42	石状	黒頁	5.9	5.5	1.2	23.5	113°	82-2
1578	42	縦長	黒頁	5.9	2.4	1.5	12.9		90-4	1638	42	縦長	黒安	4.1	3.6	1.0	14.8		385
1579	42	砕片	黒頁	2.3	2.4	0.5	1.3			1639	×	縦長	黒頁	7.4	4.0	1.1	31.3		
1580	42	石刀	珪頁	3.9	1.8	0.4	4.0		191	1640	×	小礫	流紋	5.4	4.2	1.9	26.1		
1581	42	砕片	黒頁	2.8	2.3	0.4	1.3			1641	×	小礫	不明	3.1	3.2	1.8	21.3		
1582	42	砕片	黒頁	1.8	1.5	0.3	0.9			1642	×	細礫	黒頁	1.0	0.9	0.7	0.7		
1583	42	砕片	黒頁	1.4	2.2	0.5	1.5			1643	×	縦長	黒頁	3.9	1.9	0.7	7.2		387
1584	42	割片	黒頁	3.8	2.3	0.6	5.3			1644	×	石状	黒頁	5.9	2.6	0.8	10.7	109°	256
1585	42	縦長	珪頁	4.1	2.8	0.9	7.7		391	1645	×	細礫	頁	2.1	0.8	0.9	1.5		
1586	42	割片	黒安	2.9	2.3	0.6	3.2			1646		準珪割片	黒頁	9.4	7.0	1.2	153.7	134°	503
1587	42	砕片	黒安	1.4	0.8	0.3	0.3			1647		準珪小礫	珪安	2.1	1.5	1.2	3.4		
1588	42	割片	黒頁	4.0	4.9	4.0	70.7	120°	88-4	1648		準珪細礫	珪安	1.4	1.0	0.5	0.8		
1589	42	小礫	石閃	5.0	2.6	1.1	13.2			1649		準珪小礫	輝綠	2.3	1.2	0.8	2.7		
1590	42	礫	閃緑	7.3	2.7	3.0	60.6			1650		準珪細礫	流紋	1.2	1.0	0.8	1.1		
1591	42	割片	黒頁	2.8	2.3	1.3	6.3			1651		準珪割片	輝綠	1.6	4.3	0.9	8.6		
1592	42	礫	黒頁	3.5	2.5	1.1	10.3		576	1652		準珪單石	砂	14.5	11.8	6.8	188.6		564
1593	42	石状	黒頁	3.9	2.9	0.9	9.6		95-5	1653		準珪小礫	流紋	4.6	3.0	1.6	16.3		
1594	42	割片	黒頁	2.3	2.2	0.4	2.7			1654		準珪細礫	黒頁	1.6	1.1	0.7	0.8		
1595	42	割片	珪頁	4.6	4.3	1.0	20.7		498	1655		準珪粒石	灰安	17.3	9.2	6.3	139.8		550
1596	42	割片	黒頁	7.3	5.6	2.0	89.5	110°	96-4	1656		準珪割片	黒安	5.1	3.6	1.6	21.8		
1597	42	割片	黒頁	2.2	1.7	0.6	2.0			1657		準珪割片	黒安	3.1	3.8	0.9	14.9		
1598	42	割片	黒安	5.5	2.3	0.7	6.9		82-7	1658		準珪小礫	砂	3.8	3.3	1.1	14.8		
1599	42	割片	黒安	6.2	8.5	2.0	126.9		82-28	1659		準珪割片	黒安	6.2	7.3	2.4	86.5		
1600	42	縦長	黒頁	7.7	3.5	1.8	46.9	105°	87-1	1660		準珪割片	黒安	4.4	2.0	0.6	5.0		

番号	ブ	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨図	番号	ブ	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨図
1661		欠番								1721	×	石状	黒真	3.7	2.7	0.9	11.2	109 ²	255
1662		準田割片	黒安	3.3	1.5	0.7	3.1			1722	27	割片	黒真	3.4	1.5	0.5	3.4		
1663		準田縦長	黒安	5.1	2.3	1.3	16.8		389	1723		準田割片	黒安	6.4	4.5	1.7	49.3		
1664		準田割片	黒安	3.1	4.5	1.7	15.3			1724		準田加工	黒安	2.8	4.1	1.3	13.6		
1665		準田割片	黒安	2.7	1.8	0.6	3.0			1725		準田割片	輝緑	3.6	2.4	0.7	6.8		
1666		準田曜	石閃	12.9	7.8	5.1	541.6			1726		準田十字形	黒真	10.1	3.9	1.5	32.9		15
1667		準田割片	黒安	2.7	1.3	0.6	1.8			1727		準田割片	黒安	3.7	2.2	1.0	6.5		
1668		準田割片	黒安	2.7	2.5	0.7	5.0			1728		準田割片	不明	4.5	2.8	0.9	11.7		
1669		準田縦長	黒安	5.4	5.4	1.7	39.7		127 ² 402	1729		準田縁石	輝緑	11.0	8.1	3.2	425.0		572
1670		準田割片	黒安	3.3	2.6	1.1	9.9			1730		準田割片	黒安	3.8	1.6	0.6	4.6		
1671		準田割片	黒安	3.5	3.4	1.5	20.2			1731		準田石椽	黒安	5.2	3.5	2.5	47.5		104
1672		準田小礫	福所	4.2	3.3	1.3	15.6			1732		準田割片	黒安	4.5	5.9	1.3	38.3		
1673		準田石状	黒真	3.7	5.6	1.7	32.6		254	1733		準田縦長	黒安	4.6	3.5	1.8	30.0		
1674		準田割片	黒真	3.6	4.2	0.9	12.4		506	1734		準田割片	黒安	6.8	7.4	2.6	131.3		
1675		準田割片	不明	3.7	2.0	1.1	8.9			1735		準田割片	黒安	6.7	4.4	1.7	43.4		
1676		準田白石	石閃	21.8	16.8	8.8	4180.0		570	1736		準田石状	黒安	6.3	2.6	1.6	20.7		
1677		準田割片	黒安	2.1	1.0	0.7	2.0			1737		準田使用	黒真	7.4	6.0	1.2	37.6		110 ² 263
1678		準田縁石	輝緑	9.4	4.2	2.5	118.5		557	1738		準田割片	黒真	1.8	3.8	1.8	9.6		
1679		準田小礫	福所	7.1	3.7	1.2	42.3			1739		準田割片	黒安	2.3	2.2	1.9	4.4		
1680		準田割片	黒安	2.2	4.6	0.8	7.2			1740	27	割片	黒真	2.0	2.3	0.6	4.0		
1681	27	石椽	黒安	3.9	5.2	2.9	53.7		57-2	1741		準田割片	黒安	2.8	2.4	0.4	3.9		
1682	27	縦長	黒安	7.3	4.0	1.5	37.7			1742		準田割片	黒真	6.0	3.8	1.0	23.0		
1683	27	割片	黒真	2.7	1.8	0.9	4.5			1743		準田割片	黒安	3.8	6.4	1.2	34.5		
1684	27	巖石	黒真	23.9	10.5	6.3	1600.8		544	1744		準田割片	黒真	4.0	4.4	1.3	14.4		
1685	27	割片	黒安	4.2	1.3	0.7	4.0			1745		準田縦長	黒安	5.7	5.0	1.3	27.7		394
1686	27	加工	埴真	5.3	3.7	2.5	39.3		56-3	1746		準田割片	黒安	4.0	3.7	1.2	10.8		
1687	27	割片	黒安	1.9	2.7	0.5	3.1			1747		準田割片	黒真	4.7	2.2	1.2	9.3		
1688	27	砕片	埴真	1.5	1.2	3.5	0.3		56-2	1748		準田縦長	黒真	6.1	5.5	1.5	53.5		118 ² 396
1689	27	割片	埴真	2.9	2.8	5.6	3.3		56-1	1749		準田割片	黒安	2.5	6.5	1.5	21.1		
1690	27	加工	黒真	5.1	3.6	1.2	23.8		117	1750	28	割片	不明	3.7	2.3	1.1	8.7		59-2
1691	27	割片	黒真	1.9	1.6	0.3	1.2			1751	28	小礫	黒安	2.8	2.2	1.3	10.1		
1692	27	割片	黒安	3.2	2.9	0.9	11.1			1752	28	縦長	黒安	6.2	4.0	0.5	16.6		
1693	27	石椽	黒安	4.7	4.1	4.5	87.1		51	1753	28	割片	黒安	3.1	2.4	0.9	6.0		
1694	27	曜	安安	6.3	6.3	2.8	118.0			1754	28	割片	黒安	7.6	6.0	2.5	110.0		
1695	27	石状	黒安	8.7	3.2	1.3	26.9		253	1755	28	割片	黒安	2.5	2.5	0.8	6.9		
1696	27	割片	黒安	4.4	3.8	1.8	31.0		103 ²	1756	28	割片	黒安	2.4	4.0	0.8	6.3		
1697	27	割片	黒真	3.6	5.8	2.2	49.4			1757	28	割片	黒安	2.7	2.7	0.4	6.0		
1698	27	割片	黒真	5.5	3.7	0.9	18.1			1758	28	割片	黒真	8.1	9.6	2.1	179.0		
1699	27	縦長	黒真	2.1	2.7	0.4	3.3			1759	28	割片	黒真	3.9	5.8	0.8	13.4		
1700	27	縦長	黒真	5.2	1.8	0.6	5.4		392	1760	28	割片	黒安	4.8	2.9	1.3	8.5		
1701	27	割片	黒安	2.5	1.4	0.6	1.6			1761	×	縦長	黒安	8.9	2.9	2.0	38.9		393
1702	27	加工	黒安	3.7	3.5	1.0	12.0			1762		欠番							
1703	27	砕片	黒安	1.6	1.7	0.3	0.9			1763	×	打弾	黒真	9.8	5.7	1.5	81.5		39
1704	27	砕片	黒安	2.6	1.5	1.6	1.8			1764		準田割片	黒安	3.7	1.4	0.8	3.0		
1705	27	縦長	黒真	4.2	5.0	1.4	22.9			1765	28	割片	黒真	4.4	2.4	1.1	13.1		
1706	27	加工	黒真	3.6	3.1	0.8	11.1			1766	28	小礫	黒安	4.7	3.2	1.3	31.1		
1707	27	十字形	黒真	5.8	2.1	0.9	9.5		25	1767	28	小礫	福所	3.6	3.0	1.4	15.5		
1708	27	割片	黒安	2.4	1.6	0.4	1.9			1768	28	割片	黒安	2.1	2.2	0.7	2.8		
1709		欠番								1769	28	割片	黒安	1.4	2.7	0.5	2.2		
1710	27	割片	黒真	6.7	9.0	2.0	94.7		55-2	1770	28	割片	黒安	2.9	3.9	1.7	17.0		59-4
1711	27	割片	黒安	2.8	2.4	0.6	5.5			1771	28	曜	砂	4.9	6.4	1.5	58.0		
1712	27	割片	黒安	5.7	7.3	0.9	46.1			1772	28	割片	黒安	5.0	1.8	1.2	9.3		58-5
1713	27	割片	黒安	3.5	2.1	0.5	4.5			1773	28	礫	不明	1.6	1.0	0.7	1.1		
1714	27	縦長	黒安	5.2	2.9	1.7	22.6		399	1774	28	礫	不明	1.8	1.3	0.9	2.7		
1715	27	加工	黒真	2.1	2.3	0.6	4.2			1775	28	割片	黒安	3.0	2.0	0.7	3.2		
1716	27	加工	黒真	6.1	7.0	3.5	109.8			1776	28	巖石	輝安	10.8	7.9	5.2	611.9		535
1717	27	割片	黒真	4.3	2.2	0.9	5.5			1777	28	割片	黒真	5.1	4.2	1.3	29.5		
1718	27	曜	黒真	7.2	11.5	4.8	4.8		55-1	1778		欠番							
1719	27	使用	黒真	8.4	8.8	2.8	249.5		125 ² 157	1779	28	割片	黒安	3.8	5.6	0.5	16.6		
1720	27	彫器	黒真	8.4	5.2	4.3	183.1		31	1780	28	巖石	輝安	10.2	8.7	4.7	402.9		546

第5章 ま と め

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨図	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨図
1781	28	縦長	黒安	6.2	2.9	1.2	16.8		58-6	1841	28	割片	黒安	2.0	3.5	0.6	3.9		59-9
1782	28	小縦	黒安	3.9	2.1	1.3	10.0			1842	28	割片	黒安	1.9	1.9	1.0	2.8		
1783	28	小横	珪堇	2.2	2.0	1.2	9.6			1843	28	割片	黒安	2.7	2.1	0.6	4.4		
1784	28	割片	黒安	3.2	2.1	0.8	4.0			1844		欠番							
1785	28	割片	黒安	4.6	1.6	1.7	4.2		59-6	1845	28	砕片	黒安	0.8	1.2	0.3	0.3		
1786	28	割片	黒安	1.8	1.3	0.4	1.2			1846	28	砕片	黒安	1.9	0.6	0.3	0.3		
1787	28	割片	黒安	3.9	1.7	1.3	6.5		58-2	1847	28	砕片	黒頁	0.8	1.3	0.2	0.3		
1788	28	砕片	黒安	1.1	0.9	0.5	1.7			1848	28	砕片	黒安	1.7	0.9	0.4	0.7		
1789	28	割片	黒安	2.5	2.0	0.4	1.8		57-1	1849	28	割片	黒頁	5.3	2.8	1.2	16.0		
1790	28	割片	黒安	8.2	2.9	1.1	29.1		58-9	1850	28	割片	黒安	2.7	4.9	1.0	12.0		
1791	28	碓石	輝安	10.2	8.7	4.7	402.9		546	1851	28	細網	黒頁	2.1	1.1	0.9	1.8		
1792	28	碓石	花崗	16.0	9.6	8.8	818.3		539	1852	28	縦長	黒安	5.6	2.7	1.0	10.9		58-8
1793	28	割片	黒安	3.4	2.4	1.1	8.6			1853	28	砕片	黒安	0.7	0.7	0.3	0.1		
1794	28	細網	黒安	1.5	1.0	0.2	0.4			1854	28	割片	黒頁	3.6	2.8	0.7	8.4		
1795	28	縦長	黒安	7.4	4.0	3.0	66.2		58-7	1855	28	縦長	黒安	2.5	1.0	3.4	8.8	105°	401
1796	28	細網	不明	1.3	1.2	0.6	1.4			1856	28	割片	黒安	3.1	1.2	0.5	3.0		
1797	28	砕片	黒安	1.1	1.6	0.5	0.6			1857	28	割片	黒安	7.3	4.6	1.3	23.8		58-3
1798	28	砕片	黒安	1.9	0.9	0.3	0.5			1858	28	割片	黒安	2.1	1.8	1.2	4.1		58-1
1799		欠番								1859	28	石核	黒安	5.8	8.5	3.4	209.4		59-10
1800	28	砕片	黒安	1.2	1.1	0.2	0.4			1860	28	割片	黒安	2.5	1.7	0.7	3.2		
1801	28	砕片	黒安	1.4	1.0	0.2	0.3			1861	28	砕片	黒安	1.4	0.8	0.5	0.5		
1802		欠番								1862	28	割片	黒安	2.8	1.2	0.6	1.9		
1803	28	割片	黒頁	3.3	1.5	0.8	2.2			1863	28	割片	黒安	2.7	1.2	0.4	1.5		
1804	28	砕片	黒安	1.0	0.7	0.1	0.2			1864	28	砕片	黒安	0.8	1.3	0.5	0.6		
1805	28	割片	黒頁	6.5	5.1	1.9	307.3		565	1865	28	割片	黒安	1.7	2.4	0.6	3.0		58-8
1806	28	割片	黒安	3.2	1.2	0.8	2.6			1866		欠番							
1807	28	割片	黒頁	5.8	2.9	1.1	19.4			1867	28	砕片	黒安	1.2	0.5	0.4	1.7		
1808		欠番								1868		欠番							
1809	28	割片	流紋	1.7	1.7	0.5	1.3			1869	28	割片	黒安	1.2	2.3	0.5	1.4		
1810	28	砕片	黒安	0.8	1.2	0.3	0.3			1870	28	割片	黒安	2.2	1.4	0.4	1.3		
1811		欠番								1871	28	割片	黒安	1.9	1.3	0.4	1.0		
1812		欠番								1872	28	割片	黒安	3.2	2.1	0.5	4.1		
1813	28	砕片	黒安	1.1	1.1	0.2	0.3			1873	28	割片	黒安	5.9	4.4	1.9	38.6		
1814	28	砕片	黒安	7.8	1.6	0.3	0.4			1874	28	割片	黒安	1.0	2.0	0.6	1.5		
1815	28	砕片	黒安	0.6	1.1	0.2	0.2			1875	28	割片	黒安	7.0	4.6	1.7	45.0		59-1
1816	28	割片	黒頁	1.8	0.9	0.5	1.0			1876	28	割片	黒安	5.4	5.8	1.9	62.4		59-3
1817	28	砕片	黒安	1.2	1.7	0.3	0.4			1877	28	割片	黒安	2.3	2.9	0.6	5.1		
1818	28	割片	黒安	3.2	1.8	1.1	7.1			1878		欠番							
1819	28	割片	黒頁	2.1	1.5	0.5	1.7			1879	28	割片	黒安	2.5	1.5	0.3	1.6		
1820	28	縦長	黒安	6.3	3.4	0.8	21.0		59-5	1880	28	割片	黒安	1.8	1.7	0.9	4.5		
1821		欠番								1881	28	砕片	黒安	1.3	1.6	0.5	1.0		
1822	28	割片	黒安	7.3	7.4	2.1	67.8		565	1882	28	割片	黒安	2.7	2.0	1.3	8.1		
1823	28	割片	黒安	2.5	2.6	0.6	3.6			1883	28	割片	黒安	1.4	1.9	0.6	1.4		
1824	28	石核	黒安	8.7	8.3	5.1	399.4		58-10	1884	28	割片	黒安	3.7	2.9	1.2	11.0		
1825	28	割片	黒安	5.6	3.1	1.7	29.4		59-7	1885	28	割片	黒安	6.5	5.1	2.0	97.2		
1826		欠番								1886	28	割片	黒安	1.7	2.2	0.9	2.6		
1827	28	砕片	黒安	1.5	1.2	0.3	0.5			1887	28	割片	黒安	1.4	1.9	0.5	1.3		
1828	28	割片	黒頁	1.9	3.2	1.8	3.9			1888	28	割片	黒安	3.5	1.0	0.9	4.1		
1829	28	砕片	黒安	1.2	2.0	0.6	1.1		58-4	1889	28	砕片	黒安	1.1	0.5	0.2	0.2		
1830	28	砕片	黒安	1.3	1.0	0.4	0.4			1890	28	割片	黒安	4.0	3.2	2.0	30.8		
1831	28	砕片	黒安	1.5	1.3	0.5	0.9			1891	28	割片	黒安	3.1	3.4	1.2	11.7		
1832		欠番								1892	28	細網	安	2.2	1.5	1.1	4.5		
1833		欠番								1893	28	割片	黒安	3.0	2.8	1.0	10.2		
1834	28	割片	黒安	2.7	2.6	1.3	9.8			1894	28	割片	黒安	2.6	5.5	0.6	13.6		
1835	28	割片	黒安	2.7	1.0	0.5	1.2			1895	28	加工	黒頁	3.2	3.0	1.0	13.4	115°	118
1836	28	割片	黒安	2.1	1.7	1.1	3.1			1896	28	石状	黒頁	6.1	2.6	1.2	16.1	112°	271
1837	28	石状	珪堇	9.1	3.5	1.3	44.3	122°	262	1897	28	割片	黒安	1.9	2.1	0.9	2.6		
1838	28	砕片	不明	0.6	1.1	0.2	0.2			1898	28	割片	黒安	4.7	3.1	1.1	14.3		
1839	28	砕片	黒安	1.1	0.8	0.4	0.3			1899	28	割片	黒安	4.6	5.8	0.8	19.4		
1840	28	割片	黒頁	1.9	1.5	0.6	1.6			1900	28	割片	黒安	2.8	1.2	0.3	1.4		

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神図	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神図
1901	28	縦長	黒安	5.1	5.4	1.6	43.7		395	1961	38	剃片	黒安	3.2	5.1	1.1	13.8		73-6
1902	28	石刀	黒真	10.6	2.8	1.7	24.9	107°	190	1962	38	剃片	黒安	5.3	5.3	1.2	29.8	110°	73-11
1903	28	砕片	黒安	2.0	1.6	0.3	0.9			1963	38	剃片	黒安	4.8	5.6	0.6	16.1		
1904	28	砕片	真	1.1	1.5	0.6	0.9			1964	38	剃片	黒安	5.3	6.1	1.4	44.3		
1905	28	貼石	輝安	10.2	8.7	4.7	402.9		546	1965	38	剃片	黒安	2.3	5.9	0.7	7.4		
1906	28	剃片	黒真	2.6	1.7	0.4	1.7			1966	38	石状	黒安	6.7	2.9	1.8	30.7		77-1
1907	28	小礫	真	3.0	1.6	1.2	8.0			1967	38	剃片	黒安	4.6	5.3	1.0	16.9		73-7
1908	28	砕片	黒安	0.7	0.6	0.2	0.1			1968	38	石状	黒安	5.1	1.7	0.7	7.8		
1909	28	砕片	黒安	0.7	0.8	0.1	0.1			1969	38	石状	黒安	3.2	1.6	0.8	3.5		257
1910	28	石状	黒真	2.8	1.6	0.7	4.1			1970	38	石状	黒安	3.2	1.9	0.8	5.2		257
1911	28	砕片	黒安	1.4	1.9	0.3	0.6			1971	38	縦長	黒安	10.0	6.2	3.1	160.4		73-8
1912	28	砕片	黒安	1.3	0.6	0.4	0.3			1972	38	縦長	黒安	2.2	2.7	0.4	3.0		
1913	準圓貼石	灰安		21.7	8.3	4.5	1093.2		545	1973	38	礫磨	黒真	18.7	10.1	8.4	197.4		573
1914	38	剃片	黒真	3.4	5.2	1.1	30.4			1974	38	石刀	黒安	3.1	1.6	0.5	2.7		194
1915	38	砕片	黒安	1.5	1.0	0.3	0.4			1975	38	剃片	黒安	2.8	3.8	0.7	7.4		73-2
1916	38	剃片	黒安	4.0	3.1	0.6	6.5			1976	38	剃片	黒安	6.3	4.1	1.2	22.5		73-1
1917	38	石状	黒安	2.7	2.3	0.5	4.5			1977	38	小礫	珪堇	2.8	1.3	0.7	3.4		
1918	38	縦長	黒安	2.3	1.5	0.8	3.3			1978	38	縦長	黒安	3.1	1.4	0.6	2.6		
1919		欠番								1979	38	砕片	黒安	0.9	1.0	0.5	0.4		
1920	38	剃片	黒安	5.0	4.3	1.6	34.9			1980	38	剃片	黒安	2.9	2.6	0.4	4.2		73-10
1921	38	剃片	黒安	4.8	3.2	1.4	17.2			1981	38	剃片	黒安	1.7	2.6	0.7	3.0		
1922	38	石状	黒安	7.9	4.9	1.6	50.9	102°	73-9	1982	38	石状	黒安	5.5	1.1	0.7	4.1		276
1923	38	剃片	黒安	1.5	2.8	0.7	3.0			1983		欠番							
1924	38	砕片	黒安	0.8	1.3	0.3	0.4			1984	38	縦長	黒安	2.8	2.3	0.2	1.9		
1925	38	砕片	黒安	1.3	1.5	0.4	0.8			1985	38	剃片	黒安	2.6	1.7	0.4	1.5		
1926	38	縦長	黒安	4.1	1.1	0.8	3.1			1986	38	縦長	黒安	6.8	4.4	1.3	39.3		
1927	38	石核	黒安	4.8	4.6	4.6	97.2		74-3	1987	38	石状	黒安	2.3	2.1	0.8	3.8		268
1928	38	剃片	黒安	1.4	1.0	0.4	0.6			1988	38	石状	黒安	3.6	1.7	0.7	2.5		75-1
1929	38	砕片	黒安	1.4	0.7	0.4	0.4			1989	38	縦長	黒安	8.6	3.8	1.2	40.7		
1930	38	砕片	黒安	1.5	1.4	0.4	0.6			1990	38	剃片	黒安	2.5	1.3	0.3	1.4		
1931	38	剃片	黒安	3.5	5.5	1.5	22.9			1991		欠番							
1932	38	剃片	黒安	1.4	1.0	0.3	0.7			1992	38	剃片	黒安	3.3	2.4	0.6	5.5		
1933	38	剃片	黒安	4.0	4.2	0.8	18.3			1993	38	砕片	黒安	1.4	1.1	0.3	0.5		
1934	38	剃片	黒安	5.3	2.9	1.6	25.0			1994	38	剃片	黒安	1.9	1.6	0.6	1.2		
1935	38	縦長	黒安	2.0	1.1	0.7	2.1			1995	38	縦長	黒安	4.7	1.6	0.6	3.6		400
1936	38	剃片	黒安	1.7	2.6	0.7	3.7			1996	38	砕片	黒安	1.9	0.9	0.5	0.9		
1937	38	縦長	黒安	3.5	2.1	0.4	4.1			1997	38	剃片	黒安	2.7	1.6	0.2	1.7		
1938		欠番								1998	38	石状	黒安	3.1	1.8	1.0	4.7		269
1939	38	石状	黒安	6.5	1.9	1.4	13.6		74-2	1999	38	剃片	黒安	1.9	1.2	0.3	0.9		
1940	38	剃片	黒安	4.0	2.7	0.6	6.5			2000	38	剃片	黒安	1.7	3.0	0.8	2.9		
1941	38	砕片	黒安	1.8	1.0	0.5	0.9			2001	38	剃片	黒安	3.1	3.0	0.5	5.8		
1942	38	剃片	黒安	1.4	2.6	0.3	1.1			2002	38	剃片	黒安	5.4	3.2	1.5	28.9		
1943		欠番								2003	38	剃片	黒安	3.0	2.0	0.5	3.2		73-3
1944	38	縦長	黒安	3.7	3.5	0.8	14.2			2004	38	剃片	黒安	3.4	1.7	1.2	5.4		
1945		欠番								2005	38	剃片	黒安	2.1	2.0	0.5	2.5		
1946		欠番								2006	38	石刀	黒安	2.1	1.7	0.5	2.2		194
1947	38	剃片	黒安	1.0	2.6	0.6	1.4			2007	38	剃片	黒真	2.2	1.2	0.5	2.5		
1948	38	剃片	黒安	3.4	4.7	0.5	12.6			2008	38	剃片	黒真	1.1	2.5	1.0	2.9		
1949	38	石状	黒安	1.9	1.1	0.5	14.1		75-2	2009	38	縦長	黒安	2.7	1.6	0.5	2.9		
1950	38	砕片	黒安	0.7	1.2	0.1	0.2			2010	38	剃片	黒安	2.0	2.6	0.4	2.6		
1951	38	剃片	黒安	3.7	1.4	0.6	3.0			2011	38	砕片	黒安	1.7	0.3	0.5	0.6		
1952	38	礫	黒真	14.7	12.7	7.6	1700.5		576	2012		欠番							
1953	38	剃片	黒真	5.2	3.9	2.9	68.4			2013	38	剃片	黒安	2.8	3.2	0.4	6.1		
1954	38	剃片	灰安	3.8	5.1	1.8	34.8			2014	38	砕片	黒安	2.4	1.7	0.4	1.7		
1955	38	縦長	黒安	3.0	1.4	0.6	2.8			2015	38	砕片	黒安	1.5	1.5	1.1	1.8		
1956	38	砕片	黒安	1.7	0.9	0.4	0.5			2016	38	加工	黒真	3.9	2.9	1.0	9.0		119
1957	38	縦長	黒安	2.5	1.5	0.4	1.5			2017	38	剃片	黒真	1.8	1.0	0.3	4.1		
1958	38	石状	黒安	2.5	1.7	0.7	2.9		259	2018	38	ナ形	黒真	5.1	1.2	0.6	3.7		5
1959	38	剃片	黒安	1.7	1.5	0.6	1.5			2019	38	剃片	黒真	1.7	2.2	0.4	2.4		
1960	38	剃片	黒安	2.8	3.6	0.7	6.7		73-5	2020	38	細礫	石英	2.2	1.8	1.1	4.9		

第5章 ま と め

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固	
2021	38	小礫	不明	3.1	1.1	0.5	2.8			2081	39	剥片	黒安	4.2	3.8	0.8	12.7		79-3	
2022	38	小礫	珪灰	1.4	2.8	1.7	6.0			2082	39	剥片	黒安	4.1	3.6	1.7	14.5			
2023	38	石核	黒安	6.7	10.0	5.0	420.7		73-12	2083	39	石核	黒安	9.9	6.9	2.1	155.1		79-5	
2024	38	細粒	黒安	2.4	2.9	0.5	6.5			2084	39	石核	黒安	3.9	2.4	0.4	3.7			
2025	38	剥片	黒安	4.1	4.7	3.7	57.8		77-3	2085	39	剥片	黒安	3.4	5.0	0.3	10.6			
2026	38	剥片	黒安	3.7	4.1	1.5	19.7			2086	39	剥片	黒安	3.2	3.2	1.1	10.0			
2027	38	剥片	黒安	1.8	2.8	1.8	4.9			2087	39	剥片	黒安	1.8	2.8	0.5	2.4			
2028	38	石核	黒安	6.8	6.3	3.8	171.1		76-2	2088	39	砕片	黒安	1.9	1.0	0.3	0.7			
2029	35	細礫	砂	1.2	1.1	0.7	2.4			2089		欠番								
2030	35	剥片	黒安	3.0	3.7	0.9	10.1			2090	39	剥片	黒安	5.1	5.8	2.5	56.9			
2031	35	剥片	黒安	2.6	2.2	0.7	3.0			2091	39	細礫	黒真	1.6	1.1	0.6	1.5			
2032	35	剥片	黒安	1.8	2.9	0.6	5.1			2092	39	砕片	黒安	1.3	0.9	0.2	0.4			
2033	35	小礫	輝緑	6.2	3.9	1.4	62.5			2093	39	砕片	黒安	1.0	0.7	0.1	0.1			
2034	35	剥片	黒安	2.0	2.6	0.3	2.7			2094	39	砕片	黒安	1.1	0.6	0.2	0.2			
2035	35	剥片	黒安	1.6	2.9	0.9	4.1			2095	39	砕片	黒安	1.7	0.8	0.4	0.6			
2036	38	打厚	黒安	4.0	6.0	2.3	52.6	105°	76-1	2096	39	剥片	黒安	2.3	2.6	0.8	4.7			
2037	38	剥片	黒安	2.6	1.3	1.2	3.2			2097	39	砕片	黒安	1.4	1.6	0.2	0.4			
2038	38	剥片	黒安	2.5	1.7	0.8	3.7			2098	39	砕片	黒安	1.5	0.9	0.6	0.7			
2039	38	縦長	黒安	6.8	4.0	0.7	20.7		77-2	2099	39	砕片	黒安	1.9	1.0	0.3	0.5			
2040	38	剥片	黒安	2.3	2.9	0.4	3.0			2100	39	砕片	黒安	2.1	2.2	0.3	1.1			
2041	38	石核	黒安	5.2	4.3	1.3	33.7	96°	75-3	2101	39	剥片	黒安	2.7	2.3	0.9	4.6			
2042	38	石核	黒安	9.8	4.4	2.5	30.1		75-4	2102	39	剥片	黒安	3.1	2.2	1.0	5.0			
2043	39	剥片	黒安	2.2	7.1	1.5	30.7			2103	39	剥片	黒安	2.1	1.3	0.6	1.4			
2044	35	小礫	点頁	2.4	1.5	0.7	4.5			2104	39	剥片	黒安	1.8	1.5	0.5	1.4			
2045		欠番								2105	39	砕片	黒安	1.0	1.8	0.3	0.3			
2046	35	細礫	砂	1.4	1.1	0.7	1.0			2106	39	砕片	黒安	1.1	1.7	0.2	0.5			
2047	35	小礫	不明	1.2	1.7	1.2	4.1			2107	39	剥片	黒安	4.9	4.4	1.0	3.5			
2048	35	十形	波紋	3.2	2.0	0.7	5.8		4	2108	39	剥片	黒安	3.9	3.8	1.0	36.1			
2049	35	小礫	珪灰	4.0	2.9	2.1	18.3			2109	39	剥片	黒安	6.1	5.9	12.5	48.0		78-3	
2050	35	剥片	黒真	4.8	5.0	1.5	43.0			2110	39	剥片	黒安	3.4	2.0	0.8	4.7		79-2	
2051	39	小礫	安	2.3	2.2	0.9	7.7			2111	39	剥片	黒安	2.0	2.9	0.8	3.4			
2052	39	剥片	黒真	4.3	5.7	0.7	14.9			2112	39	小礫	波紋	2.4	1.8	1.0	5.4			
2053	39	剥片	黒安	3.0	1.9	0.5	2.9			2113	39	剥片	黒安	4.4	2.9	0.8	12.1			
2054	39	剥片	黒安	5.1	4.6	3.0	14.5			2114	39	剥片	黒安	2.5	3.1	1.2	7.6			
2055	36	剥片	黒安	7.1	5.4	1.7	63.1			2115	39	剥片	黒安	2.1	1.0	0.4	0.7			
2056	31	縦長	黒安	6.5	4.8	0.9	19.2			2116	39	剥片	黒安	1.1	1.6	0.5	1.3			
2057	39	剥片	黒安	1.6	2.6	0.9	3.5			2117	39	縦長	黒安	2.0	1.0	0.4	1.0			
2058	36	縦長	黒安	4.4	3.6	0.8	19.9		369	2118	39	剥片	黒安	2.9	1.7	2.0	8.1			
2059	36	縦長	珪頁	6.1	4.4	1.4	20.9		108°	397	2119	39	剥片	黒安	2.9	2.2	0.7	3.6		
2060	36	小礫	波紋	2.7	1.8	1.2	7.1			2120	39	剥片	黒安	2.5	1.8	6.5	2.2			
2061	39	剥片	黒安	6.5	5.7	1.9	69.6			2121		欠番								
2062	39	剥片	黒安	0.7	2.5	0.9	2.4			2122	39	剥片	黒安	2.2	1.6	0.6	1.7			
2063	39	剥片	黒安	2.8	1.5	0.9	3.3			2123	39	剥片	黒真	1.9	0.9	0.3	0.8			
2064	39	砕片	黒安	1.6	0.7	0.2	0.3			2124	39	砕片	黒安	2.7	0.8	0.4	0.7			
2065	39	砕片	黒安	1.4	1.3	0.2	0.3			2125	39	剥片	黒安	2.4	1.3	0.6	2.1			
2066	39	砕片	黒安	2.2	1.9	0.8	2.7			2126	39	加工	黒安	3.1	2.1	0.5	3.2			
2067	39	剥片	黒安	2.7	2.3	0.2	1.5			2127	39	砕片	黒安	1.1	1.2	0.4	0.5			
2068	39	石核	黒真	4.3	2.9	1.2	26.0		260	2128	39	縦長	黒安	6.4	3.6	1.0	18.4		398	
2069	39	十形	黒安	2.7	1.4	0.9	2.4		22	2129	39	石核	黒安	6.9	6.6	3.8	199.6		78-7	
2070	39	剥片	黒真	3.2	0.8	0.5	1.5			2130	39	細礫	不明	1.6	1.2	0.7	1.5			
2071	39	剥片	黒安	1.9	1.5	0.2	0.5		79-4	2131	39	剥片	黒安	1.8	2.7	0.7	2.8			
2072	39	砕片	黒安	1.7	1.2	0.1	0.4			2132	39	剥片	黒安	3.2	3.8	0.8	3.3			
2073	39	砕片	黒安	1.6	1.6	0.8	1.8			2133		欠番								
2074	39	剥片	黒安	1.5	1.4	0.8	1.8			2134	39	縦長	珪頁	6.3	4.5	1.4	28.4	96°	403	
2075	39	剥片	黒安	2.6	1.7	1.0	3.6			2135	39	剥片	黒安	2.3	1.8	0.4	1.6			
2076	39	砕片	黒安	1.3	0.9	0.2	0.2			2136	39	縦長	黒安	1.9	1.9	0.6	1.4			
2077	39	砕片	黒安	2.0	1.7	0.6	1.2			2137	39	砕片	黒安	1.6	1.0	0.3	0.3			
2078	39	砕片	黒安	1.4	1.4	0.2	0.4			2138		欠番								
2079		欠番								2139	39	剥片	黒安	6.1	7.3	2.1	80.9		78-1	
2080	39	剥片	黒安	1.7	3.4	0.5	4.0			2140	39	小礫	不明	2.5	1.4	1.1	5.8			

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨因	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨因
2141	39	砕片	黒安	1.8	1.3	0.1	0.4			2201	37	縦長	黒真	5.7	4.5	0.9	27.4	102'	414
2142	39	縦長	黒真	1.3	1.2	0.6	1.4			2202	37	石状	黒真	4.8	2.6	0.6	6.7	109'	273
2143	39	砕片	黒安	1.0	1.5	0.5	0.8			2203	37	石刀	黒真	6.6	2.9	0.9	14.9		193
2144	39	砕片	黒安	1.7	1.3	0.3	1.2			2204	37	加工	黒真	4.6	5.6	0.7	16.7		
2145	39	砕片	黒安	5.5	5.5	1.9	16.7		79-1	2205	37	縦長	黒真	5.0	3.5	0.9	14.0	103'	417
2146	39	砕片	黒安	5.6	4.1	1.2	19.0			2206	37	小礫	不明	2.1	1.7	0.5	5.8		
2147	39	石状	黒安	4.1	3.4	1.1	14.2	100'	78-5	2207	37	縦長	黒真	3.7	1.6	1.1	7.1		
2148		欠番								2208	37	縦長	黒真	2.0	1.9	0.9	2.3		
2149	39	砕片	黒安	1.9	3.1	0.9	3.9		81-1	2209	37	剥片	黒真	4.9	3.6	0.9	16.4		
2150	39	剥片	黒安	3.6	4.5	1.3	13.5		78-6	2210	37	剥片	黒真	2.6	3.6	0.9	4.7		
2151	39	石状	黒真	6.8	3.4	1.2	21.1		80-1	2211	37	小礫	砂	4.2	3.2	1.2	15.1		
2152	39	加工	黒真	5.0	5.4	1.0	23.7			2212	37	剥片	黒真	1.5	1.2	0.5	0.9		
2153	39	砕片	黒安	1.6	1.2	0.4	0.6			2213	37	縦長	黒真	2.5	2.5	0.8	4.1		406
2154	39	剥片	黒安	2.4	1.6	0.2	1.2			2214	37	小礫	安	2.4	1.4	0.9	2.5		
2155	39	剥片	黒安	2.8	3.1	0.9	5.8			2215	37	剥片	黒真	2.7	2.2	0.6	3.2		
2156	39	剥片	黒安	4.7	2.3	1.4	10.5			2216	37	砕片	黒真	1.2	2.1	0.3	0.8		
2157	39	剥片	黒安	4.4	1.6	0.6	3.2		405	2217	40	剥片	黒安	3.0	1.8	0.8	4.1		
2158	39	縦長	黒安	3.0	3.0	0.7	6.3			2218	40	剥片	黒安	2.9	2.2	0.5	4.0		
2159	39	剥片	黒安	1.6	1.6	0.5	1.4			2219	40	砕片	黒安	1.5	1.2	0.5	0.7		
2160	39	剥片	黒安	1.3	1.7	0.5	1.0			2220	40	隕石	不明	11.9	8.4	7.5	188.6		556
2161	39	砕片	黒安	1.8	1.2	0.5	0.8			2221	40	小礫	安	1.1	1.0	0.5	0.8		
2162	39	剥片	黒安	3.5	3.0	0.6	5.8			2222	40	剥片	黒真	1.3	1.6	0.4	0.8		
2163	39	石状	黒真	7.1	4.3	1.4	32.1		80-2	2223	37	剥片	黒真	4.3	5.7	1.5	43.6		
2164	39	剥片	黒真	2.7	3.1	0.5	2.8			2224	37	剥片	黒安	2.7	2.5	0.5	2.9		
2165	39	剥片	黒安	2.2	1.9	0.8	3.0			2225	37	剥片	黒安	3.0	1.5	0.2	1.0		
2166	39	剥片	黒安	7.1	2.4	1.7	22.9			2226	37	縦長	黒真	4.7	2.5	0.7	7.0	109'	407
2167	39	剥片	黒安	7.1	4.7	2.2	66.7		78-2	2227	37	剥片	黒真	3.2	2.2	1.2	5.1		
2168	39	砕片	黒真	1.9	0.8	0.5	0.7			2228	40	剥片	黒安	3.5	4.6	1.8	13.9		
2169	39	剥片	黒安	4.9	2.5	1.6	29.8		81-2	2229	40	加工	黒安	6.4	3.9	1.6	45.9		
2170	39	剥片	黒安	5.4	3.6	1.6	31.8		81-3	2230	40	剥片	黒安	2.2	1.4	0.3	1.2		
2171	39	加工	黒安	4.6	8.1	3.5	131.2			2231	40	縦長	安	1.2	1.2	0.6	1.1		
2172	39	剥片	黒安	1.5	2.3	0.4	1.1			2232	40	縦長	黒真	1.8	1.5	0.6	1.6		
2173	×	縦長	黒安	5.9	2.0	1.0	9.4		404	2233	準IV	剥片	珪頁	2.1	2.0	1.0	3.5		
2174	×	縦長	黒安	3.3	1.7	0.6	3.7			2234		欠番							
2175	×	小礫	黒真	2.0	2.4	0.9	4.4			2235	準IV	小礫	砂	3.3	1.2	1.0	7.5		
2176	×	石状	黒真	8.7	3.5	1.3	30.3	116'	266	2236	40	小礫	安	5.1	4.7	1.5	33.3		
2177		欠番								2237	準IV	小礫	安	3.1	2.7	1.2	9.9		
2178	40	縦長	黒安	5.9	2.6	4.3	11.2		411	2238	準IV	剥片	安	2.8	2.5	1.0	5.9		
2179	40	剥片	黒安	5.5	6.6	1.1	40.7			2239	準IV	小礫	輝安	4.2	2.2	1.3	9.1		
2180		欠番								2240	41	石状	珪頁	4.5	3.0	0.6	11.1	109'	265
2181	40	剥片	黒真	4.3	6.0	1.2	31.6			2241	41	剥片	珪頁	4.7	4.7	0.7	19.0	115'	508
2182	40	剥片	黒安	5.3	4.6	1.8	35.0			2242	41	小礫	安	2.0	2.0	1.1	4.5		
2183	40	砕片	黒安	1.5	1.1	0.2	0.5			2243	41	石刀	黒真	5.5	4.1	1.5	40.1	110'	195
2184	40	剥片	黒安	4.2	3.8	0.6	10.9			2244	41	剥片	黒真	2.5	4.0	0.7	8.6		
2185	40	剥片	黒安	4.3	2.9	0.5	6.1			2245	41	十字形	黒真	14.3	4.6	1.9	29.9		14
2186	40	剥片	黒安	4.7	4.2	1.1	18.3			2246	41	十字形	黒真	7.0	4.4	0.9	67.1	117'	
2187	40	剥片	黒真	8.0	5.3	1.9	67.6			2247	41	石状	黒真	5.7	2.2	0.7	8.1		279
2188	40	石状	黒安	11.2	4.2	2.1	75.3	112'	261	2248	準V	石核	黒安	8.6	8.4	5.4	487.1		101-4
2189	40	剥片	黒安	2.1	2.2	0.4	2.0			2249	準V	石状	黒真	4.7	2.9	1.1	13.3		277
2190	40	剥片	黒安	3.7	3.2	1.3	12.9			2250	29	石刀	黒安	4.1	1.8	0.6	5.9		192
2191	40	剥片	黒安	5.7	2.1	1.5	16.7			2251	38	縦長	黒安	2.8	1.4	0.7	3.1		
2192	40	石状	黒安	3.2	2.5	3.0	2.6		272	2252	38	剥片	黒安	1.9	2.4	0.4	2.2		
2193	40	石状	黒安	4.1	2.6	0.7	6.1		272	2253	38	縦長	黒安	3.3	1.9	0.6	4.3		
2194	37	石状	黒安	12.2	5.3	1.1	96.4	109'	267	2254	38	剥片	黒安	5.9	4.1	0.9	19.9	127'	510
2195	37	縦長	黒真	6.2	1.8	1.1	10.8			2255	38	石状	黒安	3.8	2.3	0.7	6.8		264
2196	37	剥片	黒真	2.8	2.0	0.4	2.4			2256	38	縦長	黒安	4.9	2.5	0.7	9.5		
2197	37	打再	黒真	3.3	9.6	6.0	158.4		42	2257	38	加工	黒安	1.0	2.1	1.2	2.2		
2198		欠番								2258	38	縦長	黒安	3.2	2.1	0.4	3.6		
2199	37	縦長	黒真	1.9	1.4	0.5	1.5		406	2259	38	剥片	黒安	2.5	3.0	0.7	5.7		
2200	37	砕片	黒真	1.2	1.0	0.3	0.7			2260	38	剥片	黒安	1.5	3.5	0.7	1.8		

第5章 ま と め

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固
2261	38	割片	黒安	6.8	5.1	1.2	29.4			2321	23	石状	黒頁	3.8	2.9	1.3	11.7		275
2262	38	縦長	黒安	3.8	1.3	0.5	2.0			2322	23	砕片	黒安	1.4	1.8	0.4	0.9		
2263	38	縦長	黒安	2.2	2.1	0.5	1.9			2323	23	割片	安	1.9	1.1	0.3	0.7		
2264	38	縦長	黒安	2.6	1.4	0.5	2.2			2324	23	石刃	黒頁	13.5	3.1	1.5	61.1	110°	202
2265	38	割片	黒安	4.6	3.5	1.5	16.7			2325	23	割片	黒安	2.6	2.0	0.5	3.2		
2266	38	砕片	黒安	2.0	1.1	0.8	1.0			2326	23	ナ形	黒頁	6.9	1.9	1.2	12.1		8
2267	24	縦長	黒頁	4.5	1.9	0.8	5.1		408	2327	23	割片	頁	1.7	1.3	0.3	0.6		
2268	24	割片	黒安	1.9	3.2	0.6	3.3			2328	23	砕片	黒安	1.5	1.2	0.3	0.5		
2269	24	使用	珪頁	3.9	1.6	0.5	2.9			2329	23	割片	頁	2.5	1.4	0.8	2.8		
2270	24	割片	黒安	1.7	1.5	0.5	1.7			2330	23	割片	頁	2.9	2.5	0.8	6.1		
2271	24	割片	頁	2.3	3.2	0.7	4.0			2331	23	石核	黒頁	8.5	2.1	0.9	13.4	110°	290
2272	24	砕片	黒安	2.1	1.1	0.4	0.7			2332	23	割片	黒安	0.8	1.2	0.5	1.0		
2273	24	割片	安	2.0	1.2	0.9	1.5			2333	23	縦長	黒安	5.2	2.4	0.7	6.4		413
2274	24	割片	黒安	3.1	1.6	0.7	3.1			2334	23	石状	黒安	8.4	3.3	0.6	22.6		49-1
2275	24	石状	黒頁	4.0	3.7	1.6	28.1	115°	278	2335	22	敲石	溶融	9.8	7.6	4.6	407.5		559
2276	24	縦長	黒安	7.5	2.2	1.0	11.2		409	2336	22	割片	黒安	2.6	3.4	1.3	10.8		
2277	24	割片	黒安	1.6	1.4	0.5	0.9			2337	22	敲石	黒頁	5.9	6.4	3.1	156.8		560
2278	24	石刃	黒頁	9.7	3.9	1.0	30.5	110°	197	2338	22	縦長	黒安	7.3	4.1	1.5	61.4		46-2
2279	24	石刃	黒頁	13.7	4.9	1.6	106.2	110°	216	2339	22	敲石	砂	6.6	5.3	3.3	155.2		551
2280	24	石状	珪頁	6.9	3.5	1.5	33.3	100°	284	2340	22	小礫	安	3.2	1.8	1.1	7.7		
2281	24	石刃	黒頁	7.5	3.4	0.8	20.3		196	2341	22	割片	黒安	4.4	5.0	0.7	20.4		45-9
2282	24	割片	黒安	2.9	2.4	0.9	6.5			2342	22	小礫	珪頁	4.1	2.1	1.9	13.5		
2283	24	石状	黒安	3.5	3.3	0.8	7.9		282	2343	22	加工	黒安	4.4	3.6	1.3	21.7		120
2284	24	縦長	黒安	9.6	6.1	1.9	97.3	114°	410	2344	22	石状	黒安	2.7	2.2	0.5	3.5		269
2285	24	石状	黒頁	4.3	3.1	1.3	16.6	111°	274	2345	22	石状	黒安	7.4	4.6	17.3	44.0	116°	281
2286	24	割片	黒安	3.2	1.9	1.0	1.2			2346		欠番							
2287	24	割片	黒安	2.4	4.2	0.6	5.8			2347	22	小礫	砂	3.7	3.8	2.1	42.0		
2288	24	割片	黒安	2.4	3.0	1.4	9.6			2348	22	割片	黒安	2.7	2.3	0.7	3.3		
2289	24	石状	黒頁	6.3	3.0	1.1	19.7		54-2	2349	22	石状	黒頁	6.5	2.0	1.0	11.0		289
2290	24	石刃	黒頁	7.7	2.2	0.9	15.2		54-1	2350	22	割片	黒安	2.7	1.5	0.9	4.2		45-5
2291	24	割片	黒安	3.3	6.1	1.5	26.6			2351	22	砕片	黒安	2.2	2.4	0.2	0.7		
2292	23	石刃	黒頁	9.1	3.1	1.1	27.6	110°	199	2352	22	加工	黒安	3.2	2.6	1.0	9.2		
2293	23	石状	黒頁	2.6	2.0	0.6	4.3			2353	22	石状	黒安	2.1	2.8	1.1	7.2		286
2294	23	割片	黒安	2.3	1.5	0.3	1.3			2354	22	割片	黒安	2.4	2.7	0.7	3.4		
2295	23	割片	黒安	4.1	6.1	1.1	22.6			2355	22	石状	黒安	1.5	2.3	0.4	1.8		
2296	23	石状	黒頁	7.2	3.6	1.4	31.5		275	2356	22	割片	黒安	2.3	2.1	0.9	4.8		
2297	23	割片	黒頁	1.1	1.2	0.4	0.6			2357	22	割片	黒安	1.3	1.1	0.4	0.7		
2298	23	ナ形	黒頁	5.5	1.4	0.8	5.9		10	2358	22	石核	黒安	5.0	2.7	2.1	26.6		43-2
2299	23	割片	黒安	5.6	5.9	1.2	52.4			2359	22	割片	黒安	1.2	1.9	0.3	0.6		
2300	23	割片	黒安	6.6	9.7	3.5	146.3			2360	22	割片	黒安	4.9	2.8	2.6	25.2		45-2
2301	23	石状	黒安	7.7	3.0	1.2	19.0		288	2361	22	縦長	黒安	4.8	2.8	0.9	10.7		412
2302	23	割片	黒安	3.5	4.3	0.3	18.0			2362	22	割片	黒安	7.0	9.1	2.4	151.9		45-1
2303	25	加工	黒安	4.5	6.1	1.7	35.9			2363	22	加工	黒安	6.3	7.8	4.0	182.6		45-6
2304	24	割片	黒頁	1.7	1.8	0.5	1.5			2364	22	割片	黒安	9.2	6.0	6.3	268.2		45-3
2305	23	小礫	黒頁	4.7	2.5	1.6	20.2			2365		欠番							
2306	23	加工	黒安	5.6	3.7	0.9	19.8			2366	22	割片	黒安	11.3	6.8	3.6	265.7		43-1
2307	23	小礫	溶融	2.1	1.9	1.4	4.8			2367	22	石核	黒安	8.2	4.1	3.1	88.1		46-1
2308	23	割片	黒安	3.2	2.1	0.7	4.0			2368	22	割片	黒安	2.3	4.3	1.8	15.6	105°	45-8
2309	23	石状	黒頁	4.5	3.3	0.9	9.8		285	2369	22	割片	珪頁	3.4	2.4	0.7	7.5		
2310	23	砕片	赤珪	1.8	0.7	0.5	0.7			2370	21	割片	砂	3.2	2.5	0.8	6.7		
2311	23	割片	黒安	2.2	1.7	0.6	1.9			2371	21	割片	黒頁	9.1	16.9	2.7	405.7		
2312	23	縦長	黒安	4.0	3.2	1.0	15.2	105°	418	2372		欠番							
2313	23	割片	珪頁	3.4	3.0	0.5	4.9	117°	506	2373	25	割片	黒安	3.9	3.7	1.5	19.0		
2314	23	割片	黒安	4.8	1.8	1.3	9.7			2374	25	割片	黒頁	5.1	3.4	1.0	15.4		109-2
2315	23	彫彫	黒安	4.8	4.8	2.0	35.0		32	2375	25	石状	黒頁	11.5	5.1	1.9	87.7		
2316	23	石刃	黒頁	10.9	3.1	1.1	46.8	111°	200	2376	25	石刃	黒頁	10.0	3.5	1.3	38.2	100°	204
2317	23	石刃	黒頁	13.5	2.8	1.3	45.9	119°	201	2377	25	石状	黒頁	4.2	4.9	0.8	21.1	115°	280
2318	23	割片	黒安	2.8	2.5	1.1	6.2			2378	25	石状	黒頁	4.0	1.5	0.6	4.5		270
2319	23	編織	砂	2.0	1.6	0.8	3.7			2379	25	割片	黒頁	2.1	1.4	0.5	1.4		
2320	23	割片	黒安	4.3	3.1	0.6	6.9		47-2	2380	23	割片	黒安	3.6	2.7	0.5	5.3		

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神国	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神国
2381	23	加工	黒安	4.6	3.3	1.6	19.4			2441	23	石状	黒真	6.2	2.4	0.9	11.2		297
2382	23	剥片	黒安	1.9	0.9	0.2	0.6			2442		欠番							
2383	23	砕片	黒安	1.7	1.0	0.6	1.0			2443	23	剥片	黒安	5.7	2.6	0.8	9.1		50-2
2384		欠番								2444	23	剥片	黒安	4.3	6.6	1.9	37.7		
2385	23	剥片	黒安	2.7	2.9	0.6	4.8			2445	23	縦長	黒安	6.2	2.0	1.5	15.1		
2386	23	剥片	黒安	1.9	3.1	0.7	3.6			2446	23	縦長	黒安	2.8	1.2	0.4	1.9		
2387	23	剥片	珪頁	1.1	1.8	0.3	0.7			2447	23	縦長	黒安	8.2	2.4	1.2	13.4		50-3
2388	23	剥片	黒真	1.7	1.2	0.4	1.8			2448	23	礫	不明	5.4	4.0	2.5	37.2		
2389	23	縦長	黒真	3.4	2.1	0.7	3.4		423	2449	23	剥片	黒安	6.6	5.3	1.3	36.9		
2390	23	剥片	黒安	1.4	1.2	0.5	0.9			2450	23	砕片	黒安	1.4	1.1	0.6	0.7		
2391	23	剥片	黒安	2.5	2.5	0.4	2.3			2451	23	剥片	黒安	1.5	2.0	0.4	1.3		
2392	23	剥片	黒真	2.2	1.2	0.6	1.6			2452	23	剥片	黒安	3.4	1.9	0.6	3.3		
2393	23	細礫	不明	1.4	1.0	0.4	0.9			2453	23	ナ形	黒真	3.1	3.1	0.9	11.0	120'	11
2394	23	砕片	黒安	1.3	1.0	0.4	0.4			2454	23	砕片	黒安	1.3	1.7	0.3	0.8		
2395	23	剥片	黒安	1.1	1.4	0.5	0.6			2455	23	砕片	黒安	1.9	1.2	0.5	1.3		
2396	23	剥片	黒安	2.9	1.2	1.1	2.8			2456	23	剥片	黒安	3.7	2.5	0.7	5.9		
2397	23	石刃	黒真	4.1	3.2	8.0	12.1		198	2457	23	石核	黒安	6.7	5.8	2.5	89.3		81
2398	23	剥片	黒安	2.1	1.2	0.5	0.8			2458	23	加工	黒安	3.2	3.2	0.8	8.7		123
2399	23	剥片	黒安	5.0	2.9	0.7	11.5			2459	23	剥片	黒安	2.6	1.5	0.8	2.4		
2400	23	砕片	黒真	1.1	0.9	0.6	0.7			2460	23	剥片	黒安	7.2	7.3	2.3	109.6		47-4
2401	23	加工	黒真	2.8	2.7	0.7	5.8		121	2461	23	石状	黒安	5.9	2.1	1.2	14.8		299
2402	23	剥片	黒真	4.2	3.1	0.8	10.7			2462	23	剥片	黒安	2.8	2.7	1.0	3.6		
2403	23	剥片	黒安	1.8	2.1	1.8	3.1			2463	23	剥片	黒安	4.1	2.7	0.4	5.7		
2404	23	砕片	黒安	1.1	1.7	0.3	0.6			2464	23	石状	黒安	5.3	5.0	1.9	56.9		121'
2405	23	剥片	黒真	5.0	3.4	0.1	14.7			2465	23	剥片	黒安	4.7	4.0	1.0	18.0		292
2406		欠番								2466	23	剥片	黒安	2.0	1.7	0.6	1.7		
2407	23	ナ形	黒真	4.7	1.6	0.6	5.7		17	2467	23	砕片	黒安	2.0	0.9	0.4	0.7		
2408	23	石状	黒真	3.0	2.6	9.5	7.0	103'	287	2468	23	縦長	黒安	6.9	2.4	1.2	16.6		
2409	23	剥片	黒安	1.4	1.6	0.7	1.7			2469	23	剥片	黒安	3.2	2.6	0.5	4.6		
2410	23	剥片	黒安	2.2	3.7	1.4	9.9			2470	23	剥片	黒安	2.9	4.9	1.2	9.0		
2411	23	砕片	黒安	1.1	0.9	0.2	0.2			2471	23	剥片	黒安	2.0	3.0	0.6	1.9		47-3
2412	23	砕片	黒安	1.9	0.8	0.4	0.6			2472	23	縦長	黒安	4.4	2.2	0.8	8.3		
2413	23	石状	黒真	5.6	2.6	1.6	23.9		291	2473	23	砕片	黒安	2.1	1.0	0.6	1.2		420
2414	23	剥片	黒安	3.6	4.2	1.0	17.6			2474	23	剥片	黒安	4.9	3.0	1.2	9.7		
2415	23	剥片	黒安	1.8	1.9	0.8	1.7			2475	23	剥片	黒真	2.9	1.9	0.5	3.0		
2416	23	剥片	黒安	2.6	4.3	1.0	12.2			2476	23	剥片	珪頁	3.0	2.1	1.8	8.1		
2417	23	剥片	黒安	2.9	3.5	1.0	10.1			2477	23	砕片	珪頁	1.2	1.0	0.6	0.5		
2418	23	剥片	黒安	1.4	1.5	0.7	2.3			2478	23	砕片	黒安	1.7	1.1	0.4	0.7		
2419		欠番								2479	23	小礫	珪頁	1.2	1.1	1.1	2.8		
2420	23	剥片	黒安	2.1	1.9	0.7	2.1			2480	23	剥片	黒安	2.3	2.0	0.9	2.8		
2421	23	剥片	黒安	3.5	4.4	1.6	20.9			2481	23	剥片	黒安	1.7	3.2	0.5	1.9		
2422	23	石状	黒安	2.6	2.2	1.0	5.9		50-4	2482	23	砕片	黒安	6.7	1.0	0.5	0.6		
2423		欠番								2483	23	小礫	砂	6.9	4.0	2.2	56.5		
2424	23	剥片	黒安	1.8	1.7	1.0	3.0			2484	23	小礫	珪頁	2.4	1.2	0.9	2.5		
2425	23	剥片	黒真	3.0	2.0	1.0	4.2			2485	23	剥片	黒安	5.7	6.1	1.1	34.9		
2426	23	剥片	黒安	1.2	2.0	0.6	1.3			2486	23	礫	流紋	11.3	10.0	3.2	22.5		
2427	23	剥片	黒安	4.6	2.4	1.6	10.3			2487	23	使用	黒安	12.0	5.1	1.0	88.9		49-2
2428	23	加工	黒安	5.0	5.4	1.8	40.9		115'	2488		欠番							
2429	23	磨石	輝安	5.7	5.8	3.7	176.1		552	2489	22	剥片	黒安	2.5	1.6	0.7	3.4		
2430	23	剥片	黒安	2.1	2.4	0.3	1.5			2490	22	小礫	砂	2.0	1.8	1.0	5.0		
2431	23	石状	黒真	5.2	1.7	0.6	5.8		296	2491	22	剥片	黒安	2.5	3.7	0.5	4.1		
2432	23	剥片	黒真	4.4	3.1	0.8	8.5			2492	22	剥片	黒安	2.2	1.6	0.4	1.6		
2433	23	砕片	黒安	2.2	1.1	0.6	1.3			2493	22	剥片	黒安	2.6	2.0	0.4	2.3		
2434	23	石刃	黒真	3.9	2.0	0.7	7.0		208	2494	22	剥片	黒安	1.7	1.5	0.3	0.7		
2435	23	小礫	不明	1.5	1.9	0.8	2.9			2495	22	剥片	黒安	3.4	2.6	1.2	9.9		
2436	23	剥片	黒安	3.7	2.1	0.8	4.4			2496	22	石核	黒安	5.6	4.7	2.6	63.2		90
2437	23	石刃	黒真	11.5	3.4	1.1	39.1		112'	2497	22	剥片	黒安	4.0	5.4	1.1	19.5		
2438	23	剥片	黒安	2.2	1.8	0.4	1.7			2498	22	礫	石閃	12.7	6.2	3.5	363.0		
2439	23	剥片	黒安	3.2	1.5	1.0	4.3			2499	22	剥片	黒安	2.2	2.7	0.5	2.3		
2440	23	剥片	黒安	3.4	3.6	0.9	11.2			2500	22	剥片	珪頁	3.7	1.6	0.5	2.5		

第5章 ま と め

番号	ア	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神岡	番号	ア	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神岡
2501	22	剥片	黒安	5.4	2.6	0.9	12.1		45-7	2561	23	剥片	黒頁	1.9	1.6	0.5	2.2		
2502	22	縦長	黒安	3.1	2.9	1.2	10.3		421	2562	23	剥片	黒安	3.2	1.9	0.5	2.6		
2503	22	石状	黒安	5.0	2.8	1.6	15.2		46-3	2563	23	砕片	黒安	1.8	1.2	0.5	0.9		
2504	22	使用	黒頁	5.4	5.5	1.1	44.1	122'	158	2564	23	剥片	黒安	2.1	4.3	0.7	4.2		
2505	22	砕片	黒安	2.1	1.3	0.3	0.8			2565	23	十形	黒頁	5.7	1.8	1.0	9.5		23
2506	22	剥片	黒安	1.6	1.9	0.4	1.0			2566	23	砕片	黒安	1.6	1.0	0.4	0.5		
2507	22	剥片	黒安	2.4	4.5	0.8	13.2			2567	23	砕片	黒安	2.0	1.9	0.6	1.0		
2508	22	十形	黒安	3.2	3.6	0.8	10.4		6	2568	23	砕片	黒安	1.5	1.0	0.3	0.4		
2509	22	砕片	黒安	1.9	1.5	0.5	1.1			2569	23	砕片	黒安	2.8	1.6	0.3	0.3		
2510	22	剥片	黒安	3.1	3.3	1.6	10.1			2570	23	剥片	黒安	1.8	1.7	0.9	3.1		
2511	22	石状	黒安	4.2	2.7	0.7	5.9		298	2571	23	石状	黒頁	3.8	3.0	1.5	18.8		291
2512	22	砕片	黒安	1.8	1.2	0.4	0.7			2572	23	剥片	黒安	3.8	3.1	1.6	8.1		
2513	22	石状	黒安	3.7	2.6	0.7	9.0		284	2573	23	砕片	黒安	1.9	0.9	0.2	0.9		
2514	22	剥片	黒安	2.3	2.9	8.1	6.0			2574	23	剥片	黒安	2.8	3.1	0.5	3.2		
2515	22	石状	黒安	5.8	2.6	1.3	13.5		298	2575	23	剥片	黒安	3.0	3.9	2.9	19.5		
2516	22	使用	黒曜	5.7	2.9	1.8	23.4			2576	23	剥片	黒安	2.5	2.1	0.8	3.1		
2517	22	剥片	黒安	10.8	4.7	1.8	35.1		45-4	2577	23	剥片	黒安	3.8	3.0	3.1	78.8		
2518	22	細礫	点頁	1.7	1.1	0.4	0.6			2578	23	縦長	黒安	2.4	2.4	0.8	4.0		
2519	22	砕片	黒安	1.1	1.1	0.4	0.5			2579	23	加工	黒安	2.7	2.3	0.3	3.9		125
2520	22	石状	黒安	8.9	7.0	4.2	264.0		45-10	2580	23	石状	黒頁	8.8	2.3	1.1	22.2		302
2521	22	小礫	砂	4.7	3.7	2.2	37.5			2581	23	剥片	珪頁	3.7	4.3	1.4	5.4		
2522	21	小礫	黒頁	1.6	1.7	0.8	2.8			2582	23	剥片	黒安	4.9	5.9	2.3	59.3		
2523	21	細礫	珪頁	1.2	1.3	0.3	0.7			2583	23	使用	黒安	3.5	5.1	1.6	26.0		166
2524	21	小礫	溶融	2.0	1.5	1.0	3.6			2584	23	礫	字礫	6.8	5.3	1.6	53.9		
2525		欠番								2585	23	十形	黒頁	7.3	3.1	1.4	36.4		28
2526	21	小礫	黒頁	5.0	3.4	1.6	24.4			2586	23	剥片	珪頁	3.0	1.5	0.7	2.9		
2527	21	細礫	黒頁	1.8	0.7	0.6	0.9			2587	23	剥片	黒安	1.8	1.7	0.5	1.4		
2528	21	細礫	黒頁	2.0	1.5	0.4	1.6			2588	23	剥片	黒安	2.8	1.3	0.4	1.5		
2529	21	細礫	不明	1.7	1.2	0.7	1.3			2589	23	縦石	花崗	11.7	10.2	5.5	754.4		
2530	21	剥片	石英	2.5	1.5	0.7	3.5		108'	2590	23	細礫	黒頁	1.9	0.9	0.7	0.8		
2531	21	砕片	黒安	1.3	2.3	0.4	0.9			2591	23	剥片	黒安	2.0	1.5	0.4	1.3		
2532	25	剥片	黒安	1.2	1.8	0.6	1.3			2592	23	石状	黒安	6.4	4.7	1.4	47.7		
2533	25	剥片	黒安	2.2	1.5	0.2	0.9			2593	23	剥片	黒安	3.0	6.8	1.5	26.3		
2534	25	剥片	黒安	5.0	5.5	0.3	24.0		509	2594	23	剥片	黒安	2.3	1.9	0.6	2.3		
2535	25	剥片	黒頁	3.4	4.3	0.6	6.1			2595	23	剥片	黒安	2.5	1.5	0.7	1.4		
2536	23	剥片	黒頁	3.1	2.0	0.8	4.4			2596	23	縦長	黒安	3.8	1.8	0.9	6.0		
2537	23	剥片	黒頁	2.0	1.8	0.7	2.3			2597	23	細礫	黒頁	1.6	1.2	0.7	1.6		
2538	23	礫	石斑	15.7	9.9	3.4	639.3		574	2598	23	石状	黒頁	8.0	3.0	1.3	22.0	110'	304
2539	23	剥片	黒頁	6.4	3.9	1.5	48.7			2599	23	細礫	黒頁	1.3	1.0	0.4	0.5		
2540	23	加工	珪頁	2.6	1.9	0.4	1.9		126	2600	23	石状	黒頁	6.9	2.8	1.5	21.2		330
2541	23	砕片	黒安	2.3	1.3	0.5	0.9			2601		欠番							
2542	23	使用	黒安	4.4	3.9	1.1	14.4		166	2602	23	石状	黒安	3.4	2.1	0.6	3.7		296
2543	23	剥片	黒安	6.3	4.2	2.3	52.5			2603	23	剥片	黒安	6.6	11.0	2.6	120.2		
2544		欠番								2604	23	石状	黒安	2.6	2.1	0.4	2.7		296
2545	23	剥片	黒安	3.2	1.4	0.7	2.1			2605	23	剥片	黒安	2.5	3.9	1.0	10.5		
2546	23	小礫	溶融	3.9	2.1	1.0	8.7			2606	23	石刀	黒頁	10.0	3.3	1.5	46.7	116'	205
2547	23	砕片	珪頁	1.4	2.1	0.4	1.0			2607	23	剥片	黒安	2.6	2.6	0.6	4.7		
2548	23	使用	黒安	4.2	4.8	0.9	14.7		107' 159	2608		欠番							
2549	23	剥片	黒頁	4.4	3.0	1.1	15.7			2609	23	砕片	黒安	2.1	0.9	0.2	0.4		
2550	23	剥片	黒安	1.7	1.3	0.3	0.7			2610	23	剥片	黒安	2.3	1.1	0.5	1.4		
2551	23	剥片	黒安	2.7	1.7	0.4	1.9			2611	23	剥片	黒安	2.1	2.9	0.9	5.1		
2552	23	剥片	黒安	2.9	2.3	0.6	3.4			2612	23	使用	黒安	6.2	6.1	1.0	29.3	95'	48-2
2553	23	剥片	黒安	2.6	1.5	1.1	2.6			2613	23	石刀	黒頁	7.9	2.7	1.5	25.8	105'	207
2554	23	剥片	珪頁	3.5	1.9	1.6	2.1			2614	23	剥片	黒安	1.8	2.6	0.7	3.2		
2555	23	剥片	黒安	1.7	3.4	1.6	7.4			2615	23	石核	黒安	7.8	5.2	1.9	72.8	118'	53-2
2556		欠番								2616	23	縦長	黒安	7.5	4.7	1.2	42.7	122'	415
2557	23	剥片	黒安	2.2	3.0	0.7	5.8			2617	23	剥片	黒安	2.6	1.3	0.5	1.3		
2558	23	剥片	珪頁	2.7	1.7	0.6	2.6			2618	23	小礫	流紋	2.8	2.0	1.4	9.1		
2559	23	剥片	黒安	1.8	1.3	0.5	1.1			2619	23	剥片	黒安	3.3	1.5	0.9	1.8		
2560	23	剥片	黒安	5.6	4.4	1.2	27.8			2620	23	剥片	黒安	1.6	3.2	1.0	2.5		

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押図	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押図
2621	23	砕片	黒安	1.3	1.1	0.3	0.5			2681	20	石状	黒頁	5.2	2.6	0.7	13.4	108'	293
2622	23	小礫	珪燧	3.5	3.6	2.2	34.1			2682	20	砕片	黒安	1.1	1.0	0.2	0.3		
2623	23	砕片	黒安	4.5	3.8	1.3	13.8			2683	20	砕片	黒安	1.8	3.3	0.5	7.0		
2624	23	砕片	黒安	2.4	3.4	0.9	5.8			2684	20	細礫	黒頁	1.0	0.8	0.6	0.4		
2625	23	礫	浴磁	5.6	6.8	3.8	151.2			2685	20	小礫	黒頁	2.3	2.2	0.9	3.0		
2626	23	砕片	黒安	2.5	2.4	0.6	3.1			2686	20	細礫	黒頁	1.7	1.0	0.6	1.2		
2627	23	細礫	珪燧	1.9	1.2	0.5	1.3			2687	20	砕片	黒安	3.0	3.4	1.0	13.7		
2628	23	砕片	黒安	2.7	1.7	0.9	2.9			2688	20	加工	黒安	3.2	4.7	0.5	12.8		124
2629	23	細礫	波紋	1.7	1.1	1.0	2.4			2689	20	砕片	黒安	3.6	3.0	1.8	17.7		
2630	23	石状	黒頁	7.5	2.5	0.9	14.9	115'	301	2690	20	砕片	黒安	2.3	1.8	0.3	1.4		
2631	23	砕片	黒安	3.1	4.9	1.0	13.8			2691	20	石刃	黒頁	8.9	2.9	1.5	27.4	113'	210
2632	23	細礫	黒頁	1.4	1.3	0.5	0.9			2692	20	石状	珪頁	8.0	3.3	1.2	27.7	102'	303
2633	23	縦長	黒安	6.7	3.8	1.5	26.5	134'	50-1	2693	20	砕片	黒安	1.3	0.7	0.3	0.3		
2634	23	砕片	黒安	2.6	2.8	0.6	4.0			2694	20	砕片	黒安	3.2	2.4	0.6	3.5		
2635	23	砕片	黒安	3.3	2.0	1.4	6.2			2695	20	砕片	黒安	6.1	5.2	2.5	87.0		
2636	23	砕片	黒安	7.3	5.7	2.1	79.4	135'	48-1	2696	20	砕片	黒安	2.2	1.1	0.7	1.6		
2637	23	石刃	黒頁	12.3	4.1	1.5	66.8		206	2697	20	砕片	黒安	2.4	2.4	0.6	2.3		
2638		欠番								2698		欠番							
2639		欠番								2699	20	砕片	黒安	2.6	2.0	1.2	4.5		
2640		欠番								2700	20	砕片	黒安	1.3	1.0	0.2	0.4		
2641		欠番								2701	20	砕片	黒安	2.7	1.6	0.9	2.7		
2642	23	砕片	黒安	4.2	2.6	1.8	18.8			2702	20	砕片	黒安	7.0	7.0	2.6	6.3		43-3
2643	23	細礫	黒頁	1.9	1.1	0.5	1.6			2703	20	小礫	不明	2.9	2.4	1.8	13.8		
2644	23	小礫	黒頁	3.5	2.9	1.2	12.2			2704	20	砕片	黒安	3.0	3.4	0.9	9.5		
2645	23	砕片	黒安	3.0	2.1	0.9	5.3		52-1	2705	20	砕片	黒安	2.5	1.9	1.5	5.0		
2646	23	砕片	輝緑	2.0	0.9	0.5	0.8			2706	20	砕片	黒安	3.1	1.9	0.8	3.0		
2647	22	小礫	黒頁	2.9	1.5	0.8	4.7			2707	20	砕片	黒安	5.9	2.2	1.8	20.8		
2648	21	細礫	黒頁	2.0	1.2	0.7	2.6			2708	20	砕片	黒安	2.4	1.9	0.3	1.6		
2649	21	小礫	不明	3.2	2.3	1.3	11.5			2709	20	小礫	黒頁	2.6	1.9	0.9	6.0		
2650	21	細礫	不明	1.8	1.4	1.0	2.9			2710	20	縦長	珪頁	4.5	2.7	0.5	3.6	104'	422
2651	21	小礫	黒頁	3.5	3.1	2.2	26.5			2711	20	砕片	黒安	1.9	1.3	0.4	1.0		
2652	21	細礫	黒頁	1.5	1.5	0.6	1.6			2712	20	縦長	黒安	5.9	2.6	1.6	25.3		
2653	21	細礫	砂	2.5	1.4	1.2	3.8			2713	20	砕片	黒安	3.6	5.9	0.5	33.0		44-2
2654	21	細礫	黒頁	2.1	0.7	0.7	1.2			2714	20	砕片	黒安	3.1	4.5	1.0	17.1		
2655	20	礫	点頁	7.9	5.8	4.0	223.0			2715	20	砕片	黒安	3.0	5.4	1.2	15.2		
2656	20	砕片	黒安	2.6	1.3	0.7	2.0			2716	20	砕片	黒安	3.2	4.2	0.6	16.8		44-1
2657	20	砕片	黒頁	4.5	3.4	2.3	25.8			2717	20	砕片	黒安	4.2	2.0	1.9	13.2		
2658	20	砕片	頁	1.9	1.6	0.9	2.7			2718	20	砕片	黒安	3.4	4.5	1.6	17.6		
2659	20	小礫	珪燧	3.5	2.8	1.9	15.4			2719	20	石刃	黒頁	9.0	2.7	1.3	25.7	113'	211
2660	20	砕片	黒頁	5.9	3.3	1.5	19.6			2720	20	砕片	黒安	5.9	6.9	5.5	105.0		
2661	20	細礫	黒頁	1.6	1.5	0.6	1.5			2721	20	砕片	黒安	1.8	1.1	0.4	1.1		
2662	20	小礫	黒頁	5.7	4.1	1.6	38.2			2722	20	砕片	黒安	1.5	2.9	0.3	1.0		
2663	20	石状	黒頁	9.3	4.9	10.1	32.2	124'	100-1	2723	20	砕片	黒安	6.7	4.2	3.0	78.2		
2664	20	砕片	黒安	1.4	0.4	0.2	0.4			2724	20	縦長	黒頁	6.9	4.0	0.9	18.3		419
2665	20	砕片	黒頁	2.2	1.7	0.5	1.9			2725	20	石状	黒頁	6.6	4.4	1.0	18.0		317
2666	20	砕片	黒安	3.7	4.6	1.5	23.4			2726		欠番							
2667	20	砕片	砂	2.4	2.2	0.7	4.7			2727	23	砕片	黒安	3.1	3.0	0.8	7.5		
2668	20	砕片	黒安	2.8	1.2	0.6	3.1			2728	23	砕片	黒安	2.9	3.0	0.6	6.6		
2669	20	砕片	黒安	2.8	3.3	1.4	13.8			2729	23	砕片	黒安	3.9	5.2	1.2	32.0		
2670		欠番								2730	23	砕片	黒頁	3.7	3.3	0.9	8.7	113'	507
2671	20	砕片	黒安	2.5	1.9	0.6	2.8			2731	23	砕片	黒安	3.4	3.3	0.7	7.1		
2672	20	砕片	黒安	3.0	2.8	0.3	2.8			2732	23	使用	珪頁	4.0	3.1	1.0	15.5	113'	162
2673	20	砕片	黒安	0.8	1.9	0.2	0.3			2733	23	砕片	黒安	2.9	1.8	1.3	17.4		
2674	20	石状	黒安	8.5	5.9	2.8	107.1			2734	23	砕片	黒安	3.1	4.4	1.7	17.4		
2675	20	細礫	黒頁	1.8	1.7	0.8	3.3			2735	23	砕片	黒安	4.8	2.8	1.0	11.6		
2676	20	砕片	黒安	4.4	2.3	1.3	8.7			2736	23	砕片	珪燧	3.9	2.2	1.5	11.2		
2677	20	砕片	黒安	2.0	2.2	1.0	3.1			2737	23	砕片	黒安	2.6	2.9	0.5	4.1		
2678	20	砕片	黒頁	4.0	2.2	0.9	4.8			2738	23	砕片	黒安	2.6	2.4	0.5	7.5		
2679	20	砕片	黒安	5.7	4.6	1.9	27.9			2739	23	小礫	安頁	2.2	3.6	1.1	9.0		
2680	20	小礫	黒頁	5.2	2.9	1.4	23.0			2740	23	小礫	黒頁	3.1	2.8	1.6	18.5		

第5章 ま と め

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固
2741	23	剥片	黒安	3.7	2.7	0.6	5.7			2801	20	砕片	黒安	2.4	1.4	0.3	0.8		
2742	23	小礫	黒頁	4.8	3.0	2.1	35.8			2802		欠番							
2743	23	剥片	黒安	3.9	4.7	1.9	33.2			2803	20	砕片	黒安	2.2	1.1	0.2	0.6		
2744	23	剥片	黒頁	2.7	2.6	0.6	5.8			2804	20	小礫	流紋	5.4	3.8	2.0	44.4		
2745	23	剥片	黒安	2.5	4.3	0.6	6.5			2805	20	石状	黒頁	7.8	3.1	0.7	21.2	113'	308
2746	23	剥片	黒安	5.4	7.5	1.1	48.4			2806	20	剥片	黒安	1.8	1.3	1.1	2.3		
2747	23	石状	黒頁	6.6	2.0	0.6	9.4		309	2807	20	石状	黒頁	6.5	2.2	1.1	14.9	108'	310
2748	23	小礫	珪変	4.1	2.5	1.8	15.1			2808	20	剥片	黒安	2.9	2.0	0.4	1.6		
2749	23	細礫	点頁	2.2	1.8	0.6	2.7			2809	20	剥片	黒安	2.2	1.7	0.3	1.2		
2750		欠番								2810	20	剥片	黒安	4.2	3.2	1.9	9.9		
2751	23	縦長	黒安	11.3	4.7	2.0	58.7		416	2811	20	剥片	黒安	1.3	3.0	0.8	2.6		
2752	23	剥片	黒安	2.8	4.3	1.1	11.0			2812	20	剥片	黒安	4.0	2.6	1.4	11.9		
2753	23	剥片	黒安	2.7	1.1	0.6	1.2			2813	20	剥片	黒安	2.3	1.6	0.8	3.3		
2754	23	石核	黒安	10.9	7.0	4.9	332.9		52-3	2814		欠番							
2755	23	台石	珪	24.4	17.5	7.5	450.0		568	2815	20	剥片	黒安	3.2	2.0	0.7	3.5		
2756	23	剥片	黒安	2.2	1.4	0.5	1.7			2816	20	剥片	黒安	3.4	2.9	0.5	5.1		
2757	23	剥片	黒安	2.7	2.2	1.0	4.9			2817	20	縦長	黒頁	5.4	4.2	1.4	25.0		424
2758	23	剥片	黒安	4.2	2.6	1.6	13.3			2818	20	剥片	黒安	2.9	3.0	0.4	4.1		
2759	23	砕片	黒安	1.4	1.6	0.3	0.9			2819	20	剥片	黒安	3.0	2.1	0.5	3.0		
2760	23	剥片	黒安	2.3	1.9	0.3	1.9		51-2	2820	20	剥片	黒安	2.2	1.2	0.5	19.3		
2761	23	石状	黒安	9.8	4.7	2.0	84.4		119'	2821	20	剥片	黒安	1.7	2.2	1.0	2.5		
2762		欠番								2822	23	剥片	黒安	3.8	3.4	1.0	11.9		
2763	23	剥片	黒安	2.6	2.0	0.6	3.3			2823	23	小礫	不明	5.4	3.1	0.7	16.0		
2764	23	剥片	黒安	2.7	1.0	0.9	2.3			2824	23	石状	黒頁	7.6	3.0	1.5	30.8		316
2765	23	細礫	黒頁	2.4	1.5	0.8	3.9			2825	23	細礫	黒頁	2.2	1.0	0.5	1.9		
2766	23	細礫	安安	1.6	1.1	0.7	1.5			2826	23	加工	黒安	5.1	4.1	2.0	38.3		
2767	23	剥片	黒安	4.2	3.7	0.8	3.9		118'	2827	23	石刃	黒安	3.6	1.2	0.6	1.9		209
2768	23	小礫	黒頁	3.0	1.0	1.4	6.4			2828	19	剥片	黒安	5.4	4.4	1.6	29.0		
2769	23	剥片	黒安	4.0	3.3	1.9	20.6			2829	19	剥片	黒安	1.6	3.3	0.4	2.1		
2770	23	剥片	黒安	2.7	0.9	0.3	6.6			2830	19	剥片	黒安	1.9	1.8	0.8	2.3		
2771	23	剥片	黒安	2.3	3.2	0.7	17.4			2831	19	剥片	黒安	4.2	3.0	2.1	17.8		
2772	23	剥片	黒安	1.3	1.4	0.9	1.6			2832	19	剥片	黒安	1.8	4.6	1.9	13.5		
2773	23	石状	黒安	10.9	5.3	2.2	117.0		115'	2833	19	礫	石斑	2.2	1.7	1.8	11.6		
2774	23	砕片	黒安	0.8	1.2	0.4	0.3			2834	19	小礫	黒頁	3.0	1.1	0.7	2.7		
2775	23	小礫	黒頁	3.0	1.8	1.1	7.6			2835	19	台石	砂	14.7	12.7	7.0	1015.0		566
2776	23	剥片	黒安	1.4	1.1	0.6	0.7			2836	19	剥片	黒安	4.5	2.9	0.5	6.7		
2777	23	剥片	黒安	2.7	2.6	0.7	5.1			2837	19	石状	黒頁	8.8	3.0	2.6	48.2		324
2778	23	縦長	黒安	13.1	7.9	3.0	194.2		51-3	2838	19	小礫	黒頁	3.0	1.4	0.8	2.3		
2779	23	細礫	珪凝	2.4	1.5	1.4	4.8			2839	19	細礫	珪変	2.0	1.0	0.9	2.6		
2780	23	石状	黒頁	8.2	3.5	2.0	56.3		314	2840	19	小礫	砂	3.1	2.6	1.4	13.0		
2781	23	剥片	黒安	3.8	1.7	0.7	2.2			2841	19	細礫	砂	2.0	1.7	1.1	4.5		
2782	23	剥片	黒安	2.5	1.4	0.5	1.3			2842	19	礫	砂	4.8	5.0	2.1	80.6		
2783	23	剥片	黒安	4.0	4.1	1.0	18.9			2843	19	縦石	輝安	24.2	6.4	5.5	161.0		543
2784	23	礫	輝安	6.5	4.6	3.9	97.3			2844	19	小礫	黒頁	4.4	2.5	1.7	20.7		
2785	23	剥片	黒安	2.2	2.7	1.1	6.6			2845	19	剥片	黒安	5.0	3.3	1.2	12.6		
2786	23	礫	輝安	7.3	7.0	6.1	328.5			2846	17	小礫	不明	4.2	3.0	1.2	14.4		
2787	23	石状	黒安	3.2	2.1	0.9	6.2		52-2	2847	17	縦石	輝安	24.2	6.4	5.5	161.0		543
2788	23	石刃	黒頁	9.0	2.8	1.4	25.8		100'	2848	17	細礫	不明	1.9	1.2	0.6	1.3		
2789	23	剥片	黒安	4.3	4.4	2.0	35.6			2849	17	小礫	珪変	3.6	2.5	1.4	8.8		
2790	23	剥片	頁	4.0	2.3	0.9	10.3			2850		欠番							
2791		欠番								2851	×	小礫	不明	2.1	1.7	0.6	2.6		
2792	19	剥片	黒安	2.7	1.8	0.6	2.7			2852	×	石状	黒頁	7.5	3.0	0.6	14.2		312
2793	19	細礫	不明	2.2	1.5	0.4	1.4			2853	×	剥片	黒安	3.1	3.4	0.8	8.4		
2794	19	小礫	輝緑	4.2	1.7	1.1	10.6			2854	19	砕片	黒安	1.5	1.4	0.3	0.7		
2795	20	小礫	砂	4.2	3.3	2.2	32.4			2855	19	小礫	砂	1.6	1.2	2.0	4.2		
2796	20	細礫	黒頁	2.6	1.3	0.8	2.3			2856	19	剥片	黒安	4.4	6.2	1.7	43.1		
2797	30	縦長	黒安	5.8	5.0	1.6	40.7			2857	19	剥片	黒安	3.8	2.8	1.3	13.3		
2798	20	小礫	黒頁	4.0	2.6	1.9	23.4			2858	19	小礫	輝灰	5.1	3.8	2.1	48.6		
2799	20	石状	黒安	3.5	1.5	0.6	3.0		283	2859	19	剥片	黒安	3.4	7.9	2.9	82.7		
2800	20	縦長	黒安	4.7	3.1	1.4	20.5		426	2860	19	剥片	黒安	3.2	3.1	1.4	15.8		

番号	ア	岩種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押固	番号	ア	岩種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	押固
2861	19	剥片	黒安	4.9	2.7	1.2	15.0			2921	14	縦長	黒安	3.3	1.3	0.4	2.2		
2862	19	縦長	黒真	1.3	0.9	0.6	0.9			2922	14	縦長	黒安	3.0	1.4	0.6	2.1		425
2863	19	剥片	黒安	1.7	1.6	1.1	4.6			2923	14	剥片	黒安	5.2	2.6	1.3	9.4		13-5
2864	19	縦石	不明	17.9	7.6	5.1	960.0		542	2924	14	剥片	黒安	2.3	3.8	1.2	10.0		
2865	19	小礫	黒真	4.5	3.1	0.7	17.4			2925	14	剥片	黒安	3.3	1.4	1.3	6.1		
2866	19	礫	不明	5.2	5.6	1.7	55.5			2926	14	剥片	黒安	2.8	3.6	0.6	6.6		
2867	19	剥片	黒安	5.1	1.8	4.6	48.6			2927	14	剥片	黒安	3.3	2.8	0.7	8.2	128*	513
2868	19	砕片	黒安	2.0	1.5	0.9	2.5			2928	14	剥片	黒安	1.8	1.0	0.5	1.5		
2869	19	剥片	黒安	4.7	2.3	1.7	18.1			2929	14	縦長	黒安	5.6	4.0	1.0	22.1		432
2870	19	剥片	黒安	3.0	4.2	0.6	9.6			2930	14	剥片	黒安	2.8	2.3	1.0	6.7		13-2
2871	19	縦長	黒安	3.3	4.3	1.6	12.4		429	2931	14	縦長	黒安	2.8	2.1	1.1	6.3		
2872	19	縦石	輝安	17.0	6.8	5.3	886.3		534	2932	14	砕片	黒安	1.4	1.0	0.5	0.7		
2873	19	剥片	黒安	4.5	3.5	1.1	14.9			2933	14	剥片	黒安	3.0	1.5	0.6	3.1		
2874	19	ナ形	頁	5.4	3.9	1.4	37.1		24	2934	14	剥片	黒安	2.7	0.9	0.2	0.8		
2875	19	剥片	黒真	3.1	2.1	0.9	6.0			2935	14	剥片	黒安	7.2	6.0	1.1	45.2	103*	512
2876	19	石枕	黒安	4.3	2.7	3.0	30.5			2936	14	剥片	黒安	2.7	1.4	0.3	1.3		
2877	19	剥片	黒安	3.1	2.2	1.0	7.3			2937	14	縦長	黒安	4.2	2.4	1.2	10.8		13-4
2878	19	剥片	黒安	2.9	4.0	1.3	13.2			2938	14	剥片	黒安	2.6	4.6	1.3	14.2		
2879	17	小礫	粒安	2.1	2.0	1.1	5.3			2939	14	石枕	黒安	8.1	6.4	4.1	189.0		14-2
2880	17	ナ形	黒真	8.7	2.8	1.1	21.8	105*	19	2940	14	打作	黒安	13.2	9.1	3.7	551.2		15-1
2881	×	剥片	黒安	4.8	4.5	1.4	29.0			2941	16	石枕	黒安	6.5	2.8	1.3	19.4	120*	13-3
2882	×	小礫	黒真	2.3	1.8	0.9	4.7			2942	16	剥片	黒安	1.7	1.5	0.8	1.5		
2883	19	小礫	黒真	4.3	2.9	1.3	20.4			2943	16	小礫	不明	1.6	1.6	0.9	2.2		
2884	19	剥片	黒安	5.0	3.6	1.5	18.3			2944	16	縦長	黒安	4.2	2.4	0.8	7.4	130*	13-1
2885	19	小礫	不明	2.9	2.4	1.3	9.2			2945	16	縦長	黒安	3.8	2.0	0.4	2.4		
2886	19	小礫	砂	2.2	1.8	1.2	5.1			2946	16	剥片	黒安	1.6	2.0	0.7	2.0		
2887	19	小礫	黒真	5.6	3.9	1.6	52.9			2947	16	剥片	黒安	1.6	2.1	1.2	3.7		
2888	19	縦石	花崗	16.4	9.9	8.6	1553.3		536	2948	16	剥片	黒安	6.6	5.1	2.8	81.2		15-9
2889	19	剥片	黒安	3.8	2.3	0.7	6.4			2949	16	小礫	粒安	1.9	1.7	0.7	3.1		
2890	19	縦石	輝安	12.4	5.9	5.7	648.2		549	2950	16	剥片	黒安	3.2	2.8	1.1	8.7		514
2891	19	縦長	黒安	6.2	3.1	1.6	25.7		429	2951	16	石枕	黒安	7.0	1.5	0.9	7.5	106*	315
2892	19	剥片	黒安	2.8	3.0	1.1	7.5			2952	16	剥片	黒安	4.6	4.0	1.9	26.0		14-1
2893	19	磨石	輝安	11.4	15.3	6.6	1825.4		571	2953	16	剥片	黒安	2.9	2.2	0.3	2.1		
2894	19	剥片	黒安	2.9	1.7	0.8	2.5			2954	16	剥片	黒安	5.1	4.6	3.0	48.5		15-2
2895	19	剥片	黒安	4.8	6.7	1.1	27.6			2955	16	剥片	黒安	2.8	3.2	2.0	17.4		
2896	19	小礫	安	7.5	3.4	2.9	41.4			2956	16	小礫	黒真	2.8	2.3	0.9	8.5		
2897	19	小礫	黒真	3.5	2.6	0.7	9.8			2957	16	剥片	黒安	2.5	2.3	0.8	4.9		
2898	19	剥片	黒安	6.2	5.2	1.4	35.5			2958	16	小礫	黒真	2.4	1.8	1.0	5.3		
2899	18	剥片	黒安	3.5	2.0	0.7	4.1			2959	16	剥片	黒安	3.3	4.0	1.9	23.3		
2900	13	小礫	黒真	4.3	3.5	2.2	40.7			2960	16	剥片	黒安	3.5	4.3	1.0	22.3		29-1
2901	14	小礫	黒真	2.4	1.2	0.8	3.2			2961	16	剥片	黒安	2.4	3.3	0.8	5.9		
2902	14	縦石	黒真	7.1	4.7	1.4	78.8		558	2962	16	石枕	黒安	4.3	2.6	1.2	8.4		306
2903	14	剥片	黒真	2.6	3.5	1.1	6.6			2963	16	石枕	黒安	14.0	14.4	9.7	2980.8		15-11
2904	14	縦長	黒安	4.9	2.9	0.8	13.8		431	2964	16	剥片	黒安	1.3	2.3	0.8	2.3		
2905	14	剥片	黒安	3.8	2.9	3.3	27.5			2965	16	石枕	黒真	6.7	3.7	1.7	41.5		318
2906	14	剥片	黒安	5.8	4.4	2.6	52.6			2966	16	剥片	黒安	2.7	2.8	0.9	6.6		
2907		欠番								2967	16	剥片	黒安	1.5	5.1	1.5	20.2	120*	31-4
2908	14	剥片	黒安	1.2	3.7	2.0	4.3			2968	16	剥片	黒安	3.1	3.3	1.4	17.6		511
2909	14	剥片	黒安	4.0	1.9	1.3	8.6			2969	16	剥片	黒安	4.1	5.4	1.4	29.2		511
2910	14	剥片	黒安	2.2	1.8	0.5	1.8			2970	16	縦長	黒安	2.9	1.6	0.5	1.7		
2911	14	砕片	黒安	2.0	0.8	0.7	1.3			2971	16	剥片	黒安	2.1	1.5	0.8	1.9		
2912	14	剥片	黒安	2.6	3.4	1.4	10.7			2972	16	剥片	黒安	4.8	2.2	2.1	22.4		15-7
2913	14	剥片	黒安	4.0	2.4	1.1	9.6			2973	16	縦長	黒安	4.3	2.7	1.7	16.6		15-6
2914	14	剥片	黒安	3.3	2.3	0.6	5.4			2974	16	剥片	黒安	3.4	2.0	0.3	2.5		
2915	14	剥片	黒安	2.8	0.7	0.8	1.1			2975	16	剥片	黒安	1.8	2.6	0.8	3.4		
2916	14	縦長	黒安	4.1	1.7	0.4	3.8			2976	16	剥片	黒安	2.5	2.8	1.4	7.1		
2917	14	剥片	黒安	1.1	2.1	0.4	1.1			2977	16	剥片	黒安	4.7	2.3	1.2	14.3		15-8
2918	14	剥片	黒安	1.9	1.3	0.5	1.2			2978	16	剥片	黒安	4.2	1.4	1.8	6.6		15-3
2919	14	剥片	黒安	2.2	3.4	1.7	10.9			2979	16	剥片	黒安	2.1	3.0	0.8	4.1		
2920	14	剥片	黒安	2.6	2.2	0.7	3.4			2980	16	剥片	黒安	1.6	2.7	0.4	2.0		38-1

第5章 ま と め

番号	フ	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿因	番号	フ	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿因
2981	16	割片	黒安	7.5	3.4	0.8	13.0			3041	16	縦長	黒安	7.5	8.1	1.5	87.0		428
2982	16	縦長	黒安	4.1	3.8	0.8	11.8		442	3042	16	縦長	黒安	2.7	3.1	0.6	5.8		
2983	16	石状	黒安	10.1	4.6	1.5	61.6		323	3043	16	割片	黒安	2.1	2.1	0.4	2.0		
2984	16	加工	黒安	2.9	2.9	0.9	6.4		128	3044	16	割片	黒安	2.1	1.3	0.3	1.0		
2985	16	砂礫	黒頁	1.4	1.0	0.7	0.8			3045	16	割片	黒安	4.4	1.4	0.7	3.9		
2986	16	石状	珪頁	8.9	4.4	1.1	40.4	101'	327	3046	16	割片	黒安	2.5	2.1	0.6	2.5		
2987		欠番								3047	16	割片	黒安	2.2	1.1	0.3	1.1		
2988		欠番								3048	16	縦長	黒安	2.6	1.6	0.7	4.5		
2989		欠番								3049	16	割片	黒安	7.3	5.0	3.2	59.9		
2990	16	割片	黒安	1.2	1.8	0.5	0.9			3050	16	割片	黒安	4.6	2.6	0.9	10.9		16-14
2991	16	加工	黒安	3.4	2.3	0.9	7.6		127	3051	16	割片	黒安	2.7	1.7	0.4	1.3		
2992	16	割片	黒安	2.8	1.3	1.1	2.9			3052	16	割片	黒安	3.9	1.8	0.8	4.5		
2993	16	割片	黒安	1.3	2.9	0.3	1.9			3053	16	割片	黒安	1.7	1.5	0.5	1.1		
2994	16	割片	黒安	2.4	1.8	0.5	1.7			3054	16	割片	黒安	2.5	1.7	0.3	1.8		
2995		欠番								3055	16	石状	黒安	7.7	3.0	1.7	34.0	110'	329
2996	16	割片	黒安	1.9	2.7	0.6	3.0			3056	16	割片	黒安	3.0	1.6	0.7	1.5		
2997	16	割片	黒安	3.6	1.9	1.5	7.6			3057	16	割片	黒安	2.8	1.7	0.6	2.3		
2998	16	石核	黒安	6.6	4.2	3.8	2.8		52	3058	16	割片	黒安	2.9	3.3	1.0	9.8		
2999	16	加工	黒安	3.2	2.9	2.3	13.9			3059	16	使用	黒安	3.8	4.7	1.1	17.8		
3000	13	割片	黒安	3.1	2.4	1.7	15.0			3060	16	割片	黒安	2.6	1.4	0.6	2.1		
3001	13	石状	黒安	2.7	1.5	0.4	2.1	104'	305	3061	16	縦長	黒安	2.6	1.4	0.2	1.3		
3002	13	割片	黒安	4.5	4.5	0.7	17.3			3062	16	割片	黒安	6.2	6.7	1.5	49.4		21-3
3003	13	割片	黒安	6.4	3.3	0.8	22.8			3063	16	割片	黒安	3.3	2.8	0.5	7.3		
3004	13	割片	黒安	2.5	1.4	0.3	1.4			3064	16	礫	黒頁	6.3	5.5	2.8	96.4		
3005	13	割片	黒安	1.5	1.2	0.2	0.4			3065	16	割片	黒安	2.2	1.7	0.9	4.3		
3006	13	割片	黒安	2.7	1.9	0.3	3.1			3066	16	割片	黒安	7.8	3.1	2.3	46.2		
3007	13	割片	黒安	2.2	0.8	0.4	0.6			3067	16	割片	黒安	5.7	3.6	3.5	82.7		
3008	13	割片	黒安	1.9	1.5	0.3	1.1			3068	16	割片	黒安	3.2	3.1	1.1	11.1	119'	519
3009	13	割片	不明	2.9	1.4	0.9	2.8			3069	16	割片	黒安	5.0	5.4	2.7	44.5		
3010	13	割片	黒安	2.1	1.4	0.9	3.5			3070	16	縦長	黒安	6.2	2.3	1.4	12.5		433
3011	13	割片	黒安	2.0	1.1	0.6	1.1			3071	16	割片	黒安	7.5	2.8	1.9	32.9		
3012	13	加工	珪頁	9.2	5.9	1.1	57.8	117'	129	3072	16	石核	黒安	4.2	10.2	6.4	217.0		16-15
3013	13	石状	黒頁	3.7	4.2	1.1	14.7		328	3073	16	縦長	黒安	3.1	1.7	0.8	3.3		433
3014	13	石状	黒頁	3.5	4.0	1.1	24.2		328	3074	16	小礫	黒頁	3.7	1.6	0.9	9.9		
3015	13	割片	黒安	2.7	2.1	0.5	1.4			3075	16	割片	黒安	1.6	1.4	1.1	1.5		
3016	13	割片	黒安	1.6	0.9	0.3	0.3			3076	×	石核	黒安	4.3	5.1	5.8	138.9		102-3
3017	13	割片	黒安	1.7	1.5	0.7	2.8			3077	×	縦長	黒頁	5.4	4.7	1.0	24.3		430
3018	13	割片	黒安	2.6	1.9	0.7	2.8		515	3078	×	割片	黒安	3.7	2.8	0.2	7.8		102-1
3019	13	台石	海蔵	20.2	16.5	9.1	325.0		565	3079	×	割片	黒頁	4.5	2.4	0.4	5.3		
3020	13	割片	黒安	3.5	3.2	0.8	7.8			3080	×	割片	黒安	5.0	3.8	1.6	22.5		102-2
3021	13	縦長	黒安	2.2	2.2	0.5	3.1	110'	427	3081	×	割片	黒安	8.2	6.7	2.3	109.7		
3022	13	割片	黒安	2.7	3.1	0.9	4.6			3082	12	縦長	黒安	5.6	3.0	1.4	24.5		434
3023	13	割片	黒安	6.6	4.6	0.8	29.6			3083	12	割片	黒安	2.6	1.7	0.6	2.3		
3024	13	割片	黒安	2.2	1.4	1.1	2.4			3084	12	割片	黒安	1.9	1.6	0.3	1.1		
3025	13	縦長	黒安	7.4	3.9	1.7	47.5			3085	12	縦長	黒安	4.6	3.0	1.2	17.2	122'	436
3026	9	縦長	黒安	2.9	2.0	0.7	5.2			3086	12	割片	黒安	8.9	3.8	2.5	60.1		
3027	15	割片	黒安	4.5	2.7	1.1	6.5			3087	12	割片	黒安	3.7	2.1	1.3	10.3		
3028	15	割片	黒安	2.7	3.4	0.7	7.0			3088	12	加工	黒安	9.6	6.4	2.8	139.8		130
3029	15	石核	黒安	5.4	5.0	2.4	66.2			3089	12	割片	黒安	1.6	1.3	0.5	0.7		
3030	15	加工	黒安	2.7	1.7	0.4	1.5		20-5	3090	12	割片	黒安	3.1	3.8	2.1	12.6		
3031	15	割片	黒安	8.3	7.5	2.5	24.2		16-7	3091	12	縦長	黒安	3.2	2.1	1.0	6.9		
3032	15	段石	燐安	15.2	11.3	7.5	1296.0		537	3092	12	割片	黒安	3.2	2.3	1.2	7.9		
3033	15	礫	海蔵	13.8	11.1	7.7	136.1			3093	13	割片	黒安	7.5	7.2	2.2	89.9		
3034	16	割片	黒安	3.3	6.7	2.6	38.6			3094	13	縦長	黒安	3.0	1.8	1.0	4.6		
3035	16	加工	黒安	4.5	2.5	1.5	20.9			3095	13	縦長	黒安	3.5	2.2	0.6	5.2		
3036	16	割片	黒安	6.6	5.2	2.0	65.8			3096	13	割片	黒安	5.8	3.6	1.7	28.8		
3037	16	石状	黒頁	16.7	3.2	2.7	112.2	110'	319	3097	13	割片	黒安	4.4	2.6	1.6	14.4		
3038	16	縦長	黒安	2.5	1.9	0.5	2.7			3098	13	使用	黒安	3.8	6.3	1.5	42.0		
3039	16	小礫	燐安	2.9	2.0	1.3	6.7			3099	13	縦長	黒安	2.8	1.4	0.5	2.0		
3040	16	割片	黒安	3.8	1.9	0.5	4.0			3100	18	縦長	黒安	3.4	1.8	0.6	3.1		

番号	ア	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固	番号	ア	器械	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固
3101	18	加工	黒真	2.9	1.9	0.6	3.7			3161		欠番							
3102	17	判片	黒真	3.0	5.7	1.6	32.3			3162	16	判片	黒安	2.9	3.2	0.8	8.3		
3103	17	小礫	黒真	5.0	2.8	1.2	20.3			3163	16	判片	黒安	2.3	3.7	0.6	4.8		
3104	14	加工	黒安	8.6	9.5	1.2	118.6			3164	16	判片	黒安	1.5	1.6	0.6	1.3		
3105	14	小礫	黒真	3.7	2.1	1.3	12.7			3165	16	判片	黒安	1.8	1.6	1.1	3.7		
3106	18	判片	黒安	1.7	1.3	0.8	1.3			3166	16	判片	黒安	5.9	4.1	1.7	26.1		
3107	18	判片	珪瓷	2.1	2.0	2.2	7.2			3167	16	石状	黒真	7.9	2.3	1.3	20.2	105°	326
3108	18	砕片	黒安	1.8	1.2	0.3	0.5			3168	16	判片	黒安	7.8	7.0	2.4	116.6		17-6
3109	18	判片	黒安	2.7	1.9	1.4	5.6			3169	16	石刃	黒安	5.7	3.0	0.9	18.0		213
3110	18	判片	黒安	3.2	3.1	0.7	6.4			3170	16	判片	黒安	9.8	7.6	2.9	157.8		17-8
3111	18	判片	黒安	2.0	1.8	0.4	1.5			3171	16	判片	黒安	3.2	2.1	1.0	12.2		
3112	18	小礫	珪瓷	2.3	2.1	1.0	4.7			3172	16	判片	黒安	3.0	2.0	0.8	3.9		
3113	18	判片	黒安	3.1	2.3	0.5	3.6			3173	16	判片	黒安	9.8	6.5	2.5	177.2		
3114	18	判片	黒安	2.0	2.7	1.0	4.2			3174	16	判片	黒安	8.4	8.7	2.3	149.0		23-1
3115	18	判片	黒安	4.5	4.7	2.0	34.1			3175	16	判片	黒安	1.7	2.0	0.7	1.3		
3116	18	判片	黒真	2.4	3.3	0.6	4.7			3176	16	判片	黒安	4.2	2.4	1.0	8.3		
3117	18	判片	黒安	2.8	1.9	0.7	4.0			3177	16	判片	黒安	5.0	3.4	1.7	22.8		17-5
3118	18	判片	黒安	2.2	2.6	1.5	7.9			3178	16	判片	黒安	2.9	3.8	1.2	14.3		
3119	18	判片	黒安	3.7	3.3	1.6	20.5			3179	16	石状	黒安	7.5	8.3	3.1	244.8		83
3120		欠番								3180	16	判片	黒安	1.4	1.7	0.2	1.2		
3121	18	判片	黒安	3.8	2.8	0.5	5.1	516		3181	16	判片	黒安	3.2	3.3	1.1	7.7		
3122	18	小礫	黒真	2.4	1.8	0.6	2.8			3182	16	判片	黒安	2.6	1.7	0.4	1.8		
3123	18	判片	黒真	1.1	1.7	0.6	1.3			3183	16	判片	黒真	5.3	3.7	2.0	29.3		17-10
3124	18	判片	黒安	2.2	1.1	0.8	1.3			3184	16	石状	黒真	9.2	9.9	8.0	883.0		42-4
3125	18	小礫	黒真	3.1	2.3	0.5	4.7			3185	14	判片	黒安	2.9	2.8	0.8	6.5		
3126	18	判片	黒安	1.9	1.2	0.3	0.9			3186	14	小礫	黒真	2.1	1.8	0.7	3.9		
3127	18	判片	黒安	2.5	2.7	0.6	4.0			3187	14	判片	黒安	2.6	1.6	1.0	4.3		
3128	18	小礫	不明	3.3	3.6	1.1	142			3188	14	判片	黒安	9.9	10.8	4.8	329.9		
3129	18	判片	黒安	3.2	1.9	0.5	3.6			3189	14	判片	黒安	3.1	2.1	1.2	6.5		
3130	18	縦長	黒安	3.6	2.4	1.0	9.9			3190	14	判片	黒安	1.5	3.3	1.4	6.5		
3131	18	判片	黒安	2.7	2.5	1.1	6.1			3191	16	判片	黒安	3.2	2.2	1.0	5.9		
3132	18	小礫	安	6.1	4.2	1.9	70.6			3192	16	判片	黒安	2.8	2.0	0.3	2.3		
3133	×	判片	黒安	2.8	2.6	0.4	3.1			3193	16	小礫	黒真	4.6	2.4	1.7	21.0		
3134	×	小礫	砂	2.9	1.4	0.8	2.4			3194		欠番							
3135	×	判片	黒安	4.6	2.9	0.9	14.7			3195	16	縦長	黒安	4.5	2.8	0.6	9.2		
3136	×	判片	黒真	1.8	2.6	0.7	3.1			3196	16	判片	黒安	2.6	3.0	0.5	4.3		
3137	×	小礫	黒真	2.7	1.9	0.9	6.0			3197	16	判片	黒安	6.5	4.3	1.5	34.4	118°	30-1
3138	14	判片	珪瓷	2.6	2.1	1.1	6.6			3198	16	小礫	不明	1.4	3.5	0.6	3.0		
3139	14	小礫	珪瓷	3.4	1.9	1.7	13.1			3199	16	石状	黒安	4.3	4.5	2.2	42.6		74
3140	14	判片	黒安	2.5	3.1	0.8	5.5			3200	16	判片	黒真	3.1	3.0	1.1	16.1		
3141	14	判片	珪真	2.3	4.5	0.5	7.0			3201	16	判片	黒安	6.0	2.7	1.6	23.4		
3142	14	小礫	黒真	4.2	2.4	0.8	9.7			3202	16	判片	黒安	2.0	1.9	0.5	1.4		
3143	14	判片	黒安	2.8	2.4	0.9	5.8			3203	16	判片	黒安	3.0	4.5	1.5	17.0	104°	31-5
3144	18	砕片	黒安	1.3	1.0	0.4	0.3			3204	16	砕片	黒安	2.2	1.3	0.3	0.7		
3145	18	小礫	砂	2.6	2.3	1.3	8.1			3205	16	判片	黒安	7.6	5.6	1.6	60.3		
3146	18	判片	黒安	2.5	2.1	0.6	2.1			3206	16	砕片	黒安	1.8	1.5	0.3	0.7		
3147	18	敲石	輝安	13.1	5.7	3.3	400.0		533	3207	16	砕片	黒安	1.9	1.2	0.4	0.6		
3148	16	判片	黒安	1.9	3.8	0.7	5.0			3208	16	判片	黒安	1.8	2.1	0.6	2.8		
3149	16	判片	黒安	5.8	2.5	2.1	27.0		40-1	3209	16	判片	黒安	1.6	2.2	0.5	1.6		
3150	16	判片	黒安	2.8	4.2	0.7	9.2			3210	16	判片	黒安	2.8	1.6	0.8	2.6		
3151	16	判片	黒安	7.7	6.3	2.6	110.3		40-2	3211	16	礫	流紋	9.8	3.4	3.0	123.0		577
3152	16	判片	黒安	9.8	7.6	2.9	18.5		17-7	3212	16	縦長	黒安	5.1	2.3	0.5	6.3		
3153	16	加工	黒真	2.5	5.2	0.9	8.6			3213	16	判片	黒真	3.3	3.7	1.2	17.1		
3154	16	判片	黒安	2.0	0.9	0.3	0.5			3214	16	判片	黒安	3.9	5.2	1.4	31.5		
3155	16	加工	黒安	2.7	5.3	1.0	15.7			3215	16	判片	黒安	2.8	3.4	0.6	4.7		
3156	16	石状	黒真	3.7	2.9	0.6	13.1	125°	307	3216	16	砕片	黒安	1.5	1.8	0.3	0.8		
3157	16	判片	黒安	1.6	2.2	0.6	2.1			3217	16	小礫	黒真	3.8	1.8	2.2	14.4		
3158	16	判片	黒安	4.0	5.9	1.4	24.8	117°		3218	16	判片	黒真	3.5	1.8	0.7	3.6		
3159	16	加工	黒安	2.8	3.1	0.7	4.8		131	3219	16	縦長	黒真	5.6	1.7	0.8	7.0		
3160	16	判片	黒真	1.7	1.9	0.5	1.4			3220	16	判片	黒安	5.3	2.7	0.8	10.6		

第5章 ま と め

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神国	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神国
3221	16	神片	黒安	1.5	1.1	0.3	0.5			3281	16	縦長	黒安	5.0	3.3	1.3	26.5		
3222	16	神片	黒安	2.6	3.2	0.8	5.6		17-2	3282	16	神片	黒安	2.9	2.7	0.7	16.0		20-3
3223	16	神片	黒安	4.4	4.7	1.6	31.2		17-1	3283	16	石核	黒安	4.7	5.1	1.9	47.7		20-7
3224	16	神片	埴真	3.6	2.6	0.4	5.7			3284	16	神片	黒安	2.8	1.4	0.9	2.2		
3225	16	神片	黒真	7.4	6.1	1.8	48.3		42-1	3285	16	神片	黒安	4.8	2.5	0.6	7.7		
3226	16	神片	黒安	2.1	1.6	0.5	2.2			3286	16	神片	黒安	2.9	3.0	0.5	4.2		
3227	16	神片	黒安	4.2	6.0	0.5	18.6			3287	16	石状	黒真	9.0	3.4	1.6	36.1		41-1
3228	13	神片	黒安	3.4	5.8	2.1	23.4			3288	16	神片	黒安	2.0	1.3	0.4	0.5		
3229	13	神片	黒安	2.3	2.3	0.7	2.8			3289	16	神片	黒安	1.7	1.1	0.4	1.2		
3230	13	神片	黒安	2.2	1.1	0.5	1.5			3290	16	神片	黒安	3.0	0.9	0.7	1.1		
3231	13	神片	黒安	5.4	3.5	1.5	33.3			3291	16	小礫	黒真	3.2	2.1	0.9	8.8		
3232	13	神片	黒安	5.0	4.7	0.8	16.5			3292	16	石状	黒真	3.7	2.3	0.7	5.1		325
3233	14	神片	黒真	2.5	1.4	0.6	1.5			3293	16	縦長	黒安	5.6	6.0	2.0	48.2		441
3234	14	神片	黒安	8.0	5.6	2.1	1.5			3294	16	神片	黒安	2.9	1.0	0.6	1.1		
3235	14	神片	黒安	3.0	2.4	0.8	7.3			3295	16	神片	黒安	3.8	4.6	1.8	39.0		
3236	14	神片	黒真	2.6	4.1	0.8	7.5			3296	16	石核	黒安	8.2	2.6	2.8	57.6		
3237	14	神片	黒真	5.7	2.5	1.6	31.5			3297	16	縦長	黒安	4.8	2.9	0.8	13.5		15-10
3238	14	細礫	黒真	1.5	0.7	0.7	0.9			3298	16	小礫	黒真	2.3	1.2	1.1	3.4		
3239	14	神片	黒安	2.7	1.8	0.5	2.1			3299	16	神片	黒安	5.1	2.5	0.7	11.4		
3240	14	神片	黒安	2.3	2.8	0.6	3.5			3300	13	神片	黒安	5.1	2.9	1.9	22.9		
3241	14	小礫	不明	2.8	4.6	0.8	9.2			3301	13	神片	黒安	5.5	4.2	1.5	29.0		
3242	14	縦長	黒安	12.0	3.8	3.2	160.7		438	3302	13	神片	黒安	5.6	2.5	3.0	20.4		
3243	14	小礫	黒真	2.7	1.9	1.3	7.8			3303	13	神片	黒安	3.1	2.0	1.2	7.0		
3244	14	神片	黒安	2.4	2.3	0.6	3.6			3304	13	神片	黒安	3.3	1.1	0.9	3.5		
3245	14	縦長	黒安	3.0	1.2	0.4	1.3			3305	13	石核	黒安	5.1	2.4	3.0	48.0		65
3246		欠番								3306	13	神片	黒安	2.6	1.7	0.6	1.9		
3247	14	神片	黒安	2.8	1.9	0.8	2.0			3307	13	神片	黒安	2.3	1.2	0.6	1.7		
3248	14	細礫	黒真	1.1	0.9	0.4	0.5			3308	13	神片	黒安	4.7	2.5	1.4	16.1		
3249	14	神片	黒安	2.5	3.1	1.0	9.1			3309	13	神片	黒安	2.6	1.4	0.5	1.3		
3250	14	神片	黒安	2.6	1.1	0.7	1.9			3310		欠番							
3251	14	神片	埴真	1.4	1.3	0.5	1.1			3311	13	縦長	黒安	4.3	0.6	0.6	4.8	106°	435
3252	14	古石	冷硬	20.9	16.5	8.4	430.0		569	3312	13	神片	黒安	1.7	1.6	0.4	1.0		
3253	14	神片	黒安	3.5	2.4	0.7	6.7			3313	13	神片	黒安	1.3	0.9	0.3	0.4		
3254	14	神片	黒安	2.6	1.2	0.6	1.2			3314	13	神片	黒安	2.8	1.2	0.3	1.3		
3255	14	石状	黒安	6.9	2.5	0.9	16.3		311	3315		欠番							
3256	14	神片	黒安	1.6	1.6	0.2	0.5			3316	13	神片	黒安	2.9	1.6	0.9	3.6		
3257	14	神片	黒真	3.5	7.1	1.1	31.7			3317	13	神片	黒安	1.7	0.9	0.6	1.1		
3258	14	石核	黒真	13.0	5.4	3.4	271.3		87	3318	13	神片	黒安	11.5	7.0	2.5	159.0		
3259	16	神片	黒安	3.7	1.9	0.9	6.2		15-5	3319	13	神片	黒安	8.3	3.2	3.0	47.7		12-1
3260	16	石状	黒真	10.9	5.2	1.4	73.2		107°	3320	13	神片	黒安	1.6	1.5	0.3	0.9		
3261	16	縦長	黒安	3.9	1.6	1.2	10.2			3321	13	神片	黒安	5.2	9.8	3.5	105.6		
3262	16	神片	黒安	7.1	3.4	1.9	43.3		29-2	3322	13	神片	黒安	4.3	2.0	1.4	9.1		
3263	16	神片	黒安	4.4	2.7	0.6	7.3		20-3	3323	13	神片	黒安	2.1	2.2	1.2	3.9		
3264	16	神片	黒安	3.5	3.4	1.1	15.2			3324	13	神片	黒安	4.8	2.6	1.6	13.0		
3265	16	石核	黒安	14.8	4.4	2.5	134.6		48	3325	13	神片	黒安	3.4	4.1	1.5	13.6		
3266	16	神片	黒安	2.7	1.1	0.4	0.9			3326	13	神片	黒安	3.2	4.6	1.7	21.4		
3267	16	石状	黒真	9.8	3.0	0.8	38.0		168°	3327	13	神片	黒安	1.5	1.2	0.3	0.6		
3268	16	神片	黒安	5.1	5.3	1.0	23.5			3328	13	神片	黒安	2.6	2.9	0.8	4.8		
3269	16	神片	黒安	3.6	2.7	0.5	5.9			3329	13	神片	黒安	1.7	1.7	0.7	1.6		
3270	16	小礫	黒真	2.3	1.1	0.7	2.2			3330	13	神片	黒安	2.2	1.2	0.4	1.1		
3271	16	神片	黒安	2.0	2.2	1.1	3.7			3331	13	石刃	黒安	4.1	3.1	1.1	12.6		214
3272	16	神片	黒安	6.0	7.4	1.7	70.8		38-3	3332	13	石刃	黒安	6.1	3.5	1.3	23.7		214
3273	16	神片	黒安	1.9	4.1	1.6	11.5			3333	13	神片	黒安	2.3	2.4	0.9	4.5		
3274	16	神片	黒安	2.9	2.4	0.4	4.1			3334	13	石状	黒安	6.7	3.1	1.6	24.5	100°	343
3275	16	神片	黒安	2.5	2.7	1.2	7.6			3335	13	神片	黒安	1.3	2.3	0.3	0.9		
3276	16	神片	黒安	1.7	2.0	0.3	1.1			3336	13	彫器	黒安	6.3	4.3	1.5	37.6		33
3277	16	石状	黒真	11.6	3.9	1.1	40.4		109°	3337	13	神片	黒安	2.3	2.0	0.3	0.5		
3278	16	神片	黒安	2.6	4.2	1.1	7.3		334	3338	13	神片	黒安	2.0	1.4	0.5	1.0		
3279	16	神片	黒安	1.8	2.6	0.7	2.3			3339	13	神片	黒安	4.2	1.7	0.4	2.6		
3280	16	神片	黒安	4.9	3.2	1.5	23.3		20-1	3340	13	縦長	黒安	5.2	1.4	0.6	4.7		

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神因	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神因
3341	13	切片	黒安	3.6	2.8	2.1	23.7			3401	16	切片	黒安	2.0	1.2	0.3	0.8		
3342	13	石状	黒安	6.1	2.5	1.0	18.8	118'	322	3402	16	切片	黒安	2.1	1.5	0.2	1.1		
3343	13	切片	黒安	2.9	4.3	0.5	8.7			3403	16	切片	黒安	1.5	2.2	0.5	1.9		
3344	13	切片	黒安	1.4	1.4	0.3	0.7			3404	16	切片	黒安	1.6	1.3	0.6	1.4		
3345	9	切片	黒安	4.6	1.0	1.4	5.5			3405	16	切片	黒安	4.0	1.5	0.7	4.0		
3346	9	石状	黒安	6.0	2.2	1.5	11.3		313	3406	16	切片	黒安	2.0	2.3	0.8	3.0		
3347	9	切片	砂	1.8	3.8	0.6	3.7			3407	16	切片	黒安	2.9	2.2	0.9	3.1		
3348	9	切片	黒安	3.8	4.4	1.2	25.7			3408		欠番							
3349	9	切片	黒安	3.6	2.9	1.7	14.7			3409	16	切片	黒真	1.9	2.5	0.5	2.2		
3350	10	切片	黒安	2.5	1.7	0.7	2.3			3410	16	切片	黒真	3.7	2.3	0.9	6.6		
3351	15	石状	黒真	9.9	3.9	1.4	54.7	115'	330	3411	16	加工	黒安	2.3	2.7	0.7	4.5	110'	132
3352	15	縦長	黒安	3.9	2.5	1.2	18.7		437	3412	16	切片	黒真	4.9	5.9	1.2	28.7		42-3
3353	15	切片	黒安	4.8	2.1	2.3	21.2			3413	16	切片	黒安	2.6	1.3	0.5	1.1		
3354	15	切片	黒安	5.5	3.1	1.9	21.9			3414	16	切片	黒安	1.3	1.1	0.2	0.4		
3355	16	石状	黒安	7.9	5.5	4.1	130.9		73	3415	16	切片	黒安	2.7	1.9	0.8	6.0		
3356		欠番								3416	16	切片	黒安	1.8	1.7	0.4	1.0		
3357	16	切片	黒安	7.5	4.3	2.5	70.0			3417	16	切片	黒安	1.9	1.9	0.8	2.2		
3358	16	加工	黒安	5.3	5.8	1.1	44.3		133	3418	16	切片	黒安	1.1	1.6	0.2	0.4		
3359	16	縁石	輝安	24.8	17.4	4.9	299.0		562	3419	16	切片	黒安	2.8	6.1	1.5	30.6		38-2
3360	8	切片	黒安	4.0	4.4	0.5	11.4			3420	16	切片	黒安	2.0	1.1	0.6	1.4		
3361	13	礎	琉球	3.9	4.3	1.5	37.3			3421	16	切片	黒安	3.0	2.6	0.3	2.1		
3362	13	切片	黒安	2.1	1.3	0.7	1.4			3422	16	切片	黒安	1.4	1.2	0.3	0.6		
3363	13	打石	黒安	5.3	3.3	1.5	15.9		45	3423	16	切片	黒安	1.1	1.8	0.4	0.8		
3364	13	切片	黒安	5.0	3.9	1.6	25.7			3424	16	切片	黒安	2.0	1.3	0.7	1.4		
3365	13	小礎	黒真	3.3	2.1	1.2	8.9			3425	16	切片	黒安	1.5	1.0	0.5	0.7		
3366	13	切片	黒安	3.7	3.5	0.6	11.6			3426	16	切片	黒安	1.3	1.1	0.2	0.3		
3367	13	切片	黒安	2.1	1.0	0.2	0.6			3427	16	ナ形	黒安	3.6	2.8	1.1	9.6		12
3368	13	切片	黒安	1.5	0.8	0.2	0.3			3428	16	切片	黒真	1.5	1.8	0.3	0.6		
3369	13	切片	黒安	1.9	1.1	0.4	1.1			3429	16	切片	黒安	4.2	5.4	1.7	37.7		17-9
3370	13	切片	黒安	3.0	1.4	0.6	3.4			3430	16	加工	黒安	7.4	6.0	1.2	64.4		
3371	13	切片	黒安	1.4	0.9	0.2	0.4			3431	16	切片	黒安	2.0	3.8	1.0	9.5		
3372	13	切片	黒安	2.1	0.8	0.4	0.6			3432	16	切片	黒安	4.3	2.6	0.8	5.6		
3373	13	切片	黒安	1.2	0.8	0.2	0.3			3433	16	切片	黒安	3.9	2.1	0.7	3.9		
3374	13	ナ形	黒安	3.4	3.1	0.7	10.0	106'	7	3434	16	切片	黒安	2.7	2.2	0.5	2.5		
3375	13	切片	黒安	12.5	4.6	3.0	66.1	128'	12-2	3435	16	切片	黒安	4.1	2.6	1.6	15.7		
3376	13	縦長	黒安	2.9	2.2	0.5	4.9			3436	16	切片	黒真	6.4	7.8	2.0	87.5	106'	42-2
3377	13	切片	黒安	1.9	1.4	0.4	1.4			3437	16	切片	黒安	2.5	1.0	0.6	1.4		
3378	13	切片	黒安	4.3	3.5	1.8	22.3			3438	14	礎礎	黒真	2.0	1.4	0.9	2.6		
3379	13	切片	黒安	2.0	0.9	0.1	0.4			3439	14	切片	黒安	2.4	1.6	0.3	1.7		
3380	13	切片	黒安	3.5	1.0	0.5	2.2			3440	14	小礎	黒片	2.7	1.8	0.7	3.3		
3381	13	切片	黒安	5.6	3.5	1.8	36.5			3441	14	小礎	黒真	3.9	2.3	2.2	20.1		
3382		欠番								3442	14	礎	不明	5.7	4.0	2.1	62.4		
3383	13	加工	黒安	3.4	2.8	0.9	7.3		136	3443	14	加工	黒真	3.1	5.0	0.6	14.1	100'	135
3384	13	切片	黒安	5.0	3.8	0.7	14.3			3444	14	礎礎	黒真	1.9	1.2	0.7	2.3		
3385	13	切片	黒安	3.2	2.3	1.7	11.6			3445	14	切片	黒安	9.1	9.0	1.5	126.6		
3386	13	切片	黒安	3.4	3.2	0.8	9.6			3446	14	切片	黒安	2.4	2.0	0.9	3.3		
3387	13	切片	黒安	2.4	4.3	1.7	13.5			3447	14	切片	黒安	2.0	2.0	0.4	2.1		
3388	13	切片	黒安	3.8	4.1	0.9	10.6			3448	14	小礎	不明	2.4	2.0	1.1	5.3		
3389	13	切片	黒安	1.4	2.6	0.9	3.2			3449	14	切片	黒安	2.5	3.6	0.6	7.6		
3390	13	切片	黒安	4.8	2.5	0.8	12.5			3450	14	切片	黒安	2.6	1.6	0.6	2.2		
3391	13	切片	黒安	5.2	2.0	1.2	12.1			3451	14	切片	黒安	2.2	4.0	0.7	7.0		
3392	13	縦長	黒安	6.6	5.7	1.6	49.4		440	3452	16	切片	黒安	2.9	3.5	0.9	4.4		
3393	13	切片	黒安	6.3	3.0	0.6	34.4			3453	16	礎礎	黒真	0.9	2.1	0.6	1.2		
3394	13	切片	黒安	4.5	2.1	1.2	10.9			3454	16	切片	黒安	1.4	3.5	0.3	1.7		
3395		欠番								3455	16	礎礎	黒真	2.4	0.9	0.6	1.6		
3396	13	切片	黒安	1.5	2.9	0.4	2.2			3456	16	切片	黒安	3.2	3.1	1.8	23.0		
3397	13	切片	黒安	5.4	6.8	1.6	47.1			3457	16	切片	黒安	2.1	2.1	1.0	2.8		
3398	13	切片	黒安	3.7	2.0	1.0	5.2			3458	16	ナ形	黒安	4.4	2.0	6.0	5.7	101'	20
3399	13	切片	黒安	5.1	6.1	1.8	51.0		517	3459	16	礎礎	黒真	1.6	0.9	0.5	0.8		
3400	16	切片	黒安	5.5	3.5	2.3	30.6			3460	16	切片	黒安	4.7	5.0	1.1	47.6		

第5章 まとめ

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神田	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神田
3461	16	剥片	黒安	2.2	1.8	0.4	1.5			3521	16	縦長	黒安	4.6	4.3	1.5	38.1		34-1
3462	16	剥片	黒安	1.8	2.0	0.7	1.8			3522	16	剥片	黒安	3.9	3.7	1.7	22.3		
3463	16	剥片	黒安	1.7	2.7	0.5	3.9			3523	16	剥片	黒安	3.4	3.1	1.8	17.7		
3464	16	剥片	黒安	4.1	1.9	0.9	8.4			3524	16	剥片	黒安	3.2	3.0	0.5	4.7		
3465	16	剥片	黒安	6.6	2.7	0.9	8.5			3525	16	剥片	安	2.7	2.5	0.8	4.7		
3466	16	石状	黒安	6.6	2.8	0.9	16.0		335	3526	16	剥片	黒安	2.7	2.0	0.6	3.2		
3467	16	剥片	黒安	2.7	1.9	0.4	1.3			3527	16	剥片	黒安	3.7	3.1	1.6	13.9		15-4
3468	16	石状	黒安	4.6	5.8	3.0	81.5		66	3528	16	剥片	黒安	2.4	2.8	0.9	4.9		
3469	16	剥片	黒安	2.6	2.2	0.7	1.9			3529	16	剥片	黒安	3.2	1.8	0.5	2.2		
3470	16	剥片	黒安	2.8	3.1	1.5	13.1			3530	16	剥片	黒安	1.6	2.4	1.3	1.2		
3471	16	小磯	珪質	2.5	2.5	1.5	12.4			3531	16	剥片	黒安	3.3	2.1	0.5	3.1		
3472	16	剥片	黒安	6.9	5.2	2.8	98.5			3532	16	縦長	珪質	11.2	4.8	1.9	75.7	115'	443
3473	16	剥片	黒安	3.8	5.7	1.1	20.3		31-4	3533	16	石籠	黒安	6.0	4.3	2.2	43.8		38
3474	16	小磯	珪質	3.4	1.6	0.9	4.0			3534	16	剥片	黒安	2.6	2.1	0.6	3.8		29-4
3475	16	磯	珪質	8.7	9.2	7.0	629.8			3535	16	剥片	黒安	4.3	2.2	0.9	9.1		
3476	16	剥片	黒安	8.4	3.8	2.4	37.1			3536	16	剥片	黒安	3.1	2.9	1.1	9.3		25-1
3477	16	石刀	黒安	7.7	2.3	1.1	18.4		215	3537	16	縦長	黒安	4.4	2.5	0.7	8.6		439
3478	16	剥片	黒安	2.4	4.8	0.7	8.7			3538		欠番							
3479		欠番								3539	16	剥片	黒安	2.7	2.2	0.9	4.1		
3480	16	剥片	黒安	4.3	2.8	1.2	12.2			3540	16	剥片	黒安	3.7	2.9	0.8	8.5		
3481	16	剥片	黒安	3.0	3.9	1.1	12.9			3541	16	剥片	黒安	2.5	1.4	0.7	1.4		
3482	16	剥片	黒安	7.0	5.5	2.0	92.5			3542	16	剥片	黒安	4.9	4.0	0.8	17.1		
3483	16	籜器	黒安	5.4	3.3	2.2	33.2		36	3543	16	縦長	黒安	3.3	1.3	0.4	2.2		
3484	16	小磯	不明	2.4	1.6	1.0	4.3			3544	16	剥片	黒安	2.9	1.8	0.6	3.6		
3485	16	剥片	黒安	3.6	1.9	1.5	9.7			3545	16	剥片	黒安	2.1	2.3	0.6	2.9		
3486	16	剥片	黒安	3.3	2.1	1.1	5.3			3546	16	剥片	黒安	1.8	1.5	0.4	1.1		
3487	16	剥片	黒安	2.4	1.9	0.9	2.8			3547	16	剥片	黒安	2.2	2.7	0.9	6.2		27-1
3488	16	磯器	黒真	9.6	11.5	5.3	632.1		575	3548	16	剥片	黒安	2.5	2.1	1.0	5.4		
3489	16	剥片	黒安	4.7	2.6	0.9	8.2			3549	16	剥片	黒安	2.9	2.4	1.2	5.7		
3490	16	剥片	黒安	4.1	4.5	0.6	17.8			3550	16	剥片	黒安	4.6	6.8	3.0	69.1		25-3
3491	16	砂片	黒安	1.2	2.5	0.4	1.3			3551	16	剥片	黒安	3.2	1.4	1.0	1.8		
3492	16	石状	黒安	6.6	3.0	8.0	15.3		115'	3552	16	砂片	黒安	1.2	1.5	0.2	0.6		
3493	16	剥片	黒安	3.3	3.7	1.0	17.3		337	3553	16	剥片	黒安	2.4	2.3	0.6	3.7		
3494	16	石状	黒安	2.5	1.2	1.1	2.7		31-3	3554	16	剥片	黒安	3.1	1.0	0.8	2.2		
3495	16	剥片	黒安	5.0	4.1	1.1	26.5			3555	16	剥片	黒安	1.7	2.0	1.1	2.8		
3496	16	石状	黒安	7.9	6.5	4.5	132.2		75	3556	16	縦長	黒安	5.5	3.2	9.5	14.8		37-1
3497	16	剥片	黒安	1.7	1.8	0.5	1.9			3557	16	剥片	黒安	4.3	2.1	0.6	11.1		34-2
3498	16	磯器	黒真	3.7	2.0	1.4	54.0			3558	16	剥片	黒安	5.3	3.8	2.6	36.2		
3499		欠番								3559	16	剥片	黒安	6.2	8.6	2.5	136.2		16-10
3500	16	石状	黒真	5.3	2.4	0.8	10.4		325	3560	16	剥片	黒安	2.7	4.1	0.5	6.3		
3501	16	剥片	黒安	2.6	2.0	0.5	3.7			3561	16	剥片	黒安	2.7	2.8	1.1	5.9		
3502	16	剥片	黒安	3.4	3.1	0.6	6.7			3562	16	石籠	黒安	8.1	5.3	3.0	133.1		53
3503	16	石状	黒安	8.1	2.1	1.1	17.6		331	3563	16	剥片	黒安	5.8	7.5	3.4	52.5		26-1
3504	16	小磯	黒真	3.1	3.2	1.5	16.6			3564	16	石刀	黒真	14.1	5.0	2.0	126.1	115'	217
3505	16	剥片	黒安	3.1	3.1	0.6	5.8			3565	16	剥片	黒安	4.4	4.5	7.5	12.5	96'	37-2
3506	16	剥片	黒安	2.5	1.6	0.9	2.9			3566	16	剥片	黒安	4.5	2.7	1.5	13.7		
3507	16	小磯	黒真	2.4	1.6	0.6	3.9			3567	16	剥片	黒安	3.5	1.3	1.3	4.5		
3508	16	剥片	黒安	3.0	2.2	0.3	2.6			3568	16	剥片	黒安	4.1	3.8	1.1	16.8		
3509	16	石状	黒安	4.3	4.5	1.9	37.8		99	3569	16	剥片	黒安	5.7	6.7	1.5	41.5		
3510	16	剥片	黒安	3.2	1.9	0.7	2.7			3570	16	剥片	黒安	3.5	4.7	1.4	23.5		
3511	16	剥片	黒安	1.9	1.2	0.5	1.4			3571	16	剥片	黒安	5.0	2.5	0.8	10.4		22-3
3512	16	剥片	黒安	2.2	1.4	1.0	2.7			3572	16	使用	珪質	3.8	3.6	0.5	10.3	110'	160
3513	16	縦長	黒安	3.9	4.4	0.9	24.5		34-3	3573	16	剥片	黒安	5.1	7.3	2.4	70.5		
3514	16	十字	黒真	7.7	2.0	1.2	19.0		2	3574	16	加工	黒真	6.7	4.0	1.3	47.2		41-2
3515	16	剥片	黒安	2.4	3.4	1.1	10.3			3575		欠番							
3516	16	剥片	黒安	2.5	1.8	0.3	1.4			3576	16	剥片	黒安	3.1	4.1	1.2	17.1		
3517	16	剥片	黒安	4.5	3.4	1.2	14.8			3577	16	剥片	黒安	7.3	4.8	2.8	85.3		33-1
3518	16	縦長	黒真	6.1	3.7	1.8	28.2		41-4	3578	16	小磯	珪質	3.1	2.5	1.3	12.1		
3519	16	剥片	黒安	4.0	4.3	1.6	25.6			3579	16	小磯	黒真	4.9	3.0	1.9	35.4		
3520	16	剥片	黒安	2.6	4.2	0.8	10.4			3580	16	石状	黒安	5.9	4.5	2.4	64.4		

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固
3581	16	剥片	黒安	3.0	1.3	0.9	3.9			3641	10	剥片	黒安	4.3	2.6	0.9	11.3		
3582	16	剥片	黒安	3.4	3.6	1.0	9.3			3642	10	剥片	黒安	5.6	2.6	2.2	33.9		
3583	16	剥片	黒安	8.3	7.5	2.5	87.9		16-6	3643	10	石核	黒安	5.5	2.2	1.7	13.2		47
3584	16	縦長	黒安	4.0	2.2	0.5	5.3			3644	10	剥片	黒安	4.9	2.0	1.5	12.7		
3585	16	石核	黒安	4.6	8.4	4.2	203.6		33-2	3645	10	剥片	黒安	4.4	2.2	0.8	7.6		
3586	16	縦長	黒安	4.2	2.6	0.8	7.6		117 446	3646	10	使用	黒安	5.2	4.9	1.1	16.0		161
3587	16	剥片	黒安	3.3	2.1	0.8	4.5			3647	10	石核	黒安	8.8	4.1	1.2	48.7		104 340
3588	16	剥片	黒安	6.8	6.1	2.1	79.4		25-8	3648	10	剥片	黒安	3.7	4.5	2.0	26.9		
3589	16	剥片	黒安	7.1	2.8	2.0	27.2			3649	10	石核	黒安	5.9	3.1	0.9	17.0		341
3590	16	剥片	黒安	5.3	7.9	1.7	76.6		16-5	3650	10	剥片	黒安	3.0	1.6	0.5	2.2		
3591	16	縦長	黒安	3.8	1.4	0.6	3.8			3651	10	剥片	黒安	4.3	3.4	1.1	12.3		
3592	16	剥片	黒安	2.7	2.2	0.5	2.5			3652	10	剥片	黒安	3.9	2.6	1.1	9.0		
3593	16	打作	黒安	5.6	4.8	1.5	42.6		125 18-1	3653	10	剥片	黒安	6.2	3.2	2.1	49.0		
3594	16	剥片	黒安	7.5	7.9	2.9	169.8		18-6	3654	10	石核	黒安	5.3	3.5	3.7	71.8		8-1
3595	16	縦長	黒安	3.6	2.3	0.6	5.7		445	3655	10	彫器	黒安	7.8	5.2	2.1	96.1		127 34
3596	16	剥片	黒安	7.4	4.0	1.8	6.8		18-2	3656	10	縦長	黒安	2.4	2.1	0.5	3.2		
3597	16	剥片	黒安	6.0	3.5	1.8	37.0		18-3	3657	10	縦長	黒安	5.5	1.8	0.8	7.8		110 448
3598	16	縦長	黒安	6.1	3.4	1.8	20.3		441	3658	10	縦長	黒安	4.9	2.7	0.5	9.1		
3599	16	縦長	黒安	5.0	1.6	0.8	4.7			3659	10	加工	黒安	2.2	2.4	0.9	4.8		
3600	13	剥片	黒安	3.8	3.8	2.2	31.7			3660	10	剥片	黒安	4.3	5.5	2.4	53.1		
3601	13	縦長	黒安	5.5	4.1	1.3	31.3		120 451	3661	10	剥片	黒安	4.2	2.8	1.1	12.0		
3602	13	剥片	黒安	2.8	1.9	0.5	2.6			3662	10	縦長	黒安	3.0	1.7	0.6	4.7		
3603	9	縦長	黒安	4.6	1.9	0.7	6.5			3663	10	剥片	黒安	4.3	1.5	1.1	6.3		
3604	9	剥片	黒安	5.3	2.1	1.1	11.3			3664	10	剥片	黒安	2.8	1.7	0.6	2.5		
3605	9	剥片	黒安	6.6	9.1	3.2	152.8			3665	10	剥片	黒安	1.7	2.2	0.5	1.9		
3606	10	石核	黒安	6.1	5.0	2.5	65.4		80	3666	10	剥片	黒安	3.2	2.3	0.9	6.1		
3607	10	石核	黒安	6.3	5.9	2.4	84.5		10-2	3667	10	剥片	黒安	4.1	6.5	1.9	9.1		11-1
3608	10	剥片	黒安	1.9	0.9	0.7	1.3			3668	10	剥片	黒安	3.7	7.2	1.0	22.7		
3609	10	砕片	黒安	1.0	1.6	0.2	0.2			3669	10	石核	黒安	7.8	6.6	4.3	217.1		67
3610	10	石核	黒安	7.8	5.6	3.9	188.8		9-2	3670	10	剥片	黒安	3.2	2.7	1.4	9.9		
3611	10	剥片	黒安	3.0	2.6	0.8	7.3			3671	10	縦長	黒安	5.5	3.4	1.3	20.6		118 450
3612	10	砕片	黒安	0.9	2.1	0.7	1.1			3672	10	剥片	黒安	5.5	3.5	0.6	36.9		518
3613	10	剥片	黒安	5.1	4.0	1.6	30.7			3673	10	剥片	黒安	2.7	2.7	0.7	4.6		
3614	10	剥片	黒安	7.6	4.6	2.3	63.8			3674	10	縦長	黒安	6.2	3.2	1.7	31.9		119 453
3615	10	剥片	黒安	2.6	1.8	0.7	3.2			3675	10	縦長	黒安	4.5	2.9	0.6	9.3		108 446
3616	10	石核	黒安	6.1	6.4	2.7	113.3		88	3676	10	縦長	黒安	3.0	4.5	0.9	13.3		
3617	10	剥片	黒安	3.7	5.9	0.9	16.7			3677	10	剥片	黒安	3.7	3.7	0.7	13.3		114 7-1
3618	10	剥片	黒安	4.3	2.8	0.9	17.7			3678	10	剥片	黒安	4.1	6.5	1.9	21.6		11-2
3619	10	剥片	黒安	4.8	2.5	1.0	7.2			3679	10	剥片	黒安	5.6	3.7	1.4	22.5		
3620	10	石核	黒安	5.9	1.8	1.1	10.6		117 333	3680	10	剥片	黒安	2.8	2.0	0.6	3.3		
3621	10	剥片	黒安	1.9	2.1	0.7	2.0			3681	10	縦長	黒安	5.3	3.8	1.7	30.2		7-2
3622	10	縦長	黒安	5.9	2.9	1.5	19.3		447	3682	10	剥片	黒安	3.0	2.6	1.3	8.4		
3623	10	剥片	黒安	1.5	1.8	1.0	2.2			3683	10	剥片	黒安	5.8	3.6	0.7	22.8		518
3624	10	剥片	黒安	3.2	1.5	1.2	3.8			3684	10	石核	黒安	9.4	3.6	2.8	83.5		49
3625	10	剥片	黒安	2.7	1.2	0.9	3.6			3685	10	石核	黒安	11.2	8.9	5.5	504.0		92
3626	10	砕片	黒安	1.6	2.5	1.3	4.1			3686	10	縦長	黒安	3.3	1.6	0.6	2.7		
3627	10	石核	黒安	5.3	1.8	0.9	7.7		116 339	3687	10	縦長	黒安	5.2	3.3	0.9	16.9		
3628	10	砕片	黒安	2.0	1.1	0.4	0.8			3688		欠番							
3629	10	剥片	黒安	7.7	3.4	2.7	48.2		8-2	3689	10	剥片	黒安	3.0	1.9	0.7	5.1		
3630	10	剥片	黒安	4.7	2.6	0.6	7.8			3690	10	剥片	黒安	3.5	5.3	1.2	19.9		
3631	10	剥片	黒安	3.0	1.1	1.2	4.4			3691	10	剥片	黒安	5.6	2.9	1.6	16.2		
3632	10	剥片	黒安	2.3	3.8	2.0	17.4			3692	10	縦長	黒安	3.9	2.3	0.7	5.3		107 452
3633	10	剥片	黒安	3.2	1.4	0.5	2.9			3693	11	打再	黒安	6.8	7.6	2.5	119.2		41
3634	10	石核	黒安	7.2	1.9	0.9	12.5		96 345	3694	11	小礫	黒真	3.2	3.0	0.5	6.5		
3635	10	剥片	黒安	1.6	1.6	0.6	2.2			3695	8	剥片	黒真	1.9	2.4	0.5	1.9		
3636	10	剥片	黒安	4.9	1.7	1.3	7.0			3696	8	石核	黒真	2.4	2.2	0.5	4.4		109 349
3637	10	剥片	黒安	6.1	4.1	2.1	51.3			3697	8	縦長	黒安	8.3	3.0	1.1	21.5		454
3638	10	剥片	黒安	1.7	1.6	0.3	0.9			3698	8	縦長	黒安	1.7	1.6	0.6	2.0		
3639	10	縦長	黒安	7.8	3.9	2.3	52.5		449	3699		欠番							
3640	10	剥片	黒安	2.5	4.3	1.4	13.6			3700	16	小礫	不明	4.3	2.9	1.3	20.3		

第5章 ま と め

番号	ブ	機種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固	番号	ブ	機種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿固
3701	16	小磯	珪灰	2.7	2.0	0.9	4.1			3761	1	石核	黒安	6.6	6.8	3.0	115.8		3-5
3702	16	剥片	黒真	1.3	1.8	0.4	0.8			3762	1	剥片	黒安	11.2	7.4	3.9	278.7		3-4
3703	16	剥片	黒安	3.0	2.6	1.5	17.2		520	3763	1	剥片	珪真	3.5	3.2	0.9	11.0		
3704	16	石核	黒真	6.3	2.4	5.4	7.5	109°	338	3764	1	剥片	黒安	2.9	3.1	1.6	9.2		
3705	16	縦長	黒安	2.8	1.8	1.1	5.2			3765	1	剥片	珪真	7.6	5.8	2.0	78.2		3-1
3706	16	剥片	黒安	1.8	3.1	0.6	2.8			3766	1	剥片	黒安	7.0	4.9	3.8	89.5		4-3
3707	16	剥片	黒安	2.5	2.4	1.1	5.1			3767	1	十字	珪真	4.5	1.8	0.5	5.2		13
3708	16	加工	黒安	2.8	2.0	0.4	3.1			3768	1	剥片	黒安	2.6	3.2	1.0	7.8		
3709	16	剥片	黒安	2.5	1.5	1.3	4.6			3769	1	剥片	珪真	2.3	2.3	1.0	5.5		
3710	16	剥片	黒安	2.1	1.8	0.8	2.3			3770	1	石核	珪真	2.7	3.7	1.3	13.3		
3711	16	剥片	黒安	3.7	1.8	1.1	7.1			3771	1	縦長	珪真	7.0	3.6	1.9	53.4		2-2
3712	16	剥片	黒安	2.0	1.3	0.7	1.6			3772	1	剥片	黒安	8.0	3.3	2.4	10.5		3-2
3713	16	縦長	黒安	4.3	5.6	1.5	50.7		458	3773	1	縦長	黒真	6.2	2.8	0.9	13.3		456
3714	16	剥片	黒安	1.9	2.1	0.7	2.1			3774	1	縦長	黒真	11.0	4.3	1.9	91.9		457
3715	16	剥片	黒安	7.9	5.6	2.1	87.0		23-2	3775	1	剥片	黒安	1.5	3.2	0.7	3.5		
3716	16	加工	黒安	2.9	4.3	1.1	13.5		138	3776	1	石核	珪真	7.3	8.7	5.1	338.8		98
3717	16	剥片	黒安	5.5	2.1	1.1	12.8			3777	1	剥片	黒安	10.0	8.4	2.4	180.0		4-2
3718	16	剥片	黒安	5.1	6.0	1.7	37.2			3778	1	石刃	黒真	9.4	2.6	1.0	24.6	108°	218
3719	16	塵	砂	6.7	4.6	1.2	33.5			3779	1	剥片	黒安	5.9	5.9	2.1	55.3		
3720	16	剥片	黒安	1.8	1.6	0.7	1.9			3780	1	石核	黒安	10.6	7.2	2.8	160.0		4-5
3721	16	剥片	黒安	2.1	1.3	1.0	2.6			3781	1	剥片	黒安	3.8	1.9	0.9	3.1		
3722	16	砕片	黒安	1.9	1.6	0.4	1.2			3782	1	使用	珪真	4.0	4.8	1.7	22.5		1-5
3723	16	剥片	黒安	1.8	3.2	0.8	4.7			3783	1	石状	珪真	7.6	2.9	1.1	21.7	106°	2-1
3724	16	貼石	黒安	12.0	6.2	5.5	499.0		555	3784	1	剥片	黒安	5.0	3.5	1.5	31.0		4-1
3725	16	小磯	砂	5.0	3.9	1.7	40.0			3785	1	剥片	黒安	3.9	1.7	0.5	4.6		
3726	16	剥片	黒安	5.9	10.8	3.7	208.1		17-4	3786	1	剥片	黒安	3.9	1.8	1.0	8.8		
3727		欠番								3787	1	剥片	黒安	3.2	2.7	0.6	3.4		
3728	16	剥片	黒安	5.2	3.0	0.9	13.7			3788	1	剥片	黒安	4.0	7.7	1.7	36.9		
3729	16	縦長	黒安	4.4	7.0	4.2	103.3			3789	1	縦長	黒真	3.9	1.8	0.4	2.5	105°	455
3730	16	縦長	黒安	3.6	1.8	0.5	3.6			3790	1	剥片	珪真	5.0	6.4	1.0	43.2	125°	1-3
3731	16	剥片	黒安	2.2	1.3	0.5	1.1			3791	1	剥片	黒安	3.9	2.5	2.6	11.7		
3732	16	剥片	黒安	2.3	1.8	0.8	2.6			3792	1	縦長	珪真	6.0	3.7	0.7	21.7		450
3733	16	加工	黒安	3.6	6.2	1.1	25.9			3793	1	剥片	黒安	7.2	3.9	1.4	30.0		
3734	16	加工	黒安	1.5	1.2	0.4	1.9		134	3794	1	縦長	珪真	4.8	2.8	0.4	8.6		
3735	16	石状	黒真	9.3	3.7	1.1	31.9		344	3795	1	剥片	珪真	5.9	2.6	1.1	14.8		1-4
3736	16	剥片	黒安	3.5	2.4	0.5	4.1			3796	1	剥片	珪真	6.1	10.0	2.5	160.5		1-1
3737	16	剥片	黒真	6.4	10.0	1.5	102.5			3797	1	剥片	珪真	6.7	12.5	2.5	200.0		1-2
3738	16	剥片	黒安	4.2	3.5	1.8	22.4			3798	1	剥片	珪真	4.0	5.0	0.6	14.2		
3739	16	縦長	黒安	5.2	6.1	2.0	49.3		458	3799	1	剥片	珪真	1.9	0.7	0.4	0.8		
3740	16	縦長	黒安	4.5	1.1	0.9	4.8			3800	1	剥片	黒安	1.3	3.5	0.6	3.3		4-4
3741	16	剥片	黒真	1.6	1.7	0.1	0.9			3801	1	砕片	黒安	1.9	1.4	0.4	1.1		
3742	16	縦長	珪真	1.4	1.4	0.8	2.0			3802	2	剥片	黒安	2.1	2.4	0.7	3.6		
3743	16	剥片	黒安	5.7	4.1	1.6	49.7			3803	2	使用	珪真	5.4	4.0	0.9	27.2		
3744	16	剥片	黒安	7.8	3.8	3.3	48.6		17-3	3804	2	石状	黒真	4.1	3.8	1.4	23.4		350
3745	16	剥片	黒安	2.4	1.7	0.3	1.7			3805	2	剥片	黒安	2.5	3.9	1.5	11.5		
3746	16	剥片	黒安	3.5	2.3	0.5	3.7			3806	2	剥片	黒安	5.7	3.2	0.6	50.7		521
3747	16	剥片	黒安	3.4	2.1	0.5	5.0			3807	2	剥片	砂	5.4	3.4	2.5	19.2		
3748	16	剥片	黒安	2.6	1.5	0.3	1.3			3808	2	小磯	黒真	3.6	2.7	1.6	1.8		
3749	1	剥片	黒安	2.0	2.9	0.7	3.6			3809	3	石状	黒真	5.3	2.1	0.7	6.2	103°	342
3750	1	剥片	珪真	7.2	2.6	0.9	15.5			3810	3	剥片	黒安	2.8	2.8	1.4	6.3		
3751	1	小磯	珪真	1.6	1.5	0.9	2.7			3811	3	加工	黒安	3.5	5.6	1.5	26.5		139
3752	1	剥片	黒安	1.9	1.7	0.4	1.5			3812	3	剥片	黒安	4.9	5.2	2.4	68.5		
3753	1	使用	黒真	6.0	2.8	0.8	11.4			3813	3	縦長	黒安	6.4	2.8	1.2	22.2		463
3754	2	石状	珪真	6.7	3.0	1.1	18.8		347	3814	3	縦長	黒安	3.6	1.9	0.9	5.4		463
3755	1	砕片	黒安	1.4	1.2	0.2	0.3			3815	3	剥片	黒真	4.0	5.5	0.8	20.6		
3756	1	石状	黒安	4.5	3.2	1.2	19.9		348	3816	2	剥片	黒安	6.4	3.4	0.9	13.3		
3757	1	剥片	珪真	4.8	1.9	1.0	7.8			3817	2	石状	黒安	5.9	3.2	0.7	11.3		336
3758	1	剥片	黒安	5.9	3.3	2.4	41.2		3-2	3818	2	剥片	黒安	5.3	8.2	3.2	86.5		
3759	1	剥片	黒安	10.0	5.8	3.1	160.0			3819	2	剥片	黒安	8.0	9.0	2.7	143.7		5-1
3760	1	石核	珪真	9.2	6.6	3.8	236.0		97	3820	2	剥片	黒安	4.9	1.4	0.9	4.9		

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨因	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨因	
3821	2	剥片	黒安	3.7	1.8	0.7	3.6			3881	4	縦長	黒安	2.7	1.0	0.4	0.7			
3822		欠番								3882		欠番								
3823	2	縦長	黒安	5.4	1.8	1.0	10.3		464	3883	4	剥片	黒安	3.8	3.8	0.9	12.4			
3824	2	縦長	黒安	3.2	2.0	0.6	3.1			3884	4	剥片	黒安	2.2	2.7	0.7	3.5			
3825	2	砕片	黒安	1.8	1.1	0.3	0.6			3885		欠番								
3826	2	砕片	黒安	1.9	1.3	0.2	0.6			3886	5	剥片	黒安	5.0	5.8	1.7	48.9			
3827	2	剥片	黒安	11.4	7.2	2.6	117.0		5-2	3887	5	剥片	黒安	1.5	1.4	0.5	1.4			
3828	2	剥片	黒安	3.1	3.1	0.4	4.0			3888	5	小礫	輝緑	2.6	1.9	0.8	5.7			
3829	2	縦長	黒安	4.6	2.6	0.7	9.4			3889	5	石状	黒安	7.2	2.4	0.7	13.0	119'	346	
3830	2	剥片	黒安	3.7	3.5	0.6	7.8			3890	5	剥片	黒安	3.8	2.7	1.1	11.0			
3831	2	石状	黒安	2.6	1.6	0.4	2.3		321	3891	5	剥片	黒安	4.1	4.1	1.4	22.2			
3832	2	剥片	黒安	3.6	3.6	0.9	9.2			3892	5	剥片	黒安	2.3	2.1	0.7	3.6			
3833	2	剥片	黒安	3.4	3.6	1.5	13.5			3893	5	縦長	黒安	2.9	1.2	0.4	1.2			
3834	2	剥片	黒安	2.1	3.2	0.3	1.8			3894	5	剥片	黒安	2.2	1.4	0.4	1.6			
3835	2	剥片	黒安	2.1	1.6	0.3	1.3			3895	5	剥片	黒安	2.6	2.1	1.1	4.4			
3836	2	剥片	黒安	3.7	2.0	0.6	2.9			3896		欠番								
3837	2	剥片	黒安	2.1	1.2	0.5	1.1			3897	5	剥片	黒安	5.3	3.2	2.8	57.3			
3838	2	剥片	黒安	5.5	3.3	1.7	34.3			3898	5	縦長	黒安	8.2	3.1	1.6	45.4			
3839	2	砕片	黒安	2.1	0.9	0.5	1.1			3899	5	剥片	黒安	3.4	4.7	2.0	25.9			
3840	2	剥片	黒安	4.5	2.5	0.9	7.8			3900	8	剥片	黒安	8.3	7.4	1.3	73.6	105'	523	
3841	2	剥片	黒安	5.0	4.5	1.3	28.7			3901	8	縦長	黒安	1.9	1.6	0.5	1.4		462	
3842		欠番								3902	8	剥片	黒安	4.2	2.2	1.2	8.3			
3843	3	砕片	黒安	0.6	1.6	0.1	0.2			3903	8	加工	黒安	6.7	6.3	1.1	62.7	115'	137	
3844	3	縦長	黒頁	8.6	2.8	1.2	20.4		113'	465	3904	8	縦長	黒頁	5.6	3.2	0.7	13.6	115'	461
3845	3	剥片	黒頁	5.0	6.0	1.2	31.7			3905	8	剥片	黒安	5.8	5.2	1.7	53.2			
3846	3	剥片	黒安	2.9	1.0	0.4	0.9			3906		欠番								
3847	3	剥片	黒安	4.1	3.3	1.1	18.3		123'	522	3907	9	剥片	黒安	10.3	9.4	2.3	158.4		
3848	3	剥片	黒安	3.5	2.1	0.5	5.1			3908	9	加工	黒安	2.7	3.4	0.8	6.7			
3849	3	剥片	黒安	2.1	3.4	0.5	2.7			3909	9	石核	黒安	4.7	7.4	3.9	112.9		78	
3850	3	十形	黒頁	6.7	1.9	1.0	11.5		3	3910	9	縦長	黒安	6.9	4.4	1.0	35.7			
3851	3	剥片	黒安	2.2	2.3	0.7	2.6			3911	9	縦長	黒安	5.8	2.1	1.4	20.5		468	
3852	4	剥片	黒安	5.7	4.4	2.3	59.0			3912	9	剥片	黒安	2.0	1.9	0.7	2.3			
3853	4	剥片	黒安	5.4	3.2	1.2	14.6			3913	9	石状	黒安	6.5	2.4	1.1	16.5	122'	356	
3854	4	縦長	黒頁	7.4	4.8	2.3	9.4		466	3914	9	石核	黒安	6.2	6.0	2.3	97.1		54	
3855		欠番								3915	9	砕片	黒安	1.3	1.3	0.5	0.7			
3856	4	剥片	黒安	7.2	4.8	4.0	113.9			3916	9	剥片	黒安	3.9	2.1	0.9	5.5			
3857	4	縦長	黒安	6.1	4.9	1.1	19.5		467	3917	9	石核	黒安	4.6	7.2	2.6	88.1		68	
3858	4	剥片	黒安	5.5	3.2	2.4	22.4			3918	9	剥片	黒安	5.4	8.5	1.2	52.8		526	
3859		欠番								3919	9	石核	黒安	6.9	4.9	2.8	124.8		79	
3860		欠番								3920	9	加工	黒曜	2.3	1.8	1.0	4.4		113	
3861	4	剥片	黒安	2.2	2.5	0.8	3.9			3921	9	剥片	黒安	3.0	2.4	0.9	8.2			
3862	4	剥片	黒安	3.6	2.1	0.9	5.7			3922	10	石核	黒安	8.1	8.3	4.1	241.8		11-3	
3863	4	剥片	黒安	2.9	3.6	0.8	10.1			3923	10	剥片	黒安	7.2	6.3	2.2	68.8			
3864	4	剥片	黒安	2.8	3.7	1.1	14.6			3924	10	剥片	黒安	2.1	1.2	0.4	1.0			
3865	4	剥片	黒安	5.6	3.9	2.2	44.9			3925	10	剥片	黒安	3.0	2.1	0.9	4.2			
3866	4	砕片	黒安	1.6	1.5	0.4	0.6			3926	10	縦長	黒安	2.7	1.6	0.4	1.8			
3867	4	剥片	黒安	4.9	3.0	1.1	14.9			3927	10	剥片	黒安	4.0	2.4	1.4	14.9			
3868	4	剥片	黒安	3.7	4.1	0.9	15.6			3928	10	剥片	黒安	3.9	2.0	0.5	3.9			
3869	4	剥片	黒安	1.7	3.5	0.5	2.3			3929	10	剥片	黒安	3.6	2.6	0.9	6.4			
3870	4	剥片	黒安	4.3	3.1	2.3	22.1			3930	10	剥片	黒安	3.9	2.7	1.0	9.1			
3871	4	剥片	黒安	5.2	1.6	1.2	7.5			3931	10	剥片	黒安	4.7	1.7	1.4	9.8			
3872	4	剥片	黒安	3.1	2.4	0.9	4.3			3932	10	剥片	黒安	3.4	4.7	1.0	13.6			
3873	4	打再	黒安	5.1	5.1	2.6	66.6		115'	40	3933	10	剥片	黒安	2.4	3.4	0.8	11.2		
3874	4	剥片	黒安	2.8	1.5	0.4	1.3			3934		欠番								
3875	4	剥片	黒安	4.2	4.0	1.3	21.2			3935	10	剥片	黒安	3.9	2.3	0.9	8.2			
3876	4	縦長	黒安	4.2	1.7	0.9	5.6			3936	10	縦長	黒安	5.0	2.1	1.4	12.2			
3877	4	剥片	黒安	3.2	3.1	0.4	3.6			3937	10	剥片	黒安	3.3	1.7	1.3	5.4			
3878	4	剥片	黒安	2.7	2.7	1.8	8.6			3938	10	剥片	黒安	5.5	3.5	1.7	23.0			
3879	4	剥片	黒安	3.9	4.8	1.0	18.0			3939	10	剥片	黒安	3.2	4.1	1.9	26.3			
3880	4	剥片	黒安	2.7	2.0	1.6	7.6			3940	10	縦長	黒安	3.7	1.5	0.7	3.8		460	

第5章 ま と め

番号	ブ	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨因	番号	ブ	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨因
3941	10	剃片	黒安	1.9	1.2	0.3	0.6			4001	16	剃片	黒安	6.8	8.9	2.1	108.7		21-5
3942	10	剃片	黒安	2.5	1.2	0.5	1.3			4002	16	石核	黒安	7.3	8.2	3.5	217.4		91
3943	10	剃片	黒安	3.7	2.2	0.6	6.1			4003	16	剃片	黒安	4.3	2.4	1.6	11.0		
3944	10	剃片	黒安	2.5	1.8	0.7	1.9			4004	16	剃片	黒安	2.5	2.8	0.9	3.7		
3945	10	剃片	黒安	3.7	3.7	1.4	15.5			4005	16	剃片	黒安	1.8	2.5	0.5	2.2		
3946	10	剃片	黒安	3.4	2.7	0.6	4.9			4006	16	縦長	黒安	6.4	1.9	1.3	13.2		
3947	10	石核	黒安	10.1	8.2	3.5	275.6		102	4007	16	剃片	黒安	3.0	6.8	1.5	22.7		
3948	10	剃片	黒安	3.7	1.0	0.9	6.6			4008	16	砕片	黒安	2.6	1.7	0.4	1.1		
3949	10	剃片	黒安	4.2	5.4	1.5	32.7			4009	16	小礫	不明	3.0	2.0	1.1	8.0		
3950	10	縦長	黒安	2.2	1.2	0.5	1.7			4010	16	加工	黒真	9.0	4.1	1.0	53.9	105'	141
3951	10	剃片	黒安	3.6	3.7	0.9	8.7		19-1	4011	16	小礫	黒真	3.1	2.7	0.9	8.2		
3952	10	剃片	黒安	3.0	3.9	0.9	10.7			4012	16	剃片	黒安	2.9	1.4	0.7	2.3		
3953	10	剃片	黒安	5.0	2.2	1.5	12.5			4013	16	石状	黒真	7.0	3.2	0.9	29.8	107'	382
3954	10	石状	黒安	3.0	2.3	0.7	6.1		9-1	4014	16	剃片	黒安	3.6	5.8	0.9	18.0		
3955	10	小礫	輝安	2.4	1.5	1.0	3.2			4015	16	剃片	黒安	4.4	3.6	0.6	11.4		
3956	10	石核	黒安	5.7	4.8	1.4	61.7		109'	4016		欠番							
3957	10	剃片	黒安	3.1	1.7	0.5	3.2		55	4017	16	剃片	黒安	6.2	8.6	2.5	63.8		16-9
3958	10	剃片	黒安	3.2	2.8	1.0	5.8			4018	16	加工	黒真	6.0	3.6	0.7	19.1	102'	144
3959	10	礫	黒真	6.3	5.8	2.5	105.4			4019	16	小礫	輝安	6.2	3.0	2.0	2.7		
3960		欠番								4020	16	剃片	黒安	4.3	4.4	1.3	20.0		39-1
3961	11	剃片	黒安	3.2	2.4	1.2	8.0			4021	16	石核	黒安	6.9	3.5	2.9	74.4		22-4
3962	11	剃片	黒安	3.7	4.5	0.7	10.9			4022	16	剃片	黒安	5.1	4.1	0.8	16.4		
3963	11	剃片	黒安	6.8	3.3	3.2	50.5			4023	16	剃片	黒安	2.6	1.6	0.8	3.4		
3964	11	剃片	黒安	8.7	5.5	2.5	80.0			4024	16	剃片	黒安	4.0	7.4	3.7	104.7		
3965	11	縦長	黒安	3.6	2.0	1.1	12.6			4025	16	剃片	黒安	6.5	3.5	2.5	76.7		19-5
3966	11	剃片	黒安	1.8	2.3	0.7	3.2			4026	16	縦長	黒安	4.2	2.2	1.5	7.9		
3967	11	剃片	瑠安	1.4	1.1	0.4	0.7			4027	16	縦長	黒安	2.0	1.9	0.2	1.4		18-4
3968	11	剃片	黒安	2.6	1.0	0.7	1.5			4028	16	加工	黒安	2.3	5.3	0.8	15.3	110'	140
3969	11	砕片	黒安	2.0	0.9	0.2	0.4			4029	16	剃片	黒安	2.2	3.7	0.7	4.6		
3970	11	剃片	黒安	4.1	3.7	1.8	22.8			4030	16	剃片	黒安	9.7	6.1	2.0	120.1		16-2
3971	11	剃片	黒安	2.1	1.6	0.4	1.3			4031	16	剃片	黒安	2.2	1.2	0.4	1.4		
3972	11	剃片	黒安	3.5	1.1	0.7	1.7			4032	16	石核	黒安	5.1	8.2	2.8	110.6		19-7
3973	11	剃片	黒安	2.2	1.3	0.6	1.6			4033	16	石核	黒安	6.8	9.1	3.7	188.7		30-3
3974	11	剃片	黒安	3.8	3.0	1.1	9.6			4034	16	縦長	黒安	4.8	2.0	1.5	11.3		
3975	11	石核	黒安	4.7	5.0	2.5	53.3		59	4035	16	剃片	黒安	2.4	2.1	1.2	9.4		
3976	11	剃片	黒安	2.4	1.3	1.4	3.1			4036	16	剃片	黒安	4.3	3.6	2.2	33.0		
3977	11	剃片	黒安	4.8	6.6	2.3	71.5			4037	16	剃片	黒安	1.9	2.8	0.7	3.0		
3978	11	剃片	黒真	4.4	4.6	2.7	65.7			4038	16	縦長	黒安	4.6	1.5	0.8	6.4		19-1
3979	11	剃片	黒安	4.2	1.2	0.6	2.8			4039		欠番							
3980	11	剃片	黒安	6.7	3.0	2.3	41.5			4040	16	剃片	黒安	3.3	2.4	1.1	4.3		
3981	11	剃片	黒安	4.2	3.5	1.6	19.6			4041	16	剃片	黒安	3.7	4.6	1.2	14.6		
3982	8	剃片	黒安	5.1	6.1	2.1	41.4			4042	16	剃片	黒安	6.7	6.5	3.4	131.7		
3983	8	剃片	黒真	3.0	1.4	0.6	2.5			4043	16	剃片	黒安	6.3	5.9	2.3	74.1		25-7
3984	8	石核	黒安	7.7	8.9	7.7	521.0		69	4044	16	縦長	黒安	6.3	2.4	1.3	18.4		28-1
3985	8	剃片	黒安	4.4	2.0	1.2	7.4			4045	16	縦長	黒安	7.7	5.0	2.6	85.7	122'	35-2
3986	8	石状	黒安	7.6	2.7	1.6	26.8		95'	4046	16	剃片	黒安	2.9	1.1	0.4	1.3		
3987	8	剃片	黒安	5.0	6.7	1.4	49.9		352	4047	16	剃片	黒安	4.7	2.5	1.0	13.1		
3988	8	剃片	黒安	4.2	4.3	1.6	22.3			4048	16	縦長	黒安	4.7	2.3	1.2	13.1		469
3989	8	石核	黒安	6.6	5.8	2.3	113.6		125'	4049	16	剃片	黒安	7.6	4.4	1.5	64.8		
3990	8	ナ形	黒安	3.8	2.5	0.8	5.5		18	4050	16	礫	輝安	7.8	5.2	3.0	115.4		
3991	8	剃片	黒安	4.3	4.6	1.6	25.7			4051	16	縦長	黒安	6.0	1.5	1.2	8.0		
3992	8	剃片	黒安	6.0	5.0	2.6	84.4			4052	16	剃片	黒安	6.9	5.9	2.7	92.4	126'	24-1
3993	8	剃片	黒安	5.5	5.7	2.8	56.2			4053	16	剃片	黒安	2.6	4.3	1.6	12.2		
3994	8	剃片	黒安	6.9	5.6	2.0	87.4		6-1	4054	16	剃片	黒安	4.2	1.7	0.4	3.7		
3995	8	縦長	黒安	3.1	2.7	1.2	9.6			4055	16	剃片	黒安	8.4	5.0	1.6	98.0		16-4
3996	8	剃片	黒安	2.6	2.1	0.9	5.6			4056	16	剃片	黒安	3.5	1.7	0.6	4.6		39-5
3997	8	石核	黒安	6.8	4.8	3.6	116.7		72	4057	16	縦長	黒安	4.0	2.8	1.0	9.5		
3998		欠番								4058	16	剃片	黒安	2.2	2.2	0.4	1.9		
3999	8	石状	黒真	7.5	3.3	0.8	23.0		100'	4059	16	礫	点真	1.4	0.9	0.3	0.5		
4000		欠番							358	4060	16	剃片	黒安	5.8	6.3	1.4	66.7		18-5

番号	ア	形状	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神田	番号	ア	形状	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神田	
4061	16	縦長	黒安	9.8	2.1	2.3	30.7	125'	28-2	4121	6	割片	黒安	5.3	4.4	1.1	31.6	111'	527	
4062	16	縦長	黒安	3.3	1.8	0.6	3.8			4122	6	加工	黒安	4.8	3.2	2.7	28.2			
4063	16	割片	黒安	2.8	1.5	0.6	2.7			4123	6	割片	黒安	4.2	2.4	0.5	4.5			
4064	16	使用	黒安	8.0	5.4	3.4	136.8			4124	6	縦長	黒安	4.9	2.8	1.0	11.3	122'	471	
4065	16	縦長	黒安	5.2	1.8	1.1	8.7			4125	6	縦長	黒安	5.1	2.7	2.1	22.0	96'	475	
4066	16	小礫	黒真	2.2	1.5	0.8	3.6			4126	6	小礫	黒真	4.1	2.6	2.0	21.1			
4067	16	縦長	黒安	7.5	2.3	2.3	34.9		19-6	4127	6	割片	黒安	4.9	3.5	1.4	18.3			
4068	16	割片	黒安	7.8	6.5	4.1	141.4			4128	10	石状	黒安	6.3	3.0	0.9	17.2	105'	354	
4069		欠番								4129	7	割片	黒安	4.4	2.9	1.3	16.1			
4070	16	割片	黒安	5.5	9.2	1.5	127.0		16-3	4130	7	割片	黒安	5.8	2.1	1.3	15.1			
4071	16	石核	黒安	6.6	4.8	4.0	106.1		84	4131	7	割片	黒安	2.3	1.4	0.6	1.8			
4072	16	縦長	黒安	4.7	1.1	0.6	2.5		472	4132	7	割片	黒安	2.6	2.1	0.7	2.8			
4073	16	石核	黒安	6.3	5.8	2.1	87.8		58	4133	7	割片	黒安	2.4	1.5	0.7	1.9			
4074	16	縦長	黒安	5.0	0.3	1.5	14.8		470	4134	7	縦長	黒安	4.4	2.7	1.0	10.9			
4075	16	縦長	黒安	5.2	2.9	0.8	11.8		25-2	4135	7	割片	黒安	4.4	2.5	1.3	7.5			
4076	16	割片	黒安	2.3	1.4	0.6	2.7			4136	7	割片	黒安	2.4	1.3	1.0	2.5			
4077	16	割片	黒安	2.8	2.4	0.4	3.1			4137	7	石核	黒安	4.5	3.4	1.9	25.6		105	
4078	16	割片	黒安	3.4	3.4	0.8	7.2		21-4	4138	7	割片	黒安	1.9	3.1	0.8	5.4			
4079	16	縦長	黒安	3.9	2.7	0.8	5.1			4139	8	割片	黒安	2.0	2.1	1.2	57.6			
4080	16	割片	黒安	8.0	7.6	3.3	155.9			4140	8	石核	黒安	6.3	4.0	2.4	53.4		95	
4081	16	小礫	砂	2.5	2.1	0.8	5.7			4141	8	石核	黒安	5.9	3.5	2.4	43.1		95	
4082	16	白石	輝安	18.2	16.6	8.7	398.8		563	4142	8	割片	黒安	3.4	4.6	0.6	9.5			
4083	16	石核	黒安	7.9	5.0	3.0	114.5		28-3	4143	8	石状	黒安	9.5	3.7	2.9	83.9		359	
4084	16	礫	輝安	7.1	10.1	4.4	305.0			4144	8	石核	黒安	6.8	6.8	4.2	226.2		63	
4085	16	礫	輝安	6.1	4.3	4.3	110.2			4145	9	割片	黒安	2.1	2.8	0.6	3.1			
4086	16	割片	黒安	5.6	8.9	2.5	114.8		16-8	4146	9	加工	黒安	6.0	2.7	1.0	15.6		148	
4087	16	石核	黒安	4.4	7.2	3.6	185.2		32-3	4147	9	石核	黒安	5.6	4.6	2.4	66.1		60	
4088	16	石核	黒安	4.9	5.2	3.8	112.2		24-2	4148	9	割片	黒安	8.8	3.3	2.6	54.2			
4089	16	割片	黒安	3.4	7.3	2.1	67.1		16-11	4149	9	縦長	黒安	2.5	2.6	1.3	33.5			
4090	16	割片	黒安	7.4	6.3	1.1	55.3		21-1	4150	7	割片	黒安	4.0	2.7	2.1	23.3			
4091	16	割片	黒安	6.3	2.2	2.4	27.9			4151	7	割片	黒安	1.3	3.1	0.4	1.7			
4092	16	割片	黒安	3.7	3.1	0.8	10.0			4152	7	割片	黒安	2.2	2.7	0.4	2.7			
4093	16	小礫	不明	2.5	1.6	0.7	3.2			4153	7	割片	黒安	1.6	1.4	0.3	0.8			
4094	16	小礫	砂	1.7	1.4	1.0	3.6			4154	7	縦長	黒安	3.2	2.0	0.7	5.0		473	
4095	16	割片	黒安	3.7	4.0	1.4	19.7			4155	7	割片	黒安	2.5	1.8	0.6	2.9			
4096	16	割片	黒安	2.9	1.8	1.0	6.5			4156	7	割片	黒安	4.5	2.0	1.2	12.8			
4097	16	縦長	黒安	6.1	2.5	0.9	16.5			4157	7	縦長	黒安	5.3	1.6	1.1	8.2		476	
4098	16	縦長	黒安	5.9	4.0	1.2	26.4		110'	32-1	4158	7	縦長	黒安	3.7	1.3	1.4	4.2		476
4099	16	割片	黒安	3.2	2.7	0.5	4.2			4159	7	割片	黒安	2.2	2.1	1.2	4.6			
4100	5	割片	黒真	2.0	2.1	0.5	15.1			4160	7	割片	黒安	1.7	2.0	0.6	2.3			
4101	5	割片	黒安	3.1	1.8	0.6	2.8			4161	7	割片	黒安	7.0	4.7	1.5	61.3		528	
4102	5	割片	黒安	6.4	5.1	1.3	51.9			4162	7	割片	黒安	2.1	3.0	0.7	4.4			
4103	5	割片	黒安	2.9	1.0	0.7	1.9			4163	7	割片	黒安	7.9	4.5	1.9	59.0			
4104	準I	割片	黒安	4.1	1.6	0.7	4.8			4164	7	割片	黒安	6.8	1.7	3.1	24.1			
4105	準I	割片	黒安	3.4	2.9	1.5	8.4			4165	7	加工	黒安	2.1	0.9	0.6	5.1	99'	142	
4106	準I	割片	黒安	1.7	1.3	0.3	0.9			4166		欠番								
4107	5	割片	黒安	6.9	4.0	2.2	54.4			4167	7	縦長	黒安	4.1	1.9	1.0	8.1			
4108	7	石核	黒安	8.9	3.5	4.5	125.5		62	4168	7	小礫	黒真	4.7	3.7	1.6	42.0			
4109		欠番								4169	10	割片	黒安	3.0	5.7	2.6	52.5			
4110	6	礫	安	7.1	3.3	1.7	39.8			4170	10	割片	黒安	4.6	4.1	1.1	19.3	100'	529	
4111	準I	石核	黒安	8.6	10.3	12.0	102.8		106	4171	10	割片	黒安	1.7	2.5	0.7	2.4			
4112	準I	割片	黒安	2.9	4.8	0.4	7.5			4172	10	割片	黒安	2.6	3.9	1.1	8.9			
4113	6	割片	黒安	3.4	2.9	0.5	4.5			4173	10	加工	黒安	3.2	4.2	0.7	10.5			
4114	6	割片	黒安	1.4	2.3	0.6	1.6		109'	4174	10	彫器	黒安	9.6	4.1	2.7	74.5	117'	35	
4115	6	割片	黒真	4.1	3.7	1.1	17.6		525	4175	10	割片	黒安	1.8	2.4	0.3	1.3			
4116	6	縦長	黒安	9.3	2.9	1.5	92.7		114'	4176	10	割片	黒安	2.9	4.6	1.6	10.4			
4117	6	割片	黒安	2.7	1.9	0.5	2.5			4177	10	割片	黒安	5.7	3.9	2.1	41.7			
4118	6	石核	黒安	4.4	4.7	3.6	77.3		85	4178	10	割片	黒安	2.2	1.5	0.6	9.5			
4119	6	石核	黒安	6.5	6.5	3.6	113.7		76	4179	10	割片	黒安	4.8	5.5	1.1	25.2			
4120	6	割片	黒安	2.4	2.7	0.5	3.8			4180	10	小礫	不明	2.9	2.4	2.0	17.9			

第5章 ま と め

番号	ア	機種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神国	番号	ア	機種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神国
4181	10	剥片	黒安	4.5	6.2	0.8	14.2			4241	8	剥片	黒安	2.7	3.6	1.0	9.5		
4182	10	石核	黒安	5.9	4.3	2.9	69.3		103	4242	8	縦長	黒安	6.4	2.7	1.0	15.1	125°	477
4183	10	縦長	黒安	5.6	3.3	1.5	25.9		478	4243	8	剥片	黒安	3.4	2.1	0.7	2.2		
4184	10	剥片	黒安	3.4	2.1	0.3	2.4			4244	8	剥片	黒安	3.8	1.8	1.0	6.2		
4185	10	石核	黒安	3.1	3.9	2.1	22.9		96	4245	8	剥片	黒安	2.8	2.4	0.9	4.6		
4186	10	剥片	黒安	3.1	2.6	0.9	4.7			4246	8	加工	黒安	4.2	5.2	1.7	33.2		
4187	6	剥片	黒安	5.4	3.2	1.4	24.0			4247	8	剥片	黒安	4.7	2.4	1.6	19.3		
4188	11	剥片	黒安	3.1	2.3	0.7	4.5			4248	8	縦長	黒安	7.4	3.5	2.3	58.2	123°	480
4189	9	剥片	黒安	2.8	1.6	1.1	4.0			4249	8	剥片	黒安	1.7	3.6	0.7	4.6		
4190	7	縦長	黒安	3.5	2.1	1.0	8.0			4250		欠番							
4191	7	縦長	黒安	4.0	2.1	0.6	5.8			4251	8	剥片	黒安	5.4	3.3	1.8	22.9		
4192		欠番								4252	8	剥片	黒安	10.4	9.7	2.3	258.3		
4193		欠番								4253	9	礎	石門	11.0	10.4	3.5	505.1		
4194	7	剥片	黒安	4.3	1.8	0.7	3.8			4254	9	剥片	黒安	5.2	5.5	1.2	35.7		
4195	7	縦長	黒安	3.7	1.7	0.8	4.4			4255	10	剥片	黒安	3.4	2.7	1.7	18.4		
4196	7	石核	黒安	6.3	2.7	3.7	43.7		71	4256	10	剥片	黒安	3.3	3.4	1.0	7.1		
4197	7	剥片	黒安	3.8	2.2	0.3	4.6			4257	10	剥片	黒安	3.5	2.3	0.8	8.5		
4198	7	砕片	黒安	1.3	2.6	0.5	1.3			4258	10	剥片	黒安	4.3	5.7	1.8	39.9		
4199	7	縦長	黒安	4.5	2.4	0.7	6.7			4259	10	剥片	黒安	8.5	6.9	1.8	104.0		
4200	×	剥片	黒安	3.9	7.6	2.0	50.0			4260	10	縦長	黒安	2.6	2.1	0.9	5.1		
4201		準日礎	輝緑	4.8	3.6	0.6	13.2			4261	10	縦長	黒安	4.5	1.4	0.6	3.2		
4202		準日剥片	黒安	2.9	4.7	1.3	13.1			4262	10	剥片	黒安	3.1	2.5	1.8	10.4		
4203		準日石核	黒安	11.6	9.5	6.1	715.0		101	4263	10	剥片	黒安	4.3	1.1	0.8	6.5		
4204		準日石核	黒安	10.1	9.5	3.4	350.0		93	4264	10	剥片	黒安	4.8	2.0	1.1	12.6		
4205		準日剥片	黒安	4.8	2.4	1.5	19.8			4265	10	小礎	黒安	3.0	1.3	1.0	4.0		
4206		準日砕石	珉	17.6	9.2	4.8	810.0		541	4266	10	礎	石門	11.7	8.6	5.9	830.5		578
4207		準日剥片	黒安	4.7	5.7	0.8	25.1			4267	10	剥片	黒安	2.0	1.1	0.3	0.5		
4208		準日剥片	黒安	3.3	2.4	0.8	4.7			4268	10	縦長	黒安	3.4	1.7	0.8	4.7		
4209		準日加工	黒安	8.6	12.3	2.2	211.0			4269	10	剥片	黒安	3.1	1.8	0.6	2.1		
4210		準日加工	黒安	6.0	6.2	1.7	65.8			4270	10	剥片	黒安	3.4	2.5	0.4	3.5		
4211		準日石核	黒安	8.7	5.7	3.8	193.7			4271	10	石状	黒安	7.6	3.3	1.1	29.9		363
4212		準日剥片	黒安	3.8	3.0	0.7	8.9			4272	10	剥片	黒安	3.6	3.1	1.1	12.2		
4213	8	剥片	黒安	4.0	2.8	1.4	20.6			4273	10	縦長	黒安	5.4	3.1	0.9	11.7		479
4214	8	使用	黒安	5.7	5.3	1.6	42.0			4274	10	剥片	黒安	1.9	2.0	0.4	1.5		
4215	8	剥片	黒安	5.8	4.0	1.8	41.0			4275	10	剥片	黒安	1.9	1.6	0.1	4.2		
4216	8	剥片	黒安	7.1	5.2	1.6	65.3			4276	10	縦長	黒安	3.7	2.3	1.2	10.5		
4217	8	剥片	黒安	4.8	2.3	1.2	11.0			4277	10	縦長	黒安	3.7	1.6	0.7	4.2		
4218	8	剥片	黒安	3.6	1.8	1.7	9.0			4278	10	縦長	黒安	1.6	1.3	0.5	1.4		
4219	8	剥片	黒安	3.2	2.6	0.9	10.3			4279	10	縦長	黒安	5.5	2.7	0.9	12.6		
4220	8	縦長	黒安	6.3	3.2	1.4	27.1			4280	10	砕片	黒安	2.8	1.7	0.4	1.5		
4221	8	石核	黒安	6.8	7.2	2.6	142.4		100	4281	10	剥片	黒安	2.7	3.1	0.3	3.0		
4222	8	剥片	黒安	1.8	1.5	0.5	1.1			4282	10	縦長	黒安	1.1	1.2	0.4	0.6		
4223	8	剥片	黒安	4.1	4.0	1.1	13.0			4283	10	ナ形	黒安	11.2	3.9	1.4	55.5	96°	16
4224	8	縦長	黒安	4.8	1.7	0.8	5.6			4284	10	剥片	黒安	4.5	1.7	0.9	7.0		
4225	8	剥片	黒安	2.6	1.6	0.8	2.3			4285	10	剥片	黒安	3.5	3.2	1.4	11.6		
4226	8	剥片	黒安	4.6	2.7	2.0	18.5			4286	10	使用	黒安	11.4	4.3	2.2	70.8	109°	164
4227	8	石核	黒安	7.3	4.3	3.8	116.6		57	4287	10	剥片	黒安	3.5	4.2	1.5	14.8		
4228	8	剥片	黒安	3.6	2.4	0.4	4.0			4288	10	縦長	黒安	3.2	1.2	0.5	1.8		
4229	8	剥片	黒安	2.2	1.6	0.5	1.3			4289	10	縦長	黒安	8.9	3.3	1.5	48.3	116°	481
4230	8	加工	黒安	6.1	3.2	1.7	25.6			4290	11	剥片	黒安	2.9	4.2	0.8	7.5		
4231	8	剥片	黒安	3.4	3.0	0.5	5.4			4291	11	石核	黒安	7.4	5.6	7.0	178.1		
4232	8	縦長	黒安	3.8	2.3	0.8	7.7			4292	11	砕石	輝安	23.0	10.0	9.3	2700.0		538
4233	8	剥片	黒安	13.3	8.8	6.3	496.8			4293	11	縦長	黒安	9.0	3.3	2.2	54.1	116°	485
4234	8	砕片	黒安	1.6	2.0	0.2	0.7			4294		欠番							
4235	8	石核	黒安	7.0	7.1	4.4	263.2		64	4295	11	剥片	黒安	4.4	4.5	1.1	18.5		
4236	8	剥片	黒安	3.6	3.1	1.5	16.4			4296	11	縦長	黒安	7.7	2.5	2.3	34.5	117°	486
4237	8	剥片	黒安	3.8	3.2	0.9	10.7			4297	11	小礎	安	2.5	2.4	1.2	5.7		
4238	8	剥片	黒安	6.3	7.6	3.4	114.4			4298	11	加工	黒安	4.7	7.0	1.6	45.5		
4239	8	剥片	黒安	4.3	2.0	1.3	11.5			4299	11	剥片	黒安	2.7	1.6	0.5	2.5		
4240	8	剥片	黒安	2.1	1.9	0.6	3.0			4300	16	小礎	黒安	4.1	1.8	1.4	11.3		

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨四	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨四
4301	16	割片	黒安	2.7	1.4	0.5	1.8			4361	16	砕片	黒安	2.1	1.7	0.3	0.8		
4302	16	割片	黒安	2.7	1.6	0.7	2.8			4362	16	砕片	黒安	1.1	1.1	0.3	0.5		
4303	16	割片	黒安	9.8	9.8	3.0	352.9		25-6	4363	16	割片	黒安	2.2	2.5	0.8	3.0		
4304	16	小礫	黒真	3.5	2.3	1.2	12.5			4364	16	割片	黒安	2.9	1.5	0.8	2.2		
4305	16	割片	黒安	2.7	3.2	0.5	3.5			4365	16	割片	黒安	6.6	5.6	1.1	47.1		
4306	16	割片	黒安	3.1	2.5	1.7	9.9			4366	16	小礫	黒真	2.7	2.0	1.3	6.6		
4307	16	縦長	黒安	4.6	1.8	0.8	7.4			4367	16	割片	黒安	5.0	5.0	1.3	31.1		39-2
4308	16	石枕	黒安	8.6	5.0	2.4	112.8		82	4368	16	割片	黒安	4.5	4.0	1.2	22.4		
4309	16	石枕	黒真	7.4	2.8	1.6	22.6		353	4369	16	割片	黒安	6.1	3.1	1.0	22.0		19-4
4310	16	割片	黒安	3.5	3.8	1.5	13.5			4370	16	割片	黒安	5.3	7.6	2.5	82.1		
4311	16	割片	黒安	4.0	2.7	0.9	8.8			4371	16	割片	黒安	2.4	1.2	0.5	1.6		
4312	16	割片	黒真	2.3	2.8	0.7	4.6			4372	16	割片	黒安	2.3	2.6	1.0	4.1		
4313	16	縦長	黒安	6.9	4.8	1.2	34.6		487	4373	16	縦長	黒安	6.5	4.0	1.4	36.0	114'	488
4314	16	加工	黒安	4.5	4.7	0.9	14.0			4374	16	割片	黒真	2.7	1.5	0.9	2.3		
4315	16	割片	黒安	5.1	8.3	1.1	18.3		16-13	4375	16	割片	黒安	3.6	2.7	1.1	9.4		
4316	16	小礫	曜灰	3.0	3.2	1.2	8.9			4376	16	割片	黒安	7.8	4.5	1.6	46.8		
4317	16	縦長	黒安	3.1	3.4	0.6	6.7		442	4377	16	加工	黒安	3.2	4.1	1.1	13.2		
4318	16	石枕	黒安	6.3	2.3	1.0	14.6		26-1	4378	16	加工	黒安	3.0	2.1	0.5	1.8		145
4319	16	割片	黒安	1.9	1.9	0.4	1.6			4379	16	割片	黒安	1.5	2.0	0.6	1.2		
4320	16	割片	黒安	3.3	1.5	0.4	4.2			4380	16	割片	黒安	3.9	2.4	1.1	13.3		
4321	16	割片	黒安	3.2	2.7	1.3	8.9		36-2	4381	16	小礫	不明	1.7	2.6	0.9	3.2		
4322	16	割片	黒安	1.8	1.9	0.7	1.7			4382	16	石枕	黒安	7.2	6.2	3.2	162.1		56
4323	16	割片	黒安	4.0	1.5	0.9	5.4			4383	16	縦長	黒安	3.4	1.7	0.8	3.0		
4324	16	縦長	黒安	4.6	1.7	0.6	3.9			4384	16	石枕	黒安	5.5	4.9	3.3	71.5		36-3
4325	16	縦長	黒安	5.2	2.8	1.2	12.8			4385	16	割片	黒安	5.4	3.1	1.3	15.2		
4326	16	割片	黒安	3.6	4.7	3.0	27.7			4386	16	割片	黒安	5.1	3.8	0.9	23.9		16-1
4327	16	割片	黒安	4.1	1.6	0.6	3.1			4387	16	割片	黒安	3.7	2.2	0.8	5.4		
4328	16	割片	黒安	5.1	2.7	2.6	24.9			4388	16	割片	黒安	2.9	1.4	0.5	2.2		
4329	16	使用	黒安	7.0	7.6	2.3	90.7		163	4389	16	割片	黒安	3.0	2.0	0.8	6.2		
4330	16	割片	黒安	2.2	1.5	0.5	1.1			4390	16	割片	黒安	3.5	5.6	1.9	40.0		
4331	16	割片	黒安	2.3	1.8	0.8	2.9			4391	16	割片	黒安	4.8	1.9	1.2	9.9		
4332	16	割片	黒安	3.2	2.5	0.6	6.0			4392	16	割片	黒安	5.6	3.2	0.5	19.5		30-2
4333	16	割片	黒安	3.1	1.9	0.8	3.2			4393	16	割片	黒安	3.7	3.2	0.9	8.3		
4334	16	砕片	黒安	2.3	1.3	0.4	1.0			4394	16	石枕	黒安	4.1	3.1	1.8	23.3		
4335	16	割片	黒安	2.1	1.5	1.0	2.0			4395	16	割片	黒安	3.0	5.5	1.0	14.5		
4336	16	割片	黒安	2.3	3.1	1.0	5.1			4396	16	割片	黒安	4.7	3.0	2.1	23.6		
4337	16	割片	黒安	4.2	2.1	1.0	8.5			4397		欠番							
4338	16	割片	黒安	2.1	1.5	0.5	1.3			4398	16	割片	黒安	2.2	1.5	0.7	2.7		
4339	16	加工	黒安	4.3	3.3	1.6	14.1			4399	16	割片	瑠貝	6.4	4.4	2.4	79.8		
4340	16	割片	黒安	2.8	1.6	0.4	1.5			4400		欠番							
4341	16	縦長	黒安	2.1	1.8	0.4	1.7			4401	34	割片	黒安	1.2	2.0	0.2	1.7		
4342	16	縦長	黒安	1.8	1.1	0.6	6.7			4402	39	砕片	黒安	1.7	1.0	0.5	0.7		
4343	16	割片	黒安	6.9	2.3	1.6	25.5		27-3	4403	×	砕片	瑠貝	1.6	1.1	0.3	0.6		
4344	16	加工	黒安	3.6	2.4	0.5	14.8		102' 149	4404	36	縦長	黒真	1.3	1.2	0.5	1.3		
4345	16	縦長	黒真	2.7	1.3	0.4	1.5			4405	36	縦長	黒真	1.3	1.2	0.5	1.1		
4346	16	砕片	黒安	1.6	1.2	0.4	0.8			4406	33	割片	黒真	2.6	1.8	0.5	1.9		
4347	16	小礫	石閃	6.3	4.5	1.7	63.0			4407	33	砕片	黒真	0.7	0.9	0.1	0.1		
4348	16	割片	黒安	3.2	2.4	0.9	4.7			4408	33	砕片	黒真	1.1	0.5	0.1	0.1		
4349		欠番								4409	33	砕片	黒真	0.9	1.1	0.2	0.2		
4350	16	縦長	黒安	2.7	1.2	0.4	1.0			4410	33	砕片	黒真	0.9	0.5	0.1	0.1		
4351	16	割片	黒安	3.5	1.9	0.8	6.2		524	4411	25	割片	黒真	1.9	1.9	0.4	1.3		
4352	16	割片	黒真	3.8	3.5	0.5	8.9			4412	25	縦長	黒真	1.1	0.9	0.4	0.7		
4353	16	割片	黒安	2.1	1.3	0.6	1.4			4413	×	割片	不明	1.4	1.8	1.4	1.2		
4354	16	石枕	黒安	5.6	1.8	0.7	8.4		115' 351	4414	39	割片	黒安	2.2	1.1	0.3	0.7		
4355	16	割片	黒安	3.3	2.6	1.1	9.3			4415	39	割片	黒安	0.8	1.3	0.2	0.1		
4356	16	割片	黒安	4.5	2.1	1.6	14.2			4416	23	砕片	黒安	1.6	1.5	0.3	0.5		
4357	16	割片	黒安	2.5	2.3	0.5	3.1			4417	20	割片	黒安	2.3	1.1	0.8	2.0		
4358	16	割片	黒安	2.8	1.8	0.7	3.1			4418	16	石枕	黒安	7.4	3.6	2.0	38.2		360
4359	16	砕片	黒安	2.3	1.4	0.4	0.7			4419	16	割片	黒安	1.1	2.7	0.7	3.1		
4360	16	砕片	灰安	1.6	1.3	0.3	0.4			4420	12	砕片	黒安	2.0	1.5	0.4	1.3		

第5章 ま と め

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神国	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神国
4421	13	砂片	黒安	2.5	1.2	0.3	0.7			4481	11	剥片	黒安	3.7	3.0	0.7	7.9		
4422	16	砂片	黒安	2.1	1.5	0.3	0.8			4482	11	小磯	安	3.9	2.5	1.4	11.9		
4423	9	砂片	黒安	1.3	1.3	0.7	0.9			4483	11	剥片	黒安	3.8	3.5	2.0	23.7		
4424	9	剥片	黒安	2.6	1.2	0.4	1.1			4484	11	剥片	黒安	6.6	4.2	1.3	71.5		
4425	10	砂片	黒安	2.1	1.2	0.8	1.8			4485	11	剥片	黒安	1.9	2.6	0.7	15.2		
4426	10	砂片	黒安	2.3	1.3	0.7	1.6			4486	11	剥片	黒安	7.9	5.5	1.4	23.9		
4427	10	砂片	黒安	2.2	1.7	0.5	1.6			4487	11	砂片	黒安	1.7	1.2	0.4	0.5		
4428	10	剥片	黒安	2.0	1.3	0.5	1.4			4488	11	加工	黒安	3.0	3.4	1.1	12.7		
4429	10	剥片	黒安	2.9	2.4	0.6	5.5			4489	11	剥片	黒安	2.0	2.1	1.1	4.3		
4430	10	剥片	黒安	2.0	1.4	0.7	2.1			4490	11	剥片	黒安	2.5	1.5	0.4	1.6		
4431	10	剥片	黒安	3.3	1.3	0.7	2.5			4491	11	剥片	黒安	5.1	4.4	1.9	30.0		
4432	10	剥片	黒安	2.0	2.1	0.6	2.6			4492	11	白石	輝安	27.5	20.3	6.5	4028.5		567
4433	10	剥片	黒安	2.5	2.3	1.8	8.1			4493	11	小磯	安	4.1	3.4	1.7	24.5		
4434	10	剥片	黒安	2.5	2.0	0.6	1.9			4494	11	剥片	黒安	3.5	4.0	0.6	23.3		
4435	10	剥片	黒安	3.4	1.3	0.6	2.0			4495	11	白石	輝安	27.5	20.3	6.5	4028.5		567
4436	10	縦長	黒安	2.3	2.2	0.7	3.7			4496	11	白石	輝安	27.5	20.3	6.5	4028.5		567
4437	10	剥片	黒安	2.2	1.4	0.4	1.1			4497	11	剥片	黒安	3.7	2.9	1.5	13.2		
4438	10	剥片	黒安	2.6	3.5	0.7	4.4			4498	11	剥片	黒安	4.4	4.1	1.1	21.3		
4439	8	剥片	黒安	2.3	1.4	0.3	0.9			4499	11	縦長	黒安	5.2	2.1	0.7	7.2		
4440	2	剥片	黒安	1.7	2.3	0.4	2.4			4500	7	砂片	黒安	1.8	1.1	0.4	0.8		
4441	2	砂片	黒安	2.1	1.2	0.6	1.3			4501	13	加工	黒安	2.3	2.8	0.7	3.2		
4442	10	剥片	黒安	3.4	1.2	1.0	3.2			4502	1	石状	黒真	6.5	2.6	1.1	15.8	110°	355
4443		欠番								4503	13	剥片	黒安	4.6	1.8	1.1	8.9		
4444	8	小磯	黒真	2.7	1.4	0.6	1.7			4504	準1	使用	柱瓦	4.9	2.2	1.6	16.3		
4445	9	剥片	黒安	2.5	2.6	1.5	5.2			4505	25	使用	柱瓦	9.8	6.2	2.6	155.8		
4446	7	剥片	黒安	2.9	3.0	1.0	9.5			4506	10	縦長	黒安	2.8	2.9	0.7	7.8		
4447	7	剥片	黒安	2.2	0.8	0.3	0.5			4507									
4448	7	剥片	黒安	3.7	1.3	1.4	1.5			4508									
4449	7	剥片	黒安	2.1	0.9	0.6	1.3			4509									
4450	10	剥片	黒安	2.2	1.5	0.6	2.2			4510									
4451	10	砂片	黒安	0.9	3.2	0.2	0.6			4511									
4452	7	剥片	黒安	2.1	2.0	0.6	2.3			4512									
4453	7	剥片	黒安	2.1	1.4	0.3	0.9			4513									
4454	8	砂片	黒安	1.6	1.0	0.4	0.5			4514									
4455	8	剥片	黒安	3.0	1.3	1.0	3.2			4515									
4456	10	砂片	黒安	1.7	1.1	0.2	0.5			4516									
4457	10	縦長	黒安	2.0	1.7	0.4	1.5			4517									
4458	10	縦長	黒安	0.5	0.9	0.3	1.3			4518									
4459	10	剥片	黒安	2.7	2.9	2.3	3.4			4519									
4460	10	剥片	黒安	2.4	1.8	1.6	2.9			4520									
4461	10	剥片	黒安	2.9	1.2	0.5	1.1			4521									
4462	10	小磯	安	4.3	2.6	0.9	11.7			4522									
4463	11	剥片	黒安	2.1	1.7	0.5	1.7			4523									
4464	11	剥片	黒安	1.7	1.7	0.4	1.2			4524									
4465	11	剥片	黒安	2.3	1.7	0.5	2.5			4525									
4466	13	剥片	黒安	2.4	1.5	0.3	1.2			4526									
4467	16	砂片	黒安	1.0	1.6	0.2	0.4			4527									
4468	16	剥片	黒安	0.9	1.4	0.6	0.8			4528									
4469	16	砂片	黒安	1.3	0.8	0.2	0.2		143	4529									
4470	13	剥片	黒安	3.0	2.5	1.9	11.0			4530									
4471	13	剥片	黒安	2.7	1.9	0.4	2.8			4531									
4472	16	剥片	黒安	2.3	2.0	0.8	2.8			4532									
4473	8	剥片	黒安	2.1	2.2	0.4	2.4			4533									
4474	×	縁磯	黒真	0.7	0.7	0.4	0.3			4534									
4475	39	剥片	黒安	2.4	1.1	0.6	2.2			4535									
4476										4536									
4477										4537									
4478										4538									
4489										4539									
4480	11	剥片	黒安	3.3	3.4	1.2	9.5			4540									

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神田	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	神田
4541										4601	16	割片	黒安	3.6	1.5	1.0	4.2		
4542										4602	16	砕片	黒安	1.6	1.2	0.3	0.6		
4543										4603	15	割片	黒安	2.3	1.3	0.3	0.9		
4544										4604	16	割片	黒安	3.1	2.8	0.4	4.0		
4545										4605	15	割片	黒安	2.3	2.1	0.6	2.3		
4546										4606	16	割片	黒安	4.0	3.1	0.7	8.9		
4547										4607	16	加工	黒安	4.2	2.2	0.8	9.2		
4548										4608	16	割片	黒安	2.8	2.3	0.5	3.1		
4549										4609	16	割片	黒安	1.8	1.4	0.4	0.9		
4550	準II	割片	黒頁	4.1	4.0	0.8	13.7			4610	16	割片	黒安	2.8	1.1	0.4	1.3		
4551	準II	割片	黒安	1.7	3.1	0.5	2.7			4611	16	砕片	黒安	1.1	1.4	0.4	0.6		
4552	準II	割片	黒安	7.0	10.8	2.4	166.7			4612		欠番							
4553	準II	割片	黒安	1.2	2.7	0.6	1.9			4613	16	砕片	黒安	1.8	1.4	0.2	0.7		
4554	準II	割片	輝安	1.1	1.6	0.6	0.9			4614	16	石状	黒頁	3.2	1.9	0.4	4.1		361
4555	準II	加工	珪頁	1.2	2.4	1.2	3.9			4615	16	割片	黒安	2.6	1.4	0.9	2.4		
4556	準II	割片	黒頁	2.0	1.2	0.5	8.7			4616	16	割片	黒安	2.2	1.4	0.5	1.5		
4557	準II	加工	安	4.6	2.9	1.2	17.6			4617	16	割片	黒安	2.5	1.2	0.6	1.7		
4558	準II	縦長	黒頁	7.1	2.1	1.3	14.3	123'	484	4618	16	砕片	黒安	2.8	0.8	0.3	0.5		
4559	26	割片	黒安	4.5	1.9	1.5	13.4			4619	15	割片	黒安	2.8	2.5	0.8	6.8		
4560	26	石核	黒安	5.9	7.1	3.4	148.5		94	4620	16	割片	黒安	4.8	2.5	0.9	8.0		25-4
4561	26	縦長	黒安	5.0	2.9	0.9	11.1			4621		欠番							
4562	26	割片	黒安	1.8	2.5	0.4	2.2			4622	16	割片	黒安	2.9	3.4	1.1	9.9		
4563	26	割片	黒安	3.6	5.0	1.1	18.4			4623	16	割片	黒安	3.3	2.0	0.8	2.9		
4564	26	割片	黒安	2.3	1.6	0.2	0.9			4624	16	縦長	黒安	3.5	1.4	0.5	2.4		
4565	26	砕片	黒安	2.0	1.3	0.4	0.9			4625	16	割片	黒安	3.4	1.6	0.7	3.5		
4566	26	割片	黒安	2.0	1.1	0.5	1.8			4626	15	割片	黒安	2.9	2.1	0.5	3.5		22-2
4567	26	割片	黒安	4.1	4.8	0.8	11.2			4627	15	割片	砂	4.4	3.2	2.5	27.8		
4568	26	加工	黒安	2.2	2.3	0.5	3.4		143	4628	16	砕片	黒安	2.3	1.6	0.3	0.9		
4569	26	割片	黒安	2.4	2.6	0.8	5.2			4629	16	割片	黒安	2.2	2.3	1.1	4.2		
4570	26	割片	黒安	8.0	9.1	1.8	108.4		19-3	4630	16	襷籠	黒頁	1.4	0.8	0.4	0.6		
4571	26	割片	黒安	2.0	3.4	0.5	3.4			4631	16	小縄	黒頁	2.2	2.2	0.9	5.2		
4572	26	割片	黒安	7.7	2.5	1.2	18.1			4632	16	砕片	黒安	1.8	1.1	0.4	0.7		
4573	26	小縄	黒頁	1.9	1.5	1.2	3.9			4633	16	割片	黒安	1.7	1.6	0.6	1.1		
4574	26	割片	黒安	8.4	3.0	1.9	26.1			4634	16	石状	黒安	4.4	1.5	0.7	6.4	113'	364
4575	16	砕片	黒安	2.0	1.4	0.6	1.2			4635	15	縦長	黒安	7.3	3.4	2.2	34.0		35-1
4576	16	砕片	黒安	1.4	1.5	0.4	0.7			4636	16	割片	黒安	4.5	2.7	1.8	12.3		19-2
4577	16	砕片	黒安	1.4	1.7	0.3	0.6			4637	16	割片	黒安	3.8	2.3	0.9	5.0		
4578	16	砕片	黒安	1.5	1.2	0.8	1.0			4638	16	割片	黒安	1.7	1.6	0.7	1.9		
4579	16	縦長	黒頁	3.8	1.7	0.6	4.3			4639	16	割片	黒安	5.1	8.3	1.1	32.8		16-12
4580	16	小縄	不明	3.0	1.9	1.1	6.9		26-3	4640	16	割片	黒安	2.1	1.8	0.5	1.4		
4581	16	割片	黒安	3.1	2.4	1.0	6.5			4641	16	加工	黒安	5.2	3.7	0.9	15.5	115'	146
4582	16	割片	黒安	3.3	1.5	1.2	6.0			4642	16	割片	黒安	4.6	3.4	0.9	10.9		
4583	16	打再	黒安	3.5	4.9	1.6	22.0	136'	44	4643	16	割片	黒安	2.2	3.8	0.7	5.1		
4584	10	割片	珪頁	2.5	2.5	1.4	5.5			4644	16	割片	黒安	2.1	1.6	0.6	2.5		
4585	16	砕片	黒頁	2.1	0.9	0.5	1.1			4645	16	砕片	黒安	1.2	1.7	0.7	1.2		
4586	16	砕片	黒頁	1.2	1.4	0.4	0.8			4646	16	割片	黒安	1.8	1.8	0.5	1.5		
4587	16	割片	黒頁	1.7	2.9	0.8	4.0			4647	16	割片	黒安	1.3	1.4	0.3	0.5		
4588	16	砕片	黒頁	1.6	1.2	0.2	0.6			4648	16	砕片	黒安	1.2	1.1	0.2	0.3		
4589	16	割片	黒頁	2.1	1.1	0.5	1.2			4649	×	割片	黒頁	3.8	3.9	0.8	12.9		
4590	16	割片	黒頁	1.9	1.8	0.9	2.2		41-3	4650	16	割片	黒安	2.9	1.7	1.0	4.8		
4591		欠番								4651		欠番							
4592	16	割片	黒頁	2.7	1.4	0.3	1.3			4652	16	砕片	黒安	0.9	1.0	0.2	0.3		
4593	16	砕片	黒頁	1.4	0.7	0.2	0.3			4653	16	割片	黒安	1.7	1.3	0.2	0.7		
4594		欠番								4654		欠番							
4595	16	砕片	黒安	1.0	2.1	0.4	0.5			4655	16	砕片	黒安	1.9	1.1	0.2	0.5		
4596	16	割片	黒安	1.9	1.9	0.6	2.1			4656	16	砕片	黒安	1.1	1.1	0.6	0.6		
4597	16	割片	黒安	2.0	2.4	0.3	2.2			4657	16	割片	黒安	3.0	3.5	1.3	13.3		27-2
4598	16	融石	流紋	7.4	6.7	3.5	183.0		561	4658	16	割片	黒安	2.9	1.9	0.7	3.3		
4599	16	割片	黒安	1.4	2.0	0.4	1.1			4659	16	割片	黒安	3.3	3.9	0.6	17.2		20-6
4600	16	割片	黒安	2.1	2.0	0.4	1.8			4660	16	砕片	黒安	0.7	1.4	0.1	0.2		

第5章 まとめ

番号	ア	種類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿因	番号	ア	種類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	挿因
4661	16	剥片	黒安	1.8	0.8	0.4	0.7			4721	16	砕片	黒安	1.1	1.0	0.4	0.4		
4662	16	縦長	黒安	2.8	0.9	0.4	1.2			4722	16	剥片	黒安	3.4	3.2	0.9	10.5		21-2
4663	16	小礫	黒真	3.6	2.2	0.9	5.5			4723	16	剥片	黒安	3.9	2.6	0.7	6.3		530
4664	16	砕片	黒安	1.1	1.2	0.3	0.3			4724	16	剥片	黒安	2.1	2.9	1.3	9.0		
4665	16	小礫	安	1.0	1.0	0.5	1.0			4725	16	砕片	黒安	1.0	0.9	0.3	0.3		
4666	16	縦長	黒安	1.3	3.2	0.5	2.2			4726	16	剥片	黒安	2.5	3.5	0.9	6.5		
4667	16	剥片	黒安	2.3	1.0	0.5	1.1			4727		欠番							
4668	16	小礫	鹿枝	2.9	1.8	1.4	7.7			4728	16	砕片	黒安	1.9	1.1	0.2	0.4		
4669	16	剥片	黒安	2.2	1.2	0.4	1.0			4729	16	剥片	黒安	4.6	4.0	1.0	19.2		
4670	16	剥片	黒安	2.5	1.4	0.2	0.9			4730	16	剥片	黒安	3.7	3.7	1.5	15.5		
4671	16	砕片	黒安	2.1	1.1	0.2	0.4			4731	16	砕片	黒安	1.6	1.2	0.4	0.9		
4672	16	小礫	不明	2.3	0.7	1.9	2.3			4732	16	剥片	黒安	4.0	6.5	0.7	3.1		31-2
4673	16	剥片	黒安	1.3	3.5	0.4	2.0			4733	16	剥片	黒安	2.8	1.8	0.9	1.5		
4674	16	剥片	黒安	1.8	2.7	0.4	2.2			4734	16	剥片	黒安	3.9	6.2	1.2	21.6		
4675	16	剥片	黒安	4.2	4.1	1.2	23.2			4735	16	剥片	黒安	2.8	4.2	1.2	13.8		25-5
4676	16	砕片	黒安	1.7	1.1	0.4	0.8			4736	16	砕片	黒安	1.6	1.3	0.5	0.7		
4677	16	剥片	黒安	2.2	1.9	1.2	4.3			4737	16	縦長	黒安	2.3	1.6	0.7	2.4		
4678	26	加工	珪頁	9.7	5.3	2.5	87.4		147	4738	16	剥片	黒安	1.7	1.5	0.6	1.1		
4679	16	剥片	黒安	2.6	2.2	0.7	3.9			4739	16	剥片	黒安	4.3	2.6	1.1	2.0		
4680	16	小礫	黒真	2.3	1.5	1.4	9.5			4740	16	砕片	青珪	1.5	0.9	0.6	0.5		
4681	16	砕片	黒安	1.7	1.4	0.3	0.7			4741	16	加工	黒安	3.5	6.5	1.2	30.7		
4682	16	剥片	黒安	2.1	1.2	0.3	1.0			4742	16	縦長	黒安	5.6	3.8	1.2	22.7		125° 483
4683	16	小礫	黒真	2.0	1.2	0.5	1.7			4743		欠番							
4684	16	縦長	黒安	5.1	1.7	0.9	7.8		110° 482	4744	16	砕片	黒安	2.0	1.1	0.7	1.4		
4685	16	剥片	黒安	2.1	1.6	0.5	1.2			4745	16	剥片	黒安	3.1	0.9	0.8	2.3		
4686	16	砕片	黒安	2.7	0.8	0.3	0.7			4746	10	剥片	黒安	3.5	1.9	1.4	6.0		
4687	16	剥片	黒安	3.7	2.3	1.4	7.1			4747	10	縦長	黒安	4.7	2.2	0.8	8.4		22-1
4688	16	剥片	黒安	2.4	1.4	0.9	3.1			4748	16	砕片	黒安	1.4	1.1	0.4	0.5		
4689	16	砕片	黒安	2.4	1.5	0.8	1.9			4749	16	剥片	黒安	1.2	3.2	0.7	3.4		
4690	16	砕片	黒安	1.5	0.9	0.3	0.4			4750	16	剥片	黒安	1.6	1.7	0.6	1.7		
4691	16	剥片	黒安	1.9	1.6	0.6	1.8			4751	16	剥片	黒安	2.3	1.0	0.7	1.7		
4692	16	砕片	黒安	1.3	1.7	0.3	0.5			4752	16	剥片	黒安	2.3	1.4	0.9	2.3		
4693	16	剥片	黒安	3.3	4.4	1.0	14.2		39-4	4753	16	砕片	黒安	1.9	1.6	0.4	1.0		
4694	16	砕片	黒安	1.3	1.5	0.5	1.2			4754	16	砕片	黒安	1.5	1.3	0.5	0.8		
4695	16	小礫	不明	3.3	2.5	1.8	13.2			4755	16	剥片	黒安	3.1	1.3	0.8	2.1		
4696	16	剥片	黒安	5.3	4.0	1.0	26.2		39-3	4756	16	剥片	黒安	2.0	1.7	0.6	2.1		
4697	16	剥片	黒安	3.5	1.3	1.2	4.2			4757	16	砕片	黒安	1.6	0.9	0.5	0.6		
4698	16	剥片	黒安	1.6	2.0	0.6	0.3			4758	16	砕片	黒安	1.2	1.3	0.6	1.0		
4699	16	加工	黒安	4.1	3.8	0.5	7.8		145	4759	16	砕片	黒安	2.1	1.3	0.3	0.7		
4700	16	砕片	黒安	1.1	1.1	0.3	0.4			4760	16	剥片	黒安	2.7	2.3	0.8	3.6		
4701	16	小礫	不明	2.4	1.6	1.1	3.9			4761	16	剥片	黒安	2.2	1.2	0.9	2.1		
4702	16	砕片	黒安	1.7	1.2	0.5	0.6			4762	16	砕片	黒安	1.6	1.6	0.3	0.8		
4703	16	剥片	黒安	2.3	4.2	1.3	12.7			4763	16	剥片	黒安	2.6	3.0	0.6	5.0		
4704	16	石状	黒安	6.8	3.1	1.1	18.4		357	4764		欠番							
4705	16	石状	黒安	4.7	2.4	0.8	10.6		32-2	4765	16	剥片	黒真	2.5	4.6	1.4	17.7		
4706	16	剥片	黒安	3.0	2.8	1.0	6.6			4766	16	剥片	黒安	3.1	6.4	1.0	17.6		
4707	16	砕片	黒安	2.0	1.1	0.6	1.1			4767	16	砕片	黒安	2.0	0.6	0.6	0.3		
4708	16	砕片	黒安	1.5	1.1	0.2	0.3			4768	16	剥片	黒安	2.9	1.5	0.7	1.2		
4709	16	剥片	黒安	3.0	1.7	0.5	2.1			4769	16	剥片	黒安	2.7	1.7	0.8	4.0		
4710	16	剥片	黒安	3.0	3.6	1.0	10.1			4770	16	剥片	黒安	2.1	2.7	0.9	3.6		
4711	16	砕片	黒安	1.5	1.4	0.6	1.0			4771	16	剥片	黒安	5.0	3.3	2.5	1.6		
4712	16	剥片	黒安	3.5	2.8	1.2	8.1			4772	16	石核	黒安	6.4	4.5	3.5	75.6		79
4713	16	縦長	黒安	4.4	1.8	1.3	7.0			4773	16	剥片	黒安	2.6	4.6	1.2	13.8		
4714	16	剥片	黒安	2.4	1.6	0.9	2.6			4774	16	小礫	珪炭	5.0	3.3	2.1	42.5		
4715	16	礫	鹿枝	5.8	4.7	2.8	54.1			4775	16	砕片	黒安	1.5	0.9	0.4	0.4		
4716	16	剥片	黒安	2.3	1.7	0.5	1.5			4776	16	剥片	黒安	1.5	1.4	0.3	0.5		
4717	16	縦礫	輝安	1.6	1.5	0.7	1.8			4777	16	剥片	黒安	2.9	2.1	0.8	3.7		
4718	16	縦礫	不明	0.9	0.9	0.7	0.5			4778	16	剥片	黒安	2.3	1.6	0.8	2.5		
4719	16	剥片	黒安	0.5	1.4	0.3	0.2			4779	16	剥片	黒安	2.0	1.5	0.6	7.6		
4720	16	剥片	珪炭	1.9	1.1	0.7	1.6			4780	16	剥片	黒安	2.7	1.5	0.9	2.8		

番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨図	番号	ア	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	裨図
4781	16	切片	黒安	3.4	1.9	0.9	3.6			一括	打斧	黒頁	16.2	5.6	3.7	304.9		580	
4782	16	切片	黒安	3.5	1.3	0.7	3.1				尖頭	黒頁	9.2	5.1	1.5	53.4		581	
4783	16	切片	黒安	2.0	1.6	0.3	0.7				有香	桂頁	2.2	1.4	0.4	1.0		582	
4784	16	切片	黒安	3.7	2.0	0.9	3.9				有香	桂頁	4.9	1.6	0.7	4.9		583	
4785	16	切片	黒安	3.1	6.1	1.8	34.8		26-2		有香	青桂	3.1	1.6	0.3	1.4		584	
4786		欠番									尖頭	桂頁	2.8	1.3	0.3	1.2		585	
4787	16	切片	黒安	1.8	2.8	0.9	3.9				尖頭	石英	4.2	1.4	0.4	2.3		586	
4788	16	切片	黒安	5.4	3.1	1.3	23.8				尖頭	黒頁	2.0	1.6	0.6	1.7		587	
4789		欠番									石刃	桂頁	10.7	2.8	1.2	40.0		588	
4790	16	切片	黒安	1.8	0.9	0.7	1.7				石刃	黒頁	10.3	2.9	1.0	31.4		589	
4791	16	切片	黒安	2.0	1.9	0.7	2.7				石刃	黒頁	10.3	2.8	1.5	46.6		590	
4792		欠番									石刃	黒頁	15.3	3.4	1.4	37.5		591	
4793	16	切片	瑠頁	2.7	2.1	0.6	3.1				石刃	黒頁	10.8	4.5	1.2	53.1		592	
4794	16	切片	黒安	1.7	1.8	0.5	1.7				石刃	黒頁	10.0	2.8	1.0	34.0		593	
4795	16	切片	黒安	2.7	3.2	0.5	4.8				石刃	黒頁	7.5	4.7	1.3	57.9		594	
4796	16	切片	黒安	2.7	1.6	0.8	3.3				石刃	黒頁	7.7	2.5	0.7	14.5		595	
4797	16	切片	黒安	4.4	5.2	2.3	57.7				石刃	黒安	4.3	3.1	1.2	17.1		596	
4798	16	ナ形	黒頁	5.6	4.4	1.5	51.8		29	石刃	黒安	6.4	3.3	0.9	24.5		597		
4799	16	切片	黒安	2.8	3.0	0.7	5.0												
4800	16	切片	黒安	4.0	6.5	0.7	6.2		31-1										
4801	16	裨片	黒安	2.5	0.9	0.4	0.6												
4802	16	裨片	黒安	2.2	0.9	0.4	0.8												

参考文献

- 藤生傑・織笠昭・大塚俊雄 1984 千葉県鎌倉市東林跡遺跡の調査 日本考古学協会第50回総会研究発表要旨 p.9-10
- 赤沢誠・小田静夫・山中一郎 1980 『日本の旧石器』 立風書房
- 荒井幹夫他 1977 『打石遺跡V』 富士見市文化財報告書 富士見市教育委員会
- 荒井幹夫他 1978 『打石遺跡』 富士見市文化財報告XIV 富士見市教育委員会
- 安部政雄 1979 石器の形態と機能 有楽漢語学日本考古学学会誌(2) 原始・古代の生産と生活 p.17-39
- 安部政雄 1986 先史時代の石器と地域 岩波講座日本考古学5 文化と地域性 p.27-60
- 大竹憲昭・須藤隆司・千葉寛 1982 『下里本邑遺跡』 下里本邑遺跡調査会
- 岡本東三 1970 神子梁・長者久保文化について 『研究論集V』 奈良国立文化財研究所学報第35冊 p.1-57
- 小田静夫・J.E.キラー 1975 『中山谷遺跡』 国際基督教大学考古学研究室 Occasional Papers No.1
- 小田静夫・C.T.キラー 1974 『平代坂・七軒家』 小金井市文化財調査報告書3 小金井市教育委員会
- 小田静夫・重住豊編 1976 『高井戸東遺跡』 高井戸東遺跡調査会
- 小田静夫・伊藤富治夫・C.T.キラー・重住豊編 1977 『高井戸東遺跡』 高井戸東遺跡調査会
- 賀川康子・小林重隆他 1982 『尾崎遺跡』 練馬区教育委員会
- 清藤一朗・郷塚英司編 1984 『常盤自動車道埋蔵文化財調査報告書II 一花前I・中山新田II・中山新田III』 財団法人千葉県文化財センター
- 黒坪一樹 1982 『先史時代地石類の形成』 『野沢遺跡』 平安博物館
- 黒坪一樹 1983, 1984 『日本先史時代における地石類の研究—植物食利用に関する一試論— (上)、(下) 『古代文化』 299, 302 p.11-31, p.17-33 古代学協会
- 小林建雄・小田静夫・羽島謙三・鈴木正男 1971 『野川先史時代遺跡の研究』 『第四紀研究』 10-4
- 坂入民子・伊藤富治夫・織笠昭 1977 『高井戸東(短車場西)遺跡』 高井戸東(短車場西)遺跡調査会
- 清水宗昭 1973 『銅片尖頭器について』 『古代文化25-11』 古代学協会
- 白石浩之・鈴木次郎 1980 『寺尾遺跡』 神奈川県埋蔵文化財調査報告18 神奈川県教育委員会
- 鈴木建雄調査団編 1978 『鈴木遺跡I』
1980 『鈴木遺跡II』
1980 『鈴木遺跡III』
1981 『鈴木遺跡IV』
- 岡茂雄・上村和男 1985 『河川における礫分布の基礎的調査(Ⅰ)』 『群馬県立歴史博物館調査報告書第1号』 p.4-13
- 芹沢長介編 1977 『磯山』 栃木県高岡市磯山旧石器時代遺跡出土資料 東北大学文学部考古学研究所考古学資料集第1冊
- 小田静夫編 1986 『常盤自動車道埋蔵文化財調査報告書I 元前・聖人塚I-1』 財団法人千葉県文化財センター
- 同志社大学旧石器文化研究会編 1974 『ふたがみ 一二上山北麓野沢遺跡群分布調査報告』 学生社
- 中沢純志 1980 『何鹿郡月夜野野出土の片打型石斧』 『群馬考古通信第7号』 p.15 群馬県考古学協議会
- 中村由史 1986 『野沢洞・信濃川中流域の旧石器時代遺跡群と石器石』 『信濃38巻4号』 p.1-16
- 早川泉・河内公夫 1984 『武藏古遺跡』 都立府中病院内遺跡調査会
- 麻崎一志 1986 『いわゆる野々原型ナイフ形石器の基礎的整理』 『旧石器考古学33』 p.49-58 旧石器文化研究会
- 松沢重生・若本圭輔 1975 『小形遺物の写真測量図化と石器製作に関する研究』 『奈良国立文化財研究所年報』

群馬県旧石器時代関連文献目録

1. 杉原正介 群馬県新田郡敷原見の石器文化 日本考古学協会第7回総会研究発表要旨 日本考古学協会 1951
2. 園田芳雄 栃木県曹門寺遺跡(Ⅰ) 日本考古学年報 日本考古学協会 1951
3. 酒池忠男 栃木県曹門寺遺跡(Ⅱ) 日本考古学年報 日本考古学協会 1951
4. 杉原正介 日本における石器文化の階梯について 考古学雑誌39-2 日本考古学協会 1953
5. 芹沢長介 関東及中部地方に於ける無土器文化の終末と縄文文化の発生に関する予察 観古史学4 明治大学文学部観古史学会 1954
6. 園田芳雄 栃木県足利郡曹門寺遺跡 日本考古学年報2 日本考古学協会 1954
7. 杉原正介 群馬県武井宿跡における石器文化 日本考古学協会第15回総会研究発表要旨 日本考古学協会 1955
8. 杉原正介 群馬県新田郡敷原遺跡 日本考古学年報3 日本考古学協会 1955
9. 杉原正介 群馬県新田郡岩宿遺跡 日本考古学年報3 日本考古学協会 1955
10. 杉原正介 群馬県岩宿見の石器文化 明治大学文学部研究報告考古学1 明治大学文学部考古学研究室 1956
11. 杉原正介 日本の始末文化 図説日本文化大系1 1956
12. 杉原正介 縄文文化以前の石器文化 日本考古学講座3 雄山閣 1956
13. J. Maringer Einzelfaustkeilartige Geräte von Gongenyama (Japan) und die Frage des japanischen Paläolithikums Anthropos51 1956
14. 新井啓夫 幸城火山西部の関東ローム 地球科学28 1956
15. 芹沢長介 無土器文化 考古学ノート1 日本評論社 1956
16. 相沢忠洋 北関東赤城山麓に於けるマイクロ・コアの発見 貝塚58 1956
17. 相沢忠洋 赤城山麓における関東ローム層中礫石器文化層の位置について 第四紀研究1-1 日本第四紀学会 1957
18. J. Maringer Die Industrie von Iwajuku (Japan) und ihre kulturelle Einordnung Anthropos52 1957
19. 塚田 光 群馬県城南村灰塚の石器二例 考古学手帖同人連絡紙8 1960
20. 芹沢長介 石器時代の日本 築地書館 1960
21. 相沢忠洋 赤堀村のあゆみ 赤堀村教育委員会 1961
22. 芹沢長介 旧石器時代の諸問題 岩波講座日本歴史1・原始および古代1 岩波書店 1962

23. 新井房夫 関東盆地西部地域の第四紀編年 群馬大学紀要・自然科学編10-4 1962
24. 新井房夫 前縄文層のC14年代 地球科学70 1964
25. 芥沢長介 関東ローム層中の人類遺跡・遺物 関東ローム 築地書館 1965
26. 芥沢長介 日本原始時代の解明と自然科学 科学35-7 1965
27. 芥沢長介 日本の旧石器1・3・4・5・6・9・10 月刊考古学ジャーナル ニュー・サイエンス社 1966・1967・1968
28. 芥沢長介 日本における旧石器の層位的出土例 東北大学日本文化研究所報告3 1967
29. 芥沢長介 日本旧石器時代とC14年代 第四紀研究6-4 日本第四紀学会 1967
30. 相沢忠洋 群馬県赤堀山遺跡 月刊考古学ジャーナル9 ニュー・サイエンス社 1967
31. 杉原正介 日本先土器時代の編年に関する試案 信濃19-4 信濃史学会 1967
32. 新井房夫 前縄文説の噴出年代と若宿1文化期 地球科学21-3 1967
33. 芥沢長介 桂野旧石器群と古京東 東北大学日本文化研究所報告4 1968
34. 柳沢重昭他 筑山遺跡総合調査報告 第1分冊 はにの会 1968
35. 芥沢長介 先縄文文化 新編考古学講座3 雄山閣 1969
36. 新井房夫 北関東の縄文系 日本の第四系 1969
37. 佐藤達夫 ナイフ形石器の編年の一考察 東京国立博物館紀要5 東京国立博物館 1969
38. 相沢忠洋 「若宿」の発見 講談社 1969
39. 川島正一 関東平野北西部地域の河野砂丘上旧石器時代遺跡 館林双書1 館林市立図書館 1970
40. 相沢忠洋 北関東赤城山麓関東ローム層中人類文化の基礎研究(2) 赤城磯発見下部ローム層中旧石器文化遺跡の調査 日本人類学会・民族学会連合大会抄録14 日本人類学会・日本民族学会 1970
41. 芥沢長介 前期旧石器の諸問題 第四紀研究9-3・4 日本第四紀学会 1970
42. 芥沢長介 前期旧石器に関する諸問題 第四紀研究10-4 日本第四紀学会 1971
43. 芥沢長介 群馬県笠懸村若宿D地点遺跡 日本考古学年報24 日本考古学協会 1971
44. 芥沢長介 群馬県笠懸村若宿遺跡発掘調査概報 笠懸村教育委員会 1971
45. 新井房夫 北関東ローム層と石器包含層とくに前期旧石器文化層の諸問題 第四紀研究10-4 日本第四紀学会 1971
46. 相沢忠洋 群馬県夏井戸発見下部ローム層中旧石器文化遺跡の調査—北関東赤城山麓関東ローム層中人類文化の基礎研究(3) 第26回日本人類学会・民族学会連合大会抄録 日本人類学会・日本民族学会 1972
47. 安野政雄 関東地方における切出形石器を伴う石器文化の様相 戦史学32 1973
48. 相沢忠洋 群馬県夏井戸部ローム層中旧石器文化遺跡の第一次発掘調査—北関東赤城山麓関東ローム層中人類文化の基礎研究(4)第27回日本人類学会・民族学会連合大会抄録 日本人類学会・民族学会 1973
49. 井上唯雄 旧石器時代 宮城社誌 1973
50. 芥沢長介 遺古の發人たち 古代史発掘1 講談社 1974
51. 佐藤達夫 黎明期の日本 図説・日本の歴史1 日本のあけぼの 普及社 1974
52. 杉原正介 日本先土器時代文化編年の経過 日本先土器時代の研究 講談社 1974
53. 新井房夫 群馬県桐生市山籠(包含地)および宿ノ島(窪跡)遺跡調査報告 山籠発掘調査団 1974
54. 相沢忠洋 古代の新里村1 新里村誌 1974
55. 大沢実男 黒船から古代へ 吉井町誌 1974
56. 藤本義昌 旧石器時代論 岩波講座日本歴史1・原始および古代1 岩波書店 1975
57. 柳田俊昭 関東・東北地方における先土器時代石器文化の地域性と共通性(2) 物質文化26 1976
58. 戸田正勝 北関東の旧石器時代 野州史学2 野州史学会 1975
59. 岡村道雄 北関東前期旧石器時代における二石器群 野州史学3 野州史学会 1976
60. 小田静夫 日本最古の製石斧 季刊とるめん11 朝JICC・出版局 1976
61. 塚越甲子郎 多野藤岡地方誌 総説編 1976
62. 杉原正介 群馬県武井における二つの石器文化 明治大学文学部研究報告考古学7 明治大学文学部考古学研究室 1977
63. 渡辺直雄編 シンボリズム日本旧石器時代の考古学 学生社 1977
64. 戸沢光昭 若宿へのながい道 季刊とるめん15 朝JICC・出版局 1977
65. 松村明子 書評 杉原正介著「群馬県武井における二つの石器文化」 戦史学45 1978
66. 前原 豊他 F1 竹沼遺跡 昭和52年度発掘調査概報 藤岡市教育委員会 1978
67. 水田 修 乾田II遺跡発掘調査報告 水上町郷土資料館研究報告1 水上町教育委員会 1978
68. 小林敏夫 埴町における遺跡の分布 埴町古代遺跡 埴町役場 1978
69. 松村一昭 旧石器時代 赤塚村誌 1978
70. 松沢聖生 石器研究における製作実験の意義—制鎌面の解釈「切り合い関係」の語るもの— 月刊考古学ジャーナル167 ニュー・サイエンス社 1979
71. 中里吉伸他 金井口遺跡発掘調査時報—第2次調査— 太田市教育委員会 1979
72. 加藤晋平・鶴丸俊明 図録石器の基礎知識II 先土器(下) 柏書房 1980
73. 白石治之 実証型石器群研究の現状と展望 神奈川考古7 神奈川考古同人会 1980
74. 相沢忠洋 赤土への執念 成文出版社 1980
75. 若月春吉 笠懸村稲荷山遺跡 笠懸村埋蔵文化財調査報告3 笠懸村教育委員会 1980
76. 若月春吉 笠懸村和田遺跡調査概報 笠懸村埋蔵文化財調査報告4 笠懸村教育委員会 1980
77. 中東新治 利根郡月夜野出土の片刀打製石斧 群馬考古通信7 群馬県考古学談話会 1980
78. 白石治之 実証型石器の製作技術とその様相 野州史学5 1981
79. 東北歴史資料館 旧石器時代の東北 1981
80. 群馬県立歴史博物館 野尻湖発掘展 1981

第5章 ま と め

81. 若月省吾 笠懸村和田遺跡 笠懸村縄文文化財調査報告5 笠懸村教育委員会 1981
82. 関天 晃 洲形遺跡調査報告書 宮城村教育委員会 1981
83. 橋本博文 御正作遺跡発掘調査概報 大泉町教育委員会 1981
84. 岡原英治他 大袋I遺跡 館林市縄文文化財発掘調査報告書2 館林市教育委員会 1981
85. 中東幹志 十三支塚出土の石槍 博物館だより4 群馬県立歴史博物館 1981
86. 芹沢長介 日本旧石器時代 岩波新書209 岩波書店 1982
87. 岡原英治他 大袋I遺跡発掘調査報告書 館林市縄文文化財発掘調査報告書4 館林市教育委員会 1982
88. 神戶聖治他 八幡中塚遺跡 高崎市文化財調査報告書31 高崎市教育委員会 1982
89. 小俣方紀久 新田町市前出土の矢張りを含む石器について 新田町史談会65 1982
90. 小俣方紀久 新田町中江田遺跡の石器 太古31 はにわの会 1982
91. 岩崎幸一他 荒砥北三木遺跡 年報1 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1982
92. 神谷任明他 師A(後田)遺跡 年報1 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1982
93. 神谷任明他 師A(飯鉢)遺跡より出土の旧石器について 雄文月報18 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1982
94. 麻生敏隆 師A(後田)遺跡の石器文化について 雄文月報23 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1982
95. 麻生敏隆 後田遺跡見学会資料 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1982
96. 上州路編纂部他 岩宿 30年 上州路93 あさき社 1982
97. 戸沢次則 群馬県岩宿遺跡—先土器時代の文化の発見 探訪先土器の遺跡 有実閣 1983
98. 安房政雄 群馬県武井遺跡—狩猟生活の発達と権 探訪先土器の遺跡 有実閣 1983
99. 若月省吾 和田遺跡 笠懸村誌 別巻一 資料編 自然編—原始古代編 1983
100. 若月省吾 北山遺跡 笠懸村誌 別巻一 資料編 自然編—原始古代編 1983
101. 岡原英治 下塚工遺跡発掘調査報告書 館林市縄文文化財発掘調査報告書7 館林市教育委員会 1983
102. 藤原立郎土黄村編—藤岡市教育委員会 郷土文化財特別展 藤岡の原始・古代の歴史 1983
103. 坂久久純・中東幹志 神谷遺跡の爪形土器と周辺遺跡 群馬県古通信8 群馬県考古学談話会 1983
104. 谷藤保彦他 房谷戸遺跡・中江遺跡・諏訪西遺跡 年報2 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1983
105. 岩崎幸一他 勝保沢中ノ山遺跡 年報2 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1983
106. 小安和順他 戸神跡遺跡 年報2 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1983
107. 麻生敏隆他 後田遺跡 年報2 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1983
108. 谷藤保彦他 最近の先土器時代の遺跡の調査から—メモの(1)・(2)—雄文月報33 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1983
109. 田島桂男 群馬西部 日本の古代遺跡17 保育社 1984
110. 須藤隆司他 御正作遺跡縄文文化財発掘調査報告書 大泉町教育委員会 1984
111. 関天 晃他 新里村の遺跡—遺跡群分布調査報告— 新里村教育委員会 1984
112. 石川伸一 御正作遺跡 遺跡は語る—最近の発掘調査の成果— 群馬県立歴史博物館 1984
113. 岩崎幸一 牛伏遺跡 遺跡は語る—最近の発掘調査の成果— 群馬県立歴史博物館 1984
114. 谷藤保彦 房谷戸遺跡 遺跡は語る—最近の発掘調査の成果— 群馬県立歴史博物館 1984
115. 麻生敏隆 後田遺跡 遺跡は語る—最近の発掘調査の成果— 群馬県立歴史博物館 1984
116. 麻生敏隆他 野野堂遺跡第Ⅲ地区・雨宮遺跡 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1984
117. 麻生敏隆 群馬県に於けるナイフ形石器の完書 研究紀要1 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1984
118. 中東幹志・飯島静男 群馬県における旧石器・縄文時代の石器石材—黒色頁岩と黒色安山岩 群馬県立歴史博物館 1984
119. 中東幹志 旧石器時代 群馬文化200 群馬県地域文化研究協議会 1984
120. 中東幹志 富士見村籠ノ口遺跡の舟形石器—旧石器文化のルーツを求めて— 博物館だより16 群馬県立歴史博物館 1984
121. 群馬県立歴史博物館 籠ノ口遺跡中間報告会資料 1984
122. 山口逸弘 書上本山遺跡の先土器時代の調査について 雄文月報47 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1984
123. 谷藤保彦他 房谷戸遺跡 年報3 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1984
124. 岩崎幸一他 牛伏遺跡 年報3 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1984
125. 松沢重生 岩宿遺跡の石器 論纂日本原史 吉川弘文館 1985
126. 大友 健他 開成自動車道(新河橋)水上町埋蔵文化財調査報告書 水上町遺跡調査会 1985
127. 藤原 正他 開成自動車道(新河橋)埋蔵文化財調査報告書(第1分冊) 月夜野町遺跡調査会 1985
128. 原野文夫他 中瀬遺跡・長井城跡遺跡 昭和村教育委員会 1985
129. 白石典之他 見立沼井遺跡・見立大久保遺跡 赤城村教育委員会 1985
130. 谷藤保彦他 中瀬・諏訪西遺跡 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1985
131. 前原 費他 柳久保遺跡群1 昭和59年度調査概要 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1985
132. 塚田 茂 中江田遺跡 付、六供古墳群。新田町文化財調査報告書7 新田町教育委員会 1985
133. 原田恒弘・中東幹志 勢多郡富士見村籠ノ口遺跡試掘調査報告(Ⅰ) 群馬県立歴史博物館調査報告書1 群馬県立歴史博物館 1985
134. 若月省吾 笠懸村誌 上巻 通史編 1985
135. 山口逸弘他 書上本山遺跡 年報4 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1985
136. 原 雅信他 光山房遺跡 年報4 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1985
137. 坂井 隆他 五日市南組遺跡 年報4 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1985
138. 友原哲也他 塚下八幡遺跡 年報4 財団法人群馬県縄文文化財調査事業団 1985
139. 岩崎幸一 先土器時代の遺跡 下野牛伏遺跡 地下からのメッセージ 上州路134 あさき社 1985
140. 三宅敦気他 勝上遺跡・三峰神社裏遺跡・大友館址遺跡 月夜野町教育委員会 1986
141. 白石典之他 勢多郡八幡遺跡 北橋村教育委員会 1986
142. 原田恒弘・中東幹志 勢多郡富士見村籠ノ口遺跡試掘調査報告(Ⅱ) 群馬県立歴史博物館調査報告書2 群馬県立歴史博物館 1986

143. 岩崎泰一他 下輪牛伏遺跡 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
144. 岩崎泰一 下輪牛伏遺跡 利根川を下る 歴史を遡る 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
145. 麻生敏隆 流田遺跡 利根川を下る 歴史を遡る 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
146. 麻生敏隆 群馬県における黒色帯(A・T下位)の石器群についての現状報告 北陸旧石器シンポジウム1986 日本海地域における旧石器時代の東西交流—国府系・立野ヶ原系石器群をめぐる諸問題—発表要旨 北陸旧石器文化研究会・近畿旧石器文化協会 1986
147. 松村和男 前橋市川籠宮戸遺跡出土のナイフ形石器 群馬文化208 群馬県地域文化研究協議会 1986
148. 松村和男 群馬県前橋市荒砥上西原遺跡出土の石器 旧石器考古学33 旧石器文化談話会 1986
149. 桜場一寿他 流志江六反田遺跡 年報5 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
150. 桜場一寿他 流志江天神山遺跡 年報5 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
151. 岩崎泰一他 飯土井二本松遺跡 年報5 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
152. 岩崎泰一他 飯土井中央遺跡 年報5 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
153. 安中市教育委員会 古城遺跡 安中市遺跡要パンフレット 1986
154. 須藤隆司 群馬県飯塚遺跡の石器文化—ナイフ形石器の型式的考察— 明治大学考古学博物館報No.2 1986
155. 藤岡市教育委員会 北山遺跡 群馬の遺跡—最新の発掘成果—パンフレット 群馬県立歴史博物館 1987
156. 梅沢重昭編 群馬県史 日本古代遺跡16 保育社 1987

第6章 自然科学

第1節 本遺跡出土の黒曜石製遺物の産地同定

分析者：鈴木正男（立教大学）

福岡 久（日本大学）

金山喜昭（野田市郷土博物館）

戸村健児（立教大学）

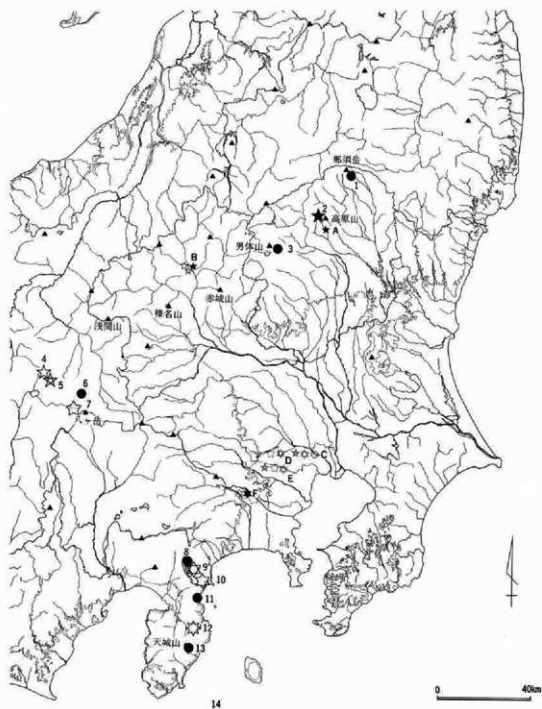
分析方法：熱中性子放射化分析による微量元素の測定と判別分析

分析結果：No178（使用痕ある剥片、第39ブロック）	S-Wg（信州系・和田峠）
No1018（剥片、第25ブロック）	S-Wg（#・#）
No1020（剥片、第25ブロック）	S-Ht（#・星ヶ塔）
No2516（使用痕ある剥片、第22ブロック）	T-Tn（栃木・高原山）

注：本遺跡での黒曜石の点数は必ず6点であり、この内の1点（No3920第33図-113）については加工痕ある剥片であるために分析には提出しない事とし、もう1点（No1064）は剥片であるが折れていて小さい事から分析資料としては不適当であるため除外した。

黒曜石の主要な原産地としては、長野県八ヶ岳山系、神奈川県箱根山系、東京都神津島、栃木県高原山系の関東地方に存在する。特に前記の三者は、旧石器時代のみならず、縄文時代全般を通して石器の原料として関東地方や長野県内の遺跡から検出されている。これに対して栃木・高原山の資料は栃木県を中心としたかなり限定された範囲で検出されているに過ぎない。第280図はそのデータを地図上に示したものであり、各種の星形の記号の大小は原産地の位置と、産地同定により出土した黒曜石の産出地が把握できた遺跡の位置及び産出地との関係がわかる様に表現したものである。遺跡数が少ないのは、AT降下期以前の文化層の内から黒曜石が出土しその産地同定分析が実施された遺跡だけを対象としたためで、本遺跡を含めて9遺跡のみであり、内分けは北関東地域の3遺跡、南関東地域の6遺跡である。

南関東地域では東京都尾崎遺跡での5点の試料のうち、1点は星ヶ塔、2点が柏峠、2点が畑宿であり、比率としては信州系1に対して箱根系4と箱根系が優位である。鈴木遺跡では第VII層の資料を中心に18点もの分析がなされており、畑宿の12点、八ヶ岳の4点、和田峠の2点の結果が示されており、比率としては信州系の6に対して箱根系が12と優位を占める。多聞寺前遺跡では第IX層出土の資料を中心に6点の試料が分析され、畑宿の2点とややはっきりしないが上多賀の1点、それに八ヶ岳の3点と、信州系と箱根系が均等している。平代版遺跡第IX層の9点の分析結果は、箱根6点、上多賀-鍛冶屋3点とすべて箱根系が占める形である。野川遺跡第VI層の1点のみの資料の分析結果も箱根系である。神奈川県本遺跡では、XII-XVI層（22.700OB-F T a B, P.）から出土した8点の資料のうち、6点は神津島産であり、残りの2点は鍛冶屋産である。特に、神津島は伊豆半島の南飛から約50kmも離れており、約2万年前の水河期でも約30kmの距離はあったと考えられる。この事は当時、既に海を渡る何らかの手段を有していたと推定されよう。



第280図 関東・中部地方の黒曜石原産地とその使用遺跡

黒曜石産出地

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 那須岳・茶臼岳大丸 (栃木県) | 8 箱根・笛塚 (神奈川県) |
| 2 高原山・八方ヶ原 (栃木県) | 9 箱根・畑宿 (神奈川県) |
| 3 男体山・荒沢 (栃木県) | 10 箱根・鍛冶屋 (神奈川県) |
| 4 和田峠 (長野県) | 11 箱根・上多賀 (静岡県) |
| 5 霧ヶ峰・星ヶ塔 (長野県) | 12 伊豆・柏峠 (静岡県) |
| 6 八ヶ岳・麦草峠 (長野県) | 13 伊豆・天城山 (静岡県) |
| 7 八ヶ岳・冷山 (長野県) | 14 伊豆七島・神津島 (東京都) |

黒曜石出土遺跡 (AT降下期以前)

- | |
|----------------------|
| A 烏羽新田遺跡 (栃木県塩谷郡塩谷町) |
| B 後田遺跡 (群馬県利根郡月夜野町) |
| C 尾崎遺跡 (東京都練馬区) |
| D 多聞寺前遺跡 (東京都東久留米市) |
| E 鈴木遺跡 (東京都小平市) |
| F 橋本遺跡 (神奈川県相模原市) |

北関東地域では栃木県烏羽新田遺跡の1点の資料の分析結果から、地元の高原山系と推定されている。群馬県岩宿遺跡第1文化層の1点の資料も分析され、信州系と推定されているものの、水合層は確認されなかったとの事である。

以上の分析結果からは、南関東地域でのA T降下以前の段階では、箱根系が信州系よりもかなり優位に利用されている事がわかる。さらに鈴木正男氏らによれば、この段階よりも新しくなるに従って信州系の利用が多くなり、旧石器時代終末期から縄文時代にかけては信州系の圧倒的な優位に変わるとの事である。

一方、北関東地域ではやや複雑さを呈しており、まずは黒曜石そのものがこの段階の石材としては少なく、1点も出土しない遺跡も希ではなく、次に、分析資料そのものの点数も極めて少ない事があげられる。しかし、その数少ない分析結果からは、南関東地域とは異なり、信州系が優位で箱根系が今のところは検出されていない点が明確になっている。さらに、栃木県高原山系産の黒曜石が地元はもちろんの事、直線にして約80km離れている本遺跡も検出されたのは驚くべき事である。ただし、これも和田峠との約90kmの距離を考え合わせれば、それ程の事ではないかも知れないが、質的に優る信州系が多用されている事を考えれば、やはり興味深い事と言える。

黒曜石の分析結果を基に、やや他力本願的な文章となってしまったが、ここから得られた成果については、県内及び他県でのほぼ同じ段階に位置付けられる遺跡が分析対象となる事により、さらに確実なものとなっていくと考えられる事から、今後の分析研究の拡大に大いに期待したい。

参考文献

(概説・論文)

- 上野修一・二宮修治・綱子 守・大沢基雄 1986 石器時代の本県域における黒曜石の利用について—栃木県高原山系黒曜石を中心に—
 栃木県立博物館研究紀要 第3号 p.91-115
- 鈴木正男 1977 ストーン・ロードをさぐる 数理科学170 p.25-33 サイエンス社
- " 1985 黒曜石研究の現状と課題—関東・中部地方の事例を中心に— 考古学ジャーナル244 p.2-6 ニュー・サイエンス社
- Masao Suzuki, and Kenji Tomura 1983 Basic Data for Identifying the Source of Archaeological Obsidian by Activation Analysis and Discriminant Analysis St. Paul's Review of Science. Vol. 4, No. 4, p.99-110
- Masao Suzuki, Yuji Kato and Kenji Tomura 1983 Intrasite Obsidian Analysis of the Suzuki Site, Tokyo St. Paul's Review of Science. Vol. 4, No. 4, p.111-120
- Masao Suzuki, Yoshiaki Kanayama, Yutaka Aoki, and Kenji Tomura 1984 Intrasite Obsidian Analysis of the Hashi-moto Site, Sagami-hara-shi, Kanagawa-ken, Japan St. Paul's Review of Science, Vol. 4, No. 5, p.121-129 (金山昭昭 1985 神奈川県相模原市橋本遺跡の黒曜石分析 旧石器考古学30 p.113-117 旧石器文化談話会)
- Masao Suzuki, Yoshiaki Kanayama, Akira Oso, Toshiaki Tsunomaru, Shizuo Oda, and Kenji Tomura 1984 Obsidian Analysis:1974-1984 St. Paul's Review of Science, Vol. 4, No. 5, p.131-140 (報告書)
- 鈴木正男 1971 野川遺跡出土黒曜石の原産地推定および水合層測定 第四紀研究第10巻4号 p.250-252 日本第四紀学会
- " 1980 a 鈴木遺跡出土黒曜石の放射化分析・[鈴木遺跡II]、鈴木遺跡調査団、p.454-462
- " 1980 b 黒曜石分析・[鈴木遺跡III]、p.333-341
- " 1982 尾崎遺跡出土黒曜石の分析・[尾崎遺跡]、p. 310-311 神馬区遺跡調査会・神馬区教育委員会
- 松浦秀治 1983 多聞寺前遺跡出土黒曜石の分析・[多聞寺前遺跡II]、p.696-699 多聞寺前遺跡調査会

第2節 花粉分析

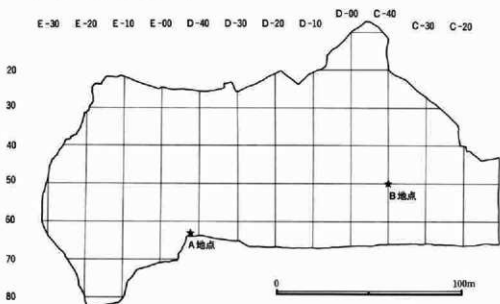
パリノ・サーヴェイ株式会社

1. 試料

試料は、後田遺跡のA地点11点、B地点7点の合計18点である。これらの試料の採取位置、層序、試料番号、土質、花粉・胞子化石産出傾向等について第52表にまとめて試料表とした。

2. 分析方法

分析方法は、試料20～30g（湿重）を秤量し、48%HF→重液分離（ $2_0B r_2$ ）→アセトリシス処理→10% KOHの順に物理・化学処理を行った。



第281図 試料採集地点

第52表 後田遺跡花粉分析試料

地点	No.	岩質 ⁽¹⁾	花粉・胞子化石産出傾向 ⁽²⁾	地点	No.	岩質 ⁽¹⁾	花粉・胞子化石産出傾向 ⁽²⁾
A 地 点	2	黒褐色土	C	B 地 点	2	黒褐色粘土質土	R
	4	"	C		4	"	RR
	6	黄白色パミス	R		5	"	RR
	8	"	A		6	"	RR
	10	"	R		7	黒褐色粘土	RR
	12	明褐色パミス	C		8	"	RR
	14	"	R		9	暗褐色砂質粘土	RR
	16	"	RR				
	18	褐色粘土質土	RR				
	20	"	RR				
	22	"	RR				

注 (1) 色調は、新版標準土色（小山・竹原、1967）による。
 (2) 花粉・胞子化石産出傾向は、AA（極めて多い）、A（多い）、C（普通）、R（少ない）、RR（極めて少ない）の表現とした。

3. 分析結果及び考案

分析結果は、表-2に個体数でまとめた。また、樹木花粉が100個体をこえる試料については樹木花粉総数を基数として百分率を算定し、主要花粉・胞子化石については第282図に表示した。また、PLATE-1~4を添付したので参照されたい。

今回の分析で検出された花粉・胞子化石は次のものである。

A P-1 (針葉樹花粉)

Abies (モミ属)、*Tsuga* (ツガ属)、*Picea* (トウヒ属)、*Pinus haploxyton* (五葉型松)、*Pinus diploxyton* (二葉型松)、*Pinus* (マツ属)、*Cryptomeria* (スギ属)、T.C.T. (Taxaceae・イチイ科、Cupressaceae・ヒノキ科、Taxodiaceae・スギ科、この3科の中の何らかではあるが鑑別判定の困難なもの)。

A P-2 (広葉樹花粉)

Juglans (クルミ属)、*Alnus* (ハンノキ属)、*Betula* (カバノキ属)、*Corylus* (ハシバミ属)、*Castanea* (クリ属)、*Fagus* (ブナ属)、*Lepidobalanus* (コナラ亜属)、*Cyclobalanopsis* (アカガシ亜属)、*Ulmus* (ニレ属)、*Zelkova* (ケヤキ属)、*Moraceae* (クワ科)、*Aesculus* (トチノキ属)、*Ilex* (モチノキ属)、*Rhamnaceae* (クロウメモドキ科)、*Acer* (カエデ属)、*Elaeagnus* (グミ属)、*Cornus* (ミズキ属)、*Symplocos* (ハイノキ属)。

N A P (草本花粉)

Fagopyrum (ソバ属)、*Persicaria* (サナエタデ節)、*Caryophyllaceae* (ナデシコ科)、*Chenopodiaceae* (アカザ科)、*Thalictrum* (カラムツソウ属)、*Rununculaceae* (キンボウゲ科)、*Macleaya* (タケニグサ属)、*Cruciferae* (アブラナ科)、*Leguminosae* (マメ科)、*Geranium* (フウロソウ属)、*Umbelliferae* (セリ科)、*Patrinia* (オミナエシ属)、*Artemisia* (ヨモギ属)、*Carduoideae* (キク亜科)、*Cichorioideae* (タンポポ科)、*Gramineae* (イネ科)、*Cyperaceae* (カヤツリグサ科)、*Typha* (ガマ属)。

F P (形態分類花粉)

Trigonoporate pollen (三孔型花粉)、*Trigonocolpate pollen* (三溝型花粉)、*Trigonocolporate pollen* (三溝孔型花粉)、*Polyantoporate pollen* (多孔型花粉)。

F S (羊歯類胞子)

Polypodiaceae (ウラボシ科)、*Monoletic spore* (単条溝型胞子)、*Trilete spore* (三条溝型胞子)。

その他微化石

Pseudoschijaea (淡水生藻類)。

次に、各地点ごとについて述べる。

A地点

No.22からNo.14の試料では検出個体数が100個体以下と極めて低率であり、とくにNo.22、20、18では10個体以下である。No.12では、ハンノキ属が47.1%と高率に出現、他にコナラ亜属が比較的高率に出現する。草本・シダ類胞子では、ヨモギ属・キク亜科・単条溝型胞子・イネ科が比較的高率である。No.10では樹木花粉が42個と少ないが、その中ではコナラ亜属、ハンノキ属が多いようである。No.8ではコナラ亜属が61.4%と高率に出現する。草本・シダ類胞子では単条溝型胞子が87.1%と極めて高率に出現する。No.6では、樹木花粉は19個体と少ないが、その中ではコナラ亜属が多いようである。No.4、No.2ではマツ属が高率に出現、スギ属も比較的高率である。コナラ亜属は5%前後になる。草本・シダ類胞子は、イネ科、アカザ科が高率に出現する。

Na12からNa2の間の試料においては、大きく2つに分けられ境界はNa6とNa4の間にある。下部(Na12-Na6)は、コナラ亜属、ハンノキ属の広葉樹により特徴づけられ、上部(Na4、Na2)はマツ属、スギ属の針葉樹により特徴づけられる。花粉群集は、Na6とNa4の間で急激に変化する。下部は層位的にY Pと考えられる試料であることから時代的には約10,000年前前後の堆積物である。しかし、上部は花粉構成から考えて塚田(1981)のR III b帯に相当するものと考えられる。従って、Na6とNa4の間には相当の時間間隔が存在する可能性は極めて高い。この境界はほぼ岩質の変化とも一致する。

今回、Polyantoporate pollenとした未同定の花粉がNa12-Na6の試料で出現し、Na12、Na10では高頻度を占めた。PLATE-2の17、18がその花粉であるが、おそらくヒユ科あるいは近縁の分類群に対応するものと考えられるが現状では判断できない。今後の基礎的データの蓄積をまちたい。

Na2、Na4ではアカザ科、イネ科が高率に出現するが対応種は不明である。

B地点

検出個体数は100個以下と極めて少ない。大半の試料ではヨモギ属が出現し、とくにNa2では全体で54個体中26個体を占める。

Na2においてはこの他イネ科、タンポポ科など草本花粉のみが優勢であり、その下位のNa4においては含まれている花粉は極めて乏しい。Na6では同じような傾向を示し僅かにヨモギ属、タンポポ科、カヤツリグサ科などがみられる。

Na7も含有個数には多少の差はあるが傾向は同じである。

Na8はこれらの試料の中では比較的草本花粉が含まれており、ヨモギ属は15個を数える。Na9は花粉は非常に少ない。

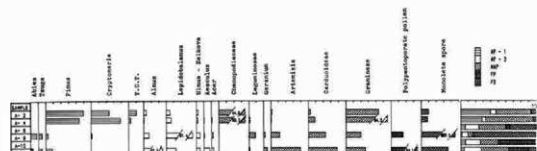
以上B地点の試料はNa7、Na8が黒色泥炭質粘土であるにも拘わらず化石が少ないためA地点の層のいづれに比定できるか資料不足のため判定しがたい。

引用文献

- 塚田松雄(1981) 過去一万二千年間 日本の植生変遷史II 新しい花粉帯 日生懇会誌31, p.201-215

第53表 後田遺跡試料花粉分析結果

Pollen & Spores	Sample																	
	A-2	A-4	A-6	A-8	A-10	A-12	A-14	A-16	A-18	A-20	A-22	B-2	B-4	B-6	B-7	B-8	B-9	
Abies			1	8	8	3		1						1			3	
Tsuga	1			1	5	1	5	4										
Ficus								1	1									
Pinus (Haploxylo)					1			2										
P. (Diploxylo)	27	22															1	
Pinus	26	25	2	3	3	9	4	6										
Cryptomeria	49	84	2	1					1	2	2				1			
T.C.T.	21	6															1	
AP-1	174	187	6	17	13	17	11	9	2	2	0	0	0	1	1	0	3	2
Juglans	3	4	1	1														
Alnus	7	1	3	7	13	48	6	3										
Betula				1				2										
Corylus		1	2			4	1	1										
Castanea	3	1				1												
Fagus	1			1								1						
Lepidobalanus	10	14	8	62	25	13	2						3	1		1	2	2
Cyclobalanopsis				1														
Ulmus - Zelkova	5	4	2	5	2	5	1	3										
Moraceae	1	1		1		1											1	
Aesculus		1	2	1	1	8	1	1				1						
Ilex				1		1												
Rhamnaceae	1																	
Acer		2		2	1	3	1											
Elaeagnus								1										
Cornus			1	1	1													
Samoloco	1																	
AP-2	32	29	19	84	42	85	14	9	0	0	1	4	1	0	1	2	1	3
AP	206	216	25	101	55	102	25	18	2	2	1	4	1	1	2	2	4	5
Fagopyrum		2																
Persicaria	1													1		1		
Caryophyllaceae	4	5	1					2				1					1	
Chenopodiaceae	93	185	13					2				3			2	2	5	1
Thalictrum				2	3	12	1	1										
Ranunculaceae		1		5	5	8												
cf. Racleaya				1														
Cruciferae	5	2										1					1	
Leguminosae		3	1	9	3	1	1											
Geranium		1	2	4	5	3												
Umbelliferae		1	5	2	1													
Pastinaca					1									1				
Artemisia	3	1	1	12	11	40	11	10		3		26		1	5	7	15	2
Carduoidae	6	19	6	23	19	39	7					1	9			3	2	1
Cichorioideae	3	1	2	2		4	1	2				2			2		3	
Gramineae	89	182	7	20	4	26	10	3		1	1	5	1		2	2	2	1
Cyperaceae	1	2																
Typha		1																
NAP	205	415	37	78	50	136	34	20	0	4	1	39	12	1	13	14	29	5
Trizonoporate pollen	1																	
Trizonocolpate pollen	1			1		2								1				1
Trizonocolpate pollen	3	4	1	5	4	4	1					6	1				2	1
Polyantoporate pollen			5	16	98	96	17											
FP	5	4	6	22	102	102	18	0	0	0	0	6	2	0	0	0	2	2
Polypodiaceae	1													4		1	1	
Monolete spore	20	18	36	896	4	36	1	1	1			5	2	1	1	1	5	1
Trilete spore	5	4												1				
PS	23	23	36	896	4	36	1	1	1	0	0	5	7	1	2	2	5	1
Pollen&Spores	441	658	104	1097	211	376	28	39	3	6	2	54	22	3	17	18	40	13
Pseudoschizaea														2				



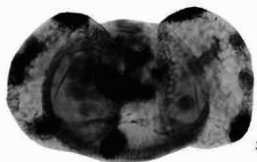
第282図 後田遺跡試料花粉ダイアグラム



1



2



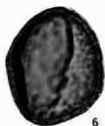
3



4



5



6



7



8



9



10



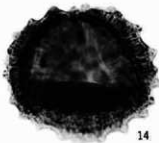
11



12



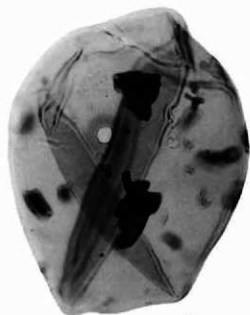
13



14



15



16



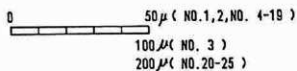
17



18

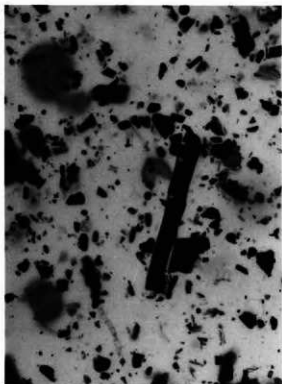


19

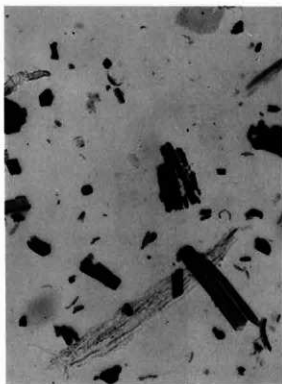


Explanation of Plates

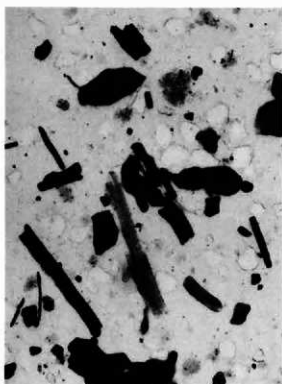
Photo No.	Sample No.	Pollen & Spore
PLATE 1		
1	A-14	Pinus
2	A-4	P. (Diploxylon)
3	A-4	Abies
4	A-4	Cryptomeria
5	A-14	Alnus
6	A-14	Lepidobalanus
7	A-16	Elaeagnus
8	A-2	Symplocos
9	A-4	Fagopyrum
10	A-4	Chenopodiaceae
11	A-16	Caryophyllaceae
12	A-16	C.
13	A-10	Ranunculaceae
14	A-14	Carduoidae
15	A-12	Cichorioideae
PLATE 2		
16	A-4	Cramineae
17	A-12	Polypantoporate pollen
18	A-12	P.
19	A-8	Monolete spore



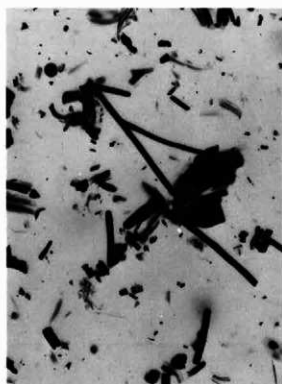
20



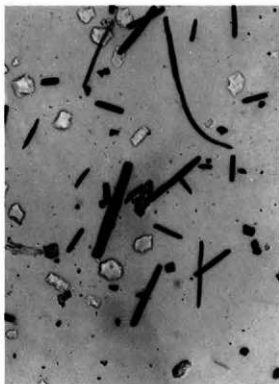
21



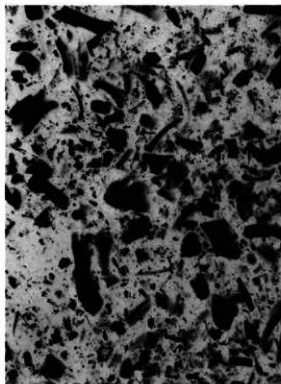
22



23



24



25

Photo No.	Sample No.	
PLATE 3		
20	A-4	状況写真
21	A-14	"
22	A-18	"
23	B-9	"
PLATE 4		
24	A-22	状況写真
25	B-5	"

写 真 图 版



1. 遺跡遠景（利根川対岸上空から）



2. 遺跡全景（西から）



1. B区試験掘トレンチ遠景



2. B区試験掘トレンチ近景



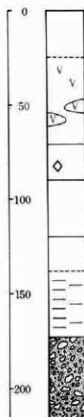
3. B区試験掘トレンチ近景



4. B区試験掘トレンチ近景



5. 土層及び柱状図



写真図版 3



1. 試掘調査風景



2. 本調査風景



3. 試掘状態 (32-D-38グリッド)



4. 試掘状態 (27-D-48グリッド)



5. 試掘状態 (31-E-02グリッド)



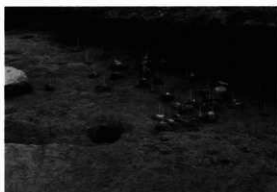
6. 遺物出土状態 (31-E-02グリッド)



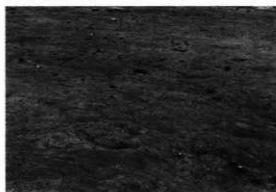
7. 試掘状態 (36-D-43グリッド)



8. 遺物出土状態 (36-D-43グリッド)



1. 第1ブロック出土状態



2. C・D区道東部分遺物出土状態



3. C・D区道東部分遺物出土状態



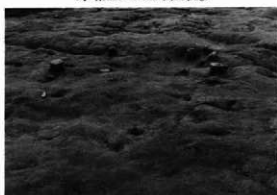
4. 第16ブロック出土状態



5. 第16ブロック出土状態



6. 第16ブロック東側部分出土状態



7. 第19ブロック出土状態



8. 第20ブロック出土状態

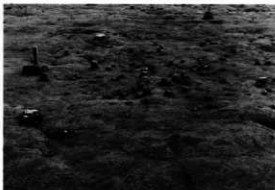
写真図版 5



1. 第22・23・24ブロック出土状態



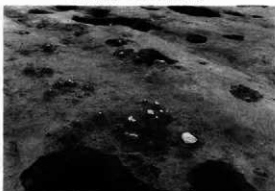
2. 第22ブロック出土状態



3. 第23ブロック出土状態



4. 第24ブロック出土状態



5. 第25ブロック出土状態



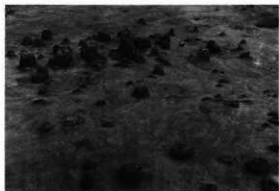
6. 第28ブロック出土状態



7. 第29ブロック出土状態



8. 第32・33ブロック出土状態



1. 第32ブロック西側部分出土状態



2. 第32ブロック東側部分出土状態



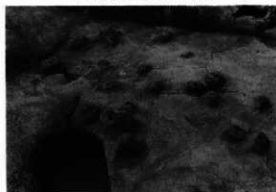
3. 第33ブロック出土状態



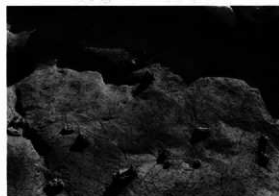
4. 第33ブロック出土状態



5. 第35ブロック出土状態



6. 第37ブロック出土状態



7. 第37ブロック出土状態

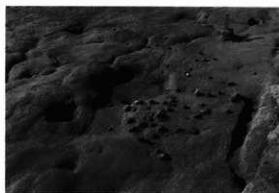


8. 第38ブロック出土状態

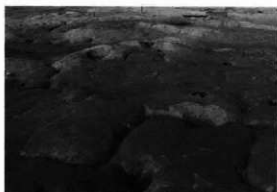
写真図版7



1. 第38ブロック出土状態



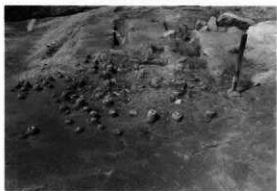
2. 第39ブロック出土状態



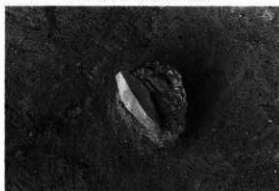
3. 第40ブロック出土状態



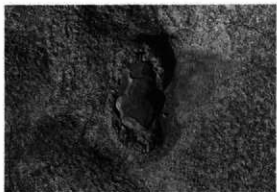
4. 第42ブロック出土状態



5. 第42ブロック出土状態



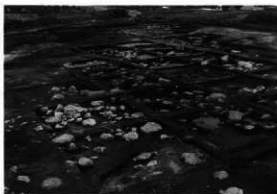
6. ナイフ形石器出土状態



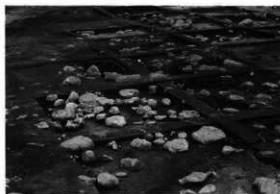
7. 打製石片出土状態



8. 敲石・台石出土状態



1. C・D区谷地部分全景 (東側から)



2. C・D区谷地部分近景 (東側から)



3. C・D区谷地部分全景 (西側から)



4. C・D区谷地部分近景 (西側から)



5. D区工事用道路部分全景 (西)



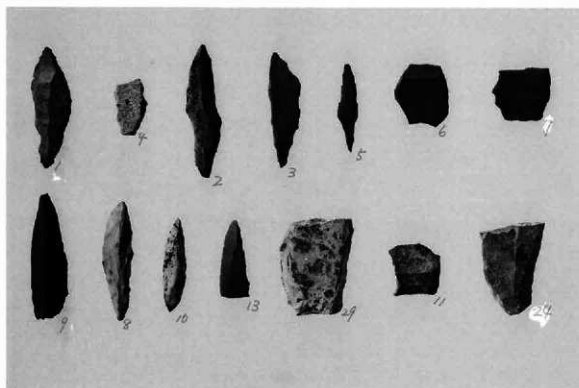
6. D区工事用道路部分全景 (東)



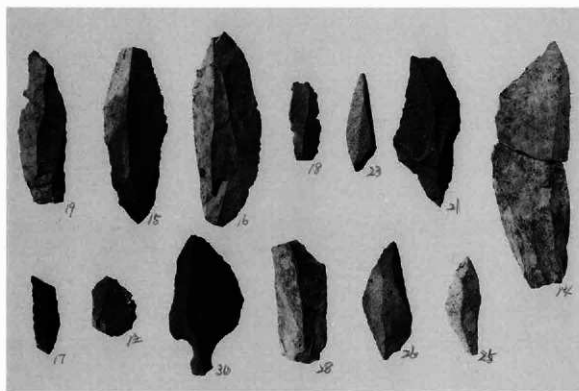
7. D区転石検出状態



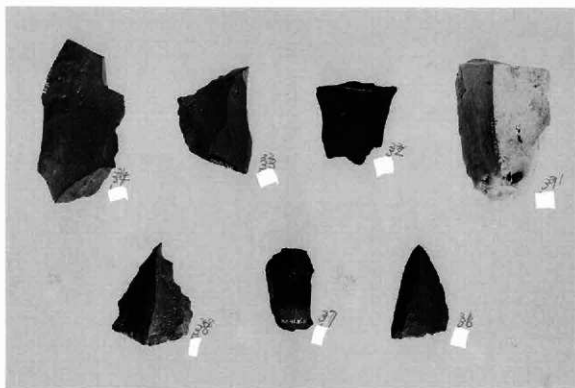
8. D区転石検出状態



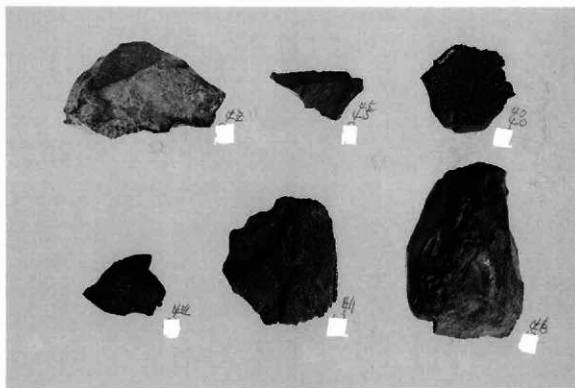
1. ナイフ形石器 (1)



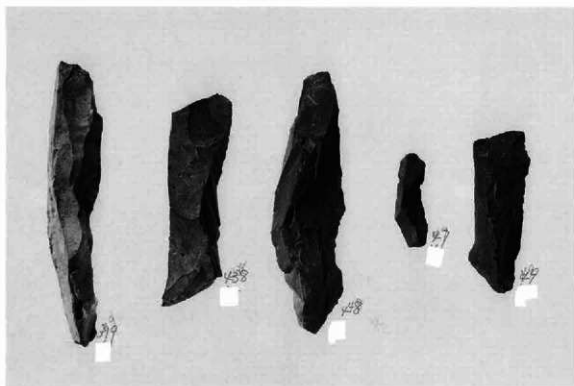
2. ナイフ形石器 (2)



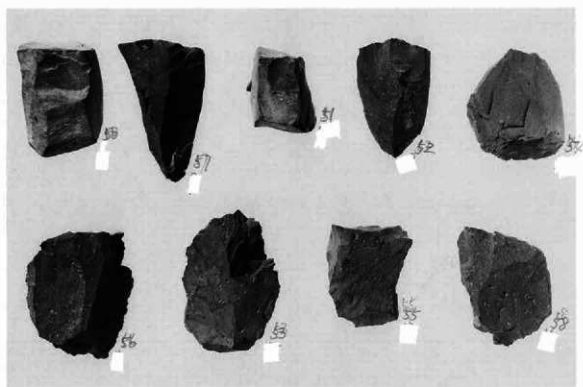
1. 形器・石錐・楔形石器・攪器



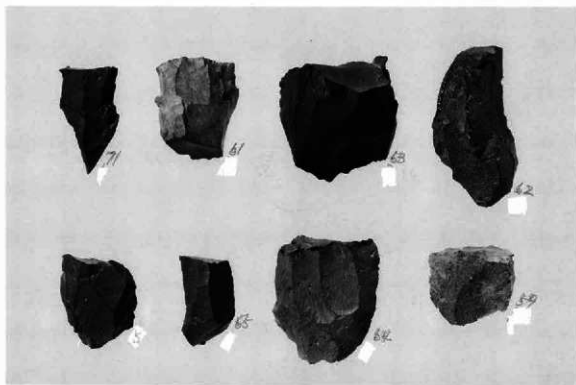
2. 打面再生・打面作出薄片



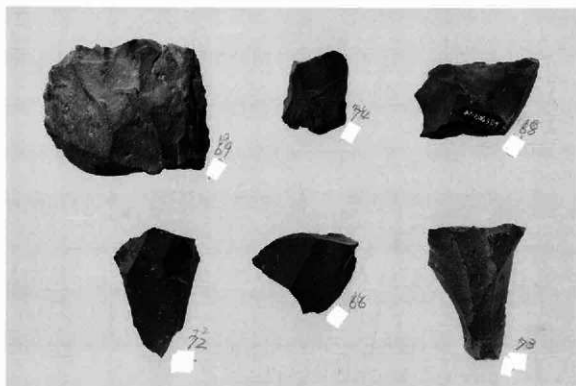
1. 石核残付の刺片



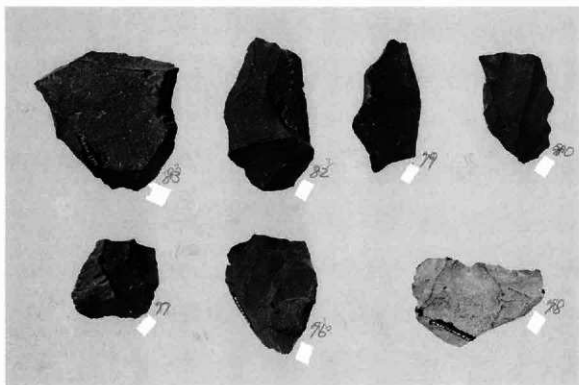
2. 石核 (I)



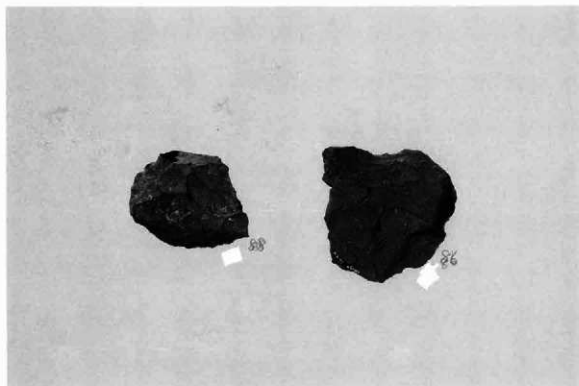
1. 石核 (2)



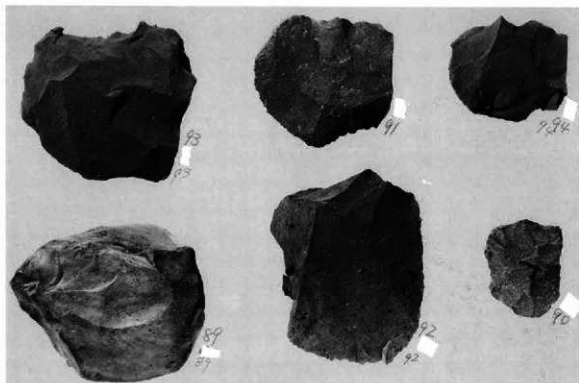
2. 石核 (3)



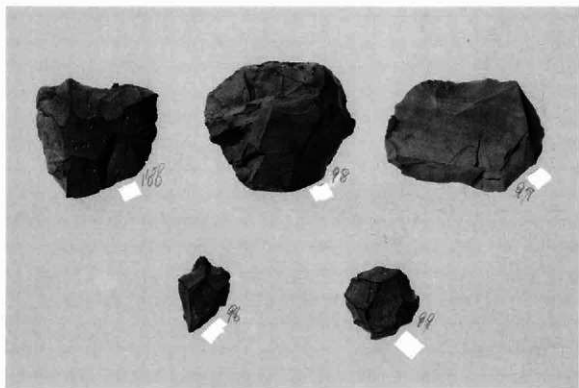
1. 石核 (4)



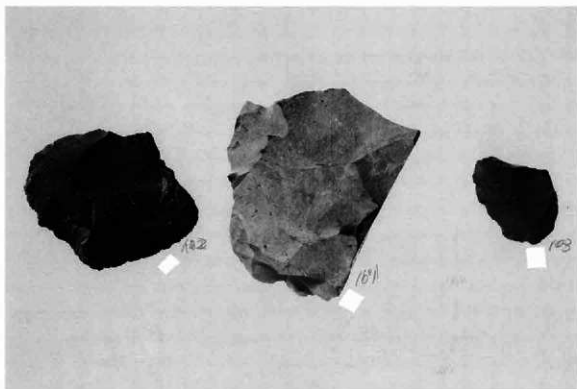
2. 石核 (5)



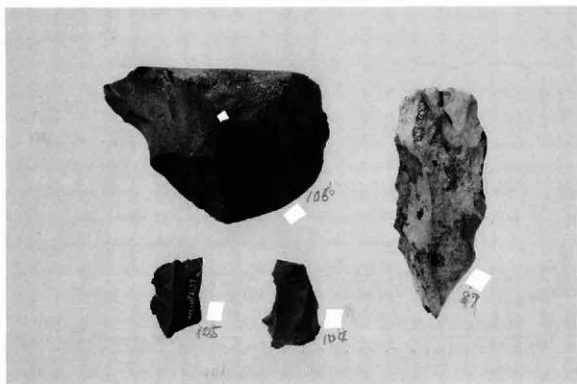
1. 石核 (6)



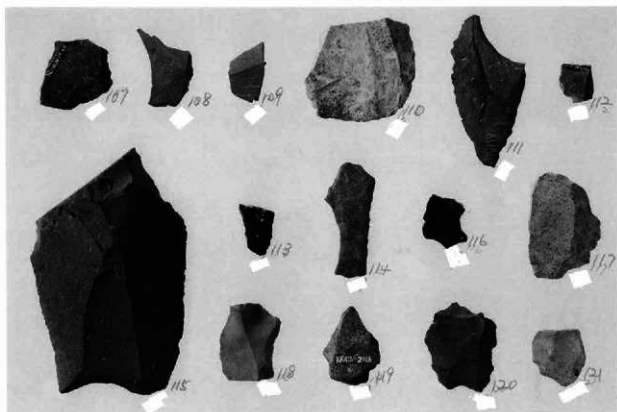
2. 石核 (7)



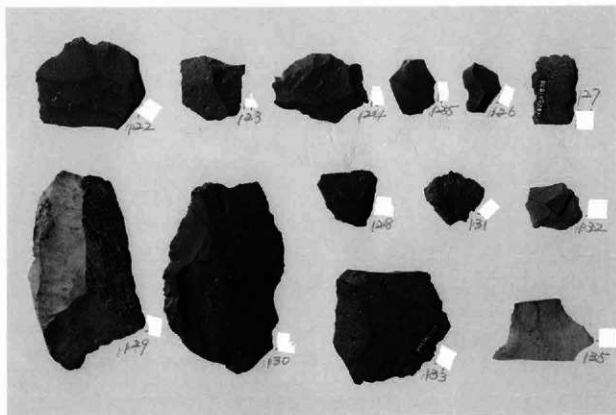
1. 石核 (8)



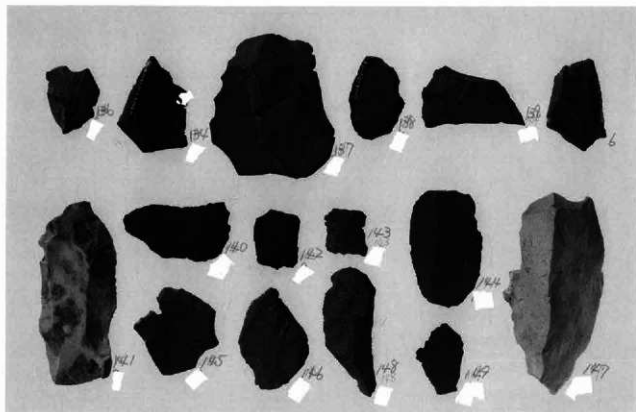
2. 石核 (9)



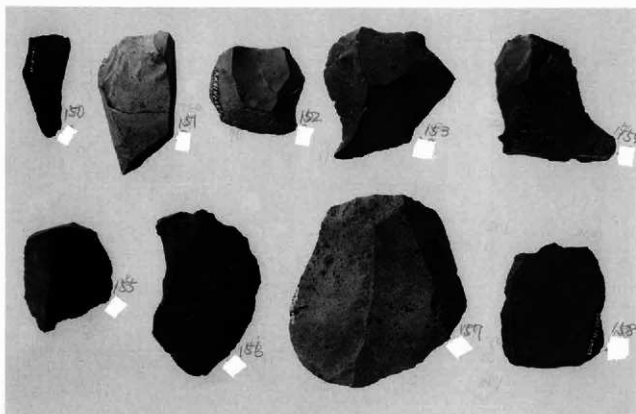
1. 加工痕ある剥片 (1)



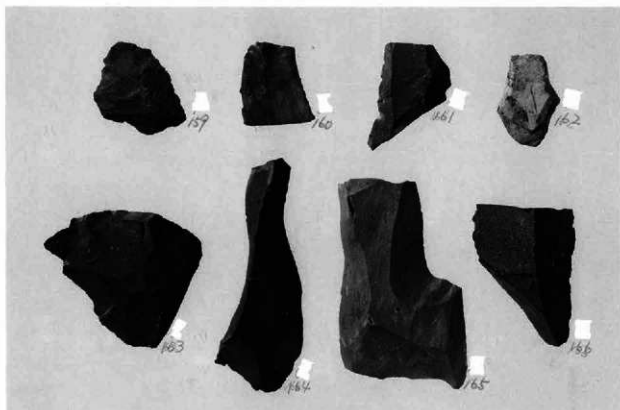
2. 加工痕ある剥片 (2)



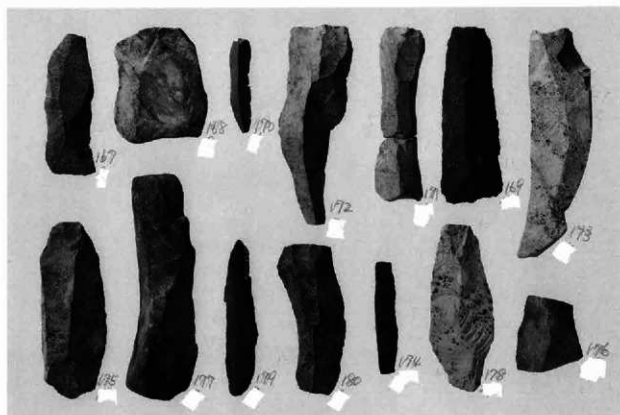
1. 加工痕ある剥片 (3)



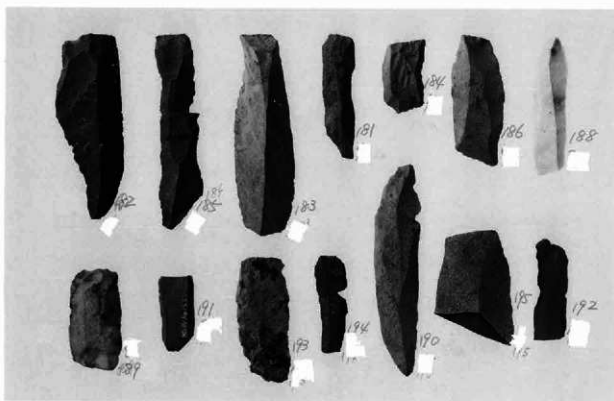
2. 使用痕ある剥片 (1)



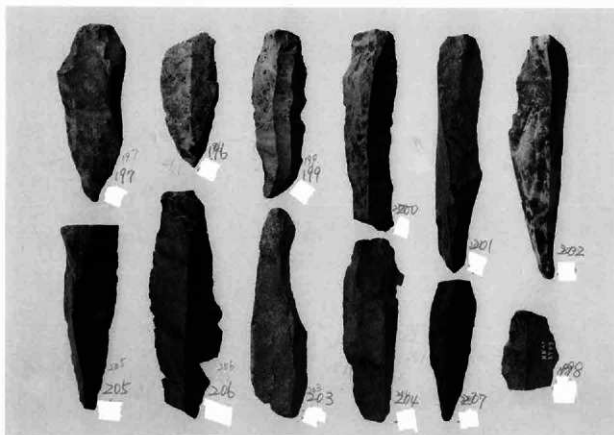
1. 使用痕ある剥片 (2)



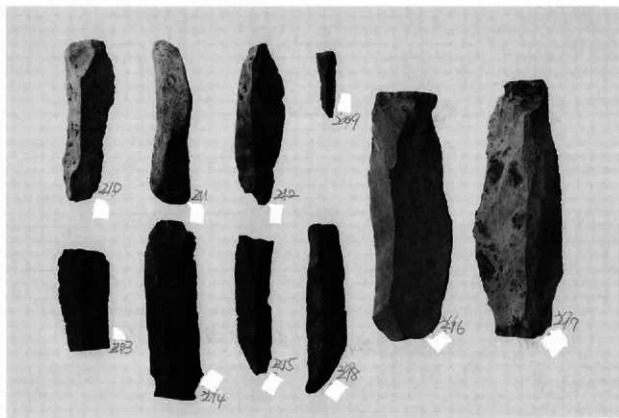
2. 石 刃 (1)



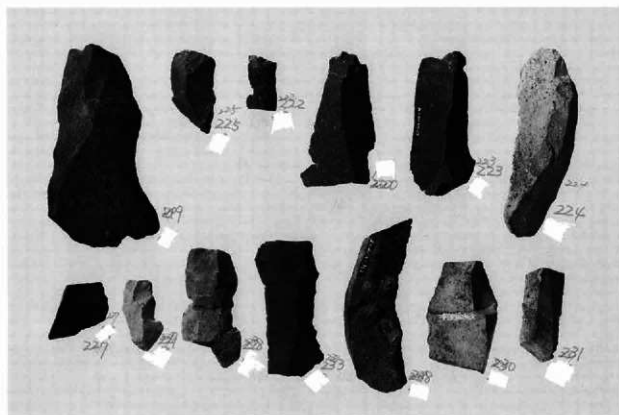
1. 石 刃 (2)



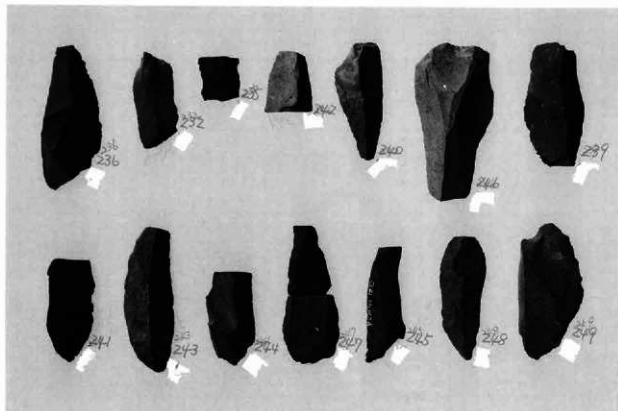
2. 石 刃 (3)



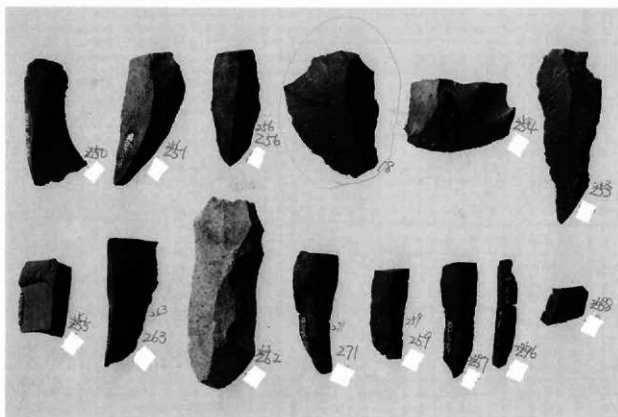
1. 石刃 (4)



2. 石刃状碎片 (11)



1. 石刃状制片 (2)



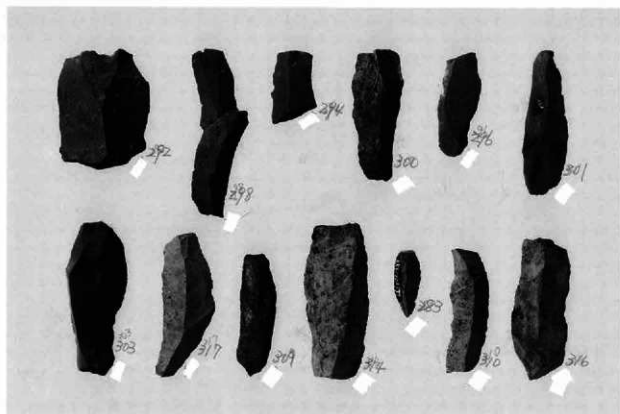
2. 石刃状制片 (3)



1. 石刃状刻片 (4)



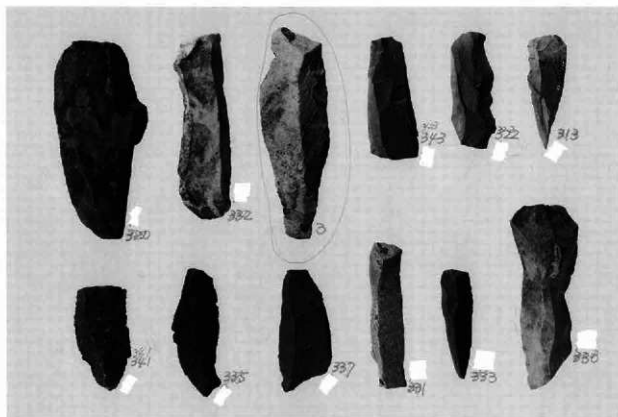
2. 石刃状刻片 (5)



1. 石刃状制片 (6)



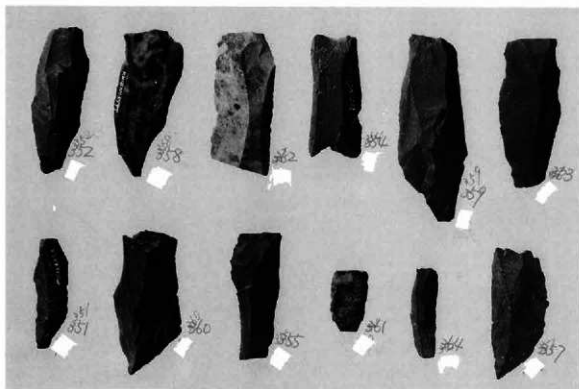
2. 石刃状制片 (7)



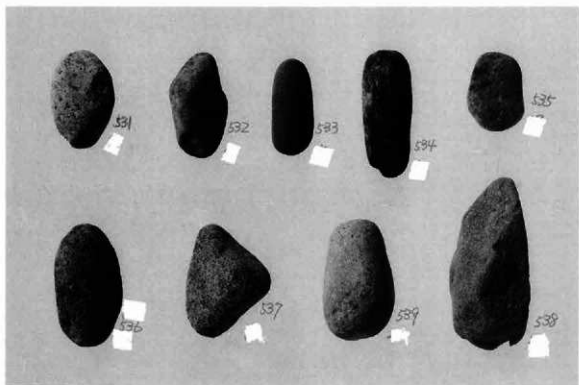
1. 石刃状剥片 (8)



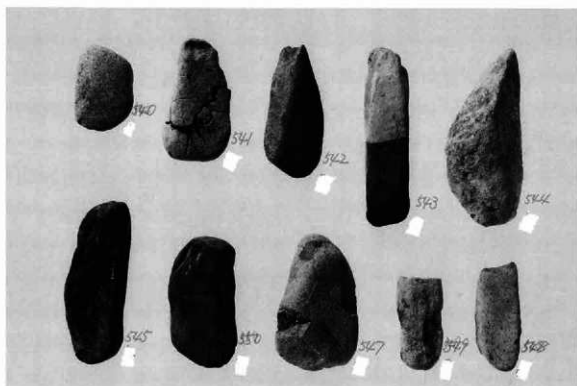
2. 石刃状剥片 (9)



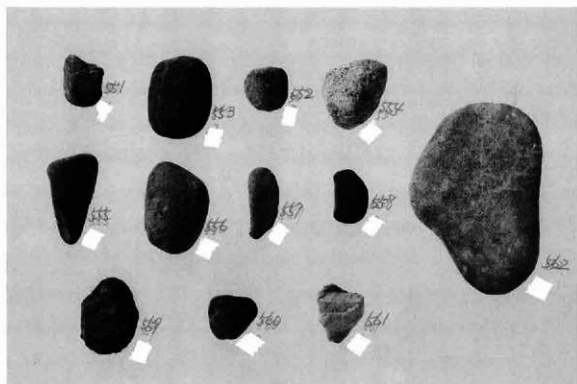
1. 石刃状断片 00



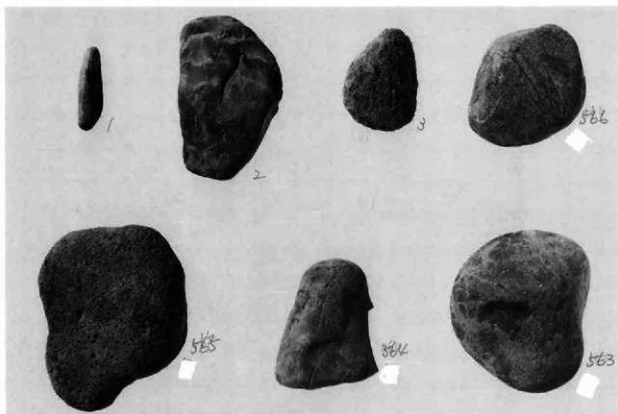
2. 敲石 (1)



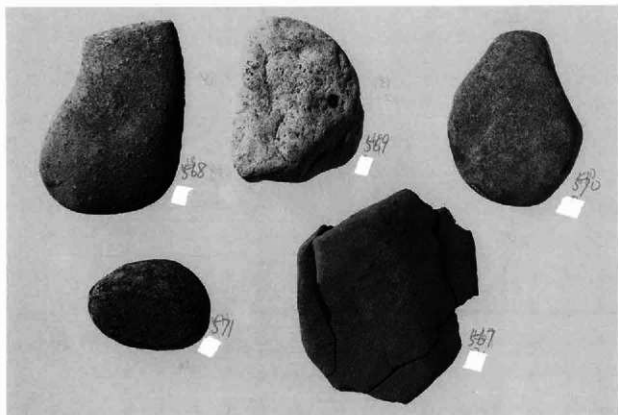
1. 敲石 (2)



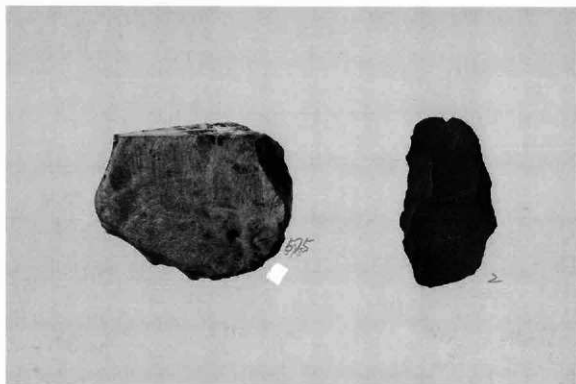
2. 敲石 (3)



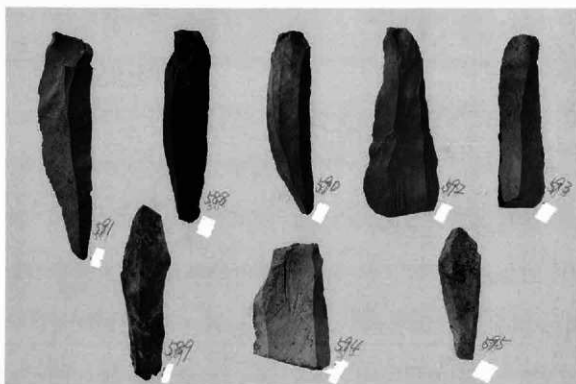
1. 融石 (4)・原石



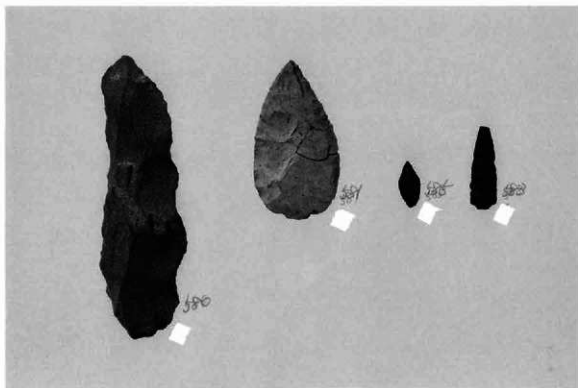
2. 台石・磨石



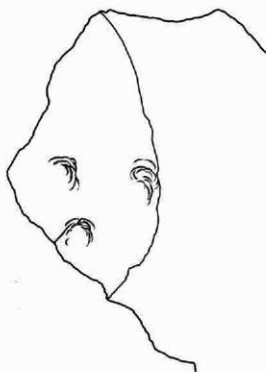
1. 礮器・打製石斧



2. 表採資料 (石刃)



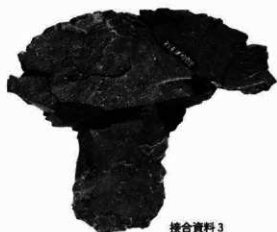
1. 表採資料 (片刃打製石斧・尖頭器・有舌尖頭器)



2. 打面に見られるパンチ痕 (左) とその模式図 (右)



接合資料 1



接合資料 3



接合資料 4



接合資料 6



接合資料 13



接合資料 10



接合資料 17



1





|



|





接合資料18



接合資料19



接合資料26



接合資料20



接合資料30



接合資料28



接合資料43



接合資料65



接合資料32



接合資料22



接合資料42





接合資料45



接合資料47



接合資料53



接合資料62



接合資料64



接合資料58



接合資料69



—



接合資料63



接合資料100



—



—



接合資料59



—



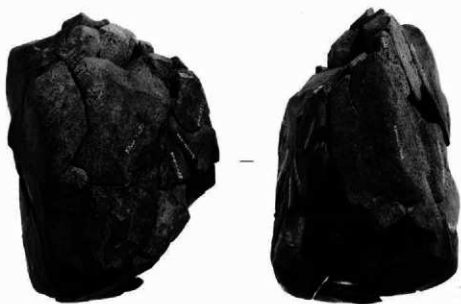
—



接合資料73



接合資料66



接合資料68



綜合資料67

|



|





接合資料70



接合資料102



接合資料74



接合資料76



接合資料78



接合資料67



接合資料98



接合資料101



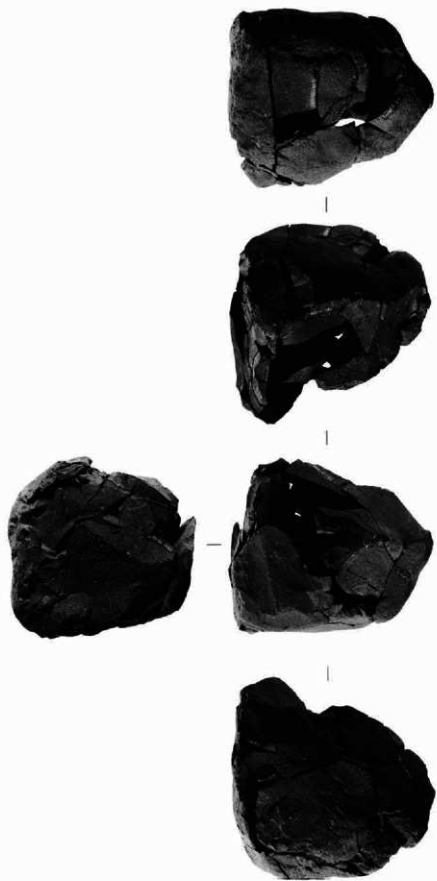
接合資料79



接合資料88



接合資料89





一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財調査報告書第15集一

後 田 遺 跡 (旧石器編)

昭和62年3月25日 印刷

昭和62年3月31日 発行

編集・発行／群馬県教育委員会
群馬県前橋市大手町1丁目1番1号
電話(0272)23-1111(代表)

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
群馬県勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／上毎印刷工業株式会社

43.00M

45.00M

45-D-06

46-D-06

45-D-06

46-D-06

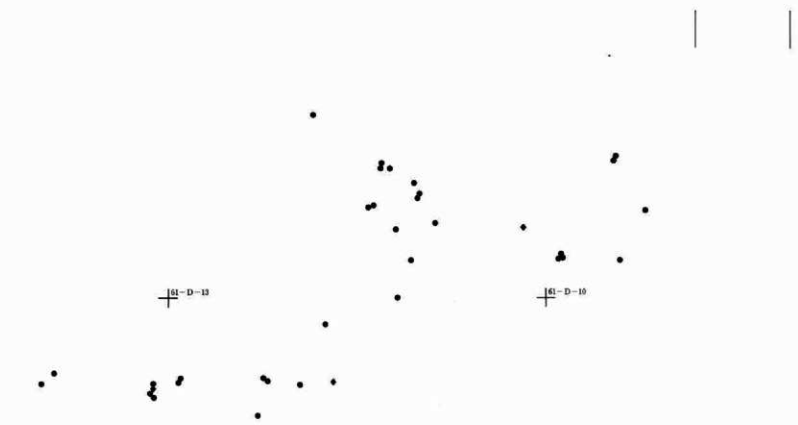
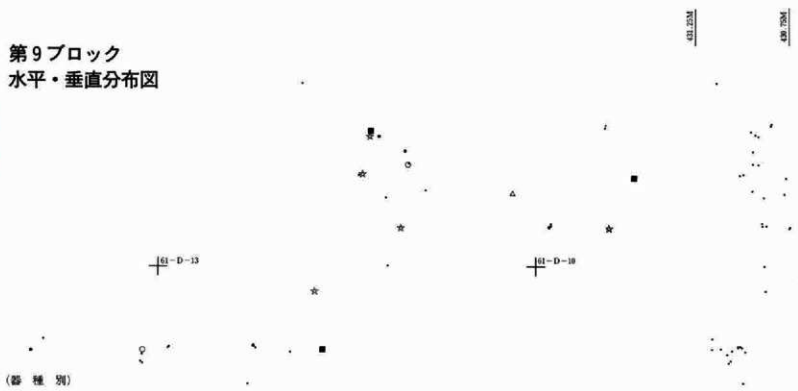
(器 種 別)

(石 材 別)

付図 2

第115図 第9ブロック
水平・垂直分布図

01-320	群 埋 文
29-2	
(6)	

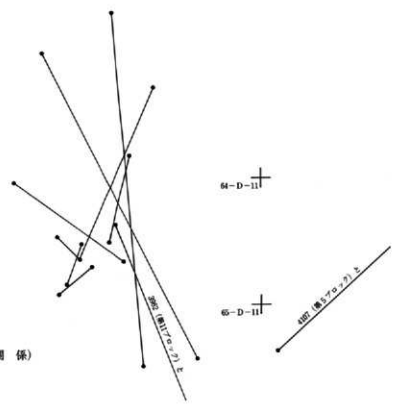
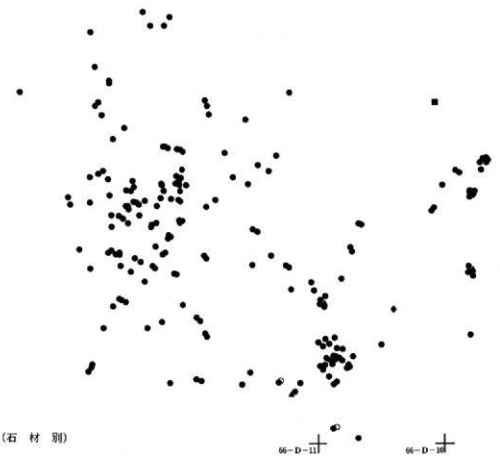




(石材別)

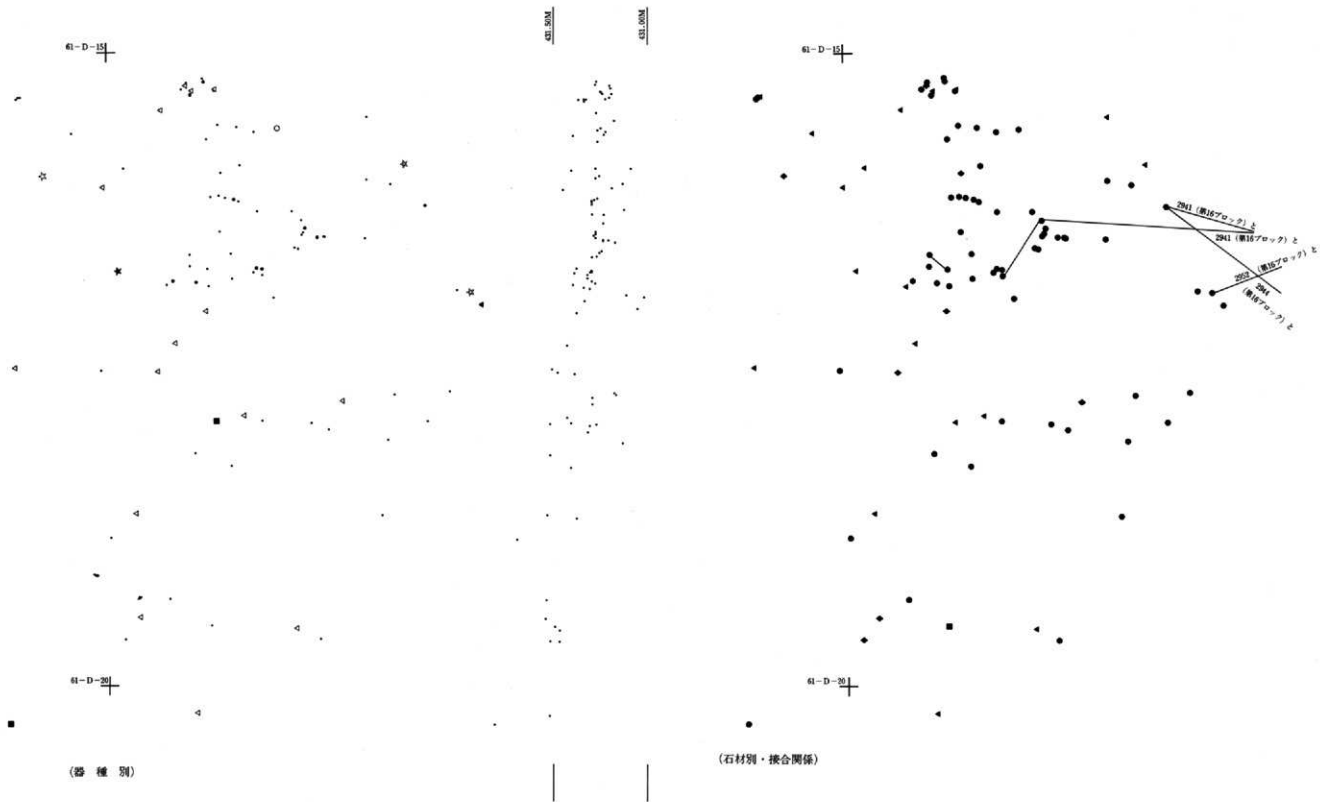


(石材別)



(接合関係)

第116図 第10ブロック水平・垂直分布図 (1/60)

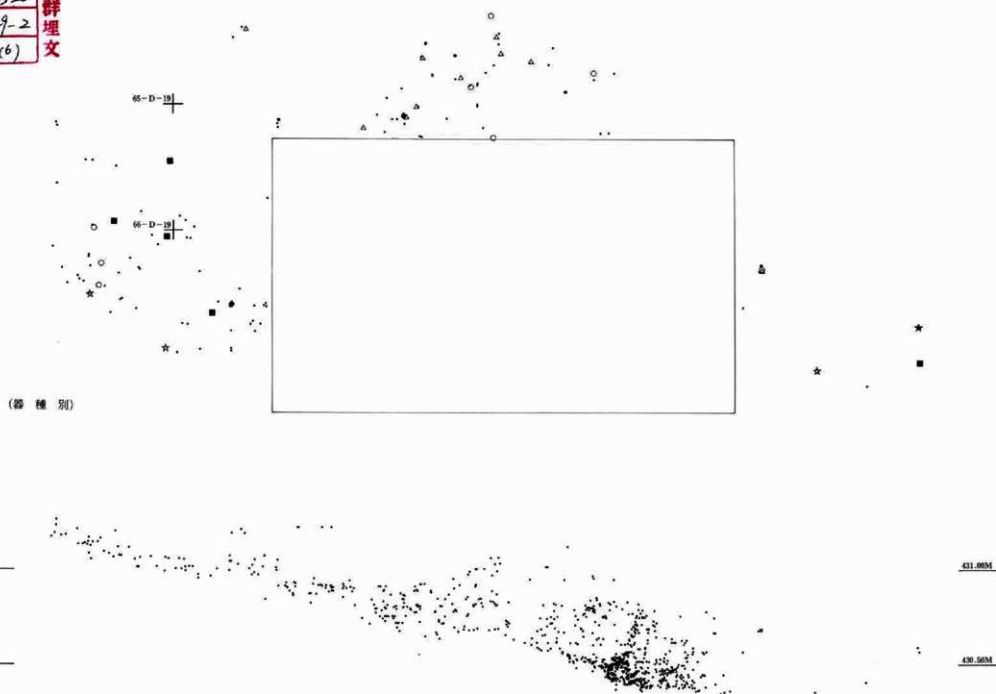


第124図 第14ブロック本平・垂直分布図 (1/60)

付図 5

第127図 第16ブロック (周縁部)
水平・垂直分布図

01-320
29-2
(6)

 群埋文



(器種別)

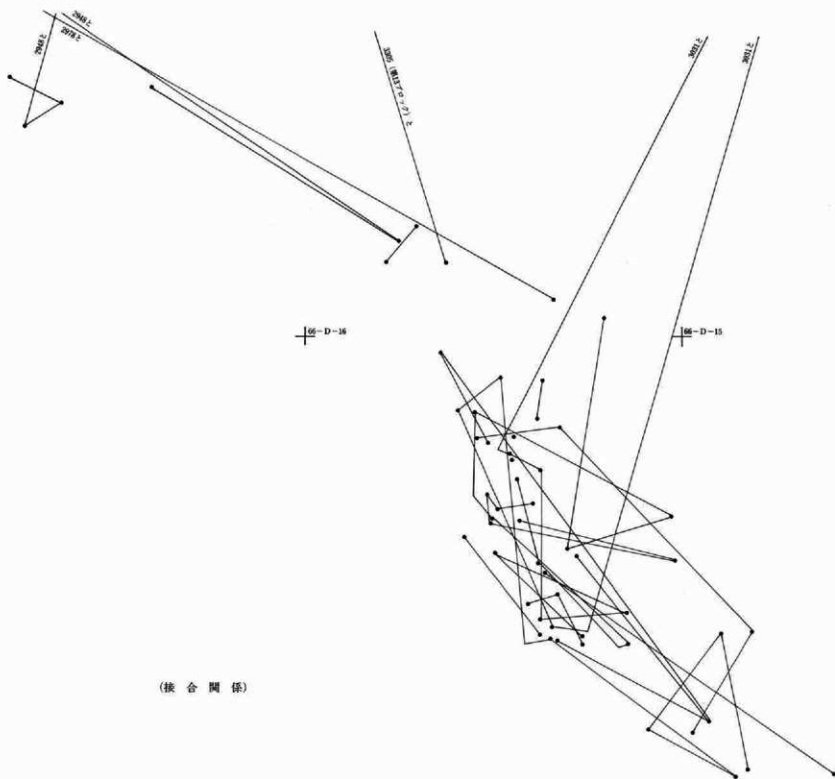


(石 材 別)

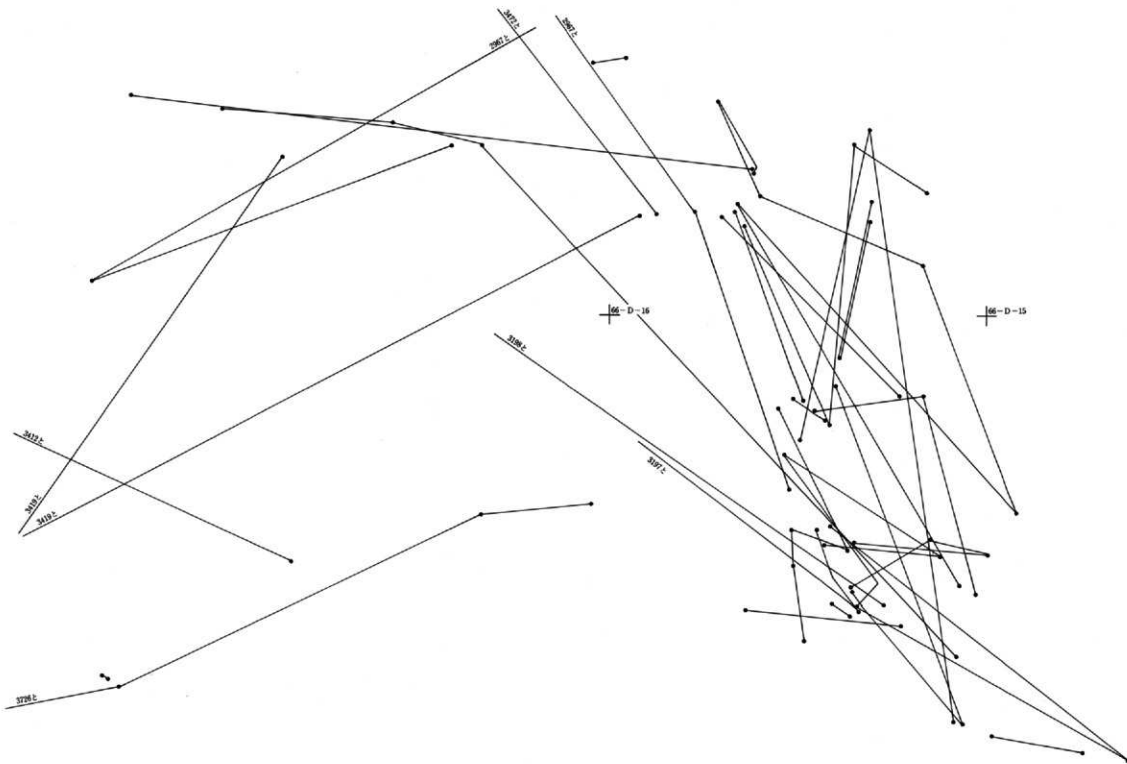
付図 8

第132図 第16ブロック水平分布図

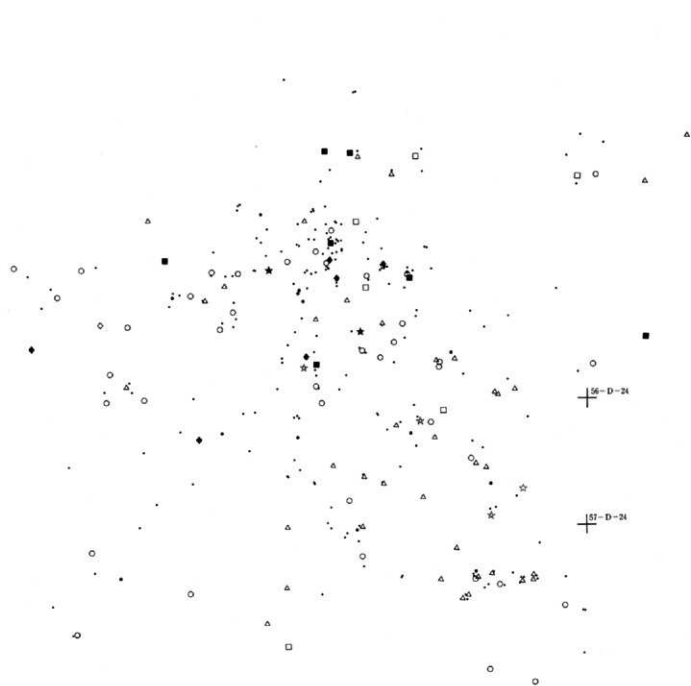
01-320	詳 埋 文
29-2	
(6)	



(接合関係)



(接合関係)

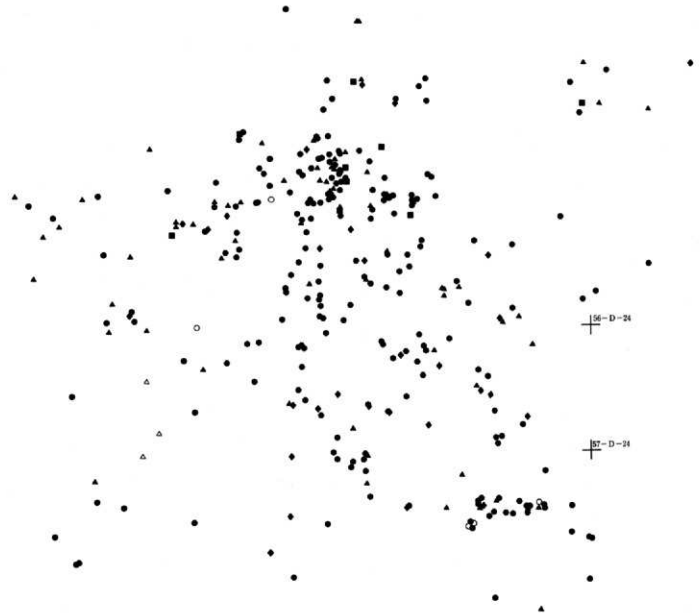


(25 種別)

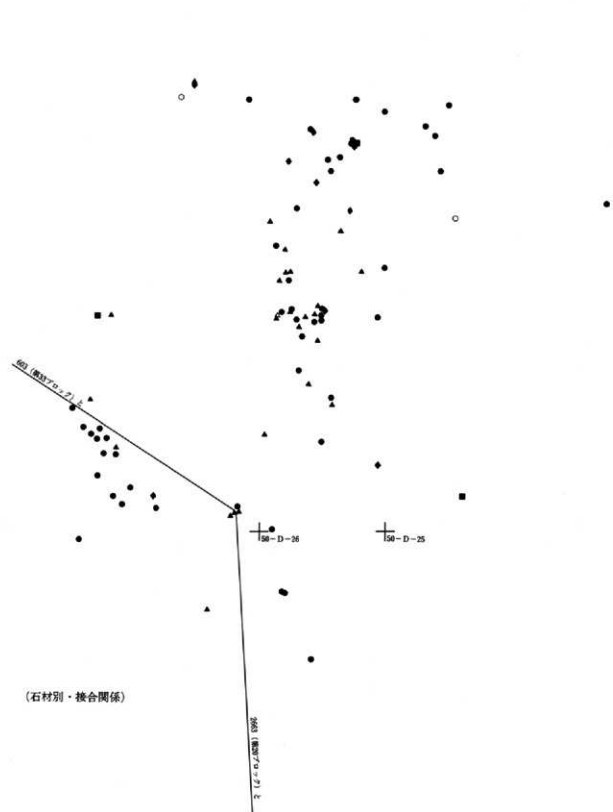
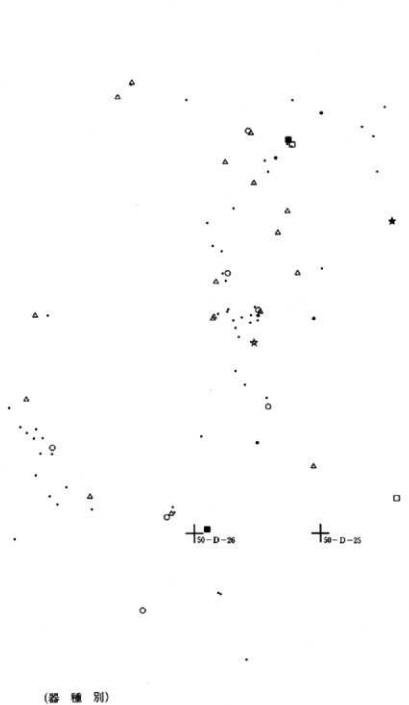
AS 25M

AS 25M

AS 25M



(石材別)



第181図 第25ブロック水平・垂直分布図 (1/60)

12-D-27

12-D-27

12-D-27

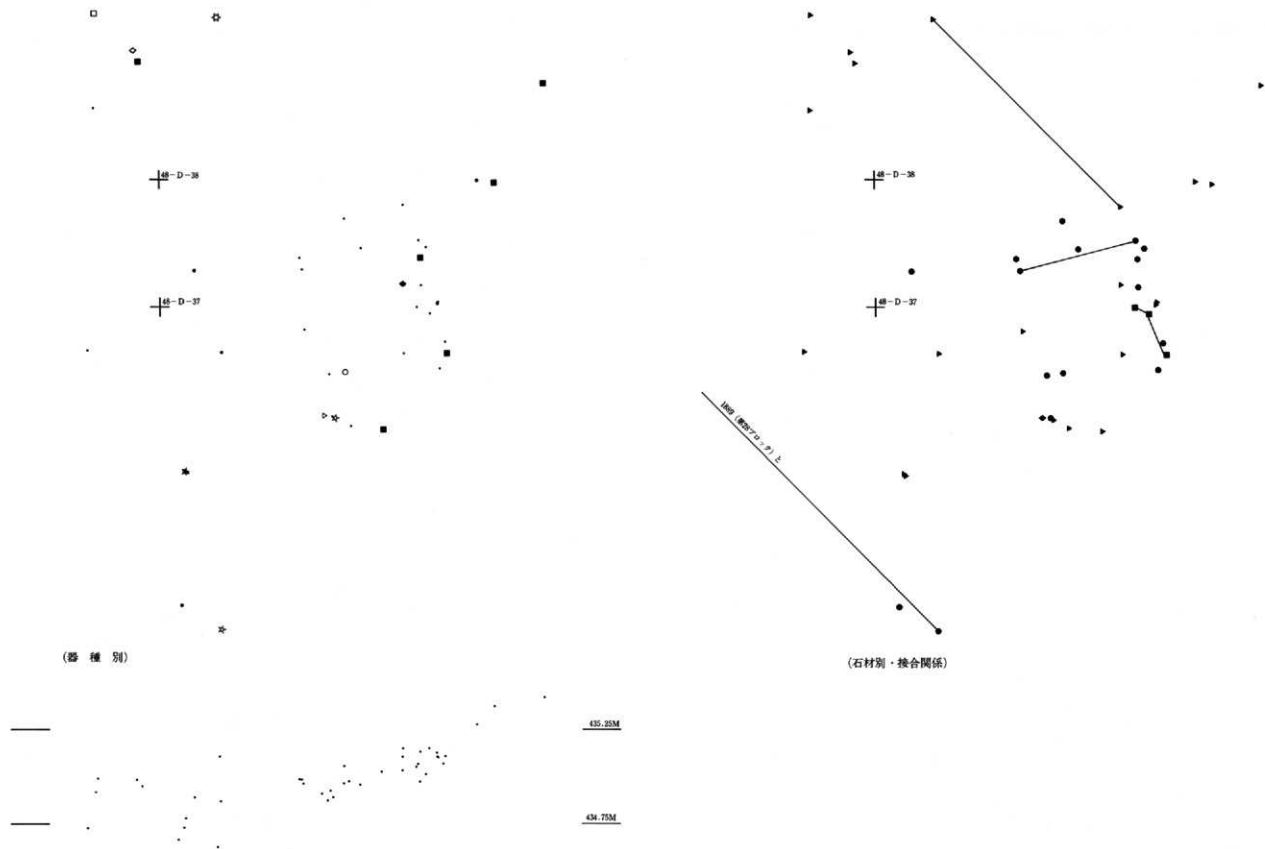
12-D-27

(器種別)

(石材別・接合関係)

435.50M

435.00M



第184図 第27ブロック水平・垂直分布図 (1/60)

(器種別)

15-E-04 15-E-03



15.5M

15.5M

(石材別)

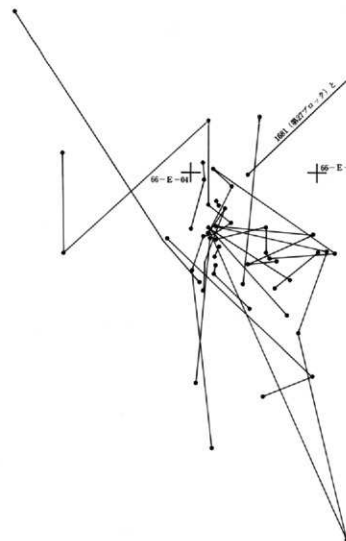
15-E-04 15-E-03

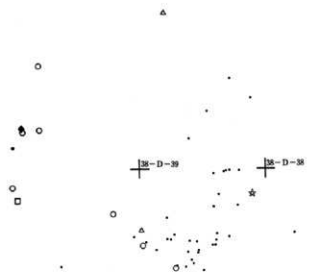


(接合関係)

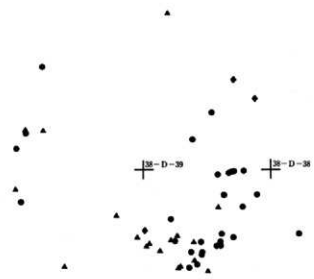
16-E-04

16-E-03

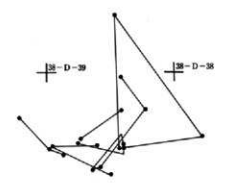




(器種別)

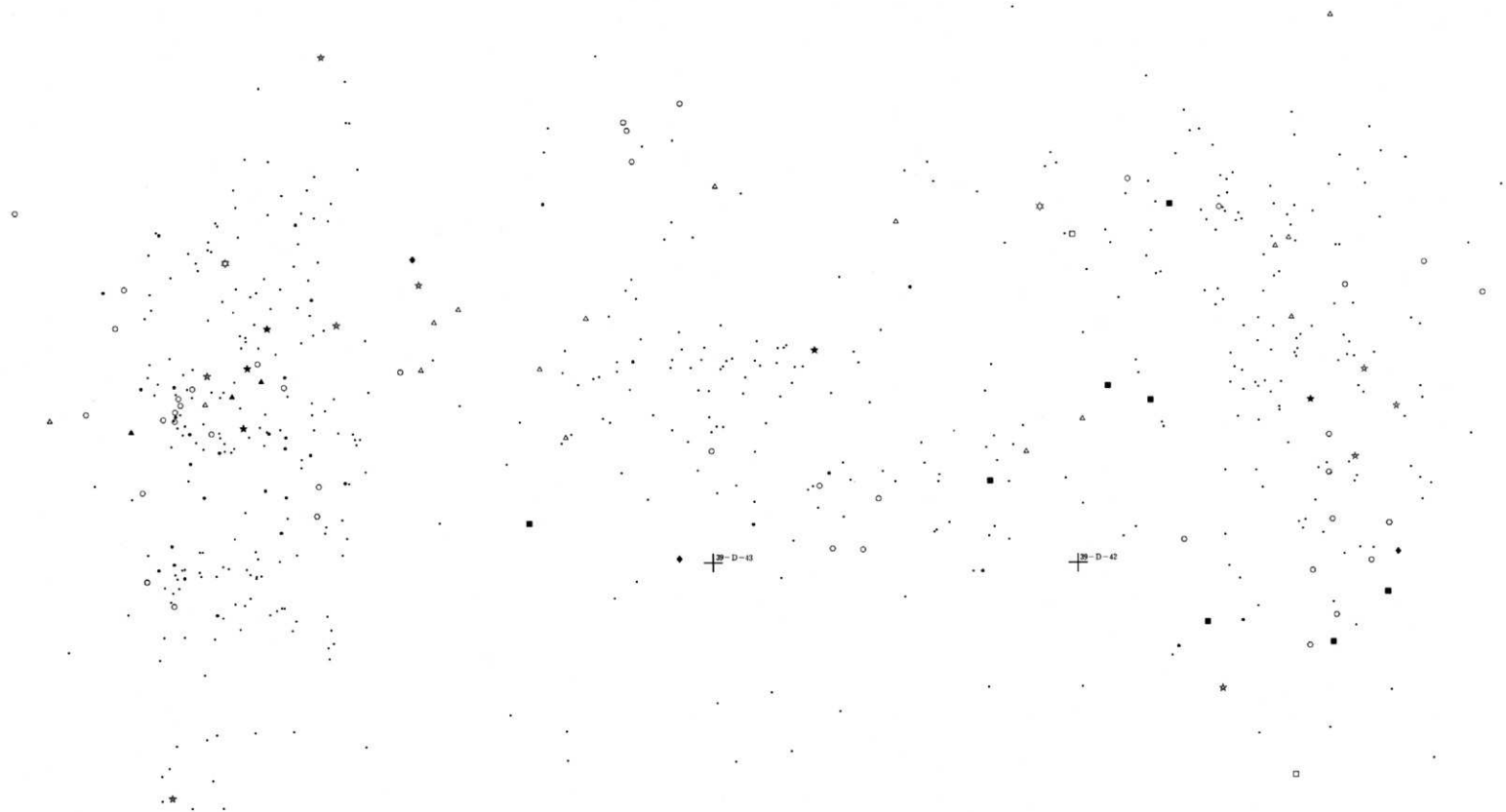


(石材別)

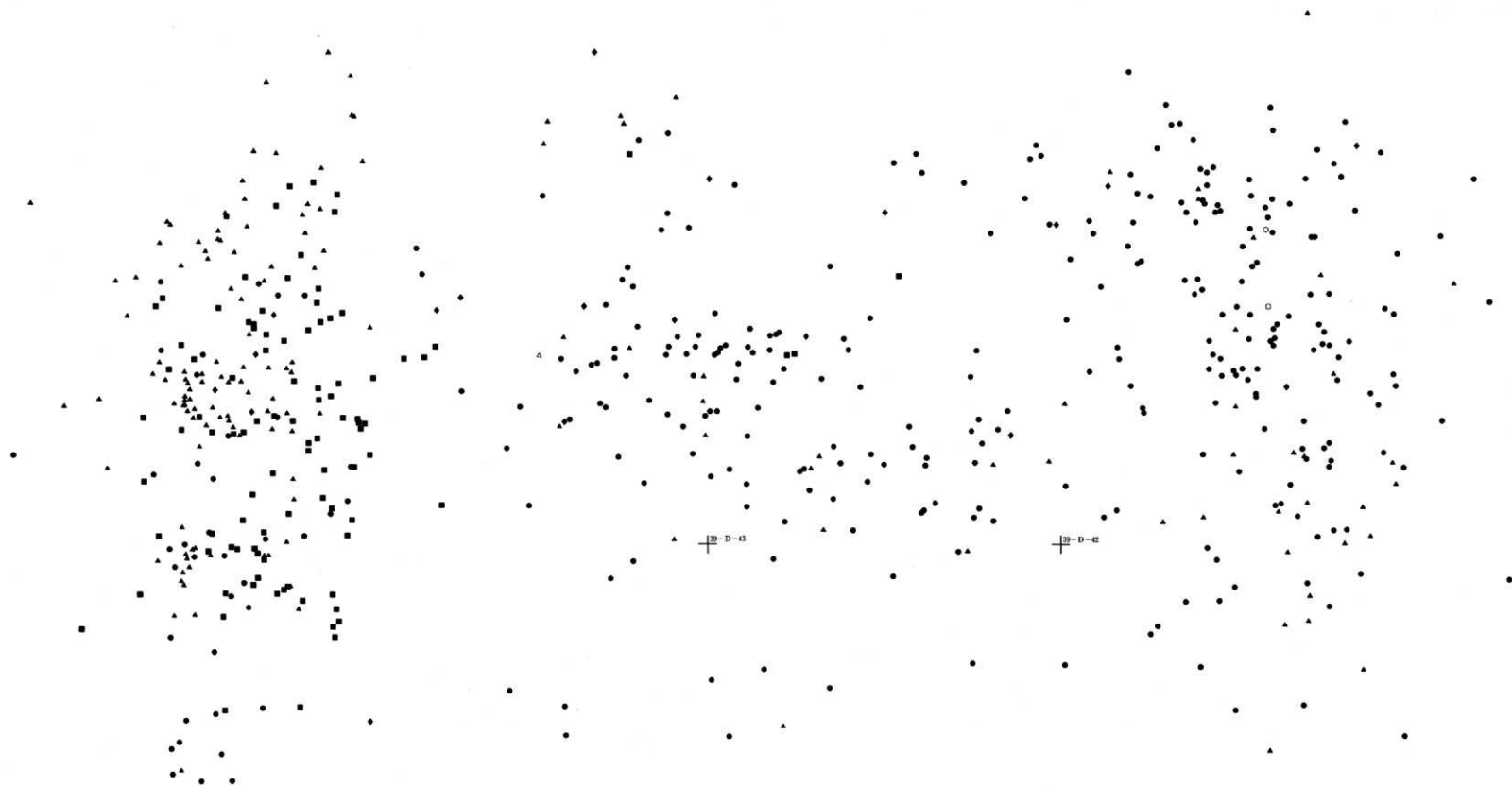


(接合関係)

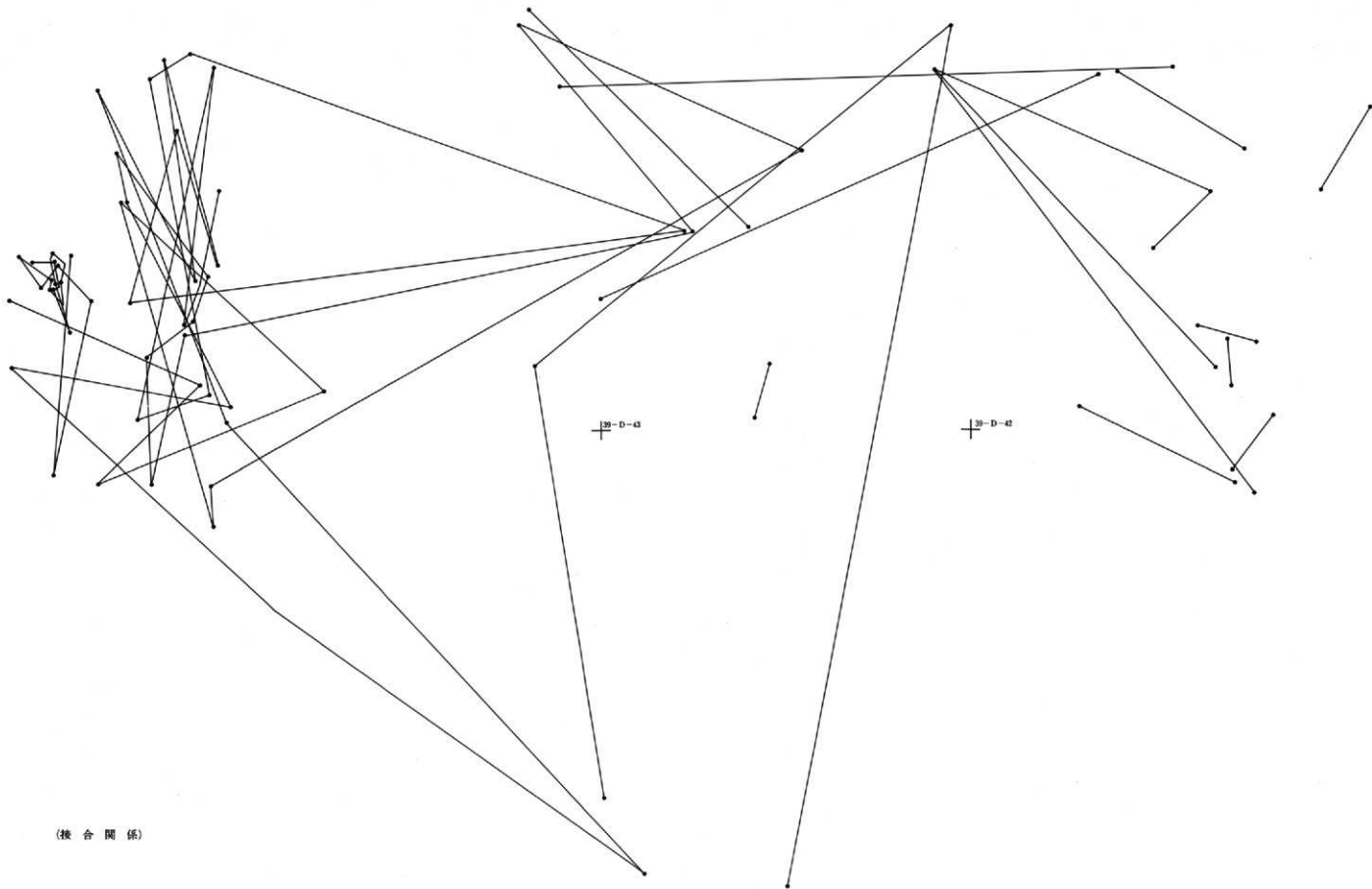




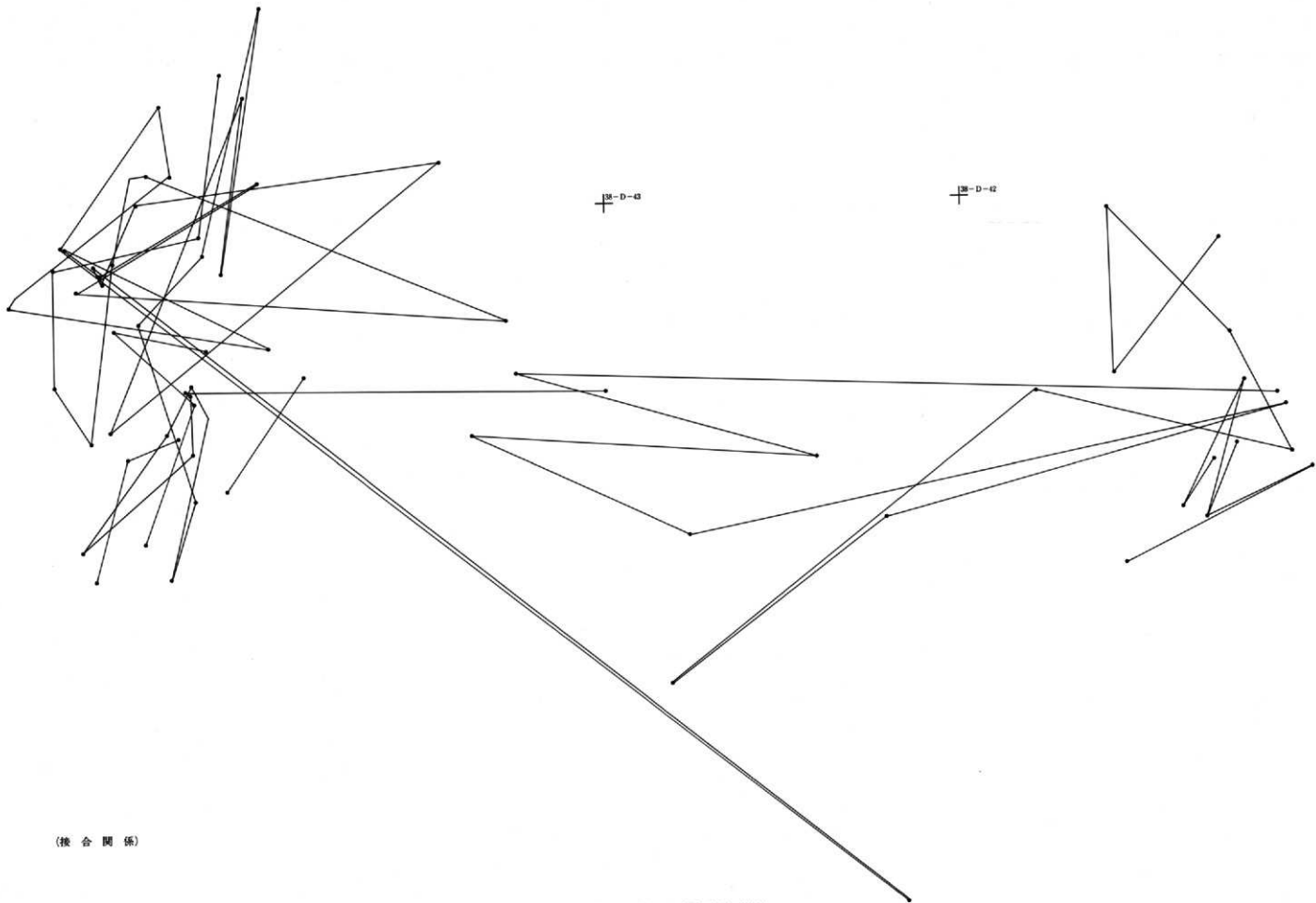
(器 種 別)



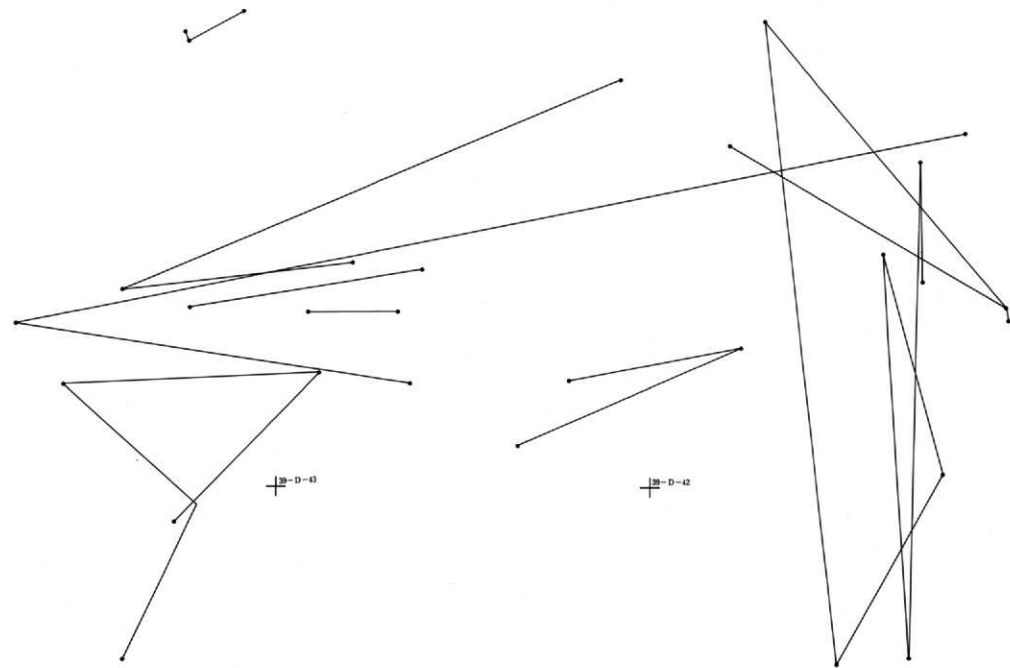
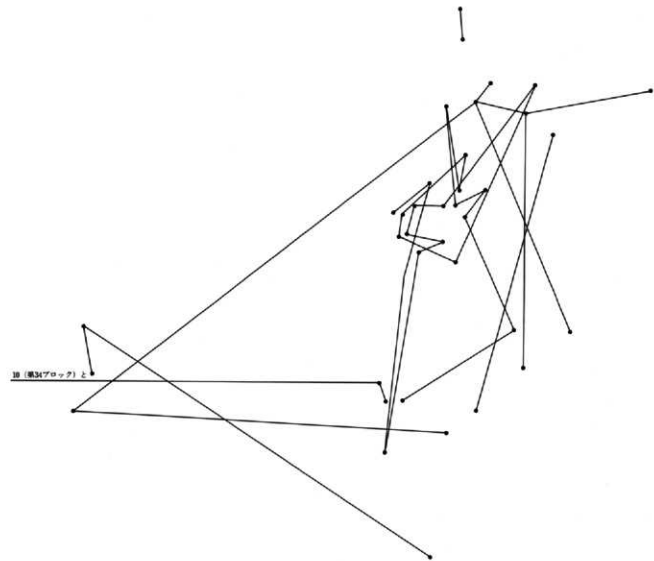
(石 材 別)



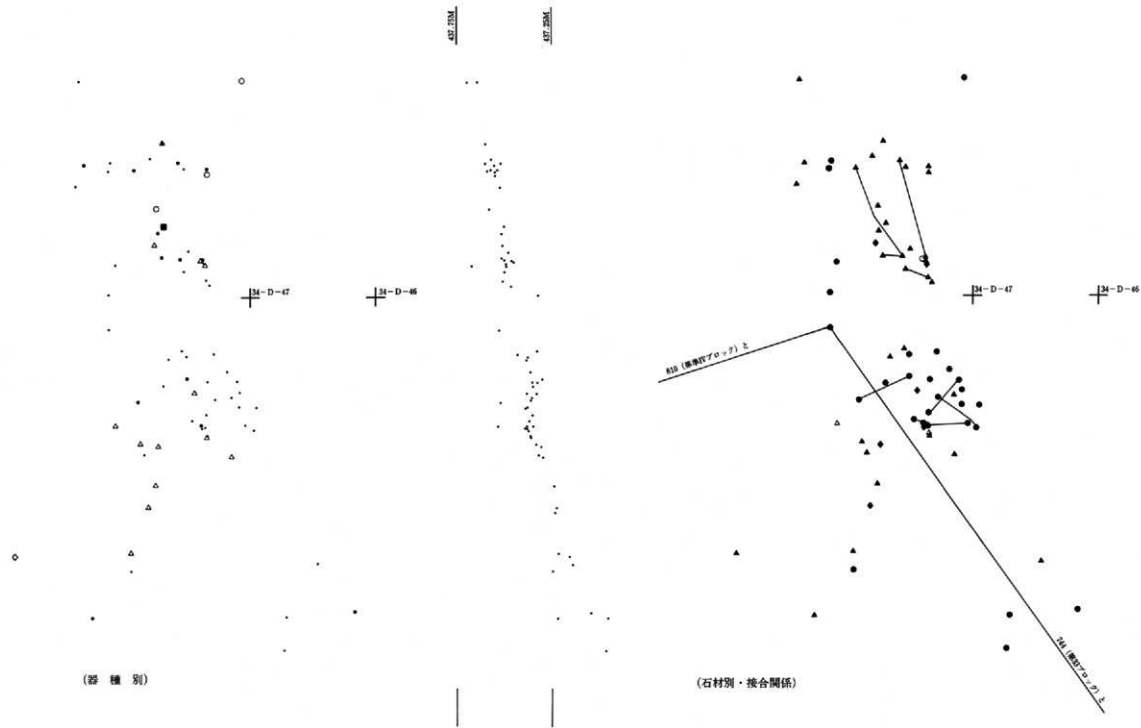
(接合関係)



(接合関係)



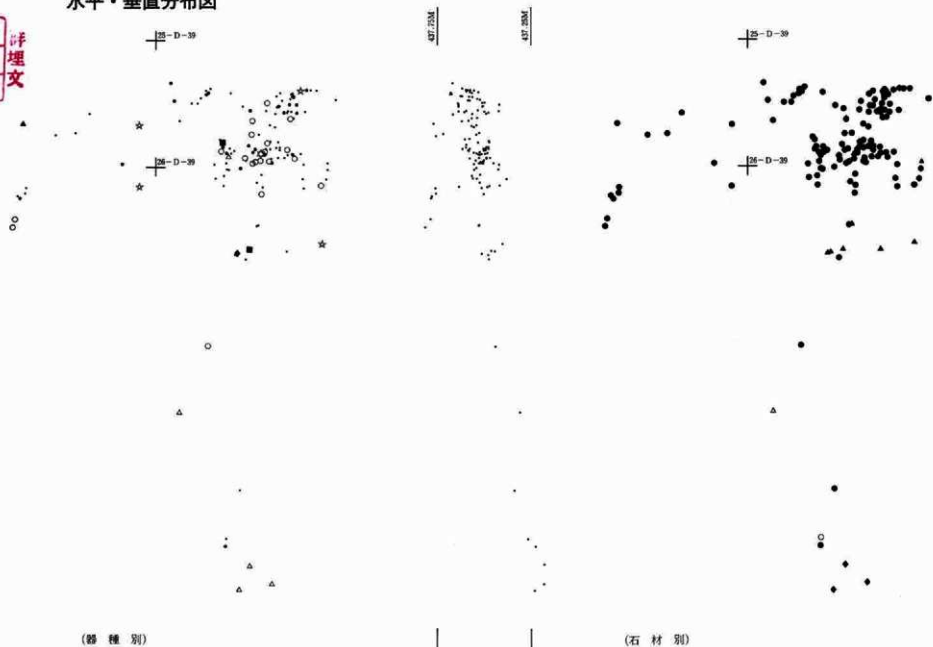
(接合関係)



付図22

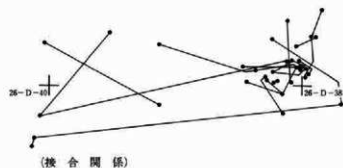
第227図 第38ブロック
水平・垂直分布図

61-320
29-2
(6)
評
埋
文

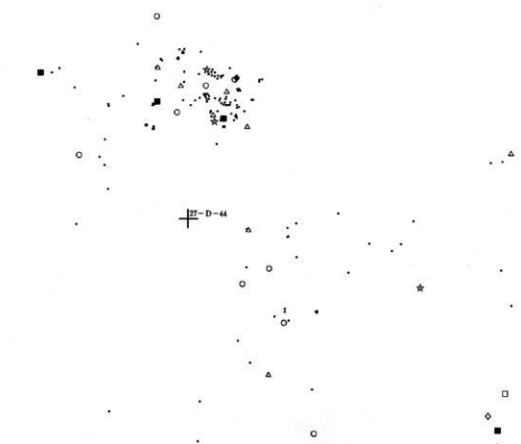


(器種別)

(石材別)



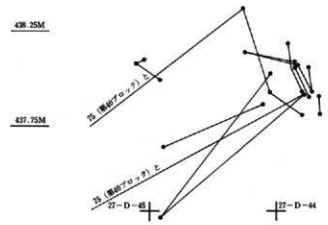
(接合関係)



(器種別)



(石材別)



(接合関係)

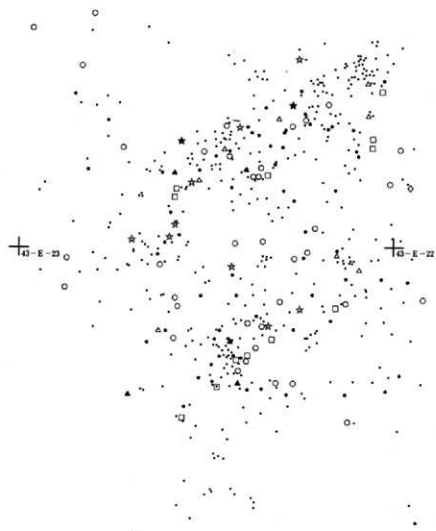


(器種別)



(石材別・接合関係)





(器 種 別)

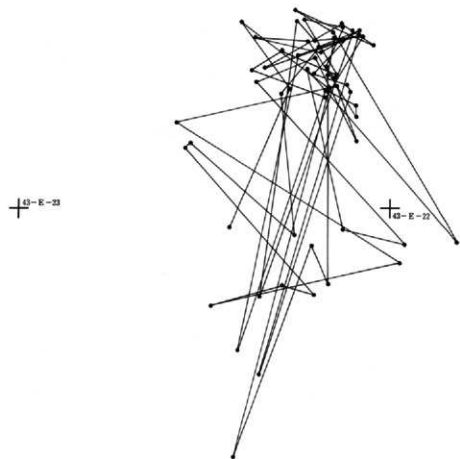
—

—

43.75M

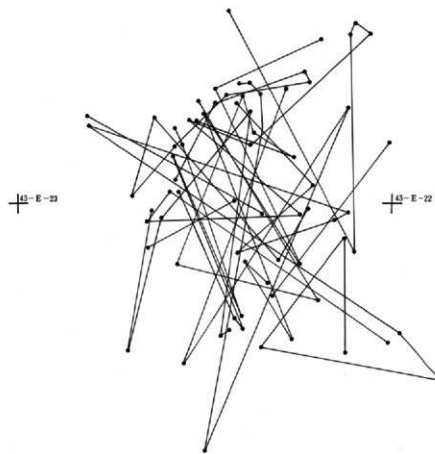
43.25M

(石 材 別)

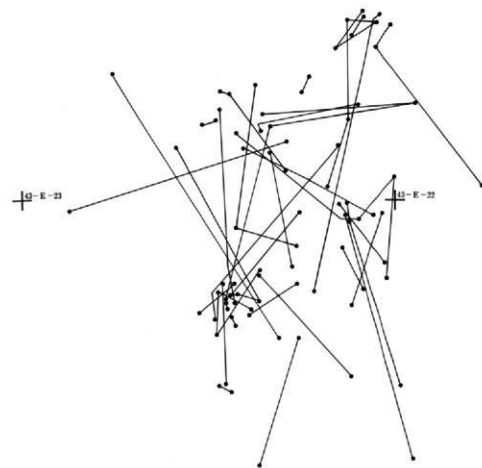


(接合関係)

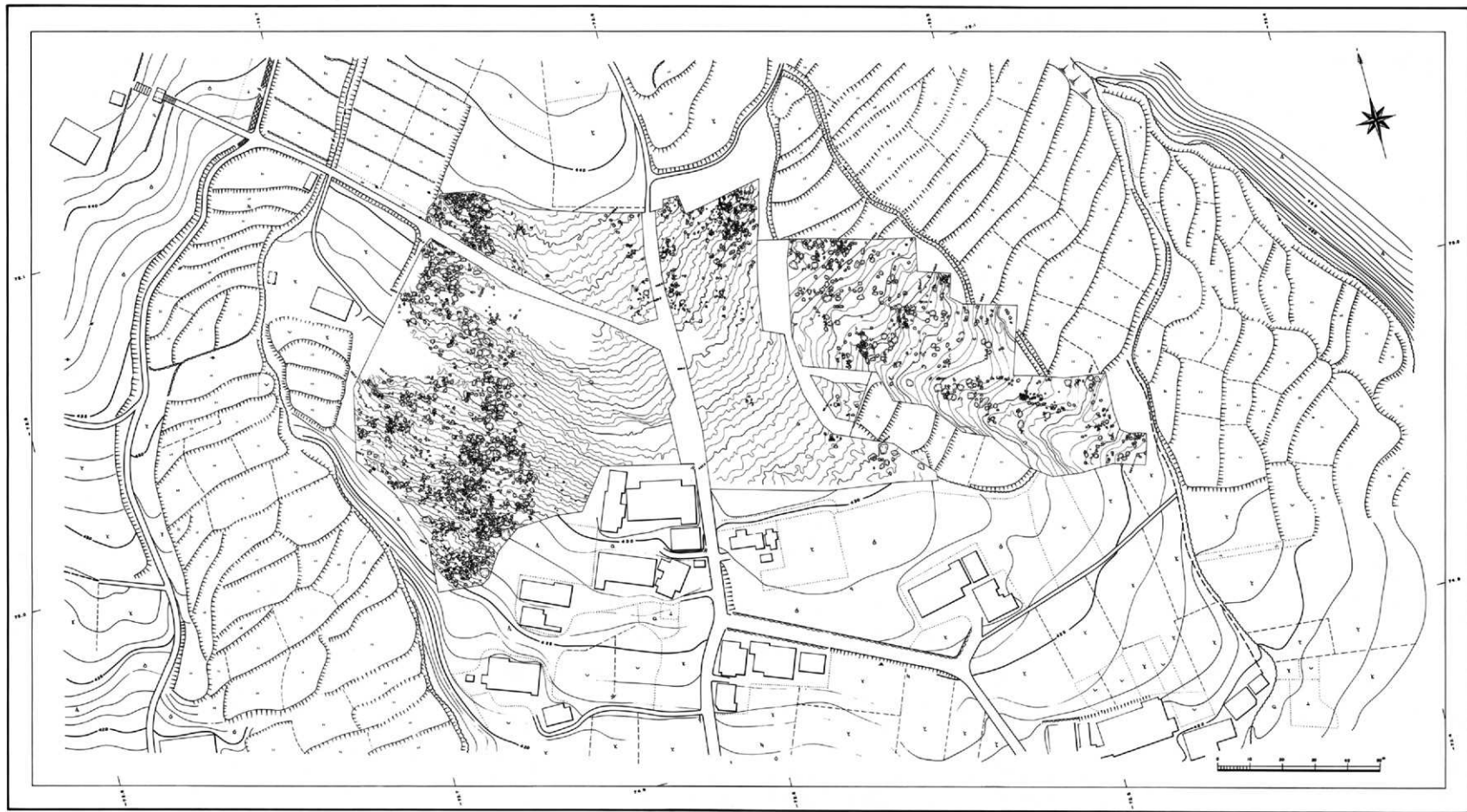
接合資料 82



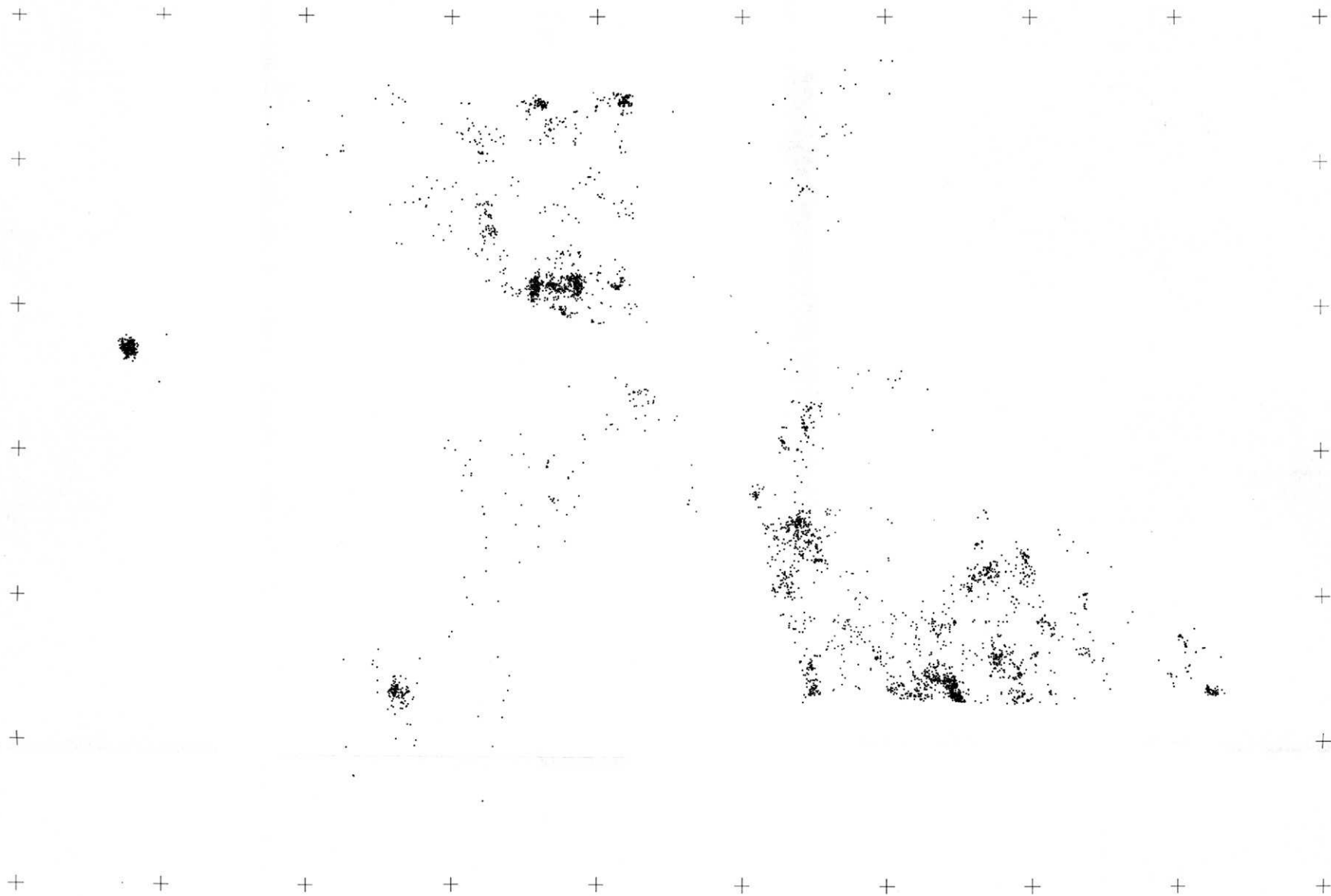
(接合関係)



(接合関係)



後田遺跡地形図 (S=1/1,000)



遺物分布全体図 (S=1/400)